

まもりたい静岡県の野生生物

2020

静岡県レッドデータブック

< 植物・菌類編 >

令和2年3月

静岡県くらし・環境部環境局自然保護課

御 挨拶



人類は自然の脅威に畏敬の念を抱きつつも、生物多様性の恵みに感謝し、野生生物と関わり合いながら、同じ土地に共生する仲間として歴史を紡いできました。日本においても、様々な野生生物が織り成す豊かな自然環境は、人々の感性に大きな影響を与え、固有の文化・自然観を育んでいます。

しかし、近年の生活様式の変化や科学技術の発達の中で、自然環境と日本人の関係は変わってきています。さらに、開発による生息環境の急激な変化や外来生物の侵入等が生態系に大きな影響を与えています。

本県には、世界遺産の富士山をはじめ、南アルプス、伊豆半島、浜名湖などに代表される世界に誇る素晴らしい自然があります。生物多様性に富んだこれらの美しく豊かな自然を後世に継承していくため、県では、野生生物の保護に関する方針と対応を定めた「生物多様性地域戦略」を平成30年3月に策定しました。

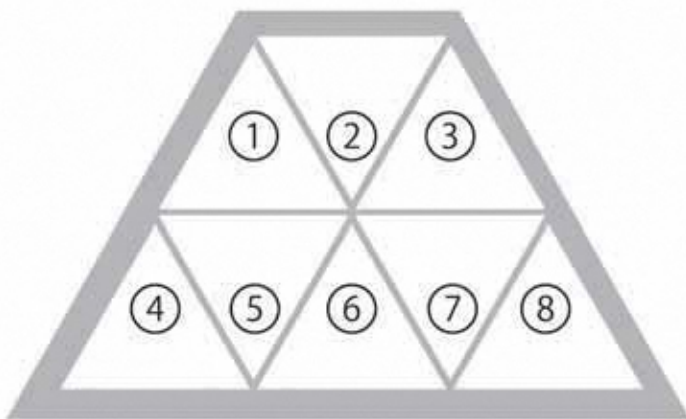
静岡県版レッドデータブックは平成16年に初版が発行され、その内容はこの戦略の基礎資料としても活用されています。このたび、初版発行時から10年余の間に生じた野生生物の生息・生育状況の変化等の調査結果を取りまとめ、「動物編」（平成31年3月公表）に続き、本書「植物・菌類編」として改訂を行いました。

静岡県版レッドデータブックの活用により、県民の皆様の自然環境への関心や理解が更に深まるとともに、「生物多様性地域戦略」に掲げられた野生生物の適切な保護、保全を進める取組がより実行性の高いものとして着実に推進されることを期待しています。

結びに、平成21年から長期間にわたり、県内を調査され、本書の編集に当たられました自然環境保護調査委員会のメンバーをはじめとする調査協力者の皆様、監修をしていただいた静岡県レッドデータブック改訂監修委員会の皆様に、心からお礼申し上げます。

令和2年3月

静岡県知事 川勝平太



【表紙写真】

- ①イワシャジン
- ②セツブンソウ
- ③ツノシメジ
- ④シナノコザクラ
- ⑤フトクビクチキムシタケ
- ⑥ホテイアツモリ
- ⑦ツクシヤブソテツ
- ⑧フサハリタケ

目次

I 概要	7
1 本書の目的	9
2 本書の内容	10
3 検討体制・検討内容	13
4 レッドリストの選定方針及び結果	19
(1) 選定方針	19
(2) 結果	19
5 保護方針	27
II 種の解説	29
1. 植物	31
2. 菌類	391
調査協力、写真等提供者	491
レッドリスト 2017 公表からの訂正と変更	492
和名索引・環境省カテゴリー対照表	493

概要

1 本書の目的

静岡県レッドデータブックは、静岡県における絶滅の可能性のある野生生物の分布や生息・生育状況について、詳細にとりまとめたものである。静岡県は、地域レベルの貴重な自然環境の保全を目的として、平成 16 (2004) 年に静岡県レッドデータブック (2004) を作成した。野生生物の生息・生育状況は著しく変化しており、また、野生生物についての新たな知見も得られ、内容の見直しが必要となった。そこで、平成 21 (2009) 年度から平成 29 (2017) 年度まで静岡県内の希少野生動植物を中心に調査を行い、それらに基づいた静岡県レッドデータブックの改訂作業を進めてきた。平成 29 (2017) 年度には静岡県レッドデータブックに掲載すべき各分類群の野生生物について、絶滅のおそれの程度でランク付けしたリスト (レッドリスト) の見直し作業が終了し、平成 29 (2017) 年 10 月に改訂版の静岡県レッドリストを取りまとめて公表した。

本書は、平成 31 (2019) 年 3 月に公表した動物編に続いて、植物と菌類の静岡県レッドリスト掲載種について、生息状況等にとりまとめ編さんしたものである。

また、豊かな自然環境に恵まれた静岡県の生物多様性の将来像や、その保全に向けた「ふじのくに生物多様性地域戦略 (平成 30 (2018) 年 3 月策定)」の基礎資料としても本リスト及びレッドデータブックが活用される。

静岡県レッドデータブックの主な役割・目的は以下の 4 つである。

- ① 静岡県の実情にあった希少種の位置づけを行う。
- ② 自然保護の基礎データとする (守るべき動植物の種類、生息場所、特性等)。
- ③ 貴重な自然環境が気づかれないうちに劣化していくのを防止する。
- ④ 県民の自然環境保全への関心と理解を深め、自然保護意識の普及を図る。

2 本書の内容

本書では、その絶滅の可能性により対象種をカテゴリー区分した。カテゴリー区分は、基本的に静岡県レッドデータブック（2004）のカテゴリー区分を踏襲したほか、環境省のカテゴリー区分（2017）の定性的要件を準用した。また、静岡県独自のカテゴリーとして「要注目種」を採択した。「要注目種」とは、環境省のカテゴリーには該当しないが、静岡県での野生生物保護上重要な種を区分したものである。

カテゴリー区分は、以下のとおりである。

静岡県レッドデータブックカテゴリー一覧

カテゴリー	基本概念
絶滅	静岡県では既に絶滅したと考えられる種
野生絶滅	飼育・栽培下でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類	絶滅の危機に瀕している種
ⅠA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
ⅠB類	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種
情報不足	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域個体群	地域的に孤立している地域個体群で、絶滅のおそれが高いもの
要注目種 (静岡県独自のカテゴリー)	
現状不明	現状が不明な種
分布上注目種等	絶滅の危険性は小さいが、分布上注目される種
部会注目種	その他各部会で注目すべきと判断した種

これらのカテゴリーごとに、対象種の解説、分布、生息環境、生息状況、減少の要因と脅威、保護対策、特記事項、主な文献、標本について掲載した。上記以外に分布図（一部の種については保護上の観点から非公表とした）、写真（撮影時期、撮影場所、採集者または撮影者を明示）も掲載した。また、カテゴリーごとに保護方針を掲載した。

なお、この静岡県レッドデータブックは、それ自体が法的規制等の強制力を持つものではないが、効果的な保護対策を推進できるよう、野生生物のおかれている状況を広く一般に理解してもらうために、情報提供するものである。

静岡県レッドデータブック（植物・菌類編）種の解説記載内容

記載項目	内容
掲載種名	<p>科名、種名（種・亜種・変種を対象とし、品種及び雑種については遺伝的、形態的に注目される場合は加えた）の標準和名を記載した。種の学名は、植物では命名者まで、菌類では記載年まで記載した。一部の種では、標準和名の下に（＝）で別名を記載した。</p> <p>静岡県レッドデータブックカテゴリーとカテゴリーの具体的要件を記載した。</p> <p>静岡県レッドデータブック（2004）からカテゴリーが変わった場合は、その理由を別表（p.12）の「変更コード」から番号を選び、記載した。</p> <p>環境省カテゴリーを記載した。該当しない場合は「なし」とした。</p>
写真	見やすく、種の特徴のわかりやすい写真を掲載した。生態写真の場合は、撮影日、撮影場所、撮影者を記載した。標本写真の場合は、採集日、採集場所、採集者または撮影者を記載した。
分布図	<p>分類群により、分布図のメッシュの単位は二次メッシュ（1/25,000 地形図に相当）を基本とした。</p> <p>また、保護上必要な場合は、詳細な地名及び分布図は非公表にするなど、希少種の保護に最大限配慮した。</p>
1. 種の解説	形態、生態的特性、近似種との区別、生活史などを記載した。
2. 分布	国外、静岡県内外における分布状況の概略について記載した。新規の菌類以外では、可能な限り静岡県レッドデータブック（2004）からの分布状況の変化を加えた。
3. 生育環境	対象種の生育環境について記載した。
4. 生育状況	静岡県における現在の生育状況を記載した。現在の状況及び可能なものは時代変遷について記載した。
5. 減少の主要因と脅威	減少に至った主な原因について記載した。また、生存に対する脅威を記載し、別表（p.13～14）の「存続を脅かしている要因のタイプ区分」から該当するタイプ区分を特定し、要因内容の後ろに該当するコード番号を括弧書きで記載した。
6. 保護対策	保護対策のあるものについて記載し、可能なものは他県の保護事例も記載した。また、今後考えられる、期待される保護対策があれば記載した。
7. 特記事項	関連法令、学術的価値等について記載した（天然記念物等の保護規制状況・学術的な価値や位置づけ等）。植物の特記事項は、必要に応じて上記項目に掲載した。
8. 主な文献	種の解説等において参考とした文献を記載した。ただし、静岡県レッドデータブック（2004）及び環境省レッドデータブックについては、全般的に参考としており、ここでの記載を省略した。植物の文献は、分類群の解説頁に集約した。
9. 標本	分布の根拠となる標本が公的機関に保管されている場合、その保管場所等を記載した。植物の標本は、分類群の解説頁に集約した。
執筆者	最終行に執筆者名を掲載した。

別表 変更コード

No.	ランクアップ・新規
1	生育環境が限定される（含む宿主依存）
2	繁殖力がきわめて弱い
3	外敵の分布、食害が拡大している
4	新たに確認され絶滅危険度が高い
5	確認が容易な種だが確認記録がない
6	生息地が消失した
7	研究等の新知見で危急性が示唆された
8	新種記載され1種が複数種に細分化された
9	その他
No.	ランクダウン・削除
10	絶滅したと考えられたが再発見された
11	個体数が多いことが確認された
12	個体数の増加傾向がみられる
13	新産地の確認数が増加している
14	信頼性のある確認記録・標本がない
15	静岡県内では外来個体群に該当する
16	近年記録がなかった種が確認された
17	その他

別表 存続を脅かしている要因のタイプ区分（植物・菌類）

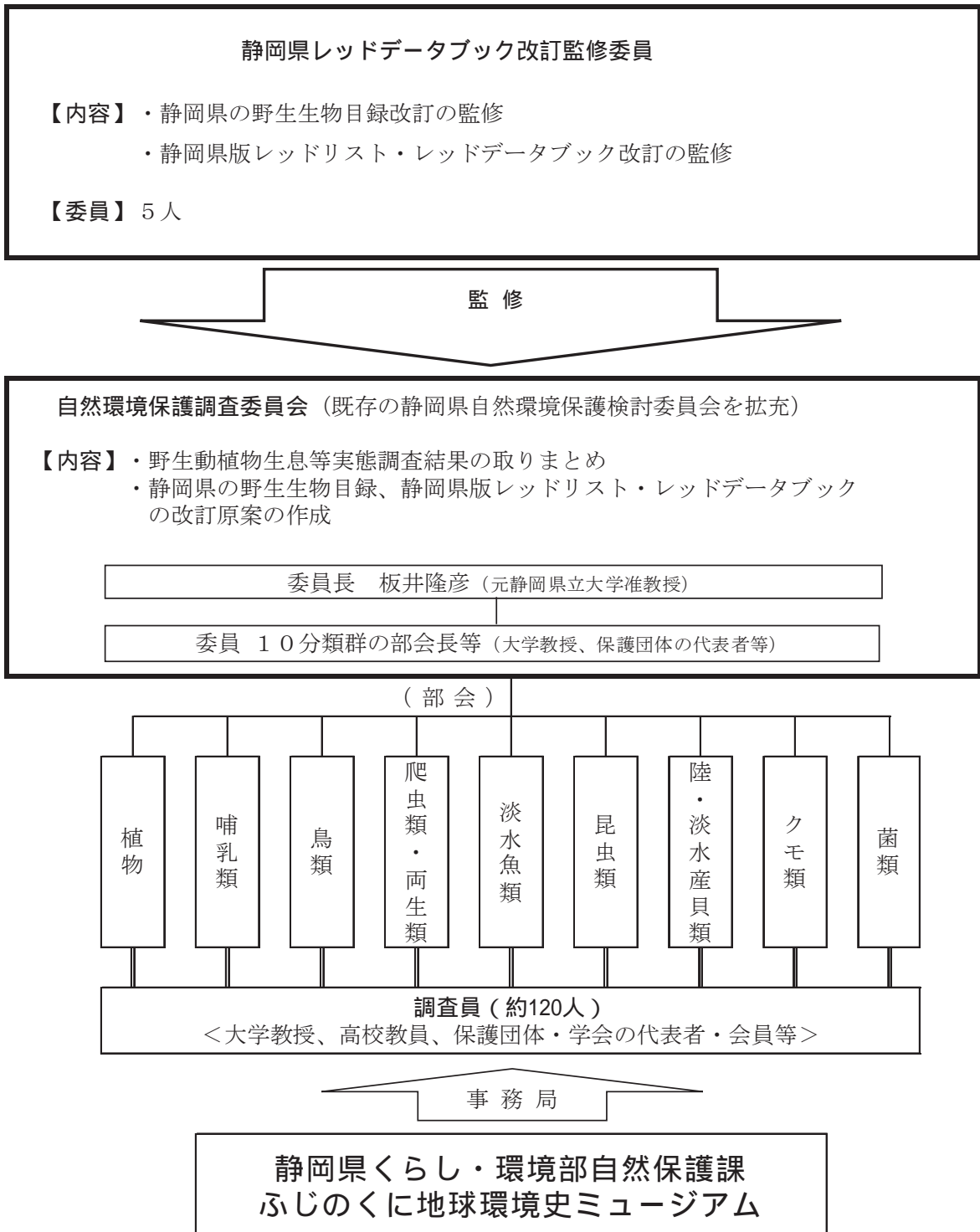
要因	コード	要因	コード
森林伐採	11	農薬汚染	32
湖沼開発	12	園芸採取	41
河川開発	13	薬用採取	42
海岸開発	14	人の踏みつけ	51
湿地開発	15	シカ食害	52-1
草地開発	16	その他動物食害	52-2
石灰採掘	17	管理放棄	53
ゴルフ場	21	自然遷移	54
スキー場	22	火山噴火	55
土地造成	23	帰化競合	56
道路建設	24	産地局限	61
ダム建設	25	その他	71
水質汚濁	31	不明	99

※環境省レッドデータブックより引用

3 検討体制・検討内容

静岡県レッドデータブックの改訂に当たっては、動植物に関する国内第一人者の監修をお願いするとともに、静岡県内の野生動植物の専門家からなる「静岡県自然環境保護調査委員会」を設置し、その下に各生物分類群の専門部会を置いて、掲載種の選定方法、調査内容・方法、評価方法等について検討した。今回、検討対象としたのは、改訂前に対象とした植物、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類、昆虫類、陸・淡水産貝類の8分類群に、新たにクモ類、菌類を加えた10分類群である。

静岡県レッドデータブック編さん体制



検討に必要な野生動植物の情報は、文献・標本・現地調査により収集した。調査の実施主体は、静岡県内で野生生物の研究を行っている各委員、各部会員及び調査員（約 120 人）である（委員会名簿参照）。そのほか、専門家の厚意により提供された県内各地の希少野生生物の生息・生育等情報を活用して本書は作成されている。

本委員会の調査方法は、必ずしも静岡県レッドデータブック（2004）作成時の調査方法と同一ではないため、静岡県レッドデータブック（2004）と本書に掲載された分布情報を単純に比較し、分布域の変化を考えることは適当ではない。また、直近の現地調査による分布情報がない場合であっても、過去の調査により確認された地域であれば、その種の生息の可能性を完全に否定することはできない。

【名簿】

監修委員 委員名簿（5人）

氏名	所属	専門
岩槻邦男	東京大学名誉教授 兵庫県立人と自然の博物館名誉館長	植物
近田文弘	国立科学博物館名誉研究員	植物
三浦慎悟	早稲田大学名誉教授	哺乳類
山岸 哲	大阪市立大学名誉教授 兵庫県立コウノトリの郷公園名誉園長	鳥類
石井 実	大阪府立大学名誉教授・学長顧問	昆虫類

静岡県自然環境保護調査委員会 委員名簿（10人）

区分	分類群	氏名	所属	役職
委員長	総括・淡水魚類	板井隆彦	静岡淡水魚研究会	会長
副委員長	植物	湯浅保雄	静岡植物研究会	会長
副委員長	哺乳類	三宅 隆	NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワーク	副理事長
委員	鳥類	北川捷康	静岡県渡り鳥研究会	代表
委員	爬虫類・両生類	國領康弘	志太自然ネットワーク	副会長
委員	淡水魚類	山田辰美	常葉大学	名誉教授
委員	昆虫類	諏訪哲夫	静岡昆虫同好会	会長
委員	陸・淡水産貝類	松本雅道	[博士（農学）]	
委員	クモ類	小林俊樹	日本クモ学会	会員
委員	菌類	池ヶ谷のり子	日本菌学会 静岡木の子の会	会員

静岡県自然環境保護調査委員会 部会員名簿

分類群	氏名	所属
植物 7人	湯浅保雄 *	(前出)
	斎藤 猛	静岡植物研究会
	徳岡 徹	静岡大学理学部
	中池敏之	元千葉県立自然史博物館
	内藤宇佐彦	遠州自然研究会
	細倉哲穂	日本シダの会
	宮崎一夫	遠州自然研究会
哺乳類 5人	三宅 隆 *	(前出)
	大場孝裕	静岡県
	小長谷尚弘	日本哺乳類学会
	佐々木彰央	NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワーク
	鳥居春己	奈良教育大学
鳥類 7人	北川捷康 *	(前出)
	新井 真	静岡猛禽研究会
	宇治土公貞宏	日本野鳥の会沼津支部
	小粥秀治	NPO 法人浜松市動物園協会
	影山秀雄	日本野鳥の会南富士支部
	酒井洋平	伊豆野鳥愛好会
	森田剛則	日本自然保護協会
爬虫類・ 両生類 11人	國領康弘 *	(前出)
	江頭幸士郎 (2016 から)	北九州市立いのちのたび博物館
	大貴貴清 (2015 から)	東海大学海洋学部水産学科
	亀崎直樹	神戸市立須磨海浜水族館
	加藤英明	静岡大学教育学部
	加藤健一 (2015 から)	(株)環境アセスメントセンター
	佐々木彰央	(前出)
	富永 篤 (2016 から)	琉球大学教育学部
	疋田 努	京都大学
	松井正文	京都大学
	見澤康充	日本爬虫両棲類学会
淡水魚類 11人	板井隆彦 *	(前出)
	秋山信彦	東海大学海洋学部
	安藤晴康	元静岡県自然環境調査委員会

* 部会長

分類群	氏名	所属
淡水魚類	大塚善弘	(株)静環検査センター
	金川直幸	静岡淡水魚研究会
	川嶋尚正	静岡県内水面漁業協同組合連合会
	北原佳郎	(株)環境アセスメントセンター
	後藤裕康	静岡県
	渋谷浩一 (2015 から)	静岡県
	鈴木邦弘	静岡県
昆虫類 9人	山田辰美	(前出)
	諏訪哲夫 *	(前出)
	石川 均	静岡昆虫同好会
	枝 恵太郎	静岡昆虫同好会
	加須屋 真	静岡昆虫同好会
	白井和伸	静岡昆虫同好会
	高橋真弓	静岡昆虫同好会
	多比良嘉晃	静岡昆虫同好会
	平井克男	静岡昆虫同好会
福井順治	静岡昆虫同好会	
陸・淡水 産貝類 3人	松本雅道 *	(前出)
	加藤 徹	静岡県
	加藤 真	京都大学大学院人間・環境学研究科
クモ類 4人	小林俊樹 *	(前出)
	小林久俊 (2016 まで)	元日本クモ学会
	久保田克哉	静岡県
	谷川明男	東京大学農学部生物多様性科学研究室
菌類 10人	池ヶ谷のり子*	(前出)
	秋山富雄	静岡木の子の会
	小倉辰彦	静岡木の子の会
	大塚健佑 (2015 から)	静岡県
	河村正幸	静岡木の子の会
	岸澤広晶	静岡木の子の会
	佐々木優子	日本菌学会 静岡木の子の会
	高山壽彦 (2015 から)	日本冬虫夏草の会
	福田美津夫	静岡木の子の会
	真橋祐次郎	静岡木の子の会

静岡県自然環境保護調査委員会 調査員名簿

分類群	氏名	分類群	氏名	分類群	氏名		
植物 7人	安藤介二	爬虫類・ 両生類 6人	青木良輔	昆虫類 13人	天野市郎		
	鵜飼一博		井出匡昭		池谷 正		
	佐野 弘		植田健仁		浦山幸夫		
	西口紀雄		小賀野大一		加藤 徹		
	早村俊二		佐藤直己		北野 忠		
	山崎由晴		高山尋彦		酒井孝明		
	山田昌彦	岩田正直	鈴木英文				
哺乳類 9人	大隈 充	淡水魚類 18人	加藤健一		クモ類 5人	竹内克弥	
	大橋正孝		北川 学			谷川久男	
	勝田節子		倉野由紀夫			間野隆裕	
	榊原英幸		佐々木彰央			森田 東	
	佐藤顕義		佐藤雄一			森田誠司	
	高田 歩		長橋聖一			油井雅樹	
	高見宗広		森口宏明	加藤玲衣			
	高山壽彦		湯川洋行	吉田 剛			
	山本幸介		安本洋一	影山史弥			
鳥類 9人	川合正晃		影山宏一	菌類 3人		東 勇太	
	近藤多美子		宮崎一夫				山本航平
	中村裕志		近藤 正				
	浜野秀保		小林正明				
	増田章二		松永幸伸				
	渡邊修治		望月金道				
	小泉金次 (2011 まで)		堀田 卓				
	伴野正志 (2015 まで)		矢野靖彦				
	田中公彦 (2014 まで)						

静岡県カテゴリー

区分及び基本概念		具体的要件（定性的要件）	
絶滅 Extinct (EX) 静岡県では既に絶滅したと考えられる種 ^(注)		過去に静岡県に生息・生育したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、静岡県では既に絶滅したと考えられる種	
野生絶滅 Extinct in the Wild (EW) 飼育・栽培下でのみ存続している種		過去に静岡県に生息・生育したことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、静岡県においては野生では既に絶滅したと考えられる種 【確実な情報があるもの】 ① 信頼できる調査や記録により、既に野生で絶滅したことが確認されている。 ② 信頼できる複数の調査によっても、生息・生育が確認できなかった。 【情報量が少ないもの】 ③ 過去 50 年間前後の間に、信頼できる生息・生育の情報が得られていない。	
絶滅 危惧 T H R E A T E N E D	絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 絶滅の危機に瀕している種	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 ① 既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 ② 既知のすべての生息・生育地で生息・生育条件が著しく悪化している。 ③ 既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 【情報量が少ないもの】 ⑤ それほど遠くない過去（30～50年）の生息・生育記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。	絶滅危惧 I A 類 Critically Endangered (CR) ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 絶滅危惧 I B 類 Endangered (EN) I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
	絶滅危惧 II 類 Vulnerable (VU) 絶滅の危険が増大している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 ① 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ② 大部分の生息・生育地で生息・生育条件が明らかに悪化しつつある。 ③ 大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。	

区分及び基本概念	具体的要件（定性的要件）
<p>準絶滅危惧 Near Threatened (NT) 存続基盤が脆弱な種</p> <p>現時点での絶滅危険度は小さいが、生息・生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。</p>	<p>次に該当する種</p> <p>生息・生育状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後更に進行するおそれがあるもの。</p> <p>a. 個体数が減少している。 b. 生息・生育条件が悪化している。 c. 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 d. 交雑可能な別種が侵入している。</p>
<p>情報不足 Data Deficient (DD) 評価するだけの情報が不足している種</p>	<p>環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的には、次のいずれかの要素）を有しているが、生息・生育状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種</p> <p>a. どの生息・生育地においても生息・生育密度が低く希少である。 b. 生息・生育地が局限されている。 c. 生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 d. 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。 e. その他ランクを判定するに足る情報が得られていない種。</p>
<p>絶滅のおそれのある地域個体群 Threatened Local Population (LP) 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。</p>	<p>次のいずれかに該当する地域個体群</p> <p>① 生息・生育状況、学術的価値等の観点から、静岡県レッドデータブック掲載種に準じて扱うべきと判断される種の地域個体群で、生息・生育域が孤立しており、地域レベルで見した場合絶滅に瀕しているかその危険が増大していると判断されるもの。 ② 地方型としての特徴を有し、生物地理学的観点から見て重要と判断される地域個体群で、絶滅に瀕しているか、その危険が増大していると判断されるもの。</p>
<p>要注目種（静岡県独自のカテゴリー） Noteworthy (N)</p>	
<p>N-I 現状不明 現状が不明な種</p>	<p>過去の記録はあるが、その後30年未満の間情報の得られていない種（偶産種は除く）。</p>
<p>N-II 分布上注目種等 絶滅の危険性は小さいが、分布上注目される種</p>	<p>分布が局限されている種、その他、静岡県で遺伝的、形態的に特異な種。</p>
<p>N-III 部会注目種 その他各部会で注目すべきと判断した種</p>	<p>各専門部会において、学術上・自然保護上注目すべきと判断された種。</p>

(注) 動物では種及び亜種を示す。

4 レッドリストの選定方針及び結果

(1)選定方針

ア 評価対象

評価対象は、静岡県内に記録のある、または今回の調査で確認された野生生物とした。原則として外来種（国外・国内）は対象外とした。ただし、外来かどうかの判断が困難な場合は対象とした。

既存分類群（植物）

- ・維管束植物の種、亜種及び変種を評価の対象とした。
- ・品種及び雑種は除いたが、分布上、また、遺伝的、形態的に注目される場合は対象とした。

新規分類群（菌類）

- ・子嚢菌・担子菌（キノコ類）を対象とした。

イ 評価方法等

既存分類群（植物）

- ・維管束植物の評価は、平成 15～28 年度に実施した文献、標本調査及び平成 21～28 年度に実施した現地調査の結果を踏まえるとともに、部会員から提供のあった研究成果、知見等に基づき定性的評価を基本とした。
- ・現地調査で得られた産地の状況及び産量、過去の記録及び産量、採集圧の大きさや開発の影響等を基に評価した。なお、全国的な分布、産量、分布の限界など分布の重要性及び保護の状況なども加味した。

新規分類群（菌類）

- ・平成 21～28 年度に実施した文献調査及び現地調査の結果を踏まえ、定性的評価を基本とした。

(2)結果

ア 掲載種

静岡県レッドリストに掲げられた種（種または亜種）の集計を 21 ページに示す。

イ 各分類群の特徴・変更理由等

分類群毎の、評価対象とした静岡県産種数に対する絶滅のおそれのある種の割合及び静岡県レッドリスト種の割合を 21 ページに示す。

また分類群毎の減少傾向にある種の特徴等を以下に示す。

既存分類群（植物）

- ・ラン科植物は採取による影響が大きく、レッドリストに 95 種が選定され、内 69 種が絶滅のおそれのある種に該当した。カヤツリグサ科も 51 種と多く選定された。
- ・湿生植物では開発及び管理放棄などによる生育環境の乾燥化が進み、また、海浜植物は開発

による影響が大きく、特に絶滅危惧Ⅱ類とされた種が多かった。

- ・ キキョウなど、里地・里山にある身近な植物の中で減少傾向にある種の追加選定により、レッドリスト対象種が増加した。
- ・ 新規記録または個体数・生育環境の減少状況から、クサタチバナ、クロクモキリソウ、ハタバカンガレイなど 39 種を新たに追加した。
- ・ シモダカンアオイは、アマギカンアオイに統合されたことから除外した。

新規分類群（菌類）

- ・ 自然な海浜砂地、老齢木を含む多種多様な自然林、林内の湿地及び多湿環境が、森林伐採、開発等によって減少するに伴い、生育環境が限定されている種の生存が脅かされている。
- ・ 海岸林から里山にかけては、開発、植林化に加え、マツ枯れ等による宿主樹種の減少、林の手入れ不足による生育環境の悪化、遷移の進行の影響を受けた種が選定された。
- ・ 個体数、生育環境の減少状況から、スナヤマチャワнтаケ、マツタケなど 26 種を絶滅危惧種としてあげたほか、ショウロ、エビタケなど 74 種を情報不足または部会注目種等とした。

分類群別、カテゴリー別レッドリスト種数一覧

カテゴリー	植物	菌類	哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	淡水魚類	昆虫類 ※3	陸・淡水産貝類	クモ類	合計	
絶滅	3 (5)	0	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (2)	1 (0)	0	12 (9)	
野生絶滅	0 (0)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0	0 (0)	
絶滅のおそれのある種	絶滅危惧 I 類	205 (199)	11	0 (0)	20 (18)	1 (1)	2 (2)	17 (10)	34 (19)	18 (17)	2	310 (266)
	I A 類	62 (38)	0	0 (0)	6 (4)	1 (1)	2 (1)	8 (6)	20 (15)	7 (9)	0	106 (74)
	I B 類	143 (161)	11	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (1)	9 (4)	14 (4)	11 (8)	2	204 (192)
	絶滅危惧 II 類	211 (202)	15	3 (2)	32 (26)	0 (0)	3 (3)	6 (6)	26 (24)	11 (14)	1	308 (277)
準絶滅危惧	58 (55)	17	8 (5)	14 (14)	1 (0)	5 (2)	2 (3)	37 (21)	26 (22)	7	175 (122)	
情報不足	20 (22)	20	12 (8)	4 (6)	2 (2)	1 (1)	3 (2)	31 (40)	11 (10)	0	104 (91)	
絶滅のおそれのある地域個体群	0 (0)	0	3 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0	5 (3)	
要注目種	現状不明	59 (61)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (9)	0 (0)	0	73 (72)	
	分布上注目種等	27 (32)	0	1 (1)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	7 (8)	15 (15)	0	13 (63)	
	部会注目種	108 (87)	35	2 (5)	3 (3)	2 (2)	3 (2)	19 (22)	34 (24)	0 (0)	0	206 (145)
合計	691 (663)	98	31 (25)	78 (72)	8 (7)	15 (10)	54 (53)	198 (155)	67 (63)	23	1,263 (1,048)	
作成された県産目録種数※1	4,070 (4,064)	1,298	60 (52)	421 (378)	19 (17)	21 (18)	186 (166)	8,427 (6,463)	213 (193)	510	15,225 (11,351)	
評価対象とした県産種数※2	3,419 (2,963)	1,298	51 (47)	414 (378)	16 (16)	19 (17)	147 (130)	7,383 (6,357)	190 (178)	508	13,445 (10,086)	
絶滅のおそれのある種数の合計	416 (401)	26	3 (2)	52 (44)	1 (1)	5 (5)	23 (16)	60 (43)	29 (31)	3	618 (543)	
絶滅のおそれのある種数の割合(%)	12.2 (13.5)	2.0	5.9 (4.3)	12.6 (11.6)	6.3 (6.3)	27.8 (29.4)	15.6 (12.3)	0.8 (0.7)	15.3 (17.4)	0.6	4.6 (5.4)	
レッドリスト種の割合(%)	20.2 (22.4)	7.5	60.8 (53.2)	18.8 (19.0)	50.0 (43.8)	83.3 (58.8)	36.7 (40.8)	2.7 (2.4)	35.3 (35.4)	4.5	9.4 (10.4)	
新規種数	39	/	6	6	1	5	5	44	7	/	113	
変更種数	42		8	9	0	2	10	63	13		147	
削除種数	11		0	0	0	0	4	1	3		19	

※1 県産目録種数は現在までに報告されているもの。植物は現在までに記録されている全維管束植物の種類数。

種数は種及び亜種を含み、植物は変種、品種及び一部の雑種を、菌類は変種、品種を、両生類は系統を含む。

※2 原則として評価対象は在来種（外来種、偶産種等、各部会で判断したものを除いたもの）。

植物は種、亜種及び変種を含み、菌類及び動物では種及び亜種を、両生類は系統を含む。

※3 トンボ目、ゴキブリ目、カマキリ目、ナナフシ目、ハサミムシ目、バッタ目、コウチュウ目、チョウ目及びカメムシ目（水生種）に限る。

注）絶滅のおそれのある種数の割合＝評価対象とした県産種数に対する割合

（ ）内は前回 2004 年版 RDB（その後一部改訂あり）の種数及び割合を示す。

選定種一覧(植物)(1/4)

カテゴリー	種名		
絶滅 (EX) 3種	ハマナツメ	ハマサジ	ミカワシオガマ
野生絶滅 (EW)	該当なし		
絶滅危惧 I A 62種類 (CR)	チシマヒカゲノカズラ ミヤマハナワラビ スジヒトツバ サイゴクホングウシダ シムライノデ オドリコテンナンショウ シバナ ジンリョウユリ ミスズラン キエビネ クゲヌマラン ホテイアツモリソウ ムカゴトンボ ガンゼキラン カラフトイワスゲ ヤマオオウシノケグサ トキホコリ キタダケナズナ ミヤマハナシノブ ムシトリスミレ ミコシギク	ナンカクラン チャボハナヤスリ デンジソウ キタダケデンダ キレハオオクボシダ アマギテンナンショウ タヌキノショクダイ スルガジョウロウホトトギス キソエビネ サルメンエビネ カンラン アツモリソウ クモイジガバチ ナゴラン イッスンテンツキ キタダケイチゴツナギ タチスズシロソウ タカネマンテマ ムラサキツリガネツツジ フサタヌキモ ヤマタバコ	ヒモラン オニゼンマイ ヤマソテツ スルガイノデ ヒロハヒメウラボシ マルバオモダカ ヒロハノアマナ イワチドリ キンセイラン ホテイラン キバナノアツモリソウ サワラン ムカゴサイシン エゾイトイ ヤリテンツキ ベニバナヤマシヤクヤク ハナハタザオ カンチャチハコベ ソナレセンブリ カワラノギク
絶滅危惧 I B 143種類 (EN)	セイタカイワヒメワラビ ヤクシマホウビシダ タチヒメワラビ ミドリワラビ オトコシダ タカネシダ ミョウギシダ シコクヒロハテンナンショウ リュウノヒゲモ ミカワバイケイソウ カイコバイモ ユウシュンラン ハコネラン ヒロハツリシュスラン オオミズトンボ クロクモキリソウ サカネラン シロウマチドリ イヌマムカゴ ヒメシャガ スズラン トダスゲ オオクゲ トネテンツキ タカネタチイチゴツナギ キタダケカニツリ ヒロハヘビノボラズ ヒキノカサ ハマビシ ハゴロモグサ フジタイゲキ ミヤマスミレ ミズキカシグサ クモイナズナ ナガバノイシモチソウ サワトラノオ ナガボナツハゼ コヒナリンドウ ヒメセンブリ ムラサキ マルバノサワトウガラシ ミズネコノオ コナミキ コタヌキモ ヒメシロアサザ アベトウヒレン コゴメヒョウタンボク フキヤミツバ	ハチジョウシダ カミガモシダ ルリデライヌワラビ コガネシダ ナガサキシダ オニイノデ ヒツジグサ オオミネテンナンショウ ホンゴウソウ チャボシライトソウ ヒメアマナ タカネアオチドリ トラキチラン フジチドリ ヤクシマアカシュスラン フガクスズムシソウ ヒナチドリ トキソウ オオハクウンラン イズアサツキ クロホシクサ アワボスゲ タカネナルコ ミクリガヤ タチイチゴツナギ ツルケマン オオサワトリカブト トキワマンサク イヌハギ ヨコグラノキ カンコノキ マツバニンジン ヒメビシ シロウマナズナ ウメウツギ クリンソウ ハナムグラ オノエリンドウ シノノメソウ ヤマホオズキ カイジンドウ ミズトラノオ ゴマクサ ヒメタヌキモ アズマギク ヒメヒゴタイ イワツクバネウツギ ヌマゼリ	ニシノコハチジョウシダ イチョウシダ コウライイヌワラビ ヒロハアツイタ センジョウデンダ クラガリシダ オオヤマレンゲ ムサシモ ウエマツソウ コシノコバイモ ヒナラン マヤラン ナヨテンマ ダイサギソウ ヒメノヤガラ セイタカスズムシソウ カモメラン カシノキラン ショウキラン ステゴビル ゴマシオホシクサ ハシナガカンスゲ ノハラテンツキ ミカワシンジュガヤ ミヤマカニツリ ナガミノツルケマン オキナグサ タチモ ヒナノキンチャク コバノチョウセンエノキ ヒトツバハギ アゼオトギリ タチバナ コギシギシ オオツルコウジ サクラソウ サンブクリンドウ アカイシリンドウ クサタチバナ シシンラン ムシヤリンドウ キセワタ ミカワタヌキモ ヒメミカキグサ ネコヤマヒゴタイ コウリンカ ヤマナシウマノミツバ

選定種一覧(植物)(2/4)

カテゴリー	種名		
絶滅危惧Ⅱ類 211種 (VU)	スギラン	ミズニラ	ヒメハナワラビ
	マツバラ	シロヤマゼンマイ	サンショウモ
	アカウキクサ	オオアカウキクサ	ユノミネシダ
	タキミシダ	ナカミシラン	アイコハチジョウシダ
	ハチジョウシダモドキ	ヒノキシダ	ホソバショリマ
	テバコワラビ	イワヤシダ	イヨクジャク
	ニセコクモウクジャク	アオキガハラウサギシダ	イワウサギシダ
	カツモウイノデ	イズヤブソテツ	ヒロハヤブソテツ
	ツクシヤブソテツ	ホオノカワシダ	スカイタチシダマガイ
	アツギノスカイタチシダマガイ	タニヘゴ	イナデンダ
	タカノハウラボシ	オニバス	カギガタアオイ
	イワタカンアオイ	アマギカンアオイ	ズソウカンアオイ
	シロモジ	ヒトツバテンナンショウ	ミミガタテンナンショウ
	ヒンジモ	アギナシ	マルミスブタ
	スブタ	トチカガミ	サガミトリゲモ
	イトトリゲモ	トリゲモ	ツツイトモ
	イトモ	イトクズモ	カワツルモ
	イズドコロ	キバナノアマナ	チャボホトトギス
	ナツエビネ	ナギラン	コアツモリソウ
	クマガイソウ	イチヨウラン	ハルザキヤツシロラン
	サギソウ	ミズトンボ	ムカゴソウ
	カゲロウラン	エンシュウムヨウラン	スズムシソウ
	フウラン	ヒメムヨウラン	オノエラン
	ウチヨウラン	ニョホウチドリ	ミズチドリ
	ツレサギソウ	オオヤマサギソウ	オオバナオオヤマサギソウ
	ヤマトキシソウ	マツラン	モミラン
	ムカデラン	キバナノショウキラン	カキツバタ
	ミズアオイ	オオミクリ	ヤマトミクリ
	ヒメミクリ	シラタマホシクサ	イトテンツキ
	タカネヤガミスゲ	ハリガネスゲ	ミヤマジュズスゲ
	オオタマツリスゲ	サナギスゲ	ホソバヒカゲスゲ
	カタスゲ	サワヒメスゲ	キシウナキリ
	スルガスゲ	エヅツリスゲ	ジングウスゲ
	オノエスゲ	ヌイオスゲ	オニナルコスゲ
	コツブスマハリイ	ヒゲハリスゲ	ハタバカンガレイ
	カガシラ	ミヤマハルガヤ	ミギワトダシバ
	アズマガヤ	ヒナザサ	ウンヌケモドキ
	ウンヌケ	ハネガヤ	リシリカニツリ
	フクジュソウ	カザグルマ	ハコネシロカネソウ
	ミスミソウ	ミシマバイカモ	セツブンソウ
	タマカラマツ	フッキソウ	コウヤミズキ
	ヤシヤビシヤク	ヤブサンザシ	ヒトツバシヨウマ
	マツノハマネンゲサ	ミヤマトベラ	レンリソウ
	クサフジ	ヒナノカンザシ	キンロバイ
	ウラジロキンバイ	ミヤマワレモコウ	ハコネグミ
	クロツバラ	ジゾウカンバ	シラヒゲソウ
	ノウルシ	コマイワヤナギ	サクラスミレ
	キスミレ	アサマフウロ	トダイアカバナ
	チョウセンナニワズ	エゾハタザオ	クモマナズナ
	ミヤマツチトリモチ	サイコクヌカボ	ヌカボタデ
イシモチソウ	オオビランジ	シコタンハコベ	
エンシュウツリフネソウ	オオサクラソウ	コイワザクラ	
クモイコザクラ	シナノコザクラ	カイナンサラサドウダン	
キョウマルシヤクナゲ	オオヤマツツジ	ナガバジュズネノキ	
ホソバノツルリンドウ	ムラサキセンブリ	ヒメナエ	
チョウジソウ	スナビキソウ	ハマネナシカズラ	
ハシドイ	オオアブノメ	スズメハコベ	
トラノオスズカケ	キタダケオドリコソウ	ラシヨウモンカズラ	
ヒメハッカ	ヤマジソ	シマジタムラソウ	
ヤマジノタツナミソウ	ヒメナミキ	イズコゴメグサ	
ハマウツボ	ノタヌキモ	イヌタヌキモ	
タヌキモ	ムラサキミミカキグサ	ツルギキョウ	
バアソブ	キキョウ	ガガブタ	
アサザ	トダイハハコ	キタダケヨモギ	
ユキヨモギ	シブカワシロギク	ウラギク	
フジバカマ	アキノハハコグサ	ヤナギノギク	
ヤナギタンポポ	タカサゴソウ	クモマニガナ	
ホソバニガナ	ヤハズトウヒレン	ハチジョウナ	
クサノオウバノギク	スルガヒョウタンボク	チシマヒョウタンボク	
ニッコウヒョウタンボク	ソナレマツムシソウ	ミシマサイコ	
ホソバハナウド			

選定種一覧(植物)(3/4)

カテゴリー	種名	種名	種名
準絶滅危惧 (NT) 58種	テンリュウヌリトラノオ エビアマモ マメヅタラン エビネ タシロラン ミクリ クモマスズメノヒエ ヤマシャクヤク ツメレンゲ サクラバハンノキ ウスゲチョウジタデ クロミノニシゴリ アシタカツツジ ハコネコメツツジ スズサイコ カリガネソウ ミゾコウジュ タテヤマギク ワタムキアザミ タカネコウリンカ	ジュンサイ コアマモ ムギラン キンラン クロヤツシロラン ナガエミクリ センダイスゲ キバナハナネコノメ タコノアシ コオトギリ サクラガンピ アマギツツジ エンシュウシャクナゲ イヌセンブリ アオホオズキ タチキランソウ オオヒキヨモギ イズカニコウモリ イズハハコ	オトメアオイ シラン ミヤマムギラン セッコク ウスギムヨウラン クロイヌノヒゲ ヒメコヌカグサ ムカゴネコノメソウ サンショウバラ ミズマツバ ヤナギヌカボ アマギシヤクナゲ シブカワツツジ クサナギオゴケ イヌノフグリ マネギグサ サワギキョウ モリアザミ カワラニガナ
情報不足 (DD) 20種	ヒメウラジロ テンリュウカンアオイ アオガシ コバノヒルムシロ タカネイ イワレンゲ イナベアザミ	ヒメバラモミ タマノカンアオイ ウミヒルモ ササバラシ ミズタカモジ モミジカラスウリ ドロニガナ	ヒメコウホネ スエヒロアオイ タチアマモ ウラジロギボウシ チチッパベンケイ ミズスギナ
絶滅のおそれのある地域 個体群 (LP)	該当なし		
要注目種			
現状不明 (N-I) 59種	ヤツガタケシノブ エゾメシダ ヤクカナワラビ クロミノイタチシダ ハナゼキショウ ヒロハノエビモ ヤマアマドコロ チャンバスゲ タイワンヤマイ イトイチゴツナギ モメンヅル ハチジョウイチゴ ハシバミ ヒメスミレサイシン シラオイハコベ ハママツナ トネリコ サツキヒナノウスツボ ハマベノギク ドクゼリ	アオチャセンシダ オクヤマワラビ カラフトメンマ チョウセンゴミシ イバラモ シロバナシヨウジョウバカマ タマミクリ キンチャクスゲ ヒゲノガリヤス ヤマブキノソウ ヒロハノカワラサイコ キビナワシロイチゴ フジスミレ ナガバノヤノネグサ ハマアカザ イワウチワ ヒヨクソウ ハルノタムラソウ セイタカトウヒレン カワラボウフウ	ニッコウシダ ツクシイヌワラビ ニオイシダ ミズバショウ センニンモ ヒメイズイ イヌイ サギスゲ キダチノネズミガヤ ヤマケマン クモイザクラ ノグルミ ゲンジスミレ ワダソウ イツホウキギ キバナカワラマツバ ゴマノハグサ ナミキノソウ クマノギク
分布上注目種等 (N-II) 27種	リュウビンタイ ケホシダ フジイノデ ニシノホンモンジスゲ ヒメカラマツ ピロードイチゴ ミヤマツメクサ トウヤクリンドウ ホクチアザミ	オドリコカグマ ハイコモチシダ オキナワハイネズ マシカクイ ミカワチャルメルソウ モクレイシ ウンゼンツツジ シブカワニンジン ハチジョウアキノキリンソウ	ヒメハシゴシダ タカサゴシダ タカネサギソウ ヒナガリヤス ムラサキモメンヅル ハクセンナズナ ヒロハコンロンカ ミツガシワ リンネソウ

選定種一覧(植物)(4/4)

カテゴリー	種名																																																																																																												
部会注目種 (N-III) 108種	<table border="0"> <tr> <td>アスヒカズラ</td> <td>ハマハナヤスリ</td> <td>オオハイホラゴケ</td> </tr> <tr> <td>チチブホラゴケ</td> <td>エダウチホングウシダ</td> <td>コタニワタリ</td> </tr> <tr> <td>テツホシダ</td> <td>メニッコウシダ</td> <td>ミゾシダモドキ</td> </tr> <tr> <td>イワイヌワラビ</td> <td>ウスバミヤマノコギリシダ</td> <td>ツクシイワヘゴ</td> </tr> <tr> <td>ヌカイタチシダモドキ</td> <td>アオネカズラ</td> <td>ウスバサイシン</td> </tr> <tr> <td>バリバリノキ</td> <td>ミツバテンナンショウ</td> <td>ミズオオバコ</td> </tr> <tr> <td>ヒナノシヤクジョウ</td> <td>アマナ</td> <td>オオウバユリ</td> </tr> <tr> <td>カタクリ</td> <td>ホソバノアマナ</td> <td>ギンラン</td> </tr> <tr> <td>アオキラン</td> <td>シロテンマ</td> <td>アケボノシュスラン</td> </tr> <tr> <td>ベニシュスラン</td> <td>シュスラン</td> <td>ノビネチドリ</td> </tr> <tr> <td>コハ克蘭</td> <td>ギボウシラン</td> <td>ヒメフタバラン</td> </tr> <tr> <td>アオフタバラン</td> <td>ホザキイチヨウラン</td> <td>アリドオシラン</td> </tr> <tr> <td>ホソバノキソチドリ</td> <td>ヒトツボクロ</td> <td>コキンバイザサ</td> </tr> <tr> <td>ヒメニラ</td> <td>オオキツネノカミソリ</td> <td>ヤマアゼスゲ</td> </tr> <tr> <td>サツマスゲ</td> <td>マンシュウクロカワスゲ</td> <td>ヒカゲシラスゲ</td> </tr> <tr> <td>ヤブスゲ</td> <td>ヒメアオガヤツリ</td> <td>シロガヤツリ</td> </tr> <tr> <td>クジュウクリテンツキ</td> <td>コマツカサススキ</td> <td>マツカサススキ</td> </tr> <tr> <td>エゾウキヤガラ</td> <td>ケシンジュガヤ</td> <td>コミヤマスカボ</td> </tr> <tr> <td>コウヤザサ</td> <td>ザラツキヒナガリヤス</td> <td>オオトボシガラ</td> </tr> <tr> <td>ヤマトボシガラ</td> <td>ハクサンイチゴツナギ</td> <td>ムカゴツツリ</td> </tr> <tr> <td>ウキシバ</td> <td>ハスノハカズラ</td> <td>キタザワブシ</td> </tr> <tr> <td>イチリンソウ</td> <td>キクザキイチゲ</td> <td>アズマイチゲ</td> </tr> <tr> <td>レンゲショウマ</td> <td>オオカラマツ</td> <td>ツゲ</td> </tr> <tr> <td>チシマネコノメソウ</td> <td>ムカゴユキノシタ</td> <td>アズマツメクサ</td> </tr> <tr> <td>フサモ</td> <td>カワラサイコ</td> <td>ミヤマモミジイチゴ</td> </tr> <tr> <td>ホウロクイチゴ</td> <td>ナガボノアカワレモコウ</td> <td>カラハナソウ</td> </tr> <tr> <td>ミヤマニガウリ</td> <td>イワウメヅル</td> <td>ヒゴスミレ</td> </tr> <tr> <td>イヨフウロ</td> <td>コイヌガラシ</td> <td>ナガバノウナギツカミ</td> </tr> <tr> <td>ヒゲネワチガイソウ</td> <td>ホソバハマアカザ</td> <td>ミドリアカザ</td> </tr> <tr> <td>モロコシソウ</td> <td>イナモリソウ</td> <td>フナバラソウ</td> </tr> <tr> <td>マメダオシ</td> <td>ハマクワガタ</td> <td>アシタカジャコウソウ</td> </tr> <tr> <td>ホナガタツナミソウ</td> <td>タカネママコナ</td> <td>ヒキヨモギ</td> </tr> <tr> <td>キヨスミウツボ</td> <td>イワシヤジン</td> <td>シデシヤジン</td> </tr> <tr> <td>ミヤマコウモリソウ</td> <td>ノッポロガンクビソウ</td> <td>ミズギク</td> </tr> <tr> <td>ノニガナ</td> <td>オナモミ</td> <td>ヤマヒョウタンボク</td> </tr> <tr> <td>レンブクソウ</td> <td>カノコソウ</td> <td>ナベナ</td> </tr> </table>	アスヒカズラ	ハマハナヤスリ	オオハイホラゴケ	チチブホラゴケ	エダウチホングウシダ	コタニワタリ	テツホシダ	メニッコウシダ	ミゾシダモドキ	イワイヌワラビ	ウスバミヤマノコギリシダ	ツクシイワヘゴ	ヌカイタチシダモドキ	アオネカズラ	ウスバサイシン	バリバリノキ	ミツバテンナンショウ	ミズオオバコ	ヒナノシヤクジョウ	アマナ	オオウバユリ	カタクリ	ホソバノアマナ	ギンラン	アオキラン	シロテンマ	アケボノシュスラン	ベニシュスラン	シュスラン	ノビネチドリ	コハ克蘭	ギボウシラン	ヒメフタバラン	アオフタバラン	ホザキイチヨウラン	アリドオシラン	ホソバノキソチドリ	ヒトツボクロ	コキンバイザサ	ヒメニラ	オオキツネノカミソリ	ヤマアゼスゲ	サツマスゲ	マンシュウクロカワスゲ	ヒカゲシラスゲ	ヤブスゲ	ヒメアオガヤツリ	シロガヤツリ	クジュウクリテンツキ	コマツカサススキ	マツカサススキ	エゾウキヤガラ	ケシンジュガヤ	コミヤマスカボ	コウヤザサ	ザラツキヒナガリヤス	オオトボシガラ	ヤマトボシガラ	ハクサンイチゴツナギ	ムカゴツツリ	ウキシバ	ハスノハカズラ	キタザワブシ	イチリンソウ	キクザキイチゲ	アズマイチゲ	レンゲショウマ	オオカラマツ	ツゲ	チシマネコノメソウ	ムカゴユキノシタ	アズマツメクサ	フサモ	カワラサイコ	ミヤマモミジイチゴ	ホウロクイチゴ	ナガボノアカワレモコウ	カラハナソウ	ミヤマニガウリ	イワウメヅル	ヒゴスミレ	イヨフウロ	コイヌガラシ	ナガバノウナギツカミ	ヒゲネワチガイソウ	ホソバハマアカザ	ミドリアカザ	モロコシソウ	イナモリソウ	フナバラソウ	マメダオシ	ハマクワガタ	アシタカジャコウソウ	ホナガタツナミソウ	タカネママコナ	ヒキヨモギ	キヨスミウツボ	イワシヤジン	シデシヤジン	ミヤマコウモリソウ	ノッポロガンクビソウ	ミズギク	ノニガナ	オナモミ	ヤマヒョウタンボク	レンブクソウ	カノコソウ	ナベナ
アスヒカズラ	ハマハナヤスリ	オオハイホラゴケ																																																																																																											
チチブホラゴケ	エダウチホングウシダ	コタニワタリ																																																																																																											
テツホシダ	メニッコウシダ	ミゾシダモドキ																																																																																																											
イワイヌワラビ	ウスバミヤマノコギリシダ	ツクシイワヘゴ																																																																																																											
ヌカイタチシダモドキ	アオネカズラ	ウスバサイシン																																																																																																											
バリバリノキ	ミツバテンナンショウ	ミズオオバコ																																																																																																											
ヒナノシヤクジョウ	アマナ	オオウバユリ																																																																																																											
カタクリ	ホソバノアマナ	ギンラン																																																																																																											
アオキラン	シロテンマ	アケボノシュスラン																																																																																																											
ベニシュスラン	シュスラン	ノビネチドリ																																																																																																											
コハ克蘭	ギボウシラン	ヒメフタバラン																																																																																																											
アオフタバラン	ホザキイチヨウラン	アリドオシラン																																																																																																											
ホソバノキソチドリ	ヒトツボクロ	コキンバイザサ																																																																																																											
ヒメニラ	オオキツネノカミソリ	ヤマアゼスゲ																																																																																																											
サツマスゲ	マンシュウクロカワスゲ	ヒカゲシラスゲ																																																																																																											
ヤブスゲ	ヒメアオガヤツリ	シロガヤツリ																																																																																																											
クジュウクリテンツキ	コマツカサススキ	マツカサススキ																																																																																																											
エゾウキヤガラ	ケシンジュガヤ	コミヤマスカボ																																																																																																											
コウヤザサ	ザラツキヒナガリヤス	オオトボシガラ																																																																																																											
ヤマトボシガラ	ハクサンイチゴツナギ	ムカゴツツリ																																																																																																											
ウキシバ	ハスノハカズラ	キタザワブシ																																																																																																											
イチリンソウ	キクザキイチゲ	アズマイチゲ																																																																																																											
レンゲショウマ	オオカラマツ	ツゲ																																																																																																											
チシマネコノメソウ	ムカゴユキノシタ	アズマツメクサ																																																																																																											
フサモ	カワラサイコ	ミヤマモミジイチゴ																																																																																																											
ホウロクイチゴ	ナガボノアカワレモコウ	カラハナソウ																																																																																																											
ミヤマニガウリ	イワウメヅル	ヒゴスミレ																																																																																																											
イヨフウロ	コイヌガラシ	ナガバノウナギツカミ																																																																																																											
ヒゲネワチガイソウ	ホソバハマアカザ	ミドリアカザ																																																																																																											
モロコシソウ	イナモリソウ	フナバラソウ																																																																																																											
マメダオシ	ハマクワガタ	アシタカジャコウソウ																																																																																																											
ホナガタツナミソウ	タカネママコナ	ヒキヨモギ																																																																																																											
キヨスミウツボ	イワシヤジン	シデシヤジン																																																																																																											
ミヤマコウモリソウ	ノッポロガンクビソウ	ミズギク																																																																																																											
ノニガナ	オナモミ	ヤマヒョウタンボク																																																																																																											
レンブクソウ	カノコソウ	ナベナ																																																																																																											

選定種一覧(菌類)

カテゴリー	種名		
絶滅 (EX)	該当なし		
野生絶滅 (EW)	該当なし		
絶滅危惧 I A 類 (CR)	該当なし		
絶滅危惧 I B 類 (EN) 11 種	スナヤマチャワシタケ ツクツクボウシセミタケ シモコシ コナガエノアカカゴタケ	ハヤカワセミタケ スズキセミタケ ヒヨリヒメツチグリ オオムラサキアンズタケ	クサギムシタケ アバタケシボウズタケ アンドンタケ
絶滅危惧 II 類 (VU) 15 種	クチキトサカタケ タンボタケモドキ シロシメジ コカンバタケ ニンギョウタケ	カンムリタケ ホンシメジ (ダイコクシメジ) マツタケ チョレイマイタケ ヌメリアイタケ	フトクビクチキムシタケ ツノシメジ アシグロニオイグチ アオロウジ フサハリタケ
準絶滅危惧 (NT) 17 種	ハスノミクモタケ コブガタアリタケ チャオニテングタケ オオモミタケ ヌメリツバイグチ クロカワ	ウスキタンボセミタケ キウロコテングタケ オオツガタケ バカマツタケ アカイロウスタケ コウタケ	ベニイロクチキムシタケ ハイイロオニタケ キヒダイッポンシメジ トゲミノヒメイグチ ツヤナシマンネンタケ
情報不足 (DD) 20 種	マコハキタケ アケボノタケ ヒダホテイタケ サザナミイグチ ショウロ オオカボチャタケ ケショウシロハツ	タルゼッタ カティヌス カバイロオオホウライタケ ウラムラサキシメジ ヒメウグイスイグチ ウズタケ エゾシロアマタケ フチドリクロチタケ	カブラテングタケ ヒョウモンウラベニガサ ヤシャイグチ ミヤマキヒダタケ ヒメオツネンタケ センニンタケ
絶滅のおそれのある地域 個体群 (LP)	該当なし		
要注目種			
現状不明 (N-I)	該当なし		
分布上注目種等 (N-II)	該当なし		
部会注目種 (N-III) 35 種	シロオニタケモドキ オニフウセンタケ シロコケシジミガサ (仮称) シャカシメジ ダイダイイグチ アオゾメクロツブタケ ゴムショウロ アカイカタケ カバノアナタケ エビタケ サワフタギタケ アカアシボソチタケ (仮称)	カバイロコナテングタケ ソライロタケ ヒメサクラシメジ アシナガイグチ ナガエノウラベニイグチ ミカワクロアミアイグチ シロアンズタケ ムカシオオミダレタケ エブリコ アケボノハリタケ ウサギタケ キツネハツ	ミヤマムラサキフウセンタケ カンゾウタケ ナメニセムクエタケ オオキノボリイグチ キンチャヤマイグチ アナアキアカダマタケ オニウスタケ ヤケコゲタケ ツガマイタケ ツバマツオウジ (仮称) ルリハツタケ

5 保護方針

ふじのくに生物多様性地域戦略（2018）では、カテゴリーごとに保護方針に基づく対応を掲載した。対応については環境省総合環境政策局環境影響評価課監修（2017）「環境アセスメント技術ガイド生物の多様性・自然との触れ合い」にしたがい、環境保全措置の方向として、回避、低減、代償措置とした。

レッドデータブックに掲載された種に対する保護は、すべてを回避することが理想であるが、現実的には事例ごとに、回避から代償措置までの多様な対応が必要となろう。したがって、この保護方針は、関係機関の前向きな取り組みを規制するものではなく、生息・生育環境への影響の回避または低減を優先するものである。

保護方針及び対応

カテゴリー		保護方針	対応
絶滅危惧	I A類	このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は最大限の努力をもって排除する必要がある。	回避を原則とする
	I B類	このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は軽減又は排除する必要がある。	回避又は低減を原則とする
	II類	このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は最小限にとどめる必要がある。	低減を原則とする
準絶滅危惧		このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響は可能な限り生じないように注意する。	低減又は代償措置を原則とする
情報不足		このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響は可能な限り生じないように配慮する。	可能な限り代償措置*
地域個体群		このカテゴリーに該当する地域個体群の個体数を減少させる影響及び要因は最小限にとどめる必要がある。	低減を原則とする
要注目種	現状不明	このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は軽減又は排除する必要がある。	回避又は低減を原則とする*
	分布上注目種等	このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響は可能な限り生じないように注意する。	低減又は代償措置を原則とする
	部会注目種	このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響は可能な限り生じないように配慮する。	可能な限り代償措置*

* 該当種の中には、新たな情報または知見が得られた場合、絶滅危惧 I A類など上位カテゴリーに位置づけられるような種も含まれている。したがって、対応も記載された内容だけでなく、現地調査の結果などから、より上位の対応が好ましいと判断された場合は、それに基づいて取り組むこととする。

対応の考え方

環境保全措置	内 容
回避	<p>行為（環境影響要因となる事業行為）の全体又は一部を実行しないことによって影響を回避する（発生させない）こと。重大な影響が予測される環境要素から影響要因を遠ざけることによって影響を発生させないことも回避といえる。つまり、影響要因またはそれによる生態系への影響を発現させない措置といえる。</p> <p>〔例〕事業の中止、事業内容の変更（その影響要因が発生しない事業内容への変更等）、事業実施区域やルートの変更等。</p>
低減	<p>低減には、「最小化」、「修正」、「軽減／消失」といった環境保全措置が含まれる。最小化とは、行為の実施の程度又は規模を制限することによって影響を最小化すること、修正とは、影響を受けた環境そのものを修復、再生又は回復することにより影響を修正すること、軽減／消失とは、行為の実施期間中に、環境の保護又は維持管理を行うことにより、影響を軽減又は消失させること。</p> <p>要約すると、何らかの手段で影響要因又は影響の発現を最小限に抑えること、又は、発現した影響を何らかの手段で修復する措置といえる。</p> <p>〔例〕工事工程の変更、施設構造の変更、緑化、防音壁の設置等。</p>
代償	<p>損なわれる環境要素と同種の環境要素を創出することなどにより、損なわれる環境要素の持つ環境保全の観点からの価値を代償すること。つまり、失われる又は影響を受ける環境に見合う価値の場や機能を新たに創出して、全体としての影響を緩和させる措置といえる。</p>

※環境省総合環境政策局環境影響評価課監修

(2017) 環境アセスメント技術ガイド生物の多様性・自然との触れ合い. p53～54.

種の解説

1. 植物

(1) 静岡県における生育種及び分布の特性

静岡県は本州のほぼ中央にあり、北部の広大な山域と南部の長く複雑な海岸線、わが国の最高峰である富士山や南アルプスの山岳地を持つなど、多様な環境を有している。

気候帯の分布により、植生は標高別に、常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、亜高山針葉樹林、高山植生などが見られる。特に国内の高山帯の分布から、高山植物の中には静岡県を南限とする種類も多い。一方、南方系の植物には静岡県を北東限とする種類も多い。

植物地理学上では東部・伊豆がフォッサマグナ地域に、中部・西部はソハヤキ地域に入るとされ、これらの地域を特徴づける植物が生育している。植物は、維管束植物として種、亜種及び変種を評価対象とした。品種及び雑種は除いたが、分布上、また、遺伝的、形態的に注目される場合は扱った。これまでに県内では4,070種類の記録があるが、近年の新たな分類体系の導入などから、分離・統合の未整理のものがある。

(2) 調査の概要

調査は、現地調査、標本調査及び文献調査を実施するとともに、部会員と調査員以外からの情報も入手した。開始当初の数年は「静岡県希少野生動植物保護条例」の指定希少野生動植物の選定を主目的とし、2009年から南アルプス、富士、伊豆、里山その他の地域ごとに各1~2年かけ、レッドリストのカテゴリーが高いものを中心に静岡県レッドデータブック(2004)時からの変化を念頭に実施した。調査費や調査体制の制約上、本来検討すべきいわゆる普通種などの全県的な調査はできず、RDB改訂としては、十分な調査はできなかった。

(3) レッドリスト種の選定経緯

静岡県レッドデータブック(2004)にリストアップされた663種類のうち、それ以降に情報が得られたものは401種類、1,945点であった。

評価は、それら文献調査、標本調査及び現地調査の結果を踏まえるとともに、部会員等から提供のあった研究成果、知見等に基づき、定性的評価を基本とした。2004年以降の生育量、分布または分類等に関する新たな情報を踏まえ、産地の状況及び産量、過去の記録及び産量、採集圧の大きさや開発の影響等を基に評価した。

(4) レッドリストの改訂で明らかになった点

今回静岡県版レッドリストとして掲載した種類数は次のとおりである。

カテゴリー	2004年 RDB	2020年 RDB	カテゴリー		2004年 RDB	2020年 RDB
絶滅(EX)	5	3	要注目種	現状不明	61	59
絶滅危惧ⅠA類(CR)	38	62		分布上注目 種等	32	27
絶滅危惧ⅠB類(EN)	161	143		部会注目種	87	108
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	202	211	合計		663	691
準絶滅危惧(NT)	55	5				
情報不足(DD)	22	20				

今回新規でリストアップしたものは 39 種類である。カテゴリーを変更したものは 42 種類であり、そのうちランクアップは 39 種類、ランクダウンは 3 種類である。

2004 年レッドリストからカテゴリーを変更したものについては、各種解説の表題部分に表記した。また、2017 年レッドリスト発表後に見直した 2 種類については、巻末にその理由を記載した。

(5) 減少の主要因と脅威

植物の生育地・生育数の減少について、その要因を特定することは大変困難だが、調査の結果、推定される主要因として最も多かったものは、247 種類で取り上げられた自然遷移であった。これはレッドリスト 692 種類のうち 36% に当たる。

上記の次に多かった主要因としては、225 種類で取り上げられた森林伐採、172 種類で取り上げられた園芸採取、91 種類で取り上げられた道路建設がある。

2004 年レッドデータブックではラン科植物で採取による影響が大きいとされたが、今回の結果ではその影響がラン科以外でも多くあげられた。また、必ずしも原因特定は難しいものの、シカによる食害の影響が 70 種類で取り上げられたほか、主要因をその他として分類した 112 種類の中には、生育環境の変化が大多数含まれている。

近年、生物多様性への影響として大きく上げられている管理放棄と帰化競合は、今回 33 種類と 7 種類であげられたに過ぎなかったが、最大の主要因とされた自然遷移にも関連する内容でもある。植物の減少をもたらす要因が開発や採取といった直接的な事象以外で深く係わってきていることが示唆される。

(6) 注目される種のカテゴリーと変更理由

2004 年に絶滅とされたウチワホラシノブは雑種とされたことからリストから除外し、シムライノデは県内唯一の生育地において再確認されたことからカテゴリーを変更した。

里地・里山にある身近な植物の中で減少傾向にある種の見直しにより、絶滅危惧 B 類からランクアップした種が 22 種と多かった。

(7) 考えられる保全対策、今後の留意点

植物に対する保全対策として最も多くあげられたことは、生育地の保護・現状維持であった。確認された個体及びその生育地では、開発に伴う改変等を避けるとともに、人の立ち入りによる踏みつけ、保護と称して行われる過度な移植も生育環境の保持を念頭に留意したい。

また、インターネットで絶滅危惧種を掲載しているホームページなどがみられるが、風景写真からも生育地が特定されるおそれがあるため、情報公開には注意が必要である。

植物を取り巻く今日の環境は、めまぐるしく変動している。今後の保全は、植物個体の保護とともに、可能な範囲で、林床や草地の管理、シカからの食害対策、外来種の駆除などの実施が望まれ、さらに気候変動をとらえた保全のあり方を考えていかなければならない。

(湯浅保雄)

文献及び標本は、植物の解説の末尾 (p.381 以降) を参照。

ハマナツメ *Paliurus ramosissimus* (Lour.) Poir.

静岡県カテゴリー 絶滅 (EX) 変更なし

クロウメモドキ科 Rhamnaceae

[2004 年版カテゴリー 絶滅 (EX) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

やや匍匐性の落葉低木。若い木には托葉の変化した刺があり、また若い枝には細毛が密生している。葉は広卵形で長さ3~6 cm、3行脈がある。花期は7~9月。花序は数花からなる。花は径約5 mmで淡緑色。花弁は萼片より短い。果実は倒円錐形の核果で白茶色の毛で覆われる。果頭の周縁に3浅裂した広い翼が発達する。種子は偏円形で紫褐色。

2. 分布

国外では韓国(済州島)、台湾、中国、インドシナに、国内では本州(東海地方、近畿地方、山陽地方)、四国、九州、琉球に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

静岡県植物誌(1984)によると、大正時代初めまで生育していたが、生育地が工場用地として開発されたために見られなくなったという。

4. 生育状況

工場などの造成で生育地が消滅したため絶滅した。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の開発(14)が絶滅の主要因である。

6. 保護対策

生育が再確認されたら、生育地を生育に最適な環境に保全すること。(湯浅保雄)



三重県 2019年9月16日 宮崎一夫



ハマサジ *Limonium tetragonum* (Thunb.) A. A. Bullock

静岡県カテゴリー 絶滅 (EX) 変更なし

イソマツ科 Plumbaginaceae

[2004 年版カテゴリー 絶滅 (EX) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

越年草。高さ30~60 cm。葉は根際に束生し、長楕円形で長さ8~17 cm、質は厚く全縁である。花期は9~10月。花茎は多く分枝して曲がりくねる。多数の小穂からなる円錐花序を作る。萼は白色、花冠は黄色で長さ7 mm。近似種はないが葉のみの時季ではマツヨイグサやコウゾリナの仲間に見える。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

入江や内浦及び河口に近い、潮の動きが緩慢な潮間帯の塩性湿地に生育する。

4. 生育状況

1980年代に清水区の記録はあるが、その後は確認されていない。記録地の周辺は一部に湿った砂地が残っているがほとんど護岸され、現在の環境では再生する可能性は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

海浜の埋め立てや造成(14)が主要因である。海岸沿いの護岸や道路の開発(24)も脅威である。

6. 保護対策

生育していた記録がある潜在的な生育地を復元保全する。(宮崎一夫)



愛知県 2019年8月13日 宮崎一夫



ミカワシオガマ *Pedicularis resupinata* L.

subsp. *oppositifolia* (Miq.) T. Yamaz. var. *microphylla* Honda

静岡県カテゴリー 絶滅 (EX) 変更なし

ハマウツボ科 Orobanchaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅 (EX) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。シオガマガクの変種で、葉は小型、披針形で長さ1~2 cm。花は8~9月に開き、紅紫色で花冠上唇の先が短くつまる。

2. 分布

日本固有変種で、本州(愛知県、岐阜県、静岡県)に分布する。県内では西部に分布し、東限自生地である。

3. 生育環境

日当たりのよい丘陵地の湧水湿地に生育する。

4. 生育状況

浜名湖周辺の記録がある。近年の生育記録がない。

5. 減少の主要因と脅威

湿地開発による生育地の消失(15)や湿地の管理放棄による生育環境の乾燥化や植生の遷移(53)で絶滅した。

6. 保護対策

再発見された場合は、生育環境の管理、保全が重要である。

(内藤宇佐彦)



愛知県 2007年10月22日 宮崎一夫



チシマヒカゲノカズラ *Lycopodium alpinum* L.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②⑤) 変更コード9 ヒカゲノカズラ科 Lycopodiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。高さは10 cm前後。匍匐性で、直立茎は斜上、3~4回又状に分岐する。腹面、背面の葉は何れも茎に圧着する。孢子嚢穂は小枝に頂生、無柄である。孢子葉は広卵形で鋭尖頭。タカネヒカゲノカズラに酷似するが、小枝がやや平ら、葉は枝に4列に並び腹葉と背葉で形がやや異なる。本種と一変種ミヤマヒカゲノカズラとの関係、異同については、なお検討が必要とのことである。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国北部、ロシア、欧州、北米に、国内では北海道、本州(中部地方以東)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯で、コケ類の生えている斜面や向陽の岩場に生育する。やや酸性の土壤に生ずると言われる。

4. 生育状況

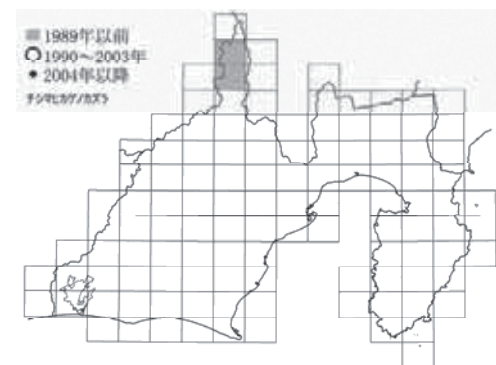
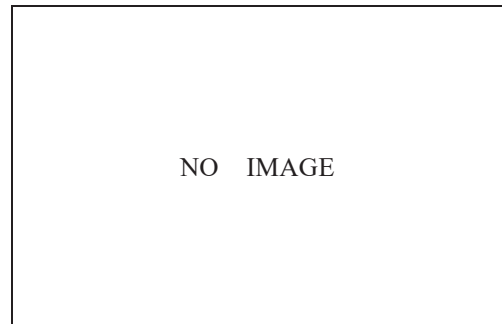
南アルプスの赤石岳や千枚岳の記録(80年ほど前)があるが、近年では全く生育が確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

植生の遷移などによる環境変化(54)、登山者による無意図的な踏みつけ(51)が脅威である。

6. 保護対策

生育地の綿密な再調査が必要。踏みつけによる影響を防ぐ対策が重要である。(細倉哲穂)



ナンカクラン *Huperzia fordii* (Baker) Dixit

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③⑤) 変更コード9 ヒカゲノカズラ科 Lycopodiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

樹木に着生する小~中型の常緑性シダ。小型のものは直立または斜上、長さ20~40 cmにもなるものは下垂する。茎は基部で又状に分岐、叢生する枝は数回又状に分岐する。葉は広披針形から長楕円形、中部が幅広で鋭頭、中肋は明瞭。孢子嚢は小枝につき、孢子嚢穂のまとまりはない。分芽繁殖もする。

2. 分布

国外では台湾、中国、ヒマラヤから東南アジアに、国内では本州(伊豆半島、紀伊半島)、四国、九州、琉球、伊豆諸島、小笠原に分布する。県内では伊豆(河津町)に分布し、分布北限。

3. 生育環境

暖地森林内、湿った岩上やコケ類のつく樹幹に着生する。

4. 生育状況

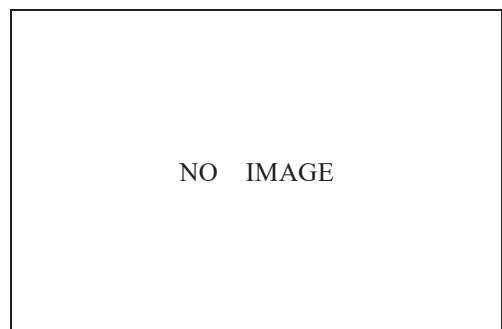
1960年代の河津町釜滝の記録のみで、近年は確認されていない。当地では絶滅しているおそれがある。

5. 減少の主要因と脅威

産地が限られ(61)、自然環境の遷移(54)と園芸採取(41)による減少絶滅が懸念される。

6. 保護対策

生育地及び類似環境の場所での再確認が必要である。生育が確認された場合には、生育環境に配慮した保護が必要となる。(細倉哲穂)



ヒモラン *Huperzia sieboldii* (Miq.) Holub

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし
[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR)]

ヒカゲノカズラ科 Lycopodiaceae

: 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

常緑性シダ。茎は細く、全形は紐状である。基部で数回繰り返り分岐、枝が叢生するように見える。枝は疎に分岐、長さ20~50 cm。葉は、鱗片状で小さく、三角状卵形から卵形を呈し、茎に圧着してつき、下部は茎と合着。孢子嚢は小枝の葉腋につき、孢子嚢穂の部分はやや太くなる。

2. 分布

国外では日本、朝鮮半島、台湾、中国に、国内では本州(神奈川県から紀伊半島)、四国、九州、隠岐に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地の、やや陰湿な場所、空中湿度の高い岩壁や樹幹に生育する。

4. 生育状況

近年は浜松市北部を除き、目撃、採集情報は少なくなった。稀に強風後落下しているものが観察される程度。全国的に見ても、九州南部以外の産地では危急種である。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)、生育地の環境変化で減少している。園芸採取(41)も脅威である。

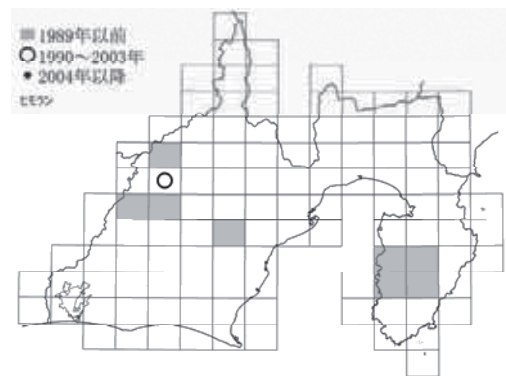
6. 保護対策

生育地の山林の樹木伐採、園芸採取の防止。

(細倉哲穂)



浜松市 2003年11月16日 宮崎一夫



ミヤマハナワラビ *Botrychium lanceolatum* (S. G. Gmel.) Angst.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし
[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR)]

ハナヤスリ科 Ophioglossaceae

1. 種の解説

小型の夏緑性シダ植物。根茎は短く、葉を1枚出す。葉は担葉体、栄養葉、孢子葉に分化する。担葉体は葉の長さの6~8割を占め、栄養葉は広卵形で2回羽状に深裂、羽片は披針形で深裂、裂片は長楕円形となる。孢子葉は栄養葉と同長くらいで円錐形、長さ1~6 cmほどで、2回羽状に分岐する。

2. 分布

国外ではロシア、中国東北部、シベリア、ヨーロッパ、カナダ、北米などに分布する。国内では、北海道、東北地方南部、中部地方などに分布する。県内では、東部(富士山)、中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の向陽の岩間、草原などに生育する。

4. 生育状況

産地、個体数ともにきわめて少ない。孢子によって繁殖するが生育適地は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

自然の遷移(54)と踏みつけ(51)による減少が懸念される。

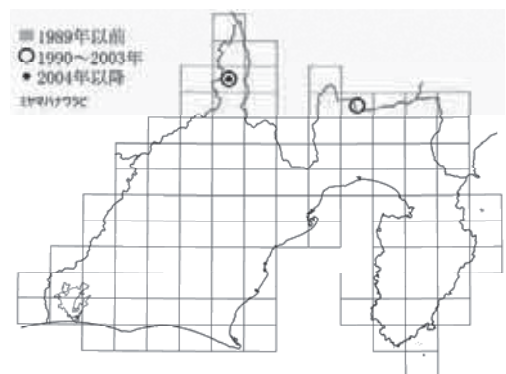
6. 保護対策

登山道などで踏みつけなど人為による減少を防ぐ必要がある。

(細倉哲穂・内藤宇彦)



静岡市 2004年8月10日 宮崎一夫



チャボハナヤスリ *Ophioglossum parvum* M. Nishida et Kurita

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

ハナヤスリ科 Ophioglossaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

小型の夏緑性シダ。高さ7 cm以下。葉を2~3枚叢生状につける。孢子嚢穂は長さ7~9 mm、葉脈に二次脈は発達しない。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県)、九州、伊豆諸島に分布する。県内では西部に分布し、静岡県が北限自生地である。基準産地は掛川市である。

3. 生育環境

日当たりのよい草地や墓地の地上に生育する。大きな集団にはならない。

4. 生育状況

掛川市に生育する。産地は限られていて個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

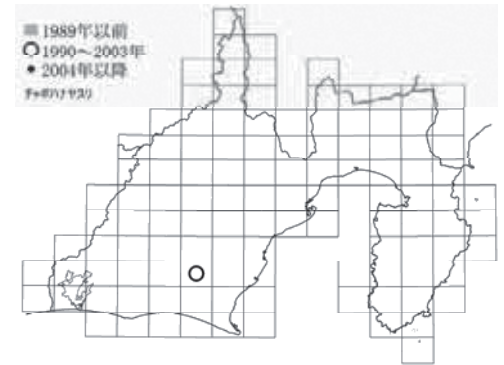
もともと希少な植物で産地は限られ(61)、生育地の破壊(16)で容易に絶滅の危険がある。小型で目立たないので踏みつけの心配がある(51)。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、その生育環境の維持管理に努める必要がある。(内藤宇佐彦)



掛川市 2002年10月11日 杉野孝雄



オニゼンマイ *Osmunda claytoniana* L.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更コード9

ゼンマイ科 Osmundaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

大型の夏緑性シダ。ヤマドリゼンマイに似るが、葉身の二形性は部分的で下方の2~5対の羽片が孢子嚢群をつける。また、孢子嚢をつけない羽片は白緑色で線状披針形、裂片は円頭で全縁である。孢子嚢をつける羽片は、つける羽片の1/3の長さ。孢子が飛んだあとは黒褐色となり、やがて枯れ落ちる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国、ヒマラヤ、ロシア東部、北アメリカなどに、国内では本州(東北地方南部、関東地方北部、中部地方)に分布する。県内では東部(御殿場市)に分布する。ここは分布南限地である。

3. 生育環境

林内の向陽の原野、湿地に生じ、群生することが多い。

4. 生育状況

県内では御殿場市印野土場のみ記録がある。近年の生育は確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

本来の分布域の南に、偶発的に生じたものと思われる(71)。遷移の進行による生育地の環境変化(54)が懸念される。

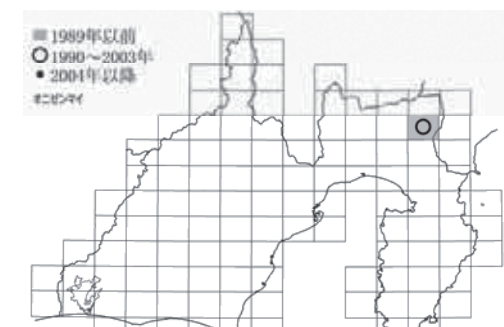
6. 保護対策

生育地の再確認が必要である。生育地の再確認がなされた場合には、生育環境に配慮した保護対策が必要である。

(細倉哲穂)



御殿場市 1994年7月24日 細倉哲穂



スジヒトツバ *Cheiropleuria integrifolia* (D. C. Eaton ex Hook.) M. Kato, Y. Yatabe, Sahashi et N. Murak.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類(CR) (要件-①②③) 変更コード9 ヤブレガサウラボシ科 Dipteridaceae
 [2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小～中型の常緑性シダ。二形葉で、栄養葉は単葉、先が二又することがある。葉面に見られる3～4脈が顕著である。孢子葉の葉身は線状披針形、長さ10～25 cm、やや厚くて主脈が1本はしるだけのことが多い。栄養葉の葉身はやや硬くて広卵形、基部は円形、先端は鋭尖頭、あるいは又状分岐、凹部の広い2裂片を作る。

2. 分布

国外では中国南部、インドシナからニューギニアまで、国内では本州（静岡県、紀伊半島）四国（南部）、九州（西・南部）、琉球、伊豆諸島に分布する。県内では西部（掛川市）に分布する。

3. 生育環境

比較的乾いた山地谷間の斜面の林下の地上、岩上から渓谷のやや湿度の高い崖地の岩上、斜面などに生ずる。

4. 生育状況

掛川市小笠山の谷間の岩壁に着生、群落を作って生育している。本県では唯一の生育地である。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採などによる環境変化(11)が脅威である。

6. 保護対策

自生地環境保全を持続させる。(細倉哲穂)



掛川市 1998年11月29日 宮崎一夫



デンジソウ *Marsilea quadrifolia* L.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類(CR) (要件-①②⑤) 変更コード9 デンジソウ科 Marsileaceae
 [2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

水生の夏緑性シダ。根茎は細く長く横走、小葉は4枚、クローバーのように4枚が田の字形に並ぶ。葉柄は10～15 cmで、根茎を伸ばして群落を作る。孢子嚢果は、葉柄の基部から少し上がったところから短い枝が出て、それに1～3個つく。

2. 分布

国外ではヨーロッパ、アメリカ、朝鮮半島、中国、ロシア、インドシナなどに、国内では北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では各地に分布する。

3. 生育環境

低地の水田、池沼、湿地などにしばしば群生する。

4. 生育状況

かつては、全県でごくふつうに知られたが、近年はほとんど確認されなくなっている。

5. 減少の主要因と脅威

水田の喪失(15)、除草剤の使用(32)、低湿地の開発(15)などが要因である。

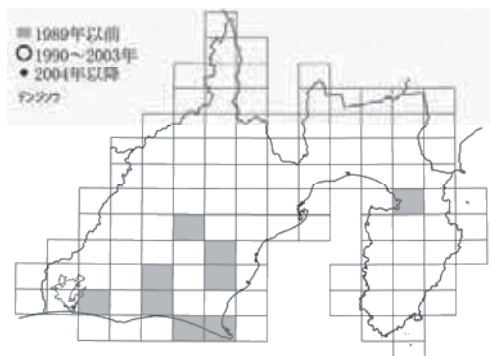
6. 保護対策

残存する本種生育地の確認が急務の課題である。生育が確認された場合には、区域を限定して、生育環境に配慮した保護を図りたい。

(細倉哲穂)



群馬県(栽培) 2013年6月29日 西口紀雄



ヤマソテツ *Plagiogyria matsumureana* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①、②) 変更コード9 キジノオシダ科 Plagiogyriaceae
[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

夏緑性シダ。葉は二形性で、栄養葉は広がってつき、葉身は大きいものでは70 cmほど、羽状に全裂、羽片の縁縁には重鋸歯がある。孢子葉は栄養葉より高く伸びる。

2. 分布

国外ではロシア東部に、国内では日本海側に多く、北海道、本州、四国、九州、屋久島に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

深山の山林、ブナ林などの林下に生じ、しばしば群生する。

4. 生育状況

浜松市の北部、旧水窪町や旧春野町などに生育する。内帯日本海側のブナ林などでは群生するが、県内では個体数は少なく、林内に点在する。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の山林伐採など(11)による、生育環境の変化による絶滅が懸念される。

6. 保護対策

山林伐採など環境の悪化による影響を防ぐ必要がある。
(細倉哲穂)



浜松市 2009年8月6日 細倉哲穂



サイゴクホングウシダ *Osmolindsaea japonica* (Baker) Lehtonen et Christenh.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A (CR) (要件①) : 変更コード1 ホングウシダ科 Alismataceae
[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。葉長4~12 cm。ホングウシダに似るが、それより小さく、側羽片は3~10対ぐらいと少ない。羽片の孢子囊群は、切れることなく連続、辺縁に沿って長く伸びる。また葉身の先端は、頂羽片がはっきりしないホングウシダと異なり、倒三角形の頂羽片を作る。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では本州(静岡県、紀伊半島)、四国、九州、沖縄、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆(河津町)に分布する。分布の北限地である。

3. 生育環境

暖地の山地、山中の溪流近くの水の当たるような岩上にコケ類とともに生ずる。

4. 生育状況

今までのところ河津町のみで生育が知られている。河川沿いに小規模な群落が知られるが、個体数はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

産地は局限され(61)、山林伐採(11)、河川改修(13)、道路拡幅(24)などが脅威である。

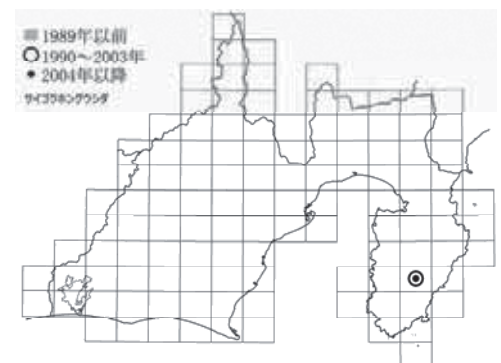
6. 保護対策

生育地山林の伐採、河川の改修、拡幅工事などによる環境変化を防ぎたい。不用意な開発による消失を防ぎたい。

(細倉哲穂)



河津町 2007年2月4日 杉野孝雄



キタダケデング *Woodsia subcordata* Turcz.

(=ヒメデング)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②⑤) 変更なし

イワデング科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

高山性の夏緑性シダ。葉は長さ 15 cm ほどに達し、根茎は直立状を呈する。一見して、同属イワデングの趣きがあるが、羽片は中～浅裂、葉柄の関節は、葉柄の半分からやや上の所にある。基部にやや密な鱗片があり、根茎、葉柄基部の鱗片は、卵状披針形から披針形を呈する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア東部に、国内では北海道、本州（中部地方南アルプスと八ヶ岳）の高山に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩の割れ目などに、きわめて稀に生ずる。

4. 生育状況

近年生育が確認されておらず、生育環境の悪化、その他なんらかの理由で、県内では絶滅している可能性があることも懸念される。

5. 減少の主要因と脅威

岩場の岩壁崩落など生育環境変化(55)、登山者の増加(51)による絶滅が危惧される。

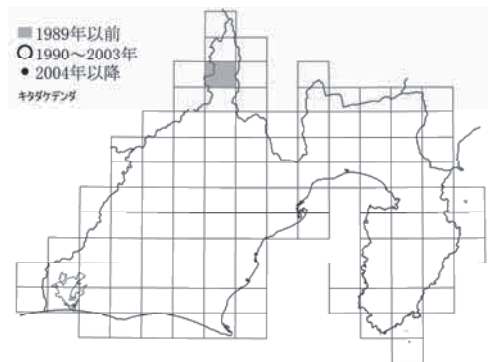
6. 保護対策

生育地の再確認が急務である。早急な保護対策、登山道の指定などの対策により、絶滅回避をする必要がある。

(細倉哲穂)



山梨県 2017年9月3日 室伏幸一



スルガイノデ *Polystichum shizuokaense* Nakaike

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②⑤) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。アスカイノデの変種説もある。葉の長さ 80cmほどまで。葉柄上部の鱗片はやや幅広く、孢子囊群は小羽片の辺縁寄りにつくのが特徴である。アスカイノデの場合、それは、小羽片の中肋と辺の中間につく。

2. 分布

日本固有種で、産地は静岡県の東部（裾野市須山など）のみである。基準産地も同地域で、和名も当地方の旧国名（駿河）に基づくものである。

3. 生育環境

山地の林内、やや陰湿な場所に多く生育する。イノデ類は人工林下を好む傾向があり、本種もその例に洩れない。

4. 生育状況

静岡県東部の裾野市（須山）や御殿場市（印野、仁杉）などに生育の確認があるが、産地は少なく局限され、個体数もきわめて少ない。

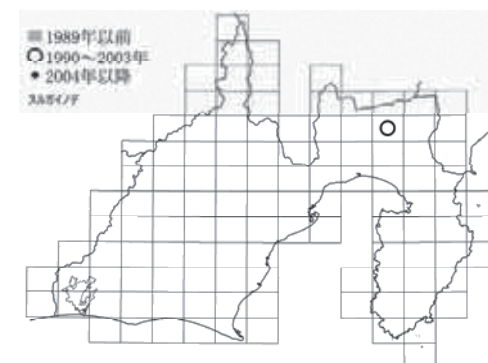
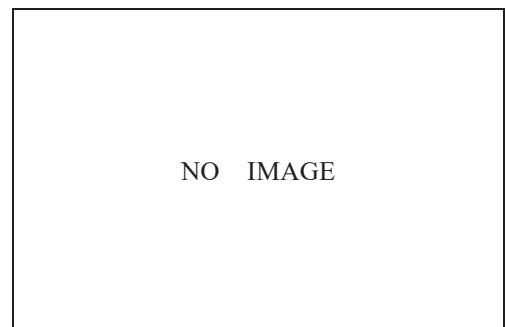
5. 減少の主要因と脅威

産地は局限され（61）、樹木の伐採などによる山林の開発、破壊（11）などが脅威である。

6. 保護対策

山林伐採による環境変化で生じる絶滅を防ぐ対策が必要である。

(細倉哲穂)



シムライノデ *Polystichum shimurae* Sa. Kurata ex Seriz.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更コード 10

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅 (EX) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

中～大型の常緑性シダ。根茎は短く、斜上し塊状。葉柄には、密に鱗片をつける。下部の鱗片は広披針形、暗赤褐色で黒褐色のものが混じる。葉面、くすんだ緑色で光沢があり、カタイノデに似る。小羽片の先端が刺状になること、孢子嚢群の包膜辺縁の著しい欠刻があることが特徴である。和名、学名は、静岡県出身の志村義雄氏に献名された。

2. 分布

国外では中国の浙江省にもこれに当たる型が記録されているという。国内では本州（関東地方、静岡県）に、県内では東部（御殿場）に分布する。

3. 生育環境

低地の山林の林床、陰湿な場所の地面上に生ずる。

4. 生育状況

全国的にも生息地が局限され、個体数もきわめて少ない。本県唯一の産地は、一時水路の造成工事で改変され、2004年版レッドデータブックでは絶滅種とされたが、その後、生育が再確認され、絶滅種ではなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

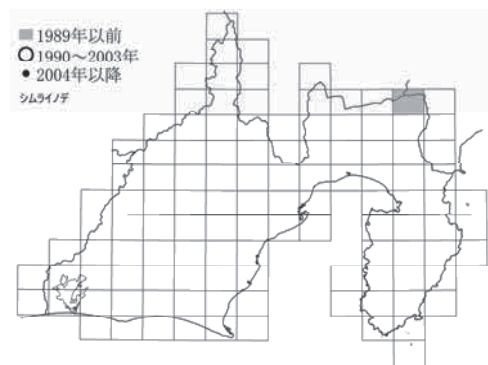
産地に限られ（61）、山林の伐採（11）、周辺水路の工事（13）などで、絶滅してしまう危険性がある。

6. 保護対策

山林伐採や土地の改変など環境の悪化による影響を防ぐ必要がある。（細倉哲穂）



御殿場市 2003年12月21日 杉野孝雄



キレハオオクボシダ *Tomophyllum sakaguchianum* (Koidz.) B. S. Paris

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②⑤) 変更なし

ウラボシ科 Polypodiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。葉を数枚叢生し、葉身は線状披針形から線形、長さは4～8 cm、羽状にほぼ全裂する。側裂片は卵状長楕円形、鈍頭から鋭頭で鈍鋸歯がある。両面に約1.5 mmの毛が疎に生える。孢子嚢群は側脈に背生、円形で裸出する。オオクボシダに若干似るが、葉身幅広く、羽片は浅～中裂、孢子嚢群は羽片中に3個前後つく。

2. 分布

日本固有種で、本州（秩父地方、山梨県、長野県、静岡県、紀伊半島）、九州（五家荘）に分布する。県内では伊豆（伊豆市）に分布する。

3. 生育環境

山地の深い森林中の樹幹や岩上に生育する。

4. 生育状況

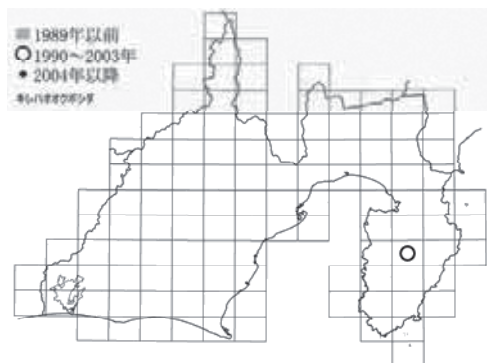
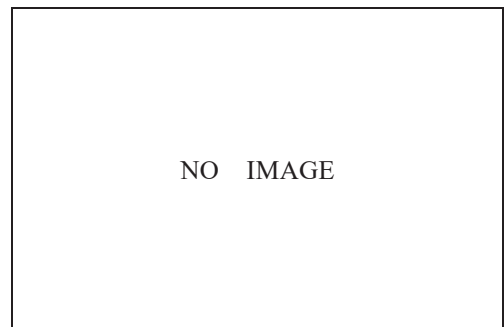
産地も局限され、個体数もごく少ない。

5. 減少の主要因と脅威

産地に限られ（61）、生育地付近の山林伐採や（11）、周辺河川溪谷の開発（13）などによる絶滅が懸念されている。

6. 保護対策

現に生育の知られている自生地の環境保全は当然のことながら、新たに産地が確認された場合には、生育環境に配慮した保護を図る必要がある。（細倉哲穂）



ヒロハヒメウラボシ *Oreogrammitis nipponica* (Tagawa et K. Iwats.) B. S. Parris

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②) 変更なし

ウラボシ科 Polypodiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧IA類 (CR)]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。根茎は短く這う。葉は線状披針形で長さ2~5 cm、葉脈は単生か1回分岐し、葉の表面に2 mmほどの赤褐色の毛がある。孢子嚢群は中肋寄りに並び、円形から長楕円形で、成熟すると隣接するものと連なることがある。

2. 分布

日本固有種で、本州（伊豆半島以西）、四国、九州、屋久島、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の川沿いの岩上や樹幹上に、コケに埋まるように生育する。

4. 生育状況

河津町と春野町の記録がある。近年は生育が確認されていない。

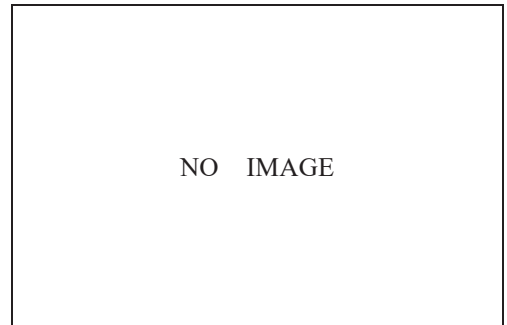
5. 減少の主要因と脅威

山林伐採（11）や河川開発（13）による、空中湿度の低下などが絶滅の原因になる。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、生育環境に配慮した保護を図りたい。

(内藤宇佐彦)



オドリコテンナンショウ *Arisaema aprile* J. Murata

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②) 変更なし

サトイモ科 Araceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ15~40 cm。偽茎はやや短い。葉は2個で、小葉5個が鳥足状につき小葉間の葉軸はほとんど発達しない。花期は4~5月。花序は葉よりやや早く開く。仏炎苞は緑色。花序付属体は棒状で淡色。偽茎の開口部が襟状に開出する。天城峠で発見されたため「伊豆の踊子」にちなんで名づけられた。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県、神奈川県）に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

温帯の落葉樹林の地上に生育する。

4. 生育状況

天城山と西天城に生育する。産地は限られていて個体数は少ない。全国的に産地の限られている植物である。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採（11）、林道工事（24）などによる生育地の消失で絶滅のおそれがある。

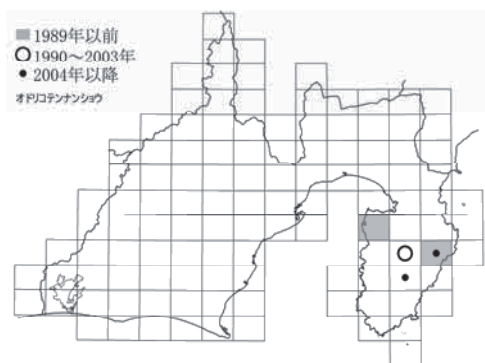
6. 保護対策

種の保存法に基づく「特定第一種国内希少野生動植物種」。伐採や工事などでは事前調査と対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



伊豆市 2011年4月29日 内藤宇佐彦



アマギテンナンショウ *Arisaema kuratae* Seriz.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-②③) 変更なし

サトイモ科 Araceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ15~30 cm。葉は1個ときに2個で、葉柄は偽茎よりはるかに長く、葉身は鳥足状に分裂する。小葉間には葉軸がやや発達する。小葉は5~7枚。花期は4~5月。花序柄は葉柄より短く、仏炎苞は紫褐色または緑色。花序付属体は太棒状で白色または淡緑色。

2. 分布

日本固有種。伊豆半島固有であり、主に天城山の東南部に分布している。

3. 生育環境

暖帯の林地に生育する。

4. 生育状況

個体数は多くはないが、前回(2004年)調査時からほとんど変化はない。シカの嗜好性植物であるが、餌になる植物減少から、食害にあっている個体も見られる。

5. 減少の主要因と脅威

園芸用採取(41)とシカによる食害(52-1)が脅威である。

6. 保護対策

種の保存法に基づく特定第一種国内希少野生動植物種。シカによる食害を防ぐこと。

(湯浅保雄)



東伊豆町 2014年5月4日 湯浅保雄



マルバオモダカ *Caldesia parnassilifolia* (Bassi. ex L.) Parl.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①) 変更コード1

オモダカ科 Alismataceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

浮葉性から抽水性、または浮葉~抽水性の一年草。成葉は水深に応じて葉柄が1 mほどまで伸びる。葉身はほぼ円形で、長さ5~15 cmほど。花期は7~9月。花茎を水上に出し、複総状花序を作り、白色の花をつける。花は両生で萼片3枚長さ3 mm、花弁3枚長さ4 mm、雄蕊は6本。

2. 分布

国外ではユーラシア大陸、アフリカ大陸、オーストラリア大陸の温帯~熱帯域に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、西部に分布する。

3. 生育環境

湖沼、ため池、水田、水路などに生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)によれば、かつては生育地や個体数は少ないが、県内各地に分布していた。しかし、2004年度版RDB調査でも、今回の調査でもその生育は確認されていない。

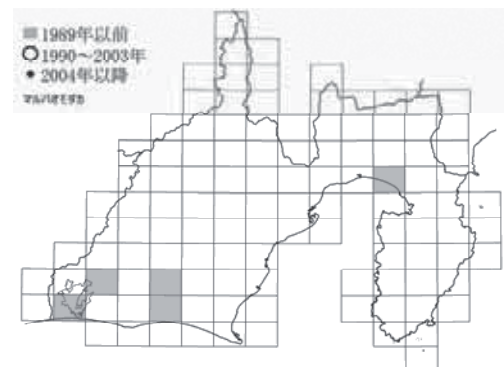
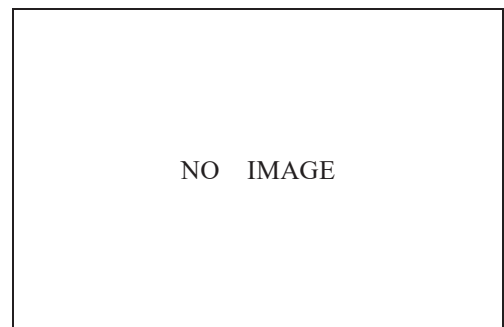
5. 減少の主要因と脅威

池沼、湿地の開発(12、15)と植生遷移(54)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、生育に適した環境の造成と保全を行う。

(湯浅保雄)



シバナ *Triglochin asiatica* (Kitag.) A. et D. Löve

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更コード 6, 18

シバナ科 Juncaginaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ10~40 cm。葉は夏緑性で根生し線形で長さ10~40 cm、肉質で厚く断面は三日月形。花期は6~8月。花茎は直立して花は淡緑色で花茎の上部に総状花序を作る。花柄は長さ1.5 mm。花被片は6個。心皮は6個。

2. 分布

国外では北半球の温帯に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部、中部に分布する。

3. 生育環境

河口や入り江の潮間帯で、潮の干満が穏やかな塩性湿地に生育する。

4. 生育状況

浜名湖など過去の記録地は周辺が護岸されている。狭い範囲で塩性湿地が残っているが、水質は汚染されていて再生できる環境ではない。

5. 減少の主要因と脅威

河口や湾内の護岸や埋め立てなどの海岸の開発行為 (14) が主要因である。水質汚染 (31) も脅威である。

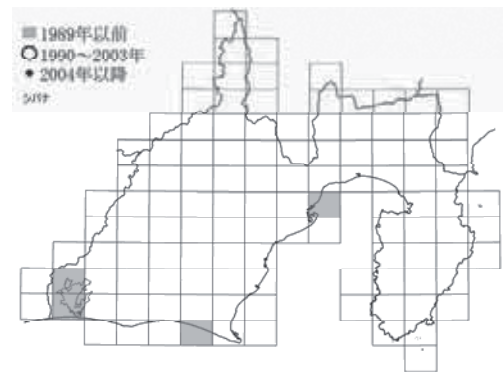
6. 保護対策

生育していた記録がある潜在的な生育地を保全する。今後とも注意して探索する必要がある。

(宮崎一夫)



浜松市(植栽) 2001年10月8日 宮崎一夫



タヌキノショクダイ *Thismia abei* (Akasawa) Hatus.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

タヌキノショクダイ科 Thismiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。根茎は糸状、長く這って分枝し、節から花茎が立つ。花茎は長さ1~4 mm。葉は少数で鱗片状。花期は6~7月。花は花茎の頂に1個つく。花被は白色。外花被片3個、内花被片3個。内花被片は長く伸長し先で合着して、花冠の上部に3個の窓を持つ空洞を作り、独特な形態を作っている。雄蕊は6個。花柱は1個。

2. 分布

日本固有種で、本州 (静岡県)、四国、九州、伊豆諸島 (神津島) に分布する。県内では伊豆、西部に分布する。

3. 生育環境

照葉樹林下の落葉の下に生える。

4. 生育状況

県内では伊東市、旧引佐町で確認された。県内の照葉樹林内には広く分布するものと思われる。

5. 減少の主要因と脅威

特別に探さねば見つけることのできない植物なので、その増減は簡単には判断できないが、照葉樹林の伐採 (11) は生育環境を破壊するものと推察される。

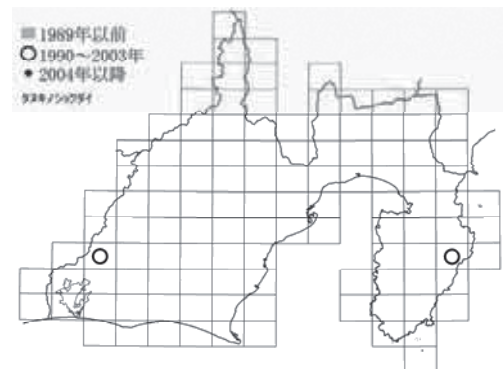
6. 保護対策

生育地が見つかったら、踏みつけを防ぐために立ち入りを制限すべきである。

(湯浅保雄)



伊東市 1995年7月9日 加藤 徹



ヒロハノアマナ *Amana erythronioides* (Baker) D. Y. Tan et D. Y. Hong

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②③) 変更コード 7, 18

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~20 cm。地中深くに卵形の鱗茎がある。葉は 2 個あり広線形で長さ 15~20 cm、幅 7~15 mm、上面の中央に沿って広い白条がある。花期は 3~4 月。苞葉は線状披針形でふつうは 3 個つく。長い茎の先に 1 花をつける。花は晴天時に開く。花被片 6 個は長楕円形で長さ 18~24 mm、基部が緑黄色でわずかに淡赤褐色の筋がはいり白色。近似種のアマナは苞が 2 個で葉の幅が 5~10 mm で白条がない。

2. 分布

日本固有種で、本州（関東地方から近畿地方）、四国に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵や低山の落葉樹林下に生育する。

4. 生育状況

産地は局限していて、株数もきわめて少ない。開花するごとに採取され、なおかつタケが侵入してきて生育の圧力となり絶滅のおそれがある。近年は株数が激減している。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取 (41) が主要因である。植生遷移 (54) も脅威である。

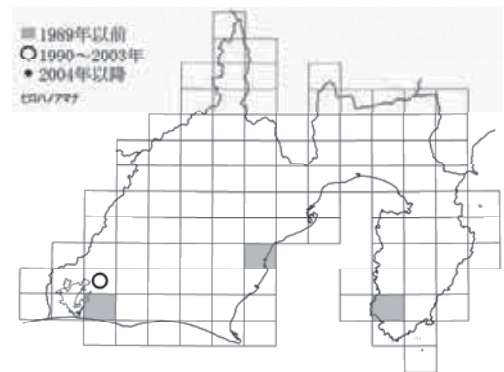
6. 保護対策

行政による生育地の保護管理が望まれる。情報の公開には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2005年3月26日 宮崎一夫



ジンリョウユリ *Lilium abeanum* Honda

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②③⑤) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。茎は細く径 3 mm 程度で高さ 20~60 cm。葉は披針形で長さ 5~12 cm、幅 0.6~1.4 cm、まばらに互生する。葉縁は白く隈取ることが多い。花期は 5~6 月。茎頂に長さ 6~8 cm の花を 1~3 個つける。花はロート状で淡桃~淡紅色、または濃紅色で、花被片の基部の色が濃くなっている。類似のササユリの花は長さ 10~15 cm と大きい。県内のものは、花が白色でカワネユリと称されている。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県）、四国に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

山地の林縁。基準産地の徳島県神領では蛇紋岩地に生育している。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、旧川根町の記録があるが、前回 2004 年調査でも、今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

植生の遷移 (54) と園芸採取 (41) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、生育環境に配慮した保護を行いたい。

(湯浅保雄)



© PIXTA



スルガジョウロウホトトギス *Tricyrtis ishiiana* (Kitag. et T. Koyama) Ohwi et Okuyama var. *surugensis* T. Yamaz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。サガミジョウロウホトトギスの変種になっており、地下茎を伸ばして繁殖する性質が顕著である。花期は8～9月。茎頂に1～3個の黄色い花をつける。茎、葉ともに無毛である。静岡県、山梨県、長野県の3県にわたり、キイジョウロウホトトギスによく似たタイプのもが見られる。

2. 分布

日本固有変種で、本州（静岡県、山梨県）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

沢筋の空中湿度の高い岩壁に生育する。場所によっては一枚岩の表面についたコケの中に生育する。

4. 生育状況

人目に触れない場所のものは、おおむね生育は旺盛であるが、天候の影響をかなり受けている。

5. 減少の主要因と脅威

マニアによる採取、業者の盗掘による被害が多く、山採りにより壊滅的な被害が発生する (41)。

6. 保護対策

種の保存法に基づく特定第一種国内希少野生動植物種。警察官の常駐など、徹底した取り締まりの必要な時期にきている。(西口紀雄)



富士宮市 2010年9月21日 西口紀雄



イワチドリ *Amitostigma keiskei* (Maxim. ex Franch. et Sav.) Schltr.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更コード6

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ7～13 cm。塊根は紡錘形。葉は1枚あり長楕円形で長さ3～7 cm、基部は茎を抱く。花期は5月。花は淡紅紫色で数個つける。3萼片と側花弁が兜状になる。唇弁は長さ1 cm前後で3深裂して、中裂片はさらに2浅裂する。距は長さ1.5～2.5 mm。近似種のヒナランは唇弁の中裂片が2裂しない。

2. 分布

日本固有種で、本州（中部地方、近畿地方）、四国、伊豆諸島に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の河岸で岩壁のやや日陰の湿った草地に生育する。

4. 生育状況

生育に適した環境は残っているが、株数がきわめて少なくなった。採取が困難な位置にのみ生育している危機的な状況である。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取 (41) が主要因である。河岸の改修 (13) も脅威である。

6. 保護対策

自生地の行政的な保護管理が必要である。産地情報の公開は慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



浜松市 1999年5月29日 宮崎一夫



ミスズラン *Androcorys pusillus* (Ohwi et Fukuy.) Masam.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②⑤) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。花茎の高さは8~15 cm。葉は1個で倒披針状楕円形、長さ2~3 cm、幅0.7~1 cm、基部は細くなって葉柄状になる。花期は6~7月。淡緑色の花を数個まばらにつける。背萼片と側花弁は兜状になる。唇弁は三角状舌形。側萼片は長楕円形。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾に、国内では本州（東北地方から中部地方）に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の針葉樹林の林床。

4. 生育状況

1976年に富士山で、2006年に南アルプスで確認されているが、その後の確認記録はない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採 (11) や林道開設 (24) による生育環境の消失が減少の主要因である。

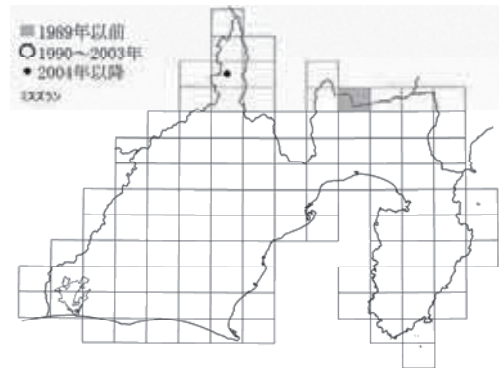
6. 保護対策

冷温帯での森林伐採や道路建設は極力行わないこと。

(湯浅保雄)



静岡市 2006年7月22日 加藤 徹



キノエビネ *Calanthe alpina* Hook. f. ex Lindl.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~30 cm。球茎は数珠状に連なる。葉は倒卵状狭長楕円形でやや波打ち、長さ15~30 cm。花期は6~7月。花茎の上部に花を数個つけやや下向きに開き淡紫紅色。唇弁は赤色の小斑点があり、3裂しないで巻いて半円形で先の縁は櫛状に細裂する。距は長さ20~25 mm、後方にまっすぐ伸びる。近似種のキンセイランは唇弁が3裂する。

2. 分布

国外では台湾、中国に、国内では本州（東北地方から中部地方）、四国に分布する。県内では伊豆を除く各地に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯で深山の沢沿いなどの、苔むす地上や倒木上に生育する。

4. 生育状況

今回の調査では1ヶ所で確認されたのみである。記録地は多くあるが産量が少ない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取 (41) が主要因である。森林伐採 (11) も脅威である。

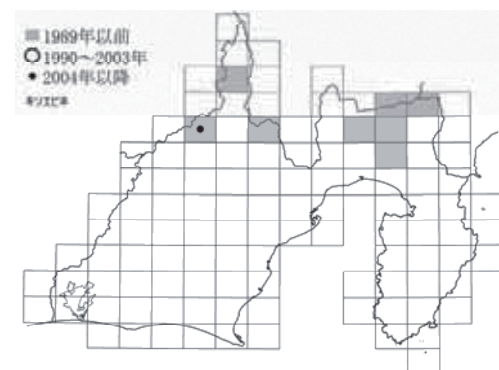
6. 保護対策

生育の記録がある潜在的な自生地を保全する。今後も継続して探索する必要がある。

(宮崎一夫)



浜松市 2005年7月8日 加藤 徹



キンセイラン *Calanthe nipponica* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②③) 変更コード 6

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~50 cm。球茎は球形で数珠状に連なる。葉は 3~5 個つき広披針形で長さ 15~30 cm。花期は 6~7 月。花茎の上部に短毛があり、黄色の花を 5~12 個まばらにつける。苞は披針形で長さ 1~2 cm。萼片は広披針形で長さ 1.5~2 cm。側花弁は狭披針形。唇弁は基部より急に広がって、3 裂して中裂片に 3 条の襞がある。近似種のキエビネは花が大きく密につける。

2. 分布

国外ではチベットに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中部 (南アルプス) と西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯山地のモミ、ツガ類の常緑針葉樹林下で腐植土が堆積した砂礫地に生育する。

4. 生育状況

産地も株も点在する。産地も産量も減少した。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取 (41) が主要因である。森林伐採 (11) や植生遷移 (54) も脅威である。

6. 保護対策

生育地の保全と園芸採取を防ぐために、産地情報の公開は慎重な配慮が必要である。
(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 1993年6月27日 宮崎一夫



キエビネ *Calanthe striata* R. Br.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②③) 変更コード 6, 18

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~60 cm。葉は広楕円形で長さ 30~60 cm、幅 5~15 cm、やや光沢がある。花期は 4~5 月。花茎は直立し、6~15 個の花をつける。花は純黄色でエビネより大きい。萼は長さ 25~35 mm。側花弁は長さ 20~30 mm。唇弁は長さ 20~25 mm、3 中裂して中裂片に 3~5 の襞状の隆起がある。距は長さ 5 mm。

2. 分布

国外では台湾、韓国、中国に、国内では本州 (中部以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

暖温帯の常緑広葉樹林やスギ林などの林床に生育する。

4. 生育状況

近年の確認はなく、生育状況は不明である。1900 年代後半に引佐町の記録がある。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取 (41) が最たる要因である。森林伐採 (11) も脅威である。

6. 保護対策

自生産地が確認された場合は園芸採取が危惧されるので、情報の公開は慎重な配慮が必要である。
(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
岐阜県(植栽) 2018年4月30日 宮崎一夫



サルメンエビネ *Calanthe tricarinata* Lindl.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~50 cm。球茎は球状。葉は倒卵状狭長楕円形で長さ 15~25 cm。花期は 5 月。花茎の上半部の総状花序に 7~15 個の花をつける。3 枚の萼片と側花弁は黄緑色。唇弁は紫紅褐色で、3 裂して中裂片に 3 条のとさか状の突起があり、先端はへこむ。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国、ヒマラヤに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

ブナ帯山地の落葉樹林下やスギ、ヒノキ植林に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、伊豆、東部、中部の記録があるが、その後の確認情報はない。スギ、ヒノキ林の林床に残存しているようである。開花前に採集されるために、自生地で開花株を見ることが困難な状況である。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取 (41) が主要因である。森林伐採 (11) も脅威である。

6. 保護対策

生育の記録がある潜在的な生育地を保全する。情報の公開は慎重に行い、生育地の保護を図りたい。(宮崎一夫)



新潟県 2016年5月21日 宮崎一夫



ホテイラン *Calypso bulbosa* (L.) Oakes var. *speciosa* (Schltr.) Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 6~15 cm。球茎は狭卵形。葉は地表に接して 1 個あり、卵状楕円形で長さ 3~6 cm、顕著な縦皺があり、裏面は紫色。花期は 5 月。花茎の頂に花を 1 個つけて紫紅色。唇弁は袋状で下垂して、長さ 2.5~3.5 cm。距は 2 叉に分かれて基部から突き出る。

2. 分布

国外では欧州、シベリア、カナダ、北米に、国内では本州 (関東地方、中部地方) に分布する。県内では西部、中部 (南アルプス)、東部に分布する。

3. 生育環境

温帯上部から亜高山帯で針葉樹林下の斜面や谷間に生育する。

4. 生育状況

産地は少なく、株数が激減しており、生育は危機的な状況である。

5. 減少の主要因と脅威

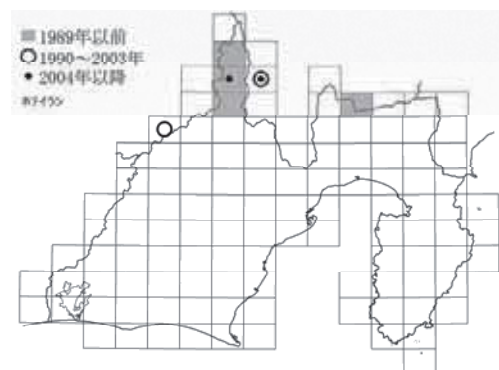
園芸目的の採取 (41) が主要因である。植生遷移 (54) も脅威である。

6. 保護対策

静岡県指定希少野生動植物。産地情報の公開は慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



静岡市 2017年5月19日 宮崎一夫



クゲヌマラン *Cephalanthera longifolia* (L.) Fritsch

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③⑤) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II (VU)]

1. 種の解説

多年草。茎の高さ10~60 cm。稜は目立たない。葉は4~14個で狭長楕円形。長さ8~18 cm。幅2~4 cm、基部は茎を抱く。花期は5~6月。白色の花を10~20個つける。ギンランやササバギンランに似るが、花の距が短いことや、開花時の植物体のざらつきや葉の皺が少なく、葉脈が目立たないことなどで区別できるという。

2. 分布

国外ではユーラシア大陸からアフリカ北部に国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部(富士市の沿岸部)に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の落葉広葉樹林や沿岸部のクロマツ林の林床。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に富士市の田子の浦に記録があるが、その後、長らく見つかっていなかった。ところが、2013年に、富士市で大量に発生したのが見つかった。近年、造成地や都市公園などで急速に分布を広げているという。

5. 減少の主要因と脅威

海岸クロマツ林の林床植生の変化(54)が考えられる。

6. 保護対策

落ち葉掻きや除草による海岸クロマツ林の林床管理。

(湯浅保雄)



香川県 2010年5月9日 西口紀雄



カンラン *Cymbidium kanran* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

常緑多年草。高さ25~60 cm。葉は束生して細く幅6~17 mm、中央脈だけがあり鋭尖頭、縁は鋸歯がなくざらつかない。花期は11~1月。萼片は大きく開き長さ3~4 cm。花茎の上部に花を3~15個つけ、径3~5 cmで芳香がある。花色は淡黄緑色、帯紅紫色など変化がある。唇弁は紅紫斑があり外曲する。近似種のシュンランは花が1個で葉の縁に微細な鋸歯があり3葉脈がある。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州(東海地方以西)、四国、九州、琉球列島に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵から山地の斜面中部から上部の常緑樹林下に生育する。

4. 生育状況

2000年以降では確認がなく、野生では絶滅した可能性がある。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)が最たる要因である。植林の皆伐(11)も脅威である。

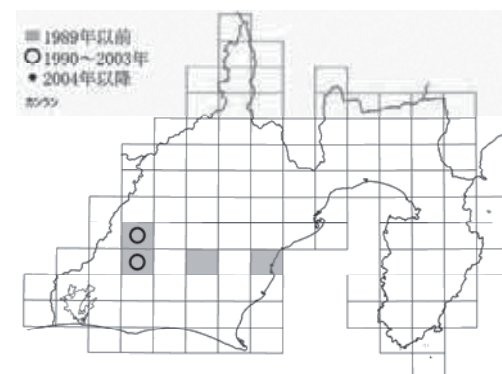
6. 保護対策

生育地の保全と園芸採取を防ぐために、産地情報の公開は重要な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



©フォトライブラリ



キバナアツモリソウ *Cypripedium yatabeanum* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ10~30 cm。葉は互生であるが、接近して2枚に向かい合っつき、長さ10~15 cm、幅4~10 cm。茎や子房とともに腺毛がはえる。花期は6~7月、細長い花茎の先に、横向きに1個の花をつける。花は径3 cm。袋状の唇弁は広く開口し、側花弁とともに茶褐色の斑点がある。

2. 分布

国外ではカムチャツカ半島、アリューシャン列島からアラスカに、国内では北海道、本州（東北地方南部~中部地方）に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯から冷温帯の落葉樹林内と草原に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に富士山と南アルプスの記録はあるが、前回(2004年)調査でも、今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

草原の減少(16)と園芸採取(41)が減少の主要因であり、シカによる食害(52-1)も脅威である。

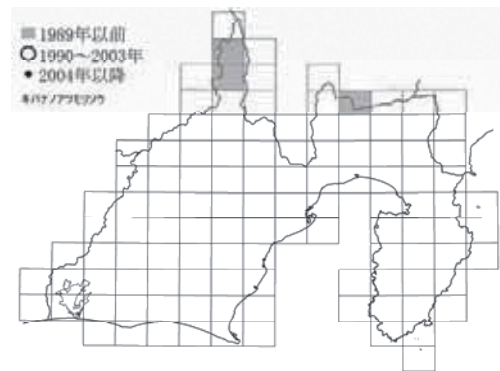
6. 保護対策

「静岡県指定希少野生動植物」に指定されている。生育地の確認が必要である。

(湯浅保雄)



©2020 K. Miyazaki
山梨県 1994年7月17日 宮崎一夫



ホテアツモリソウ *Cypripedium macranthos* Sw. var. *macranthos*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~50 cm。葉は長さ10 cm、幅6 cmほどで茎を抱く。花期は5~7月。茎の先端に1個の花をつける。背萼片は広卵形で長さ5~7 cm。唇弁は長さ約4 cm、幅約3.5 cm、正面から見ると横長の袋状である。

2. 分布

国外ではロシア沿海州、中国東北部に、国内では北海道、本州（中部）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

亜高山~高山帯下部の草原や林内に生育する。

4. 生育状況

南アルプスに局所的にかなり生育していたが、前回(2004年)調査時も今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)とシカによる食害(52-1)が減少の主要因である。

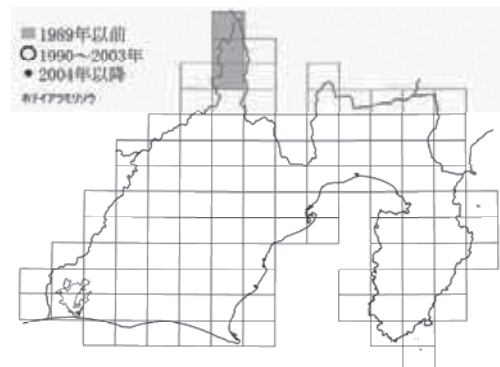
6. 保護対策

種の保存法に基づく「特定第一種国内希少野生動植物種」及び「静岡県指定希少野生動植物」に指定されている。シカによる食害を防ぐこと。

(湯浅保雄)



©2020 J. Otomo
静岡県 1981年7月18日 大友二郎



アツモリソウ *Cypripedium macranthos* Sw. var. *speciosum* (Rolfe) Koidz.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②⑤) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~40 cm。葉は互生し、長さ 8~20 cm、幅 5~8 cm の長楕円形。茎とともに有毛。花期は 5~7 月。茎頂に径 3~5 cm の淡紅~紅紫色の花を 1 個つける。背萼片は卵形で長さ 4~5 cm、側萼片は合着し、背萼片より少し短い。側花弁 2 個は卵状披針形。唇弁は大きな袋状で、内部に長毛を散生する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、アジア北東部からヨーロッパ東部に、国内では南千島、北海道、本州（近畿地方以北）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

亜寒帯から冷温帯の草原や疎林内。

4. 生育状況

過去には富士山とその周辺に多く生育していたが、前回（2004年）調査でも今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

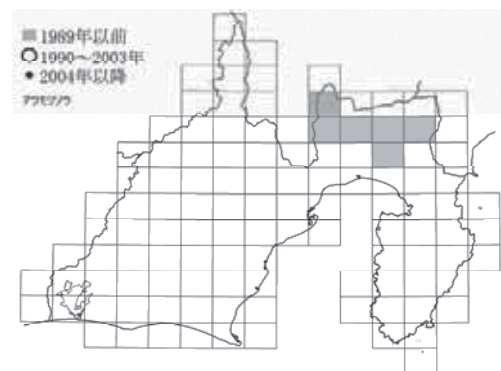
園芸採取（41）と草原の消失（16）が減少の主要因である。

6. 保護対策

種の保存法による「特定第一種国内希少野生動植物種」、
「静岡県指定希少野生動植物」に指定されている。生育地が確認されたら、生育環境の保全を行うこと。また、園芸採取を防ぐために産地情報の公開は慎重に行うこと。（湯浅保雄）



山梨県 2008年6月16日 宮崎一夫



サワラン *Eleorchis japonica* (A. Gray) F. Maek.

(=アサヒラン)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更コード 2, 3, 6

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~30 cm。基部に卵状の偽球茎がある。葉は 1 個、広線形で直立し、長さ 5~13 cm、幅 2~5 cm。縦の脈が目立つ。花期は 7 月。茎頂にふつう 1 個の紅紫色の花をつける。花は斜め横を向いて咲く。花被片は唇弁以外ほぼ同形で平開しない。長さ 2~2.5 cm。

2. 分布

日本固有種で、南千島、北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよいミズゴケの生える湿地。

4. 生育状況

数年前に伊豆半島から最後の 1 個体が消えた。その後、県内での生育確認はない。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発（15）と園芸用採取（41）が減少の主要因である。

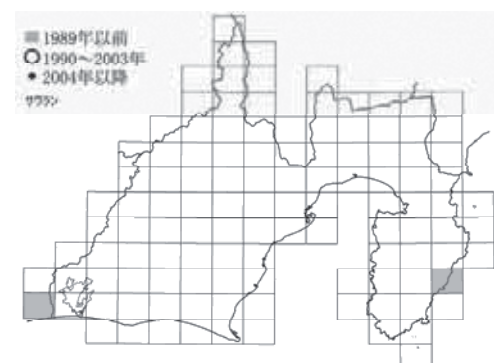
6. 保護対策

生育が確認された場合は、最適な生育環境を造成、保全し、さらに園芸用採取を防ぐこと。

(湯浅保雄)



愛知県 1994年6月26日 宮崎一夫



ムカゴトンボ *Peristylus flagellifer* (Makino) Ohwi ex K. Y. Lang

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②⑤) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~50 cm。葉は茎の下方に 3~5 枚つけ、長さ 4~10 cm、幅 1~2.5 cm の披針形。花期は 9~10 月。径 5~6 mm の淡黄緑色の花を多くつける。唇弁は長さ約 4 mm、基部近くで 3 裂し中裂片は舌状。距は紡錘状、長さ 3~4 mm で先端は切形か 2 浅裂する。

2. 分布

国外では東アジア、インドシナ、東ヒマラヤに、国内では本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球（徳之島以北）に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から亜熱帯の日当たりのよい湿った草地や法面。

4. 生育状況

旧浜北市に記録があるが、前回（2004 年）調査や今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発（15）や植生遷移（54）による生育環境の消失が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、最適な生育環境を維持すること。
(湯浅保雄)



©2020 photolibrary
©フォトライブラリ



クモイジガバチ *Liparis truncata* F. Maek. ex T. Hashim.

(=ウメガシマジガバチソウ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③⑤) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ 5~8 cm。花期は 6~7 月。茎頂に 4~10 個の紅紫色から紅褐色の花をつける。唇弁は横に広がり先端が下に巻き込み、紅紫色の脈がある。唇弁基部の肉状突起はほぼ三角形をしている。

2. 分布

日本固有種で、本州（関東、中部）に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の落葉樹の樹幹に着生する。

4. 生育状況

過去に 2ヶ所で確認されているが、前回（2004 年）調査でも今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採（11）や枯死（54）などによる、着生できる大径木の減少が減少の主要因であるが、園芸採取（41）の影響も指摘されている。

6. 保護対策

産地が確認された場合は、園芸採取を防ぐため、情報の公開は慎重に行うべきである。

(湯浅保雄)



©2020 T.Sugino
浜松市 1977年5月14日 杉野孝雄



ムカゴサイシン *Nervilia nipponica* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ7~10 cm。地下に径7 mm 位の球茎がある。葉は花期になく、秋に五角状円心形で長さ3~5 cmの葉を出す。花期は5~6月。花茎は膜質の鞘状葉を2~3個つけ、頂に1花をつける。花は紫褐色で横向きに斜開して距はない。萼片と側花弁及び唇弁はほぼ同長で長さ1 cm。唇弁は白色でくびれるように3浅裂し、中裂片は倒卵形で紅紫色の斑点と乳頭状の毛束がある。近似種のムカゴサイシンモドキは九州以南に分布し、唇弁に乳頭状の毛束がない。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖地の海に近い丘陵地の常緑樹林下で、湿り気のある腐植地に生育する。生育に適した環境は多くある。

4. 生育状況

産地、産量は少ない。近年は新産地が確認されている。矮小のためまだ確認されていない産地があると思慮される。

5. 減少の主要因と脅威

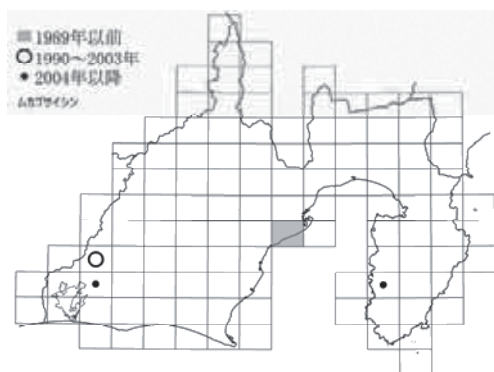
森林伐採(11)と土地造成(23)が主要因である。植生遷移(54)も脅威である。

6. 保護対策

分布調査は、花期だけでなく葉が出現している時季にも行うことが重要である。(宮崎一夫)



浜松市北区 2008年5月24日 宮崎一夫



ガンゼキラン *Phaius flavus* (Blume) Lindl.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~60 cm。偽球茎は卵状狭円錐形で稜がある。葉は常緑で3~5枚あり、広倒披針形で長さ20~40 cm。花期は6月。花茎は側生し、花は黄色。萼片と側花弁はやや厚く狭長楕円形で長さ3~3.5 cm。唇弁は楔状倒卵形で先端の縁に襞がある。距は披針形で長さ7~8 mm、後方に突出する。遠目ではキエビネに見える。

2. 分布

国外では東南アジアからインドに、国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は北限自生地である。

3. 生育環境

常緑樹林下で湿り気のある岩場に生育する。

4. 生育状況

10株以下の株数である。1964年に県内の分布が確認された。2000年以降は生育が不明である。

5. 減少の主要因と脅威

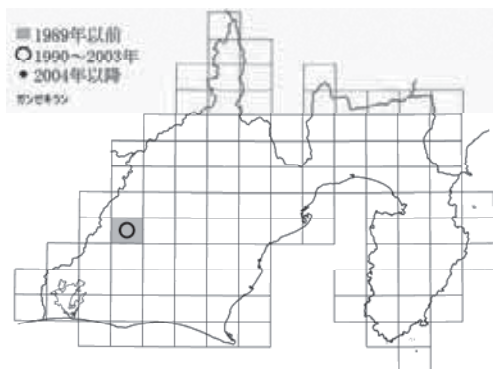
園芸目的による採取(41)が最たる脅威である。

6. 保護対策

再確認された場合は行政による生育地の保護管理が望まれる。産地情報の公開は慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



浜松市 1995年6月19日 宮崎一夫



ナゴラン *Sedirea japonica* (Lindenb. et Rchb. f.) Garay et H. R. Sweet

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

樹木に着生する多年草。高さ3~5 cm。葉は肉質の狭長楕円形で長さ8~15 cm、2~6葉が2列につく。花期は6~8月。花茎は側生して長さ5~15 cm、3~10個の花を総状につける。花は淡緑白色で径2~3 cm、微香がある。萼片は長楕円形、唇弁は萼片と同長で紅紫色の斑点があり3裂し、側裂片は小さく、中裂片は倒卵形で、縁は波状の細かい欠刻がある。近似種のマツランは葉が2列生し長さ1~2 cm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州(静岡県以西)、四国、九州、伊豆諸島、琉球に、県内では中部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から亜熱帯の常緑広葉樹林内の樹幹に着生する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に中部の記録がある。産地は局所的で産量はきわめて少ない。前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認されていない。近年の生育状況は不明である。

5. 減少の主要因と脅威

産地に限られる(61)。園芸採取(41)が主要因で、森林伐採(11)も脅威である。

6. 保護対策

きわめて個体数が少ない種であるから、生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



奈良県 2005年6月17日 宮崎一夫



エゾイトイ *Juncus potaninii* Buchenau

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

イグサ科 Juncaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。植物体は軟弱で崖から垂れ下がる。茎は高さ5~15 cm、茎葉はふつう1個、糸状、茎の基部の葉は1~2個ある。白色小型の葉耳がある。花期は7~9月。頭花は1~2個つき、1~2花からなる。イトイに似るが、花被片は幅広く狭披針形、花糸は花被片よりやや短い。雄蕊は花被片より長く、種子は長さ約1 mm。日本産種はイトイの小型のものとの考えがあり、今後の研究が必要とされている。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州中部に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯のやや湿った岩上に生育する。

4. 生育状況

南アルプスの塩見岳などに記録がある。産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

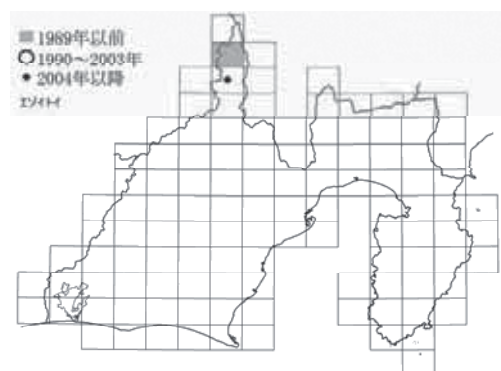
生育環境の変化による植生の遷移(54)、生育地の局所化(61)があげられる。

6. 保護対策

生育地が確認された場合には、生育環境に変動を与えないような対策が必要である。(齊藤 猛)



静岡市 2019年8月11日 加藤 徹



カラフトイワスゲ *Carex rupestris* Bellardi ex All.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。根茎は横に這う。茎は硬く、直立し、高さ10~15 cm。稜は鋭く、上方がざらつく。葉は幅1.5~3 mm、小穂は1個、長さ1~2 cm、幅2~3 mm、披針形で、上方に雄花部をつけ直立し、暗赤褐色を帯びる。果期は7~8月。果胞は倒卵形で、長さ3~4 mm、嘴は短く、柱頭は3岐。

2. 分布

国外ではサハリン、朝鮮半島北部からヨーロッパ及び北アメリカに、国内では北海道、本州中部に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩の隙間、岩礫地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈に記録がある。近年生育が確認されていない。

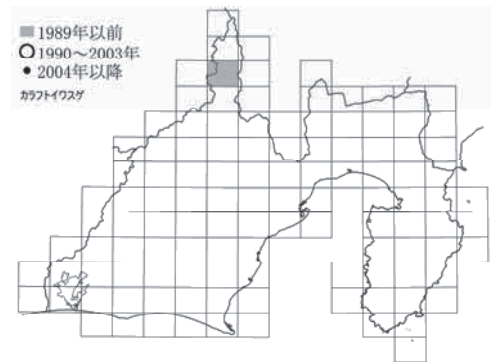
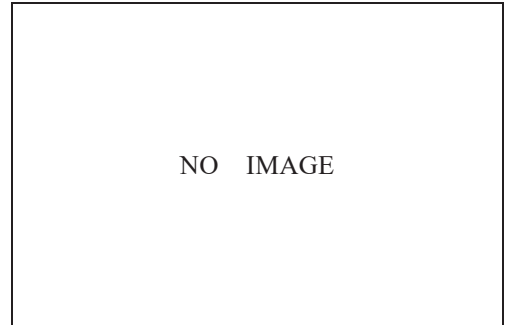
5. 減少の主要因と脅威

生育環境の変化による植生の遷移(54)、登山者の踏みつけ(51)、生育地の局所化(61)があげられる。

6. 保護対策

生育地が確認された場合には、生育環境に変動を与えないような対策が必要である。

(斉藤 猛)



イッスンテンツキ *Fimbristylis kadzusana* Ohwi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR)]

1. 種の解説

一年草。高さ5~15 cm。葉はやや短く、幅は1 mmほど。花序は1~3個の小穂をつけ、小穂は長楕円形で光沢がなく、褐色で長さ5~8 mm。鱗片は薄膜質で凹頭。縁に少し毛がある。果期は9~10月。果実はレンズ状広倒卵形で長さ約1 mm。黒褐色。柱頭は2岐。

2. 分布

日本固有種で、本州(千葉県、東海地方)に分布する。県内では西部に分布し、浜松市三方原と湖西市梅田に記録がある。

3. 生育環境

海岸近くの低地の湿地。

4. 生育状況

過去には記録はあるが、前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

湿地開発、土地造成による生育地の消失(15、23)が減少の主要因である。

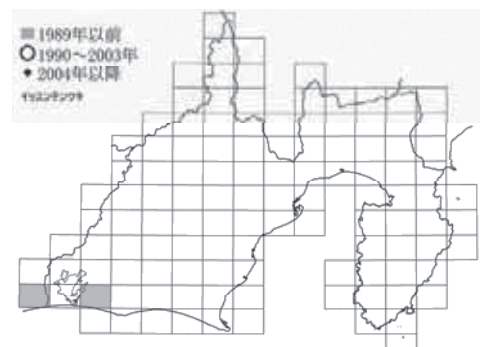
6. 保護対策

生育地が確認された場合は、その湿地を保全すること。

(湯浅保雄)



愛知県 1976年9月5日 内藤宇佐彦



ヤリテンツキ *Fimbristylis ovata* (Burm. f.) Kern

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更コード1

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~40 cm。根茎は短縮して葉と茎を叢生する。茎は細い針金状、葉は線形で幅 0.5~1 mm、茎より短い。小穂は茎の先端にふつう 1 個つける。やや扁平で長さ 8~15 mm、幅 4~6 mm。鱗片はふつう左右 2 列に並び、淡いわら色で竜骨がある。果実は秋に熟し、淡白色で広卵形。長さ 2.5~3 mm。類似のヤマイでは、小穂の鱗片はらせん状につく。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、台湾、インド、インドネシア、アフリカ、オーストラリアに、国内では本州（千葉県、神奈川県、静岡県、和歌山県）、九州、琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

海に近いところや海岸の芝地。

4. 生育状況

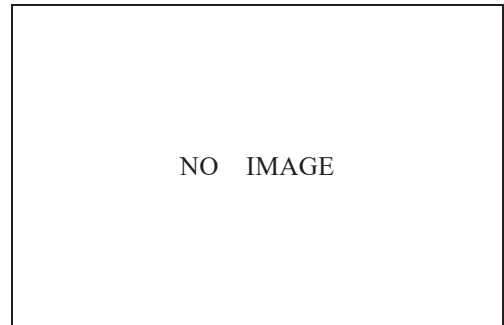
静岡県植物誌 (1984) には下田市の白浜海岸の記録が載っているが、その後の確認の情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の開発整備 (14) と植生遷移 (54) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、生育環境に配慮した保護対策が必要である。
(湯浅保雄)



ヤマオオウシノケグサ *Festuca hondoensis* (Ohwi) Ohwi

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~50 cm。オオウシノケグサに似ており、葉は線形で、幅 1~2 mm で束生する。花期は 7~8 月、護穎はすみれ色を帯び、芒がない。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州（至仏山、長野県、白山三ノ峰など）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩場、岩礫地、砂礫地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈（三伏峠、荒川岳、千枚岳、大沢岳、兎岳、聖平）に生育するが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ (51)、シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生の遷移 (54) などがあげられる。

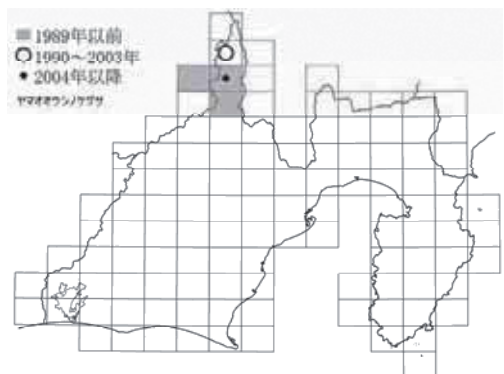
6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。

(齊藤 猛)



静岡市 2019年7月30日 室伏幸一



キタダケイチゴツナギ *Poa glauca* Vahl var. *kitadakensis* (Ohwi) Ohwi

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~70 cm。タカネタチイチゴツナギの変種で、花序の枝がやや長く、苞穎は大きくて長さ 4~5 mm、護穎は 4~4.5 mm になる。花期は 7~8 月。

2. 分布

日本固有変種で、本州 (中部) に分布する。県内では南アルプス高山帯に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩場、岩礫地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈に記録がある (間ノ岳、塩見岳、荒川岳、蝙蝠岳、東岳、赤石岳)。産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ (51)、シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生の遷移 (54)、生育地の局所化 (61) などがあげられる。

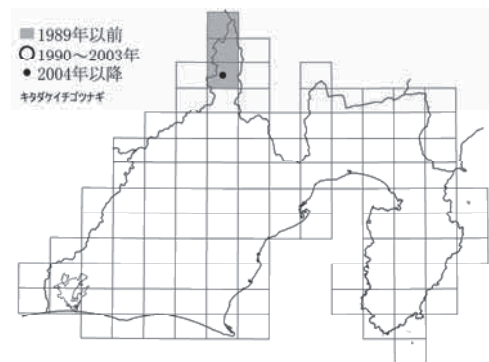
6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。

(斉藤 猛)



静岡市 2018年7月26日 室伏幸一



ベニバナヤマシャクヤク *Paeonia obovata* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②) 変更コード 6

ボタン科 Paeoniaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~60 cm。茎は無毛で基部に鞘状の鱗片がある。葉は 2 回 3 出複葉、頂小葉の先は尖形または鈍形。花期は 4~5 月。花は茎頂に 1 個で径 5~10 cm、葉よりも長く抜き出て、全形が縦長である。花冠は淡紅色、時に白色である。雌蕊は 3~5 個。柱頭は強く外曲する。袋果は湾曲する。近似種のヤマシャクヤクは頂小葉の先が漸尖形で雌蕊は 2~3 個。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、サハリンに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部、東部に分布する。

3. 生育環境

低山や丘陵地の草地や落葉樹林下が本来の生育環境であるが、今ではほとんどがスギ植林下の砂礫地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、各地に点在していた記録があるが激減している。時に 3 葉だけの小苗が見られる程度で野生状態の開花を見られる機会は、ほとんどなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取 (41) が主要因である。植林による被陰 (71) も脅威である。

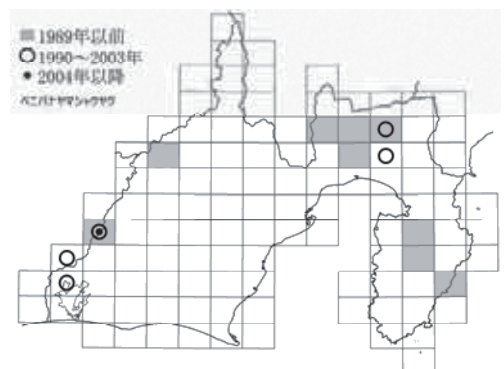
6. 保護対策

きわめて個体数の少ない稀産種となり、公的な体制の下に生育地の保護管理が望まれる。

(宮崎一夫)



浜松市 2015年5月16日 内藤宇佐彦



トキホコリ *Elatostema densiflorum* Franch. et Sav. ex Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更コード9

イラクサ科 Urticaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。茎は高さ 10~25 cm で開出毛がある。葉は長楕円形で左右不同で長さ 3~6 cm。上半分に鋸歯がある。乾くと緑黒色となる。花期は 9~10 月。雌雄同株。葉腋に多数の雄花と雌花を混生する。雄花には 4 枚の花被、4 本の雄蕊があり、雌花には 3~5 枚の花被がある。類似のヤマトキホコリは多年草で、茎にはほとんど毛がなく、また、葉は乾くと黄緑色となる。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州 (中部) に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の湿った畑や道ばたに生える。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、富士宮市の記録があるが、前回 (2004 年) 調査でも今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の環境変化 (71) が減少の主要因と考えられる。

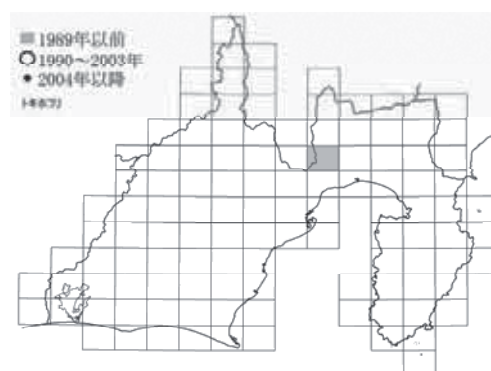
6. 保護対策

生育が確認された場合は、生育環境の保全が必要である。

(湯浅保雄)



神奈川県 2019年10月20日 室伏幸一



タチスズシロソウ *Arabidopsis kamchatica* (DC.) K. Shimizu et Kudoh

subsp. *kawasakiana* (Makino) K. Shimizu et Kudoh

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更コード 1, 5, 18

アブラナ科 Brassicaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I 絶類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B (EN)]

1. 種の解説

越年草。高さ 15~40 cm。茎は葉とともに緑白色で無毛。根出葉には両面に毛がある。花期は 4~5 月。花弁は白色で長さ 4~8 mm。長角果は線形、長さ 2~4 cm。種子は平たく楕円形、長さ 1~1.5 mm で翼はない。基本亜種のミヤマハタザオは多年草で、種子の先端に狭い翼がある。

2. 分布

国外では東アジアに、国内では本州 (東海地方、近畿地方)、四国 (高知県) に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

海岸や湖岸の砂地、あるいは海岸のクロマツ林内。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) によれば 1920 年代に静岡市の三保海岸や大里海岸に生育していたという。しかし、その後の確認情報はなく、また前回 (2004 年) 調査でも、今回の調査でも確認されていない。

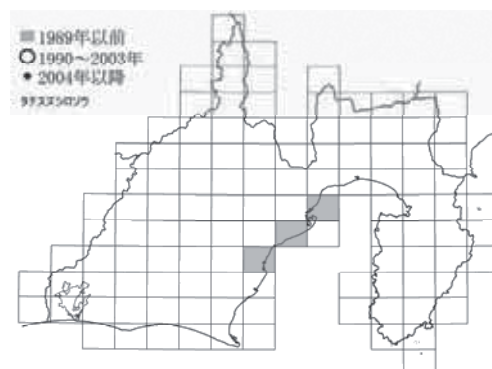
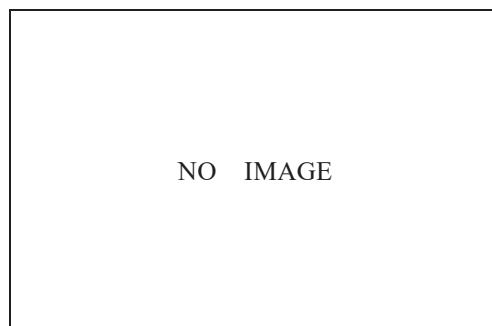
5. 減少の主要因と脅威

海岸の開発 (14) と砂浜の減少 (71)、クロマツ防風林の下層植生の繁茂 (54) が減少の要因と考えられる。

6. 保護対策

海岸砂地の保全とクロマツ林内の落ち葉掻きによる下層植生の抑制。

(湯浅保雄)



ハナハタザオ *Dontostemon dentatus* (Bunge) Ledeb.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②) 変更なし

アブラナ科 Brassicaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IA (CR)]

1. 種の解説

越年草。高さ15~60 cm。茎は上部で多く分枝する。葉は線状披針形、両端は細くなり全縁、または鋭鋸歯縁。両面有毛。長さ2~7 cm、幅2~10 mm。花期は6~9月。花弁は紅紫色。長さ6~9 mm。長角果は直立またはやや斜上し、線形、長さ2~6 cm。種子は褐色で卵形、縁に狭い翼がある。

2. 分布

国外ではシベリア東部、中国北部、朝鮮半島に、国内では本州（東北地方南部~中部地方の太平洋側）、九州（熊本県）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

山地あるいは海岸地域の日当たりのよい草原に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）に、県東部の三国山地や富士山東麓に生育していた記録はあるが、前回（2004年）調査時も今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

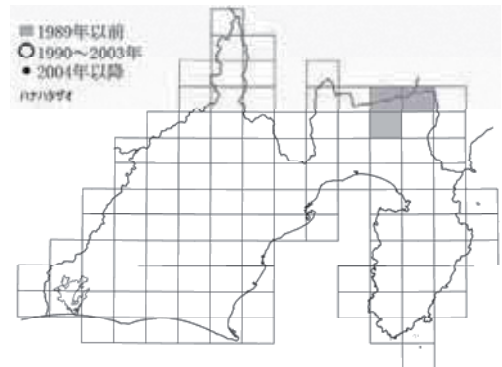
草原の管理放棄による植生遷移（53）が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

草原の火入れと夏期の刈り取りにより、ススキの繁茂を抑えながら維持すること。
(湯浅保雄)



山梨県 2019年7月2日 宮崎一夫



キタダケナズナ *Draba kitadakensis* Koidz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②) 変更なし

アブラナ科 Brassicaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年生。高さ10 cm前後。茎は叢生し、葉とともに星状毛を密生する。根出葉は6~12 mm、幅1.5~3 mm、無柄。茎葉は3~5 mm。花期は6~8月。花は10個ほどの花が穂状花序に密生し、白色で径約4 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州（八ヶ岳、南アルプス）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩礫地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）に南アルプス悪沢岳の記録があるが、前回（2004年）調査、今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

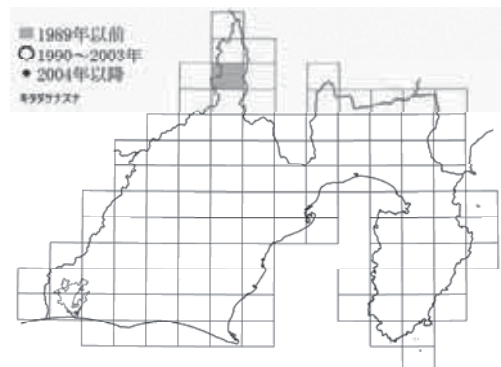
生育地の崩壊（55）などが考えられるが不明である（99）。

6. 保護対策

生育が確認されたら、踏みつけなどを防ぐため、登山者の立ち入りを制限すること。
(湯浅保雄)



山梨県 2007年7月1日 宮崎一夫



タカネマンテマ *Silene uralensis* (Rupr.) Bocquet

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更コード 1, 18 ナデシコ科 Caryophyllaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ5~20 cm。茎は単一で直立し、軟毛が多い。葉は倒披針形で長さ3~10 cm、鋭頭で基部は細まりほぼ無柄。花期は7~8月。花は茎頂に1個つき、始めは斜め下向に開き、徐々に上を向き、真上を向いて枯れて立つ。萼筒は長楕円形、黒色の毛が生えた10脈が隆起する。花弁は長さ2~3 mm、淡紅色から白色。

2. 分布

国外ではロシア(北クリール、カムチャツカ、シベリア)、ヨーロッパに、国内では本州中部(南アルプス)に、県内では中部に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩塊上や岩礫地の疎草地に生育する。風衝地や日照時間の短い環境下で確認されることが比較的多い。

4. 生育状況

かつては、南アルプスの数箇所を確認されたが、現在はそのうち一部限られた箇所でのみ確認される。総株数はきわめて少なく存続は危機的な状況である。

5. 減少の主要因と脅威

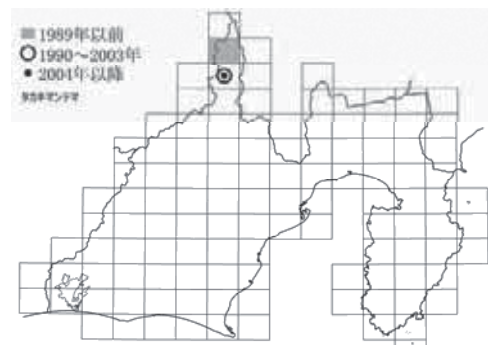
産地はきわめて限定し(61)、人の踏みつけ(51)や盗掘(41)に加えて、シカの食害(52-1)や踏み荒らしのほか、植生遷移(54)や岩塊の崩壊(55)も脅威である。

6. 保護対策

「静岡県指定希少野生動植物」に指定されている。本県の個体は、環境省新宿御苑内に種子及び発芽個体が保存され、保護増殖が図られている。(山崎由晴・宮崎一夫)



静岡市 2003年7月20日 宮崎一夫



カンチャチハコベ *Stellaria calycantha* (Ledeb.) Bong.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

ナデシコ科 Caryophyllaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ10~40 cm。茎は叢生し、葉は狭長楕円形、長さ10~22 mm、縁に毛がある。花期は7~8月。花はまばらの集散花序につく。萼片は4~5個、披針形で長さ2.5 mm。花弁はないか、あっても萼片の1/2の長さ。花弁は白色で2深裂。蒴果は円錐状卵形。種子には突起はない。

2. 分布

国外では北半球北部に、国内では北海道、本州(中部地方)に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯から高山帯の湿地や岩の間。

4. 生育状況

南アルプスに生育するが産地は限られていて個体数は少ない。

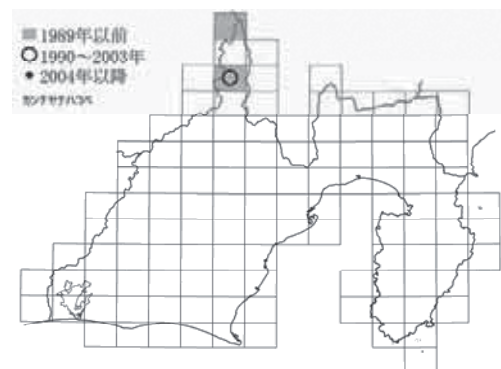
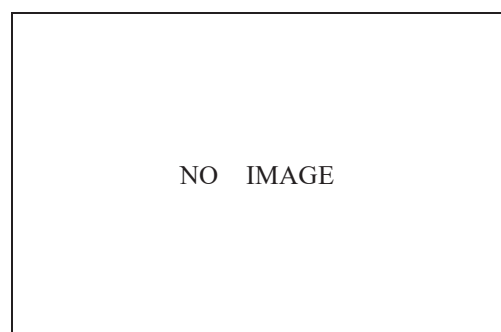
5. 減少の主要因と脅威

産地が限られる(61)。植生遷移(54)や登山者による踏みつけ(51)が減少の主要因である。

6. 保護対策

踏みつけの影響を避けるため、登山道以外に立ち入らないような対策が必要である。

(湯浅保雄)



ミヤマハナシノブ *Polemonium caeruleum* L. subsp. *yezoense* (Miyabe et Kudô)
H. Hara var. *nipponicum* (Kitam.) Koji Ito

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件) 変更コード9

ハナシノブ科 Polemoniaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年生。高さ 80 cm 程度。茎には稜があり、葉は奇数羽状複葉で小葉は 21 枚ほどで全縁である。長さは約 5 cm。花期は 6~8 月。茎の上部の散房花序に淡青紫色の花をつける。花冠は 5 深裂し、長さ約 2.5 cm。花柄には短腺毛が密生し、白毛がまばらに生える。種内分類群としての認識には更なる検討が必要との見解もある。

2. 分布

日本固有変種で、本州に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯から高山帯の草原や林縁に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に、南アルプスの北荒川岳の記録があるが、前回 (2004 年) 調査、今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

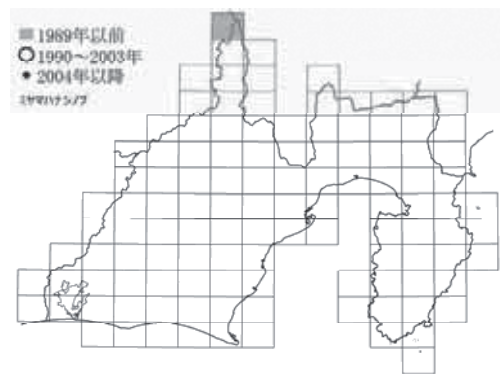
生育地の環境変化 (71) が減少の主要因と考えられる。これからはシカによる食害 (52-1) が脅威である。

6. 保護対策

シカの食害対策が必要である。 (湯浅保雄)



山梨県 1997年7月19日 宮崎一夫



ムラサキツリガネツツジ *Rhododendron lasiophyllum* (Nakai) Yonek. var. *lasiophyllum*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

落葉低木。高さ 0.5~1 m。葉は長楕円形で長さ 2~4 cm。表面に粗い長毛が密に生える。花期は 5~6 月、2~6 個の壺型の花を枝先から下垂する。花の長さは 1~2 cm。花柄には長毛が密生する。花冠は長さ 14~18 mm。ふつう全体が濃紅紫色である。類似のウラジロヨウラクの葉の表面は無毛か、または長毛が少しある。花冠は紅紫色である。

2. 分布

日本固有変種で、神奈川県、山梨県、静岡県に分布する。県内では伊豆、東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯山地の岩場や風衝草原に生える。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に、伊豆や富士山、金時山、愛鷹山の記録があるが前回 (2004 年) 調査でも、今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

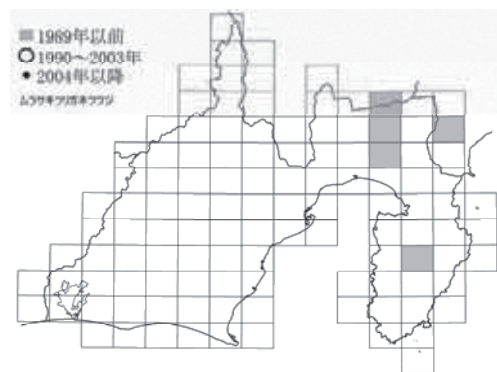
園芸採取 (41) が減少の主要因である。

6. 保護対策

盗掘防止と種を指定して保護を図りたい。 (湯浅保雄)



山梨県 2018年6月3日 室伏幸一



ソナレセンブリ *Swertia noguchiana* Hatus.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草(開花後枯れる)。高さ10~30 mm。葉はソナレムグラに似る。茎はよく分岐し這う。葉は対生、へら形で基部は柄に流れ茎に密着する。葉は厚く、中心の葉脈を境に、裏側に反り返り、表面に光沢がある。花期は10~11月。花は白色で青紫色の筋が放射状に、各花弁に5~8本伸びる。

2. 分布

日本固有種で、伊豆七島と伊豆半島に分布する。県内では伊豆半島爪木崎に点在する。

3. 生育環境

海岸の風に当たる斜面に生える。

4. 生育状況

下田市にのみ見られる。裸地を好むが、少ない水分と、他の植物との被覆圧との微妙なバランスに影響される。

5. 減少の主要因と脅威

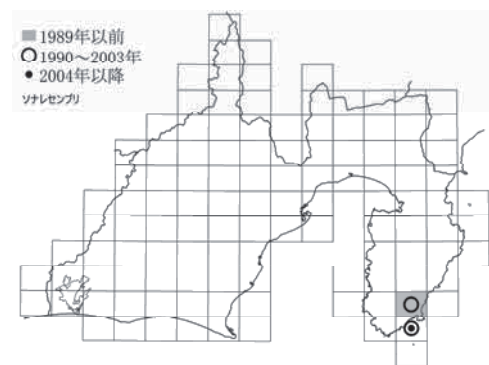
産地に限られる(61)。多肉な葉をもつが、日照り(71)にも影響される。また、岩上の裸地を好むので、釣り人などの踏みつけ(51)にもさらされ、園芸用などの採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

自生地への立ち入り規制が必要である。安易に成株を採取しての移植増殖は不可能であり、慎重な対策が必要である。移植増殖にあたっては、自生株採取前に慎重な検討を行う必要がある。(西口紀雄)



下田市 2010年11月7日 西口紀雄



ムシトリスミレ *Pinguicula vulgaris* L. var. *macroceras* (Pall. ex Link) Herder

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類(CR) (要件) 変更コード9

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。葉は長楕円形で長さ3~5 cm、幅1~2 cm。根際に4~5枚広げる。表面には腺毛が密生し、粘液を分泌する。花期は7~8月。高さ5~15 cmの花柄を1~3本ほど伸ばし、その先にスミレに似た唇形の花をつける。花冠は紫~淡紫色で、上唇は浅く2裂し、下唇は深く3裂する。蒴果は卵球形で長さ6 mm。

2. 分布

国外では千島列島から北太平洋全域に、国内では北海道、本州(近畿地方以北)に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

湿り気のある岩壁や地面または湿地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)の記録以後、確認情報がなかったが、2010年に南アルプ스에서生育が確認された。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の環境変化(71)が減少の主要因であろう。

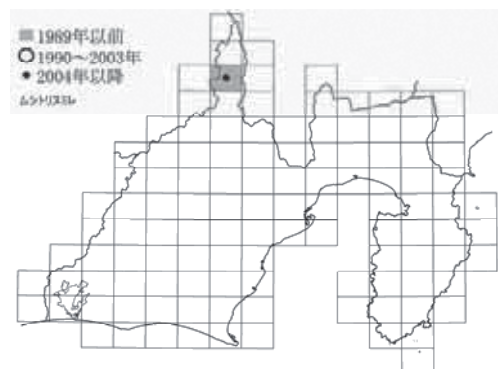
6. 保護対策

盗掘を防ぐため、産地情報の公開は慎重に行うこと。

(湯浅保雄)



静岡市 2010年8月11日 加藤 徹



フサヌキモ *Utricularia dimorphantha* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

沈水性の多年草。食虫植物。水中の葉は基部で2~5個の小葉に分かれ、長さ3~6 cm。小葉は多数の細裂片に分岐し房のように柔らかい。捕虫嚢は葉の裂片にごく少数しかつけない。花期は8~10月。高さ7~15 cmの花茎に3~10個の花をつけ、花弁は黄~淡黄白色で直径1 cm程度。直径2~3 mmの閉鎖花もつける。

2. 分布

日本固有種で、本州(近畿地方以東)に分布する。県内では東部、中部、西部の低地に分布する。

3. 生育環境

池沼の水中に生育する。

4. 生育状況

各地に記録があるが稀である。近年生育が確認されていない。

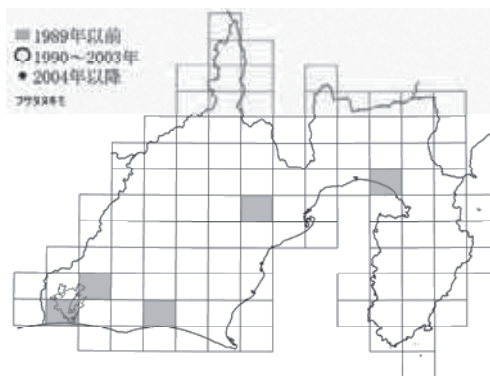
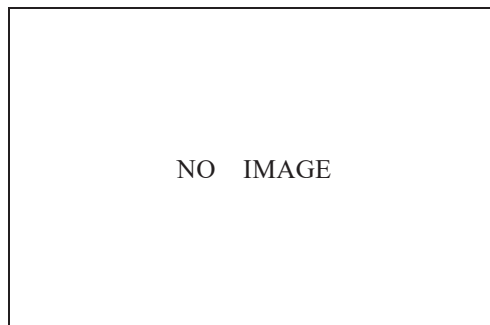
5. 減少の主要因と脅威

池沼の消失(12)や水質の悪化(31)がその要因である。

6. 保護対策

今後の調査で生育が確認された場合は自生地の保全が必要である。

(内藤宇佐彦)



カワラノギク *Aster kantoensis* Kitam.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②⑤) 変更コード9

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ50 cm内外。茎は叢生し、上部で分枝し多数の葉をつける。花時には根出葉や下部の葉は枯死している。中部の葉は線形で、長さ6~7 cm、全縁で表面の縁と裏面に短毛を散生する。花期は10~11月。頭花は径3.5~4.0 cmで散房状または円錐状につく。管状花の花冠は長さ6 mmで紫色。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東地方と静岡県)に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

川岸の日当たりのよい砂礫地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に沼津市と静岡市の安倍川に生育、と記載されているが、その後確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

砂利採取(13)による生育環境の消失が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地を確認し、生育に適した環境を拡大することが必要である。

(湯浅保雄)



東京都 2008年11月4日 宮崎一夫



ミコシギク *Leucanthemella linearis* (Matsum.) Tzvelev

(=ホソバナセイタカギク)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更コード 1

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~100 cm。長く地下茎をひき、その先に新苗を作る。茎は叢生する。葉はふつう1~2対に羽裂し、裂片は幅2~3 mm。表面はざらつき、縁は裏側に反曲する。花期は9~10月。頭花は長い柄があって径3~6 cm。花冠は白色。瘦果は著しい10肋がある。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島に、国内では本州、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい湿地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に湖西市に生育していたものが絶滅したと記されているが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発(15)が減少の主要因である。

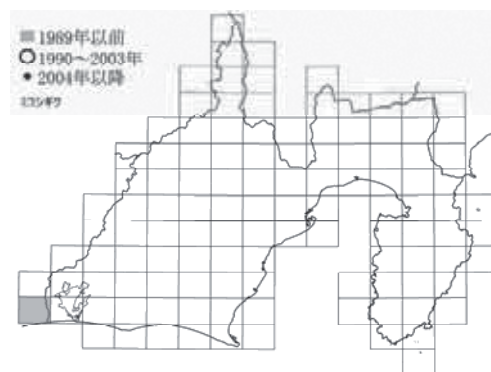
6. 保護対策

生育地が見つかった場合は、生育に適した環境を維持管理すること。

(湯浅保雄)



愛知県 2014年10月5日 宮崎一夫



ヤマタバコ *Ligularia angusta* (Nakai) Kitam.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ1~1.5 m。根は太く多数ある。茎はやや太く直立する。根出葉は束生して、葉柄は長さ15~35 cm、葉身は長楕円形で長さ17~30 cm。茎葉はふつう3個が直立する。花期は5~6月。頭花は長い総状花序をなし、花柄の中央に小苞が1個ある。総苞は筒形で長さ6~8 mm。舌状花は3~5個あり黄色。瘦果は長さ4.5~6 mm。近似種のメタカラコウは葉身が三角状鈍形である。

2. 分布

日本固有種で、本州(中部、関東地方)に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の山地の日当たりのよい草地や林縁に生育する。

4. 生育状況

東部と中部で記録がある。産地は局限する。産量もきわめて少なく、存続は危機的な状況である。

5. 減少の主要因と脅威

ササの被陰などの植生遷移(54)が主要因である。マニアによる採取(41)も脅威である。

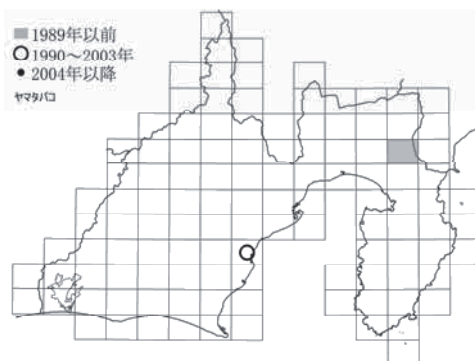
6. 保護対策

植生遷移を抑制するためにササ類を除去し、園芸採取を防ぐために立ち入りを禁止することが重要である。

(宮崎一夫)



静岡県 2014年5月13日 西口紀雄



セイタカイワヒメワラビ *Hypolepis alpina* (Blume) Hook.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

コバノイシカグマ科 Dennstaedtiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ (静岡県では夏緑性)。イワヒメワラビに似るが、遙かに大型で、葉は 1.5 m に達し、葉柄も太い。葉は軸も葉面も粘毛を密につけ、生時はねばつく。

2. 分布

国外では台湾、中国、フィリピン、インドシナ、ニュージーランド、ポリネシアに、国内では本州 (静岡県、三重県)、四国、九州 (鹿児島県)、伊豆諸島、小笠原、沖縄県に分布する。県内では西伊豆町 (旧賀茂村大久須) が唯一の産地で、分布の北限である。

3. 生育環境

低山地のやや日当たりのよい山地の林縁、やや湿潤なところに生育する。

4. 生育状況

本県では西伊豆町 (旧賀茂村) にのみ自生する。産地はきわめて局限され、個体数もごく限られている。なお当地にはイワヒメワラビとの雑種、アイワヒメワラビも知られている。

5. 減少の主要因と脅威

産地が限られ (61)、植生の遷移 (54) で減少している。生育地山林の伐採 (11)、林道の工事 (24) や、治水のためのダム建設 (25) などが脅威である。

6. 保護対策

減少の要因となる行為がなされないような対策が必要である。(細倉哲穂)



西伊豆町 2005年10月30日 杉野孝雄



ハチジョウシダ *Pteris fauriei* Hieron.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

イノモトソウ科 Pteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

やや大型の常緑性シダ。葉は長さ 1 m ほどに達し、2回羽状、表面にはツヤがある。最下羽片には長い小羽片を 1~3 個出す。羽片は基部近くでやや狭まり、中部近くが最も幅広である。小羽片の辺には孢子囊群が先端近くまでつき、つかない部分は全縁である。

2. 分布

国外では台湾、中国、フィリピン、インドシナに、国内では本州南部 (伊豆半島、紀伊半島)、四国南西端、九州南部と琉球、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆 (下田市須崎三井浜、南伊豆町) に分布する。

3. 生育環境

海岸に近い日当たりのよい地、低山地の林縁に生ずる。

4. 生育状況

県内の過去の記録地でも、ほとんどの場所で現存が確認されていない。確認されている所でも、個体数は極少である。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採など (11) による絶滅が懸念される。植生の遷移に伴う生育地の環境変化 (54) が脅威である。

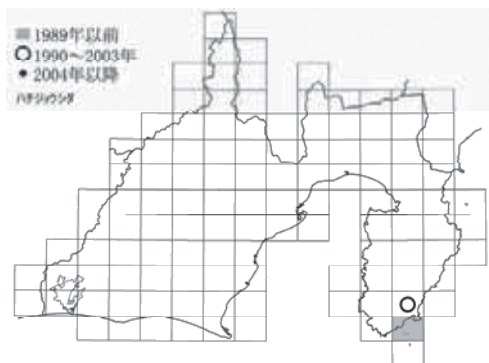
6. 保護対策

生育地の山林伐採や土地の改変、道路の改修などが行われないような保護対策が必要である。

(細倉哲穂)



河津町 1977年12月7日 細倉哲穂



ニシノコハチジョウシダ *Pteris kiuschiuensis* Hieron.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

イノモトソウ科 Pteridaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

やや大型の常緑性シダ。葉柄は30~50 cmに達し、葉身も長さ30~45 cmに達する。2回羽状複葉で葉は卵状三角形で、羽片は羽状に全裂、基部で少し短くなることある。葉は葉柄に対して傾いてつき、羽片は直角について鎌状に曲がる。

2. 分布

日本固有種で、本州（神奈川県、静岡県）、四国、九州に分布する。県内では伊豆（西伊豆町（旧賀茂村）や河津町上佐々野鉢ノ山など）に分布する。北限は神奈川県で、静岡県は準北限である。

3. 生育環境

暖地のやや陰湿な土壌、常緑樹林下やスギの人工林下に生育する。

4. 生育状況

産地は局限され、個体数も極少である。

5. 減少の主要因と脅威

産地が限られ（61）、たまたま根づいた生育地でも、その後環境変化（71）で減少している。山林伐採による生育地の消滅（11）が脅威である。

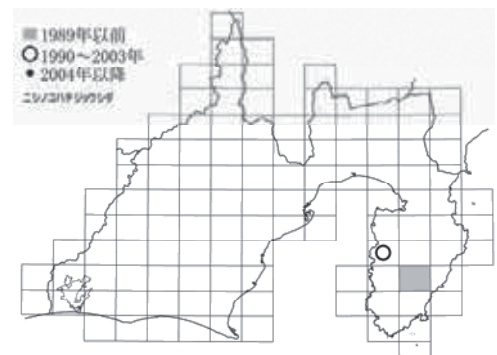
6. 保護対策

生育地の山林伐採、林道の整備や河川改修工事などによる生育地の環境変化による生育地での消失を防ぐ必要がある。

（細倉哲穂）



河津町 1977年12月7日 細倉哲穂



ヤクシマハウビシダ *Hymenasplenium obliquissimum* (Hayata) Sugim.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

チャセンシダ科 Aspleniaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。ハウビシダに似るが、それより全体小型で、葉長は20 cmほどで狭披針形。根茎の鱗片はハウビシダより幅広で、淡褐色である。葉質はきわめて薄く、透けて見えることが多い。

2. 分布

国外では台湾、中国、インドシナに、国内では本州（伊豆半島、紀伊半島）、九州（鹿児島県）に分布する。県内では河津町沼ノ川に分布する。伊豆は本種の分布北限である。

3. 生育環境

山林中の溪流沿い、陰湿で水がしたたるような岩壁に生育する。

4. 生育状況

静岡県では河津町の唯一個所に生育、小群落を作って生育し、個体数も極少である。

5. 減少の主要因と脅威

産地が限られ（61）、河川の改修、ダム建設などによる生育環境の悪化（13、25）による絶滅が懸念される。

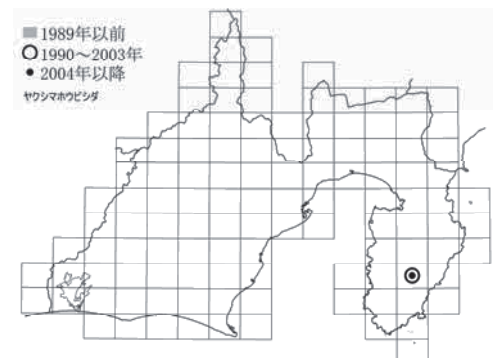
6. 保護対策

河川の改修、ダムの建設などで、生育地の環境が影響を受けないような対策が必要である。

（細倉哲穂）



河津町 2004年3月28日 内藤宇佐彦



カミガモシダ *Asplenium oligophlebium* Baker

(=ヒメチャセンシダ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

チャセンシダ科 Aspleniaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ植物。ヌリトラノオ *A. normale* に似るが、全形やや小さく、葉長 20 cm ほどまで。根茎は短く斜上し、葉を叢生する。単羽状複生で、葉柄と中軸は紫褐色である。羽片は中～深裂し、耳片は突出する。無性芽をつける。

2. 分布

日本固有種で、本州（新潟県・伊豆半島以西）、四国、九州、屋久島に、県内では伊豆と西部に分布する。伊豆は太平洋側の東限自生地である。

3. 生育環境

暖地の林内、やや陰湿な場所の岩上、地上に生育する。中軸の先が伸びて、地に接したところで芽をつけ無性的に殖えるので、伊豆の生育地では面積は狭い岩面であるが、やや密な群落をつくっている。

4. 生育状況

伊豆市と湖西市に生育する。産地は限られているが生育地では群生する。県内では近年生育が確認された。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採 (11)、道路工事 (24) などによる生育環境の悪化・消失が心配される。

6. 保護対策

静岡県は分布の限界地であり、生育地の保全は特に重要である。
(内藤宇佐彦・細倉哲穂)



湖西市 1998年3月1日 内藤宇佐彦



イチョウシダ *Asplenium ruta-muraria* L.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

チャセンシダ科 Aspleniaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。根茎は塊状で葉を叢生する。葉身は長さ 2~7 cm、2回または単羽状で三角状、裂片は扇形または菱形である。この裂片の形状が和名の由来である。孢子嚢群は数個が裂片の中央に集まる傾向がある。

2. 分布

国外では北半球の温帯に、国内では北海道から九州に分布する。県内では西部の石灰岩地帯に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯から温帯の林中またはやや裸出した石灰岩の岩隙に生じる。

4. 生育状況

旧水窪町の石灰岩地の岩隙に少数株が生育する。減少傾向が著しい。

5. 減少の主要因と脅威

もともと産地も個体数も少なく (61)、園芸採取 (41) が減少の一因と考えられる。

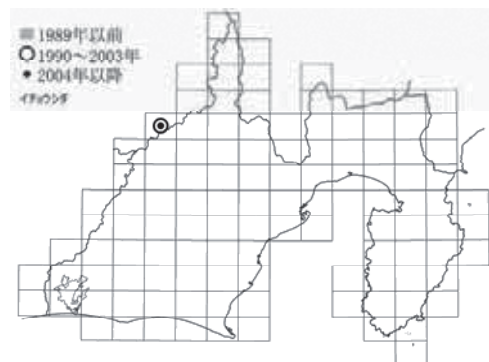
6. 保護対策

石灰岩地の保全と、園芸採取を防ぐために産地情報の公表には十分な配慮が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1998年4月12日 宮崎一夫



タチヒメワラビ *Thelypteris bukoensis* (Tagawa) Ching

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ヒメシダ科 Thelypteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型からやや大型の夏緑性シダ。根茎は長く這い、葉を疎らに出す。鱗片は褐色、全体に星状分岐毛、針状毛が多い。葉身は広披針形で鋭尖頭、基部は狭まり二回羽状深裂する。小羽片の基部は羽軸に流れ、狭い翼となって流れつく。

2. 分布

日本固有種で、本州（岩手県、新潟県、関東地方西部、中部地方東部）、四国（高知県）に分布する。県内では東部（小山町）に分布し、本州における分布南限である。国外（インド）からの報告は不確かである。

3. 生育環境

山地のやや霧が多い腐植土の厚い林床、あるいは草原に生育する。

4. 生育状況

県内では小山町の三国山塊にごく稀に知られるのみである。近隣の山梨、長野では多産地があるが、静岡県は決して生育適地ではないと思われる。前回（2004年）調査以降に孢子囊群をつけた株が若干確認された。

5. 減少の主要因と脅威

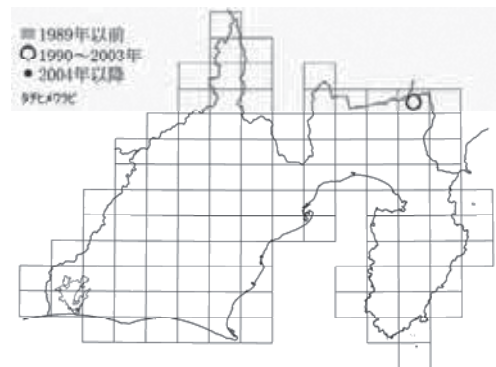
産地が局限され、個体数も少ない（61）。よって植生の変化による環境の変化が脅威（54）である。

6. 保護対策

生育地の植生の遷移による環境変化や、山林伐採、開発行為による影響を防ぐ必要がある。（細倉哲穂）



小山町 1999年9月12日 細倉哲穂



ルリデライヌワラビ *Athyrium wardii* (Hook.) Makino var. *inadae* Tagawa

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の夏緑性シダ。ヒロハイヌワラビの一変種とされており、これに似ているが、葉身の先は急に狭くなり、一見頂羽片があるように見える。小羽片はこみ合っつき、小羽片の先は鈍頭から円頭である。羽片基部は羽軸に流れ、沿着する。

2. 分布

日本固有変種で、本州（神奈川県以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆（旧天城湯ヶ島町、河津町など）に分布する。

3. 生育環境

低山地の林内、特にスギの人工林下に生息する。

4. 生育状況

個体数はきわめて少なく、生育状況も散在的である。

5. 減少の主要因と脅威

生育地及び近隣地域の山林伐採など環境変化（11）による個体数の減少、絶滅が懸念される。

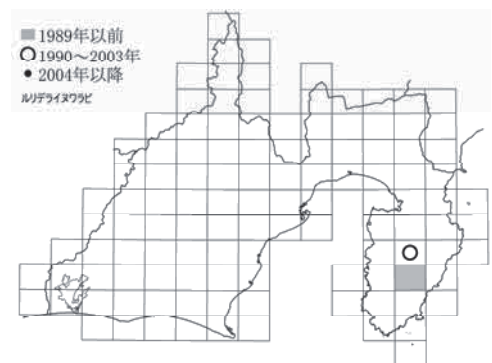
6. 保護対策

本種の生育地のほとんどは、スギの人工林下にある。山林伐採など生育地環境の改変を防ぐ必要がある。

（細倉哲穂）



伊豆市 2003年11月3日 細倉哲穂



コウライイヌワラビ *Deparia coreana* (H. Christ) M. Kato

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

中型からやや大型の夏緑性シダ。根茎は短く這い、葉を叢生する。葉は単羽状複生で、オオメシダに似るが全体はずっと小型で、葉柄 50 cm ほど、葉身は 1 m ほどまで。羽片は中～深裂し、小羽片の基部は羽軸に流れ、幅 1 mm の翼を作る。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国の東北部に、国内では本州（青森県以南の東北地方、栃木県、山梨県、静岡県）、四国（愛媛県）、九州（長崎県、大分県）に分布する。県内では東部（御殿場市、裾野市、富士宮市）に分布する。

3. 生育環境

低山地の林内、やや日当たりのよい陰湿な場所に生じる。

4. 生育状況

県内産地のほとんどの場所で絶滅した。

5. 減少の主要因と脅威

植生の遷移 (54)、生育地の造成工事 (23) が脅威である。

6. 保護対策

ごく少なくなった生育地及びその周辺では、山林伐採などによる乾燥化、向陽化を防ぐ必要がある。不用意な開発による減少や絶滅を防ぐ必要がある。

(細倉哲穂)



富士宮市 2004年10月10日 杉野孝雄



ミドリワラビ *Deparia viridifrons* (Makino) M. Kato

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の夏緑性シダ。根茎は短い太く這い、葉を密生させる。オオヒメワラビの発育のよい葉に似るが、葉身はほぼ三角形、小羽片は浅～中裂し、羽軸に狭い翼をもつ。葉は 1 m 前後にも達し、葉柄鱗片は淡茶色、広披針形状で疎らである。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州（主に太平洋側）、四国、九州に分布する。県内では、東部（御殿場市）、伊豆（旧天城湯ヶ島町、河津町）、西部（春野町）に分布する。

3. 生育環境

低山地の林内、山すそのやや陰湿な地上に生育する。案内人に近い低地に多く生育する。

4. 生育状況

県内の産地は、案内人に近い低地の山すそ、斜面などであり、現にこれまで記録のあった所でも、今ではほとんど再確認ができない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地及び近隣の地の山林の伐採 (11)、河川の改修 (13) など、生息環境の悪化が懸念される。

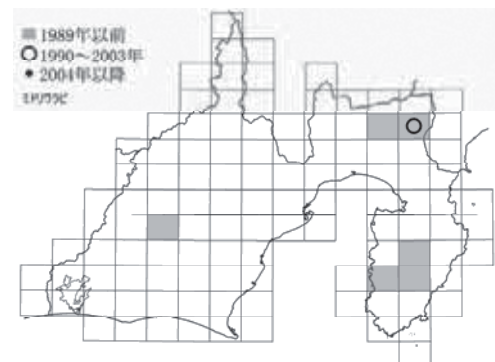
6. 保護対策

生育地山林の伐採、河川工事、周辺の道路拡幅工事などによる環境変化、向陽化を防ぎたい。不用意な開発により、絶滅しないようにしたい。

(細倉哲穂)



御殿場市 2002年10月17日 細倉哲穂



コガネシダ *Woodsia macrochlaena* Mett. ex Kuhn

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

小型の夏緑性シダ。葉柄の関節は頂端にある。中軸や羽片には毛があり鱗片はない。葉は1~2羽状複葉。羽片は中~深裂し基部に耳片はない。胞膜に縁毛がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア東部に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

山麓の林内や林縁などの岩上に生育する。

4. 生育状況

産地は限られていて産量は少ない。生育地の消失や植生の遷移で絶滅したところもある。

5. 減少の主要因と脅威

産地が里地にあるところもあり生育地が失われやすい(23)。植生遷移(54)の影響も無視できない。

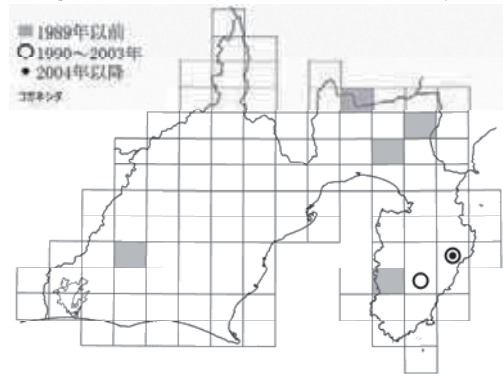
6. 保護対策

造成工事などで生育地が消失しないような対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



伊東市 2005年4月30日 杉野孝雄



ヒロハアツイタ *Elaphoglossum tosaense* (Yatabe) Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

常緑性シダ。葉は栄養葉と孢子葉の2形がある。栄養葉の葉柄は長さ5~8 cm、葉身は長さ5~15 cm、革質長楕円~狭楕円形で葉縁に半透明の薄膜がある。孢子葉の葉柄、葉身は栄養葉とほぼ同長、葉裏一面に孢子嚢が広がる。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県、紀伊半島)、四国、九州、屋久島、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

陰湿な山林中の樹幹や岩上に生じる。

4. 生育状況

西部の山中、深い谷間で川岸の岩に少数株が生育している。

5. 減少の主要因と脅威

もともと稀少な植物であるので、園芸採取(41)や自然災害(55)で容易に消滅する可能性がある。

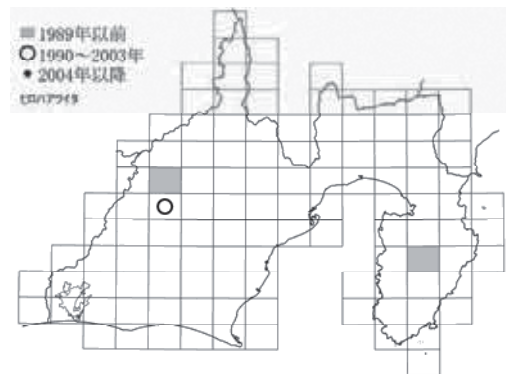
6. 保護対策

生育地付近の森林保護と園芸採取を防ぐため、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1995年1月3日 宮崎一夫



オトコシダ *Arachniodes yoshinagae* (Makino) Ching

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。葉柄は 35 cm、葉身は 65 cm に達する。葉身は単羽状から 2 回羽状複生的になり、羽片は浅～全裂する。裂片はほぼ全縁、孢子嚢群は裂片の中肋と辺縁の中間位に位置し、円形で、辺が全縁の包膜である。

2. 分布

国外では中国、インドシナ、タイ、ビルマ、ヒマラヤに、国内では本州（神奈川県、伊豆半島、紀伊半島、山口県）、四国、九州に分布する。県内では伊豆（河津町、西伊豆町）に分布する。

3. 生育環境

暖地の山林内の林床、やや陰湿な谷間の斜面や林内に生育している。

4. 生育状況

分布は局限され、個体数も極少である。前回（2004年）の段階より、さらに減少の傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採などによる生息環境の悪化（11）により絶滅が危惧される。

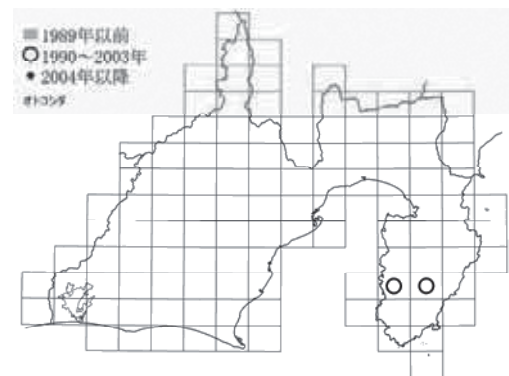
6. 保護対策

生育地の山林伐採や林道の拡幅、改修工事などにより、生育環境に影響が生じないような対策が必要である。

（細倉哲穂）



河津町 2003年1月19日 杉野孝雄



ナガサキシダ *Dryopteris sieboldii* (Van Houtte ex Mett.) Kuntze

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。根茎は短く這い、葉を叢生する。葉は長さ 70 cm に達し、単羽状複生で、はっきりした頂羽片をもつ。側羽片は 3 対前後で、孢子嚢群は羽片全面に散在してつく。孢子嚢群をつける羽片は、つけない羽片よりやや狭くなる。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（千葉県以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆（熱海市、河津町）、中部（静岡市）に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地林内、やや陰湿な場所に生育するが、稀である。

4. 生育状況

河津町の産地では、現在も生育が確認されているが、個体数が減れば、絶滅のおそれもある。記録のある他の場所では、今日では生育が確認されず、絶滅した可能性がある。

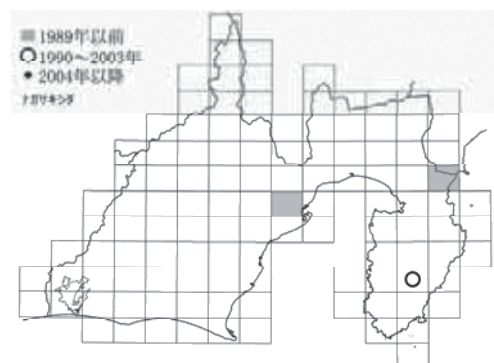
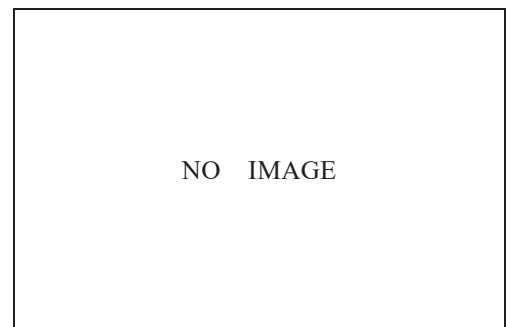
5. 減少の主要因と脅威

生育地の植生遷移（54）、山林の伐採（11）が減少の主要因である。山林の開発（23）、河川のダム建設など（25）も危惧される。

6. 保護対策

山林伐採や、河川の改修、ダム建設などにより、生育環境に影響が生じないような対策が必要である。

（細倉哲穂）



センジョウデンダ *Polystichum atkinsonii* Bedd.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。葉柄は長さ7 cm、葉身は単羽状複生で長さ5~10 cmほど。一見ツルデンダに似るが、無性芽は葉身先端近くの葉軸上に生じ、小羽片は長楕円形で、卵形に近い。孢子嚢群は、中肋と辺縁の中間につき、包膜は大きく、径1~1.5 mmほど。

2. 分布

国外ではヒマラヤ、ネパールに、国内では南アルプスの仙丈岳(長野県)、悪沢岳(静岡県)に分布する。ヒマラヤのものとは別種とする考えでは学名 *P. gracilipes* C. Chr. var. *gemmiferum* Tagawa となり、この場合は南アルプス固有変種となる。

3. 生育環境

高山帯の岩の割れ目にごく稀に生ずる。ヒマラヤ、ネパールに生ずるものは、亜高山帯の針葉樹林下、溪流近くのやや湿った岩上に生育する。

4. 生育状況

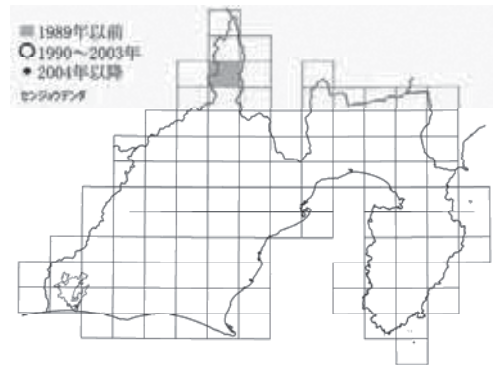
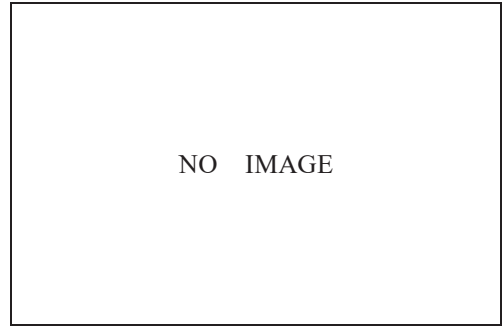
近年は生育が確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

生育の記録のある所では、自然環境の悪化(71)による絶滅が懸念されている。

6. 保護対策

生育地での再確認が是非とも必要である。また、この生育地あるいは近隣での生育が確認された場合は、生育環境に変動を与えないような対策が必要である。(細倉哲穂)



タカネシダ *Polystichum lachenense* (Hook.) Bedd.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR)]

1. 種の解説

小型の夏緑性シダ。根茎は短く密に鱗片をつける。葉柄はやや太く長さ3~10 cm、葉が枯れた後も残る。葉身は単羽状複葉の線形で長さ5~20 cm。羽片は長卵形でわずかに羽裂する。不定芽はできない。孢子嚢群は中肋よりにつき包膜は中心でつく。近似種のイナデンダは葉柄が細く、包膜は中心からずれてつく。

2. 分布

国外では中国、台湾、南アジアに、国内では本州中部(山梨県、長野県、静岡県)に分布する。県内では中部(南アルプス)と東部(富士山)に分布する。

3. 生育環境

亜高山から高山の岩上や岩隙に生育する。

4. 生育状況

産地は局所的である。産量はきわめて少ない。大きな岩の隙間や下部に生育する。南アルプスの産地は既知であるが、富士山は新産地である。

5. 減少の主要因と脅威

岩塊の崩壊(55)や植生遷移(54)が生育の圧力である。登山者の踏圧(51)や採取(41)も脅威である。

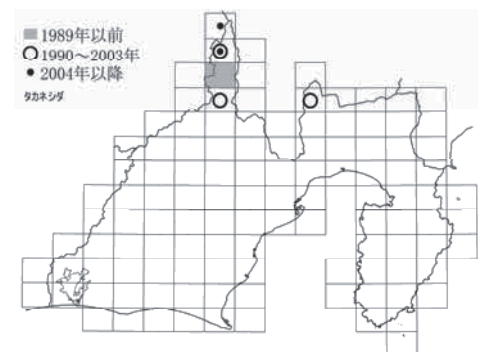
6. 保護対策

産地に踏圧を与えないように登山道の迂回整備をする。

(宮崎一夫)



静岡市 2004年8月7日 宮崎一夫



オニイノデ *Polystichum rigens* Tagawa

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。葉の長さは70 cmほどに達する。根茎は短く直立～斜上する。葉は広披針形で2回羽状複生。葉質はかたい革質で、小羽片は卵状長楕円形、多くは基部で沿着、辺縁は浅い鋸歯縁で、鋸歯の先は痛いほどかたい刺となる。葉柄の鱗片は淡褐色で広披針形、葉軸の鱗片は色が濃く、褐色がかっている。孢子嚢群は、やや中肋寄りにつく。よく似た種類にヒメカナワラビとオオキヨズミシダがあり、オニイノデとヒメカナワラビの中間の形質をもつのが、オオキヨズミシダである。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（茨城県以南）に分布する。県内では伊豆、東部に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地、林床や溪流沿いのやや陰湿な斜面などに生育する。

4. 生育状況

天城山中、箱根山地などに分布が確認されるものの、個体数はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

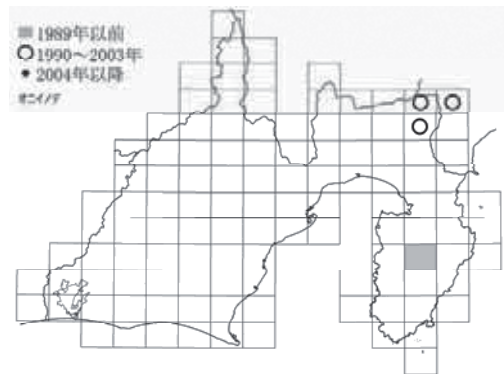
山林の樹木伐採（11）や林道の改修、整備（24）などによる生育地の消失、絶滅が懸念される。

6. 保護対策

林道の改修、整備、山林の伐採などによる環境悪化から、生育地を保護する必要がある。（細倉哲穂）



小山町 2002年1月4日 細倉哲穂



クラガリシダ *Lepisorus miyoshianus* (Makino) Fraser-Jenk.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ウラボシ科 Polypodiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

常緑性シダ。外見はシシランに似る。根茎は短く這う。葉はひも状で、長さ40 cmに達する。孢子嚢群は葉軸の両側の溝につく。葉軸は葉の表面は窪み、裏面は突出する。

2. 分布

国外では台湾、中国、インドに、国内では本州（中部地方以西）、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

空中湿度の高い自然林の古木樹幹や岩上に着生し垂れ下がる。

4. 生育状況

旧水窪町などに生育する。ほとんどの生育地が失われた。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採（11）、河川開発（13）などによる生育地の消失、空中湿度の低下などで、絶滅するおそれがある。

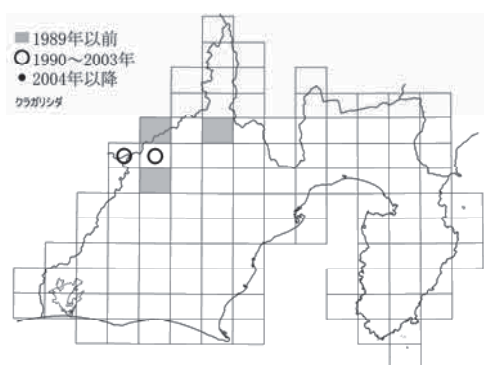
6. 保護対策

空中湿度の高いところに生育するので、現存する生育地は周辺部もふくめ広く保全することが重要である。また、着生する古木・大木の保存も重要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1985年4月29日 内藤宇佐彦



ミウギシダ *Polypodium someyae* Yatabe

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ウラボシ科 Polypodiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

夏緑性シダ。根茎は長く這い、鱗片で被われ褐色である。葉身は長さ10~30 cm前後、草質の卵形で羽状に深裂して先は急に尾状となる。側裂片は7~15対あり縁には粗い鈍鋸歯がある。葉脈は部分的に網目がある。近似種のアオネカズラは冬緑性で根茎は青緑色、葉は革質の三角状長楕円形である。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東地方、中部地方)、四国に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯深山の溪谷に沿った岩上や樹幹に着生する。

4. 生育状況

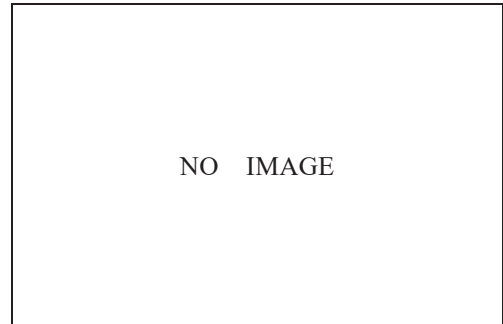
県内では中部の安倍峠などや西部の水窪などに生育する。近年は確認されず、ほとんどの産地が失われたと思われる。

5. 減少の主要因と脅威

古木の伐採(11)や河川改良(13)、林道工事(24)による生育環境の悪化及び園芸採取(41)が脅威である。

6. 保護対策

現存する生育地の環境保護や、採集行為からまもることは重要である。(宮崎一夫)



ヒツジグサ *Nymphaea tetragona* Georgi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

スイレン科 Nymphaeaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

浮葉性の多年草。浮葉植物で、地下茎は塊状で太く短い。沈水葉は側裂片が横に広がり矢尻形で長さ15 cm。浮葉は卵円形で長さ5~30 cm、深く切れ込む。葉裏は淡赤紫色。気孔は葉の表面のみにあり裏面にはない。花期は6~10月。花は径3~7 cm。萼片は4個、花弁は白色で8~15個。雄蕊は多数の心皮が合生する。開花期間は2~3日。雌性先熟で雌蕊は1日目に成熟する。雄蕊は2日目に成熟する。近似種のスイレンは園芸逸出である。

2. 分布

国外ではヨーロッパ、東アジア、インドに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

低地のやや富栄養な池に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、低地の広くに記録があり、特に西部では多くの産地が記録されている。産地は少なく産量も少ない。しかし近年は確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

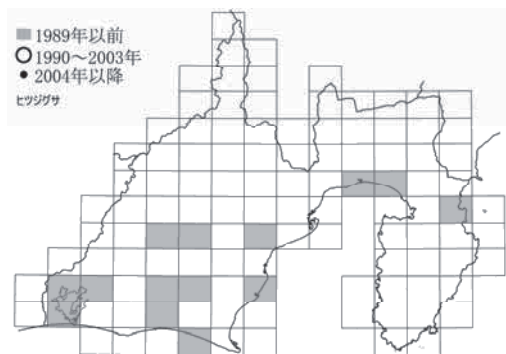
池の破壊(12)やハスなど他の水生植物との競合(56)が生育の圧力である。園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

無用となった古池も先住生物の生存権があるので破壊することは避ける。(宮崎一夫)



掛川市 1986年10月9日 杉野孝雄



オオヤマレンゲ *Magnolia sieboldii* K. Koch subsp. *japonica* K. Ueda

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

モクレン科 Magnoliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さ5 m。幹は斜上して屈曲する。葉は全縁で互生し広倒卵形で長さ6~18 cm。葉柄は長さ2~4 cm。花期は6~7月。花は径5~10 cm、白色で頂生しやや下向に開き芳香がある。外花被片(萼片)は3個で赤色を帯び、内花被片(花弁)は6個で白色。雄蕊は多数あり、葯は淡黄色。集合果は長楕円形で長さ6 cm、赤熟する。近縁種のホオノキは花が上を向いて開く。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の尾根に沿った岩礫地の落葉樹林中に生育する。

4. 生育状況

産地は浜松市天竜区に局限している。産量は極度に少ない。枯れた親株の根元から萌芽している。生育は周囲の針葉樹に被陰されて不良である。

5. 減少の主要因と脅威

落葉樹林の皆伐(11)と、被陰による生育阻害(54)が主要因である。園芸目的の採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

落葉樹林の伐採を回避する。周辺樹木の伐開により光条件の改善を図る。(宮崎一夫)



©PIXTA



シコクヒロハテンナンショウ *Arisaema longipedunculatum* M. Hotta

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

サトイモ科 Araceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ40 cmほど。葉は1個稀に2個。偽茎部は葉柄部より短く、偽茎部の開口部は襟状に広がらない。小葉は5~7個で小葉間の葉軸はほとんど発達しない。小葉の縁には粗い鋸歯がある。花期は6月。花時の花柄は葉柄より短く仏炎苞は白緑色である。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県、山梨県)、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

落葉樹林の林内に生育する。

4. 生育状況

静岡市と旧中川根町に生育する。産地は限られて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)による生育地の消失が懸念される。

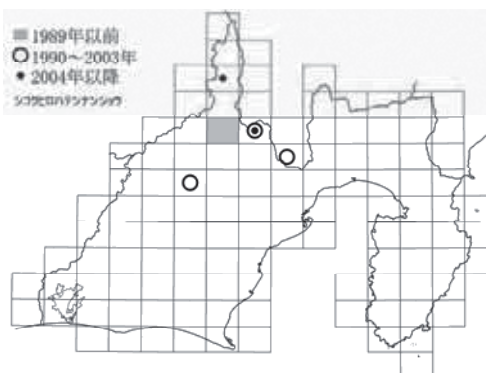
6. 保護対策

生育地における山林伐採の制限などの保護対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



静岡市 2010年6月26日 内藤宇佐彦



オオミネテンナンショウ *Arisaema nikoense* Nakai

subsp. *australe* (M. Hotta) Seriz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-②③) 変更なし

サトイモ科 Araceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ15~50 cm。葉は2個ときに1個、偽茎部と葉柄部はほぼ同長。葉身は5 (~7)小葉に分かれ、小葉間の葉軸はほとんど発達しない。花序柄は花時には葉柄よりも長い。仏炎苞は紫褐色から帯紫色。花序付属体は細棒~やや棍棒状。淡紫褐色で斑がある。花期は5~6月。地下の球茎の腋芽は子球に発達する。

2. 分布

日本固有亜種で、本州(静岡県、山梨県、近畿地方の大峰山系)に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

温帯林の林床に生育する。

4. 生育状況

伊豆半島、東部の富士山麓、中部の安倍峠から山伏周辺に記録がある。前回(2004年)調査以降、富士山麓や井川の県民の森周辺で新たな産地が確認されたが、そのうち県民の森では、急激に減少している。

5. 減少の主要因と脅威

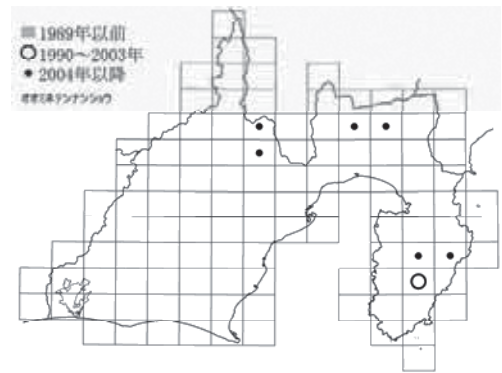
園芸用採取(41)、シカによる食害(52-1)が減少の主要因である。テンナンショウ属植物はシカの嗜好植物であるが、シカの食痕が認められる個体もある。

6. 保護対策

シカよけの柵を設置すること。(湯浅保雄)



裾野市 2017年5月31日 湯浅保雄



ムサシモ *Najas ancistrocarpa* A. Braum ex Magnus

(= マガリミサヤモ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

沈水性の一年草。茎は細くよく分枝する。葉は糸状で長さ1~2 cm、幅0.15~0.2 mmで縁に鋸歯がある。葉鞘は切形である。花期は7~9月。雄花は苞鞘に包まれ、雌花の基部にも苞鞘がある。種子は三日月形で葉脇につく。

2. 分布

国外では台湾、北米(帰化?)に、国内では本州、四国に分布する。県内では西部の低地に分布する。

3. 生育環境

低地の池沼や川に生育する。

4. 生育状況

浜松市などに生育する。個体数も多く良好な生育場所もあった。養魚場跡の生育地はほとんど消滅した。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て(12)や水質悪化(31)が減少の要因である。

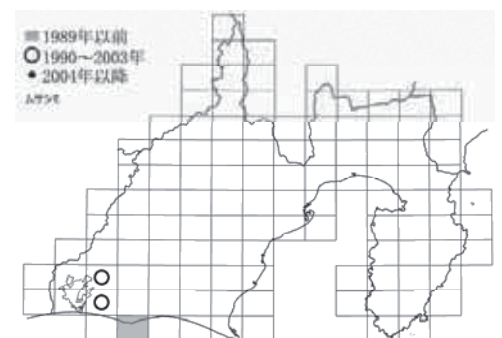
6. 保護対策

生育地と水質の保全、灌漑用にせき止めた川が生育地のものは、現況の維持が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2001年8月16日 内藤宇佐彦



リュウノヒゲモ *Potamogeton pectinatus* L.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ヒルムシロ科 Potamogetonaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

沈水性の多年草。水中茎はきわめて細く、よく分枝し長さ0.3~2 mとなる。葉は水中茎に互生し、針状で長さ5~15 cm、幅0.3~1.3 mm。葉の基部は托葉と合着して葉鞘となり茎を抱く。花期は6~9月。葉腋から細い5~20 cmの花茎を出し、その先に長さ1.5~4 cmの穂状花序をつけ、水面上によこたわる。花は両性花で花被片様の葯隔付属突起が4個、心皮が4個ある。

2. 分布

国外では世界に広く、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

温帯から熱帯の淡水から汽水の湖沼や水路。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)では、浜松市天竜区や浜名湖周辺の記録があり、また前回(2004年)調査では遠州灘に注ぐ河川の河口で確認されている。今回も西部で確認された。

5. 減少の主要因と脅威

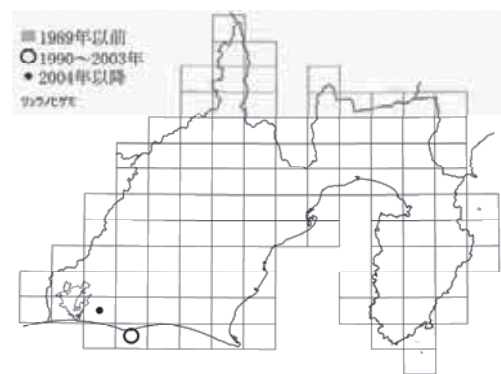
河川の開発(13)や海岸整備(14)などによる生育環境の消失が減少の主要因である。また水質汚濁(31)の影響も指摘されている。

6. 保護対策

生育環境に配慮した保護が必要である。(湯浅保雄)



浜松市 2007年9月3日 加藤 徹



ホンゴウソウ *Sciaphila nana* Blume

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ホンゴウソウ科 Triuridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

菌従属栄養植物の多年草。高さ3~13 cm。茎、葉は紫赤色。葉は鱗片状に退化し、葉緑素はない。花期は7~10月。4~15個の花をつける。雄花の葯隔に付属突起がある。小型で暗い色なので、目立ちにくい。

2. 分布

国外では東南アジアに、国内では本州(千葉県以西)、四国、九州、沖縄に分布する。県内では、伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

スギ林などの暗い林の落ち葉の間に生える。

4. 生育状況

伊東市、静岡市、三ヶ日町などに生育する。産地は限られていて、生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

踏みつけの影響(51)は受けるが、森林伐採(11)などの環境の変化の影響が大きい。

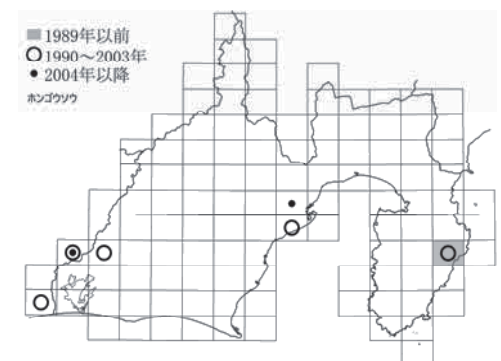
6. 保護対策

自生地への立ち入りは、極力避けたい。多年草ではあるが、長期間同一場所に生育しないようなので積極的な保護は難しい。

(西口紀雄)



静岡市 2016年8月31日 西口紀雄



ウエマツソウ *Sciaphila secundiflora* Thwaites ex Benth.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件①②) 変更なし

ホンゴウソウ科 Triuridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

菌従属栄養植物の多年草。高さ6~10 cm。全体に赤紫色を帯びる。茎の径0.8 mmでほとんど分枝しない。葉は鱗片状で長さ約3 mm、葉緑素はない。花期は7~9月、総状花序は長さ1~4 cmで、上部に雄花、下部に雌花がつく。雄花の花被は深く6裂し、裂片は細い線形、雌花の花被も6裂するが、裂片は雄花より幅広く披針形である。

2. 分布

国外では台湾、香港、タイ、ニューギニア、スリランカに、国内では本州(新潟県、関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の樹林内の暗い地上に生育する。

4. 生育状況

県内では初めて伊東市で確認されたが、その後の消長は不明である。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)や開発(23)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認されたら、その生育環境を維持すること。

(湯浅保雄)



伊東市 1995年7月9日 加藤 徹



ミカワバイケイソウ *Veratrum stamineum* Maxim. var. *micranthum* Satake

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件①②) 変更なし

シュロソウ科 Melantheriaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ50~100 cm。高地に生える基本種のコバイケイソウに比べ、花は小さく花被片の縁が細かく切れ込む。雄蕊は、花被片の2倍ある。花期は5~6月。茎頂に円錐花序がつき、花は白緑色である。コバイケイソウが湿地に遺存して分化した、貴重な植物である。

2. 分布

日本固有変種で、本州(静岡県、愛知県、長野県、岐阜県、三重県)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

台地周辺の湧水湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市に生育する。かつては三方ヶ原台地周辺の湧水湿地に広くみられたが、稀な植物となった。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発(15)、管理放棄による遷移の進行(54)、乾燥化など(53)で多くは消滅した。

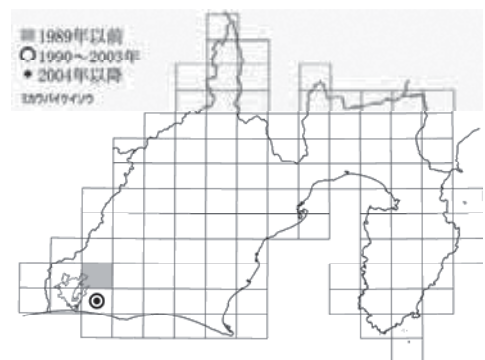
6. 保護対策

生育地の立ち入りの禁止、草刈りなどの植生遷移の抑制が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2015年4月22日 宮崎一夫



チャボシライトソウ *Chionographis koidzumiana* Ohwi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

シュロソウ科 Melanthiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ12~30 cm。根出葉は卵形~狭卵形で、柄と共に長さ2~8 cm。花期は5月。花茎の上部にまばらに10~20個ほどの花をつける。花被片は白色あるいは緑白色、帯紫色で、上方の4花被片は糸状で先は広ならず長さ9~15 mm、下方の2花被片は退化する。雄蕊は6個。蒴果は長さ3~4 mm。類似のシライトソウは花を密につけ、花被片の長さは10 mmほどである。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県、愛知県、紀伊半島）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の谷間のやや湿った林床や岩石地に生育する。

4. 生育状況

産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)と生育環境の悪化(71)が減少の主要因である。

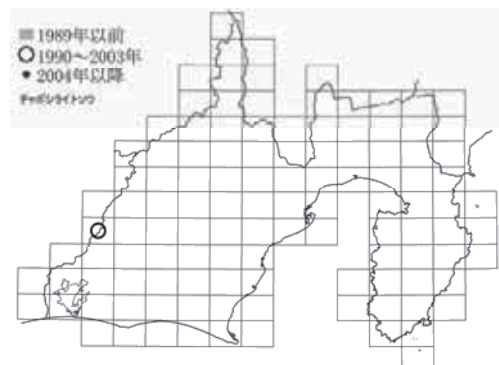
6. 保護対策

生育地の保護と、園芸採取を防ぐために、産地情報の公開には慎重な配慮が必要である。

(湯浅保雄)



©2020 photolibrary
©フォトライブラリ



コシノコバイモ *Fritillaria koidzumiana* Ohwi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。鱗茎は球形で径1 cm、半球形の2個の鱗片からなる。茎の上部に2枚の対生葉があり、その上に3枚の輪生葉をつける。葉は無柄で披針形から広線形で長さは3~6 cm。花期は4月。花は広鐘形で茎頂に1個つき下向きに開く。花被片は長さ15~20 mm、長楕円形で淡黄色、暗紫色の網目模様が入る。内花被片の縁に小突起がある。葯はクリーム色。近似種のみノコバイモは内花被片の縁は平滑である。

2. 分布

日本固有種で、本州（山形県、福島県~石川県、静岡県、岐阜県）に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の林床に生育する。

4. 生育状況

産地は少ない。産量は少ない。開花株は少ないが一葉の株は多く見られる。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)が主要因である。植林やアオキなどの常緑樹による被陰(71)も脅威である。

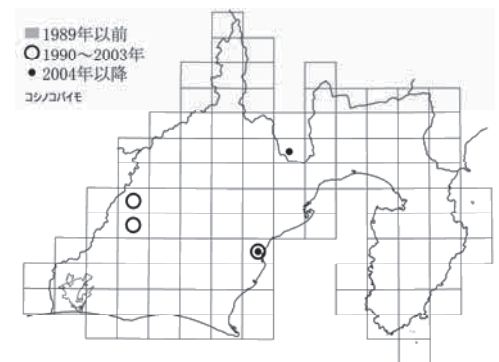
6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために立ち入りを禁止する。

(宮崎一夫)



静岡市 2014年4月10日 宮崎一夫



カイコバイモ *Fritillaria kaiensis* Naruh.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。茎の上部に2枚の葉が対生し、その上に3枚の葉が輪生する。茎頂に1個の杯状鐘型の花を下向きにつける。花のカーブは、国内産コバイモの中で、最もゆったりとして優美である。花被片は6枚あり長さ1.2~2.0 cmで同形同大。内部の中肋、縁に突起はない。花被片の外部には、淡紫色のぼんやりとした斑紋があり、中央にやや濃い斑紋がある。本県産の個体は、斑紋がやや濃い。

2. 分布

日本固有種で、本州（東京都、山梨県、静岡県）に分布する。県内では東部（富士市、富士宮市、旧芝川町）に分布するが、最近、中部（龍爪山付近）でも発見されている。

3. 生育環境

落葉広葉樹の明るい林の傾斜地を好む。

4. 生育状況

小型で目につきにくく、産地は限られている。

5. 減少の主要因と脅威

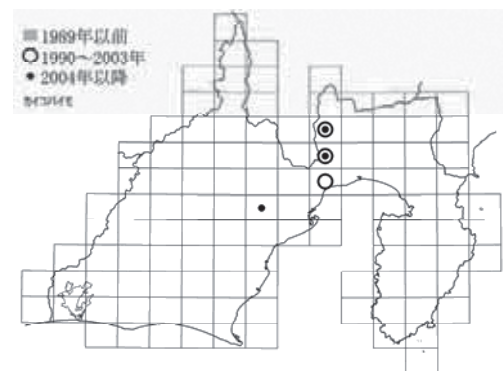
園芸目的の採取(41)は脅威ではあるが、最大の脅威は、スギ、ヒノキの植林(71)と、林の放置(53)による下草の繁茂、ササの侵入である。

6. 保護対策

特定第一種国内希少野生動物種及び静岡県指定希少野生動物に指定。里山の植物であり、適度に手入れされた林の維持が欠かせない。生態と影響要因をよく理解した保護団体の育成などが必要である。（西口紀雄）



富士宮市 2007年3月9日 西口紀雄



ヒメアマナ *Gagea japonica* Pascher

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。地下に鱗茎をもち、春5~20 cmほどの茎をあげて、黄色の小さな花を咲かせる。根出葉は1枚。葉は、長さ10~20 cmで、巾は2 mmほどの線形である。半円筒形で内面が窪む。花は長さ6~9 mm。繊細な花で、1~5個つく。

2. 分布

日本固有種で、北海道から本州（長野県、静岡県、滋賀県）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

低山の湿った草原に生育する。

4. 生育状況

朝霧高原の草原に生育する。個体数は少なく、ほとんど目につかない。

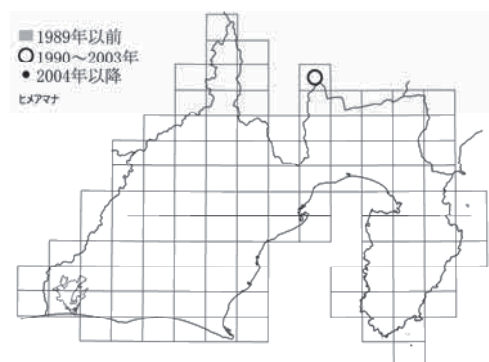
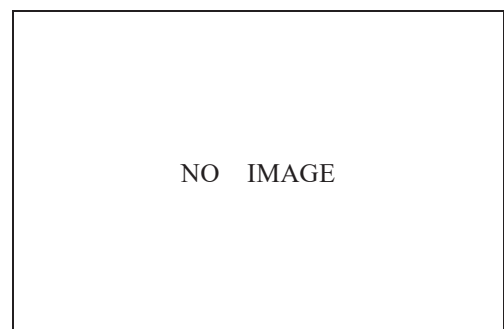
5. 減少の主要因と脅威

草地の開発(16)、山林伐採(11)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地の保護と植生の遷移を防ぐことが急務である。

(西口紀雄)



ヒナラン *Amitostigma gracile* (Blume) Schltr.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ5~15 cm。根は紡錘状に肥厚している。葉は茎の下部に1枚つき、長さ3~8 cm、幅1~2 cmの長楕円~広披針形で基部は茎を抱く。花茎はやや斜めに立つ。花期は6~7月。淡紅色の小花が10~15個、一方に偏ってつく。唇弁は他の花被片より長大で、ほぼ中央で3裂する。距は細い筒状で長さ1~1.5 mmと短い。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島に、国内では本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山地の樹林下の岩上に着生している。川沿いの岩上にも見られる。

4. 生育状況

県内では唯一浜松市天竜区佐久間町で見つかったが、今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)などによる生育環境の悪化や河川工事(13)が減少の主要因である。また園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

生育が確認されたら、森林伐採などの急激な環境変化を防ぐこと。また、園芸採取を防ぐため、産地情報の公開には慎重な配慮が必要である。(湯浅保雄)



浜松市 2002年6月20日 杉野孝雄



ユウシュンラン *Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume

var. *subaphylla* (Miyabe et Kudô) Ohwi

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ10~15 cm。葉は退化して長さ2 cm、淡緑色でやや厚みがある。花期は5月。花は白色で長さ5 mm、茎頂に数個上向きに半開する。唇弁は褐色の筋がある。距は斜めに突き出る。近似種のギンランは花の長さ7~9 mmである。

2. 分布

国外では朝鮮半島、濟州島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯の山地の落葉樹林下で、斜面の下部にある砂礫の多い林床に生育する。

4. 生育状況

産地は中部の奥地で産量は少ない。矮小で目立たないので、確認がやや困難な種である。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)と環境変化(71)が主要因となる。

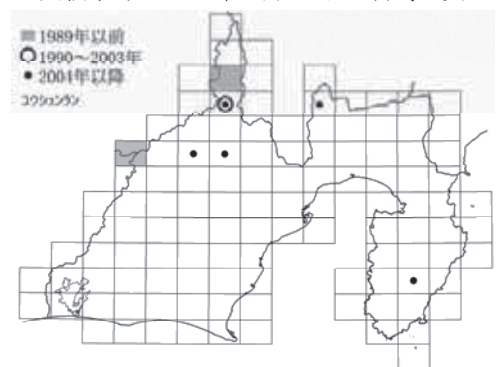
6. 保護対策

特殊な生態の植物なので森林伐採の回避だけでなく、生育環境の保全が重要である。

(西口紀雄・宮崎一夫)



川根本町 2018年4月22日 宮崎一夫



タカネアオチドリ *Dactylorhiza viridis* (L.) R. M. Bateman, A. M. Pridgeton et M. W. Chase

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし ラン科 Orchidaceae
 [2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ8~10 cm。葉は互生しふつう1~4個あり長楕円形。花は総状につき緑色。萼片は狭卵形で長さ5 mm。唇弁はやや楔形で長さ8 mm、先が浅く3裂する。近縁種のアオチドリは冷温帯に分布して高さ20~30 cm。

2. 分布

日本固有種で南アルプスに分布し、県内では中部に分布する。

3. 生育環境

高山帯下位のハイマツ林下に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスに限定的である。産量はきわめて少ないと思慮される。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) が主要因である。園芸採取 (41) も脅威である。

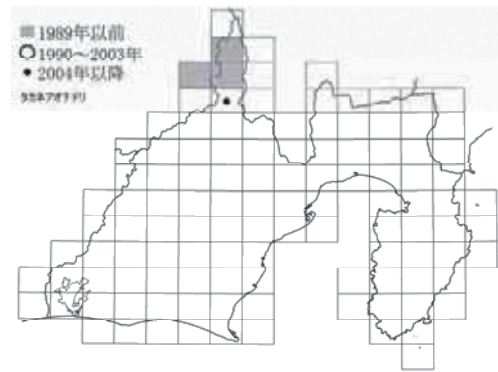
6. 保護対策

生育地が確認された場合は、植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。

(宮崎一夫)



静岡市 2010年7月17日 室伏幸一



マヤラン *Cymbidium macrorhizon* Lindl.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし ラン科 Orchidaceae
 [2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ10~30 cm。花茎は淡緑色の円柱形で、下部に膜質鞘状の葉が退化した鱗片葉をつける。花期は6~10月。花は白色で2~6個つき径3 cm、紅紫色の斑模様がある。萼片は皮針形で先がとがり長さ2 cm。唇弁は長楕円形で反曲し長さ15 mm。近縁種のアギランは葉が狭長楕円形。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では本州 (関東以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の常緑樹林やスギ林の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

浜松市と伊東市に生育し、産量は局所に群生する。生育状況は年による消長があり、発生する場所も近くに移動する。

5. 減少の主要因と脅威

植生の遷移 (54) が主要因である。観察者や撮影者の踏圧 (51) も脅威である。

6. 保護対策

生育地は過去の場所も含めて、立ち入りを禁止することが重要である。産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



焼津市 2018年7月18日 宮崎一夫



ハコネラン *Ehippianthus sawadanus* (F. Maek.) Ohwi ex Masam. et Satomi

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。葉は1枚で楕円状円形、長さは1.5~3 cm。花期は6~7月。花茎に3~8花をつける。全体にコイチョウランに似るが、花は緑黄色で唇弁に歯牙があり、蕊柱の上方両側に翼状の突起がある。フォッサマグナ要素の植物とされている。

2. 分布

日本固有種で、本州(東京都、神奈川県、和歌山県)に分布する。県内では伊豆、東部(愛鷹山、富士山)、中部(安倍奥)、西部(旧水窪町)に分布する。

3. 生育環境

ブナ帯付近の腐植土に生育する。

4. 生育状況

道路の法面などの腐植土に生育する。春先の降水量にも左右され、年によって消長が激しい。シカによる食害も見ている。個体数は少なく、産地は限られている。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)などの生育地の破壊が心配される。

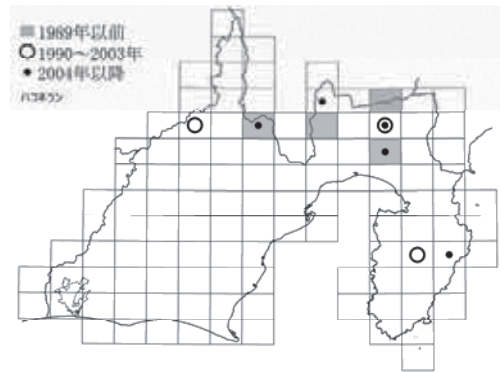
6. 保護対策

小型の地味なランであり、園芸目的の採取は確認していない。踏みつけ、森林の伐採は懸念される。

(西口紀雄)



裾野市 2017年7月6日 香西博子



トラキチラン *Epipogium aphyllum* Sw.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ10~30 cm。茎は肉質でまばらに鞘状葉がある。花期は8~9月。茎の上部に2~8個の花を総状につける。花は淡黄褐色で紅紫色の細点がある。萼片と花被片は狭披針形で、長さ12~14 mm。唇弁は3裂して中裂片は上方に反曲する。距は直立して長さ4~8 mm。近縁種のアオキランは唇弁が3裂しない三角状で内側に反曲する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ユーラシア大陸に、国内では北海道、本州(東北、中部)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯の針葉樹林下に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスに局限している。産量は少ない。生育状況は年による産量の消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。土壌の流出(71)やマニアによる採取(41)も脅威である。

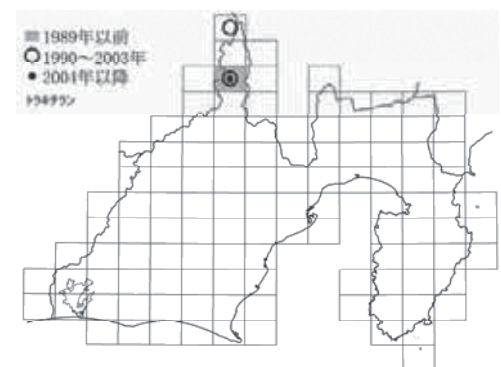
6. 保護対策

生育地は過去の場所も含めて、立ち入りを禁止することが重要である。産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



静岡市 2006年9月2日 加藤 徹



ナヨテンマ *Gastrodia gracilis* Blume

(=ナガイモヤガラ、タイワンアケヤガラ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ10~60 cm。葉は退化し、鱗片葉をつける。花期は6~7月。5~15個の白褐色の花をつける。唇弁は三角形で基部は切形、縁は細裂しない。唇弁は、風や人が触るなどの振動で上に巻き上がる。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の照葉樹林下、スギ林に自生する。

4. 生育状況

東伊豆町、静岡市、焼津市、掛川市、森町などに生育する。年により消長が激しい。

5. 減少の主要因と脅威

山林の伐採(11)、林の下草の伐採、踏みつけ(51)など、デリケートな植物である。何がどう悪影響なのか調査もできていない。

6. 保護対策

生育条件が不明なので、今のところそっとしておくしか方法がない。
(西口紀雄)



焼津市 2016年6月22日 宮崎一夫



ヒロハツリシュスラン *Goodyera pendula* Maxim.

f. *brachyphylla* (F. Maek.) Masam. et Satomi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

樹木に着生する多年草。高さ10~20 cm、垂れ下がる。葉は常緑で数個あり、卵形で長さ2~3 cm。花期は7~8月。穂状花序は花を多数つけ、上向に曲がる。萼片は長さ4 mm。花は白色。側花弁は狭倒披針形。唇弁は広卵形で、萼よりも少し短く基部が袋状である。近縁種のツリシュスランは葉が広披針形である。

2. 分布

日本固有品種で、北海道、本州(中部以北)に分布する。県内では西部、中部、東部、伊豆に分布しており、静岡県は南限自生地である。

3. 生育環境

温帯深山の雲霧に覆われる老木の樹幹で、日陰側の苔むした中に生育する。

4. 生育状況

産地は多く点在する。各地とも産量は少ない。巨樹が朽ちて強風で倒れると、生育が悪化することや採取が容易になる。

5. 減少の主要因と脅威

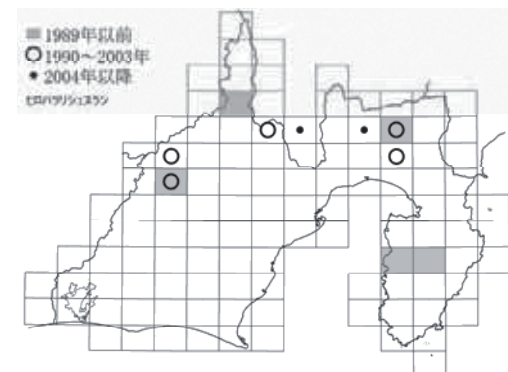
倒木や森林伐採(11)が主要因であるが、園芸目的の採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

森林伐採の際には皆伐せず巨木は保全する。(宮崎一夫)



静岡市 2018年11月3日 室伏幸一



フジチドリ *Neottianthe fujisanensis* (Sugim.) F. Maek.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

樹木に着生する多年草。高さ4~7 cm。葉は下方1枚、4~5 cm 線状倒披針形で円頂、上に小形線状披針形の1葉と、さらに小型の葉状の苞がある。花期は7月。花は2~5個、淡紅色、唇弁は長楕円形で中部両側に1対の耳状小片あり。距は楕円形で短い。和名は、富士山で発見されたことに由来する。

2. 分布

日本固有種で、本州(青森県、秋田県、新潟県、山梨県、静岡県)に分布する。県内では、東部(富士山、愛鷹山)、中部(安倍峠)、西部(白倉国有林)に記録があるが、近年確認されていない。

3. 生育環境

温帯のブナの樹幹上に着生する。

4. 生育状況

近年確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)やブナなどの古木の枯死(54)で減少した。

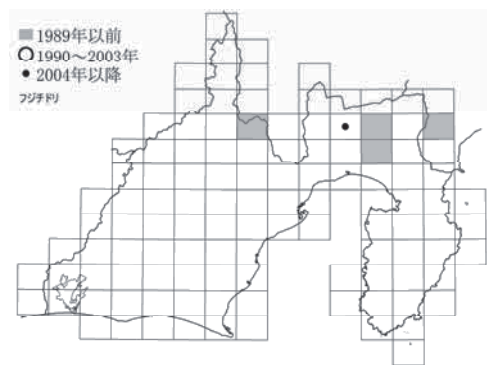
6. 保護対策

確認された場合は、産地の公開に配慮することの他、慎重な配慮が必要である。

(西口紀雄)



静岡県 1976年8月27日 佐藤政幸



ダイサギソウ *Habenaria dentate* (Sw.) Schltr.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~70 cm。茎の下部に、4~5枚の葉があり、また上部に少数の鱗片葉がある。葉は先の尖った楕円形で長さ5~15 cm前後、巾1 mm前後の白い縁取りがある。花は、萼片、花弁ともに白い。唇弁の中裂片は細いが、側裂片は巾広く、外縁に不整な鋸歯がある。

2. 分布

国外では東南アジア、ネパール、シッキムなどに、国内では本州(千葉以西)、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい湿地や湿った草地に生育する。

4. 生育状況

小笠山周辺や旧佐久間町の記録がある。近年生育が確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

草地の開発(16)、管理放棄による環境の変化(53)などで減少している。

6. 保護対策

産地が確認された場合は、生育地への立ち入りの禁止と、園芸採取と生育環境の改変を防ぐ手立てを考える必要がある。

(西口紀雄)



© PIXTA



オオミズトンボ *Habenaria linearifolia* Maxim.

(=サワトンボ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~60 cm。葉は茎の下部に数個あり、線形で長さ 10~20 cm、基部は茎を抱く。花期は 8~9 月。花は白色で長さ 1~1.5 cm、茎の上部に 5~7 個つける。萼片は卵形で長さ 7 mm。唇弁は十字状、各裂片は線形で細く長さ 15 mm。唇弁の側裂片は下向きに湾曲する。距は長さ 2.5~3 cm。近縁種のみズトンボは唇弁の側裂片が斜上し、距は長さ 1.5 cm。

2. 分布

国外ではウスリー、アムール、中国、朝鮮半島に、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

温帯の日当たりがよい湿原の草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に東部と西部に各 1ヶ所の記録がある。前回 (2004 年) の調査と今回の調査でも確認できない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) や湿原の開発 (15) が主要因である。園芸採取 (41) も脅威である。

6. 保護対策

きわめて個体数が少ない種であり、生育地の保護と園芸採取を防ぐため、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



愛知県 1976年8月27日 内藤宇佐彦



ヤクシマアカシュスラン *Rhomboda yakusimensis* (Masam.) Ormerod

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~25 cm。根茎は地上を這う。茎は直立する。葉は濃緑色のややビロード状で中央脈が淡緑色、卵状長楕円形で長さ 3~8 cm、3~5 個ある。花期は 9~10 月。帯紅白色の花を 3~5 個つける。萼片と花弁は共に長さ 3 mm。唇弁は内部に突起がある。近縁種のみメノヤガラは普通葉がない。

2. 分布

国外では台湾、ジャワに、国内では本州（静岡県西部以西）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布し、北東限の自生地である。

3. 生育環境

暖帯低山の常緑樹林下で、薄暗い湿った所に生育する。

4. 生育状況

近年、西部で確認された。産量は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

土壌の乾燥化 (71) や植生遷移 (54) が主要因である。園芸採取 (41) も脅威である。

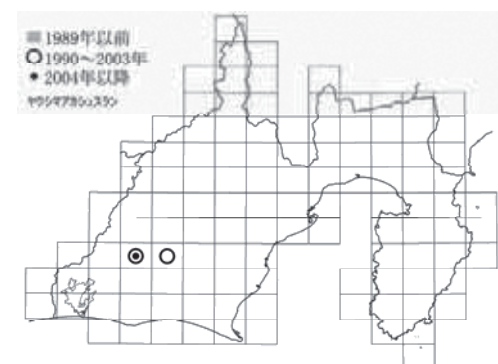
6. 保護対策

分布の限界に生育する貴重な植物であり、生育地の保護保全を図りたい。産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



磐田市 2005年9月17日 宮崎一夫



ヒメノヤガラ *Chamaegastrodia sikokiana* Makino et F. Maek.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ5~20 cm。地上茎には毛がなく鱗片葉を互生する。花期は7~8月。総状花序に5~15個の花をつける。花も茎も橙色。萼片と側花弁の長さは3~4 mmで筒状になって先がわずかに開く。

2. 分布

国外では朝鮮半島南部、中国南西部からヒマラヤに、国内では本州(岩手県以南)、四国、九州に分布する。県内では伊豆と東部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の落葉広葉樹林や常緑広葉樹林のやや明るい林床。

4. 生育状況

これまでに確認された産地や個体数は少ない。しかし、目立たない植物なので、よく探せばかなり広い範囲に分布している可能性がある。

5. 減少の主要因と脅威

常緑広葉樹林の伐採(11)や山林の開発(23)が減少の主要因である。

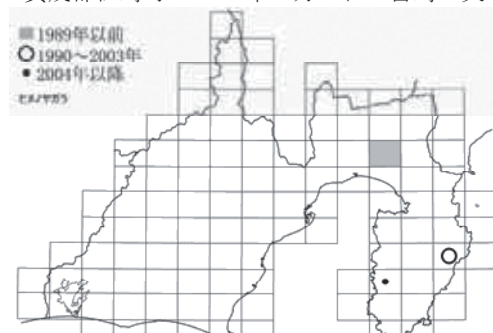
6. 保護対策

特になし。

(湯浅保雄)



賀茂郡松崎町 2017年9月4日 宮崎一夫



クロクモキリソウ *Liparis koreana* Nakai var. *honshuensis* K. Inoue

(=クロクモキリ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-②③) 変更コード4

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー なし: 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ30 cm。茎は肥厚して球状。葉は2枚で楕円形。縁は細かく縮れる。幅5~7 cm、長さ10 cmほどである。花期は6~8月。花茎に5~10個ほどの花をつける。花は暗紫色で唇弁は厚く、垂直に外曲する。近縁のフガクスズムシは、樹上に着生し、花茎の高さは3~10 cm、葉も1.5~5 cmと小さい。

長野県で発見され、県内では2014年に確認された。オオフガクスズムシとの類縁関係も今後の検討課題である。

2. 分布

日本固有変種で、本州中部に、県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の林床や苔の生えた岩上などに生育する。

4. 生育状況

大井川源流部地域では、場所によってはかなりの密度で生育しているが、他では非常に少ない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)とシカによる食害(52-1)が減少の主要因である。園芸採集(41)も脅威である。

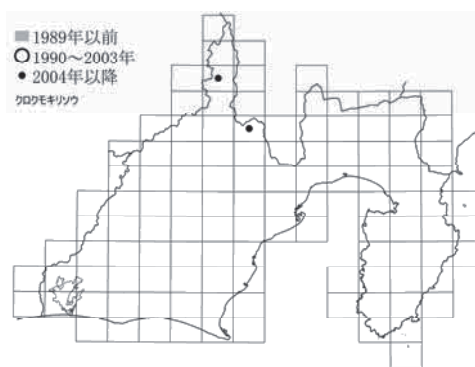
6. 保護対策

生育地にシカの防護柵を設置し保護する必要がある。

(湯浅保雄)



静岡市 2015年7月8日 湯浅保雄



フガスズムシソウ *Liparis fujisanensis* F. Maek. ex F. Kōta et S. Matsumoto

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

樹木に着生する多年草。高さ3~10 cm。花期は5~6月。スズムシソウに似て、唇弁は中部で後方へ強く半曲する。唇弁は、スズムシソウ同様に紫色。他の花弁は細く、わずかに紫色を帯びる。富士山が基準産地である。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では東部(富士山、愛鷹山)、中部(安倍川上流)に分布する。

3. 生育環境

ブナ、カエデなどの巨木に張り付いたコケの中に着生する。

4. 生育状況

生育基盤である着生植物全体が著しく減少傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取(41)が懸念される。その他、着生植物全体が減少していることは、酸性雨などの影響(71)も考える必要がある。

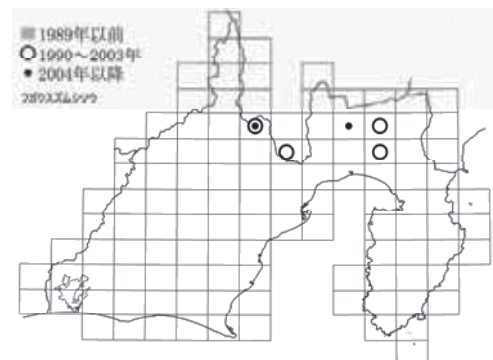
6. 保護対策

老木、古木の保護が必要である。倒木も目立つが、倒木に着生している個体は、枯死もしくは人為的な採取により壊滅している。これらを保護する必要がある。

(西口紀雄)



富士宮市 2017年7月6日 宮崎一夫



セイトカスズムシソウ *Liparis japonica* (Miq.) Maxim.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さは10~30 cm。葉は広楕円形、長さ6~7 cm、幅3~5 cm。2個つける。花茎は直立する。花期は6~7月。淡緑色または帯紫色の花をつける。唇弁の長さは9~12 mm。側萼片は線状披針形で長さ8~9 mmである。類似のスズムシソウでは、唇弁の長さが14~17 mm、側萼片は広線形で長さ10~15 mmであるので区別できる。

2. 分布

国外ではアムール、中国(東北)、朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

亜寒帯~冷温帯林の林床や苔の生えた岩の上。

4. 生育状況

各地に記録はあるが、前回(2004年)の調査時でも今回の調査でも生育は確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)による生育環境の消失が減少の主要因であるが、園芸採取(41)も一因であると指摘される。

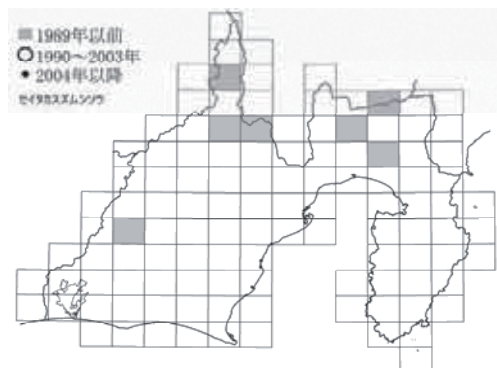
6. 保護対策

生育が確認された場合は、生育地の環境を保全し、園芸採取を防ぐため情報公開は慎重に行う。

(湯浅保雄)



山梨県 2019年7月2日 宮崎一夫



サカネラン *Neottia papilligera* Schltr.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ 20~40 cm。根は束生し、先が上向する。茎はやや太く肉質で毛が密生し、鞘状の退化葉をつける。花期は 5~6 月。花序全体に淡黄褐色の短腺毛がある。花は淡黄褐色で多数密生する。萼片や花弁は倒卵形で長さ 5~6 mm。唇弁は長さ 10~12 mm、2 中裂して裂片は横に大きく開く。距はない。近縁種のヒメムヨウランは唇弁の長さが 2~3 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、サハリン、シベリアに、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では東部、中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の山地上部から亜高山帯の落葉樹の林床に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）に東部と南アルプスに記録がある。前回（2004 年）調査と今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採（11）と植生遷移（54）が主要因である。

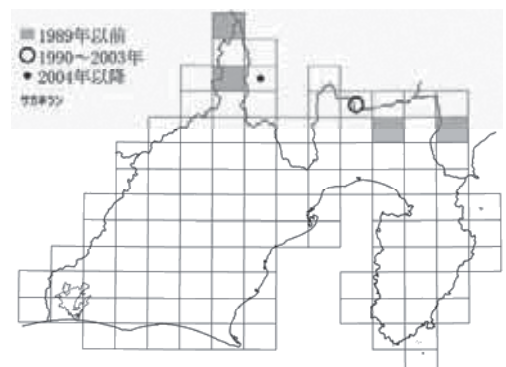
6. 保護対策

森林伐採は皆伐しないで、択伐して大きな環境の変化を与えないように配慮することが重要である。

（宮崎一夫）



山梨県 2019年5月27日 宮崎一夫



ヒナチドリ *Ponerorchis chidori* (Makino) Ohwi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

樹木などに着生する多年草。高さ 7~15 cm。葉は下部の 1 枚あり、広披針形、長さ 6~12 cm、幅 1.2~3.5 cm。基部は茎を抱く。花期は 7~8 月。紅紫色の花を数個つける。白色花もある。背萼片は長楕円形、側萼片は斜卵形、ともに長さ 5~6 mm。側花弁は広卵形、萼片より短い。唇弁は深く 3 裂し、長さ 8~10 mm。距は長さ 13~17 mm で、基部はわずかに太くなる。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州、四国に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の山地の苔の生えた樹幹や岩石に着生する。

4. 生育状況

2 前回（2004 年）調査では 2 ヶ所で確認されたが、今回の調査では確認することはできなかった。

5. 減少の主要因と脅威

天然林の伐採（11）と園芸採取（41）が減少の主要因である。

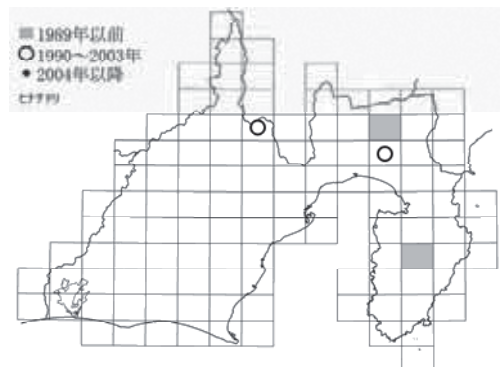
6. 保護対策

大径木からなる天然林の伐採を制限し、また園芸採取を防ぐために産地情報の公開に注意すること。

（湯浅保雄）



静岡市 2002年6月5日 杉野孝雄



カモメラン *Galearis cyclochila* (Franch. et Sav.) Soó

(=イチョウチドリ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。根は紐状である。茎は翼がある。葉は広楕円形で長さ4~6 cm、幅2~5 cm、1個である。花期は5~6月。苞葉は花の下に1個つき長楕円形。花は2個で淡紅色、稀に白色。萼片と花弁には覆輪状に濃い紅紫色の縁がある。唇弁は広楕円形で先が丸く紅紫色の斑点がある。近縁種のハクサンチドリは葉や花の数がより多く、唇弁の先が尾状鋭尖頭である。

2. 分布

国外ではサハリン、朝鮮半島、ウスリーに、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯で深山の湿気の多い林縁や溪流沿いの岩上に生育する。

4. 生育状況

富士山、南アルプス、旧水窪町で確認されている。株数は少ない。草地の中に、数株ずつがまとまって生えている。

5. 減少の主要因と脅威

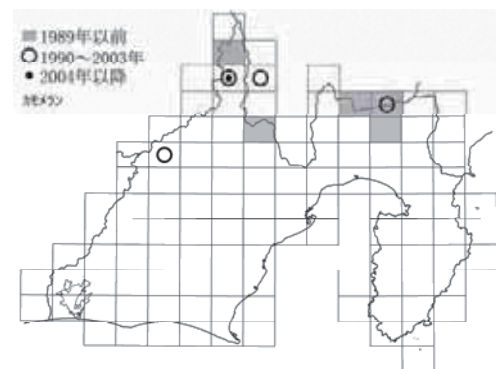
園芸目的による採取(41)が主要因である。

6. 保護対策

園芸採取を防ぐために、産地情報の公開には慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 1999年5月30日 宮崎一夫



シロウマチドリ *Limnorchis convallarifolia* (L.) Lindl.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ25~50 cm。根の一部は紡錘状に肥厚する。葉は数個が互生し、楕円形で長さ5~7 cm、上方のものは次第に小さくなる。花期は7~8月。花は黄緑色で多数を総状につける。苞は披針形で花よりも長い。側萼片は卵楕円形。唇弁は長楕円状卵形で長さ5 mm。距は背萼片と同長で4~5 mm。近縁種のミズチドリは花が純白色で、距の長さが背萼片よりも長い。

2. 分布

国外では千島、カムチャツカ、アリューシャンに、国内では北海道、本州中部に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布しており、静岡県は分布の南限自生地である。

3. 生育環境

高山帯のやや湿った草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に南アルプスの記録があり、前回(2004年)確認はなかったが、今回南アルプスで確認された。

5. 減少の主要因と脅威

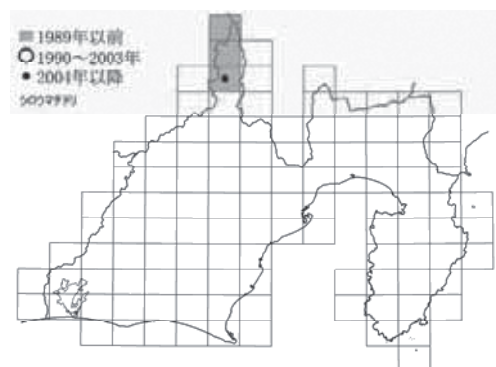
乾燥による植生遷移(54)や踏圧(51)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

生育地は、植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。(宮崎一夫)



©2020 T.Kato
静岡市 2015年7月20日 加藤 徹



トキシウ *Pogonia japonica* Rchb. f.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。茎の基部に鱗片葉があり、通常、葉は茎の中央につく。花期は5~7月。花は紅紫色で茎の先端に1個横向きにつき、斜めに平開する。唇弁は3裂し距はない。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア東部に、国内では北海道から九州まで分布する。県内では全県下に広く分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい山地の湿地に自生する。

4. 生育状況

各地の湿地に生育していたが、ほとんどの産地が失われた。最近では、稲取の細野高原以外に自生情報は無い。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発(15)、管理放棄による植生の遷移(53)などで激減している。園芸目的の採取(41)で、最後の少数も絶滅が危惧される。

6. 保護対策

東伊豆町細野高原の生育地は静岡県指定の天然記念物として保護されている。

(西口紀雄)



東伊豆町 2016年6月17日 西口紀雄



カシノキラン *Gastrochilus japonicus* (Makino) Schltr.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

樹木に着生する多年草。高さ3~5cm。茎は短く気根で支えられ、垂れない。茎は短く先端は斜上する。葉は2列に互生して倒披針形で長さ3~6cm、基部は茎を抱く。花期は7~8月。花序は腋生して葉より短く4~10個の花をつける。萼辺と側花弁は淡黄色の狭楕円形で長さ4mm。唇弁は先が扇状に広がり、基部は半球状の袋となり暗紅褐色の斑紋がある。近縁種のモミランは茎が垂れないで付着し、葉の長さが1cmである。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州(千葉県以西)、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯下部の常緑樹古木の樹幹に着生する。

4. 生育状況

牧之原台地で確認されている。着生する常緑樹の古木が少なく、産量はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

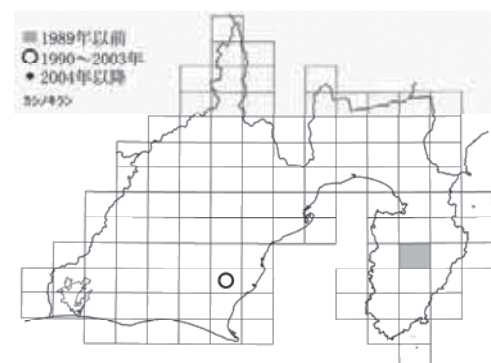
6. 保護対策

きわめて個体数が少ない種であるので、生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



牧之原市 2002年7月14日 杉野孝雄



イヌマムカゴ *Platanthera iinumae* (Makino) Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30 cm。中程に 2 個の葉がある。その上に披針形の鱗片葉が数個つく。葉は長さ 8~15 cm、幅 2~4 cm、基部はさやとなる。花期は 7~8 月頃。黄緑色の小花を多数、総状につける。唇弁は白く舌状。距は下垂し、長さ 1~1.5 mm で太く短い。

2. 分布

日本固有種で、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から暖温帯の山地の林縁や湿った草地。

4. 生育状況

過去には各地に点在していたが、前回 (2004 年) 調査でも、今回の調査でも確認できていない。

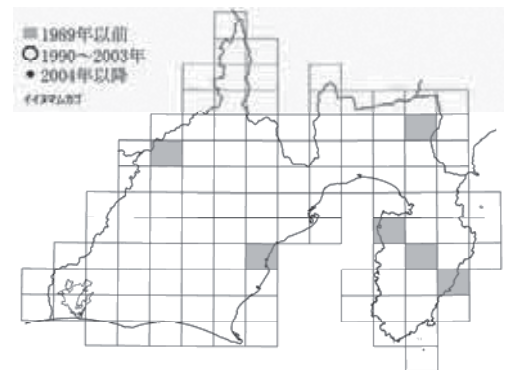
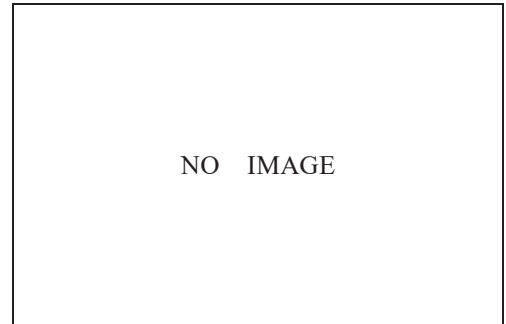
5. 減少の主要因と脅威

山林伐採 (11)、林道や登山道の整備 (24) による生育地の破壊が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、生育環境に配慮して保護すること。

(湯浅保雄)



オオハクウンラン *Kuhlhasseltia fissa* (F. Maek.) Yukawa

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 7~13 cm。葉は茎の下部に 2~6 枚つき、卵円形または円形で長さ 9~13 mm。花期は 7~8 月。茎の上部に白色の花を 1~7 個つける。側萼片は長さ 5~6 mm、基部のみ合着し、唇弁の基部を包む。唇弁の基部はふくらんだ距となり、先は四角状となる。類似のハクウンランは、葉の長さ 3~7 mm。側萼片の長さは 4.5~5 mm である。

2. 分布

日本固有種で、本州 (静岡県) と伊豆諸島に分布する。県内では伊豆、東部に分布する。

3. 生育環境

常緑広葉樹林の林床。

4. 生育状況

数本ずつ固まって生育する、個体数は少ない。前回 (2004 年) の富士山麓の記録は、ハクウンランの誤同定の可能性がある。標本の再チェックが必要である。

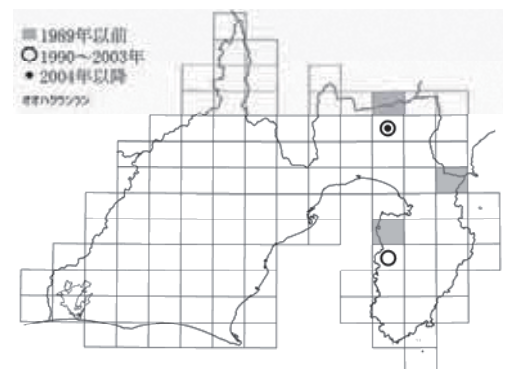
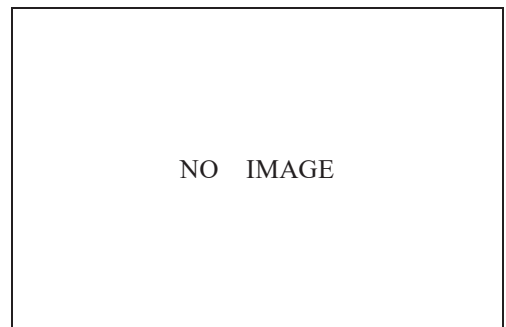
5. 減少の主要因と脅威

山林伐採 (11) による環境の変化が減少の主要因である。

6. 保護対策

山林伐採による生育地の急激な環境変化を避けること。

(湯浅保雄)



ショウキラン *Yoania japonica* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ10~25 cm。茎は太く淡桃色を帯びた白色で疎らに鱗片葉をつける。花期は6~8月。花は淡紅色で長花柄の先に2~8個つける。萼片は広楕円形で長さ2 cm、平開する。唇弁は萼片と同長で、中央に幅が広い細突起の条があり、紫色の斑点がある。距は淡黄色の長楕円形で長さ12 mm。近縁種のキバナノショウキランは萼片が斜開する。

2. 分布

国外では台湾、中国、アッサムに、国内では北海道、本州、四国、九州（屋久島）に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯の湿り気のある林床に生育する。

4. 生育状況

近年の確認は東部の1ヶ所である。産量はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

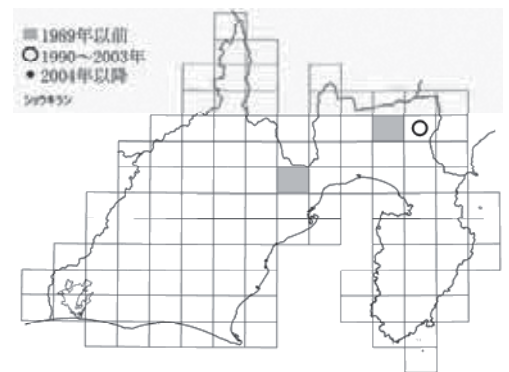
植生遷移(54)が主要因である。大雨による生育地の攪乱(55)、観察者や撮影者による踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

きわめて個体数が少ない種であるから、生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



長野県 2014年6月25日 宮崎一夫



ヒメシャガ *Iris gracilipes* A. Gray

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

アヤメ科 Iridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。葉は長さ20~40 cm、幅1 cm前後で光沢がない。冬には枯れる。花期は5~6月、花茎は細長く20~30 cm、2~3の花をつける。花の直径は約5 cmで淡紫色。種子は赤褐色。倒卵形で長さ3 mm、1稜がある。類似のシャガの葉は長さ30~60 cmで光沢があり常緑。花はほぼ白色。3倍体であるため果実はできない。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地のやや乾いた林内や林縁部に生育する。

4. 生育状況

産地が限られており、個体数は非常に少ない。今回の調査で確認されなかったことは調査不足が原因と考えられる。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採利用(11)や登山路の整備(71)、園芸採取(41)など。特に園芸採取の影響が大きい。

6. 保護対策

産地への立ち入りを禁止すること。

(湯浅保雄)



小山町 1996年6月1日 杉野孝雄



イズアサツキ *Allium schoenoprasum* L. var. *idzuense* (H. Hara) H. Hara

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ヒガンバナ科 Amaryllidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。アサツキに似る。花期は6月。花被片は白色で、長さは7~9 mmで、先は短く尖る。当初、花茎が葉とは別に出るものについて、学名がつけられたが、後にアサツキと同じく葉の中央から花茎が出るものが大部分であることがわかった。

イズアサツキの大部分の花は桃色であるが、イズアサツキの正基準標本は白花である。

2. 分布

日本固有変種で、本州（神奈川県、静岡県）に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

海岸の岩場の窪地など、強い日ざしと潮風の当たる場所に生育する。

4. 生育状況

下田市爪木崎に生育する。10~20本の集団で生育している。イズアサツキ（桃色花）の個体数にくらべて、イズアサツキ（白花）は、一部の場所にごく少数見られる。

5. 減少の主要因と脅威

厳しい環境条件に生育しているため、干ばつなどの異常気象（55）が心配される。特にイズアサツキ（白花）は個体数も少なく、園芸採取（41）が懸念される。

6. 保護対策

イズアサツキ（白花）の多い地域については、厳重な立ち入り規制が必要である。（西口紀雄）



下田市 2012年7月10日 西口紀雄



ステゴビル *Allium inutile* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。鱗茎は球形で径10~15 mm。根出葉は少数で長さ約30 cm、線形で扁平、晩秋に出て翌年の夏に枯れる。花期は9~10月、花茎は秋になって出て高さ15~30 cm。花茎の先端に散形状に5~6個の花がつく。花被片は白色で6個、基部は広鐘形に癒合し上部は開出する。蒴果は扁円形で長さ4 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州（茨城県、静岡県、愛知県、岐阜県、京都府）に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

湿った原野に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には、磐田市、浜松市、湖西市などの記録があるが、前回（2004年）調査でも今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

草地の開発（16）や植生遷移（54）が減少の主要因である。

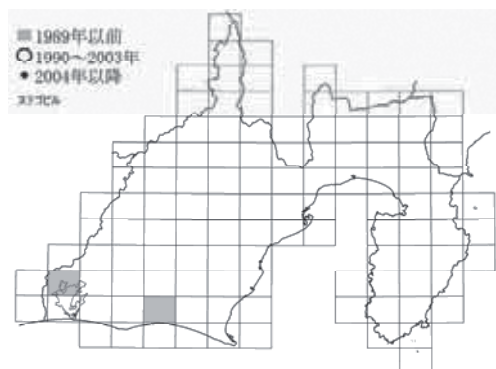
6. 保護対策

生育地が見つかった場合は、生育環境に配慮した保護が必要である。

（湯浅保雄）



愛知県 1975年9月15日 内藤宇佐彦



スズラン *Convallaria majalis* L. var. *manshurica* Kom.

(=キミカゲソウ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。葉は卵状長楕円形で長さ10~20 cm、幅3~7 cm。無毛で裏面はやや粉白色。花期は4~6月。花茎は長さ20~35 cmで葉叢の側に生じ、白色の広鐘形の花を10個ほどつける。花糸は鮮黄色で花糸と同長。ドイツスズランの花茎は葉叢の中心に立ち、花糸は淡緑色である。

2. 分布

国外では中国、シベリア東部、朝鮮半島に、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯の山地草原に生育する。

4. 生育状況

県内では富士山麓の草原にみられる。前回(2004年)の調査では1ヶ所で確認されているが、今回の調査では確認できなかった。消滅した可能性がある。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)と園芸採取(41)が減少の主要因である。

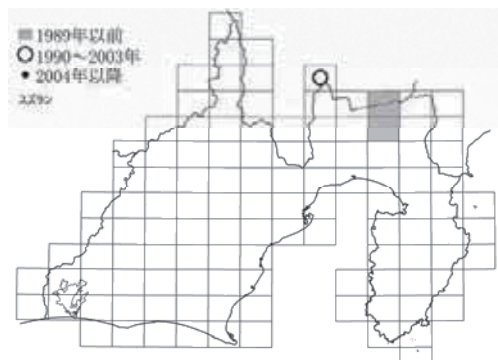
6. 保護対策

生育が確認できたら、生育環境を最適なものに改良し、維持すること。また、園芸採取を防ぐため生育情報の公開に注意すること。

(湯浅保雄)



山梨県 2011年6月6日 宮崎一夫



クロホシクサ *Eriocaulon parvum* Koern.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ホシクサ科 Eriocaulaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。葉は線形で長さ4~10 cm、幅1~2 mm。花期は8~9月。頭花は球形で藍黒色、長さ4~5 mm、白色の短毛がある。ホシクサの頭花が灰黒色を帯びる個体があるので同定には注意が必要である。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

池沼や水田などの湿地に生育する。

4. 生育状況

かつては所々に生育していたものと思われるが、最近では生育が確認されず、減少傾向が著しい。

5. 減少の主要因と脅威

湿地や沼地の開発、湿田の減少(12、15)や除草剤の影響(32)によって減少したものと思われる。

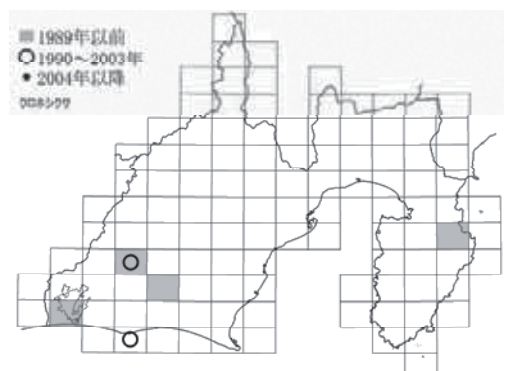
6. 保護対策

生育地の保全(湿地)、水田の場合は耕作形態の維持が重要である。

(内藤宇佐彦)



岐阜県(植栽) 2012年10月10日 宮崎一夫



ゴマシオホシクサ *Eriocaulon senile* Honda

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ホシクサ科 Eriocaulaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

一年草。クロホシクサに似る。葉の幅が広く 3~8 mm で 9~13 脈ある。花期は 8~9 月。頭花は球形で径 3~8 mm、花床が無毛で、雌花の花弁の上端は凹形である。

2. 分布

国外では中国、ヒマラヤに、国内では本州（静岡県、三重県）、九州（長崎県、熊本県、宮崎県）に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

池沼や水田などの湿地に生育する。

4. 生育状況

旧豊岡村の休耕田に生育していたが、最近では見られない。

5. 減少の主要因と脅威

湿田の減少 (15) や雑草の繁茂 (54)、除草剤の影響 (32) によって減少したものと思われる。

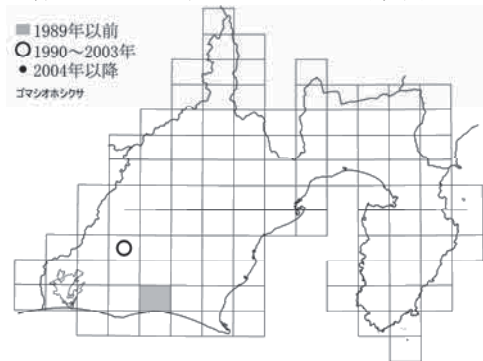
6. 保護対策

水質の保全と生育地の植生遷移の進行を抑制することが必要である。

(内藤宇佐彦)



磐田市 1999年12月12日 内藤宇佐彦



トダスゲ *Carex aequalta* Kük.

(=アワスゲ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~70 cm。根茎は短く叢生する。葉は幅 4~6 mm で下面は粉白色。茎の基部の葉鞘は赤褐色または黒紫色。果期は 5~6 月。小穂は茎の上方に 3~4 個集まってつく。頂小穂は雄性。線形で長さ 2~4 cm。側小穂は雌性、円柱形で直立し、長さ 3~6 cm。雌鱗片は緑白色。果胞は卵円形で長さ 2.5~3 mm、瘦果は卵円形でレンズ状。柱頭は 2 岐。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州（関東地方から近畿地方）、九州北部に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

平地や河岸の湿性の草地に生育する。

4. 生育状況

2004年版 RDB には旧浜北市に生育すると記載されているが、今回の調査では確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発 (15) や土地造成 (23) が減少の主要因である。

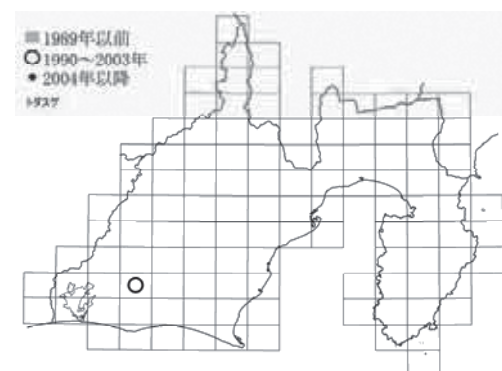
6. 保護対策

スゲの仲間は多数あり分類が難しい。同定は慎重に行い、貴重種を見落とすことのないようにしたい。環境に配慮した保全が必要である。

(湯浅保雄)



浜松市 2001年5月6日 杉野孝雄



アワボスゲ *Carex brownii* Tuck.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更コード 4

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I) 現状不明] : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~70 cm。根茎は短く叢生する。茎の基部の葉鞘は濃赤色。葉は幅 3~7 mm。果期は 4~6 月。小穂は 3~4 個。頂小穂は雄性で長さ 1.5~3 cm。側小穂は雌性で長さ 1.5~3.5 cm。果胞は長さ 3 mm、広卵形で上端は急に短い嘴になり、長さ 3 mm 程度。ヤワラスゲに似る。

2. 分布

国外では東アジアに、国内では北海道から九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

低地や丘陵地の湿った草地に生育する。

4. 生育状況

掛川市内に少数株が生育する。近年、現存が確認された。

5. 減少の主要因と脅威

里山の草地に生育するため、土地造成による生育地の消失 (23) と草地の管理放棄による遷移進行 (53) で消滅する危険性がある。

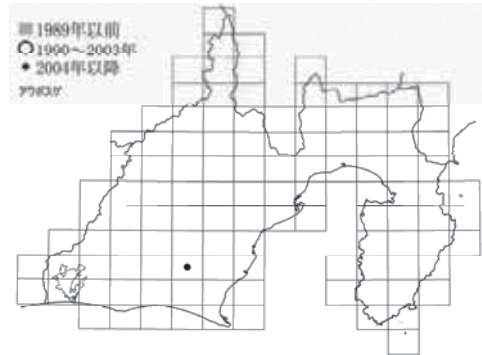
6. 保護対策

耕作地周辺の草刈りなどの管理継続が必要である。また、生育地を含めた里山環境の保全が重要である。

(内藤宇佐彦)



掛川市 2010年5月9日 内藤宇佐彦



ハシナガカンスゲ *Carex phaeodon* T. Koyama

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~35 cm。長い匍匐枝を伸ばして、まばらに叢生する。茎の基部の葉鞘は赤褐色。葉は常緑で幅 2~5 mm。果期は 4~5 月。頂小穂は雄性で紫褐色、長さ 1.5~3 cm。側小穂は雌性で 2~4 個つき、長さ 1~2.5 cm。果胞は長さ 4~4.5 mm、無毛で嘴は長く、熟すと外曲する。

2. 分布

日本固有種で、本州 (山梨県と静岡県) に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

山地の樹林内や岩場。

4. 生育状況

産地も個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採 (11) などによる生育環境の急激な変化が減少の主要因である。

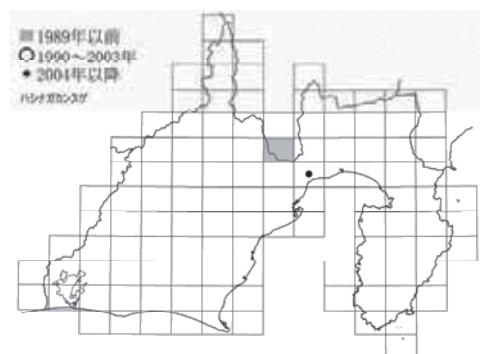
6. 保護対策

湿潤な岩場や林内に生育するので、山林伐採などで生育地を乾燥させないこと。

(湯浅保雄)



静岡市 2017年4月30日 内藤宇佐彦



オオクグ *Carex rugulosa* Kük.

(=オオムシヤスゲ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~70 cm。長く横に這う根茎から、まばらに生える。茎の基部の葉鞘は赤色。葉の幅は5~10 mm。果期は5~7月。上部の小穂3~5個は雄性で長さ2~4 cm、下方の2~4個は雌性で円柱形をなし、長さ3~5 cm。果胞は長楕円形で長さ6~7 mm。隆起した細脈がある。河口などの塩湿地に生えるシオクグは、葉の幅が4 mm以下で、雌性小穂の長さも1~3 cmと短い。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部、ウスリーに、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

海水の出入りする河口や湖岸。

4. 生育状況

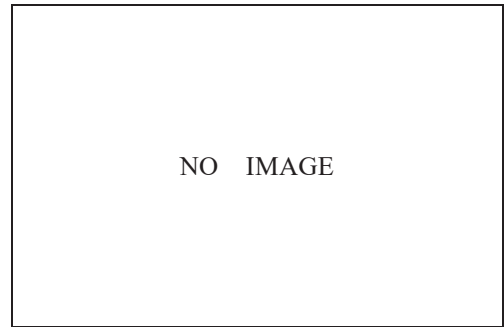
浜名湖の湖岸に生育していた記録があるが、近年生育が確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

湖岸の開発整備 (12)、釣り人の踏みつけ (51)。

6. 保護対策

生育が確認された場合は、生育環境に配慮した保護が必要である。
(湯浅保雄)



タカナナルコ *Carex siroumensis* Koidz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~30 cm。匍枝がなく、大株を作る。茎の基部の葉鞘は褐色。葉は幅1~2.5 mm。果期は7~8月。小穂は3~6個ついて、頂小穂は雌雄性または雄性、側小穂は雌性で長さ1~2.5 cm、棍棒状長楕円形。果胞は披針形で扁平、長さ5~6 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島北部、中国東北部に、国内では本州中部に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩混じりの草地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈 (間ノ岳、塩見岳、小河内岳、荒川岳、東俣、光岳) に生育するが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

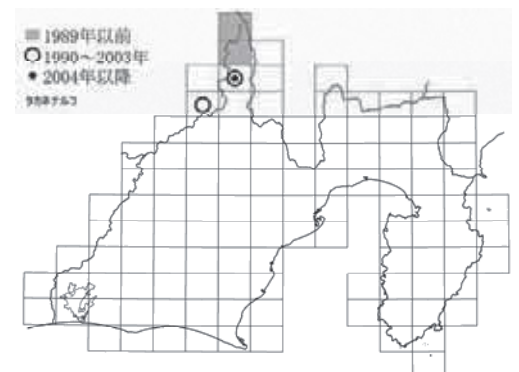
登山者の踏みつけ (51)、シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生の遷移 (54)。

6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。
(齊藤 猛)



静岡市 2015年7月30日 室伏幸一



ノハラテンツキ *Fimbristylis pierotii* Miq.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~60 cm。地中を横に這う根茎がある。茎は単生し、基部に少数の葉を叢生する。葉は茎より短く、幅は1~2 mm。果期は7~10月。茎の頂に3~10個の小穂をつける。小穂は広披針形で長さ7~15 mm。果実は白色で3稜のある広倒卵形、長さ1.2 mm、表面に小さい泡状の突起がある。

2. 分布

国外では中国、フィリピン、インドに、国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい湿性の草地や林縁。

4. 生育状況

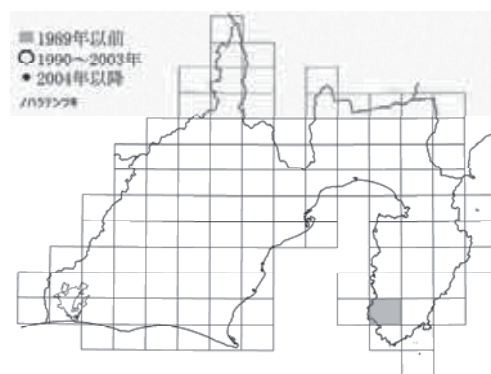
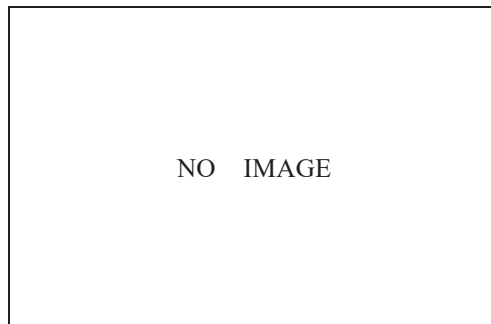
静岡県植物誌(1984)に南伊豆町伊浜と波勝崎の記録があるが、前回(2004年)調査でも、今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

生育草地の人工林化や開発(16)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育環境に配慮して保護すること。
(湯浅保雄)



トネテンツキ *Fimbristylis stauntonii* Debeaux et Franch.

var. *tonensis* (Makino) Ohwi ex T. Koyama

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ15~25 cm。茎は細く線形の葉を叢生する。茎と基部の葉鞘は扁平。小穂は卵形で、小花の柱頭は長く伸び、花柱とともに長さ2.5~3 mm。柱頭はふつう3岐する。果期は7~9月。果実は長さ0.8~1 mm、楕円形で格子状の紋がある。花柱は果時にも宿存する。類似するハタケテンツキの花柱も宿存するが、トネテンツキに比べ柱頭は短く、花柱とともに1.5~2 mmなので区分できる。

2. 分布

日本固有変種で、本州(関東~近畿地方)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

低地の河畔や湿地、またはため池の岸边。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に小笠山の記録があるが、その後確認されていない。

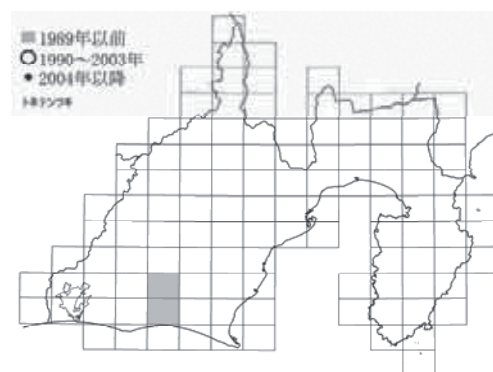
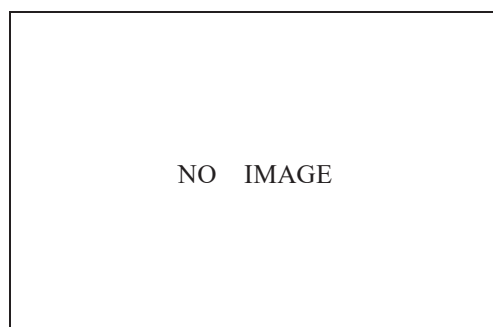
5. 減少の主要因と脅威

池沼や湿地の開発(12、15)が減少の主要因であろう。

6. 保護対策

生育地が見つかった場合は、生育環境に配慮して保全すること。

(湯浅保雄)



ミクリガヤ *Rhynchospora malasica* C. B. Clarke

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~100 cm。葉は中ほどに集まってつく。頭状花序は 2~5 個つき球形で径 1.5 cm。小穂は長さ 6~7 mm。果期は 7~10 月である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、マレー半島、インドネシアに、国内では本州（東海地方、近畿地方南部、中国地方）、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

低山地の湧水湿地に生育する。

4. 生育状況

湖西市の記録がある。近年生育が確認されていない。絶滅しているおそれがある。

5. 減少の主要因と脅威

宅地造成による湿地の開発 (15)、管理放棄による遷移進行 (53) などがある要因である。

6. 保護対策

生育が確認された場合は生育地の保全に努める必要がある。

(内藤宇佐彦)



愛知県 1987年9月12日 内藤宇佐彦



ミカワシンジュガヤ *Scleria mikawana* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ 30~90 cm。茎は束生する。葉は狭い線形で長さ 10~40 cm。葉鞘で茎を包み翼はない。花期は 7~10 月。分花序は 2~3 個あり長さ 2~4 cm。果実は球形で径 1.8~2.5 mm、灰色で光沢がなく格子紋があり暗灰色に熟す。近縁種のコシンジュガヤは葉鞘に広い翼がある。

2. 分布

国外ではインド、ニューギニア、アフリカに、国内では本州（茨城県以西）、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の辺縁に生育する。草木が疎らな痩せた土壌で、水がしみ出る程度の水湿地が適性環境である。

4. 生育状況

西部で確認されているが、乾燥化により植生遷移が進行している。産量は少ない。生育範囲が狭く、産量は年による消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発 (15) が主要因である。植生遷移 (54) も脅威である。

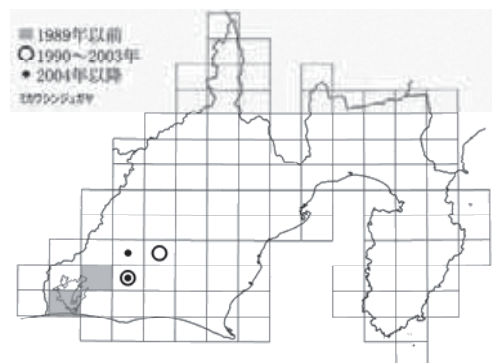
6. 保護対策

草刈りなど植生遷移を抑制して生育環境を維持管理することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2012年10月8日 宮崎一夫



タカナタチイチゴツナギ *Poa glauca* Vahl

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。イチゴツナギにやや似るが、丈は低く、稈は平滑で、葉舌ははなはだ短く、切形。基部に短い根出葉が集まるのが目立つ。花期は6~8月。花序は長さ3~7 cm、披針形で、枝は短い。小穂は長さ3~4 mm、2~3小花からなり、護穎は長さ2.5~3 mm、ほとんど綿毛がない。葯は長さ1.2~1.5 mm。

2. 分布

国外ではサハリン、朝鮮半島北部から北半球の高山に、国内では本州中部の高山(北アルプス、南アルプス、八ヶ岳)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩場や砂礫地に生育する。

4. 生育状況

南アルプス(荒川岳周辺)に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ(51)、シカ食害(52-1)、生育環境の変化による植生の遷移(54)があげられる。

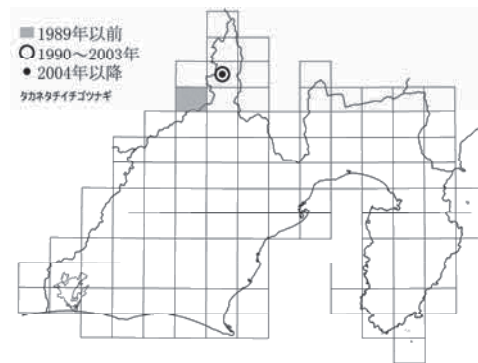
6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。

(斉藤 猛)



静岡市 2019年8月1日 室伏幸一



タチイチゴツナギ *Poa nemoralis* L.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。イチゴツナギに似る。高さ40~60 cm。株を作らない。葉は葉鞘より長く(最上部の葉で3~4倍)、葉舌は短く切形で目立たない。花期は7~8月。花序は長く突き出る。小穂は扁平で長さ3.5~4.5 mm、2~4小花からなる。

2. 分布

国外ではアジア、ヨーロッパ、北アメリカなどに、国内では本州(中部)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯の林内や草地に生育する。

4. 生育状況

大井川上流部に自生している。県内では帰化種と自生種があり、深山のものは自生種である。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)、河川の開発(13)や氾濫に伴う生育地の消失(55)が脅威である。

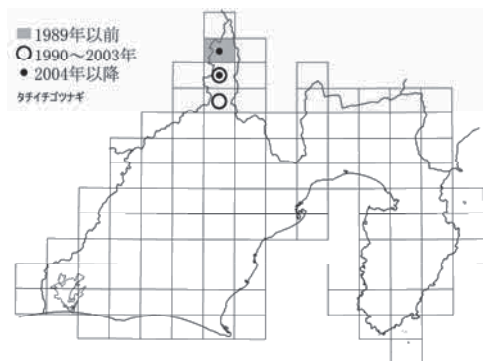
6. 保護対策

生育地が発見された場合は、範囲を特定して保護を図ることが必要である。自生種の保全が対象となる。

(内藤宇佐彦)



静岡市 2010年7月24日 内藤宇佐彦



ミヤマカニツリ *Trisetum koidzumianum* Ohwi

(=タカネカニツリ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~30 cm。花期は 7~8 月。円錐花序は密に小穂をつけ花軸、枝ともに無毛で平滑。小穂は長さ 3.5~5 mm。多くは 2 小花からなり、護穎の先は芒となり、くの字形に曲がる。基準標本産地は赤石岳である。

2. 分布

日本固有種で、本州 (中部) に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布しており、南アルプスは南限自生地。

3. 生育環境

高山帯の草地に生育する。

4. 生育状況

南アルプスに生育する。個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の植生の遷移 (54) と登山者の踏みつけ (51) の影響が懸念される。

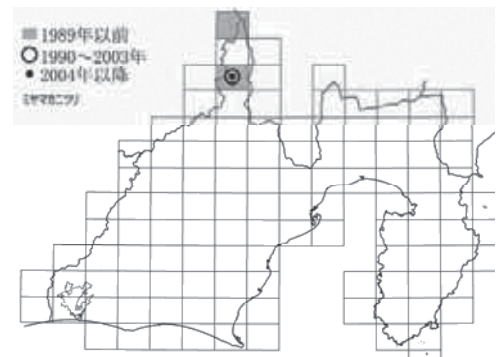
6. 保護対策

登山道以外に立ち入らないようにし、生育地の環境に変動を与えないような対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



静岡市 2009年8月23日 内藤宇佐彦



キタダケカニツリ *Trisetum spicatum* (L.) K. Richt. subsp. *molle* (Kunth) Hulten

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~35 cm。リシリカニツリの毛の少ない亜種。全体に毛が少なく、ときには無毛に近い。花期は 7~8 月。小穂は長さ 6~7 mm、2~3 小花からなり、花軸の毛は微小でまばらである。

2. 分布

日本固有亜種で、本州中部の高山 (南アルプス、中央アルプス) に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

高山帯のわずかに草が生えているような砂礫地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈 (間ノ岳、農鳥岳、広河内岳、荒川岳、東岳、千枚岳、大沢岳、兎岳、上河内岳~茶臼岳間) で記録があるが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ (51)、シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生の遷移 (54) があげられる。

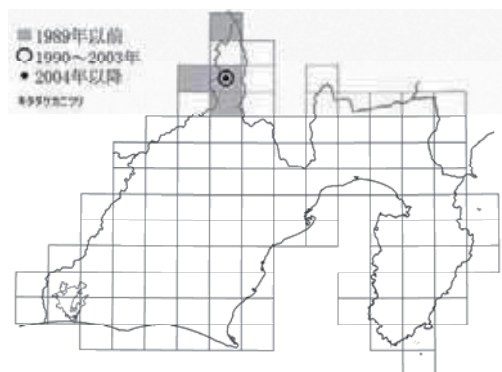
6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。

(斉藤 猛)



静岡市 2019年7月30日 室伏幸一



ツルケマン *Corydalis ochotensis* Turcz.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ケシ科 Papaveraceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

一〜越年草。茎は1 m以上に伸びて、倒れて斜上し、あるいは地を這う。葉は2〜3回3出の複葉。花期は8〜9月。花は淡黄色で長さ15〜20 mm。蒴果は長倒卵形、長さ1〜15 mm、幅3.5〜4.5 mm。種子は黒色で2列に並ぶ。類似のナガミノツルケマンは、花は鮮黄色、蒴果は線状倒披針形で幅2〜2.5 mm。種子は1列に並ぶ。

2. 分布

国外ではシベリア東部、オホーツク沿岸に、国内では本州(中部地方以北)に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯山地の谷筋で、多少湿り気のある場所。

4. 生育状況

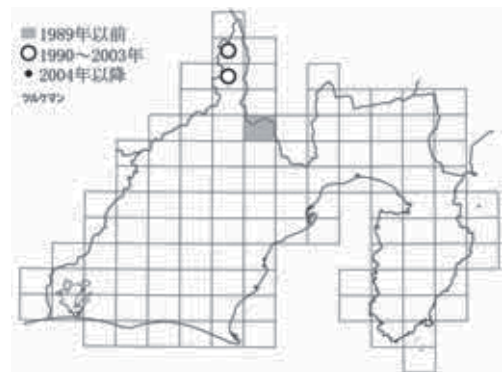
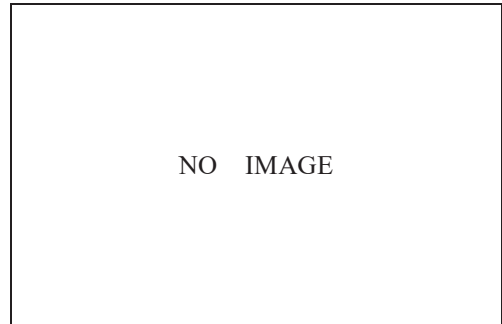
2004年度版RDBでは、大井川上流部に記録がある。今回の調査ではナガミノツルケマンは確認されたが、本種は確認されなかった。過去の記録はナガミノツルケマンの誤認も考えられるので、標本による再確認が必要である。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)による生育環境の変化が減少の要因である。

6. 保護対策

山林伐採による乾燥などの急激な環境変化を避けること。
(湯浅保雄)



ナガミノツルケマン *Corydalis raddeana* Regel

(=ナガエノツルケマン)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-②) 変更コード4

ケシ科 Papaveraceae

[2004年版カテゴリ なし : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

二年草。茎には稜があり、倒伏しながら横に伸びて長さ1 mにもなる。2〜3回3出の複葉を互生する。小葉は長さ幅とも5〜10 mm。花期は7〜10月。花は鮮黄色で長さ15〜20 mm、苞は狭卵形。蒴果は線状披針形で幅2〜5 mm。種子はほぼ一列に並ぶ。類似のツルケマンは、花が淡黄色、苞は広卵〜卵形、蒴果の幅は3.5〜4.5 mmで種子は2列に並ぶ。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、台湾、シベリア東部に、国内では本州、九州に分布する。県内では中部(大井川上流部)に分布する。

3. 生育環境

林縁や草地。特に林道沿いに多く見られる。

4. 生育状況

前回(2004年)調査時に比べると、林道の補修工事によって生育地が減少している。ツルケマンの誤認が多いようである。

5. 減少の主要因と脅威

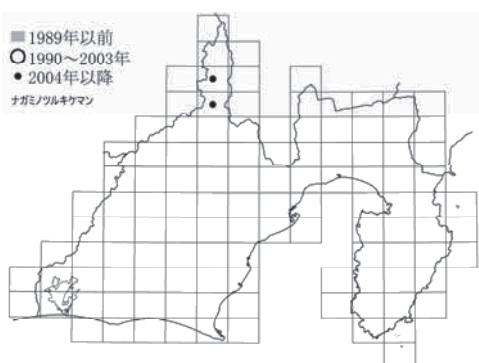
林道の補修工事(24)や植生遷移(54)。

6. 保護対策

林道の補修工事を行う際は、生育の確認を行い、群生地に手を加えないように配慮すること。
(湯浅保雄)



静岡市 2015年8月4日 湯浅保雄



ヒロハヘビノボラス *Berberis amurensis* Rupr.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

メギ科 Berberidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さは3 mほどになる。枝には縦に稜と溝がある。葉は倒卵形ないし卵形。長さ3~10 cm、幅1.5~3 cm、先が刺状になった細かい鋸歯がある。花期は5~6月。短枝の先に総状花序を下垂し、10 数個の花をつける。花は黄色で径6 mmほど。果実は楕円形、長さ1 cmほどで赤熟する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部、アムール地方に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の山林内。

4. 生育状況

南アルプスの溪谷沿いの樹林下に比較的多く見られる。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採 (11) による生育地の環境変化が減少の主要因である。近年はシカによる食害 (52-1) も脅威である。

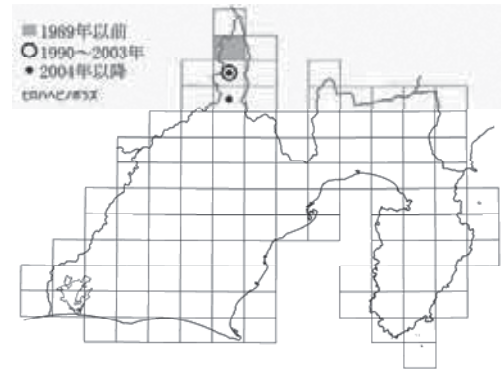
6. 保護対策

生育環境である森林を保全すること。

(湯浅保雄)



静岡市 2014年5月29日 湯浅保雄



オオサワトリカブト *Aconitum senanense* Nakai subsp. *senanense*

var. *isidzuka* (Nakai) Kadota

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-②) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR)]

1. 種の解説

疑似一年草。高さ25~70 cm。茎の上部には開出毛がある。葉は5深裂し、裂片は羽状に深裂し細い。裏面脈状に開出毛がある。花期は8~10月。花色は青紫色。花弁の距が太かつ長い。花柄には開出毛がある。

2. 分布

日本固有変種で、本州 (山梨県、静岡県) に分布する。県内では東部に分布する。非常に良く似ているホソバトリカブトは富士山には分布しないこととなっている。

3. 生育環境

富士山の山地帯から亜高山帯の草地や林縁。

4. 生育状況

富士山西側の森林限界付近に見られる。

5. 減少の主要因と脅威

現在は増加傾向にあるが、花の美しい植物なので切り花として採取される (41) ことが懸念される。

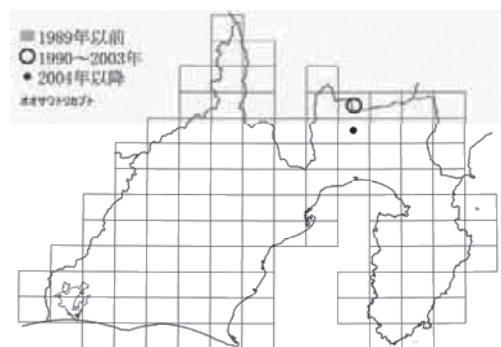
6. 保護対策

シカによる踏みつけを防ぐ対策を立てることと、貴重な植物であることを周知させること。

(湯浅保雄)



富士宮市 1995年9月23日 杉野孝雄



オキナグサ *Pulsatilla cernua* (Thunb.) Bercht. et J. Presl

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さは5~15 cm、花後には高さ40 cmに成長する。全草に白長毛がある。根茎は太く、根出葉は束生し、葉柄は長さ2~18 cm、葉身は三角状卵形で長さ4~15 cm。2、3回羽状複葉である。花期は4~5月。花は茎頂に単生して暗赤紫色の鐘形で長さ2~3 cm。萼片は6個。瘦果は紡錘形で長さ3 mm。花柱は伸長して長さ3~4 cmになり、灰白色の短毛が密生する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシアに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部、東部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の日当たりのよい河川敷や草地に生育する。石灰岩地を好む。

4. 生育状況

産地は散在しているが、1989年以前よりも減っている。管理されている産地もある。株数も減少している。

5. 減少の主要因と脅威

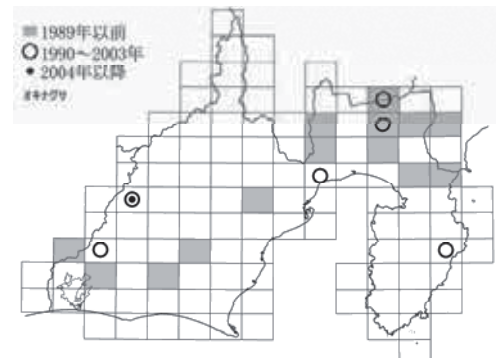
園芸目的の採取(41)である。草地の開発(16)や植生遷移(54)も脅威である。

6. 保護対策

草地の草刈りなどの管理と巡視により採取を防止する。野焼きをして潜在的な生育地を復元する。(宮崎一夫)



浜松市 2004年4月3日 宮崎一夫



ヒキノカサ *Ranunculus ternatus* Thunb.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ5~30 cm。根は紡錘形に肥厚する。根出葉は長さ0.5~4 cm、掌状に3~5裂し、裂片はさらに2~3裂する。花期は4~5月。茎頂に黄色い花が数個つき、径15 mm前後で、花弁は5~7個で光沢がある。瘦果は卵状球形、長さ1~1.2 mm。

2. 分布

国外では韓国(済州島)、台湾、中国南部に、国内では本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆と東部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい湿った草地に生育する。

4. 生育状況

富士市、沼津市などに生育する。産地は少ない。草刈りなど定期的に管理されている場所では良好な生育がみられる。

5. 減少の主要因と脅威

土地造成などの湿地の開発(15)、草刈りなどの管理放棄(53)で減少している。

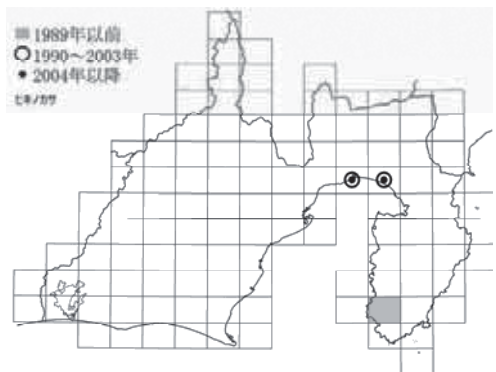
6. 保護対策

生育する湿地や水田の保全と、定期的な草刈りなどの管理が必要である。

(内藤宇佐彦)



沼津市 2012年4月6日 内藤宇佐彦



トキワマンサク *Loropetalum chinense* (R. Br.) Oliv.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

マンサク科 Hamamelidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

常緑小高木。高さ3~6 m。葉はやや厚く、卵形または卵円形で長さ1.4~4 cm、両面に星状毛を散生。花期は4月中旬~5月。花は頂生して3~8個つき、花弁は4枚、長さ約2 cmで線形、黄白色である。蒴果は長さ6~7 mm。

2. 分布

国外では台湾、中国中南部、インド北部・東部に、国内では本州（静岡県、三重県）、九州（熊本県）に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は北東限自生地である。

3. 生育環境

暖帯の痩せ山に生育する。

4. 生育状況

湖西市内で1ヶ所生育する。発見当初は幼木も含め130株ほど見られたようだが、今では成木で約70~80株程度であり、幼木はほとんど見られず株数の減少傾向がみられる。

5. 減少の主要因と脅威

アカマツの枯死などによる植生の変化(54)や、様々な人的干渉(71)が減少の要因である。

6. 保護対策

湖西市の産地は、県の天然記念物に指定されている。山林の間伐など遷移進行の抑制と保護区域内への立ち入り規制が必要である。(内藤宇佐彦)



湖西市 2017年4月15日 内藤宇佐彦



タチモ *Myriophyllum ussuriense* (Regel) Maxim.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-②) 変更なし

アリノトウグサ科 Haloragaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。雌雄異株。茎は直立し分枝しない。湿地では高さ約5~20 cmであるが水中では50 cmにもなる。葉は3~4個輪生する。花期は6~8月、花弁は4個、長楕円状卵形で長さ約2 mm、淡紅色。石果は卵円形でイボ状突起と4溝がある。長さ約0.7 mm。

2. 分布

国外ではアムール、ウスリー、台湾、朝鮮半島、中国東北部に、国内では北海道から九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

貧栄養な湖沼やため池の水中、淡水の沼や湿地、水辺の湿地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、掛川、袋井、小笠山周辺、浜松、浜名湖周辺の池沼や水田に生育していた記録がある。しかし、前回(2004年)調査時にも確認できず、今回も確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

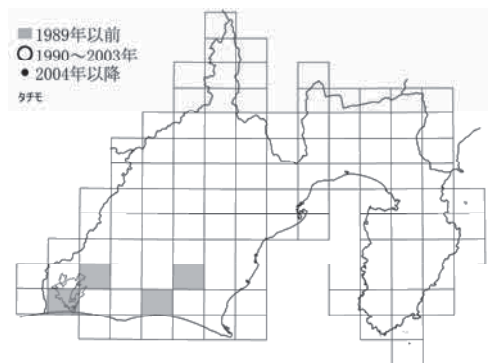
池沼の埋め立て(12)、水路のコンクリート化(13)、水田での除草剤散布(32)などが減少の要因と考えられる。

6. 保護対策

生育環境の保全が必要である。(湯浅保雄)



©フォトライブラリ



ハマビシ *Tribulus terrestris* L.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

ハマビシ科 Zygophyllaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

一年草または越年草。茎は匍匐し1 mに達す。葉は偶数羽状複葉で大型葉と小型葉がある。大型葉は6~7対の小葉、小型葉は3~5対の小葉がつく。花期は7~10月。花は小型葉の腋につくか、大型葉と対生してつく。花弁は黄色で5個、長さ約5 mm。子房に白毛を密布する。蒴果は径約1 cm、果皮は硬く10本の刺と多くの刺状の毛がある。

2. 分布

国外では世界の熱帯から暖温帯の地域に、国内では本州(千葉県・福井県以西)、四国、九州に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

海岸の砂地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に1951年に静岡市清水区の三保海岸で見られたとの記載があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の開発(14)と植生変化(54)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、ハマビシの生育環境を維持するために周囲の植生管理を行うこと。

(湯浅保雄)



© PIXTA



イヌハギ *Lespedeza tomentosa* (Thunb.) Siebold. ex Maxim.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

マメ科 Fabaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草しばしば半低木。高さ60~90 cm。全体に黄褐色の軟毛がある。葉は3出複葉で互生し、小葉は楕円形で長さ3~6 cm。表面は緑色。裏面は白色を帯びる。花期は7~9月。枝の上部の葉腋から総状花序を出し、白色の蝶形花を多数つける。花の長さは7~8 mm。旗弁の中央に赤い線がある。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、インド、ヒマラヤに、国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯の河原や海に近い砂地、山地の草原などに生える。

4. 生育状況

過去には県内の広い範囲で見られたが、今回の調査では確認することはできなかった。

5. 減少の主要因と脅威

草地開発(16)が減少の主要因と考えられる。

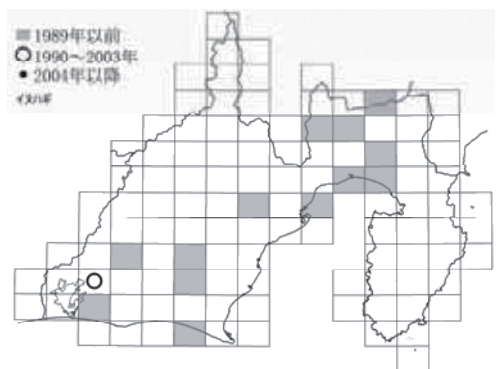
6. 保護対策

産地が確認されたら、生育環境とともに保護すること。

(湯浅保雄)



浜松市(植栽) 2007年9月15日 宮崎一夫



ヒナノキンチャク *Polygala tatarinowii* Regel

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ヒメハギ科 Polygalaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

一年草。高さ7~15 cm。葉は卵形で長さ1~3 cm。葉縁は全縁で、細毛がある。花期は7~10月。花は淡紅紫色で長さ2~4 mm、やや側生して密につき総状花序をなす。萼片は5個で、側萼片2個は竜骨弁の左右斜め下に花弁のように開く。花弁は3個で竜骨弁は丸い袋状で先が尖る。果実は茎の片側に片寄ってつき、緑色の扁平な楕円形で径3 mm。近縁種のヒメハギは多年草で花の長さが6 mmである。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、台湾、東南アジアなどに、国内では本州(福島県、山形県以南)、四国、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい原野や崩壊地、石灰岩地に生える。

4. 生育状況

前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移による生育に対する圧力(54)が主要である。

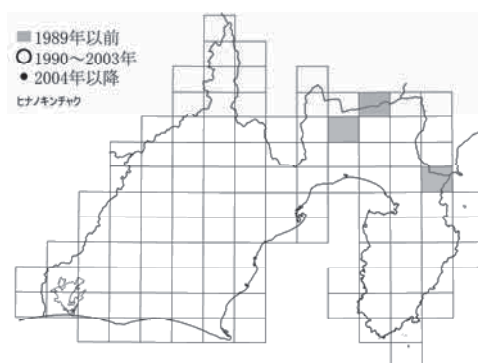
6. 保護対策

生育地が確認された場合は、植生遷移を抑える施策をとるべきである。

(宮崎一夫)



山梨県 2018年9月23日 宮崎一夫



ハゴロモグサ *Alchemilla japonica* Nakai et H. Hara

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ10~40 cm。葉は長い柄があり根生する。葉身は円心形で径3~7 cm、浅く7~9裂し、縁に歯状の鋸歯がある。両面には軟毛がある。花期は7~8月。花柄の上部に散形の花序を作って黄緑色の小花を密生する。花には花弁はない。萼片、副萼片、雄蕊も4個。

2. 分布

国外ではサハリンに、国内では南千島、北海道、本州に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山の草原に生育する。

4. 生育状況

前回(2004年)の調査でも、今回の調査でも南アルプスの一部で確認されたに過ぎない。

5. 減少の主要因と脅威

生育環境が少ない(71)ことと、繁殖力の弱さ(71)が減少の主要因である。近年はシカによる食害(52-1)も脅威である。

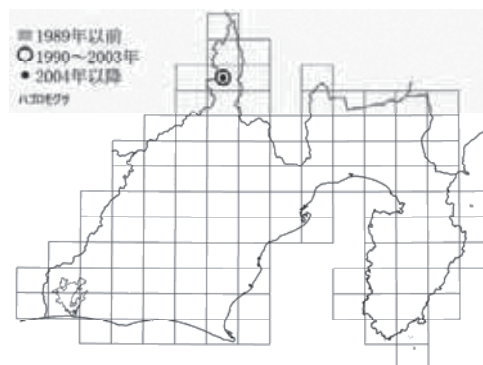
6. 保護対策

生育地に立ち入らないようにし、踏みつけを防ぐことが必要である。

(湯浅保雄)



静岡市 2019年8月1日 室伏幸一



ヨコグラノキ *Berchemiella berchemiifolia* (Makino) Nakai

(=エイノキ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

クロウメモドキ科 Rhamnaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉小高木。高さ3~7 m。枝は紫褐色を帯び無毛。葉は長楕円形または卵状長楕円形、鋭尖頭、全縁。長さ6~13 cm、幅3~5 cm。裏面は粉白色。側脈は7~10対。花期は6月。花序は小さな集散花序で、枝の上部の葉腋に出て、枝の先では長さ5 cmほどの穂になる。花は小さく黄色で、径3~3.5 mm。核果は円柱状長楕円形、長さ7~8 mm。黄色から紅色を経て暗赤色となる。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島南部に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の山地に生育する。

4. 生育状況

牧ノ原市の山地で確認されている。南伊豆町の産地は、今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

石灰岩の採掘(17)と森林の伐採(11)及び植生遷移(54)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地の保全と植生管理を行うこと。(湯浅保雄)



©2020 K. Murofushi
牧之原市 2019年6月9日 室伏幸一



コバノチョウセンエノキ *Celtis biondii* Pamp.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

アサ科 Cannabaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉小高木。エノキに似るが、葉身は長さ3~7 cmでややかたく厚く、中部以上に少数の鋸歯があり、先端は尾状に伸び、表面に伏粗毛がある。花期は5月。雄花、雌花は小さく、若枝に脇生する。果実は黒褐色に熟す。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、台湾に、国内では本州(静岡県、愛知県以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布しており、静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

石灰岩の岩上に生育する。

4. 生育状況

旧引佐町内の石灰岩露頭にごく少数の個体が生育している。

5. 減少の主要因と脅威

石灰岩の採掘(17)や伐採(11)が減少の要因と考えられる。

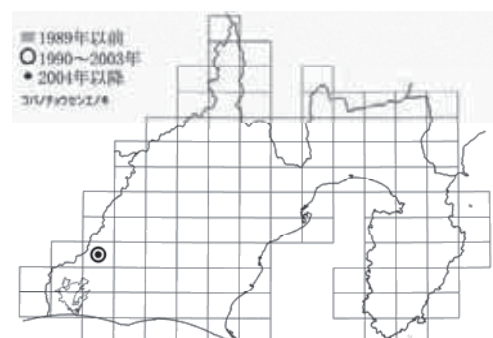
6. 保護対策

今では石灰岩の採掘は行われていないが、貴重な木であることを認識して伐採しないように注意が必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 U. Naito
浜松市 2002年9月16日 内藤宇佐彦



フジタイゲキ *Euphorbia watanabei* Makino subsp. *watanabei*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

トウダイグサ科 Euphorbiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ1 m以上。花期は3~8月(最盛期6月)。総苞葉はほぼ4枚。腺体は円頭形。ススキ草原に生えるのが特徴。近縁のイフタイゲキは海岸岩場に生え、花期の最盛期は4月、草丈は40~80 cmである。

2. 分布

静岡県の固有亜種であり、伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

ススキ草原に生育する。

4. 生育状況

富士山麓で最初に記録され、各地に群生地があったようだが、そのほとんどは現状が確認できないようである。掛川市、菊川市の茶草場にかなりの個体数が発見された。静岡空港の敷地で保護され増えている。最近、富士山麓東富士演習場でも再確認されている。

5. 減少の主要因と脅威

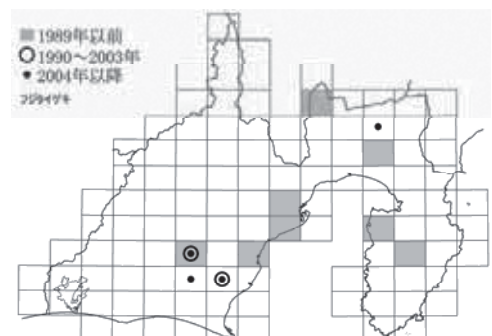
茶草場としても邪魔者であり、重要さを周知徹底しないと排除される。管理放棄(53)、草地開発(16)などの懸念はある。触るとかぶれる植物であり、園芸的な採取の対象になるものではない。

6. 保護対策

森林化などの遷移を防ぐ必要がある。定期的な草刈り、火入れなどは欠かせない。
(西口紀雄)



掛川市 2014年6月6日 宮崎一夫



カンコノキ *Glochidion obovatum* Siebold et Zucc.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ミカンソウ科 Phyllanthaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉または半落葉低木。雌雄異株または同株。高さ1~6 m。短い小枝の先端部分は刺状となる。葉は倒卵形から狭卵形で互生する。長さ2.5~5.5 cm、幅1.5~2.5 cm。裏面は多少粉白色を帯びる。花期は7~10月。葉腋に花柄のある小さな白色の花を束生する。萼は6裂して長楕円状卵形。花卉はない。雄花には3本の雄蕊、雌花には6室の1子房がある。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から亜熱帯にかけての海岸に近い丘陵地の草原や疎林。伊豆では崖地のウバメガシなどの林内に点在する。

4. 生育状況

下田市に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

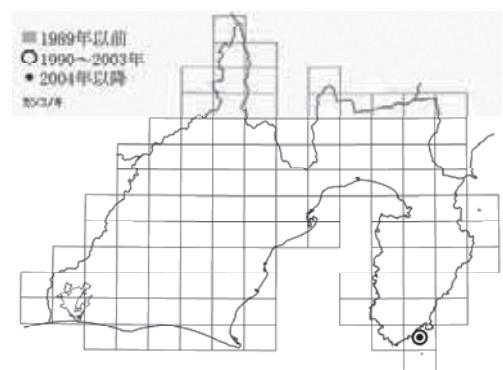
土地開発(23)や道路拡幅工事(24)などが減少の主要因である。

6. 保護対策

林縁にも生えるので、道路の法面や林縁の競合する植生を整理するなど対策を立てること。
(湯浅保雄)



下田市 2010年11月14日 加藤 徹



ヒトツバハギ *Flueggea suffruticosa* (Pall.) Baill.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ミカンソウ科 Phyllanthaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。雌雄異株。高さ2~3 m、よく分枝する。2年目の枝には皮目が多い。葉は互生。葉身は長楕円形、長さ4~7 cm、縁は全縁で両面とも無毛。表面は緑色、裏面は白色を帯びる。花期は6~8月。雄花は葉腋に多数つく。花弁はなく、萼片は5個、長さは1.5 mmほど。雌花は葉腋に1~5個つく。花弁はなく、萼片は5個、花柱は3個。蒴果は扁球形で、径4~5 mm。

2. 分布

国外では中国、東シベリア、ヒマラヤ、朝鮮半島に、国内では本州(中部地方以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の土手や疎林内。

4. 生育状況

本数は少ないが、各地に点在している。

5. 減少の主要因と脅威

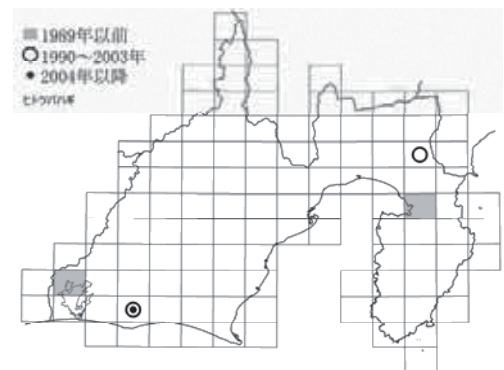
希少な植物と認識されずに、除草作業(71)によって他の植物とともに刈り取られることが考えられる。

6. 保護対策

花も目立たない植物なので、広くヒトツバハギの存在を知らしめること。
(湯浅保雄)



©2020 U. Naito
浜松市 2017年8月12日 内藤宇佐彦



ミヤマスミレ *Viola selkirkii* Pursh ex Goldie

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①,②,③) 変更なし

スミレ科 Violaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ3~10 cm。無茎種。地下茎は細く、開花後に地下匍匐枝を伸ばし新株を作る。葉は卵円形で、先端は急に尖り、基部は深い心形。縁には荒い鋸歯がある。両面とも浅緑色で長さ2~4 cm。花期は4~5月。花は紅紫色、唇弁の基部は白色で紫色の筋がある。側弁は無毛。

2. 分布

国外ではヨーロッパ、北アメリカの冷温帯域、中国、朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の落葉樹林内。

4. 生育状況

主に匍匐茎で繁殖しているためか、分布範囲は広いが個体群は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

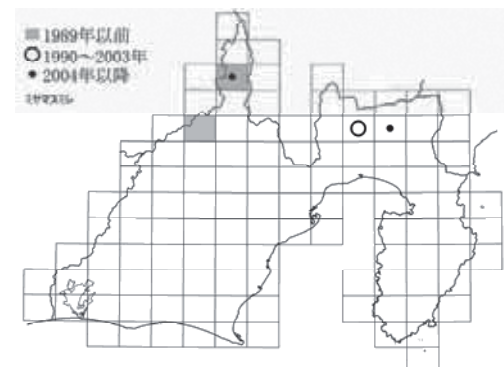
森林の伐採・更新(11)による生育環境の変化が減少の主要因である。

6. 保護対策

自生地が確認されたら、その森林を伐採しないようにすること。
(湯浅保雄)



©2020 Y. Yuasa
静岡市 2017年5月20日 湯浅保雄



マツバニンジン *Linum stelleroides* Planch.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

アマ科 Linaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

一年草。高さ 40~60 cm。茎は無毛で細く直立し上半は分岐する。葉はほぼ全縁無柄で互生し線状楕円形で3脈がある。花期は 8~9 月。萼片は縁に突起状の黒色腺点がある。花冠は径約 1 cm、花は晴天の昼前頃に開き、午後には落花する。花弁は淡紅紫色で青い筋がある。果実は径 4 mm。近似種のキバナノマツバニンジンが花が黄色で帰化種である。

2. 分布

国外では東南アジアに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部と伊豆に分布する。

3. 生育環境

温帯から暖帯の日当りのよい、乾いた河原や山地の裸地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には東部と伊豆の各地に記録がある。競争に弱く環境の影響を強く受けている。近年の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

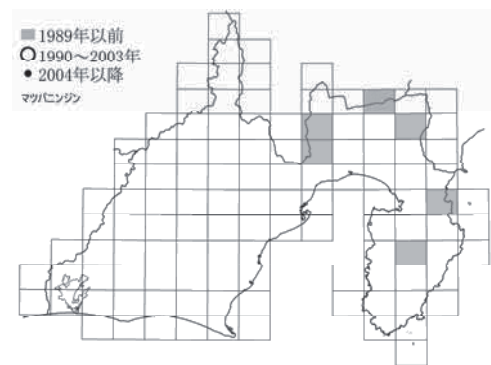
自然遷移による裸地や疎草地の減少 (54) である。

6. 保護対策

山焼きなどにより植生の遷移を止めることも保護手段の一つである。(宮崎一夫)



愛知県 2016年9月24日 宮崎一夫



アゼオトギリ *Hypericum oliganthum* Franch. et Sav.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

オトギリソウ科 Hypericaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~40 cm。茎は丸く稜がなく、斜上あるいは倒伏する。葉質は薄く柔らかく、葉身は長楕円~倒披針形。長さ 8~25 mm、幅 3~9 mm。葉身の内側には明点が密にあるか時には黒点のみあり、辺縁には黒点がある。花期は 7~8 月。径 10~15 mm の黄色の花をつける。萼片の内側の腺はほとんど明点。雄蕊は 20~30 個が 3 束。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州 (宮城県以南)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

原野や水田の畦、水路脇などの湿った陽光の地。

4. 生育状況

過去には数は少ないが各地に生育していたようだが、前回 (2004 年) 調査及び今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の減少 (15)、耕地整備による水田水路のコンクリート化 (13)、農薬の使用 (32)、水質の悪化 (31) が減少の主要因である。

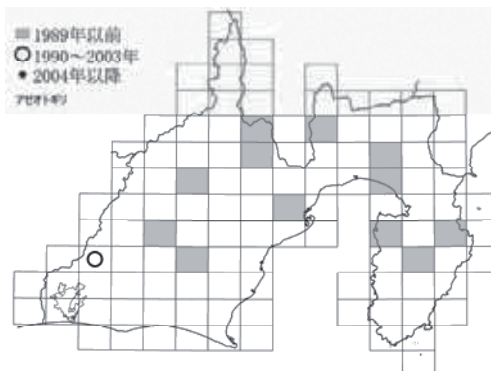
6. 保護対策

生育が確認されたら、その周辺の環境整備が必要である。

(湯浅保雄)



栃木県 2019年7月13日 室伏幸一



ミズキカシグサ *Rotala rosea* (Poir.) C. D. K. Cook

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ミソハギ科 Lythraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ10~30 cm。茎は直立し枝をわける。葉は対生し被針形で尖り、枝の葉はより小さい。花期は9~10月。花は茎の上部と葉腋につき、柄がなく、帯紅色である。果実は球形である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、東南アジア、南アジア、アフガニスタンに、国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

水田や湿地に生育する。

4. 生育状況

かつては水田の雑草としてかなり見られた。前回(2004年)調査では西部と伊豆の中山間地の水田でごく稀に確認されたが、今回の調査では確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

水田の除草剤使用(32)、耕作放棄など(53)が減少の主要因である。在来の水田雑草の激減が深刻である。

6. 保護対策

現存している水田での耕作形態の維持が必要である。
(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito
浜西市 1998年9月15日 内藤宇佐彦



ヒメビシ *Trapa incisa* Siebold et Zucc.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ヒシ科 Trapaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

浮葉生の一年草。浮水葉は広卵状菱形で径1~2 cm。沈水葉は糸状に羽状深裂する。裏面はほぼ無毛。花期は7~10月。花は両性花。花弁は白色でときに紅色を帯びる。径6~8 mm。萼片と花弁はともに5個。石果は倒3角形で宿存萼片が変化した4本の刺があり上部の幅は2~3 cm。

2. 分布

国外ではウスリー、中国東北部、朝鮮半島、台湾に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

池沼や水路などの水中に生育する。

4. 生育状況

過去には中部と西部に広く分布していたが、それらのほとんどの場所で生育が確認できなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

池沼開発(12)、水路の整備(13)による生育地の減少と水質汚濁(31)などが減少の主要因である。

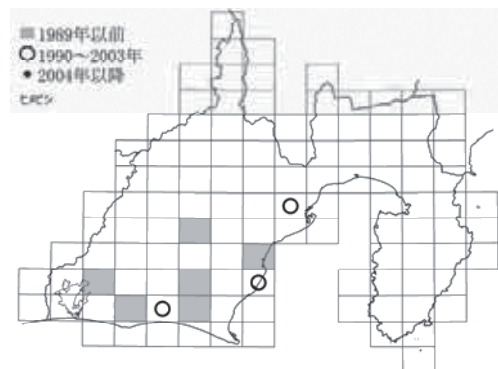
6. 保護対策

他のヒシ類との競合も考えられるので、生育が確認できたら他のヒシ類の生育を制御することも必要であろう。

(湯浅保雄)



©2020 T.Sugino
磐田市 1993年9月12日 杉野孝雄



タチバナ *Citrus tachibana* (Makino) Tanaka

(=ニッポンタチバナ、ヤマトタチバナ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ミカン科 Rutaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

常緑小高木。若枝は緑色。花期は6~8月。果実は扁球形、乾いて破裂し種子を飛ばす。果実は、酸味が強いが、甘みのある酸味だという。

九州などの自生地のタチバナは、朝鮮半島系の種の遺伝子に汚染されているとも言う。国内東限の自生地である伊豆半島のタチバナは貴重である。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州（静岡県以西）、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

県内では沿海丘陵地の急斜面上部から稜線のスダジイやタブノキが優占する林内に生育する。

4. 生育状況

自生地は尾根を分けて2集団で、およそ70本ある。大きい木は樹高5~6m。胸高周囲30cmある。よく開花する。

5. 減少の主要因と脅威

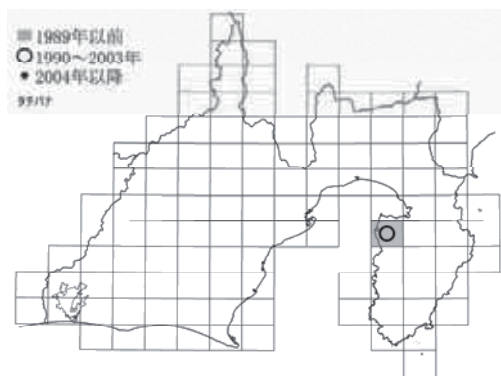
多くは薪炭林用に伐採されたが、残存している。放置されると遷移が進み(53)、減少する危険がある。

6. 保護対策

スダジイやタブノキなど上部を覆う植物を間伐する必要がある。(西口紀雄)



沼津市 2009年5月11日 西口紀雄



クモイナズナ *Arabis tanakana* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B (EN) (要件-①②) 変更なし

アブラナ科 Brassicaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。茎は2~3本束生し、高さ3~13cm。根出葉はロゼット状、倒披針形で先は鋭形、長さ5~14mm、幅1~3mm。両面に星状毛がある。茎柄には柄がなく、長楕円形、長さ3~12mm。花期は7~8月。花弁は白色で長さ2.5~4mm。長角果は長さ10~12mmで多少ねじれる。種子は楕円形で長さ約1mm。

2. 分布

日本固有種で、本州（中部）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。南アルプスは南限の自生地である。

3. 生育環境

高山の乾いた草原。

4. 生育状況

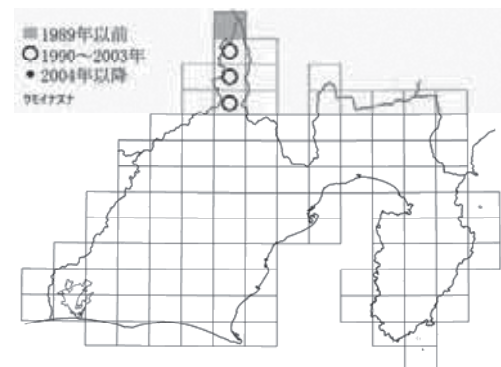
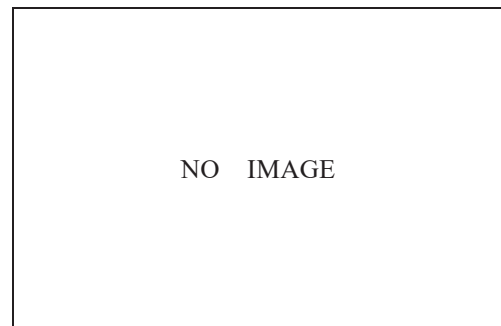
南アルプスのいくつかの高山に生育するが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育に適した環境が少ない(61)ことと、繁殖力の弱さ(71)が減少の主要因であろう。

6. 保護対策

生育地に立ち入らないようにし、踏みつけを防ぐこと。(湯浅保雄)



シロウマナズナ *Draba shiroumana* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

アブラナ科 Brassicaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。茎葉は株状に密生し、高さ4.5~10 cm。根出葉は多く密生し、へら状線形から長披針形、長さ5~12 mm、幅1.5~2 mm。縁にだけ毛がある。花期は7~8月。花茎は高さ5~10 cm。上部に白色の花を密につける。短角果は広線形で、長さ約1 cm。種子は長さ1~1.5 mmで尾状の付属体はない。

2. 分布

日本固有種で、本州(中部)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。南アルプスは南限の自生地である。

3. 生育環境

高山帯の岩上や草地に生育する。

4. 生育状況

南アルプスに生育するが産地は限られている。

5. 減少の主要因と脅威

生育に適した環境が少ない(61)ことと、繁殖力弱さ(71)が減少の主要因と考えられる。

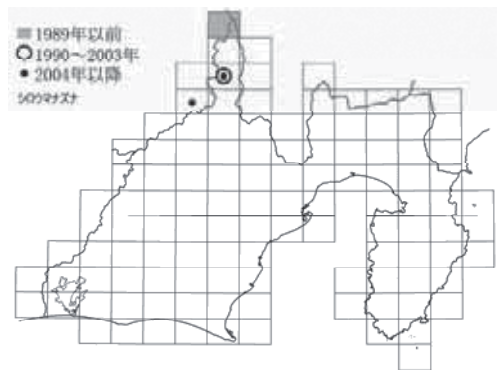
6. 保護対策

生育地に立ち入らないようにし、踏みつけを防ぐこと。

(湯浅保雄)



静岡市 2018年7月26日 室伏幸一



コギシギシ *Rumex dentatus* L. subsp. *klotzschianus* (Meisn.) Rech. f.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

タデ科 Polygonaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~50 cm。下部の葉には長柄があり、長楕円状倒披針形、基部は切形あるいはくさび形。長さ6~11 cm。花期は4~8月。円錐花序に小さな花が多くつく。果実を取り巻く花被は卵形、縁に1~1.8 mmの刺がある。中肋はこぶ状にふくれる。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、台湾に、国内では本州(関東以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の水田や河川沿いなどの湿ったところ。

4. 生育状況

水田に多く生育し、個体数も多いが、田植え前の耕耘によってすき込まれてしまうので、見落としが多いと思われる。

5. 減少の主要因と脅威

田植えが早く行われるようになったこと(71)と除草剤使用(32)が減少の主要因である。

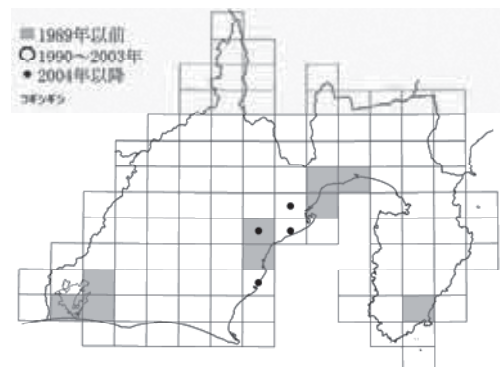
6. 保護対策

生育している田の耕耘や除草は種子が結実してから行いたい。

(湯浅保雄)



静岡市 2017年5月11日 湯浅保雄



ナガバノイシモチソウ *Drosera indica* L.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

モウセンゴケ科 Droseraceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。地下に塊茎がない。茎の高さは7~20 cm。葉は互生し、狭線形で長さ4~7 cm、先は次第に細くなっている。表面に多数の長腺毛がある。花期は7~8月。葉に対生して総状花序を出し、まばらに数個の花をつける。花弁は5枚で白色あるいは淡紅色、長さ6~8 mm。

2. 分布

国外では中国、台湾、マレーシア、インド、オーストラリア、アフリカに、国内では北海道、本州（中部）、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

湿地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）に浜松市と湖西市、旧浜北市の記録があるが、前回（2004年）調査でも今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

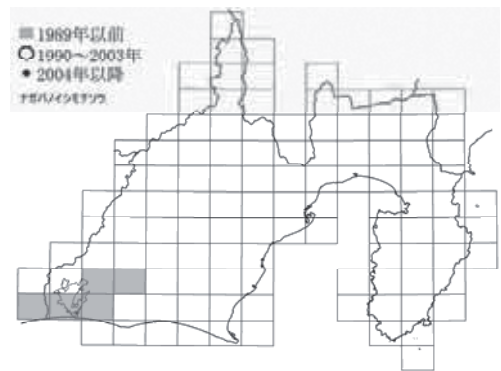
生育環境の消失（15）と園芸用採取（41）が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育環境に配慮した保護が必要である。（湯浅保雄）



浜松市 1979年9月3日 杉野孝雄



ウメウツギ *Deutzia uniflora* Shirai

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

アジサイ科 Hydrangeaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

冷温帯に生育する高さ1 mほどの落葉低木。葉は楕円形で対生し、質は薄く、葉脈は裏面に隆起している。葉縁には不揃いな細かい鋸歯がある。今年枝は柄を持った荒い星状毛で密に覆われている。4~6月頃古い枝の正常葉のない葉腋に白い花を単生する。花弁は5個で梅の花に似ている。

2. 分布

日本固有種で、本州（関東地方西部及び山梨県、静岡県）に分布する。県内では東部に分布する。朝鮮半島に産するチョウセンウメウツギと同一種とする意見が強い。

3. 生育環境

一般に石灰岩の岩地に生育すると言われるが、静岡県では急傾斜地の落葉樹林内に見られる。

4. 生育状況

個体数が非常に少なく、稀な植物である。今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

シカによる食害（52-1）が減少の主要因である。

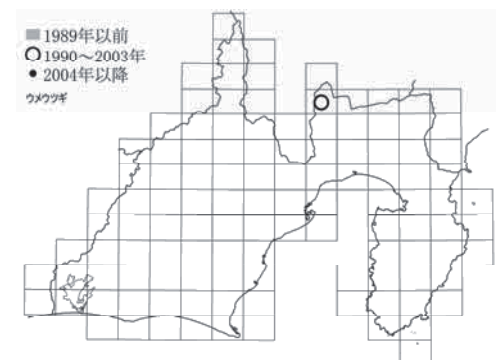
6. 保護対策

生育地を防護柵などで囲いシカによる食害を防ぐこと。

（湯浅保雄）



山梨県 2018年5月12日 室伏幸一



オオツルコウジ *Ardisia walkeri* Yuen P. Yang

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

常緑小低木。高さ10~30 cm。匍匐茎は長く、葉をつけない。茎は斜上して、径2~3 mm、その上部には花序や葉柄とともに粒状毛と多細胞の褐色長開出軟毛がある。葉は茎の上部に3~4枚輪生状につく。葉は長楕円形で長さ5~13 cm、幅2~4 cm。類似のヤブコウジは多細胞の長毛がなく、ツルコウジは匍匐茎に葉をつけるので区別できる。本種はヤブコウジとツルコウジの雑種とも考えられている。

2. 分布

日本固有種で、本州（千葉県以西）、九州、伊豆諸島に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の林内に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には各地の記録があるが、その後、長い間生育が確認されていなかった。今回の調査でようやく1ヶ所の生育地が確認された。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採（11）や植生遷移（54）による生育環境の変化が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地を最適な生育環境に保つこと。（湯浅保雄）



焼津市 2015年3月22日 内藤宇佐彦



サワトラノオ *Lysimachia leucantha* Miq.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~80 cm。横に這う地下茎から地上茎が直立する。葉は互生し倒披針状線形、黒色の腺点が散在する。花期は4~5月。花は白色で花弁は5枚、長さ4 mm。総状花序に多数つく。裂片は倒卵形で先は丸い。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

低地の日当たりのよい湿地に生育する。ヨシなどの背丈の高い草本に適度に守られている。

4. 生育状況

沼津市と富士市に生育する。秋から冬に草刈りが行われている生育地では、個体数も多く、生育は旺盛である。浮島公園では、手厚く保護されていて個体数は増加している。それ以外の自生地は壊滅したと思われる。

5. 減少の主要因と脅威

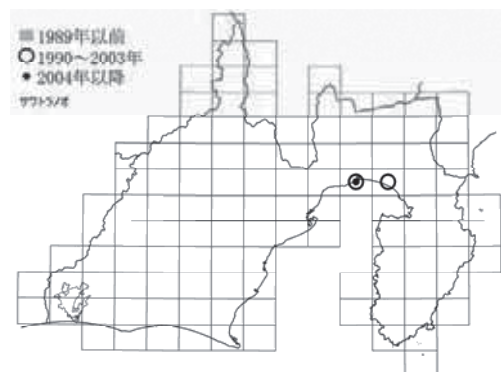
土地造成などの湿地開発（15）と管理放棄による植生の遷移（53）が減少の要因である。

6. 保護対策

生育地の一部は行政により保護されている。その他の生育地の保護も重要である。特定の遺伝子の集団のみの保護では、生命力の低下を招きかねない。保護には、冬期の草刈りが必要である。（西口紀雄）



富士市 2009年5月2日 西口紀雄



クリンソウ *Primula japonica* A. Gray

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~80 cm。地下茎は短く分枝して新たな株をつくる。葉は根生して長楕円形で長さ 15~40 cm。花期は 5 月。花茎を伸ばし 2~5 段に花を輪生する。萼は杯形で長さ 6~8 mm、5 中裂する。花冠は紫紅色で径 2~2.5 cm。花色に変異が多くある。蒴果は球形で径 7 mm。

2. 分布

国外では台湾に、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

山地の凹地や谷間の明るくて湿った草地に生育する。

4. 生育状況

近年の確認地は標高 1,000 m の尾根であり自生環境とは思えない。また付近に昔の建物跡があり、当時に植栽した残存と思慮される。植栽したと思われる場所もある。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取 (41) が主要因である。森林伐採 (11) による荒廃と乾燥化も脅威である。

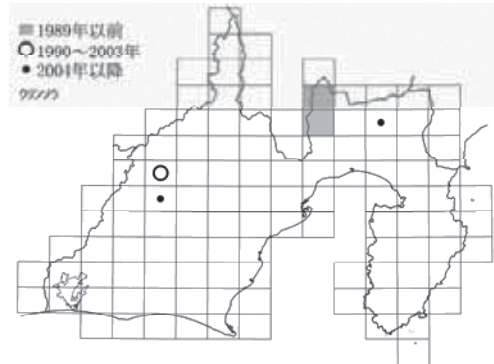
6. 保護対策

生育していた記録がある潜在的な生育地を復元保全する。

(宮崎一夫)



裾野市 2010年5月21日 宮崎一夫



サクラソウ *Primula sieboldii* E. Morren

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。花茎は 15~40 cm。葉は長さ 4~10 cm、長楕円~卵状楕円形で長い柄がある。花期は 4~5 月。花茎の先に 7~20 個の花を散形につける。花冠は紅紫色で深く 5 裂し径 2~3 cm。蒴果は扁球形で径 5 mm。

2. 分布

国外では中国東北部、シベリア、朝鮮半島に、国内では北海道南部、本州、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

湿り気が多い草地や川岸。

4. 生育状況

かつては富士山麓に広く分布していたが、今はわずかに残るのみである。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取 (41) と草地の開発 (16) や管理放棄 (53) による植生の遷移 (54) 。

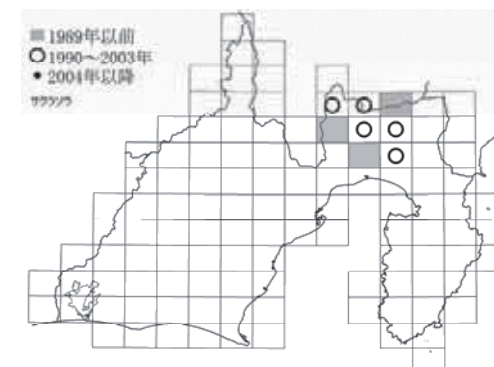
6. 保護対策

園芸採取の防止と生育地の植生管理。

(湯浅保雄)



富士宮市 1992年4月27日 杉野孝雄



ナガボナツハゼ *Vaccinium sieboldii* Miq.

(=ホナガナツハゼ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR)]

1. 種の解説

落葉低木。高さ1~2 m。葉の辺縁は全縁で、鋸歯はない。表面の主脈上に短毛が散生するほかは無毛。花期は5月。花は5~10 cmの総状花序に下を向いて多数つく。花冠は白色である。ナツハゼに似るが、包葉が大きい。

2. 分布

日本固有種で、静岡県西部から愛知県東部に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

痩せた低山地や台地の疎林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

浜名湖周辺や三方原台地の丘陵地の疎林で生育する。生育地は少なく、個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

土地造成 (23) により減少した。また、遷移の進行による被陰 (54) も減少要因である。

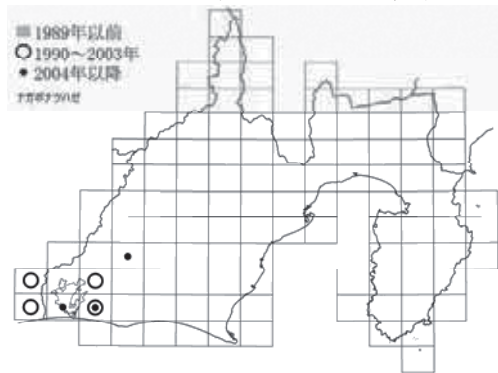
6. 保護対策

現存する生育地の保全と生育地における適度な雑木の伐採が必要である。また、誤って伐採することも注意が必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 2015年5月5日 宮崎一夫



ハナムグラ *Galium tokyoense* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

アカネ科 Rubiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。茎葉横に広がって斜上し長さ30~60 cm、4稜があり、稜には下向きの刺状毛がある。葉は4~6枚輪生し、倒披針形で長さ1~3 cm、幅3~7 mm。花期は5~7月。枝先と葉腋から花序を伸ばし、多数の白色の小花をつける。花冠は4裂し径2 mm。果実は平滑無毛か微突起がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東部に、国内では本州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

川岸の湿った草地。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に富士山麓での確認の記載があるが、前回 (2004年) 調査でも、今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の環境変化 (71) が減少の主要因であろう。

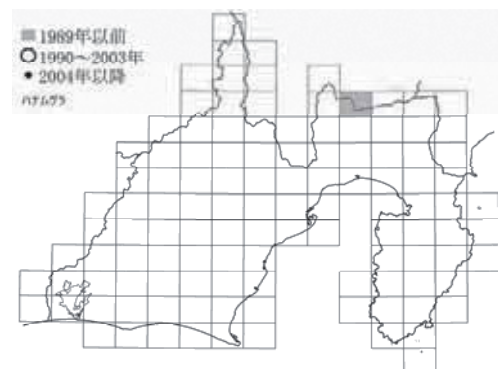
6. 保護対策

生育が確認されたら、生育に最適な環境を維持するように努めること。

(湯浅保雄)



©2020 K.Murofushi
栃木県 2019年7月13日 室伏幸一



サンブクリンドウ *Comastoma pulmonarium* (Turcz.) Toyok.

subsp. *sectum* (Satake) Toyok.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

越年草。高さ2~5 cm。茎には稜があり紫褐色、分岐は1~2本。茎葉は柄がなく三角状広披針形で長さ1~3 cm、中脈が目立つ。花期は8~9月。花は葉腋から伸びた枝に頂生する。花冠は長さ1~1.5 cmで青紫色から白色。花冠基部の内面に蜜腺が2個。近縁のオノエリンドウは蜜腺が1個。

2. 分布

日本固有亜種で、本州(中部地方)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。本県は分布南限。

3. 生育環境

高山帯の岩礫地や疎草地に生育する。

4. 生育状況

南アルプスの一部に局限して生育している。ほとんどの産地では、草本類の圧力を受けて、産量は多くない。

5. 減少の主要因と脅威

産地がきわめて限定されており(61)、人の踏みつけ(51)や盗掘(41)による個体数減少が指摘されている。加えて、シカの食害(52-1)、植生変化(54)が発生している。

6. 保護対策

本県の個体は、環境省新宿御苑に種子が保存され、保護増殖が図られている。(山崎由晴・宮崎一夫)



静岡市 2004年8月10日 宮崎一夫



コヒナリンドウ *Gentiana laeviscula* Toyok.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

一年草または越年草。高さ3~7 cm。根出葉は卵形で長さ5~15 mm。雪解け直後の短い期間に開花。花期は5~6月。花は基部から分岐した茎頂につき、水色を帯びた白色で上向きに開く。萼筒は長さ4~8 mm、裂片は三角形。花冠は長さ6~12 mm、裂片は卵形である。草丈が低く、花期も短い期間のため、発見が難しい。

2. 分布

日本固有種で、本州(日光、白山、南アルプス)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の日当たりがよい疎草地に生育する。

4. 生育状況

産地は限られていて、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

産地がきわめて限定されており(61)、人の踏みつけ(51)や盗掘(41)による個体数減少が指摘されている。加えて、シカの食害(52-1)、植生変化(54)が発生している。

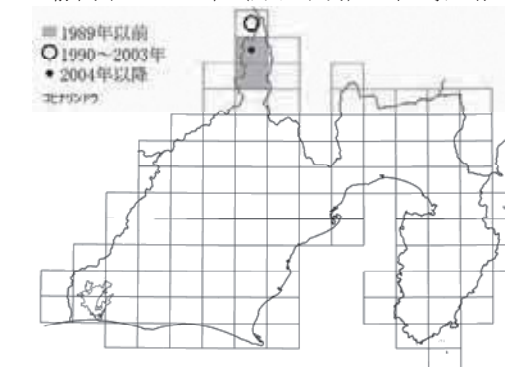
6. 保護対策

登山道を迂回整備し、踏みつけを避ける対策が必要である。

(山崎由晴・宮崎一夫)



静岡市 2012年(月日不明) 山崎由晴



オノエリンドウ *Gentianella amarella* (L.) Borner

subsp. *takedae* (Kitag.) Toyok.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

二年草。高さ5~20 cm。葉は対生して茎を抱く。花期は8~9月。萼筒は長さ4~6 mm。花は茎の上部に数個つけ、上向きから横向きを開く。花冠は筒形で長さ2~2.5 cm、紅紫色であるが稀に白色がある。花冠裂片は三角形で斜開する。内片は細かく中裂する。

2. 分布

日本固有亜種で、北海道、本州（中部地方）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布し、分布の南限である。

3. 生育環境

高山帯の砂礫地で、草本が疎らで湿潤な草地に生育する。

4. 生育状況

産地は局限していて、産量もきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

産地がきわめて限定され(61)、人の踏みつけ(51)や盗掘(41)による個体数減少が指摘されている。加えて、シカの食害(52-1)、植生変化(54)が発生している。

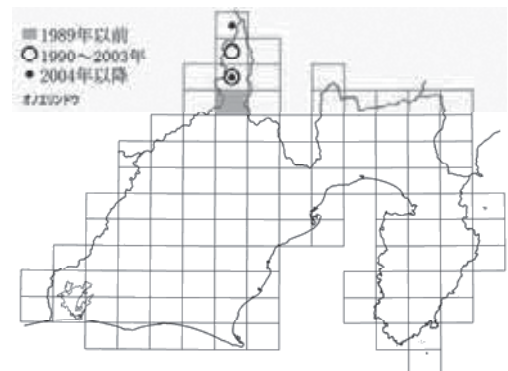
6. 保護対策

本県の個体は、環境省新宿御苑に種子が保存され、保護増殖が図られている。産地情報の公開に配慮して、さらなる自生地の行政的な保護が必要である。

(山崎由晴・宮崎一夫)



静岡市 2004年8月7日 宮崎一夫



アカシリンドウ *Gentianopsis yabei* (Takeda et H. Hara) Ma ex Toyok.

var. *akaisiensis* T. Yamaz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

一年~越年草。高さ4~30 cm、時に60 cm。茎は上部で分枝する。茎葉は無柄で茎を抱き、最下部の葉は大きく広披針形で長さ4 cm。花期は8~9月。花は茎頂や上部の葉腋から、2~12 cmの花柄を伸ばし単生する。花冠は長さ15~25 mm、裂片は片巻状に並び青紫色で上側の縁は平たくなる。

2. 分布

日本固有種かつ南アルプス固有変種で、本州（中部地方）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

高山帯の尾根周辺で砂礫地の低茎草地に生育する。

4. 生育状況

産地は局限する。株数もきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)とマニアによる採取(41)が脅威である。

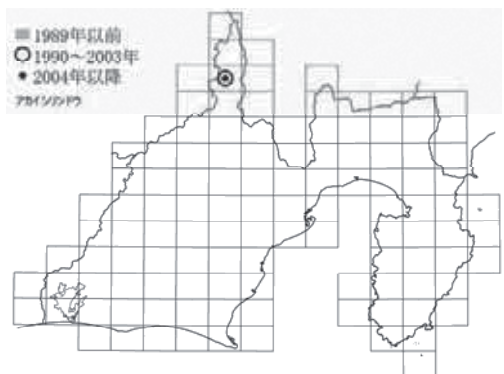
6. 保護対策

本県の個体は、環境省新宿御苑に種子が保存され、保護増殖が図られている。産地情報の公開に配慮して、さらなる自生地の行政的な保護が必要である。

(山崎由晴・宮崎一夫)



静岡市 2010年8月31日 湯浅保雄



ヒメセンブリ *Lomatogonium carinthiacum* (Wulfen) Rchb.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

一年草。高さ3~10 cm。葉は対生し、長楕円形または卵形で柄がなく、長さ5~15 cm、幅2~7 mm。花期は8月末~9月、茎頂に1~数個つける。花冠は淡青紫色、深く4~5裂し、裂片は長さ1~1.5 cm、下部に2個の蜜腺があり、蜜腺は数裂する鱗片で囲まれる。

2. 分布

国外ではアジアから北半球の寒帯に広く、国内では本州(八ヶ岳、南アルプス)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。静岡県は南限自生地である。

3. 生育環境

高山帯の砂礫地に生える。登山道沿いにもみられる。

4. 生育状況

小型で花が開いていないと目立たない。きわめて稀な植物で産量も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

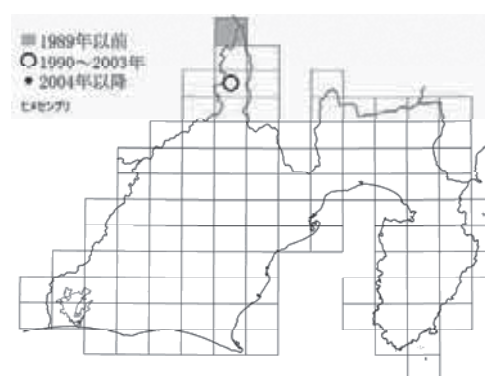
産地がきわめて限定され(61)、人の踏みつけ(51)や盗掘(41)による個体数減少が指摘されている。加えて、シカの食害(52-1)や踏み荒らしが確認されている。植生遷移(54)も脅威である。

6. 保護対策

踏みつけを避けるため、登山道以外に立ち入らないようにする対策が必要である。
(山崎由晴)



静岡市 2017年9月29日 荒川史子



シノメソウ *Swertia swertopsis* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年~二年草。茎は方形で直立し、高さは30~40 cm。茎葉は卵状楕円形で長さ5~10 cm、幅2~4.5 cm。膜質で5~7脈がある。花期は9~10月頃で葉腋に束生する。白色鐘形で5~12 mmの柄がある。花冠は長さ8~10 mm。5深裂し内面上部に紫色の斑点がある。中央から少し下方に楕円形の蜜腺溝が2個ある。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆に分布する。伊豆は北東限自生地である。

3. 生育環境

通常は、丘陵地から湿った谷間まで広い範囲に生育する。県内では暖帯上位の落葉樹林に、木漏れ日を受けて生育する。

4. 生育状況

近年、シカによる食害でほとんど消滅した。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取(41)とシカによる食害(52-1)が減少の主要因である。

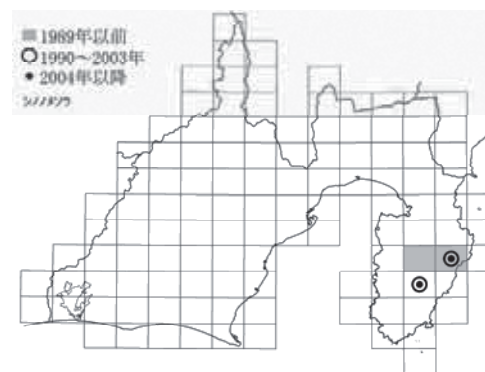
6. 保護対策

シカによる食害を防ぐため防護柵を設置すること。

(湯浅保雄)



伊豆市 2007年8月5日 加藤 徹



クサタチバナ *Vincetoxicum acuminatum* Decne.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更コード4 キョウチクトウ科 Apocynaceae
[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ30～60 cm。茎は直立する。葉は対生し、卵～長楕円形で長さ5～13 cm、先は鋭く尖る。花期は4～6月。花は茎の上部に集まり長い柄があり、花冠は径約2 cm、白色で5裂する。袋果は披針形で長さ4～6 cm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国（東北部～東部）に、国内では本州（福島県南部以西）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。近年、県内の分布が確認された。

3. 生育環境

低山地の二次林内に生育する。

4. 生育状況

湖西市内の落葉樹林内に少数株が生育する。花つきは少ないが、よく結実はしている。

5. 減少の主要因と脅威

生育地は限られている。生育地がコナラなどの二次林内であるため林の遷移進行による被陰(54)により生育環境が悪化するおそれがある。

6. 保護対策

林の保全のため、間伐や下草刈りなどが必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2015年4月29日 内藤宇佐彦



ムラサキ *Lithospermum erythrorhizon* Siebold et Zucc.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし ムラサキ科 Boraginaceae
[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さは40～70 cm。根は太く、シコニンという色素を含み、乾燥すると濃紫色となる。茎は上部で枝分かれし、葉とともに斜上する長い粗毛が多い。葉は披針形で互生し、表面の主脈とともに数個の側脈がへこむ。花期は6～7月。葉腋に白色で、径約4 mmの花をつける。花筒の先端は5に裂け平開する。果実は4個の分果に分かれる。類似のイヌムラサキの葉では、主脈のみがへこむ。

2. 分布

国外ではアムール、中国、朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯と冷温帯の山地、丘陵地、山麓などの乾いた草原。

4. 生育状況

過去には広く分布していたが、産地も個体数も非常に少なくなった。

5. 減少の主要因と脅威

草地開発(16)や草地の管理放棄による植生遷移(54)の進行で生育環境が消失したことが、減少の主要因である。

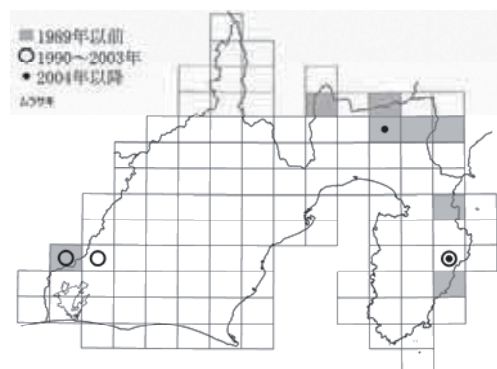
6. 保護対策

草地の維持管理による生育環境の保全が必要である。

(湯浅保雄)



御殿場市 2003年6月14日 杉野孝雄



ヤマホウズキ *Physalistrum chamaesarachoides* (Makino) Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) 要件 (①, ②, ⑤) 変更なし

ナス科 Solanaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~50 cm。葉は卵形で質薄く、縁には少数のあらい鋸歯がある。葉柄は長さ 1~5 cm、葉身は長さ 5~12 cm、幅 2.5~7 cm。花期は 8~9 月。葉腋に 1 花をつける。花冠は白色、杯状で浅く 5 裂する。径 7~8 mm。液果は球状で熟すと黄色になる。萼は緑色で果時には先のつぼんだ袋状となり、長さ 12~15 mm。10 本の稜がある。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯山地のやや湿った照葉樹林内。

4. 生育状況

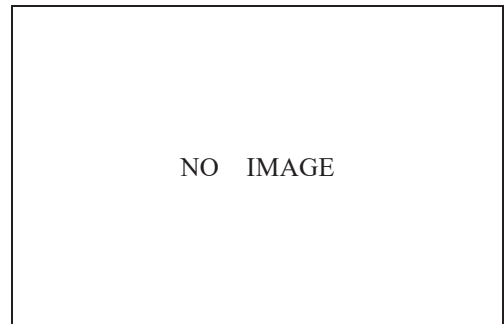
静岡県植物誌 (1984) には、多くの産地が載っているが、前回 (2004 年) 調査でも、今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採 (11) や土地造成 (23) などで生育地の消滅が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が見つかった場合は、生育環境に配慮した保護が必要である。
(湯浅保雄)



シシンラン *Lysionotus pauciflorus* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

イワタバコ科 Gesneriaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

樹木に着生する常緑小低木。茎は 2~3 mm と細く、樹幹に着生するコケの中を這い、まばらに 20~30 cm の枝を出す。葉は対生、または 3~4 枚が輪生する。葉身は厚い革質。長さ 2~7 cm の披針形。花期は 7~8 月。上部の葉腋に短い花序を出し 1 花をつける。花冠は淡桃色で長さ 3~4 cm。筒状で先は浅く 5 裂する。蒴果は長さ 4~7 cm の線形である。

2. 分布

日本固有種で、本州 (伊豆半島及び京都以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖帯の自然林で、コケのついた大木に着生する。

4. 生育状況

前回 (2004 年) 調査時には伊豆で確認されたが、今回の調査では確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

天然林の伐採 (11) と大木の枯死 (54)、園芸採取 (41) が減少の主要因である。

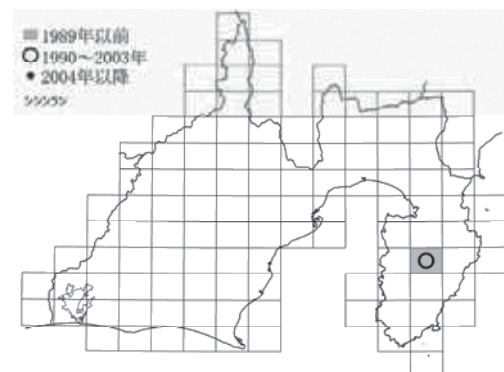
6. 保護対策

天然林とそれを構成する太径木の保全。

(湯浅保雄)



浜松市 (植栽) 2015 年 7 月 2 日 宮崎一夫



マルバノサトウガラシ *Deinostema adenocaulum* (Maxim.) T. Yamaz.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-②) 変更なし

オオバコ科 Plantaginaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ 15~18 cm。茎は基部から数本に分かれ直立する。葉は対生し、卵形で長さ 4~10 mm、幅 3~8 mm で 5~7 本の脈がある。花期は 8~10 月。上部の葉腋から細長い花柄を出し、長さ 4 mm ほどの淡紫色の 1 花をつける。蒴果は卵形で長さ 2 mm。

2. 分布

国外では韓国の済州島、中国の貴州省に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

湿地や水田。

4. 生育状況

2004 年版 RDB に、1989 年以前に浜松市の中田島海岸で確認されたという情報が載っているが、その後、県内では確認されていない。

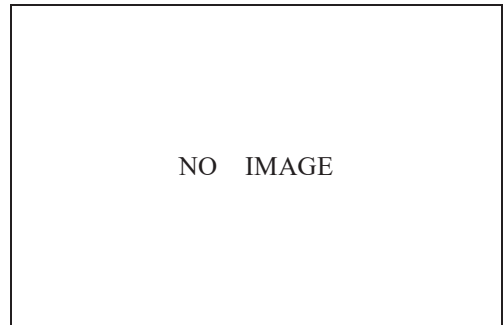
5. 減少の主要因と脅威

海岸整備 (14) による砂防林間の湿地の消失が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認された場合には、その生育環境に配慮して保護すること。

(湯浅保雄)



カイジンドウ *Ajuga ciliata* Bunge var. *villosior* A. Gray ex Nakai

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更コード 5

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~40 cm。茎は直立し、葉とともに多細胞の白い毛を密生する。中部の葉は卵形または広卵形で長さ 3~8 cm、不揃いなあらい鋸歯がある。花期は 5~6 月。上部の葉腋に数個の花を密に輪状につける。花冠は紅紫色で、細い筒部の長さは 10~12 mm。果実は 4 個の分果からなる。

2. 分布

日本固有変種で、北海道、本州、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

やや乾いた明るい落葉樹林内や草原に生育する。

4. 生育状況

富士山周辺に分布するが、産地は限られ個体数も少なく、今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

生育環境である草原の人工林化 (16) と、残存草原では管理不足による植生遷移 (54) が減少の主要因である。

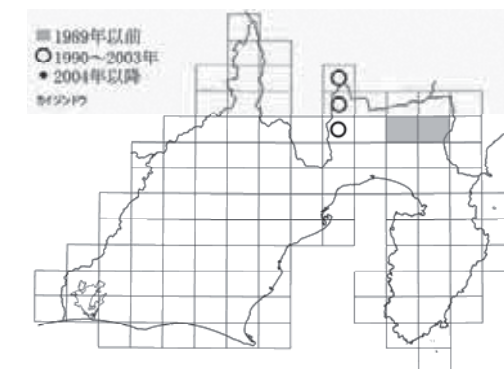
6. 保護対策

特になし。

(湯浅保雄)



山梨県 2019年7月2日 宮崎一夫



ムシャリンドウ *Dracocephalum argunense* Fisch. ex Link

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

シソ科 Labiatae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ15~50 cm。茎の断面は4角で下向きの細毛がある。葉は対生し、広線形で質は厚く、長さ2~6 cm、幅0.2~0.5 cm。また、葉腋に数個の葉を叢生する。花期は6~7月。茎頂に短い穂を作り、青紫色の花を密につける。花冠は3~3.5 cm。外面に毛がある。

2. 分布

国外ではシベリア東部、中国北部、朝鮮半島に、国内では北海道、本州(中部以北)に分布する。県内では伊豆に分布し、愛知県とともに分布の南限生育地である。

3. 生育環境

温帯の日当たりのよい草原。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、伊豆半島の玄岳の記録があるが、その後、確認された情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

草原の管理放棄(53)による植生の遷移(54)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、定期的な草刈りによって、草原を維持管理すること。

(湯浅保雄)



北海道 2019年7月15日 宮崎一夫



ミズネコノオ *Pogostemon stellatus* (Lour.) Kuntze

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B(EN) (要件-①②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草。高さは15~50 cm。横走する地下茎や匍匐枝を出さない。茎の中ほどで多く分枝する。葉は3~6個ずつ輪生し、長さ2~6 cm、幅2~4 cm。花期は8~10月。花穂は茎頂と枝先にでき、長さ2~5 cm、径4~5 mm。花は白色または淡紅色で密につく。類似のミズトラノオは多年草で、横走する地下茎や匍匐枝があり、葉はふつう4輪生、花穂の径は12~14 mmと太い。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、東南アジアに、国内では本州(関東以西)、四国、九州、琉球(徳之島)に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

休耕田や低湿地。

4. 生育状況

確認されている生育地は2ヶ所のみである。静岡市の麻機遊水地周辺に保護されている生育地がある。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発(15)や植生遷移(54)及び水田での除草剤の使用(32)が減少の主要因である。

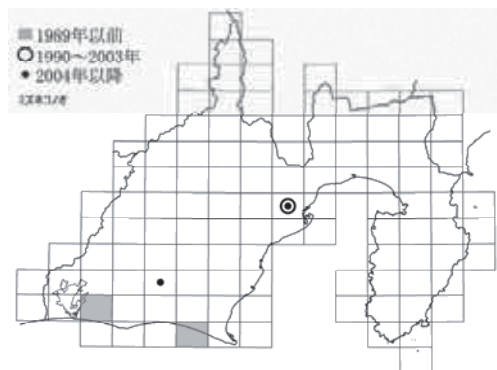
6. 保護対策

攪乱すると埋土種子が発芽するので、かつての生育地を積極的に攪乱すること。

(湯浅保雄)



静岡市 2016年10月11日 宮崎一夫



ミズトラノオ *Pogostemon yatabeanus* (Makino) Press

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~60 cm。根茎を引いて群生する。葉は広線形で長さ 3~7 cm、3~4 個を輪生する。花期は 8~10 月。花穂は長さ 2~8 cm あり、茎頂に 1 個を直立する。花は紅紫色で密生し、雄蕊を含めた長さは 7 mm。花糸は紅紫色で長毛が密生する。分果は長さ 0.7 mm で暗褐色。近縁種のミズネコノオは、葉が 3~6 個輪生して、花は雄蕊を含めた長さ 3 mm、花糸は短毛が疎らにある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地の多湿地や耕作放棄水田に生育する。

4. 生育状況

西部にあったが、今回の調査では確認されていない。生育適地が土地造成により失われた。

5. 減少の主要因と脅威

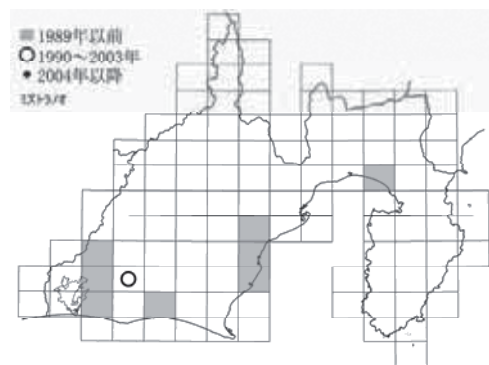
乾田化と湿地開発 (15) が主要因である。農薬の影響 (32) や園芸採取 (41)、踏圧 (51) も脅威である。

6. 保護対策

湿地開発を回避して、生育地を保護保全することが重要である。踏圧を防ぐために木道を敷設することも必要である。
(宮崎一夫)



浜松市 1994年10月7日 宮崎一夫



キセワタ *Leonurus macranthus* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更コード 1, 3

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 60~100 cm。茎は直立し四角形。葉は卵形あるいは狭卵形で、長さ 5~9 cm、幅 3~7 cm。欠刻状のあらい鋸歯がある。花期は 8~9 月。花は上部の葉腋に数個ずつつき、紅紫色で長さ 25~30 mm、萼は長さ 15 mm であらい毛がある。花冠は外部に白毛が密にあって白く見える。

2. 分布

国外では中国大陸に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地や丘陵の草地、あるいは川岸の草地。

4. 生育状況

現在では伊豆半島の草原にわずかに見られるだけとなった。

5. 減少の主要因と脅威

草原の減少 (16)。かつては各地の茅刈場などの草地に広く分布していたが、草地の人工林化とともに減少した。

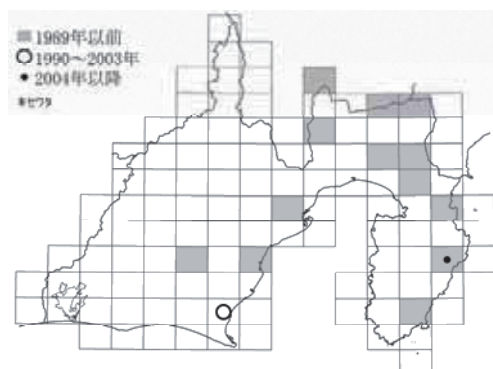
6. 保護対策

現存する草原を火入れと草刈りで維持すること。

(湯浅保雄)



牧之原市 1994年8月17日 内藤宇佐彦



コナミキ *Scutellaria guillelmii* A. Gray

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さは20~40 cm。茎は細く直立し、基部でわずかに分枝する。茎の地下に細長い走出枝が出る。葉は心形で先は丸く、長さ幅とも1~2 cm。両面に毛がある。花は5月に葉腋に1個ずつつき、白色で長さ7~8 mm。萼には腺をもった開出軟毛がある。分果は翼があって径約2 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

海岸に近い草地。

4. 生育状況

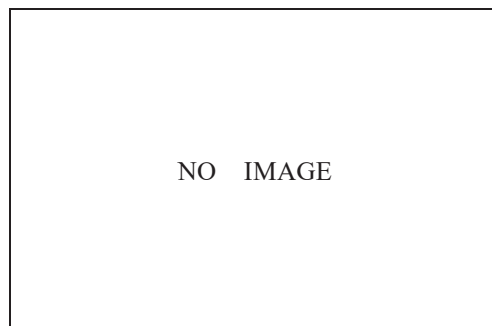
静岡県植物誌(1984)には、下田市と静岡市の大崩海岸が記録されているが、前回(2004年)の調査でも、今回の調査でも生育は確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の整備(14)と植生遷移(54)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認された場合は、生育に適した環境を保全すること。
(湯浅保雄)



ゴマクサ *Centranthera cochinchinensis* (Lour.) Merr.

var. *lutea* (H. Hara) H. Hara

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B(EN) (要件-①②⑤) 変更なし

ハマウツボ科 Orobanchaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ10~60 cm。茎は直立してほとんど枝を出さず葉は厚く狭披針形で先は尖り、両面に剛毛が生える。縁は全縁か少数の鋸歯があり、長さ1.5~6 cm。幅2~8 cm。上部の葉は小型で苞葉となる。花期は8~9月。茎の上部に穂状花序を作り、黄色な花をまばらにつける。花冠は鐘形で長さ2 cm、先端は開いて5裂する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、インドシナに、国内では本州(関東以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

湿地、池沼、湿田などに生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(2004)に浜岡町、浜松市、湖西市などの記録があるが、前回(2004年)調査及び今回の調査でも生育は確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の埋め立てや乾田化(15)、除草剤散布(32)などが減少の主要因である。

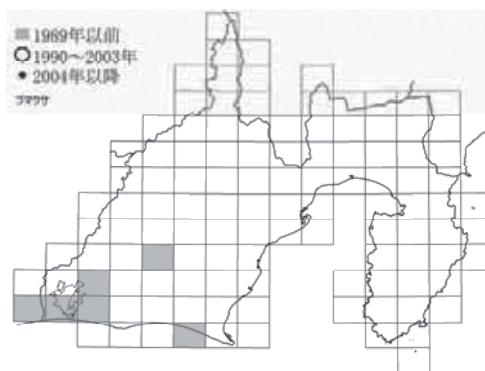
6. 保護対策

生育地が確認されたら、生育環境に配慮した保護が必要である。

(湯浅保雄)



© P I X T A



ミカワタヌキモ *Utricularia exoleta* R. Br.

(=イトタヌキモ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

浮遊性または湿生の一年生または多年生。食虫植物。葉はごくまばらで捕虫囊も1~2個である。花期は8~10月。高さ5~15 cmの花茎に花を1~3個つけ、淡い黄色で全幅3~4 mmである。

2. 分布

国外ではオーストラリアに、国内では本州、九州、琉球に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

低地の丘陵地にある湿地やため池に生育する。

4. 生育状況

浜名湖周辺と浮島沼の記録がある。近年生育が確認されていない。

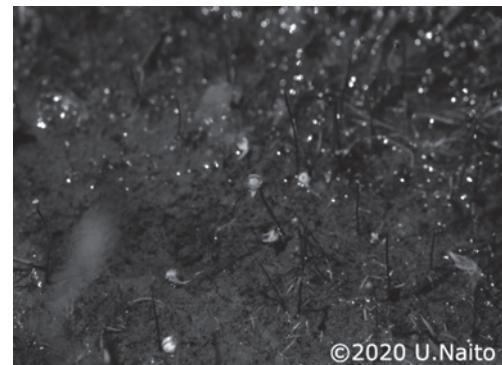
5. 減少の主要因と脅威

湿地や池沼の消失(12、15)や水質の悪化(31)がその要因である。

6. 保護対策

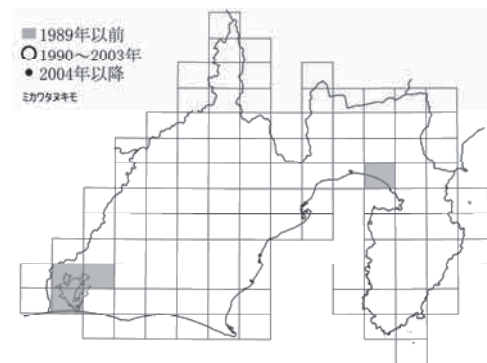
生育地が確認された場合は生育環境に配慮した保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito

愛知県 1975年8月29日 内藤宇佐彦



コタヌキモ *Utricularia intermedia* Heyne

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

浮遊性または湿生の多年生。食虫植物。水中葉は小型で分岐し捕虫囊をつけないが、地中茎にはたくさんの捕虫囊をつける。花期は6~9月。高さ5~15 cmの花茎に花を1~5個つけ、黄色で全幅12~15 mmである。

2. 分布

国外では千島、朝鮮半島より北半球に広く、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部の低地に稀に分布する。

3. 生育環境

湿地や池沼の浅水域に生育する。

4. 生育状況

沼津市と藤枝市の記録がある。近年生育が確認されていない。

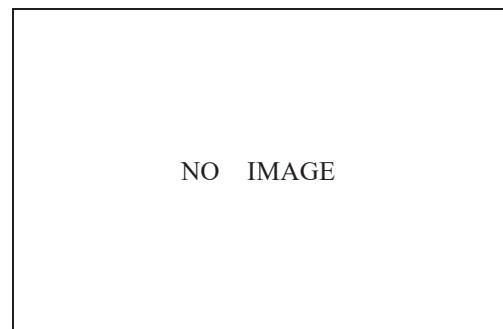
5. 減少の主要因と脅威

湿地や池沼の消失(12、15)や水質の悪化(31)がその要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は自生地の保全が必要である。

(内藤宇佐彦)



ヒメタヌキモ *Utricularia minor* L.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

浮遊性または湿生の多年生。食虫植物。葉はまばらで裂片が二又状に3~4回分岐し、捕虫嚢をまばらにつける。花期は8~9月。高さ5~25 cmの花茎に花を2~10個つけ、淡い黄色で直径8~10 mmであるが、開花は稀である。

2. 分布

国外では北半球の温帯~亜寒帯域に広く、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

低地や丘陵地にある湖沼、ため池や湿地に生育する。

4. 生育状況

静岡市と浜名湖周辺の記録がある。近年生育が確認されていない。

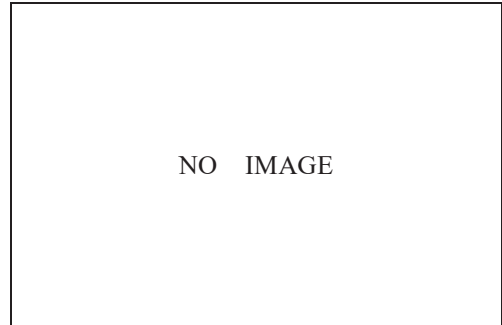
5. 減少の主要因と脅威

湿地や池沼の消失(12、15)や水質の悪化(31)がその要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は自生地の保全が必要である。

(内藤宇佐彦)



ヒメミミカキグサ *Utricularia minutissima* Vahl

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN)]

1. 種の解説

小型の多年草。食虫植物。糸状の茎と葉が地下に伸びる。地下部にまばらに捕虫嚢をつけ、花期は8~9月。高さ1~3 cmの花茎に花を1~5個つけ、淡紫色で長さ約2~3 mm、距は前へ向く。

2. 分布

国外ではアジアからオーストラリアに、国内では本州(静岡県、愛知県、三重県)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

低地や丘陵地にある湿地の主として泥上に生育する。

4. 生育状況

浜名湖周辺の記録がある。近年生育が確認されていない。きわめて小型の植物であり、見落とされているおそれもある。

5. 減少の主要因と脅威

宅地開発で水源が絶たれたことによる湿地の荒廃(23)と湿地そのものの消失(15)がその要因である。

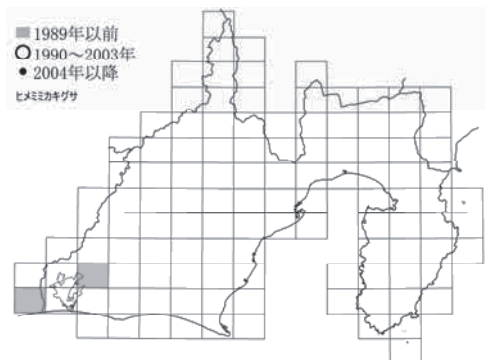
6. 保護対策

生育地が確認された場合は自生地の保全が必要である。

(内藤宇佐彦)



愛知県 1976年8月4日 内藤宇佐彦



ヒメシロアサザ *Nymphoides coreana* (H. Lév.) H. Hara

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更コード 6

ミツガシワ科 Menyanthaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

浮葉性の多年草。葉は1~3個つき、卵形または卵状円形で径2~5 cm。花期は7~9月。花は径約8 mm、白色で中心は黄色の花である。ガガブタに似ているが、葉も花も小型で、花冠裂片の縁に毛がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ベトナムに、国内では本州、四国、九州、琉球(宮古島、石垣島、西表島、与那国島)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

池沼に生育する浮葉植物である。

4. 生育状況

浜松市に生育している。生育地の減少や湿地、池の乾燥化による縮小の傾向が見られ、生育環境が厳しくなっている。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の湿地や池が、土地造成のために埋め立てられ消失した(15、23)ことや、乾燥化のために生育環境が悪化(54)したことが要因である。

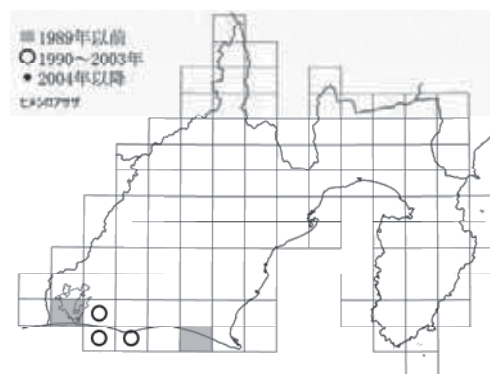
6. 保護対策

現在残る生育地の保全と乾燥化対策も必要がある。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2002年8月27日 杉野孝雄



アズマギク *Erigeron thunbergii* A. Gray subsp. *thunbergii*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ20~30 cm 短い地下茎がある。根出葉は束生し、へら形で長さ4.5~8 cm、幅1~2 cm。花期は4~7月。根出葉の間から花茎を出し、その先に1個の頭花をつける。頭花は径3~3.5 mm。舌状花は雌性で、多数が3列にならぶ。舌部は青紫色で長さ15 mm、幅1.5 mm。筒状花は両性で黄色。瘦果は狭長楕円形で長さ2 mm、冠毛は帯赤色。

2. 分布

日本固有亜種で、本州(中部地方以北)に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯の乾いた草原。

4. 生育状況

かつては広い範囲に生育していたが、草原の減少に伴いほとんど見られなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

草原の減少(16)と植生遷移(54)、さらに園芸採取(41)が減少の主要因である。

6. 保護対策

定期的な火入れや刈り払いによって、草原を維持管理すること。

(湯浅保雄)



新潟県 2016年5月22日 宮崎一夫



ネコヤマヒゴタイ *Saussurea modesta* Kitam.

(=キリガミネトウヒレン)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 35~70 cm。根出葉や茎の基部の葉は披針形または線状披針形。葉柄を含めて長さ 15~25 cm、茎の葉は茎に沿下する。花期は 8~10 月。頭花は少数で密散房状につく。総苞は長さ 9~10 mm で紫褐色、くも毛がある。花冠は長さ約 9 mm で紫色。

2. 分布

日本固有種。国内では本州(関東地方~中国地方)に、県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山地の湿原。県内では低地の湿原。

4. 生育状況

前回(2004年)調査では3ヶ所で確認されているが、今回の調査では1ヶ所しか確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

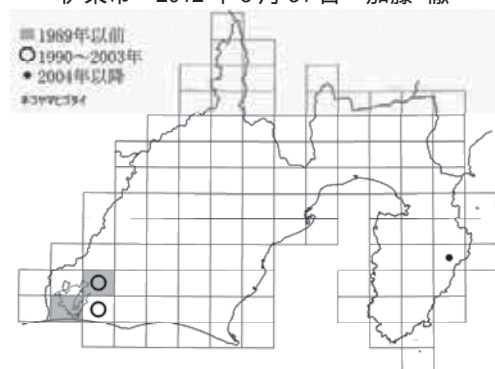
湿原の開発(15)や管理放棄による植生遷移(54)の進行が減少の主要因である。

6. 保護対策

本県の生育地は高原植物の遺存生育地であり貴重である。生育地が見つかった場合は、適切な管理と保全が必要である。(湯浅保雄)



伊東市 2012年8月31日 加藤 徹



アベトウヒレン *Saussurea nipponica* Miq. subsp. *savatieri* (Franch.) Kitam.

var. *savatieri* (Franch.) Ohwi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更コード 3

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~70 cm。茎は直立し翼があり、褐色と黒褐色の毛がある。下部の茎葉は狭卵形から卵形で、長さ 7~16 mm、幅 5~10 mm、あらい鋸歯があり、先端は尾状鋭尖頭、基部は心形。葉柄は長さ 3~11 cm で翼がある。花期は 8~10 月。枝先に散房状に頭花をつける。総苞は鐘状筒形で長さ 12~18 mm、径 6~10 mm。花冠は紅紫色。

2. 分布

日本固有変種で、本州(静岡県)に分布する。県内では中部(安倍川源流部)に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の落葉広葉樹林内と林縁。

4. 生育状況

現在の生育地はシカの近寄れない崖地に限られている。

5. 減少の主要因と脅威

シカによる食害(52-1)が減少の主要因である。

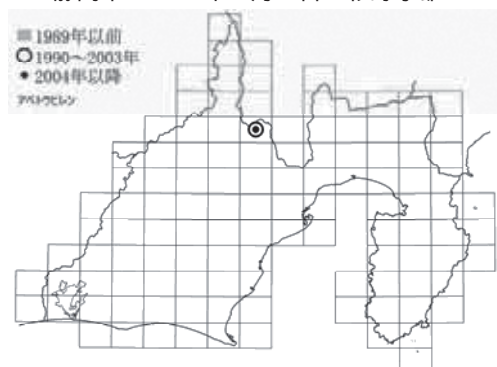
6. 保護対策

シカの食害を防ぐ対策が必要である。

(湯浅保雄)



静岡市 2002年7月9日 杉野孝雄



ヒメヒゴタイ *Saussurea pulchella* (Fisch. ex Hornem.) Fisch.

(=コウライヒメヒゴタイ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更コード 9,18

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

二年草。高さ 50~150 cm。茎は直立して稜があり、上部で分枝する。根出葉は花時には枯れる。茎葉は楕円形で長さ 12~18 cm、羽状深裂または全縁。花期は 8~10 月。頭花は径 12~16 mm で多数つく。総苞は筒形で長さ 11~13 mm、総苞片は先端に淡紅紫色の付属体がある。花冠は紫紅色。冠毛は 2 列。近縁のミヤコアザミやキクアザミは総苞片先端に付属体がない。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、モンゴル、サハリンなどに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部、中部、東部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地から低山の日当たりのよい草地や崖地に生育して、蛇紋岩地にも見られる。

4. 生育状況

産地、産量は少ない。産量は年による消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

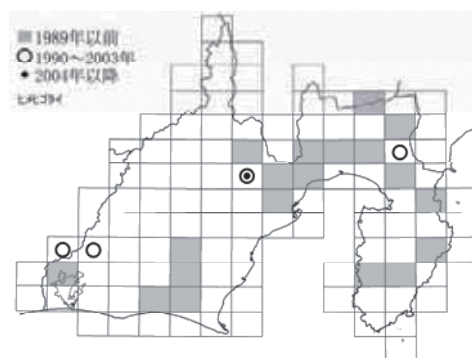
植生遷移 (54) が主要因である。林道の整備拡幅などによる崖状地の改変 (24)、園芸採取 (41) など脅威である。

6. 保護対策

植生遷移を抑制することや、林道法面などに外来種やコンクリートを吹き付けないことが重要である。(宮崎一夫)



静岡市 2018年10月22日 宮崎一夫



コウリンカ *Tephrosieris flammea* (Turcz. ex DC.) Holub

subsp. *glabrifolia* (Cufod.) B. Nord.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更コード 3

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~60 cm。茎は直立し枝を分けない。上方は白色の綿毛が多く、下方は紫色を帯びて角張っている。根葉はさじ形で翼のある長い柄がある。花期は 7~9 月。茎の先に散房状に 6~13 個の頭花をつける。頭花の径は 3~4 cm。長い舌状花は濃い橙色を帯びた赤色である。瘦果の長さは 3 mm、密に毛があり、冠毛は長さ 6.5~8 mm、汚白色。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯の適湿の草原。

4. 生育状況

最近になってシカによる食害で急激に減少した。

5. 減少の主要因と脅威

草原の管理放棄 (53) による植生変化 (54)。最近ではシカによる食害 (52-1) で急激に減少している。

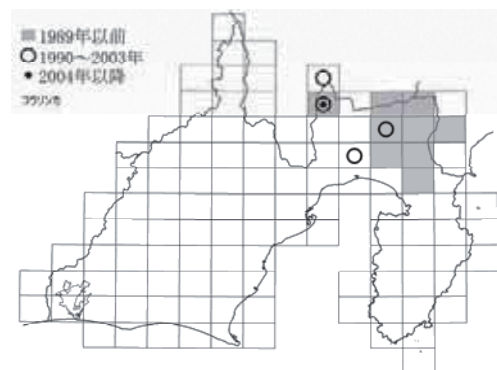
6. 保護対策

草刈りなどによる草原の維持とシカによる食害を防ぐこと。

(湯浅保雄)



富士宮市 1999年9月18日 杉野孝雄



コゴメヒョウタンボク *Lonicera linderifolia* Maxim. var. *konoj* (Makino) Okuyama

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN)]

1. 種の解説

落葉低木。葉は楕円形で、長さ10~18 mm、幅5~8 mm、先は鋭頭、両面やや長い軟毛がある。花期は5月。5~10 mmの花柄の先に濃紫紅色の2花を下垂する。花は5数性で高盆形。長さ約5 mm、裂片は5つ、同形同大で長さ1.5 mm。液果は球形で2個ならんで赤く熟す。径4 mm。数個の種子がある。

2. 分布

日本固有変種で、長野県南部(ハヶ岳)と静岡県に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯から高山帯。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に荒川岳の記録があるが、その後確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

個体数が少ない植物であり、生育地の環境変化(71)が減少の主要因と考えられる。

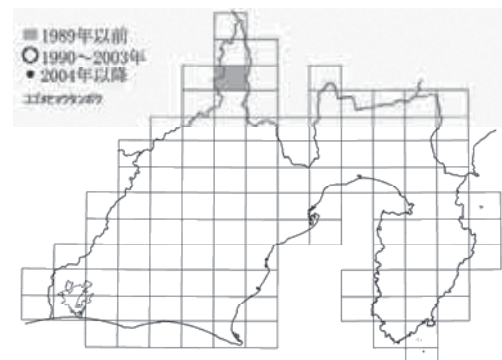
6. 保護対策

生育地周辺では、登山路以外の立ち入りを禁止するなどの対策が必要である。

(湯浅保雄)



長野県 2017年6月5日 室伏幸一



イワツクバネウツギ *Zabelia integrifolia*

(Koidz.) Makino ex Ikuse et S. Kuros.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

落葉低木。高さ2 m以下。枝には6条の縦溝がある。葉は対生し、倒卵形から披針状長楕円形。長さ2.5~7 cm、幅1~3.2 cm。基部はふくらんで相対する葉と合着する。花期は5~6月。枝の先端に2花をつける。萼片は4個。花冠は白色で淡紅色を帯びる。筒部は長さ8~15 mm。先端は4裂片に分かれる。

2. 分布

日本固有種で、本州(中西部)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

石灰岩地、稀に蛇紋岩地に生育する。

4. 生育状況

産地は限られており、個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

産地は限られており(61)、生長の速い他の植物との競合(71)が減少の主要因である。

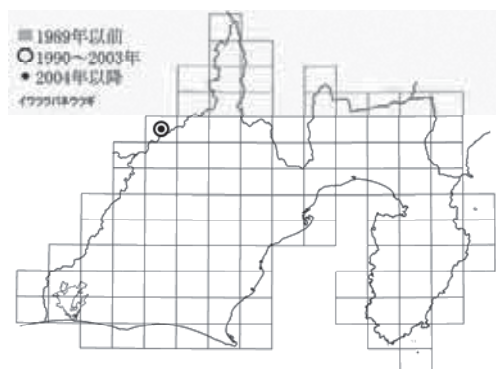
6. 保護対策

生育地を消失させないことと、生長の速い隣接木の整理が必要である。

(湯浅保雄)



浜松市(植栽) 2008年8月11日 宮崎一夫



ヤマナシウマノミツバ *Sanicula kaiensis* Makino et Hisauti

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

セリ科 Apiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15 cm、花後に 80 cm に達す。茎は直立し、ふつう枝分かれせず、先端に 2 枚の葉をほぼ対生につける。根生葉には柄があるが、対生葉はほぼ無柄。葉は 3 深裂し、裂片は長楕円形、縁に鋭い鋸歯と切れ込みがある。花期は 5~6 月。茎頂に 1~5 個の複散形花序をつけ、白色または紫色を帯びた花をつける。果実は楕円体、長さ約 4 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州(山梨県、長野県、静岡県)に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の落葉広葉樹林内。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、小山町の三国山地と富士宮市の毛無山の記録があるが、前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)による生育環境の変化とシカによる食害(52-1)が減少の主要因と考えられる。

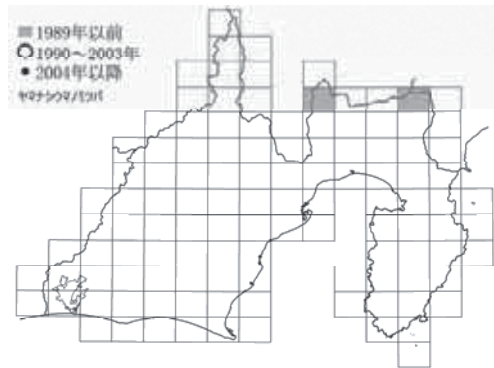
6. 保護対策

落葉広葉樹林の針葉樹林への林種転換を避けること。生育地が見つかったら、シカよけの柵を設置すること。

(湯浅保雄)



山梨県 2019年7月7日 室伏幸一



フキヤミツバ *Sanicula tuberculata* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

セリ科 Apiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

小型の多年草。高さ 8~20 cm。根出葉は細長い柄があり、径 1.5~3 cm、5 全裂する。花茎状の茎があり、頂部には葉状の総苞片が対生してつき 3 深裂する。花期は 4~5 月。花は緑色または白色で小さい。

2. 分布

国外では朝鮮半島中南部に、国内では本州(静岡県以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布しており、静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

低山地の明るい二次林内に生育する。

4. 生育状況

浜松市北区に生育する。個体数はごくわずかである。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の林の伐採(11)や遷移進行(常緑樹の生育による被陰)(54)によって容易に消滅するおそれがある。

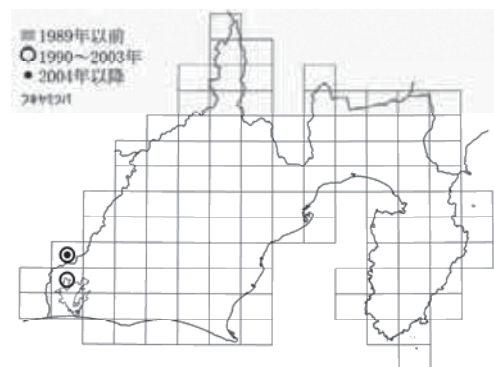
6. 保護対策

産地は少ないので生育地が消失しないようにし、植生遷移を抑制して保護を図る必要がある。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2013年3月31日 内藤宇佐彦



ヌマゼリ *Sium suave* Walter var. *nipponicum* (Maxim.) H. Hara
(=サワゼリ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

セリ科 Apiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さは60~100 cm。茎は中空で稜がある。葉は1回羽状複葉で小葉は対生して7~9個。側小葉は細長く長披針形で無柄、長さ3~10 cm。花期は7~9月。枝先にやや小さい複散形花序をつけ、白色の花を多数つける。花弁は5枚、雄蕊5本。果実は倒卵形で長さ3 mm。果実の断面はほぼ五角形である。

2. 分布

国外では中国北部、朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

池沼の岸や湿地に生える。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に静岡市と湖西市の記録があるが、前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

沼沢地(12)や湿地の開発(15)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地が見つかったら、最適な生育環境で保護すること。

(湯浅保雄)



宮崎県 2002年9月29日 内藤宇佐彦



スギラン *Huperzia cryptomerina* (Maxim.) Dixit

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ヒカゲノカズラ科 Lycopodiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

樹木に着生する常緑性シダ。茎は3回前後枝分かれをし、長さ10~30 cmに達する。一見姿はトウゲシバに似るが、葉は線状披針形から狭披針形で緑色から深緑色、革質で全縁、長さはやや不揃いで、先端は鋭頭。上部の葉は狭く、やや短くなる。胞子嚢は枝端近くにつくが、胞子嚢穂というまとまりはない。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、インドに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では全県に点在分布するが、伊豆(天城山)、東部(富士山、愛鷹山)に多い。

3. 生育環境

山林の森林帯、樹木に着生するのがふつうだが、稀には岩上に着生することもある。

4. 生育状況

全県の山林中に生育するが、産地も限られ、個体数もごく少ない。強風により着生木が倒れたり、木は倒れなくてもスギランそのものが吹き落とされることも多い。

5. 減少の主要因と脅威

山林の樹木伐採(11)や古木の枯死など自然遷移(54)による減少が脅威である。園芸採集(41)による減少も著しい。

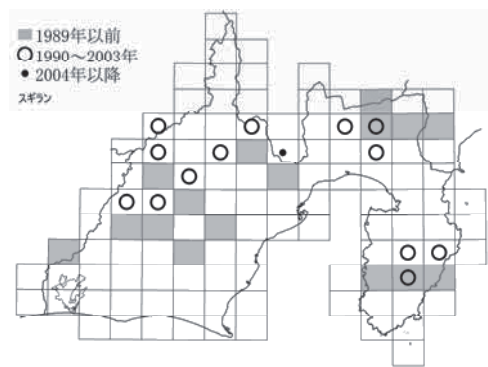
6. 保護対策

古木に着生することが多く、山林中の樹木伐採を防ぐ対策が必要である。

(細倉哲穂)



浜松市 2001年11月11日 宮崎一夫



ミズニラ *Isoetes japonica* A. Braun

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ミズニラ科 Isoetaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

水生の夏緑性シダ。塊茎は2~3 cm、底は浅く3分する。葉は束生し、長さ10~30 cm。水深などの条件により変異が大きく、4稜のある円柱状で先端は次第に細くなる。基部は広がって卵状となり、胞子嚢をつける。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州、四国に分布する。県内では各地に分布する。

3. 生育環境

ため池、池沼、湿地、水田などに沈水あるいは抽水して生育する。

4. 生育状況

産地は限られている。生育環境の特殊性から減少傾向が著しい。

5. 減少の主要因と脅威

池沼・湿地の開発(15)、ため池の改修(12)、水田の乾田化(15)や農薬使用による水質悪化(32)などが要因である。

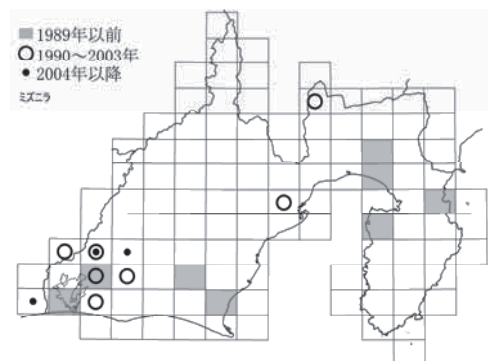
6. 保護対策

生育する水湿地の保護と、水田では現在の耕作形態維持が重要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2016年7月24日 宮崎一夫



ヒメハナワラビ *Botrychium lunaria* (L.) Sw.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ハナヤスリ科 Ophioglossaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

小型の夏緑性シダ。根茎は細い円柱状。葉は共通柄の先で栄養葉と孢子葉に分かれている。栄養葉は短柄があり、単羽状複葉で羽片は扇形、3~5対あって頂羽片を除いてほぼ同形。孢子葉は総状または円錐状で3回羽状、孢子嚢を密につける。

2. 分布

国外では北半球(温帯周極地域)、南半球(オセアニアの高山)に、国内では北海道、本州(主に中部以北)に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯及び高山帯の、日のよく当たる岩礫地や草原に生育している。

4. 生育状況

産地も限られ、個体数もきわめて少ない。生育環境の悪化により、著しく減少している。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ(51)、植生遷移(54)などが減少の主要因である。園芸採取(41)も考えられる。

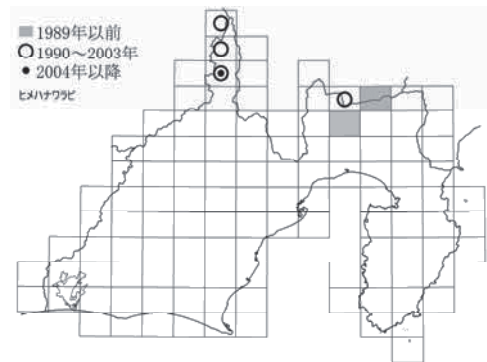
6. 保護対策

登山道の指定により、登山者の踏みつけや園芸採取を防ぎ、生育環境に影響を与えないような対策が必要である。

(細倉哲穂)



静岡市 2018年8月25日 湯浅保雄



マツバラシ *Psilotum nudum* (L.) P. Beauv.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

マツバラシ科 Psilotaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

小~中型の常緑性シダ。長さは30cm前後に達する。暖地で樹上着生だが、北方では岩上着生が多く、時に地上にも見る。茎は地上茎、地下茎に分かれ、地下茎に根はなく仮根がある。地上茎は又状に数回分岐する。葉はなく、茎に鱗片状の小突起がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国から世界の亜熱帯~熱帯地域に広く、国内では本州(宮城県、石川県以南、以西)、四国、九州、小笠原、沖縄に分布する。県内では各地に分布する。

3. 生育環境

暖地の低山地、山麓の樹上や岩上に着生、時には崖地、地上に生育することもある。

4. 生育状況

県内に自生地が点在するが、それぞれの生育地での個体数は少なく、個体の大きさも小さいものが多い。市街地周辺の石垣などに見るものは、多くは栽培品からの逸出である。

5. 減少の主要因と脅威

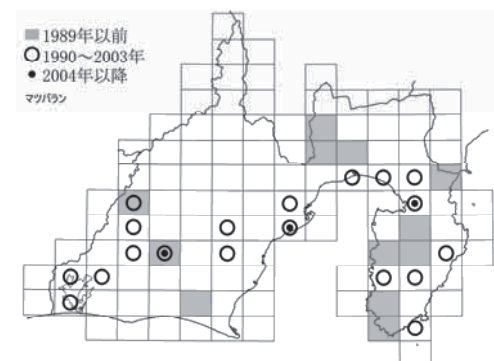
樹木の伐採などの山林の開発行為(11)で激減している。江戸時代の昔から、観葉植物として栽培されており、今日もなお園芸用に採取されること(41)が脅威である。

6. 保護対策

生育地では、山林の伐採や開発による、生育地の環境破壊などの影響を生じさせない対策が必要である。(細倉哲穂)



静岡市 2018年1月2日 青島一樹



シロヤマゼンマイ *Osmunda banksiifolia* (C. Presl) Kuhn

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ゼンマイ科 Osmundaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。葉長は1.5 m前後に達する。葉柄は長く、鱗片はつかない。葉は革質で表面に光沢がある。葉身は単羽状で羽片は葉軸に45°ほどの狭い角度につき、基部に関節がある。下部の羽片に孢子嚢群がついて、不完全な二形性を呈する。孢子嚢群のついた羽片は褐色で、短く小さい。

2. 分布

国外では台湾、中国、フィリピン、インドシナ、アジアの熱帯に、国内では本州（静岡県、和歌山県）、四国、九州、小笠原、琉球に分布する。県内では伊豆（旧賀茂村）と西部に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地林下の林床や林縁、溪流近くの湿った崖地などに生育する。

4. 生育状況

産地が局限され、生育地での個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

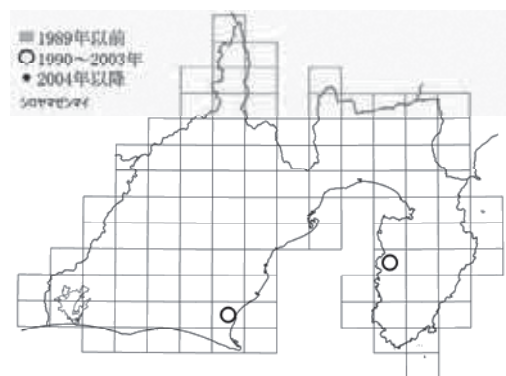
林道の整備(24)、河川の改修や開発(13)、山林の伐採(11)などによる生育環境の悪化が心配される。

6. 保護対策

河川の改修、山林の伐採の際、留意する。緊急に保護の方策を講ずる必要がある。(細倉哲穂)



牧之原市 2003年1月12日 杉野孝雄



サンショウモ *Salvinia natans* (L.) All.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

サンショウモ科 Salviniaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

浮遊性の一年生シダ。茎は長さ5~10 cmになり、葉は各節に三輪生する。二葉は対生する浮葉となって水面に浮かび、一葉は水中葉で細裂して根状となり、水中に垂れる。浮葉は単葉で楕円~長楕円形、円頭、長さは2 cmほどで幅は1 cm以下である。表面には小束毛を密につけ、裏面には軟毛をつける。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、インドシナ、インド、ロシア、ヨーロッパ、北米に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地の水田、池沼の水面に浮遊して生育する。

4. 生育状況

遠江の南部低地では、今日も各地に点在、生育しているものの、かつてほど見られない。他の地区では、著しく減少し、ほとんど見られなくなっている。

5. 減少の主要因と脅威

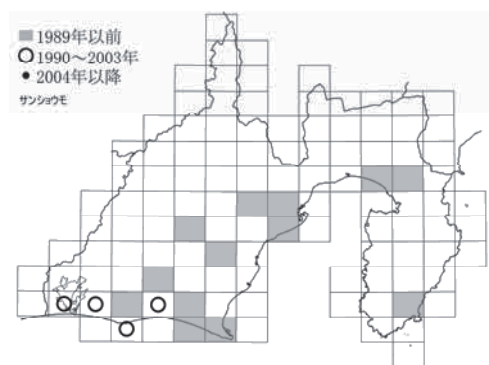
池沼や水路の消失(12、13)、水田の耕地整理や消失(15)も多く、既に絶滅した所が多い。水田除草剤や農薬にも弱いようで、これによる水質の悪化(32)も影響している。

6. 保護対策

低地水田、池沼の生育環境に配慮した保護対策が必要である。池沼や水路の整備工事にも気を配り、良好な生育環境の維持が望まれる。(細倉哲穂)



浜松市 1994年10月1日 宮崎一夫



アカウキクサ *Azolla imbricata* (Roxb. ex Griff.) Nakai

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

サンショウモ科 Salviniaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

浮遊性の小型常緑性シダ。茎は水面で水平に伸びて分岐し、葉と少数の根を生じる。植物体は三角形で長さ1~1.5 cm。葉は無柄で長さ1.5 mm。茎とともに表面に粒状突起が密生する。根は分岐して水中に沈み、長い根毛がある。孢子嚢群は秋以降に成熟し、大孢子には多数の浮遊器官がある。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島南部、台湾、インドなどに、国内では本州（東京都と東海地方以西）、四国、九州、琉球に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

水田、池沼、溝など。

4. 生育状況

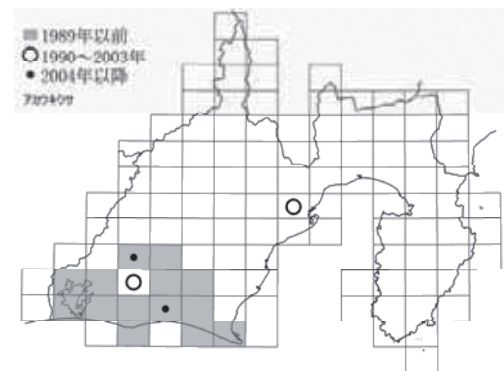
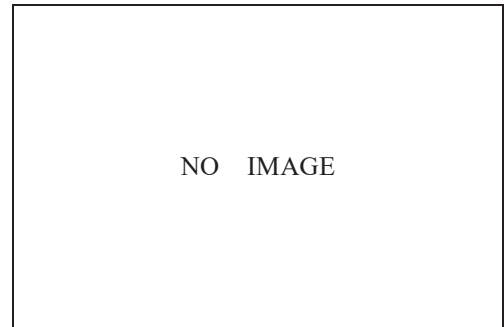
かつては県西部に広く分布していたが、前回（2004年）の調査時には4ヶ所、今回はわずか2ヶ所で確認されたに過ぎない。

5. 減少の主要因と脅威

農薬の使用（32）と水田の圃場整備（15）が減少の主要因である。

6. 保護対策

水田で生育が確認できたら、農薬の使用を止め、有機農法で稲作を行いたい。（湯浅保雄）



オオアカウキクサ *Azolla japonica* (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード 1,18

サンショウモ科 Salviniaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

常緑の浮遊性小型水生シダ。茎は水面で羽状に分岐する。葉は鱗片状で互生して密生する。長さは約2 mmで、葉面の突起はほとんどない。根は水中に伸びるが根毛がない。孢子嚢群は初夏から夏に成熟する。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に、県内では伊豆、東部、中部、西部に分布するが、特に東部と西部に多いようである。

3. 生育環境

低地の湖沼、養鰻場の跡地、水田やその水路、河川の止水域などの水面に浮遊して生育する。

4. 生育状況

各地の低地の水田地帯に点在する。条件がよければ、水田や池沼に大群生することもある。水田の消失により絶滅した所もふえてきた。農薬や除草剤にも弱いようで激減したが、近年は一部の所で復活の兆しも見られる。

5. 減少の主要因と脅威

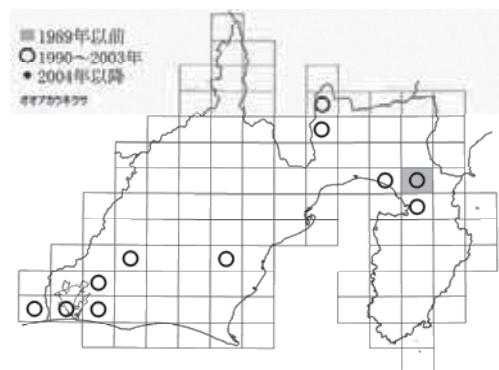
水田地帯の整備・消失（15）、水路の改修（13）などによる減少も多い。さらに、農薬、除草剤の使用（32）も脅威である。

6. 保護対策

水田、それに伴う水路の改修などが減少、絶滅の危機を招いているので、これらによる生育環境の悪化を防ぐ対策が必要である。（細倉哲穂・湯浅保雄）



清水町 1994年3月24日 杉野孝雄



ユノミネシダ *Histiopteris incisa* (Thunb.) J. Sm.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし コバノイシカグマ科 Dennstaedtiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ (県内では半常緑)。葉は先端の成長がとまらないため、葉身は1.5~2 mほどにまで達する。根茎は長く這い、径1 cmを超える。葉柄は長さ50~70 cm、基部で径1.5 cmほどもあり、暗褐色で光沢がある。葉の裏はやや粉白となる。葉身は2~3回羽状、孢子嚢群は小羽片の辺に連なり、偽包膜で覆われる。

2. 分布

国外では台湾、中国、フィリピン、東南アジア、オーストラリア、太平洋諸島、アフリカに、国内では本州 (静岡県、和歌山県)、九州、琉球、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

暖地の、向陽地だがやや湿潤な林内や林床、溪流沿いなどの地上に生育している。

4. 生育状況

産地はきわめて局限されている。今は群生する所もあるが、今後の生育環境の継続が心配である。

5. 減少の主要因と脅威

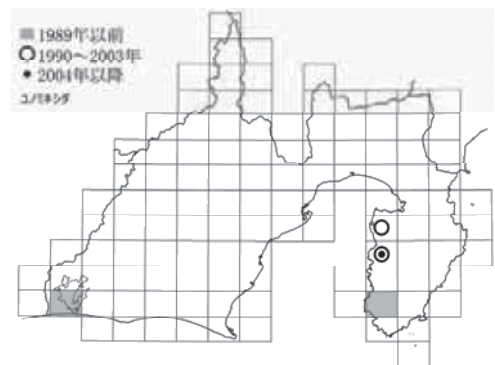
林道の整備工事 (24)、ダム建設 (25)、山林の樹木伐採 (11) などによる生育環境の悪化が懸念される。

6. 保護対策

生育地は分布の北限地という貴重な場所である。林道の整備、山林の伐採などによる生育環境の破壊の脅威に留意しながら、拠点個所を決めての生育地の保護が必要である。(細倉哲穂)



西伊豆町 2006年8月8日 細倉哲穂



タキミシダ *Antrophyum obovatum* Baker

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

シシラン科 Vittariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。葉は多くは10 cm程度であるが、環境がよければ20 cmほどにまで達することもある。やや長い卵~長楕円形の葉を数枚つけ、葉身にははっきりした葉軸はない。脈は網状になっているが、葉肉が厚くて見えない。孢子嚢群は葉裏の窪んだ浅い溝につき、葉面全体に広がる。

2. 分布

国外では台湾、中国、インドシナ、タイ、インドに、国内では本州 (千葉県以西、富山県以南)、四国、九州に分布する。県内では各地に分布している。

3. 生育環境

暖地の山地林内、あるいは溪流近くのやや湿った岩壁や岩上に、コケ類とともに着生し、生育する。

4. 生育状況

産地は全県に点在するが、生育場所は局限され、個体数はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

山林の樹木伐採 (11) などによる生育地の乾燥化、環境の悪化、園芸採取 (41) が絶滅や減少の脅威である。

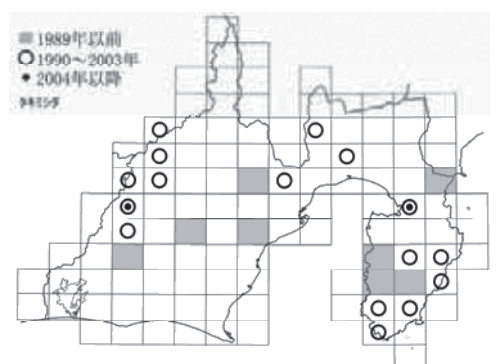
6. 保護対策

生育地の生育環境の保護が必要で、山林の樹木伐採や林道の整備などによる生育地の乾燥化を防止する必要がある。

(細倉哲穂)



沼津市 2016年6月26日 内藤宇佐彦



ナカミシシラン *Haplopteris fudzinoi* (Makino) E. H. Crane

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

シシラン科 Vittariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小～中型の常緑性シダ。葉は長さ 25～40 cm ほどに達し、葉身は線形、幅は 3～5 mm で肉質である。中肋は裏面でやや隆起、幅広く、裏面にも少し隆起、その両側に明瞭な 2 条の溝がある。生態、形態ともに似たシシランは、表面の溝が 1 条であることで、区別できる。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（東京都以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆（天城山）、東部（愛鷹山）、西部（北遠）に分布する。

3. 生育環境

深山の山林内、樹幹や岩壁、岩上に着生して生育し、下垂する。

4. 生育状況

産地が局限され、数少ない産地でも個体数は少なく、減少、絶滅の危機にある。

5. 減少の主要因と脅威

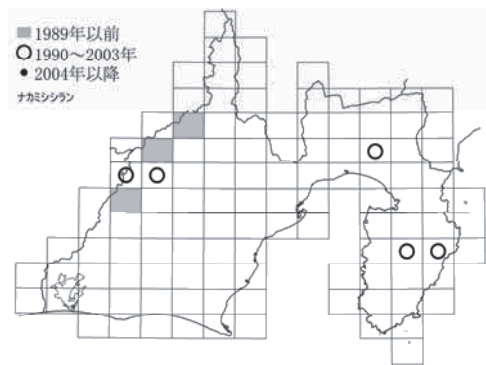
限られる生息地の消失 (71) で減少している。山林の樹木伐採 (11) などによる生育環境悪化も脅威となっている。

6. 保護対策

着生植物の場合、何も本種に限られる訳ではないが、着生する樹木の保護が第一義的に重要である。生育地の山林伐採による環境への影響を防ぐことも必要である。
(細倉哲穂)



浜松市 1983年9月25日 内藤宇佐彦



アイコハチジョウシダ *Pteris laurisilvicola* Sa. Kurata

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①) : 変更なし

オモダカ科 Alismataceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ（県内では半常緑）。葉長 70 c ほどに達する。葉身は 2 回羽状複葉で、羽片はやや斜上、中央部が広くなり、基部は楔形から切形。和名の「アイ」は中間を意味し、ニシノコハチジョウシダとハチジョウシダモドキの中間的な特徴をもつが、孢子正常で、雑種ではない。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（静岡県、紀伊半島）、四国、九州に分布する。県内では伊豆（下田市、南伊豆町）、東部（沼津市）、中部（静岡市）に分布する。静岡県は分布北限・東限地である。

3. 生育環境

暖地山地の山林内や草地、道沿いに生育する。

4. 生育状況

生育地は局限され、個体数も少なく、かつて知られた生育地でも、今は知られない所が多い。伊豆では、温暖化による分布の北上が考えられるが、生育適地はまだ少ない。

5. 減少の主要因と脅威

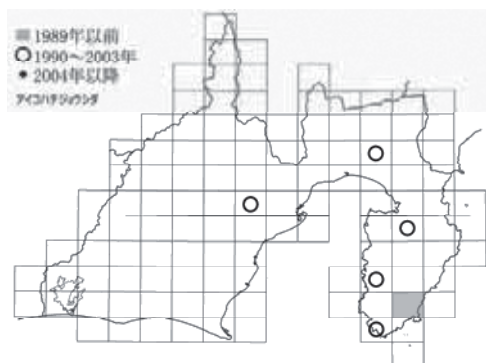
生育地は局限され (61)、出現してもその後の環境変化 (71) で見られなくなることが多い。

6. 保護対策

生育地、周辺の山林の伐採、林道の改修などによる環境変化を防ぐ必要がある。
(細倉哲穂)



静岡市 2002年6月22日 杉野孝雄



ハチジョウシダモドキ *Pteris oshimensis* Hieron.

(=コハチジョウシダ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イノモトソウ科 Pteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中～大型の常緑性シダ。ハチジョウシダに似るが、葉質はやや薄くやや革質。単羽状複生で羽片は幅がほぼ平行的で基部は広楔形。葉軸とは70°ほどの角度で斜上して出る。葉は長さ70 cmほどに達し、羽片は7～10対、下から3番目ほどまでの羽片はほぼ同長、下部羽片に小柄がある。最下羽片外側に1～2個の長い小羽片を出す。

2. 分布

国外では中国、インドシナに、国内では本州(千葉県から紀伊半島)、四国、九州に分布する。県内では伊豆(伊豆市、河津町、旧賀茂村)などに分布する。

3. 生育環境

暖地の山地の林下や平地の林内に稀に生育している。

4. 生育状況

伊豆地方の数ヶ所に生育が限定され、個体数も一般に少ないが、環境がよい場合、場所によっては小群落を作る。

5. 減少の主要因と脅威

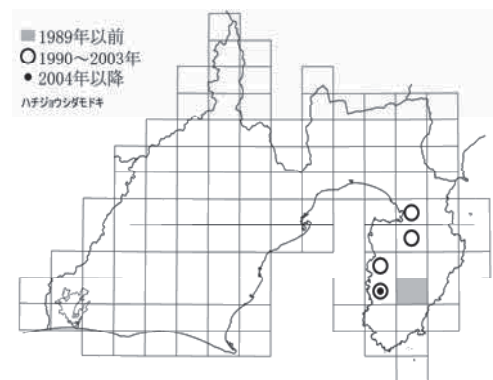
林道整備工事(24)や樹木伐採(11)などによる生育環境の悪化が脅威となっている。

6. 保護対策

山林の樹木伐採、小河川、溪谷の整備工事、林道の改修などで、生息環境への悪影響が生じないように対策を講ずる必要がある。(細倉哲穂)



西伊豆町安城岬 2006年10月22日 細倉哲穂



ヒノキシダ *Asplenium prolongatum* Hook.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

チャセンシダ科 Aspleniaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。根茎は短く斜上又は直立し、葉を叢生する。葉は2回羽状複生で、長さ30 cm前後に達する。中軸の先端は伸長して無性芽をつける。孢子嚢群は、小羽片内側の辺寄りに1つずつつき、線形で、同形の包膜に覆われる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国、インドシナ、インド、スリランカに、国内では本州(静岡県、紀伊半島)、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。静岡県は分布の北限、東限地。

3. 生育環境

暖地の山地林内の溪流沿いの岩上、岩壁に着生する。

4. 生育状況

伊豆は東海岸、西海岸を中心に、点在だが産地は結構多い。無性芽で繁殖するので、群落が形成されることも多い。

5. 減少の主要因と脅威

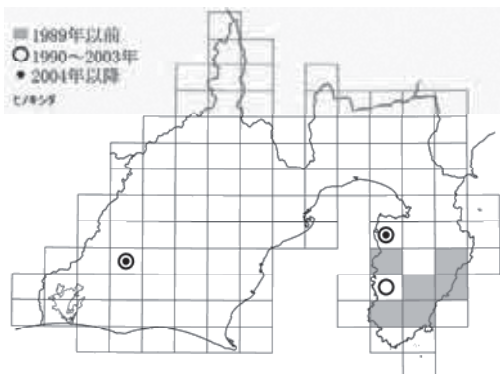
樹木伐採(11)や河川改修(13)、ダム建設(25)、林道整備(24)などが大きな脅威となっている。

6. 保護対策

周囲の山林伐採や林道整備は、生育地の日当たりをよくしたり空中湿度を低下させる。そうしたことがないように、生息地の環境に影響がないようにすることが必要。(細倉哲穂)



沼津市 2010年3月20日 細倉哲穂



ホソバショリマ *Thelypteris beddomei* (Baker) Ching

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ヒメシダ科 Thelypteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ（静岡県では夏緑性）。根茎は長く這い、その先端近くに葉をやや密生してつけ、群落をなす。葉は直立し、2回羽状深裂。葉身は倒披針形で鋭尖頭。下部羽片はだんだん短くなり、著しく短くなってほとんど耳片状になる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国、フィリピン、インドネシア、インド、スリランカ、ニューギニアに、国内では本州（静岡県、岐阜県、三重県、広島県）、四国（徳島県、愛媛県）、九州に分布する。県内では東部（富士宮市）に分布する。

3. 生育環境

暖地の湿原や山地林内のやや湿った地上、林縁斜面などに生育する。

4. 生育状況

産地はごく限られている。群落は残っているが氣息奄々の生育地もある。

5. 減少の主要因と脅威

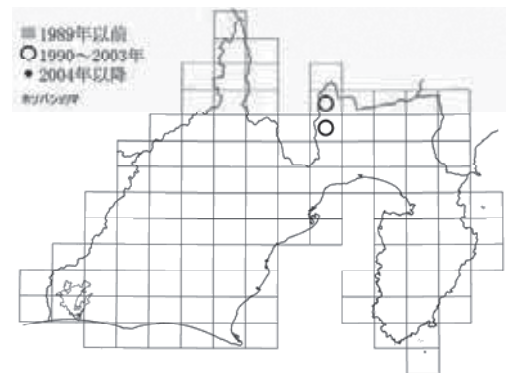
湿原の開発行為（15）、周辺の樹木伐採（11）、道路整備工事（24）などが生息地消失や環境悪化をまねく。

6. 保護対策

本種生育地は富士宮市の天然記念物に指定されているが、環境の保全など、保護行政がしっかり機能しているとは思われない。（細倉哲穂）



富士宮市 2003年9月6日 杉野孝雄



テバコワラビ *Athyrium atkinsonii* Bedd.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イワゲンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

大型の夏緑性シダ。根茎は短く這い、葉は密接してつき、葉長80~150 cm、広卵形または三角状卵形で、三、四回羽状複生する。羽片、小羽片は有柄で互生、小羽片は内先である。裂片は広楕円形で、円頭、小鋸歯縁。孢子嚢群はやや中肋寄りに位置、辺縁に小歯牙のある小さな包膜をもつ。

2. 分布

国外では台湾、中国、インド、ネパール、パキスタンに、国内では本州（関東、中部、近畿北部、山口県）、四国、九州に分布する。県内では中部（静岡市）と西部（旧本川根町）に分布する。

3. 生育環境

山地や高原の林内、林床、やや湿潤な谷間などに生育する。

4. 生育状況

産地は局限されており、個体数もきわめて少ない。林道沿いの、人のよく歩く所にも見られる。

5. 減少の主要因と脅威

林道整備工事（24）、樹木伐採（11）などによる生育地の環境悪化や、踏みつけ（51）による影響が懸念される。

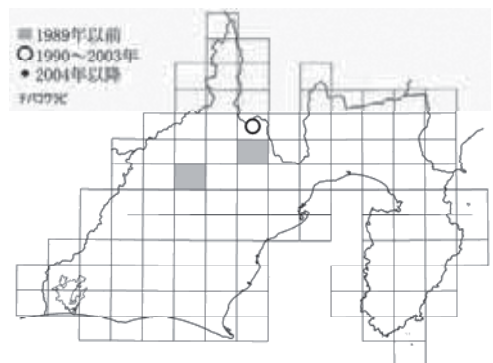
6. 保護対策

前項に記載した脅威から絶滅を防ぐ必要がある。

（細倉哲穂）



静岡市 2001年6月8日 内藤宇佐彦



イワヤシダ *Diplaziopsis cavaleriana* (H. Christ) C. Chr.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イワデンド科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の夏緑性シダ。根茎は直立または斜上、葉を叢生する。葉身は披針～広披針形で、長さ70 cmほどまでになる。葉は薄くやわらかい草質、頂羽片がはっきりした単羽状。頂羽片、側羽片は同大で同形。葉柄基部には黒褐色の鱗片。孢子嚢群は中肋近くに並び、これを包膜が包み込んでソーセージ状になる。「イワヤ」は愛媛県岩屋寺。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆市天城山中の数ヶ所に産するのみである。

3. 生育環境

暖地の山地林内、やや陰湿な林下に稀に生育する。特にスギの林下に多い。

4. 生育状況

天城山中のごくわずかな所に生育するだけで、群落を作っている所もあるが、個体数は多くない。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採など(11)による生育環境の悪化で減少している。近年は、シカの食害(52-1)による脅威にさらされている。

6. 保護対策

山林の樹木伐採、河川の改修、林道の整備などによる生育地の乾燥化、環境の悪化を防ぎたい。

(細倉哲穂)



伊豆市 2007年11月11日 杉野孝雄



イヨクジャク *Diplazium okudairae* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イワデンド科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

中型の夏緑性シダ。ノコギリシダに似るが、葉身は革質で根茎はやや短く、葉は接近して出る。葉は60 cmほどまで、単羽状。羽片は8~10対位で、羽片基部上側に大きな耳片をもつ。上部羽片基部は葉軸に沿着し、羽状深裂の頂羽片のような形になる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州(静岡県以西の太平洋側)、四国、九州に分布する。県内では伊豆(天城山)、東部(愛鷹山)に分布し、静岡県が分布の東限である。

3. 生育環境

暖地の山林下の溪流沿いなど、やや陰湿な地上に生ずる。

4. 生育状況

県内ではごく稀に生息することが分かっているだけである。根茎を伸ばして繁殖するが、大きな群落にはならない。

5. 減少の主要因と脅威

山林の樹木伐採など(11)による環境変化により、減少している。近年はシカの食害(52-1)も目立ってきた。

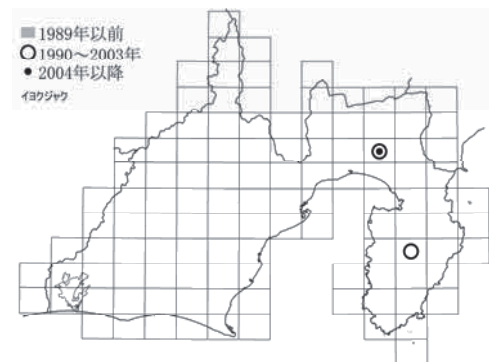
6. 保護対策

山林の樹木伐採、河川の改修、林道改修などによる生育地の乾燥化など環境の悪化を防ぐ必要がある。

(細倉哲穂)



富士市 2007年7月28日 杉野孝雄



ニセコクモウクジャク *Diplazium virescens* Kunze

var. *conterminum* (H. Christ) Sa. Kurata

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。コクモウクジャクの変種。葉は長さ1.8 m、幅80 cmに達する。葉柄下部の鱗片は黒～黒褐色。葉身は3回羽状。最下羽片は明瞭な柄をもつ。小羽片は浅～中裂、基部は切形に近い。孢子嚢群は長楕円形で辺縁寄りにつく(コクモウクジャクは中肋と辺縁の中間につく。)

2. 分布

国外では中国、ベトナム、タイに、国内では本州(神奈川県～紀伊半島の太平洋岸)、四国、九州、琉球列島に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地林下の谷筋などやや湿気の多い場所に生育する。

4. 生育状況

生育地では根茎が這って繁殖するので、群落を作る。しかし、土砂崩落や山林伐採で減少している所もある。

5. 減少の主要因と脅威

河川改修(13)、崖崩れなどの自然災害(55)、林道整備(24)、山林伐採(11)により減少している。

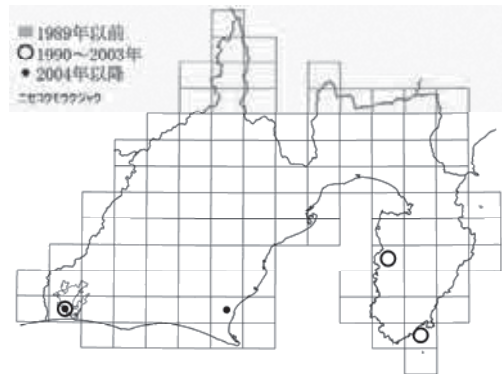
6. 保護対策

生育地の山林伐採、林道の拡幅などの改修工事、河川上流部の開発などによる環境の悪化を防ぎたい。

(内藤宇佐彦・細倉哲穂)



湖西市 2008年12月14日 内藤宇佐彦



アオキガハラウサギシダ *Gymnocarpium dryopteris* (L.) Newman

var. *aokigaharaense* Nakaike

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-②) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の夏緑性シダ。ウサギシダの変種である。葉身は3回羽状複生する。葉柄、葉軸が無毛であることはウサギシダに似るが、葉身全形はウサギシダとイワウサギシダの中間的な形をしている。下から2番目の羽片にも柄があるのが特徴だが、この2番目の柄が明瞭でない場合もある。

2. 分布

日本固有変種で、本州(東北地方南部、関東地方、中部地方)に分布する。県内では東部(小山町、富士宮市)、中部(静岡市)に分布する。静岡県は分布南限である。

3. 生育環境

山地林下のやや陰湿な岩壁に生育している。根茎が這うことで繁殖するので、小規模ながら群落を作る。

4. 生育状況

生息地も局限されていて、各生育地での個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

遷移の進行(54)、樹木伐採(11)による乾燥化、登山道の近くでの踏みつけ(51)による減少、絶滅のおそれがある。

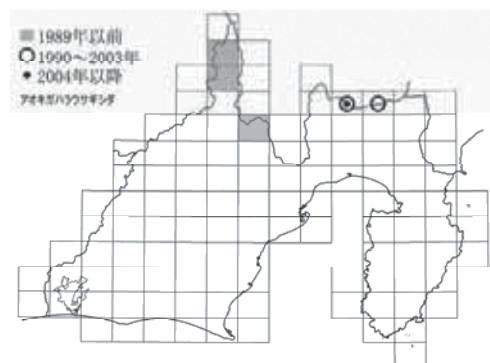
6. 保護対策

山林伐採による生育地の乾燥化、登山道の整備、登山者による踏みつけなどを防ぎたい。

(細倉哲穂)



富士宮市 2008年9月5日 細倉哲穂



イワウサギシダ *Gymnocarpium jessoense* (Koidz.) Koidz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イワデンド科 Athyriaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

夏緑性シダ。根茎は長く横走して暗褐色。葉は長さ15~30 cm。葉身は三角状長卵形。葉柄は長さ5~20 cm、細くて腺毛があり基部に鱗片がある。最下羽片は第2羽片より少し大きく有柄である。孢子嚢群は裂片の辺縁の近くにつきほぼ円形である。近縁種のアオキガハラウサギシダは第2羽片も有柄である。

2. 分布

国外では北半球の温帯に、国内では北海道、本州(奈良県以東)、四国に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯の草本類がまばらな蛇紋岩や石灰岩からなる岩礫地に生育している。

4. 生育状況

産地は光岳、北荒川岳周辺に局限する。株数はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

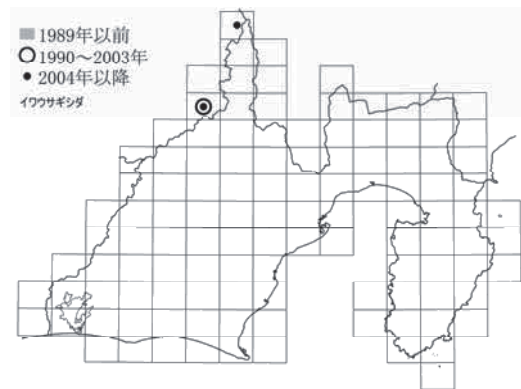
植生遷移(54)や踏圧(51)が主要因である。マニアによる採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

登山道を迂回指定して踏圧を軽減する。(宮崎一夫)



静岡市 2013年7月13日 室伏幸一



カツモウイノデ *Ctenitis subglandulosa* (Hance) Ching

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①) 変更なし

オンダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑シダ。葉は1 m以上に達する。根茎は斜上、葉柄下部には長い線形の茶褐色の鱗片が密生、葉柄、葉軸には褐色で披針形の鱗片がはりつく。葉身は卵状三角形で3回羽状深裂する。孢子嚢群は小羽軸近くにつき、包膜は円形で辺縁は不規則に裂け、腺状、毛状の突起がある。

2. 分布

国外では台湾、中国、フィリピン、インドシナ、インドに、国内では本州(千葉県、静岡県、紀伊、島根県)、四国(太平洋側)、九州、琉球、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の谷間、林下のやや湿ったところから尾根筋まで生じ、群生する。

4. 生育状況

所によっては群生地もあるが、多くは小群落で個体数は少ない。中部、西部の産地も極稀で、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)により、絶滅した所も出てきた。自然災害(55)の影響を受けて減少している所もある。

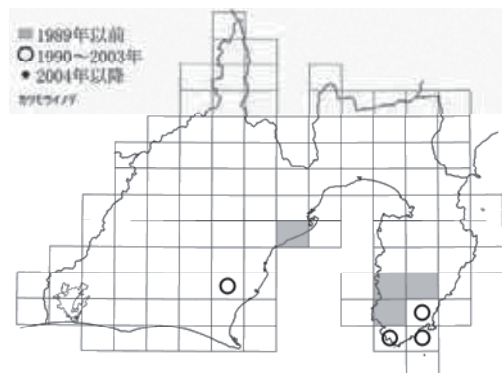
6. 保護対策

山林伐採や林道整備工事などで、生息地の環境が改変されたりしないようにする必要がある。

(細倉哲穂)



牧之原市 2002年7月31日 杉野孝雄



イズヤブソテツ *Cyrtomium atropunctatum* Sa. Kurata

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。葉は1 mほどに達し、根茎は塊状、葉身は単羽状。頂羽片は明らかで、側羽片は10~20対、広披針形で両縁はやや平行的である。耳片はほとんどない。葉の表面はやや黒味のある緑色、孢子嚢群は羽片の中に散在、包膜の中心は黒褐色で、辺はやや不規則に切れる。

2. 分布

日本固有種で、本州（茨城県、神奈川県以西）、九州に分布する。県内では伊豆と中部に分布する。伊豆は本種の基準産地である。

3. 生育環境

暖地の林内や溪流沿いなど陰湿な場所の地上に生育する。特にスギの人工林下に多い。

4. 生育状況

山地林下に点在分布し、個体数は少なく、稀である。

5. 減少の主要因と脅威

樹木伐採 (11)、林道・河川の改修 (24、13)、ダム建設 (25)、近年はシカの食害 (52-1) の影響も受けている。

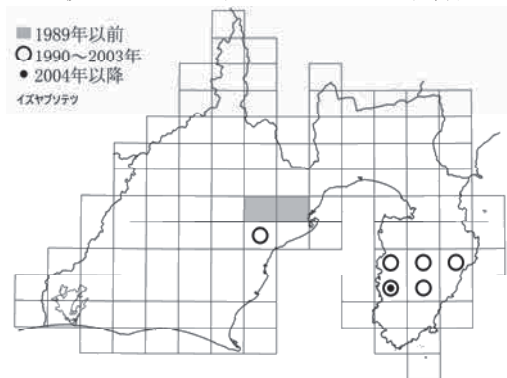
6. 保護対策

山林の伐採、道路改修、河川改修などで、生育地の環境に影響が生じないようにする必要がある。

(細倉哲穂)



西伊豆町 2008年11月23日 細倉哲穂



ヒロハヤブソテツ *Cyrtomium macrophyllum* (Makino) Tagawa

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性のシダ。葉は長さ1 m前後に達する。葉柄下部に黒褐色、卵~披針形の鱗片。大きくて幅広い頂羽片の下に2~8対の側羽片がある。側羽片は円形で、耳片はない。孢子嚢群は葉裏に散在、包膜は緑色から灰白色で、やや早落性である。

2. 分布

国外では中国、ヒマラヤに、国内では本州（千葉県以西、新潟県佐渡以南）、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地林下、やや陰湿な場所の林内に生ずる。

4. 生育状況

伊豆では各所に点在分布するが、個体数は各所とも少ない。中部、西部は産地自体も少なく、個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

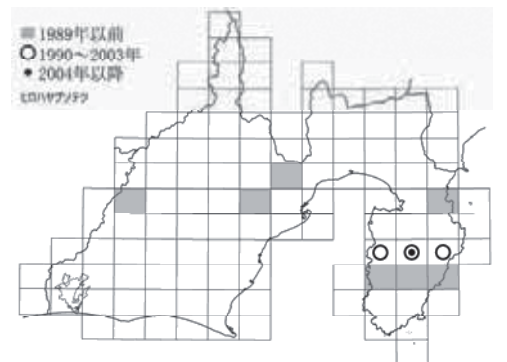
樹木伐採 (11)、観察路や林道の整備 (24)、シカの食害 (52-1) などによる絶滅が懸念される。

6. 保護対策

山林の樹木伐採や、河川水路の改修、整備による生育地の消失など、生育環境に影響が生じないようにする必要がある。よかれと思ってなされる観察路の整備なども注意する必要がある。(細倉哲穂)



伊豆市 2006年8月28日 細倉哲穂



ツクシャブソテツ *Cyrtomium macrophyllum* (Makino) Tagawa

var. *tukusicola* (Tagawa) Tagawa

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中～大型の常緑性シダ。ヒロハヤブソテツの変種である。葉身は25～50cmで、長楕円～広披針形。頂羽辺の下に5～10対の側羽片があり、この側羽片は幅やや狭く、基部は円みをもたず楔形となる。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（千葉県、栃木県以西、長野県以南）、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖地林下の陰湿な所、溪流沿いなどに生育する。

4. 生育状況

各地に点在分布するが、もともと生育場所は少ない上、各生育地においても個体数はごく少ない。

5. 減少の主要因と脅威

樹木伐採 (11)、林道の整備 (24) などにより、生育地自体の消失、絶滅が懸念される。野生動物の食害 (52-2) の影響も受けている。

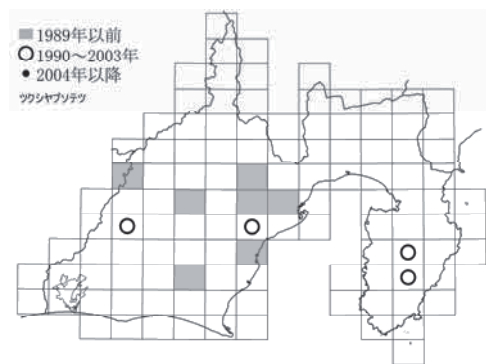
6. 保護対策

山林の伐採、河川の改修などによる生育地の消失、本変種の絶滅が懸念される。生育環境に影響が生じないようにする必要がある。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2002年3月10日 内藤宇佐彦



ホオノカワシダ *Nothoperanema shikokiana* (Makino) Ching

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。葉は長さ80cm前後に達し、根茎は斜上する。葉柄、葉軸に黒褐色、広披針形の鱗片を密生する。葉身は長卵形で3回羽状複生し、最下羽片が最大となる。胞子嚢群はやや中肋寄りにつき、包模を欠く。「ホオノカワ」は、高知県須崎朴の川山に因む。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（神奈川県以西、福井県以南の主として太平洋側）、四国、九州に分布する。県内では伊豆（天城山）に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地林下、溪流沿いの林内など、やや陰湿な場所の地上に生ずる。

4. 生育状況

伊豆半島の中南部に生育地は限られており、各生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採 (11)、河川改修 (13)、林道整備 (24) などによる環境悪化で減少している。

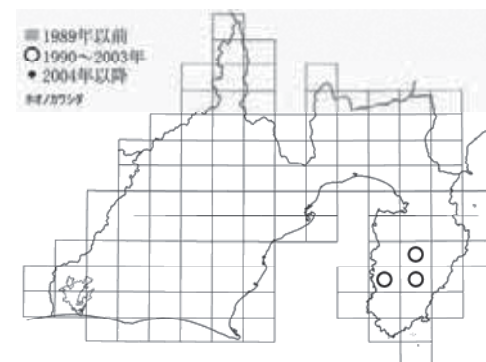
6. 保護対策

山林伐採、河川改修などによる生育地の消失を防ぎ、減少、絶滅を防ぐ必要がある。

(細倉哲穂)



河津町 2003年1月19日 杉野孝雄



ヌカイタチシダマガイ *Dryopteris simasakii* (H. Itô) Sa. Kurata

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑性シダ。ヌカイタチシダモドキとサイゴクベニシダの中間的性質をもつ。葉面は光沢が少なく、葉は2回羽状複生。羽片は羽軸にほぼ直角につく。小羽片は間隔があり、すけて見える。

2. 分布

国外では中国（南部）に、国内では本州（中部地方、近畿地方）、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

低山地の乾いた林床に生育する。

4. 生育状況

生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地が里地に近いため、土地開発（23）などの影響を受けやすい。

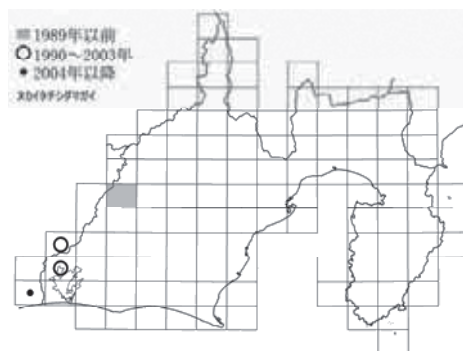
6. 保護対策

産地が限られている植物なので産地の個別の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2017年1月2日 内藤宇佐彦



アツギノヌカイタチシダマガイ *Dryopteris simasakii* (H. Itô) Sa. Kurata

var. *paleacea* (H. Itô) Sa. Kurata

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。ヌカイタチシダマガイに似るが、葉柄と葉軸の鱗片の量がより多く、葉面の光沢も増す。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国（南部）に、国内では本州（静岡県以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。本県は分布の東限である。

3. 生育環境

低山地の林床で乾いた岩場や地上に生育する。

4. 生育状況

浜松市北区などに生育する。生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地が人里に近いため、道路の拡張（24）や、森林伐採（11）の影響を受けやすく、容易に消滅する危険性がある。

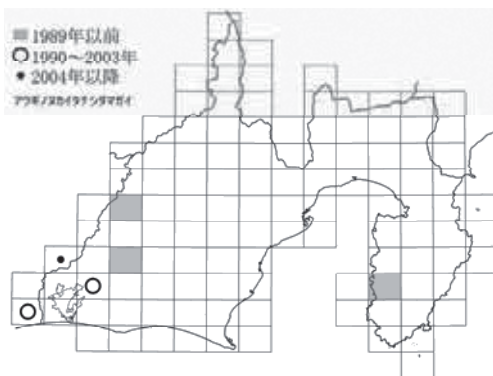
6. 保護対策

産地の限られた植物なので生育地が消失しないように注意が必要である。既知産地のものは再検が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2017年6月24日 内藤宇佐彦



タニヘゴ *Dryopteris tokyoensis* (Makino) C. Chr.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の夏緑性シダ。根茎は塊状でほぼ直立する。葉は1 mほどにも達し、単羽状複生する。葉柄下部に淡茶色、長卵形の鱗片をやや密につける。葉身は倒披針形で、下部羽片は次第に短くなり、最下羽片はほとんど耳片状になる。羽片は浅～中裂、切れ込み具合には変化がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の明るい湿地に生じる。

4. 生育状況

富士宮田貫湖では今日も多産するが、県内の他の生育地では、何れも絶滅したか、絶滅のおそれがある。比較的最近、三島でも見つかったが、生育地改変で絶滅した。

5. 減少の主要因と脅威

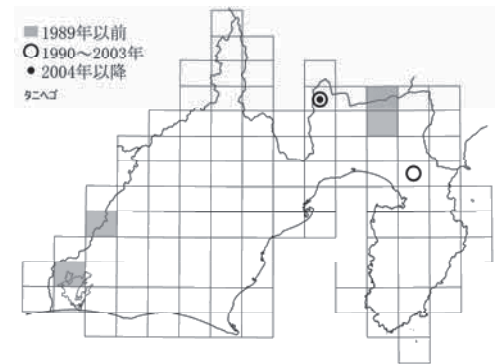
植生遷移 (54) や生育地の改変工事 (15) により減少・消失、観察路整備 (15) で減少している所もある。日本海側に多く、太平洋側には少ない。温暖化 (71) の進む中では、東海では滅びゆく種類であるかも知れないことに留意。

6. 保護対策

生育地である高原の湿地周辺の改変工事、樹木伐採などによる土地の改変などを防ぐ必要がある。植生の遷移に気を配りながら、観光地では観察路の整備による水の遮断に留意する必要がある。(細倉哲穂)



富士宮市 2003年7月20日 杉野孝雄



イナデンド *Polystichum capillipes* (Baker) Diels

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①) : 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

葉長4~8 cm、小型の夏緑性シダ植物である。根茎は小さく、葉柄には茶色で披針形の鱗片をまばらにもつ。葉身は2回羽状複葉で、下部羽片は少しずつ短くなっていく。小羽片は下部のほぼ1対が独立し、他の羽片は羽軸に沿着する。

2. 分布

日本固有種で、本州 (秩父、南アルプス) に分布する。県内では中部 (静岡市など) に分布する。

3. 生育環境

亜高山~高山帯の、やや湿った岩上や岩の間、樹幹などに生育する。好石灰岩シダ植物である。

4. 生育状況

生育地は局限され、個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

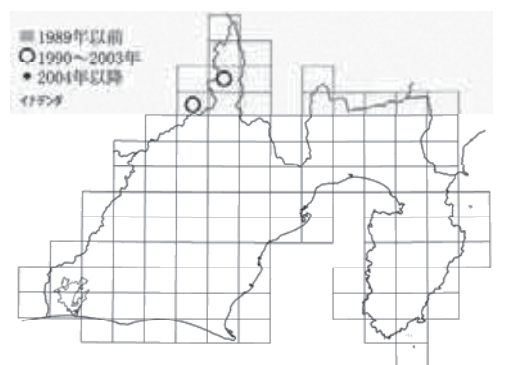
植生遷移、わずかな環境変化 (54) が減少、絶滅につながるおそれがある。登山者の踏みつけ (51) も脅威となる。

6. 保護対策

生育地の植生遷移、環境変化に留意する必要がある。登山者が登山道以外に立ち入らないようにし、生育環境の悪化を防ぐ必要がある。(細倉哲穂)



長野県 2013年7月26日 室伏幸一



タカノハウラボシ *Selliguea engleri* (Luer) Fraser-Jenk.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ウラボシ科 Polypodiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。葉は長さ30~50 cmに達し、根茎長く這い、葉柄基部、根茎に、茶褐色、披針形、全縁の鱗片を密生する。葉身は単葉で、幅は平行的に細長い。ミツデウラボシの単葉のものに似るが3出しない。孢子嚢群は丸く、中間よりやや内側に入ったところにつく。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では本州（静岡県、紀伊半島南半、山口県）、四国、九州の南半、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆、西部に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地林下、やや湿った樹幹や岩壁に着生、生育する。

4. 生育状況

産地は限られ、各生育地での個体数は少ないが、根茎を伸ばして繁殖、小群落を作っている。

5. 減少の主要因と脅威

林道改修工事(24)、それに伴う山林の樹木伐採(11)、ダム工事(25)などによる生育地破壊、消失が脅威である。

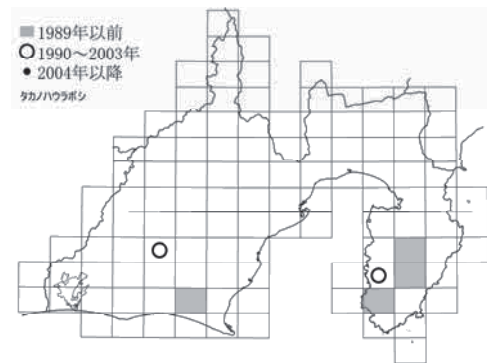
6. 保護対策

林道の改修、山林伐採などが脅威となっている。これらによる環境悪化を生じないようにする必要がある。

(細倉哲穂)



磐田市 2002年7月14日 杉野孝雄



オニバス *Euryale ferox* Salisb.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

スイレン科 Nymphaeaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

浮水性の一年草。葉は盾状につく。水上葉には皺があり、裏面は紫色で網目状に葉脈が隆起し、両面の脈上に刺がある。花期は8~10月。花は径約4 cm。萼は基部で合着して萼筒を作り外面に刺がある。花弁は多数で紫色。雄蕊は多数。子房はふつう8室で花床中にある。水中には多数閉鎖花をつける。果実は楕円~球形で刺がある。

2. 分布

国外ではインド、中国(南部)、台湾、朝鮮半島、ロシア(沿海地方)に、国内では本州(宮城県以南)、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

池沼やため池など富栄養な水中。

4. 生育状況

西部に広く分布していたが、出現数が年によって大きく変動するためか、あるいは調査不足のためか今回の調査では確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の開発(12)で多くの生育地が消失したことと、釣りの邪魔になるため除去(71)されたことが減少の主要因である。

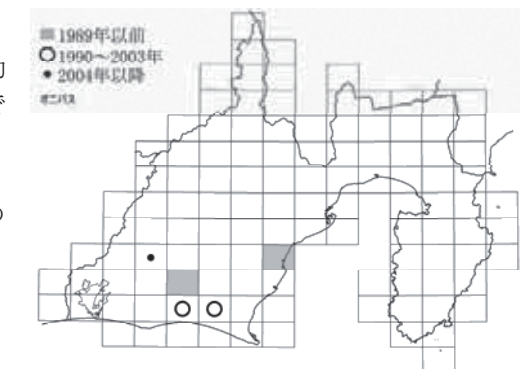
6. 保護対策

現存する生育地では、生育環境を保全すること。

(湯浅保雄)



浜松市(植栽) 2011年9月19日 宮崎一夫



カギガタアオイ *Asarum curvistigma* F. Maek.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

常緑多年草。花は秋に開いて春まで残る。萼筒は広鐘形で長さ7~13 cm。上部はくびれる。花柱は逆長靴形で爪先は長く突出する。アマギカンアオイに似るが、花と葉柄、葉の裏は濃紫色で、葉脈は平らである点で異なる。

2. 分布

日本固有種で、本州（山梨県西部と静岡県）に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。秋葉山が基準産地であり、静岡県が主たる自生地である。

3. 生育環境

暖帯から温帯の標高30~900 mの林下に見られる。

4. 生育状況

自然林及び長く放置されて自然林に近い林に多い。西部、中部に多く、東部では少なく、芝川町や富士宮市まで生育している。

5. 減少の主要因と脅威

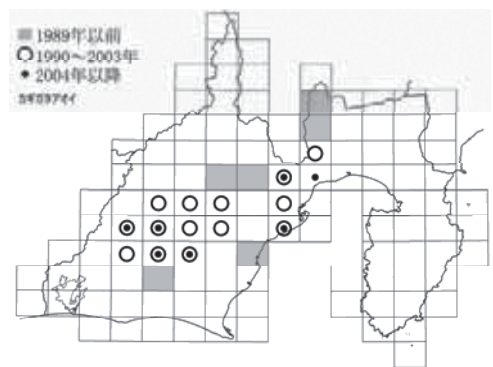
自生地の山林伐採 (11)、土地改変 (23) では激減する。繁殖の移動速度は遅く、植生の遷移 (54) にも対応できない。

6. 保護対策

自生地情報を細かく把握し、大規模な森林伐採や土地改変を防ぎたい。
(西口紀雄)



掛川市 2016年5月2日 湯浅保雄



イワタカンアオイ *Asarum kurosawae* Sugim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

常緑多年草。葉はヒメカンアオイに似て円形で長さ幅とも5~7 cm、基部は心形、先は鈍頭である。萼片に細毛があり、萼筒内の格子紋は細かく縦脈は約30本ある。花期は12~1月でヒメカンアオイより早い。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県と愛知県）に分布する。県内では西部に分布する。磐田市が基準産地である。

3. 生育環境

丘陵地の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

磐田市と浜名湖周辺などに生育する。個体数が多い所もあるが分布域がごく狭く、生育地の減少がみられる。

5. 減少の主要因と脅威

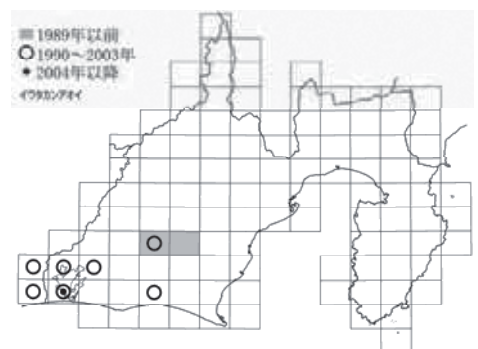
園芸採取 (41) が脅威である。また、人の生活域に近い丘陵地が主な生育地であるため、住宅地・工場・農地などの土地造成 (23) も脅威である。

6. 保護対策

産地情報の管理と土地開発に際しては十分な事前調査検討と、適切な措置が必要である。
(内藤宇佐彦)



湖西市 2016年1月2日 宮崎一夫



アマギカンアオイ *Asarum muramatsui* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

常緑多年草。葉身は卵形または卵状長三角形で、長さ5~9 cm、幅4~7 cm。表面は鮮緑色で光沢が強く、葉脈は著しく陥入する。縁の近くに短毛を散生する。葉柄は緑色から暗紫色と変化に富む。花期は4~5月。萼筒は短い筒形、萼筒入り口には口環がある。また、その周囲には隆起したしわ状の壁がある。萼裂片の上面には短毛を密生する。葉柄の色の違いで別種とされていたシモダカンアオイは本種に統合する。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県）に分布する。県内では東部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

海岸に近い常緑樹林から山地の落葉広葉樹林まで。また、その範囲内のスギ、ヒノキの植林地。

4. 生育状況

種子の分散能力が小さいためか、小さい集団を形成して生育している。今回の調査では確認地点が少ないが、調査不足が影響していると思われる。

5. 減少の主要因と脅威

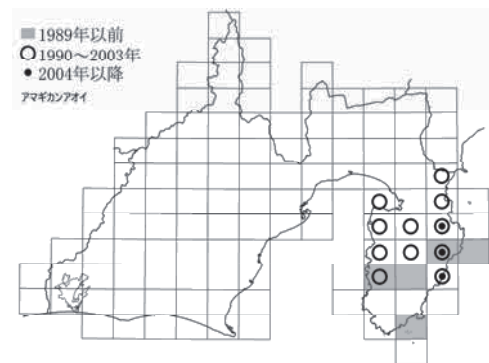
林地開発 (11)、園芸採取 (41)、シカによる食害 (52-1) が減少の主要因である。

6. 保護対策

森林開発の規制とシカによる食害防止を行うこと。(湯浅保雄)



東伊豆町 2019年5月15日 室伏幸一



ズソウカンアオイ *Asarum savatieri* Franch. subsp. *pseudosavatieri* (F. Maek.)

T. Sugaw. var. *pseudosavatieri*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

常緑多年草。葉身は卵形から楕円形で長さ6~12 cm、幅5~9 cm。基部は心形、先は幾分尖る。表面は光沢がなく、毛を散生。萼筒の長さは7~11 mmで、上部で幾分かびれる。花期は10~11月。オトメアオイによく似るが花期が異なる。

2. 分布

日本固有変種で、本州（神奈川県、静岡県）に分布する。県内では伊豆、東部に分布する。

3. 生育環境

低山の樹林地。

4. 生育状況

前回 (2004年) 調査時に比べると、今回の調査では生育地が格段に減少している。その一因として調査不足が考えられる。種子の分散能力が小さいため、小集団で生育しているので、生育地の確認を困難にしている。

5. 減少の主要因と脅威

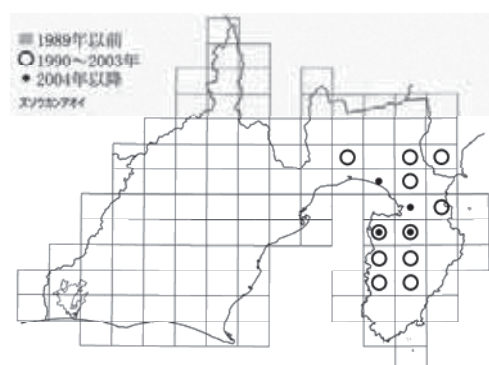
森林の開発 (11)、園芸採取 (41)、シカによる食害 (52-1) が減少の主要因である。

6. 保護対策

森林開発の抑制とシカによる食害の防止策の考案。(湯浅保雄)



伊豆の国市 2002年11月9日 杉野孝雄



シロモジ *Lindera triloba* (Siebold et Zucc.) Blume

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード 10

クスノキ科 Lauraceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B 類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さ1~5 m。幹は直立叢生する。葉は有柄で互生し、広卵形で長さ7~12 cm、基部はくさび形で3行脈があり、多くは3中裂して裂片の間に円みがある。雌雄異株。花期は4月。花序柄は長さ2~4 mm。花は3~5個が集まり淡黄色で葉に先立って開く。果実は球形で径1 cm。近縁種のダンコウバイは花序柄がなく、3裂する葉は浅く裂けて、基部が円形から浅心形である。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州(中部地方以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布しており、静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

暖帯から温帯の山地で適湿な落葉樹林中に生育する。

4. 生育状況

産地は西部に局限しているが、近年、多数株の群生が確認された。しかし植林の高木に被陰されて生育は不良である。

5. 減少の主要因と脅威

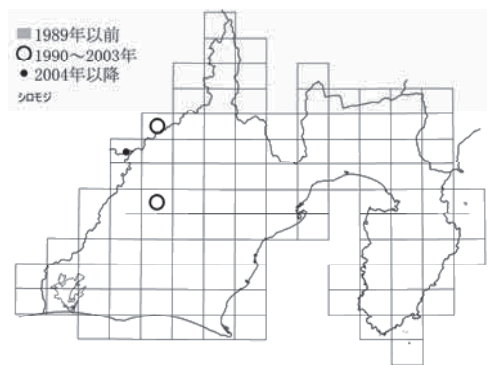
本種を含む落葉樹林の皆伐(11)と、周囲の高木による被陰(71)が主要因である。

6. 保護対策

落葉樹林の皆伐を回避する。周辺樹木の伐開により光条件の改善を図る。
(宮崎一夫)



浜松市 2006年06月10日 宮崎一夫



ヒトツバテンナンショウ *Arisaema monophyllum* Nakai

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

サトイモ科 Araceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 II 類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。地下茎は扁球形で、子球はつかない。葉は1(~2)枚。葉身は鳥足状に分裂し、小葉は7~9枚。小葉間の葉軸はよく発達する。花期は5~6月。舷部は外面緑色、内面にはハの字形の濃紫色の斑がある。花序付属体は有柄で細い棒状。上部で前に曲がる。仏炎苞舷部の内面全体が紫褐色となる品種クロハシテンナンショウも対象である。

2. 分布

日本固有種で、国内では本州(中北部)に、県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は少ないが、生育場所ではかなりの個体数が見られる。

5. 減少の主要因と脅威

ヒノキ、スギ人工林の増加(71)が減少の主要因である。

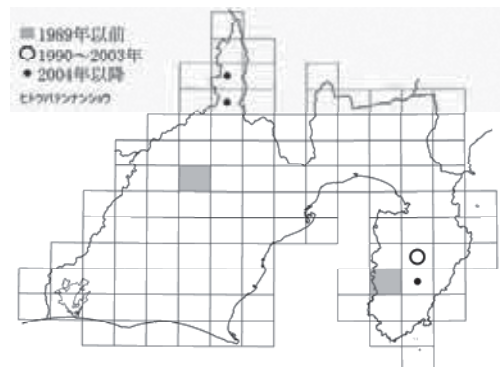
6. 保護対策

生育環境の保全が必要である。

(湯浅保雄)



静岡市 2016年5月14日 湯浅保雄



ミミガタテンナンショウ *Arisaema limbatum* Nakai et F. Maek.

(=オキノシマテンナンショウ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-②) 変更なし

サトイモ科 Araceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 70 cm に達する。葉は通常 2 個。葉身は鳥足状に分裂し、小葉間には葉軸がやや発達する。小葉は 7~11 枚、花期は 3~5 月。花序は葉より早く展開し、花時には花序柄は葉柄より長く伸びる。仏炎苞は黒紫色で白い縦条が目立つ。筒部は口辺部が耳状に広く開出する。花序付属体は棒状から棍棒状で、仏炎口部より長く出る。球茎の腋芽は子茎になる。

2. 分布

日本固有種で、国内では本州（東北地方~中国地方東部の太平洋側、兵庫県）、四国（高知県沖の島）、九州（大分県）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

暖帯上部から温帯の落葉樹林内や林縁。

4. 生育状況

前回（2004 年）調査時に比べ著しく減少している。

5. 減少の主要因と脅威

山林の開発（23）と園芸用採取（41）が減少の主要因である。シカによる食害（52-1）も脅威である。

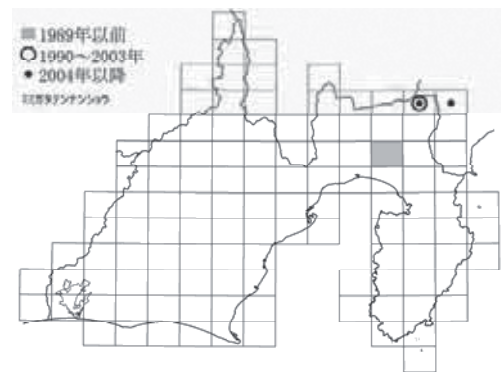
6. 保護対策

土地造成を制限すること。

(湯浅保雄)



小山町 2015年4月16日 湯浅保雄



ヒンジモ *Lemna trisulca* L.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ウキクサ科 Lemnaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水性の多年草。冷水系の水草である。葉状体は卵状楕円形で長さ 7~10 mm、巾 2~4 mm。2 枚の葉の間に 2 枚の葉がつき、その根元が伸びた茎の先に、2 枚の葉がつく。群体状になる。花は、国内では開花が確認されていない。

2. 分布

国外では南アフリカを除く全世界に、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

湧き水の冷水に生育するバイカモなどからみついて生育する。

4. 生育状況

清水町と富士宮市に自生する。富士宮市井の頭は、国内有数という折り紙をつけられた生育地だったが、バイカモを徹底的に掃除され、ほとんど見られなくなっている。

5. 減少の主要因と脅威

流水の中で、バイカモなどにしがみついて生きている植物なので、川掃除としてバイカモなどが除去される（71）と激減する。

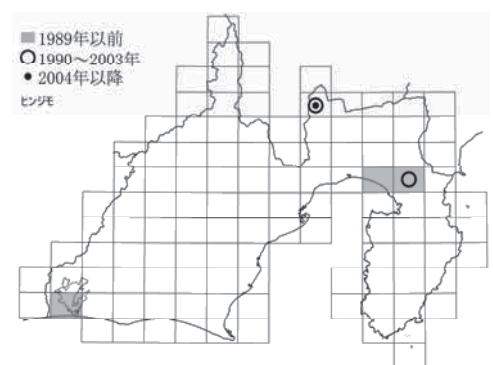
6. 保護対策

当該自治体、流水の管理者の了解をとって、しっかりとした保護計画が必要である。

(西口紀雄)



富士宮市 2002年8月23日 西口紀雄



アギナシ *Sagittaria aginashi* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①) 変更なし

オモダカ科 Alismataceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~80 cm。根茎は短縮肥厚して走出枝はない。秋になると葉腋に多数の小球芽を作る。葉は長い柄があり根元から叢生する。葉身は矢じり形で長さ 15~35 cm。裂片は線形または長披針形。側裂片の先端は尖り糸状。花期は 8~9 月。花茎の円錐花序に白色の花を輪生する。花は単性で、上部に雄花を、下部に雌花をつける。類似のオモダカは小球芽を作らず、走出枝を出す。また、側裂片の先端は尖るが、微鈍端である。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

池沼や湿地に生育する。

4. 生育状況

前回 (2004 年) 調査でも今回の調査でも生育は確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て (12) や湿地の乾燥化 (71) が減少の主要因である。

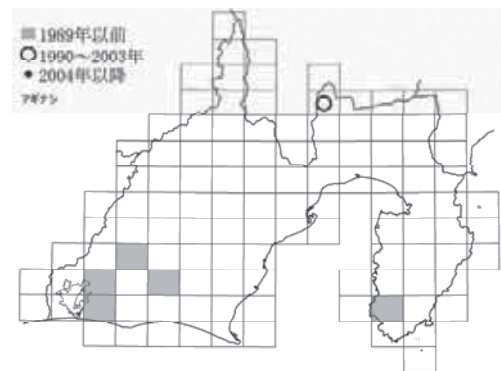
6. 保護対策

生育地の池沼や湿地の保全が必要である。

(湯浅保雄)



長野県 2019年8月9日 室伏幸一



マルミスブタ *Blyxa aubertii* Rich.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水性の一年草。スブタに似て葉は根生して株を作る。花期は 8~10 月。種子の両端に尾状突起がない。類似したスブタは種子に尾状突起がある。

2. 分布

国外ではアジア東部、インド、スリランカ、オーストラリアに、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

平地や丘陵地の水田に生育する。

4. 生育状況

旧修善寺町と旧新居町に生育していたが現存が確認できない。

5. 減少の主要因と脅威

湿田の消失 (15) や水質の悪化 (31) などにより減少した。

6. 保護対策

生育地の水田では耕作形態の維持が重要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 1998年11月8日 内藤宇佐彦



スプタ *Blyxa echinosperma* (C. B. Clarke) Hook. f.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件①②) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水性の一年草。葉は根生して株を作り、線形で先は次第に細くなる。長さ10~30 cm。花期は8~10月。花弁は3枚で細長く白色である。種子は紡錘形で両端には長く伸びる尾状突起がある。

2. 分布

国外ではアジア東部、インド、スリランカ、オーストラリアに、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

低地や丘陵地の水田やため池に生育する。

4. 生育状況

かつては水田雑草として多く見られた。西部では各地に点在しているが、最近ではなかなか見られない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の乾田化、耕地整理 (15) や農薬使用 (32) などにより減少している。

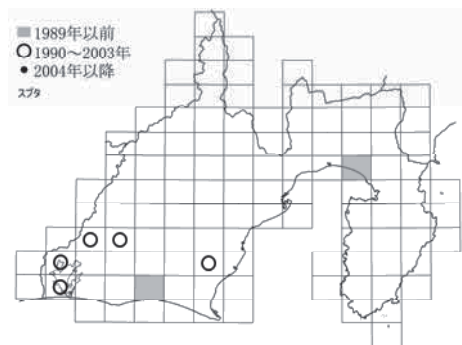
6. 保護対策

生育する水田の耕作形態の維持が重要と考える。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2000年8月20日 内藤宇佐彦



トチカガミ *Hydrocharis dubia* (Blume) Backer

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

浮遊性の多年草。雌雄同株。葉身は円心形、径4~7 cm。花期は8~10月。1~16 cmの柄がある雄の苞鞘のなかに4~6個の雄花ができる。花は1日花で1個ずつ開花する。雌の苞鞘の中には1個の雌花ができる。雄花の花弁は3個で白色、長さ7~15 mm。12個の雄蕊と3個の仮雄蕊がある。雌花の花弁は雄花と同じ。1本の雌蕊と6個の仮雄蕊がある。

2. 分布

国外ではアジア、オーストラリアに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から熱帯の栄養塩類の多い湖沼やため池、水田、水路など。

4. 生育状況

前回 (2004年) 調査では3ヶ所で確認されたが、今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て (12) と水質の悪化 (31) が減少の主要因である。

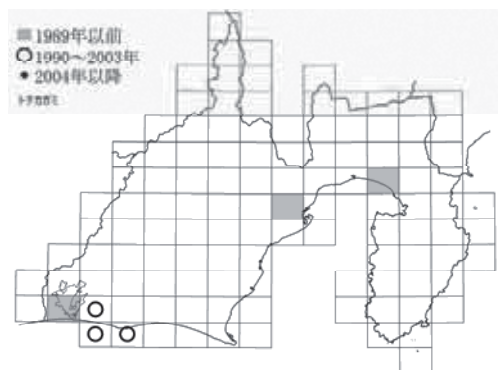
6. 保護対策

生育が確認されたら、環境の改善を行い保全すること。

(湯浅保雄)



浜松市 1994年9月10日 杉野孝雄



サガミトリゲモ *Najas chinensis* N. Z. Wang

(=ヒロハトリゲモ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水性の一年草。葉はトリゲモ類では最も幅広く、葉鞘は切形または円形である。花期は7~9月。種子には四~六角形の網目模様がある。

2. 分布

国外ではアジア東部に、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

低地から丘陵地のため池や水田に生育する。

4. 生育状況

浜松市などに生育する。いずれも丘陵地や中山間部のきれいな水の流れ込む水田で、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

耕地整理や乾田化 (15) で生育地が減少している。水質悪化 (31) も脅威である。

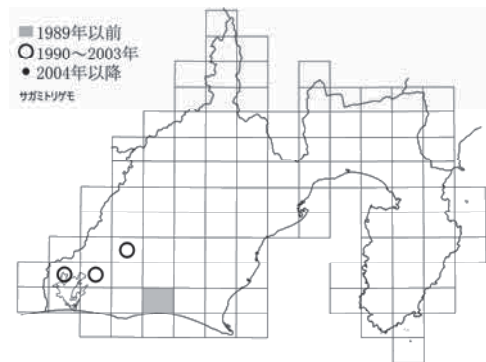
6. 保護対策

生育している水田などの保全と耕作形態維持が重要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2001年8月5日 内藤宇佐彦



イトトリゲモ *Najas gracillima* (A. Braun ex Engelm.) Magnus

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

沈水性の一年草。葉はトリゲモ類中最も細く、葉鞘は切形である。花期は6~9月。種子は2個並んでつき、表面には縦長の網目模様がある。

2. 分布

国外では東アジア、イタリア (帰化) に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

低地から丘陵地の池や水田に生育する。

4. 生育状況

中部と西部に点在する。平地ではきわめて少なくなり、中山間部の水田では比較的残っている所もある。

5. 減少の主要因と脅威

耕地整理、乾田化 (15) や水質悪化 (31) が減少の要因である。

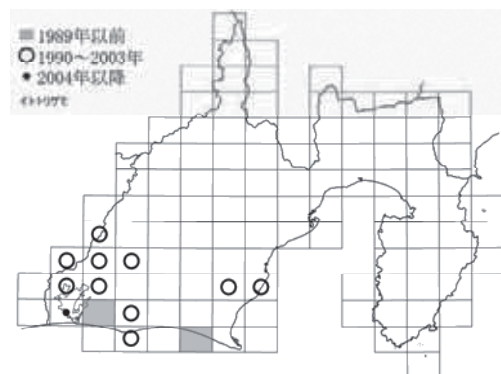
6. 保護対策

生育している池の保護や水田の耕作形態の維持が重要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2016年7月17日 内藤宇佐彦



トリゲモ *Najas minor* All.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水性の一年草。茎は長さ20~50 cmでよく分枝する。葉は短く長さ1~2 cm。鋸歯が顕著で著しく反り返ることが多い。花期は7~10月。種子表面に縦長の網目模様がある。雄蕊の葯が一室である。外見ではオオトリゲモとの区別がつきにくく、同定には慎重を期したい。

2. 分布

国外では世界の温帯から熱帯に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地の池や水路に生育する。

4. 生育状況

湖西市や浜松市などに生育する。産地は少なく、個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

池の埋め立て(12)や水質悪化(31)が減少の要因である。

6. 保護対策

生育地である池や水路の保護や水質の保全が重要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2017年8月19日 内藤宇佐彦



ツツイトモ *Potamogeton pusillus* L.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ヒルムシロ科 Potamogetonaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水性の多年草。イトモに似ている。葉は無柄、線形で長さ2~5 cm。托葉の両側が合着して筒状になる。花期は6~8月。花は上下二段に分かれてつく。殖芽はごく細く、長さ1.5~2 cm。

2. 分布

国外では広く世界に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部と中部に分布する。

3. 生育環境

低地の池沼や河川、水路に生育する。

4. 生育状況

静岡市、浜松市、湖西市などに生育する。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て(12)や生育地の水質悪化(31)が減少の原因である。

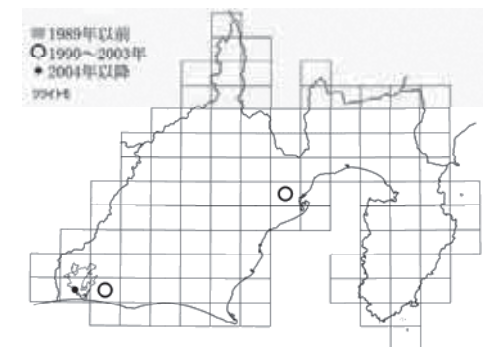
6. 保護対策

生育地の埋め立ての危険性があるのでその保護が重要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2014年7月21日 内藤宇佐彦



イトモ *Potamogeton bercholdii* Fieber

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ヒルムシロ科 Potamogetonaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

沈水性の多年草。貧弱な地下茎が横走し一節おきに水中茎が伸びる。葉は線形、長さ2~6 cmで無柄、全縁で先端は鋭頭になる。花期は6~8月。花はかたまっつく。殖芽は大きく太い。ホソバミズヒキモの流水型や近似種間の雑種と似ているため、同定には注意が必要である。

2. 分布

国外では広く世界に、国内では北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地や丘陵地の池沼や水路などに生育する。

4. 生育状況

静岡市と浜松市などに生育する。県内に広く分布していたが生育適地は減少している。

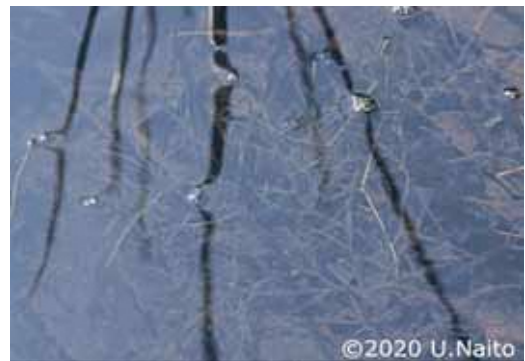
5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て (12)、河川改修 (13) や生育地の水質悪化 (31) などが減少の要因である。

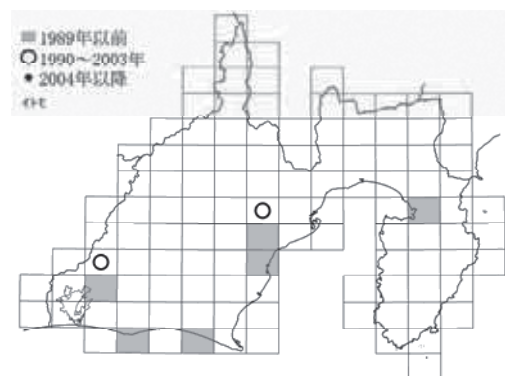
6. 保護対策

生育地の保全が重要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2002年10月4日 内藤宇佐彦



イトクズモ *Zannichellia palustris* L.

(=ミカズキイトモ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ヒルムシロ科 Potamogetonaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水性の一年草または越年草。葉は対生もしくは輪生状、無柄、線形で、先端は鋭頭で鋸歯はない。地中を這う地下茎から水中茎が伸びる。花期は夏。花は単性花で、雄花と雌花が同じ葉腋に並んでつく。果実は三日月形で背面に歯牙がある。

2. 分布

国外では広く世界に、国内では北海道、本州、沖縄に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

沿海地の池沼に生育する。

4. 生育状況

浜名湖岸の養魚場跡の池に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て (12) や、水質の悪化 (31) で減少した。

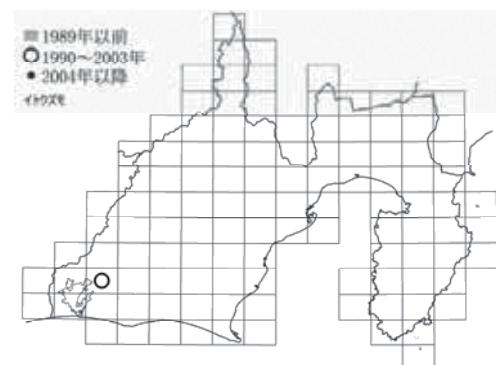
6. 保護対策

生育地の池の埋め立てを回避することや、ヨシなどほかの植物の除去が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2001年7月1日 内藤宇佐彦



カワツルモ *Ruppia maritima* L.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カワツルモ科 Ruppiceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

沈水性の多年草。地下茎が横走し、各節から水中茎が伸びる。葉は針状で、葉縁に鋸歯があり、基部は葉鞘となって茎を抱く。花期は春から秋。果実は左右非対称の卵球形で先は嘴状に突出する。

2. 分布

国外では広く世界に、国内では北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

海岸沿いの池沼や水たまりに生育する。

4. 生育状況

浜名湖岸に生育する。かつては海岸沿いの水湿地に広く生育していたが、ほとんどの産地が失われている。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て (12)、海岸の開発 (14) が減少の主要因である。

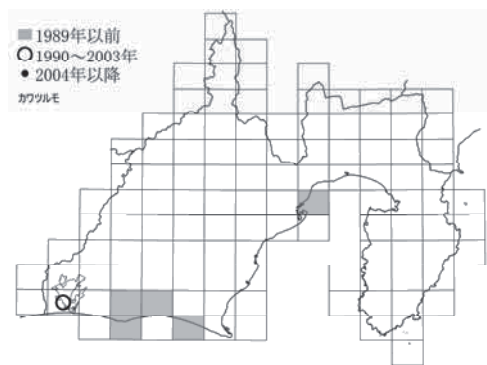
6. 保護対策

埋め立ての危険性があるため、生育地の保護が重要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2001年10月20日 内藤宇佐彦



イズドコロ *Dioscorea izuensis* Akahori

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③⑤) 変更なし

ヤマノイモ科 Dioscoreaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

つる性の多年草。雌雄異株。根茎は多肉質で横に這う。茎の下部には長白毛があるが、上部はやや無毛。葉は互生して三角状卵形、先は長く尖り、基部は心形で両側は耳状に張り出す。縁には不揃いな小突起がある。薄い革質で乾くと黒色に変わる。花期は7~8月。雄花序、雌花序とも下垂する。蒴果は黒色を帯び、種子は全周に翼がある。

2. 分布

日本固有種で、本州 (静岡県) に分布する。県内では伊豆に分布する。伊豆半島特産種。

3. 生育環境

暖帯の明るい林下あるいは林縁。

4. 生育状況

個体数は少ないが、伊豆半島の沿岸部に広く生育する。

5. 減少の主要因と脅威

雑木林の放置による常緑樹林化 (54) による光環境の悪化とシカによる食害 (52-1) が減少の主要因である。

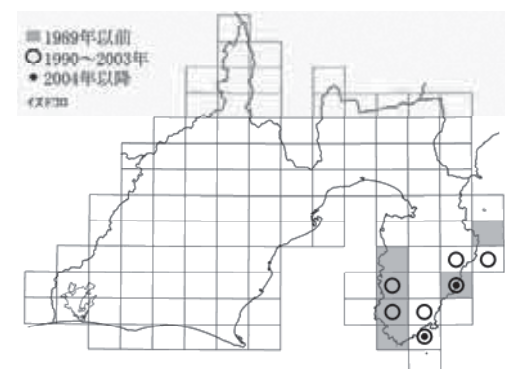
6. 保護対策

雑木林の常緑広葉樹林化を防ぎ、林床の光環境を最適な状態にすること。

(湯浅保雄)



下田市 2004年6月26日 内藤宇佐彦



キバナノアマナ *Gagea nakaiana* Kitag.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~20 cm。鱗茎は卵形で長さ 15 mm。根出葉は 1 個あり、長さ 15~35 cm、幅 5~10 mm。花期は 4 月。花は茎頂に 3~10 個、散形状につく。花柄は長さ 1~5 cm。苞は長短の 2 個があり披針形で長さ 2~8 cm。花被片は線状長楕円形で長さ 12~15 mm。初夏から休眠して地上部は消える。近縁種のヒメアマナは根出葉の幅が狭く、1~2 mm。

2. 分布

国外ではサハリン、朝鮮半島、中国、ロシアに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部と東部に分布する。

3. 生育環境

山地の林縁や草地に生育する。

4. 生育状況

産地も少なく産量も少ない。開花株はあるが繁殖する株数よりも、採取などにより減少する株数の方が多く増加は望めない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取 (41) が主要因である。草地の減少 (16) とその植生遷移 (54) も脅威である。

6. 保護対策

巡視により採取を防ぎたい。草地の保全と植生遷移を止める為の手入れが必要である。(宮崎一夫)



富士宮市 2011年4月18日 宮崎一夫



チャボホトトギス *Tricyrtis nana* Yatabe

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 2~15 cm。葉は接近して互生し倒皮針形、表には光沢があり著しい紫褐色斑がある。花期は 8~9 月。花柄は短くて毛を密生する。花は頂、または上葉脇に 1~2 花つき、上向き黄色で内面に小さな紫褐色の点がある。花は長さ 20~24 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州 (東海~近畿地方)、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布しており、静岡県は、東限自生地である。

3. 生育環境

山地の林縁や道沿いの地上に生育する。

4. 生育状況

静岡市、藤枝市など県中部の山に多い。

5. 減少の主要因と脅威

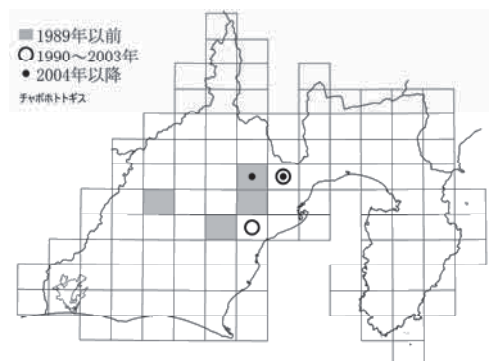
園芸採取 (41) が脅威である。大規模な森林伐採 (11) も減少の要因である。

6. 保護対策

花時以外はあまり目立たない。園芸採取により一時減少したが、近年回復してきている。自然の山の底力を信頼したい。(西口紀雄)



静岡市 2011年8月31日 西口紀雄



ナツエビネ *Calanthe puberula* Lindl. var. *reflexa* (Maxim.) M. Hiroe

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~40 cm。偽鱗茎が連なり、基部に古い葉の繊維が残る。葉は狭長楕円形で長さ 10~30 cm、3~5 個あり縦皺が目立つ。花期は 7~8 月。葉の脇から花茎を立てて 10~20 個の花をつける。花は淡紫色で径 2 cm。萼片は長さ 15~20 mm、後方に強く反り返る。唇弁は広卵形で 3 深裂、舷部は平らである。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低山から山地の斜面の湿った林床に生育する。

4. 生育状況

産地は多い。産量はやや多い。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取 (41) が主要因である。植生遷移 (54) と森林伐採 (11) も脅威である。

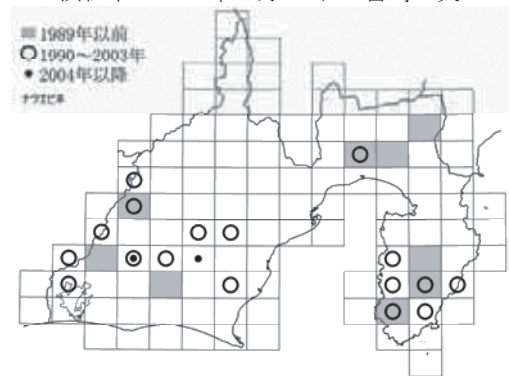
6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2016年8月13日 宮崎一夫



ナギラン *Cymbidium nagifolium* Masam.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~15 cm。偽球茎は紡錘形でその上に 1~3 個の葉をつける。葉は常緑の狭長楕円形で長さ 10~15 cm、革質で長柄があり先は尖り、縁に細鋸歯がある。花期は 6~7 月。花は花茎に 2~4 個を疎生し白色に褐紫色が混じる。萼片は狭倒披針形でよく平開する。側花弁は倒披針形で萼片よりやや短い。唇弁は倒卵状楕円形で浅く 3 裂し、側裂片は直立し中裂片の先は 3 角状に細くなる。近縁種のマヤランは花が似るが常緑の葉がない。

2. 分布

国外では韓国 (済州島) に、国内では本州 (関東南部以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯下位の照葉樹林下でやや乾いたところに生育する。

4. 生育状況

産地は多い。産量は少ない。生育状況は各産地ともに群生することなく小苗も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

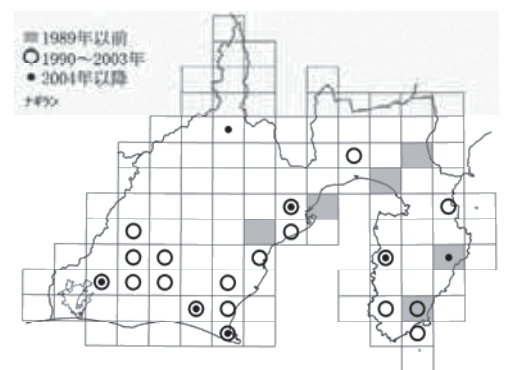
園芸採取 (41) が主要因である。森林伐採 (11) や植生遷移 (54) も脅威である。

6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



牧之原市相良町 2000年7月23日 宮崎一夫



コアツモリソウ *Cypripedium debile* Rchb. f.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。葉は長さ2.5~5 cm、2個が対生し3脈が目立ち縁は波を打つ。花期は5~6月。花は径約2 cm、葉の間から出る細長い花柄の先につき垂れ下る。花柄に広線状の包葉が1個ある。萼片と側花弁は淡黄緑色で長さ1~1.5 cm。唇弁は袋状で暗紅紫色の条斑がある。果期になると果柄は立ち上がる。近縁種のクマガイソウは花も葉もより大きい。

2. 分布

国外では中国に、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地帯で深山の常緑針葉樹林下に生育する。植林の林床にも残存し、尾根から斜面にかけて生育している。

4. 生育状況

産地は西部の山地で、産量は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

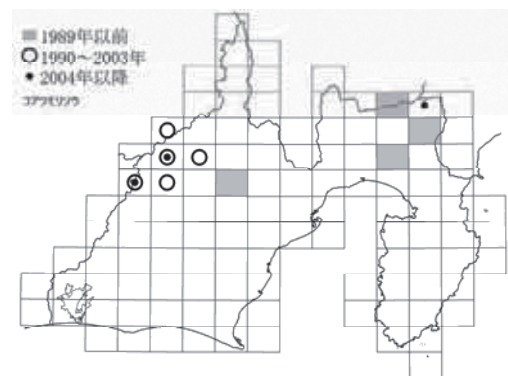
園芸目的の採取(41)が主要因である。森林伐採(11)も脅威である。

6. 保護対策

生育地の保全と園芸採取を防ぐために、産地情報の公開は慎重な配慮が必要である。森林伐採の際には皆伐しないで択伐する。(宮崎一夫)



浜松市 2008年5月4日 宮崎一夫



クマガイソウ *Cypripedium japonicum* Thunb.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~40 cm。地下茎は太く硬く節があり水平に伸びる。茎は直立する。茎の上部の葉は扇円形で2個あり径10~20 cm、茎頂に対生状につき、放射状に多数の皺がある。花期は4~5月。葉の間から花柄を伸ばし1個の花をつける。花は約10 cm。萼と側花弁は披針形で長さ約5 cm、淡黄緑色で開く。唇弁は帯紅黄白色の皺のある袋状で上面に開口部がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では低山を中心に広範囲に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の平地から山地までの竹林や植林及び落葉・常緑広葉樹林の林床など多様な環境に生育する。

4. 生育状況

産地も株数も多く、群生している所もあり開花株も多く見られる。生育地は竹林や落葉広葉樹林下では少なく、今ではほとんどが植林下に残存している。

5. 減少の主要因と脅威

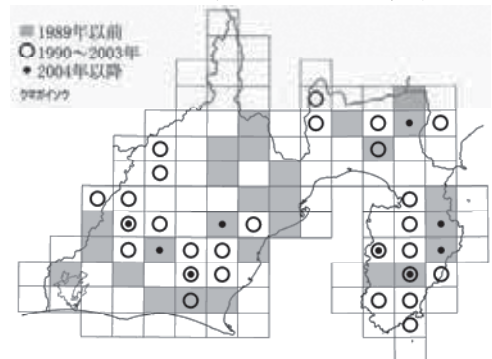
園芸目的の採取(41)が主要因である。森林伐採(11)も脅威である。

6. 保護対策

野生で見られなくなる前に、行政による生育地の保護管理が望まれる。生育していた記録がある潜在的な生育地を保全する。(宮崎一夫)



浜松市 2005年5月8日 宮崎一夫



イチヨウラン *Dactylostalex ringens* Rchb. f.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。葉は地表近くに1個あり、肉厚な卵円形で長さ2~5 cm。花期は5~7月。花は直立した花茎の先に1個つき長さ2cm。苞は楕円形で長さ2~3 mm。萼片と側花弁は淡緑色で紫色の斑点があり、狭長披針形で長さ2~2.5 cm。唇弁は3裂して、側裂片は紅紫色を帯びて、中裂片は基部がくびれた扇形で長さ7 mm。近縁種のコイチヨウランは花が小さく長さ5 mmで数個つける。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部と中部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

低山から亜高山までの広い範囲で、植林や針葉樹林の湿り気がある林床に生育する。

4. 生育状況

産地は北部の山地に多い。産量は多くない。群生することは少ない。

5. 減少の主要因と脅威

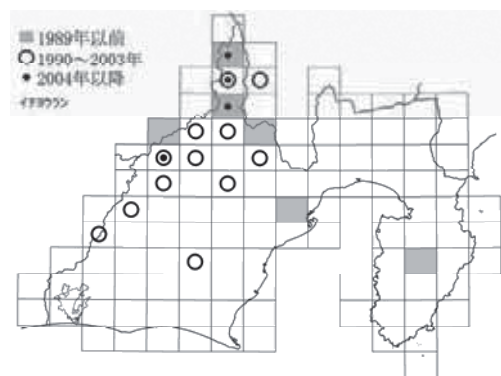
園芸目的の採取(41)が主要因である。森林伐採(11)も脅威である。

6. 保護対策

森林伐採の際には皆伐しない。産地情報の公開は慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



静岡市 2011年7月18日 山崎由晴



ハルザキヤツシロラン *Gastrodia nipponica* (Honda) Tuyama

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。花時の高さ2~6 cm。花期は4~5月。花序あたり1~4個の花をつける。萼は三角状筒形で長さ2 cm、色が帯紫暗褐色で周辺の落ち葉や、土壌の色と同化。萼筒の先は開き、中に側花弁と唇弁が見える。蒴果は長さ2.5 cm。花後の6月には果柄が50 cmほどまで伸び、淡褐色で直立している。近縁種に10月に開花するアキザキヤツシロランとクロヤツシロランがある。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部と中部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖帯のシイの巨樹林下に多いが、社寺林や植林の林床で落葉が堆積した薄暗い所に生育する。

4. 生育状況

産地は西部に多く、近年産地産量は増えているが、年により発生に変動がある。県内各地に生育していると思われる。

5. 減少の主要因と脅威

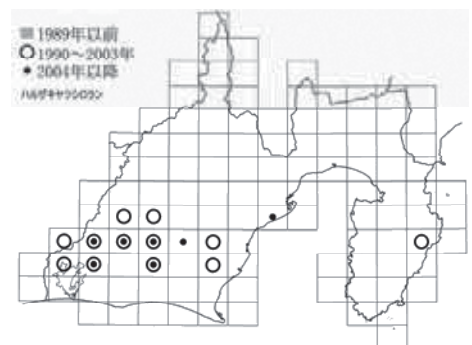
共生菌がなくては生育しない植物なので、菌類が生育できる環境がなくなる(11)ことが脅威である。

6. 保護対策

シイの巨樹を伐採しないことや社寺林を保全することで、菌類が生育できる環境を維持する。(宮崎一夫)



浜松市 2017年5月14日 宮崎一夫



サギソウ *Pecteilis radiata* (Thunb.) Raf.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~40 cm。地中の球茎から地上茎を出す。葉は広線形で茎の下部に数個つき長さ 5~10 cm。花期は 7~8 月。花は白色で径約 3 cm、茎頂に数個つく。萼片は緑色で長さ 2~2.5 cm。側花弁と唇弁は白色。唇弁は 3 深裂して、扇形の側裂片の縁は糸状に細裂する。距は線形で長さ 3~4 cm、先端にかけて太くなり下垂する。近縁種のオオミズトンボやミズチドリは総状花序をなす。

2. 分布

国外ではロシア、中国、朝鮮半島、台湾に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部と伊豆に分布する。

3. 生育環境

日当たりがよく貧栄養の湧水湿地に生育する。

4. 生育状況

産地は少ない。産量が多い。無性株も多い。乾燥化と植生遷移により衰退した産地もある。園芸放棄と思われる斑入りの個体も見受ける。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取 (41) が主要因である。植生遷移 (54) も脅威である。園芸放棄は遺伝子を攪乱する (71) 可能性がある。

6. 保護対策

湿地の代表的な植物であり、草取りや草刈りをして植生遷移の進行を止める。
(宮崎一夫)



浜松市 2016年7月18日 宮崎一夫



ミズトンボ *Habenaria sagittifera* Rchb. f.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~70 cm。葉は下部に数個あり線形で長さ 5~20 cm、基部は茎を抱く。花期は 8~9 月。花は淡黄緑色で長さ 1~1.5 cm、茎の上部に多数つける。萼片は円心形で長さ 4 mm。唇弁は十字状、各裂片は線形で細く、長さ 20 mm。側裂片は斜上に湾曲する。距は長さ 1.5 cm。

2. 分布

国外では中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の低地から低山の日当たりのよい湿地や耕作放棄水田に生育する。

4. 生育状況

浜北区と稲取に生育する。産地は少ない。産量の一部で群生する。放棄水田では遷移により年々株数が減少している。

5. 減少の主要因と脅威

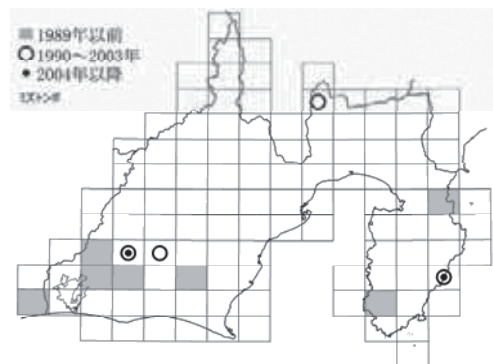
植生遷移 (54) と園芸採取 (41) が主要因である。

6. 保護対策

園芸採取や踏圧を防ぐために、生育地の立ち入りを禁止することが重要である。産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。
(宮崎一夫)



浜松市 2005年9月17日 宮崎一夫



ムカゴソウ *Herminium lanceum* (Thunb. ex Sw.) J. Vuijk

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-②) 変更コード 9

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B 類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~45 cm。楕円形の球状の根から茎が出る。珠芽は地上の茎の腋にできる。葉は中部に 3~5 個が互生し線形で長さ 8~20 cm。花期は 7~8 月。花は淡緑色で穂状花序に密に多数つける。萼片 2~2.5 mm。唇弁は舌状で 3 中裂する。側裂片は線状で長く前向きで、中裂片は小突起状である。距はない。環境省の対称種であり、産地も産量も少ないので、今回リストアップした。

2. 分布

国外ではアジア、ニューギニアに、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯と暖帯の湿原、沼地や湿った林縁の草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に東部に多く、中部と西部にも産地の記録がある。今回の調査では 1ヶ所で確認されただけである。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) が主要因である。乾燥化 (71) も脅威である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。(宮崎一夫)



東伊豆町 2012年8月31日 加藤 徹



カゲロウラン *Zeuxine agyokuana* Fukuy.

(=オオスミキヌラン)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 II 類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 5~20 cm。根茎は太く這う。茎は直立する。葉は常緑で長さ 3~5 cm、濃緑色でピロード状の光沢があり縁は波打つ。花期は 9~10 月。花は淡黄白色で数個つける。側萼片は披針形で内側に巻き横に平開する。唇弁は長卵形で先端は 2 裂しない。近縁種ヤクシマアカシユスランの側萼片は卵形で内側に巻かない。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部、中部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

丘陵地から低山のアカマツ林や常緑樹林下に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には記録がなく、近年確認された。産量は 100 株以下の産地が多い。産地は県内に広く点在する。開花する株の割合も多い。

5. 減少の主要因と脅威

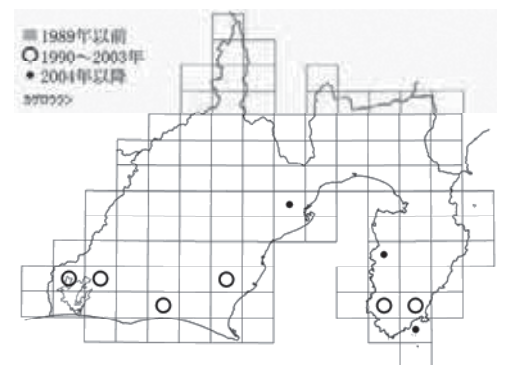
土地造成 (23) や森林伐採 (11) などの開発行為が主要因である。マニアによる採取 (41) も多少は脅威となる。

6. 保護対策

山林の開発を回避する。森林伐採の際には、皆伐しないで年月を費やして少しずつ択伐する。(宮崎一夫)



浜松市 1994年10月29日 宮崎一夫



エンシュウムヨウラン *Lecanorchis suginoana* (Tuyama) Seriz.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

菌従属性栄養の多年草。高さ15~25 cm。葉は退化して鱗片状である。花期は4~5月。茎頂に数個の黄褐色の花を総状につける。唇弁は左右の側裂片が丸く、周辺部に鋸歯がなく、黄色の毛がある。蕊柱先端が切形である。花柄先端が膨らむ。近縁種のウスギムヨウランは花期が6月、唇弁の毛の色が紫褐色で、縁の毛に乳頭状の突起があり、蕊柱先端が3裂である。ムヨウランは高さが30cm以上あり、唇弁の縁の毛に乳頭状の突起がない。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山地のコナラやシイ類の林床に生育する。

4. 生育状況

産地は西部を中心に増加傾向にある。産量は散生していて多くはない。コナラ林の林床に多く生育する。

5. 減少の主要因と脅威

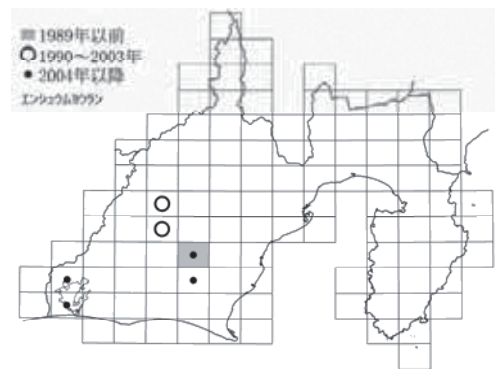
森林伐採(11)が主要因である。植生遷移(54)や撮影者の踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

コナラ林の伐採を回避するとともに、植生遷移による環境の悪化を抑制することが重要である。(宮崎一夫)



掛川市 2014年6月1日 宮崎一夫



スズムシソウ *Liparis makinoana* Schltr.

(=スズムシラン)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。葉は2枚で基部が葉柄に翼状に広く流れて茎を抱き、5~12 cm、鈍頭で縦脈が表に出る。花茎には稜があり、下の方から花を5~18つける。花期は6~7月。花は、萼は淡緑で、側萼片が糸状で唇弁の下にかくれる。花弁と唇弁は薄い紫褐色。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯、暖帯の山地の林内に生育する。

4. 生育状況

各地に広く点在していた。園芸採取などで減少している。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)による生育地の消失と園芸採取(41)が脅威である。

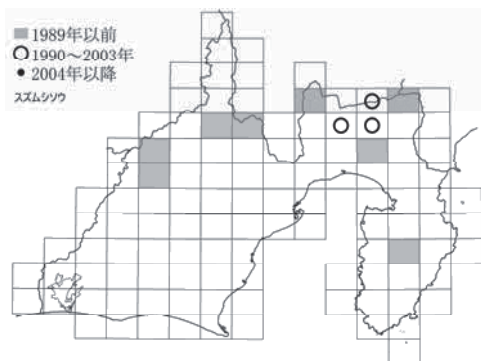
6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公開には慎重な配慮が必要である。

(西口紀雄)



小山町 2002年5月11日 杉野孝雄



フウラン (=フウキラン) *Neofinetia falcata* (Thunb.) Hu

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

常緑の着生する多年草。葉は厚い革質で、2~5 対接近してつき、横断面はV字形になる。花期は6~7月。花は白色で長い距が垂れて芳香がある。

2. 分布

国外では韓国(済州島)、台湾に、国内では本州(関東以南)、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯、暖帯の自然林や社寺林の古木や岩上に着生する。

4. 生育状況

西部を中心に、中部、東部、伊豆に点在する。近年の確認は少ない。古木の伐採や園芸採取で減少している。

5. 減少の主要因と脅威

古木の伐採(11)と園芸採取(41)が減少の主要因である。

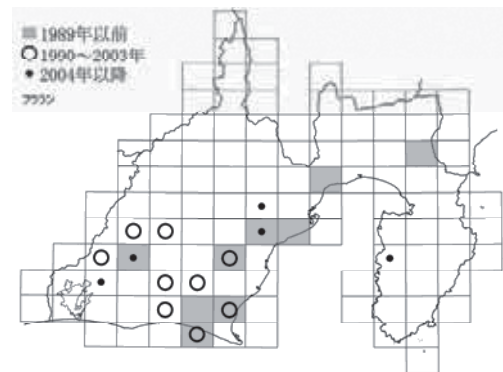
6. 保護対策

着生する自然林や社寺林の保護が必要である。園芸採取を防ぐために、産地情報の公開には慎重な配慮が必要である。

(西口紀雄)



浜松市 2019年8月4日 宮崎一夫



ヒメムヨウラン *Neottia acuminata* Schltr.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草菌従属栄養植物。高さ10~15 cm。根は針金様で短く上向きに束生する。茎は細く直径2 mm、赤褐色で膜質筒状の鞘状葉を3~4個つける。花期は7~8月。苞は卵形で長さ1~1.5 mm。花は淡褐色で倒立する。萼片と側花弁は卵状広披針形で長さ3 mm、反曲する。唇弁は三角状卵形で長さ3 mm、上方に位置する。近縁種のサカネランは茎が肉質で太く、直径4 mmあり全体が黄白色である。

2. 分布

国外ではロシア(サハリン、ウスリー、カムチャツカ)、朝鮮半島、台湾、中国に、国内では北海道、本州(中・北部)に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯針葉樹林下の落葉が堆積した腐植土に生育する。

4. 生育状況

富士山と南アルプスに生育している。産地は少ない。産量は少ない。目立たないために確認不足もあると思われる。

5. 減少の主要因と脅威

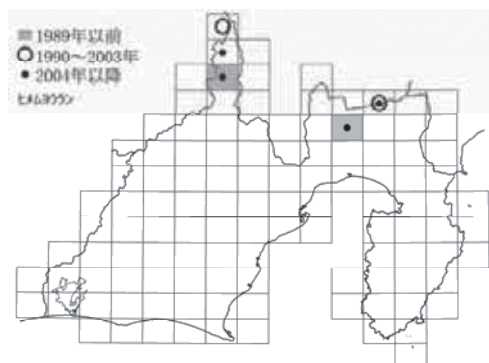
森林伐採(11)が主要因で、林道整備(24)や踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

自然林の保全をする。生育の可能性があると思われる環境は、森林伐採や開発行為を慎重に行いたい。(宮崎一夫)



御殿場市 2015年5月26日 宮崎一夫



オノエラン *Chondradenia fauriei* (Finet) Sawada ex F. Maek.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~15 cm。根は太い紐状。葉は長楕円形で長さ5~12 cm、茎の基部に2個ある。花期6~8月。茎頂に白色の花を2~6個つける。苞は広披針形で長さ1~2 cm。萼片は長楕円形で長さ7~10 mm。唇弁はくさび形で3浅裂して喉部にW字形の黄褐色の斑紋がある。距は楕円形で長さ3~4 mm、基部でくびれる。近縁種のカモメランは葉が1個で唇弁にW字形をした黄褐色の斑紋がなく紅紫色の斑点がある。

2. 分布

日本固有種で、本州(中北部、紀伊半島)に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の深山で日当たりのよい岩礫地の草地や尾根の岩場に生育する。

4. 生育状況

富士山周辺と安倍川流域の山地に生育する。産地は少ない。株数は狭い範囲に数株が開花している。登山道脇に生えていることが多く園芸採取される危険性が高い。

5. 減少の主要因と脅威

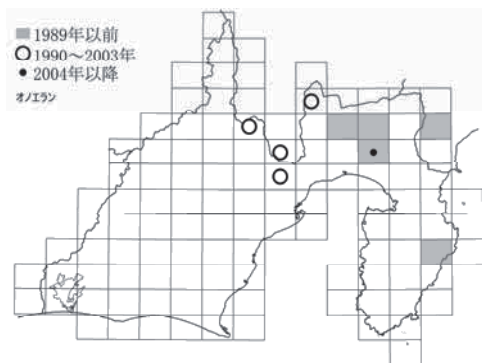
園芸目的による採取(41)が主要因である。植生遷移(54)や踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

自生地を保護するとともに園芸採取を防ぐために、分布情報の公表には慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



静岡市葵区八絃嶺 1997年6月15日 宮崎一夫



ウチョウラン *Ponerorchis graminifolia* Rchb. f.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ7~20 cm。塊根は球形。葉は2~3個あり互生して広線形で長さ7~12 cm、基部は茎を抱き、先は鋭尖する。花期は6~8月。花は紅紫色で多数を総状につける。萼片と側花弁は卵形で長さ5~6 mm。唇弁は3深裂して長さ13 mm、中裂片は楕円形。距は長さ13~17 mm。近縁種のニョホウドリは唇弁が3浅裂で中裂片は四角形である。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯と暖帯の日当たりがよい岩壁に生育する。

4. 生育状況

産地は中部と西部に多い。産量は多くない。増殖技術が発達して、園芸採取は少なくなったと感じるが、安易に採取できる場所では株数が極端に少ない。

5. 減少の主要因と脅威

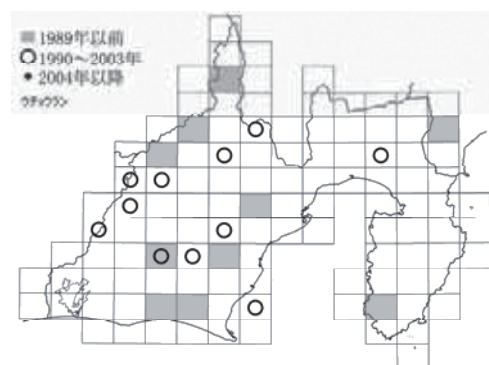
園芸採取(41)が主要因である。岩礫の崩壊(55)や植生遷移(54)も脅威である。

6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



浜松市 1999年7月4日 宮崎一夫



ニョウウチドリ *Ponerorchis joo-iokiana* (Makino) Nakai

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~35 cm。地下に多肉で扁球形の塊根がある。葉は2個前後つき披針形で肉質、長さ 3~8 cm。花期は 7~8 月。花は紅紫色で花茎の上部にやや一方に数個つく。唇弁は扇形のやや肉質で長さ 13~15 mm、萼片よりも長く目立ち、先は3浅裂して中裂片は少し大きく先が少しへこむ。距は筒状線形で長さ 15~17 mm、後方に突き出す。近縁種のウチョウランやヒナチドリは岩上や樹上に着生する。

2. 分布

日本固有種で、本州（中部地方、関東地方北部）に分布する。県内では中部（南アルプス）と東部（天子山系）に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯の岩場や砂礫地の疎草地に生育する。

4. 生育状況

産地は少ない。産量はそれほど多くはない。

5. 減少の主要因と脅威

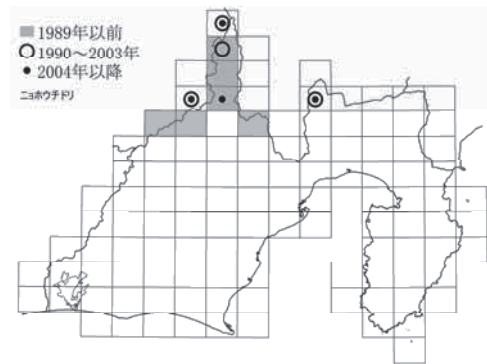
園芸目的による採取 (41) が主要因である。岩礫の崩壊 (55) と草地の植生遷移 (54) も脅威である。近年はシカによる食害 (52-1) も発生している。

6. 保護対策

園芸目的やマニアの採取を防ぐために、産地情報の公開は慎重な配慮が必要である。 (宮崎一夫)



静岡市 2011年7月17日 山崎由晴



ミズチドリ *Platanthera hologlottis* Maxim.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~90 cm。葉は線状披針形で 5~12 個が互生し、下方の葉は長さ 10~20 cm、上部の葉はしだいに小さくなる。花期は 6~7 月。花は純白色で多数を総状につけ、芳香がある。唇弁は舌状の倒卵形で長さ 6~8 mm。距は細く下垂して長さ 10~12 mm。近縁種のミズトンボは花が淡黄緑色で唇弁が十字状である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア（シベリア）に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆（細野湿原）と東部（小田貫湿原）に分布する。

3. 生育環境

温帯の湿地、湿原や沼畔に生育する。

4. 生育状況

産地は少ない。産量は多くない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) が主要因である。園芸採取 (41) と乾燥化 (71) も脅威である。近年はシカによる食害 (52-1) もある。

6. 保護対策

湿地は多様な種が生育しているので、種の多様性を維持するためにも、植生遷移を抑制して保全管理することが重要である。 (宮崎一夫)



富士宮市 2014年7月23日 宮崎一夫



ツレサギソウ *Platanthera japonica* (Thunb.) Lindl.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~60 cm。葉は数個が互生し長楕円形で長さ 10~20 cm、中脈が裏に鋭く突出する。花期は 5~6 月。花は白色で、花茎の上部に多数つき総状花序をなす。苞は線状披針形で花よりも長い。唇弁は長楕円形で長さ 1.4 cm、基部の両側に突起がある。距は細い筒形の帯緑白色で長さ 3~4 cm、下垂する。近縁種のミズチドリは唇弁基部に突起がない。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に分布する。国内では北海道、本州、四国、九州に、県内では西部、中部、東部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の山地で日当たりがよく湿った草地に生育する。

4. 生育状況

県内に広く分布していたが減少して産地は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的による採取 (41) が主要因である。周囲の草本と高木による被陰 (71) も脅威である。またシカによる食害 (52-1) も増えている。

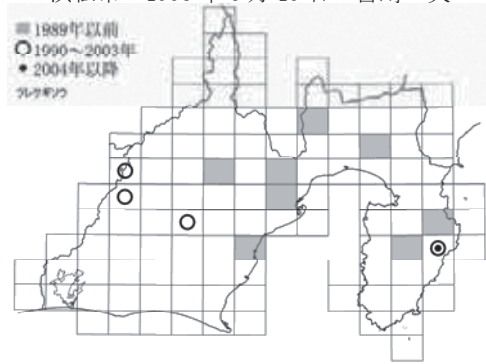
6. 保護対策

生育地を被陰している樹木を伐開して光条件を改善する。遷移を抑制する除草も効果的である。

(宮崎一夫)



浜松市 1995年6月19日 宮崎一夫



オオヤマサギソウ *Platanthera sachalinensis* F. Schmidt

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 35~70 cm。葉は下の 2 個が大きく倒披針状長楕円形で互生し、長さ 5~20 cm。上の葉は 2~7 個あり狭楕円形。花期は 7~8 月。花は淡緑白色。側萼片は卵形で長さ 4~5 mm。唇弁は垂れ下がり全縁の広線形で長さ 4~6 mm、距の入り口に肉質隆起がある。距は細く長さ 10~20 mm。近縁種のオオバナオオヤマサギソウは側萼片が長さ 8 mm、唇弁の奥にある肉質隆起が顕著でない。

2. 分布

国外ではサハリン、台湾に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯の林床に生育する。

4. 生育状況

中部と西部に点在するが少ない。産量はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) が主要因で、園芸採取 (41) も脅威である。

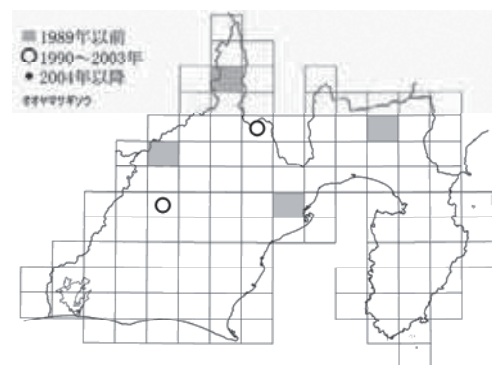
6. 保護対策

産地の森林は皆伐することなく択伐して、急激な生育環境の変化を与えないように配慮することが重要である。

(宮崎一夫)



長野県 2017年7月18日 室伏幸一



オオバナオオヤマサギソウ *Platanthera hondoensis* (Ohwi) K. Inoue

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~70 cm。根茎は紡錘状で数個集まる。葉は下の2個が大きくて互生し、倒披針状長楕円形で長さ5~20 cm。上の葉は2~7個あり狭楕円形。花期は7~8月。花は緑白色。側萼片は卵形で長さ8 mm。唇弁の奥にある肉質隆起が顕著ではない。距は長さ30~40 mm。近縁種のオオヤマサギソウの側萼片は卵形で、長さ4~5 mm、距は長さ15~20 mm、唇弁の奥にある肉質隆起が顕著である。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東~近畿地方)に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯の林縁や草地に生育する。

4. 生育状況

産地は富士山周辺に局限する。産量はきわめて少ない。採取か食害に遭って確認できなくなった産地もある。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)と植生遷移(54)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

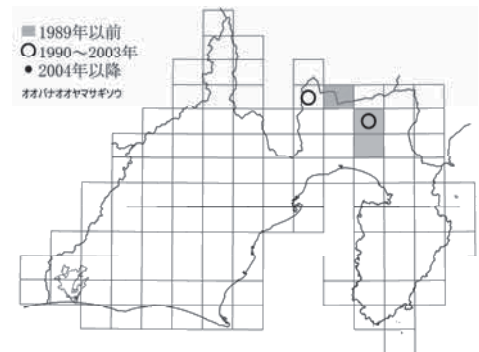
6. 保護対策

産地の森林は皆伐することなく択伐して、急激な生育環境の変化を与えないように配慮することが重要である。

(宮崎一夫)



山梨県 2019年7月28日 室伏幸一



ヤマトキソウ *Pogonia minor* (Makino) Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。葉は中上部に1個つけ、やや厚く肉質の長楕円形で長さ3~7 cm。苞葉は狭楕円形。花期は6月。花は茎頂に1個つけ、帯紅白色で上向きにわずかに開く。背萼片は線状披針形で長さ12 mm。唇弁は側花弁よりも短く長楕円形で3裂して、中裂片は肉質の毛状突起が密生する。近縁種のトキシソウは唇弁が側花弁よりも長い。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の丘陵地の日当たりがよい、半裸地状の痩せて乾いた疎草地に生育する。

4. 生育状況

産地は県内に広くやや多い。産量はやや多い。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因で、園芸採取(41)も脅威である。

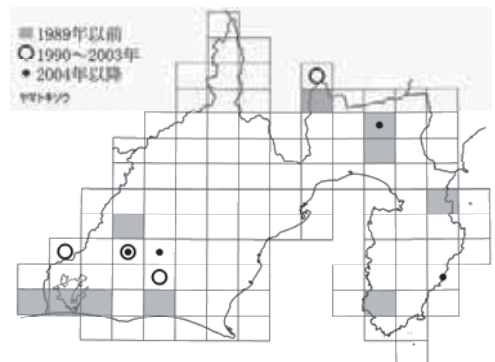
6. 保護対策

植生遷移を抑制して、半裸地状態の自然環境を維持管理することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2017年6月1日 宮崎一夫



マツラン *Gastrochilus matsuran* (Makino) Schltr.

(=ベニカヤラン)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年生の着生植物。根は太糸状で樹皮に着生し下垂する。葉は常緑の厚い角質で互生して2列生し長さ1~2 cm、暗紫色の斑紋がある。花期は5~6月。花序は葉腋から伸びて、花を1~4個つける。花は径6~9 mm、淡黄緑色で紅紫色の細点がある。唇弁は基部が囊状にふくらむ。近縁種のカヤランは唇弁の基部に囊がない。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州(岩手県以南の太平洋側)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

深山の雲霧がかかる苔むした巨樹の幹や枝に着生する。

4. 生育状況

産地は西部にあり少ない。株数は少ない。採取のためか手の届く位置にはほとんど生育していない。

5. 減少の主要因と脅威

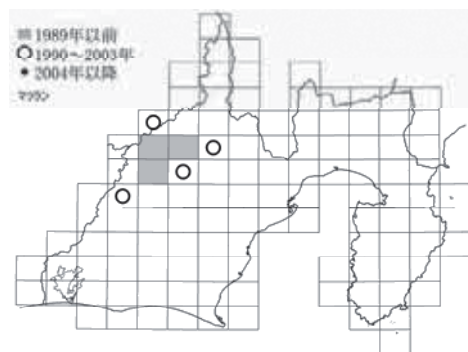
森林伐採(11)が主要因である。強風や遷移による倒木(54)も脅威である。

6. 保護対策

産地の自然林は森林伐採することなく保全することが必要である。(宮崎一夫)



静岡市 2003年4月10日 杉野孝雄



モミラン *Gastrochilus toramanus* (Makino) Schltr.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

樹木に着生する多年草。高さ1~2 cm。茎は樹幹上を這い長さ5~10 cm。葉は2列生して長楕円形で3脈あり長さ5~11 mm、暗紫色の斑点がある。花期は3~4月。花序は腋生して、黄緑色の花を1~6個つける。萼は長さ2.5~3.5 mm。唇弁は白色で扁円形、縁に不規則な細かい波状鋸歯があり、中央から基部に短毛を密生して、基部は円柱形で長さ4 mmの距となる。近縁種のマツランは唇弁の基部が囊状にふくらむ。

2. 分布

日本固有種で、本州(宮城県以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の雲霧が発生する樹幹に着生する。

4. 生育状況

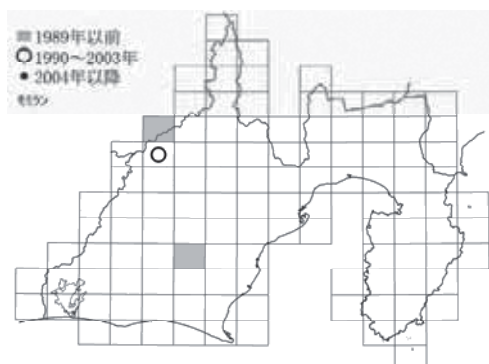
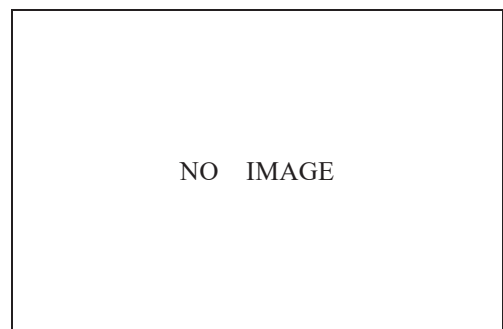
産地は西部にあり少ない。産量は少ない。樹幹の高い位置に生育し確認が困難である。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

着生している樹木だけでなく、生育地の森林を広く保全することが重要である。(宮崎一夫)



ムカデラン *Cleisostoma scolopendrifolius* (Makino) Garay

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

樹木に着生する多年草。高さ0.5~1 cm。茎はまばらに分枝して白色の太い根を出す。葉は多肉な偏円柱形で1溝があり長さ6~10 mm、2列に互生する。花期は6~8月。花は葉の反対側から1花を出して淡紅紫色で径9 mm。萼片は楕円形で長さ2 mm。唇弁は白色の肉質で先端が3裂して側裂片は耳状、中裂片は三角状である。近似種のクモランは多肉な葉状の根を放射線状に広げる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、韓国(済州島)、中国、国内では本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の山地の日当たりのよい岩上や樹幹に着生する。

4. 生育状況

産地は主に西部にあるが少ない。産量は小群生する。垂直な岩壁に着生して密生するが開花株は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

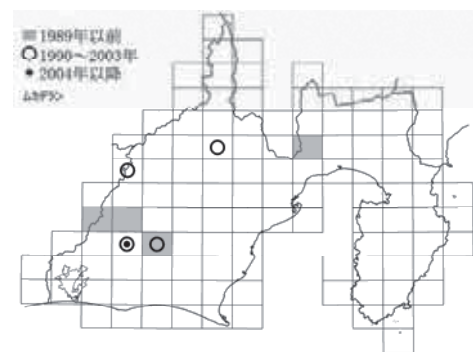
植生遷移による樹冠の被陰(54)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



浜松市 1992年8月16日 宮崎一夫



キバナノショウキラン *Yoania amagiensis* Nakai et F. Maek.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ20~30 cm。根茎は太く、イモ状である。花期は6~7月。太い黄褐色の10 cm程度の茎をあげ、6~15花をつける。花も黄褐色で子房と茎までの長さ5~8 cm。花被は離生し、卵状楕円形で円頭。唇弁は白色。花後、株は枯れる。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東~中部地方)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯の腐植質の多い林下、谷筋などに発生する。自然度の高い林、放置竹林、廃材集積所などに多い。

4. 生育状況

各地に広く点在する。ごく少数散生する所と群生する所がある。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)、植生の遷移(54)、乾燥化(71)があげられる。

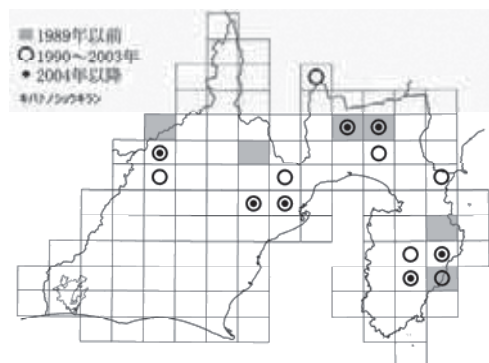
6. 保護対策

毎年発生する場所は、環境を改変することは避けたい。

(西口紀雄)



静岡市 2014年6月24日 西口紀雄



カキツバタ *Iris laevigata* Fisch.

(=カッコバナ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

アヤメ科 Iridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~70 cm。ノハナショウブに似るが、葉は中肋が不明。巾2~3 cm。花期は5~6月。花は青紫色、径12 cm、外片の弁部は垂れ、爪部に網斑はなく、単純に白又は淡黄色。内片は立ち倒披針形で少し尖り6 cm、葯は白色。根茎は分岐して繊維質に覆われる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、シベリア東部、サハリンに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯、温帯の池沼、用水路などに生育する。ハナショウブ、アヤメと本種の3種の中で、本種が最も水を好む。

4. 生育状況

伊豆市、磐田市、浜松市北区三ヶ日町、引佐町などに生育する。ヨシなどと競合して、衰退している所もある。

5. 減少の主要因と脅威

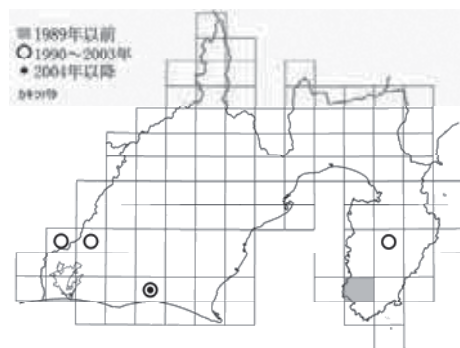
生育地である、池周辺の山林伐採(11)や植生遷移(54)による競合など、生育環境の変化の影響を受けている。

6. 保護対策

生育地を管理することで、生育に適する条件に整えることが必要である。
(西口紀雄)



磐田市 2012年5月20日 内藤宇佐彦



ミズアオイ *Monochoria korsakowii* Regel et Maack.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ミズアオイ科 Pontederiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草。高さ30~70 cm。茎は横に這う根茎となり、斜上して葉を束生する。葉身は心形で、長さ5~20 cm、全縁で光沢がある。花期は8~10月。花茎は葉より高く伸び、上方に10~20個の花を総状につける。花は1日花で、数個ずつ咲く。花被片は青紫色で長さ15~20 mmの楕円形である。

2. 分布

国外では東アジアに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

池沼や水田、水路など。

4. 生育状況

各地に生育していたが、著しく産地が減少している。

5. 減少の主要因と脅威

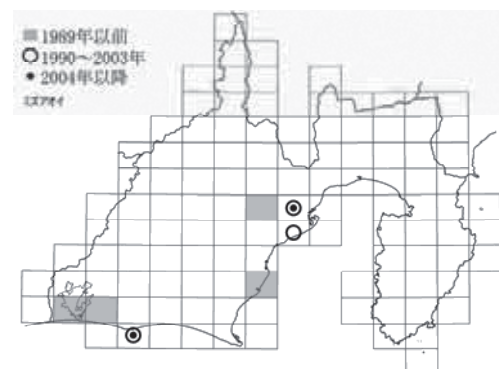
池沼の埋め立て(12)や植生遷移(54)。耕地整備による水田水路のコンクリート化(15)、水田の乾田化(71)などが減少の主要因である。

6. 保護対策

池沼では、植生遷移の進行を抑え、埋土種子の発芽を促すために定期的に攪乱すること。
(湯浅保雄)



磐田市 2004年8月29日 宮崎一夫



オオミクリ *Sparganium erectum* L. var. *macrocarpum* (Makino) H. Hara

(=アズマミクリ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ガマ科 Typhaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

抽水性の多年草。高さ 100~150 cm。地下茎はくびれのあ
る塊茎を作り横に這い、先に新苗をつける。葉は水中から
抽出して、2 列生し広線形で断面は三角形である。花期は 6
~8 月。雌雄同株。花茎は分枝して、下部に雌性の頭花を数
個つけ、上部に雄性の頭花を数個つける。集合果は緑色の
球形で径 25~30 mm。果実はドーム状菱形で長さ 8 mm。近
縁種のみクリは果実が倒広卵形で長さ 6 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州に分布する。
県内では西部に分布する。

3. 生育環境

湧水が流入し、泥土が堆積した小川や池沼に生育する。

4. 生育状況

産地は西部の 1ヶ所に局限する。産量は局所的に小群生
する。大雨や洪水により生育を阻害されることもある。

5. 減少の主要因と脅威

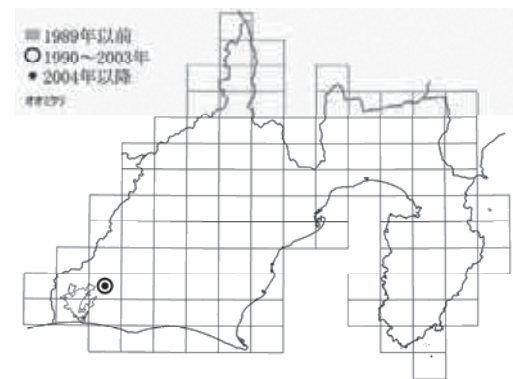
河川や池沼の開発や改修 (12、13) が主要因である。農
薬汚染 (32) も脅威である。

6. 保護対策

県内唯一の貴重な生育地が消失しないように、開発や改
修を回避して保護保全することが重要である。(宮崎一夫)



浜松市北区 2013年6月9日 宮崎一夫



ヤマトミクリ *Sparganium fallax* Graebn.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ガマ科 Typhaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

抽水性の多年草。高さ 50~100 cm。地下茎は横に這い、先
に新苗をつける。葉は水中から抽出して、2 列生し線形で、
断面は三角形である。花期は 6~8 月。雌雄同株。花茎は分枝
せず腋上生、下部に雌性の頭花を数個つけ、上部に雄性の頭
花を数個つける。集合果は緑色の球形で径 15~20 mm。果実
は紡錘形で長さ 6 mm。近縁種のみクリは花茎が腋生で
ある。

2. 分布

国外ではビルマ、インドに、国内では本州、四国、九州に
分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

低地の湧水が流入し、泥土が堆積した小川に生育する。

4. 生育状況

産地は西部の 1 河川に局限する。産量は多い。流速が早い
ために開花は少ないものの、栄養繁殖で群生している。

5. 減少の主要因と脅威

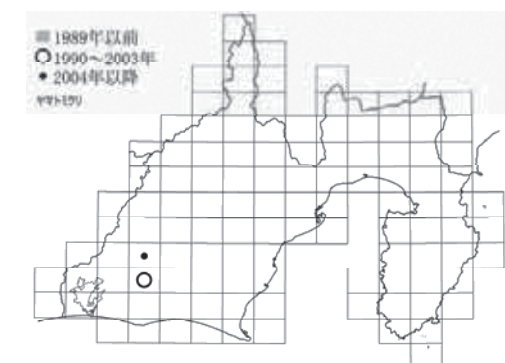
小川や池沼の開発や改修工事 (12、13) が主要因である。
農薬汚染 (32) も脅威である。

6. 保護対策

河川改修をする時には株を一時的に避難させて、改変後に
植え戻すことも保護につながる施行である。(宮崎一夫)



浜松市 2014年7月6日 宮崎一夫



ヒメミクリ *Sparganium subglobosum* Morong

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ガマ科 Typhaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

抽水性の多年草。高さ 40~90 cm。地下茎は横に這い、先に新苗をつける。葉は水中から抽出して、2列生し線形で直立して、断面は三角形である。花期は 6~8 月。雌雄同株。花茎は時に分枝し、下部に雌性の頭花を 2 個ほどつけ、上部に雄性の頭花を 5~11 個つける。集合果は緑色の球形で径 10~15 mm。果実は柄がなく倒卵形で長さ 4 mm。近縁種のナガエミクリは果実に短柄がある。

2. 分布

国外では東南アジア、インドなどに、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

池沼など水辺の水湿地に生育する。

4. 生育状況

産地は東部と西部に限られている。産量はきわめて少ない。池の縁の高木による被陰を受けて生育が悪化している。

5. 減少の主要因と脅威

ため池の破壊 (12) が主要因で、被陰 (71) も脅威である。

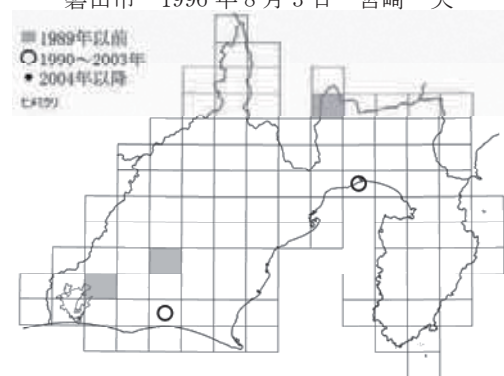
6. 保護対策

減少している水湿地の環境を重要視して、生育環境を保護保全することが重要である。

(宮崎一夫)



磐田市 1996年8月3日 宮崎一夫



シラタマホシクサ *Eriocaulon nudicuspe* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ホシクサ科 Eriocaulaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ 20~40 cm。葉は線形で 14~20 cm、幅 1~4 mm。花期は 8~9 月。頭花は球形で径 6~8 mm、全体に白色の短毛が密生する。花は多数かたまってつく。総苞片は広倒卵形で先が円く、無毛、頭花より短い。

2. 分布

日本固有種で、本州 (静岡県、愛知県、岐阜県、三重県) に分布する。県内では西部 (天竜川以西) に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の日当たりのよい湧水湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市や湖西市などの限られた湿地に生育する。湧水湿地の消失で産地と個体数は減少している。

5. 減少の主要因と脅威

丘陵地の開発 (工場、住宅、農用地、道路) (23,24) によって生育地が大きく減少した。園芸採取 (41) も無視できない。

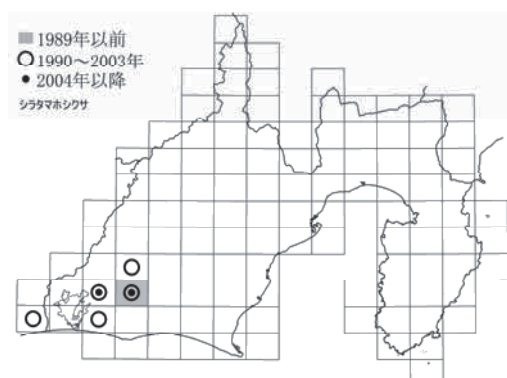
6. 保護対策

周辺の山林まで含めた湧水湿地の保全が重要である。また、園芸採取防止のための対策も必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2016年9月10日 宮崎一夫



イトテンツキ *Bulbostylis densa* (Wall.) Hand. -Mazz. var. *capitata* (Miq.) Ohwi
(=クロハタガヤ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

小型の一年草。高さ5~30 cm。茎は糸状で多数つく。イトハナビテンツキに似るが、花序が頭状に短縮する。果期は8~10月。小穂は披針形で長さ4 mm、鱗片は卵形、栗褐色でやや鋭頭。

2. 分布

国外ではインドネシアに、国内では本州(中部以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地や低山地の日当たりのよい荒地や畑、芝地などに生育する。

4. 生育状況

浜松市や森町などに生育する。植生の貧弱な半裸地状の場所で、散発的に生じる。

5. 減少の主要因と脅威

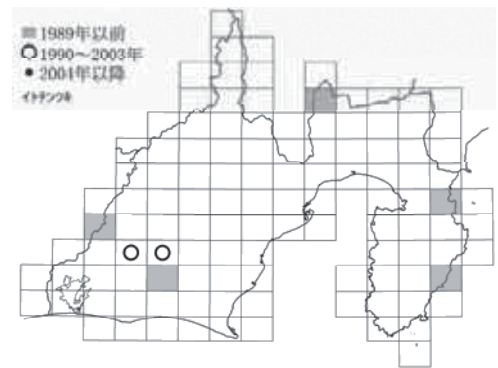
丘陵地の開発(23)による草地の減少や遷移(54)による生育適地の消失がその要因である。

6. 保護対策

ただの荒地と思われる場所もこのような特殊な環境に生える植物にとっては生育適地であるので注意する必要がある。
(内藤宇佐彦)



浜松市 1996年9月23日 内藤宇佐彦



タカネヤガミスゲ *Carex lachenalii* Schkuhr.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。有花茎は高さ10~30 cm、葉は濃緑色。小穂は接近して3~4個つく。果期は7~9月。小穂は雌雄性で長楕円形、長さ5~10 mmあって暗褐色。果胞は長さ3 mmで淡栗褐色。果胞の背面に長い裂け目がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、北千島~北半球の北地または高山に、国内では北海道(大雪山)、本州(中部以北)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の草地、岩地、砂礫地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈(荒川岳、小赤石岳)に記録がある。

5. 減少の主要因と脅威

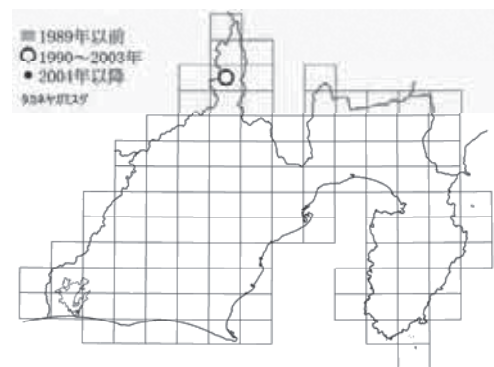
登山者の踏みつけ(51)、シカ食害(52-1)、生育環境の変化による植生の遷移(54)があげられる。

6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。
(齊藤 猛)



長野県 2019年8月5日 室伏幸一



ハリガネスゲ *Carex capillacea* Boott var. *capillacea*

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~30 cm。茎は平滑。葉はかたく幅 1~1.5 mm。果期は 4~6 月。小穂は短く長さ 5~10 mm。雄花部は 3~5 個の花をつける。果胞は広卵形で長さ 2.5~3 mm あり。近縁種のマツバスゲの小穂は長さ 10~20 mm。果胞は長さ 1.5~2 mm

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、インド、オーストラリアに、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山中の湧水の流れる湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市北区に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

確認された生育地は小規模である。遷移の進行 (54) や森林開発 (11、23) によって消失の危険性が高い。

6. 保護対策

生育する湿地の保護と林道整備の際は注意が必要である。
(内藤宇佐彦)



浜松市 2000年4月29日 内藤宇佐彦



ミヤマジユズスゲ *Carex dissitiflora* Franch.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~80 cm。小さい株を作り、鮮緑色でやわらかい。葉は扁平で幅 3~7 mm。果期は 5~7 月。小穂は枝ごとまばらにつく。雌雄性で上に短い雄花部、下に雌花部。果胞は直立して長さ 9~11 mm、嘴は長く、細脈があって無毛。

2. 分布

日本固有種で、南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と東部に分布する。

3. 生育環境

湿った樹林内や林縁。

4. 生育状況

伊豆と富士山周辺に記録がある。県内では稀。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採による土地改変 (11)、土地造成 (23)、道路・林道建設 (24)、シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生の遷移 (54) が主な要因である。

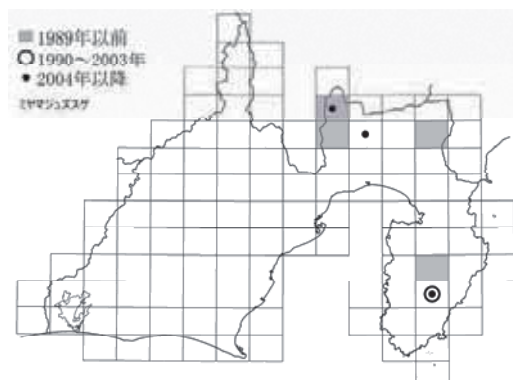
6. 保護対策

森林開発、道路整備などでは、事前の調査で見落としのないうように注意する必要がある。

(斉藤 猛)



富士宮市 2016年6月3日 室伏幸一



オオタマツリスゲ *Carex filipes* Franch. et Sav. var. *rouyana* (Franch.) Kük.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さは30~70 cm。基部の鞘は淡色。葉の幅は3~6 mm。果期は4~6月。雄小穂は線形で長く、常に長い柄がある。果胞は長さ6~7 mmで無毛、嘴は著しく長い。近縁種のタマツリスゲに似るがやや大きい。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州に分布する。県内では東部に分布する

3. 生育環境

山地のやや湿った林縁や林内に生育する。

4. 生育状況

富士宮市に生育する。産地は限られている。生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

もともと稀な植物で、現在の生育地も小規模であり、森林伐採(11)、林道整備(24)によって消失の危険性が高い。

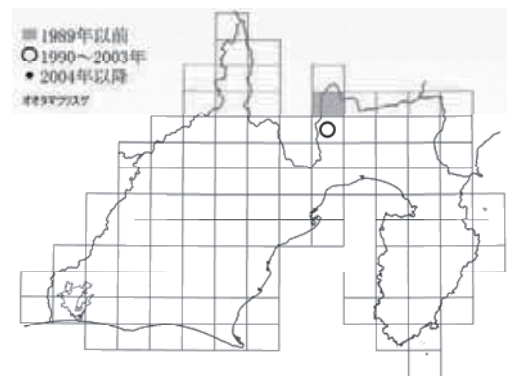
6. 保護対策

森林の保全や開発計画時の事前調査と保存対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



富士宮市 2001年6月2日 内藤宇佐彦



サナギスゲ *Carex grallatoria* Maxim.

var. *heteroclita* (Franch.) Kük. ex Matsum.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ5~20 cm。基部の鞘は赤色。葉は幅1~2.5 mm。果期は5~6月。雌雄同株で小穂は長さ1~1.5 cm、上半が雄性、下半が雌性である。果胞は長さ2~2.5 mm。近縁種のヒナスゲは雌雄異株で、葉の幅はやや狭い。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州(関東~近畿地方)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の林内の岩地に生育する。

4. 生育状況

伊豆では天城山の尾根付近の岩の多いところで、少数の個体が生育する。

5. 減少の主要因と脅威

登山客が多い所であり、登山道の荒廃や踏みつけ(51)などによって減少している。

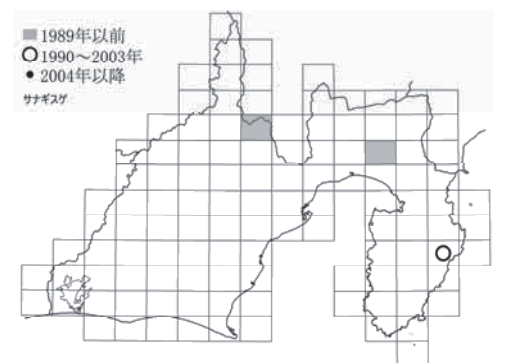
6. 保護対策

登山道の維持管理が必要である。

(内藤宇佐彦)



伊豆市 2001年5月4日 内藤宇佐彦



ホソバヒカゲスゲ *Carex humilis* Leyss. var. *nana* (H. Lév. et Vaniot) Ohwi

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。有花茎は低くて高さ3~6 cmで葉の間にかくれる。葉は細く幅0.5~1.5 mm。果期は4~5月。小穂間は平滑、頂小穂は雄性で長さ5~10 mm、側小穂は雌性で長さ5~7 mm、果胞は3 mm、ほとんど無嘴で無毛。近縁のヒカゲスゲの有花茎は高さ10~40 cmで葉よりも高い。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部、シベリア東部に、国内では南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

低山地のやや乾いた疎林の岩地や斜面に生育する。

4. 生育状況

伊豆市、富士宮市、磐田市、浜松市、湖西市などに生育する。生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の森林伐採(11)や二次林の遷移進行(54)により減少している。

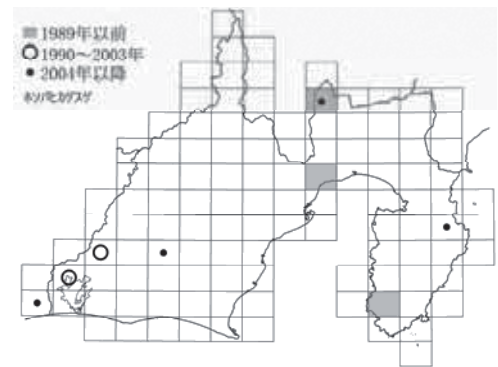
6. 保護対策

生育地の周辺を含めた保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



富士宮市 2016年4月19日 湯浅保雄



カラスゲ *Carex macrandrolepis* H. Lév.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ15~40 cm。根茎は長く這い、基部の鞘は暗褐色、繊維を多数つける。葉は幅2~4 mm。果期は4~5月。小穂は3~4個がまばらにつき、頂小穂は雄性で長さ1~3 cm、ほかは雌性で長さ1~1.5 cm。果胞は鈍三稜~ひし形で長さ5~6 mm、微毛があり、先は狭まり長い嘴になる。

2. 分布

国外では朝鮮半島南部、台湾に、国内では本州(東海地方以西)、九州、伊豆諸島に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

海岸近くの林縁や草地に生育する。

4. 生育状況

御前崎市に生育する。産地は限られていて、同市内で小群落が1ヶ所確認されたに過ぎない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸林伐採(11)、草地の開発(16)、道路整備(24)などが減少の要因である。

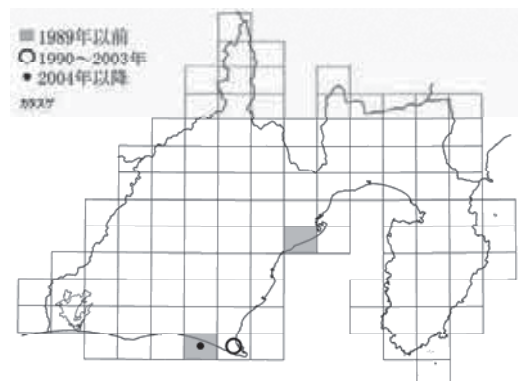
6. 保護対策

スゲ類は多数あり分類が難しい。保護上重要な種の見落としがないように気をつけたい。

(内藤宇佐彦)



御前崎市 2016年4月24日 内藤宇佐彦



サワヒメスゲ *Carex mira* Kük.

(=サワヒナスゲ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さは20~40 cm。基部の鞘は褐色から赤褐色。葉は幅1~2 mm。果期は4~5月。頂小穂は雄性で長さ1.5~2 cm、黒赤褐色、側生の小穂は雌性で長さ0.5~1 cm、柄がなく長楕円形で1~3個あり、互いに接続してつく。果胞は長さ3~3.5 mmで圧毛がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州(静岡県以西)、四国、九州(宮崎県)に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は分布の東限自生地である。

3. 生育環境

川岸に生育するが、県内では低山地の草地に生育する。

4. 生育状況

浜松市北区に生育する。産地は限られて生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

もともと稀な植物であり、さらに草地の遷移進行(54)で今後も減少する危険性が高い。

6. 保護対策

低山地の草地の保護が必要である。確認された生育地は他にも希少な草地性植物が生育しており、エリア全体を保全することが重要である。
(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito

浜松市北区 1996年4月14日 内藤宇佐彦



キシウナキリ *Carex nachiana* Ohwi

(=キシウナキリスゲ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ80~120 cm。基部の鞘は濃褐色、繊維状に細裂する。葉は硬く、幅2.5~4 mm。果期は9~10月。小穂は1節に2~3個つき、ときに枝分かれして長さ1~3 cm、全て雌雄性で雄花部は短い。果胞はまばらにつき、長さ3.5~4 mmで、細脈が多数あり、縁にだけ小毛がある。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

海岸に近い丘陵地や低山地の林内に生育する。

4. 生育状況

産地は限られていて、浜名湖周辺に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

丘陵地の開発(23)や山林の伐採(11)が減少の主要因である。

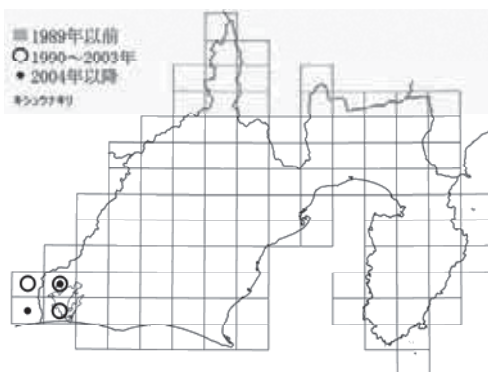
6. 保護対策

丘陵地や低山地の谷間や周辺の山林の保護が必要である。
(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito

湖西市 2014年10月17日 内藤宇佐彦



スルガスゲ *Carex omurae* T. Koyama

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B 類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~20 cm。オクノカンスゲに似るが匍匐枝はない。基部の鞘は暗紫褐色。葉は 3~5 mm、縁に逆小歯がある。果期は 6 月。頂小穂は雄性で長さ 1.5~3 cm、側小穂は雌性で長さ 1~2 cm。果胞は長さ 3~3.5 mm、まばらにつき、無毛でその先は浅い歯のある嘴になる。

静岡市が基準産地である。和名は産地に由来する。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県、山梨県、長野県）に分布する。県内では中部に分布する。2004 年版では本川根町の分布が記録されたが、標本の再同定の結果、ヒメカンスゲとされた。

3. 生育環境

山地の林内に生育する。

4. 生育状況

静岡市に生育する。生育地は限られていて減少傾向がみられる。

5. 減少の主要因と脅威

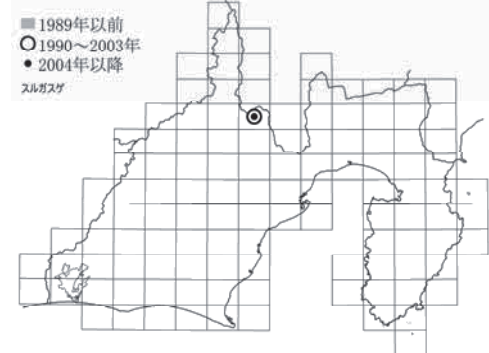
山林伐採 (11) や林道整備 (24) が脅威である。

6. 保護対策

生育地である森林の保全が重要である。 (内藤宇佐彦)



静岡市葵区 2017年5月27日 内藤宇佐彦



エゾツリスゲ *Carex papulosa* Boott

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) : 変更コード 4

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~50 cm。基部の鞘は白色で脈が緑色。葉は幅 3~7 mm で灰緑色を帯びる。果期は 5~7 月。小穂は 2~3 個、頂小穂は雄性で長さ 1.5~3 cm、長い柄がある。側小穂は雌性で長さ 1~2 cm、長い柄があつて下垂する。果胞は長さ 5~6 mm で細突起があり、広卵形で長い嘴になる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、ウスリーに、国内では北海道、本州（中部以北）、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の湿原に生育する。

4. 生育状況

富士宮市に生育する。産地は限られている。前回調査以後、現存が確認された。

5. 減少の主要因と脅威

湿原の乾燥化や遷移進行による被陰 (54) で減少傾向にある。

6. 保護対策

生育湿地の保全と草地の維持管理が重要である。

(内藤宇佐彦)



富士宮市 2011年5月5日 内藤宇佐彦



ジングウスゲ *Carex sacrosancta* Honda

(=ヒメナキリスゲ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~40 cm。基部の鞘は褐色。葉は硬く、幅 1.5~3 mm。果期は 9~10 月。小穂は 4~6 個で長さ 1~3 cm、まばらに雌花をつけ、上方に短く雄花がつく。果胞は長さ 4 mm ほど、楕円形で脈上にまばらに小刺毛があり、嘴はやや長い。やや繊細でナキリスゲに似る。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州 (伊豆以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

低山地の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

浜松市北区などに生育する。産地は限られて生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

もともと産地の少ない植物であり、さらに林道拡幅 (24)、山林の伐採 (11) で減少する傾向にある。

6. 保護対策

林道脇やその近くに生育しているため、道路工事の際には注意が必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito
浜松市浜北区 2017年10月1日 内藤宇佐彦



オノエスゲ *Carex tenuiformis* H. Lév. et Vaniot

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~40 cm。葉は幅 2.5~4 mm。果期は 6~8 月。小穂はまばらに 2~4 個つき、頂小穂は雄性で長さ 1~1.5 cm、柄があつて抽出。側小穂は雌性で長さ 1~2.5 cm、長い柄がある。果胞は卵状紡錘形で、長さ 3~4.5 mm、長い嘴になり縁はざらつく。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部、ロシア (サハリン、北クリール、シベリア東部)、国内では南千島、北海道、本州 (中・北部) に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

高山帯の砂礫地や草地に生育する。

4. 生育状況

南アルプスに点在する。個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生の遷移 (54) と登山者の踏みつけ (51) の影響を受けている。

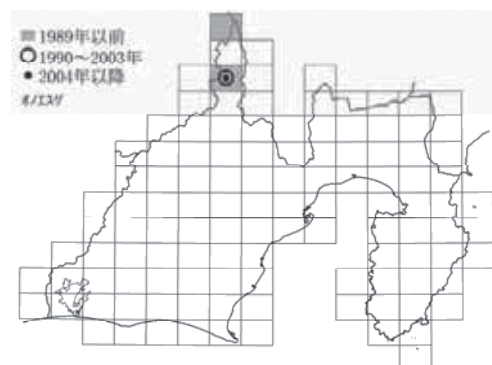
6. 保護対策

登山道からのみだしを防ぎ、踏みつけや生育環境に影響を与えないような対策が重要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 K.Murofushi
静岡市 2018年7月26日 室伏幸一



ヌイオスゲ *Carex vanheurckii* Müll. Arg.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~40 cm。基部の鞘は赤紫色で縦の繊維に分解する。葉の幅 2 mm 以下。果期は 7~8 月。頂小穂は雄性で長さ 1~2 cm、側小穂は雌性で長さ 4~7 mm。果胞は長さ 2.5~3 mm、上から見て円い。ヒメスゲによく似ているが、雄小穂が雌小穂よりも著しく長いこと (1 cm 以上) で区別できる。

2. 分布

国外ではシベリア東部からサハリン、千島列島に、国内では北海道、本州 (中部以北) に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩礫地、砂礫地、草地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈 (荒川岳、東岳、千枚岳、赤石岳) に記録がある。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ (51)、シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生の遷移 (54) が主要因である。

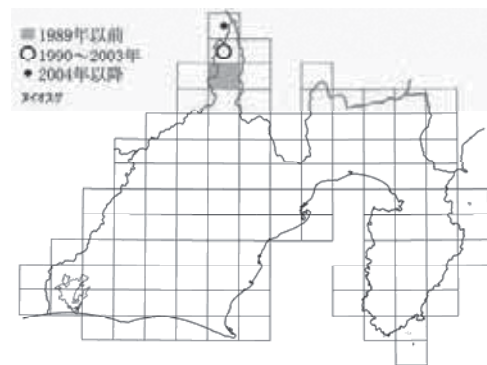
6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。

(齊藤 猛)



長野県 2018年7月14日 室伏幸一



オニナルコスゲ *Carex vesicaria* L.

(=ホソボナルコスゲ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~100 cm。地下匍枝があり、基部の鞘は血紫色で少し糸網がある。葉の幅 3~6 mm。果期は 6~8 月。上方 2~3 個の小穂は雄性で線形、長さ 3~5 cm。下方の 2~3 個は雌性で短い円柱形、長さ 3~7 cm。果胞は長さ 6~8 mm、上方はやや急な中位の嘴となる。

2. 分布

国外では北半球の温帯域に、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では伊豆と東部に分布する。

3. 生育環境

湿地。

4. 生育状況

浮島沼の保全地区ではまだ健在であるが、一碧湖では見られなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発 (15) と植生の遷移 (54) が減少の主要因である。

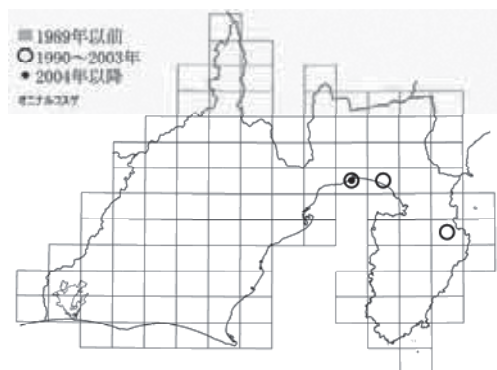
6. 保護対策

湿地の保全とその管理。

(湯浅保雄)



伊東市 2003年5月16日 内藤宇佐彦



コツブヌマハリイ *Eleocharis parvinox* Ohwi

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~60 cm。秆は丸くて平滑、太さ1~2 mm。果期は7~10月。小穂は楕円形から広楕円形。長さ5~15 mm、太さ3~4 mm。瘦果は倒卵形で長さ1~1.2 mm。刺針状花被片は4個。やや硬く、長さは瘦果の約3倍ある。柱基は三角形で、その幅は瘦果の幅の半分以下である。

2. 分布

日本固有種で、本州の関東地方と東北地方に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

池沼や川岸の湿地。

4. 生育状況

静岡市の麻機遊水地で確認されたが、植生遷移が進み個体数が非常に少なくなっている。

5. 減少の主要因と脅威

植生の遷移 (54) が減少の主要因である。

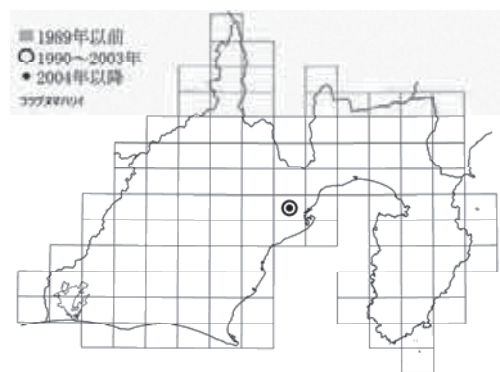
6. 保護対策

生育場所を定期的に攪乱すること。

(湯浅保雄)



静岡市 2019年6月29日 室伏幸一



ヒゲハリスゲ *Kobresia myosuroides* (Vill.) Fiori

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

小型の多年草。高さ10~25 cm。匍枝がなくて密な小株をつくる。基部の鞘は幅が広くて光沢あり暗栗褐色、茎は細くて直立し、やや多数つく。葉は糸状で直立し、茎とほぼ同長。果期は7~8月。穂状花序は線形で長さ1.5~3 cm、頂小穂は雄性、側小穂は雌雄の小穂が対になってつく。果胞は完全に合着しないため果実の一部が露出する。

2. 分布

国外では千島列島、朝鮮半島から北半球 (ヨーロッパ、アジア、北アメリカ) の高山に、国内では北海道、本州 (中部) に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩地、草地で、主に高山帯の風衛地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈 (熊の平、間ノ岳、農鳥岳、塩見岳、荒川岳、東岳、赤石岳) に記録がある。荒川岳、東岳周辺で確認された。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ (51)、シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生の遷移 (54) が主な要因である。

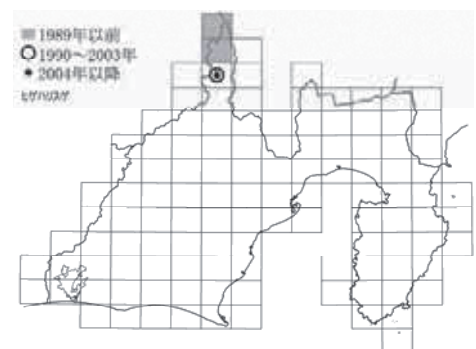
6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。

(斉藤 猛)



静岡市 2015年7月30日 室伏幸一



ハタバカンガレイ *Schoenoplectus gemmifer* C. Sato, T. Maeda et Uchino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード 4

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ なし : 環境省カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

沈水または抽水性の多年草。稈の長さは40~100 cm。流水中では稈がたおれて水になびく。果期は7~10月。小穂は卵形で長さ約1 cm、5~20個集まってつく。水中では小穂の基部から無性芽が形成される。カンガレイに似るが、柱頭が2岐(稀に3岐)することで区別される。

近年、新種記載された植物である。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州(関東以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

湧水のある河川や水路、山から湧水が入るため池などに生育する。

4. 生育状況

浜松市に生育する。産地は限られ、個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

河川改修(13)と水質の悪化(31)で減少している。

6. 保護対策

水源地の確保と水質の保全、生育場所ではその環境の保護が重要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2006年9月16日 内藤宇佐彦



カガシラ *Diplacrum caricinum* R. Br.

(=ヒメシンジュガヤ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

小型の多年草。高さ5~20 cm。茎は3稜形でときに基部で少し分岐する。果期は7~10月。分花序は短い柄があって腋生し、淡緑色、密に小穂をつける。果は球形で長さ0.6~1 mm、白色、不規則な縦稜がある。

2. 分布

国外では中国南部、台湾、東南アジア、インド、スリランカ、オーストラリアに、国内では本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市浜北区などに生育する。産地は限られている。湧水湿地の消失とともに減少している。

5. 減少の主要因と脅威

丘陵地の開発(23)による湿地の減少や消失、遷移進行(54)が減少の主要因である。

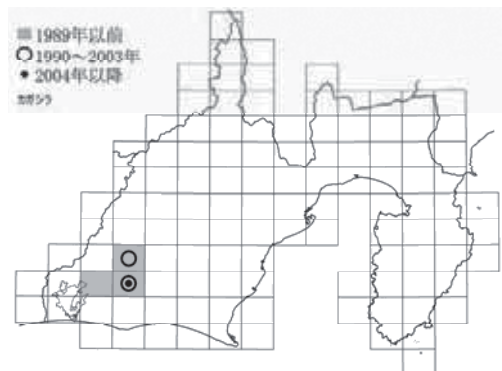
6. 保護対策

周辺部を含めた湿地の保護と遷移抑制のための雑木伐採や除草が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2015年9月12日 内藤宇佐彦



ミヤマハルガヤ *Anthoxanthum odoratum* L. subsp. *nipponicum* (Honda) Tzvelev

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。花期は7~8月。中性小花の護穎は少し大きく、長さ3.5~4 mm、その上方の1/3内外はほとんど毛がない。芒は小穂の外により長く突き出る。ハルガヤによく似ているが、中性小花の護穎を除き全体にまったく毛がなく、苞穎は毛も細点もない。

2. 分布

国外では朝鮮半島北部に、国内では北海道(利尻岳)、本州(南アルプス)、南千島に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布しており、静岡県は南限自生地である。

3. 生育環境

高山帯の草地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈(間ノ岳、塩見岳、蝙蝠岳、本谷山、三伏峠、荒川岳、東岳、千枚岳、赤石岳)で記録がある。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ(51)、シカ食害(52-1)、生育環境の変化による植生の遷移(54)が主な要因である。

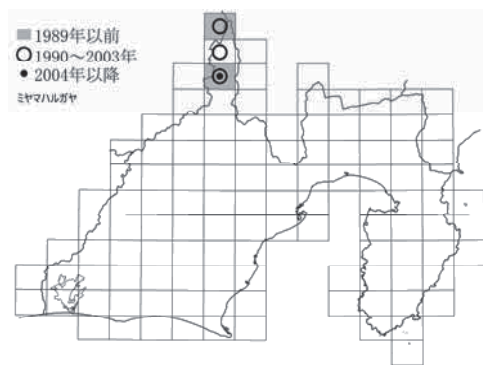
6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。

(斉藤 猛)



静岡市 2019年8月1日 室伏幸一



ミギワトダシバ *Arundinella riparia* Honda

(=ミギワガヤ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ90 cm。根茎は伸長しない。花期は8~10月。芒が3~3.5 mmあって、軽く屈曲する。近縁種のトダシバは根茎が伸長し、芒がないか短い。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県、紀伊半島)、四国(徳島県)に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

天竜川流域の増水時には水に流されるような岸壁に生育する。

4. 生育状況

浜松市天竜区に生育する。生育地は限られている。個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

河岸工事(13)による生育場所の消失が懸念される。

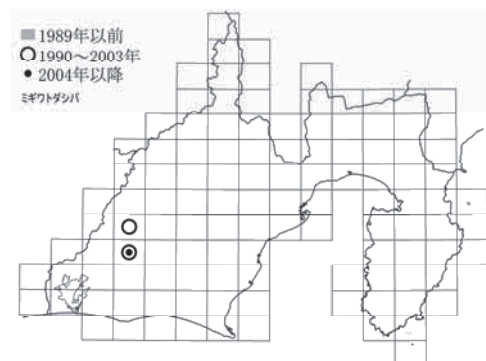
6. 保護対策

生育しそうな場所での河岸工事の際には十分な配慮が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2011年9月23日 内藤宇佐彦



アズマガヤ *Hystrix duthiei* (Stapf) Bor subsp. *longearistata* (Hack.) Baden, Fred. et Seberg

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ70~120 cm。花序のすぐ下と花軸や節に軟毛が密生する。葉は基部近くでよじれて表裏が逆転する。花期は5~6月。小穂は2個ずつつき、苞穎は2~6 mmの針状でときにないこともある。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地や人里近くの林内に生育する。

4. 生育状況

下田市、西伊豆町、富士宮市、湖西市などに生育する。産地は局所的で生育地での個体数は多いものではない。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)による生育環境の変化や、人里近くのもの土地造成(23)などによって容易に生育地が消失する危険性がある。

6. 保護対策

生育地の環境保全と生育場所を確保することが必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2012年5月12日 内藤宇佐彦



ヒナザサ *Coelachne japonica* Hack.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

小型の一年草。高さ5~20 cm。葉は長さの割に幅が広く、葉舌はない。花期は8~10月。円錐花序は枝が短く、約10個の小穂からなる。小穂は長さ約2.5 mm。やや似たハイチゴザサは毛状の葉舌がある。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地や山地のため池の岸边などの湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市北区などに生育する。産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

ため池の改修(12)や湿地開発(15)などにより減少した。

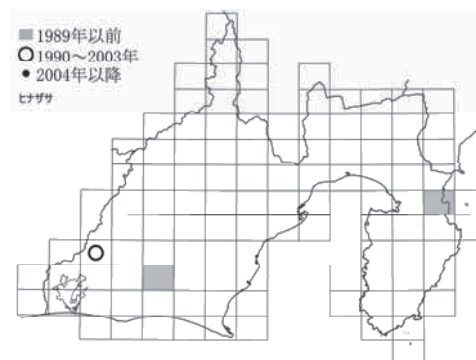
6. 保護対策

生育地の保護には、生育環境に配慮した対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1996年9月16日 内藤宇佐彦



ウンヌケモドキ *Eulalia quadrinervis* (Hack.) Kuntze

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ0.7~1.7 m。稈は束生して直立し、基部はふくらみがなく赤褐色を帯び、これを包む鞘はほぼ無毛である。葉は長さ10~30 cm。花期は9~10月。花序は長さ約15 cmある3~7個の総からなる。小穂は長さ5~6 cm。第一苞穎の外側は毛がまばらである。熟すと小穂の集まりが節ごとに切れて小穂をつけたまま落ちる。近似種のウンヌケは稈の基部がふくらんで黄褐色の毛が密生する。

2. 分布

国外では中国、インドに、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の乾燥して痩せた半裸地に生育する。

4. 生育状況

産地は西部の数ヶ所にある。産量はそれほど多くはない。

5. 減少の主要因と脅威

土地造成(23)などの開発が主要因である。長年月では自然遷移(54)も脅威となる。

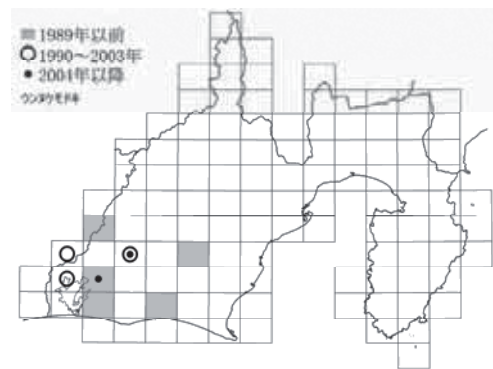
6. 保護対策

裸地でもなく草地でもないこのような半裸地も、種の多様性の一翼を担っているので開発を回避して保全する。

(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 2014年11月4日 宮崎一夫



ウンヌケ *Eulalia speciosa* (Debeaux) Kuntze

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。稈は高さ80~120 cm。稈の基部は黄褐色の毛が密生する鞘に囲まれる。葉は長さ15~40 cm、幅5~8 mm、ときに基部に長毛があるほかは無毛。花期は8~10月。総は数個あって直立し、長さ12~15 cm、関節があって熟すと折れて脱落する。小穂は披針形で長さ約5 mm、約2 cmの芒がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、タイ、インドに、国内では本州(静岡県西部、愛知県、岐阜県南部、兵庫県)、四国北部、九州北部に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

丘陵地や山地の日当たりのよい草地に生育する。

4. 生育状況

浜松市などに生育する。多数の個体が確認された場所もある。減少傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

丘陵地の開発(23)や管理不足(53)による草地の減少がその要因である。

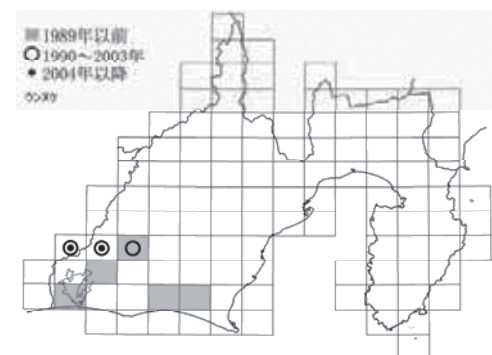
6. 保護対策

生育地である草地の保護と維持管理が重要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito
浜松市 2015年11月1日 内藤宇佐彦



ハネガヤ *Stipa pekinensis* Hance

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) : 変更コード 4

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 80~150 cm。稈は直立し、分岐しない。花期は 8~9 月。円錐花序は大きく、枝は開出して輪生状となる。小穂は 1 小花からなり、長さ 1 cm、護穎に長さ 2~2.5 cm の長い芒がある。

2. 分布

国外では中国北部、サハリン、極東シベリア、千島に、国内では北海道、本州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の湿った草地に生育する。

4. 生育状況

富士宮市に生育する。生育地は限られ、個体数は少ない。温帯性の植物で長野県では珍しいものではないが、本県では稀な植物である。近年、現存が確認された。

5. 減少の主要因と脅威

草地の開発 (16) や道路改修 (24) による生育地の消失が懸念される。また、管理放棄 (53) による植生の遷移進行のため生育環境が悪化することも心配である。

6. 保護対策

生育地の保護と、草刈りなど草地の維持管理が必要である。
(内藤宇佐彦)



富士宮市 2015年9月20日 内藤宇佐彦



リシリカニツリ *Trisetum spicatum* (L.) K. Richt.

subsp. *alaskanum* (Nash) Hulthen

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~30 cm、上方に花序とともに白い軟毛をつける。花期は 7~8 月。花序は密に小穂をつけてほとんど穂状の円柱形をなし、長さ 3~10 cm。小穂は淡黄緑色で、長さ 5~6 mm。護穎の先は深く 2 裂、裂片の先は尖り、裂片の間から芒が出る。芒はよじれて外側に曲がる。

2. 分布

国外では南北両半球の寒帯と熱帯の高山に、国内では南千島、北海道、本州中部に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

高山帯の乾いた荒れ地、岩地、草地に生育する。

4. 生育状況

南アルプス (間ノ岳、農鳥岳、塩見岳、小河内岳、蝙蝠岳、三伏峠、荒川岳、東岳、千枚岳、赤石岳、聖岳、上河内岳など) で記録がある。

5. 減少の主要因と脅威

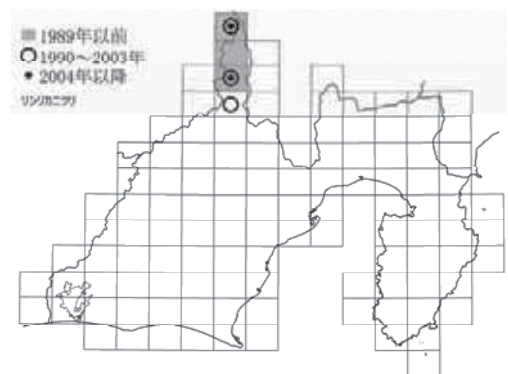
登山者の踏みつけ (51)、シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生の遷移 (54) が主要因である。

6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。
(斉藤 猛)



静岡市 2019年8月22日 室伏幸一



フクジュソウ *Adonis ramosa* Franch.

(=ガンジツソウ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ15~30 cm。葉は互生して3~4回羽状に細裂する。花期は3~4月。葉と花は同時に開く。花は径3~5 cm。花弁と萼片の長さはほぼ等しい。萼片は5~7個。花弁は20~30個。表面に光沢のある黄金色。集合果は倒卵形で長さ12~20 mm。開花後に茎が伸びる。近縁種のミチノクフクジュソウは萼片の長さが花弁の1/2から2/3。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山地の落葉樹林下で南斜面の砂礫地に生育する。生育地に近い所で田の畦や、畠の周辺にも残存して生育する。

4. 生育状況

産地は天竜区に限定されている。産量は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)や撮影者の踏圧(51)が主要因である。落葉樹林が伐採され(11)、植林されることも脅威である。

6. 保護対策

落葉樹林の伐採を回避して生育地を保護し、巡視により採取を防止したい。

(宮崎一夫)



浜松市 2005年3月19日 宮崎一夫



カザグルマ *Clematis patens* C. Morren et Decne.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

落葉藤本。茎は硬く細長い。葉は夏緑性で1回3出複葉。小葉は狭卵形で長さ3~9 cm。葉柄は長さ2~10 cmで他物にからまる。花期は5月。花は当年枝の頂に単生して径10 cm。萼片は楕円形で8個あり白色または淡紫色で上向きに平開する。瘦果は広卵形で長さ5 mm。園芸種のクレマチスはふつう萼片が5個である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の丘陵地から山地の林縁や水湿地に生育する。蛇紋岩地にもよく生育する。

4. 生育状況

産地は西部のみに集中して多い。産量は少ないが、群生している所もある。

5. 減少の主要因と脅威

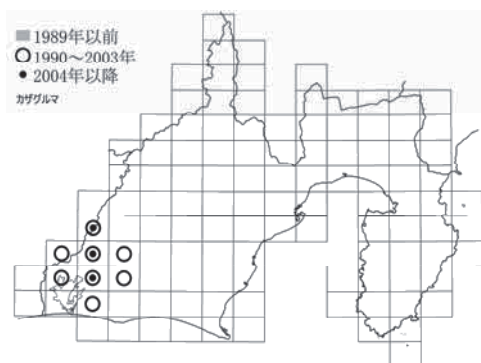
園芸目的の採取(41)が主要因である。植生遷移による高木の被陰(54)、土地造成(23)、道路工事(24)などの開発も脅威である。

6. 保護対策

分布の限られた植物であり、周辺の環境も含めて、自生地の行政的な保護管理が必要である。(宮崎一夫)



浜松市 2006年5月27日 宮崎一夫



ハコネシロカネソウ *Dichocarpum hakonense* (F. Maek. et Tuyama ex Ohwi)

W. T. Wang et P. K. Hsiao

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

矮小な多年草。高さ5~20 cm。根茎は短く這い、大きな鱗片をややまばらにつける。茎葉は2個対生し、頂小葉は広菱状卵形、長さ0.4~1.5 cm、あらい鋸歯がある。花期は4~5月。花は径6~10 mm、萼片は白色で、開出またはやや開出する。近縁種のツルシロカネソウは地中を横走する匍枝があり、花は径9~20 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県、神奈川県）に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の沢筋、自然林の林床に生育する。

4. 生育状況

伊豆、東部、西部に点在し、群生地もある。

5. 減少の主要因と脅威

生育地である山林の伐採(11)が脅威である。

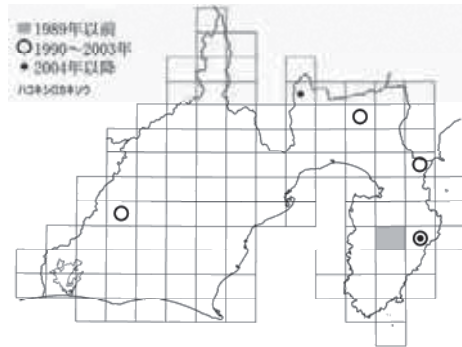
6. 保護対策

生育地である山林の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



伊豆市 2001年5月4日 内藤宇佐彦



ミスミソウ *Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai

(=ユキワリソウ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

常緑多年草。高さ5~15 cm。根出葉は束生し長柄がある。葉身は広三角形で3中裂し裂片は尖頭。花のすぐ下に3枚の茎葉がある。花期は2月中旬~3月。花は径1~2 cm、花弁はなく、萼片は6~10個で花弁状、静岡県では白色である。

2. 分布

日本固有変種で、本州（関東地方以西）、四国、九州（福岡県）に分布する。県内では北部を除き全域に分布する。

3. 生育環境

落葉広葉樹林の林床に生育する。

4. 生育状況

富士宮市、浜松市などに生育する。生育地での個体数は少なく、減少傾向が著しい。

5. 減少の主要因と脅威

雑木林の管理放棄(53)による遷移進行、雑木林の消失(11)や園芸採取(41)が減少の要因と考えられる。

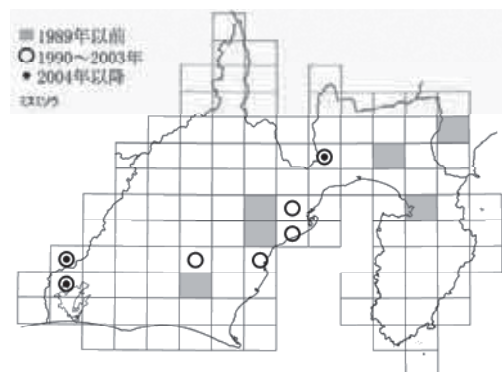
6. 保護対策

自生地の保護と園芸採取や観察者の踏み荒らしを防ぐために産地情報の管理が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2013年2月23日 宮崎一夫



ミシマバイカモ *Ranunculus nipponicus* Nakai var. *japonicus* (Nakai) H. Hara

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

沈水性の常緑多年草。茎は2 mほど。沈水葉の葉身は扇形あるいはボンボリ状で長さ0.5~5 cm、3回3出し、幅0.5 mmの糸状裂片に分かれる。浮葉は広倒卵形、長さ0.5~1 cm、3中裂する。花期は5~11月。花は葉腋から単生し、水面または水上に白色の径5~15 mmの花をつける。花弁は5個、広倒卵形で白色。

和名は三島市に由来する。現在、イチョウバイカモ、オオイチョウバイカモとともに1つの変種にまとめられている。

2. 分布

日本固有変種で、国内では北海道(千歳川)、本州(長野県、静岡県)に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

河川や湖沼の湧き水の流水中に沈水して生える。花と浮葉は水面にも出る。茎は千切れて流下する。

4. 生育状況

産地に限られており、県内では柿田川上流部の湧水付近に多く見られる。

5. 減少の主要因と脅威

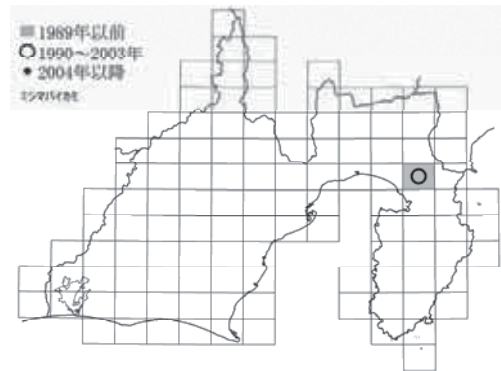
湧水減少(71)と水質汚濁(31)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地への立ち入り禁止、水質汚濁防止などにより、保全には万全を期したい。栽培による保全が図られている。(湯浅保雄)



清水町 1998年10月29日 杉野孝雄



セツブンソウ *Eranthis pinnatifida* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さは5~20 cm。塊茎は球形で径0.8~1.5 cm。双子葉植物であるが、子葉は合着して1個である。根出葉は長柄があり単生し、五角状円形で長さ1~5 cm、3全裂する。茎葉は無柄で長さ2~2.5 cm。花期は2~3月。花は茎頂に単生して直径2~2.5 cm、横向きから上向きに開く。萼片はふつう5個あり広楕円形で長さ1~1.5 cm、花弁状に平開して白色。花弁はYの字形に2岐して、橙黄色の蜜腺となる。葯は紫色。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東地方以西)に分布する。県内では西部、東部に分布する。

3. 生育環境

低山や丘陵地の林縁や落葉樹林下の草地に生育する。石灰岩地を好む傾向がある。

4. 生育状況

産地は東部と西部にあるが少ない。産量は多い。

5. 減少の主要因と脅威

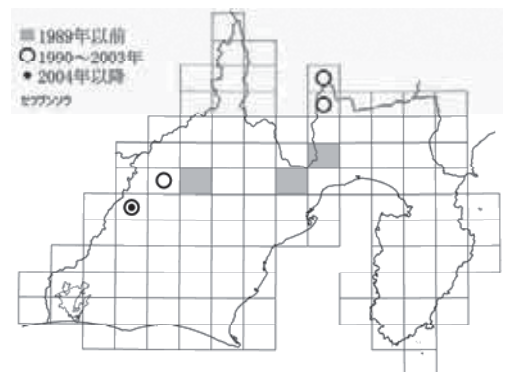
園芸目的の採取(41)が主要因である。撮影者による攪乱や踏圧(51)と植生遷移(54)も脅威である。

6. 保護対策

春一番に観賞できる価値の高い野生植物なので、生育地の保護管理をし、巡視により採取を防ぎたい。(宮崎一夫)



浜松市 2006年2月25日 宮崎一夫



タマカラムツ *Thalictrum watanabei* Yatabe

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~30 cm。根は球形から紡錘形に肥厚する。葉は2回3出複葉、小葉は広卵形で長さ1~3 cm、3浅裂する。花期は5~9月。花序は散房状から複散房状。花には花弁はなく、萼片は倒卵形で長さ2~3 mm、白色で早落性。葯も白色。瘦果は3~6個、長さ3~4 mmで紡錘形、扁平で3脈がある。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県、近畿)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は北東限自生地である。

3. 生育環境

冷温帯の落葉広葉樹林内の地上や湿った岩上に生育する。

4. 生育状況

産地は限られているが、個体数は少なくない。

5. 減少の主要因と脅威

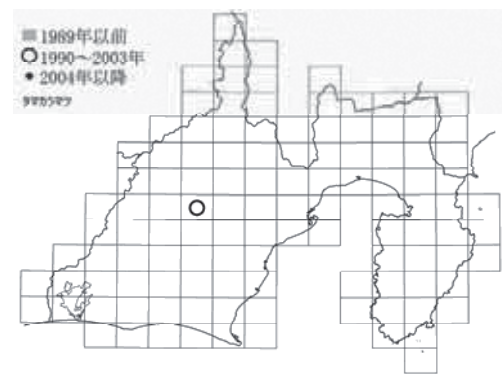
生育地の山林伐採(11)による環境変化と登山路整備(24)による生育地の破壊が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地の森林の保全と踏みつけ防止が必要である。
(湯浅保雄)



浜松市 1997年7月20日 杉野孝雄



フッキソウ *Pachysandra terminalis* Siebold et Zucc.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ツゲ科 Buxaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

常緑矮小低木。高さ5~20 cm。茎の下部は根茎状に這い上部は立つ。葉は互生して枝先に集り、菱状卵形で長さ3~8 cm、上部に粗鋸歯がある。花期は3~5月。花穂は茎頂に直立し、上部は雄花がつき、下部に雌花がつく。雄花は4個の花糸が白く太く目立つ。雌花は2個の花柱が白く目立ち外曲する。石果は卵球形で長さ1.5 cm、白熟し花柱が残存する。

2. 分布

国外では中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯山地の林床や林縁に生育する。神社の森に見られるものは植栽個体と思われる。

4. 生育状況

産地は東部に点在するが少ない。産量も少ない。樹冠の被陰により生育が悪化している。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)が主要因である。

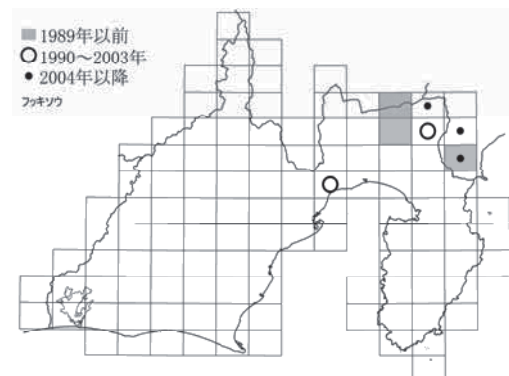
6. 保護対策

伐採を避けて生育地を保全する。

(宮崎一夫)



三島市 2018年3月29日 室伏幸一



コウヤミズキ *Corylopsis gotoana* Makino

(=ミヤマトサミズキ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

マンサク科 Hamamelidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さ2~5 m。葉は広卵形で基部は心形、長さ5~11 cm。花期は3月末~4月。花序は3~4 cmで下垂し、花が3~10個つく。花弁は黄色で狭倒卵形、長さ9~11 mm。雄蕊は花弁と同長で葯は赤色である。蒴果は球形で径7~8 mm、無毛。

2. 分布

日本固有種で、本州(山梨県西部、長野県南東部、静岡県以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい崖地に生育する。

4. 生育状況

浜松市に生育する。産地は限られていて個体数は少ない。現存する生育地でも被陰や、伐採で減少傾向が著しい。

5. 減少の主要因と脅威

農地造成(23)、自然林の伐採(11)、遷移の進行(54)による被陰が減少の要因である。

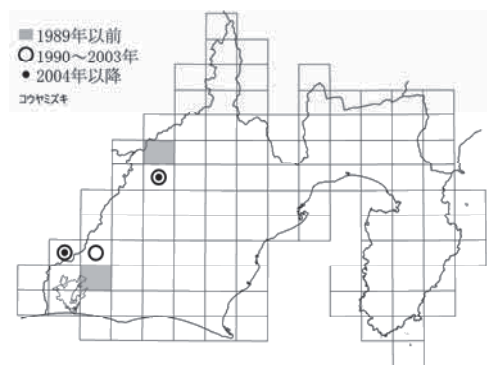
6. 保護対策

産地の限られた植物であり、生育環境に配慮した保護を図りたい。

(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito
浜松市 2016年3月21日 内藤宇佐彦



ヤシャビシヤク *Ribes ambiguum* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

スグリ科 Grossulariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

落葉小低木。高さ20~50 cm。樹幹の股に着生し、幹は曲がって分枝する。葉は互生して短枝の先に束生する。葉柄は短毛を密生し、葉身は腎円形で長さ3~5 cm、基部は深心形で3~5浅裂する。花期は4~5月。花柄は関節があり2個の小苞が対生する。花は両生で短枝に1~2個つく。萼は淡緑白色で5深裂し、萼片は花弁のように見える。花弁は萼裂片より小さく緑色または赤紫色で直立する。液果は緑色の球形で長さ7~12 mm、刺毛が密生する。近縁種のザリコミは地生である。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地のブナやミズナラに着生し生育する。

4. 生育状況

産地は広く各地にある。産量は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

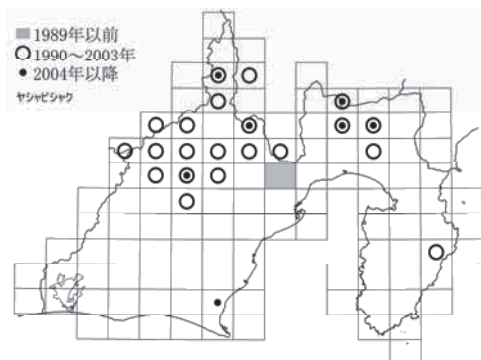
森林伐採(11)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

巨木は伐採しないで保全措置をとる。(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
富士宮市 2014年5月21日 宮崎一夫



ヤブサンザシ *Ribes fasciculatum* Siebold et Zucc.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

スグリ科 Grossulariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さ1 m程度。下部からよく分枝する。葉は広卵形、先は円形で長さ2~6 cm、掌状に3~5浅・中裂する。花期は4~5月。雌雄異株。花は束状に側生し、萼片は黄緑色で花弁のように見える。花弁はへら形、長さ0.5 mm。腋果は球形、径7~8 mmで赤く熟す。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

2次林内や岩礫地に生育する。石灰岩地にも生育する。

4. 生育状況

浜松市北区に生育する。個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

県内では生育できる環境が少ない。植生の遷移(54)や石灰岩の採石(17)などで個体数が減少した。また林道拡幅工事(24)での生育地消失の危険性も指摘される。

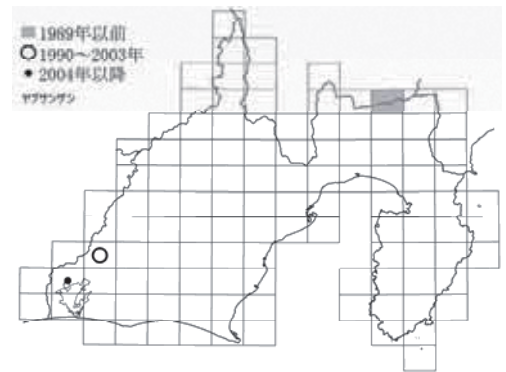
6. 保護対策

生育地の保護と被陰を避けるために付近の他の植物の間伐などが必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito
浜松市 2017年4月14日 内藤宇佐彦



ヒトツバショウマ *Astilbe simplicifolia* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ユキノシタ科 Saxifragaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~30 cm。根茎は短く径1 cmで根出葉を束生する。根出葉は長い柄をもつ単葉である、葉身は広卵~狭卵形で、しばしば3浅裂する。長さ3~8 cm、幅2~5 cm。花期は6~8月。花茎はまばらに枝を分ける円錐花序で、白い小さな花を多数つける。花弁は線形で長さ約2.5 mm。雄蕊10本、雌蕊は2個。花軸や花柄には腺毛がある。

2. 分布

日本固有種で、本州(神奈川県、静岡県)に分布する。県内では伊豆、東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から暖温帯の溪流沿いの湿った岩壁。

4. 生育状況

愛鷹山麓には比較的多く見られるが、減少傾向にある。他の産地の情報はえられていない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)が減少の主要因である。

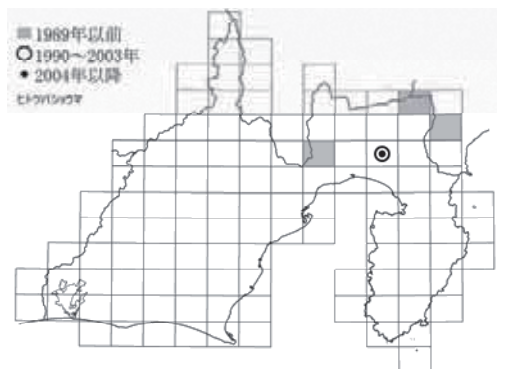
6. 保護対策

産地が限られた希少な植物であることを周知させて、園芸採取を防ぐこと。

(湯浅保雄)



©2020 K.Murofushi
富士市 2019年7月15日 室伏幸一



マツノハマンネグサ *Sedum hakonense* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ベンケイソウ科 Crassulaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。茎は基部で分枝し、有花茎と無花茎を密生する。有花茎は長さ5~10 cmで濃紅紫色を帯びる。葉は対生し線形で肉質。長さ1~2.5 cm、幅1~3 mm。花期は7~8月。枝先の集散花序に濃黄色の花を多数つける。花は4数性で萼、花弁は各4個、雄蕊8本、心皮は4個で果時に斜めに開く。

2. 分布

日本固有種で、本州（埼玉県、神奈川県、山梨県、静岡県）に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯のブナなどの樹幹に苔とともに着生する。

4. 生育状況

県内の広い範囲に分布するが、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

天然林の伐採 (11) や園芸採取 (41) が減少の主要因である。

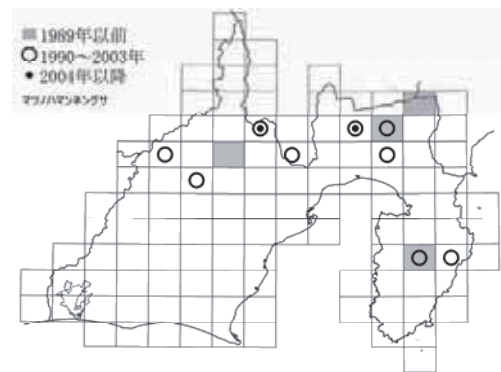
6. 保護対策

天然林の伐採を抑制し、生育環境を保全すること。

(湯浅保雄)



静岡市 1995年7月26日 杉野孝雄



ミヤマトベラ *Euchresta japonica* Hook. f. ex Maxim.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

マメ科 Fabaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

常緑半低木。高さ30~60 cm。若い茎は緑色で短毛を密生、後に無毛となる。葉は革質で3小葉からなる。小葉は楕円形で長さ5~9 cm、幅3~5 cm、裏面に伏した短毛を密生する。花期は6~7月。長さ4~15 cmの総状花序に長さ1 cmほどの白色の花を多数つける。果実は楕円形で長さ12~15 cm、幅8~10 mm。黒紫色に熟す。種子は1個。

2. 分布

国外では中国、韓国に、国内では本州（茨城県以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

肥沃な林内や谷筋の崩落土壌のところ。

4. 生育状況

個体数は少ないが、まだ伊豆地域にはみられる。西部地域の自生地は前回 (2004年) 調査時にも今回も確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採 (11) と植林が減少の主要因である。また、シカによる食害 (52-1) も脅威である。

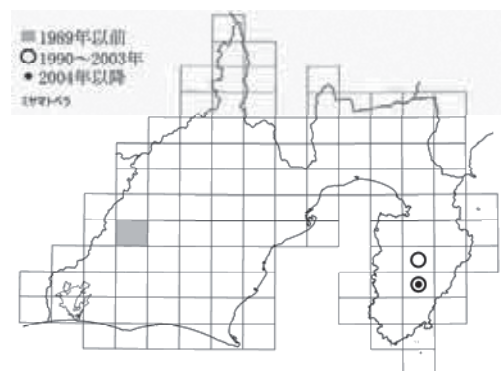
6. 保護対策

生育地では環境に変化を与えないよう森林伐採には十分注意すること。

(湯浅保雄)



河津町 2003年1月19日 杉野孝雄



レンリソウ *Lathyrus quinquenervius* (Miq.) Litv.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

マメ科 Fabaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 80 cm になる。茎は 3 稜形で 2 枚の翼がある。小葉は 2~6 枚、線状狭楕円形で尖り、長さ 4~10 cm、先端に分岐しない巻きひげがある。花期は 5~6 月。花は紫色で、長さ 1.5~2 cm、総状花序に 4~8 個つく。豆果は広線形で長さ 3~4.5 cm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア（シベリア東部、アムール、ウスリー）に、国内では本州、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

湿った草地に生育する。

4. 生育状況

富士山麓と天竜川流域などに産地は限られている。生育地での個体数は少ない。西部の産地では、堤防の草地に小群落が点在し生育している。

5. 減少の主要因と脅威

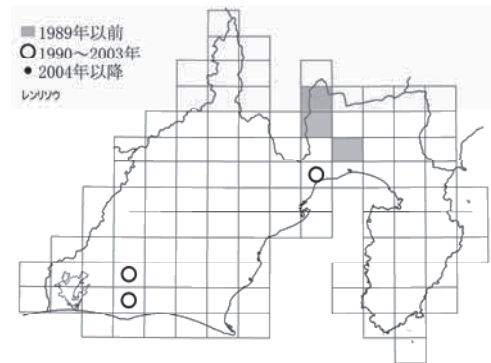
生育地の堤防の改修 (13) や管理不足 (53) による草地の消失が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地の保護と定期的な草刈りなどによる草地の保全が必要である。
(内藤宇佐彦)



磐田市 1999年5月15日 内藤宇佐彦



クサフジ *Vicia cracca* L.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件) 変更なし

マメ科 Fabaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。茎はつる状で長さ 150 cm に達する。葉は長さ 8~15 cm で、先端は分枝する巻きひげとなる。小葉は 18~24 枚。狭卵形で長さ 15~30 mm。花期は 5~9 月。花は青紫色で長さ 10~12 mm。総状花序に一方に向けて密につく。豆果は長さ 2~3 cm、種子は長さ約 3 mm で 5 個ほど入っている。類似のツルフジバカマの小葉は 10~16 枚と少なく、花は紅紫色である。

2. 分布

国外では北半球の冷温帯から亜寒帯域に、国内では南千島、北海道、本州、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯~亜寒帯の日当たりのよい草原や林縁に生育する。

4. 生育状況

富士山西麓の朝霧高原などに生育するが、個体数は少なく、今回の調査では確認することはできなかった。

5. 減少の主要因と脅威

生育環境である草原の減少 (16) と草原の植生遷移 (54) が減少の主要因である。

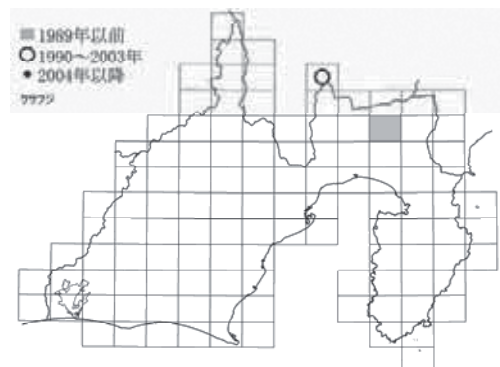
6. 保護対策

草原の維持管理によって生育環境を保全すること。

(湯浅保雄)



岐阜県 2015年8月23日 室伏幸一



ヒナノカンザシ *Salomonina ciliata* (L.) DC.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件①②) 変更なし

ヒメハギ科 Polygalaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。高さ6~25 cm。茎は細く直立し、葉はまばらに互生し、茎の基部につくものを除いて狭楕円~狭卵形、長さ3~8 mm。花期は8~9月。花は紫色を帯び、長さ1~2 mmで、細長い穂状花序につく。蒴果は扁平で腎形、径2 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島南部、台湾、中国、東南アジア、ミャンマー、ネパール、インド、スリランカ、ニューギニア、オーストラリアに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。

4. 生育状況

浜名湖周辺や小笠山周辺の湿地に広く生育していた。生育地である湿地の消滅で減少している。生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

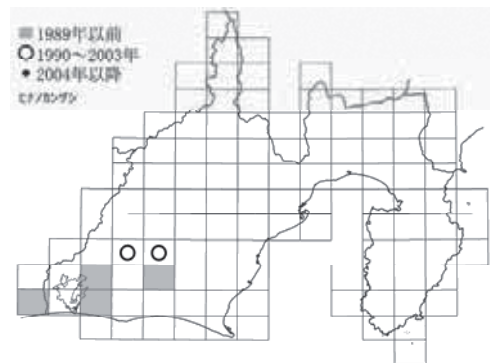
丘陵地の開発による生育地の消失(23)が主要因である。

6. 保護対策

湿地を周辺部(湧水源)まで含めて保護することや、植生の遷移を抑制する適切な管理が重要である。(内藤宇佐彦)



浜松市 1996年8月31日 内藤宇佐彦



キンロバイ *Dasiphora fruticosa* (L.) Rydb. var. *fruticosa*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件①②③) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

落葉小低木。高さ30~100 cm。幹はよく分枝して広がる。葉は3小葉または5小葉。小葉は全縁の楕円形で長さ1~2 cm、若い時には両面に長毛がある。葉柄は細く有毛で長さ5~20 mm。花期は6~8月。萼片は三角状卵形で長さ5~7 mm。花は径2~2.5 cm。花弁は円形の全縁で黄色。花弁が白色のハクロバイまたはギンロバイも同じ扱いである。

2. 分布

国外ではサハリン、千島、朝鮮半島、中国、ヒマラヤに、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯から高山帯の蛇紋岩、石灰岩地で日当たりがよく、他の木本類の侵入が困難な岩礫地に生育する。

4. 生育状況

産地が局所的である。産量はそれほど多くない。生育範囲は狭い。

5. 減少の主要因と脅威

自然遷移(54)と園芸目的の採取(41)が脅威である。

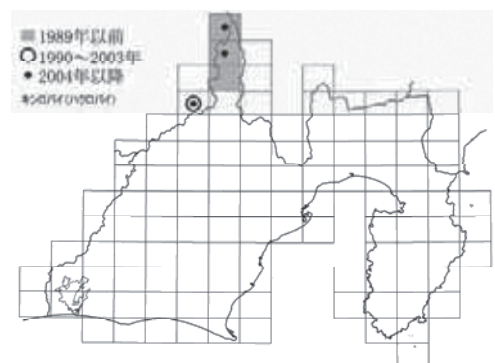
6. 保護対策

「静岡県指定希少野生動植物」に指定されている。

(宮崎一夫)



山梨県 2012年8月4日 山崎由晴



ウラジロキンバイ *Potentilla nivea* L. var. *camtschatica* Cham. et Schltdl.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ7~20 cm。根は太い。根出葉は束生し3出複葉で、表面は緑色で裏面は白綿毛が密生して白色である。小葉は広卵形で長さ10~35 mm、鋸歯がある。花期は7~8月。花序は1~5個花を集散状につける。花柄は細く長さ2~5 cm、白綿毛に覆われる。萼片は広披針形で長さ3~5 mm。花は径1.5~2 cm。花弁は5個あり黄色。近似種のミヤマキンバイは葉の両面が緑色である。

2. 分布

国外では北半球の亜寒帯と高山帯に、国内では北海道、本州(中部地方)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩上や岩礫の多い寒冷な風衝地に生育する。

4. 生育状況

2メッシュで生育している。産地は南アルプスの北部に多い。株数は少なく点在する。

5. 減少の主要因と脅威

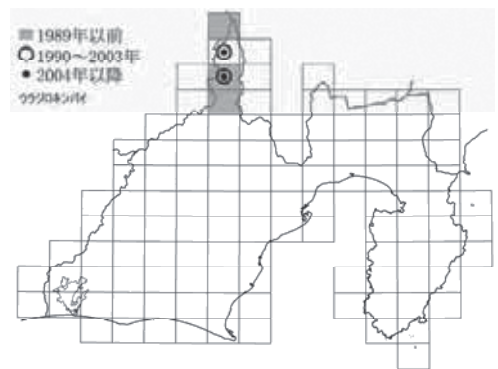
植生遷移(54)や岩塊の崩壊(55)が主要因である。登山者による踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

登山道を指定して踏圧の脅威をなくす。(宮崎一夫)



静岡市 2016年7月29日 宮崎一夫



ミヤマワレモコウ *Sanguisorba longifolia* Bertol.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード7

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリ なし : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ50~100 cm。ワレモコウとナガボノワレモコウとの中間的な形態の植物である。ワレモコウより花序が長いがナガボノワレモコウのように垂れ下らない。また雄蕊は萼より少し長いがナガボノワレモコウほどではない。花期は8~10月。花序は暗赤褐色。

2004年版では湖西市の産地のものはナガボノワレモコウとされたが、その後の研究で本種とされた。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では北海道(南部)、本州(中部)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の湿った草地に生育する。

4. 生育状況

湖西市に生育する。個体数は少ない。最近ため池の改修で激減した。

5. 減少の主要因と脅威

水田の再整備(15)やため池の改修(12)で生育地が消失する危険性が高い。植生の遷移進行(54)で草地環境が悪化している。

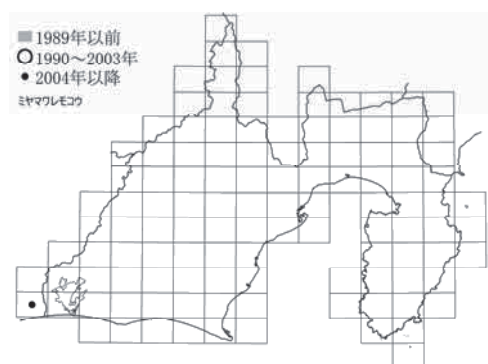
6. 保護対策

生育地の保護と草刈りなど草地の維持管理が必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2014年9月27日 内藤宇佐彦



ハコネグミ *Elaeagnus matsunoana* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

グミ科 Elaeagnaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

落葉小高木。新しい枝は、葉柄とともに淡黄褐色の鱗片に覆われ、さらに同色の星状毛を散生する。葉は薄く、楕円形で、長さ6.5~9 cm。表面は黄緑色ないし灰緑色で光沢がなく、秋まで残る淡黄褐色の星状毛が多い。裏面は銀色の鱗片を薄くしき、淡黄褐色の星状毛を散生する。花期は5~6月。花は葉腋に1個、花弁はなく、萼筒は長さ7.5~8 mmと大きい。

2. 分布

日本固有種で、本州（山梨県、神奈川県、静岡県）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯~冷温帯の落葉広葉樹林内や草地。

4. 生育状況

箱根外輪山と富士山の周辺に広く生育し、個体数はまだ比較的多い。

5. 減少の主要因と脅威

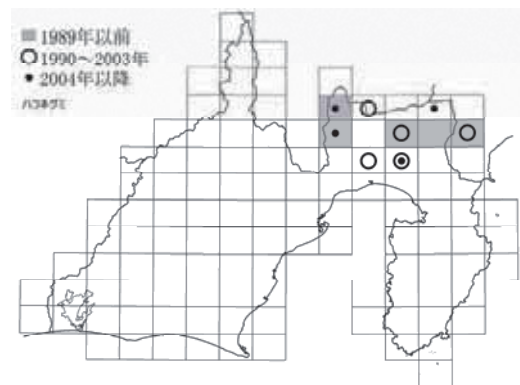
土地開発(23)や広葉樹林のスギ、ヒノキ林化(71)、植生の遷移(54)が減少の主要因である。

6. 保護対策

主要な生育環境である落葉広葉樹林を保全する必要がある。
(湯浅保雄)



富士宮市 2011年5月14日 内藤宇佐彦



クロツバラ *Rhamnus davurica* Pall. var. *nipponica* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

クロウメモドキ科 Rhamnaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

落葉低木または小高木。高さ4~5 m。長枝の先は刺となる。葉は対生またはやや対生し、狭長楕円形または線状長楕円形。長さ5~12 cm、幅2~4 cm。雌雄異株。花期は5~6月。花は新しい枝の下部の葉腋につく。花は黄緑色で径4~5 mm。4数性。雌花の花冠は発達が悪い。果実は球形で径8 mmほど。熟すと黒色となる。ふつう2個の分核がある。

2. 分布

日本固有変種で、本州（中北部）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯の山地や高原。

4. 生育状況

東部の比較的広い範囲に分布するが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

山林の開発(23)と人工林化(71)及び高原の減少(16)が減少の主要因である。

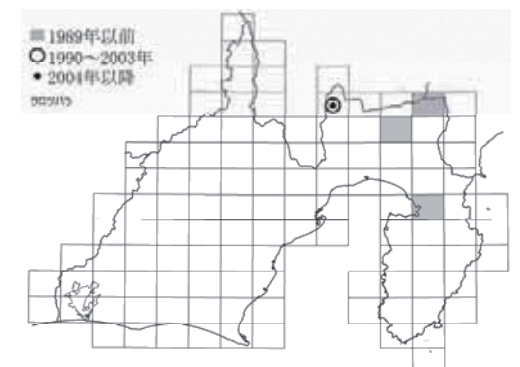
6. 保護対策

生育草原の維持管理と広葉樹林の保存。

(湯浅保雄)



富士宮市 2015年7月11日 湯浅保雄



ジゾウカンバ *Betula globispica* Shirai

(=イヌブシ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-②) 変更なし

カバノキ科 Betulaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉高木。高さ10~15 m。樹皮は灰白色で表皮が薄く横にはがれる。葉は長枝に互生し、短枝に2枚ずつつく。葉身は広卵形、長さ4~7 cm。先端は短鋭尖形、基部は円形から浅心形。裏面葉脈上に白色長毛が残る。花期は5月頃。前年の秋に長枝の先端付近に形成されていた雄花序は、開葉とともに開花し、雌花序は新しい短い枝の先につく。果穂は10月頃に熟し、球形から楕円形で長さ2.5~4 cm。

2. 分布

日本固有種で、本州(栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、山梨県、長野県)に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の山地で日当たりのよい尾根などに生育する。

4. 生育状況

前回(2004年)調査時からほとんど変化していない。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)が減少の主要因である。

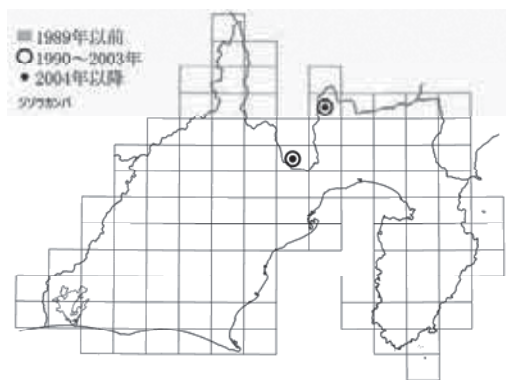
6. 保護対策

生育地の森林所有者に、その存在と貴重性を周知させること。

(湯浅保雄)



静岡市 2004年10月27日 加藤 徹



シラヒゲソウ *Parnassia foliosa* Hook. f. et Thoms. var. *foliosa*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ニシキギ科 Celastraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ15~30 cm。根出葉は広卵形で長さ1.5~4 cm、長い柄がある。数個の無柄の茎葉が段になってつく。花期は8~9月。花は径2~2.5 cm、白色で花弁の縁が糸状に深く切れ込む。仮雄蕊は3裂して、先端に腺体がある。蒴果は長さ6~7 mm。

2. 分布

国外では中国西部、インド北部に、国内では本州(関東以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

山地の溪流の岩壁に生育する。

4. 生育状況

愛鷹山、箱根外輪山、安倍大滝などに生育する。生育地の個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)が減少の主要因である。生育地の環境も悪化している。

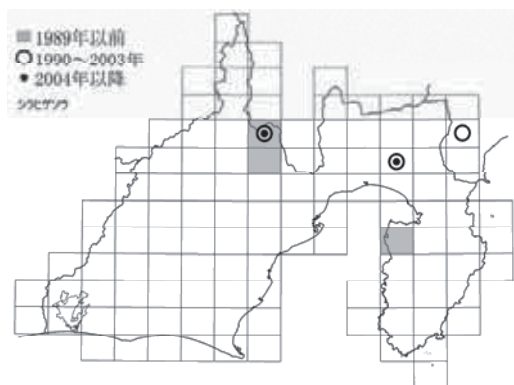
6. 保護対策

生育地の水源部の保全と園芸採取を防ぐ対策が必要である。

(西口紀雄)



長泉町 2013年9月22日 内藤宇佐彦



ノウルシ *Euphorbia adenochlora* C. Morren et Decne.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

トウダイグサ科 Euphorbiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~60 cm。切ると白い乳液を出す。茎頂に 5 枚の葉をつけ、各葉腋から 5 本の枝を出す。花期は 4~5 月。花序の下の苞葉が黄色く色づき、花弁のように見える。腺体は円頭で黄色に色づく。蒴果は球状で長さ約 5 mm 幅約 7 mm。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地や河岸の湿地に生育する。

4. 生育状況

東部の浮島沼では個体数は多い。西部では少ない。地下茎により増殖し群生する。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の植生遷移 (54)、開発や土地造成 (23) により多くの生育地が消失した。

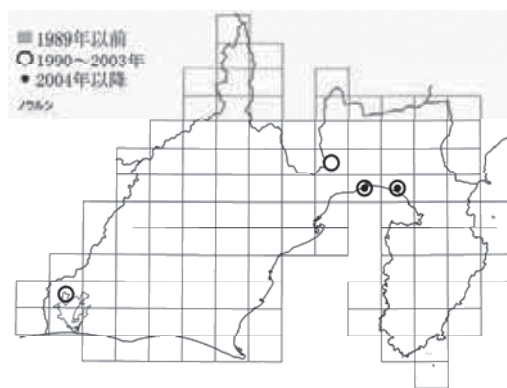
6. 保護対策

東部の生育地では、一部の地域が自治体により保全されている。現存する湿地の保護が必要である。ヨシなどの高茎草本の草刈りなどの管理も必要である。

(西口紀雄)



富士市 2005年4月30日 宮崎一夫



コマイワヤナギ *Salix rupifraga* Koidz.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ヤナギ科 Salicaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

落葉小低木。雌雄異株。当年性の枝はふつう白い絹毛状綿毛で密生する。葉は長楕円形で長さ 6~10 cm、幅 2~3 cm。成葉の裏面は灰青色で白色の伏長軟毛がある。花期は 5 月。雄花穂は 2.5~4.5 cm。雌花穂は長さ 1.7~2.5 cm で、花序軸が見えないほど密に花をつける。類似のシバヤナギの葉裏は、はじめ白絹毛があるが後に無毛、雄花穂は 3~9 cm。雌花穂は 4 cm で花序軸が見える。本種との誤認も多いと思われる。標本があれば検証する必要がある。

2. 分布

日本固有種で、本州 (群馬県、山梨県、長野県、静岡県) に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から亜寒帯の林縁や岩上、河川沿いや道沿いの崖地など。

4. 生育状況

前回 (2004 年) の調査では、東部の愛鷹山、天子山地、中部の安倍川上流、大井川上流などで記録されているが、今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

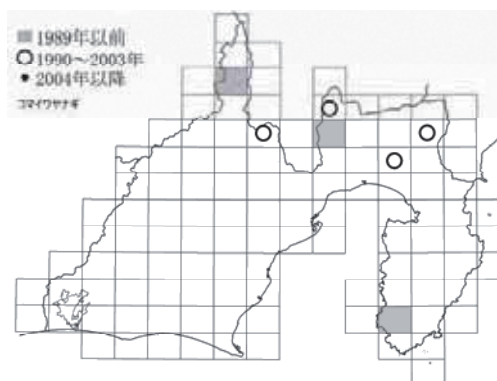
山林伐採 (11)、河川整備 (13)、道路工事 (24) が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育地を破壊しないような対策を立てること。(湯浅保雄)



長野県 2019年6月18日 室伏幸一



サクラスミレ *Viola hirtipes* S. Moore

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

スミレ科 Violaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ8~15 cm、無茎種。地下茎はない。葉身は表面が暗紫色で裏面はしばしば紫色を帯び、長楕円形で長さ3~6 cm、果期の葉は大きく、長さ5~15 cmになる。葉柄と花柄に開出毛が目立つ。花期は4~5月。花は淡紅紫色、径約2.5 cm。花弁の長さ15~20 mm。側弁の基部は有毛。

葉脈に紅紫褐色の斑の入るのは品種チシオスミレという。

2. 分布

国外では中国東北部、朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯の草地に生育する。

4. 生育状況

過去には県内に広く分布していたが、今回の調査では東部と伊豆の5ヶ所ではしか確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

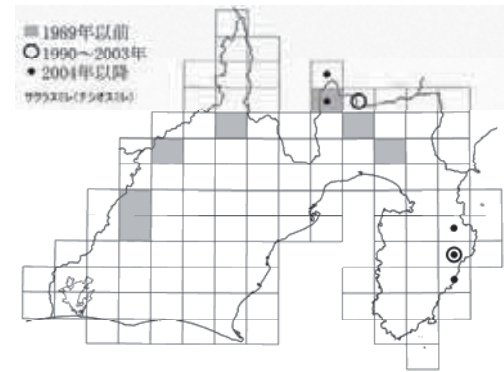
草原の消失(16)による生育地の減少と園芸採取(41)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育している草地を維持管理すること。(湯浅保雄)



富士宮市 2015年5月17日 宮崎一夫



キスミレ *Viola orientalis* (Maxim.) W. Becker

(=イチゲキスミレ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

スミレ科 Violaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ5~15 cm。地下茎は短くて直立する。根出葉は1~2個あり心形で長さ2.5~4 cm。茎葉は上部に2個が接近してつく。花期は3~5月。スミレ属の花弁は上弁2、側弁2、唇弁1の5枚あり、本種は黄色で唇弁が小さく、距がある。花弁は長さ12~15 mm。側弁は基部に毛束がある。柱頭の先はふくれ両側に毛がある。近縁種のオオバキスミレは萼片の付属体が目立たない。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシアに、国内では本州(山梨県以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布しており、静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

暖温帯の丘陵や高原で疎林内やササ原、草地に生育する。

4. 生育状況

産地は多い。東部と中部に現存するが、減少した。産量は多い地点もあるが、概して少ない。

5. 減少の主要因と脅威

草地の消失(16)と植生遷移(54)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

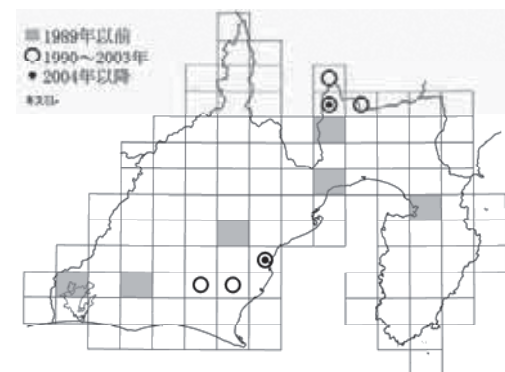
6. 保護対策

植生遷移を抑制する為に野焼きも有効である。

(宮崎一夫)



富士宮市 2008年5月30日 宮崎一夫



アサマフウロ *Geranium soboliferum* Kom. var. *hakusanense* (Matsum.) Kitag.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

フウソウ科 Geraniaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~100 cm。茎と葉柄に下向伏毛がある。葉は掌状に深く 5 深裂して、裂片は更に 3 裂して、小片は細まる。葉表に微毛がある。托葉は草質で合生する。花期は 8~9 月。花は直径 3~4 cm、濃赤紫色。花弁に濃色の腋が目立つ。花柄に下向圧伏毛がある。雌蕊は長さ 10 mm、5 深裂する。小花柄は果時にも直立する。近縁種のイヨフウロは花柄が果時に水平となり、ハクサンフウロは垂れる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州（関東地方、中部地方）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

高原の水湿地に生える。

4. 生育状況

産地は東部に局限している。産量は群生していたが減少傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

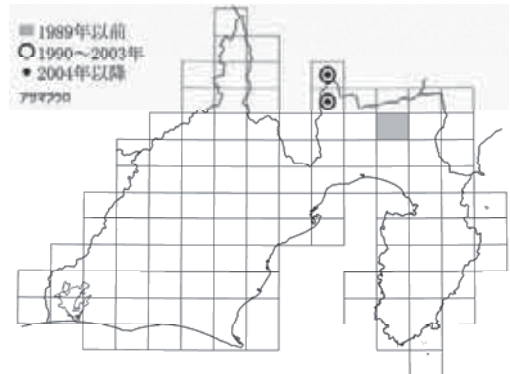
乾燥化が植生遷移 (54) を促進して、生育を阻害している。観察者や撮影者の踏圧 (51) も脅威である。

6. 保護対策

木道を敷設するなどして踏圧を回避する。(宮崎一夫)



富士宮市 2013年9月14日 宮崎一夫



トダイアカバナ *Epilobium platystigmatosum* C. B. Rob.

(=サイヨウアカバナ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-②) 変更コード 3, 4

アカバナ科 Onagraceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~70 cm。多く枝を分け、全面に曲がった毛がある。葉は線~披針形で縁に 3~8 対の細鋸歯がある。長さ 1~4.5 cm、幅 1~5 mm。花期は 8~9 月、花弁は淡紅色か白色、長さ 3~5 mm。柱頭は太い棍棒状あるいは頭状。子房に腺毛はない。類似のホソバアカバナはほとんど枝分かれせず、葉は全縁。また子房に腺毛がある。

2. 分布

国外では韓国、台湾、中国南部、フィリピンに、国内では本州（神奈川県以西）、四国、九州（宮崎県）に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

温帯の湿った所や砂質の裸地に生える。

4. 生育状況

場所によっては、相当の本数が高密度で生育しているが、他の植物の繁茂により徐々に減少している。最近、県内に生育することが明らかになった。

5. 減少の主要因と脅威

道路工事 (24)、河川改修工事 (13)、開発工事 (23)、植生遷移 (54) が減少の主要因である。

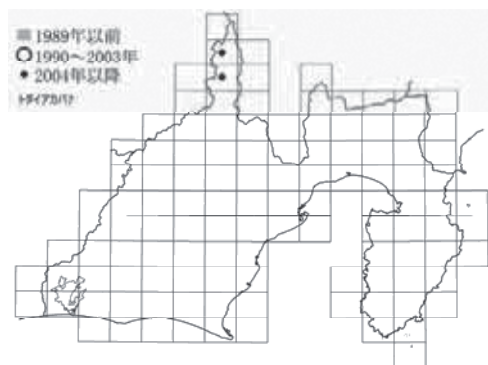
6. 保護対策

生育地では、現環境を維持するようにすること。

(湯浅保雄)



静岡市 2016年8月26日 湯浅保雄



チョウセンナニワズ *Daphne koreana* Nakai

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ジンチョウゲ科 Thymelaeaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

落葉小低木。高さ0.5~1.5 m。茎は分枝し汚灰茶色。葉は帯黄緑色でやや薄く倒披針形で長さ5~13 cm、互生し晩秋に落葉して春に展葉する。側脈は7~9対。花期は3~5月。花は淡黄緑色で2~10個が集まって葉腋につく。液果は楕円形で長さ8 mm、5~7月に赤熟する。近縁種のオニシバリは葉が秋に展葉して夏に落葉し、側脈が不明瞭である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、ロシア沿海州に、国内では本州（南アルプス~秩父武甲山）に分布する。県内では中部（南アルプス）、東部（富士山）に分布する。

3. 生育環境

温帯深山の石灰岩地帯の岩崖地や岩礫地に生育する。

4. 生育状況

産地、産量は少ない。開花株も少なく生育も悪い。特異な地質に生育する植物なので、開発の影響を受けやすい。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採 (11)、採石 (17)、林道拡幅工事 (24) が主要因である。岩塊や礫地の自然崩壊 (55) も脅威である。

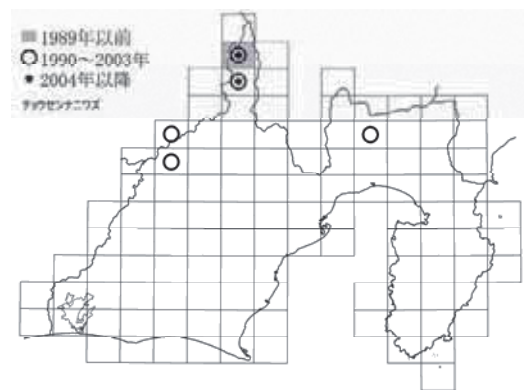
6. 保護対策

石灰岩地の森林伐採や林道工事に際しては注意が必要である。また石灰岩を採石しないで保全する。

(宮崎一夫)



静岡市 2018年8月25日 湯浅保雄



エゾハタザオ *Catolobus pendula* (L.) Al-Shehbaz

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

アブラナ科 Brassicaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

越年草。高さ20~120 cm。茎は直立して上部で枝を分ける。葉は長楕円状披針形で長さ3~12 cm、基部は茎をやや抱く。花期は6~8月。白色の花をつける。花弁は長さ3.5~5 mm。総状花序は果時にまばらになり、長角果は線形で長さ4.5~10 cm、細長く垂れ下がる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、モンゴル、ロシア、ヨーロッパに、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の林縁や林内に生育する。

4. 生育状況

浜松市天竜区に生育する。生育地は限られている。個体数も少ない。温帯性の植物であり、隣県の長野県では少ないものではない。

5. 減少の主要因と脅威

道路建設や整備 (24) で自生地の消失が懸念される。

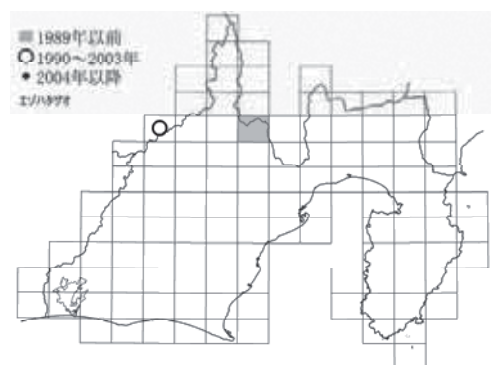
6. 保護対策

産地の限られた植物であり、生育環境に配慮した保護を図りたい。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1996年8月16日 内藤宇佐彦



クモマナズナ *Draba sakuraii* Makino var. *nipponica* (Makino) Takeda

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

アブラナ科 Brassicaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ9~15 cm。茎は株状。根出葉はへら状線形から倒披針形、深い鋸歯縁。表面に光沢があり、両面には星状毛が生えている。長さ5~17 mm、幅2~8 mm。花期は6~7月。花弁は白色で長さ約6 mm。先は凹形。短角果は長さ6~10 mm。広線形でややねじれる。種子は長さ約1.5 mmで、短い尾状の突起がある。

2. 分布

日本固有変種で、本州中部に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。南アルプスは南限の自生地。

3. 生育環境

高山の岩上。

4. 生育状況

南アルプスに生育するが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育環境の変化 (71) が減少の主要因と考えられる。

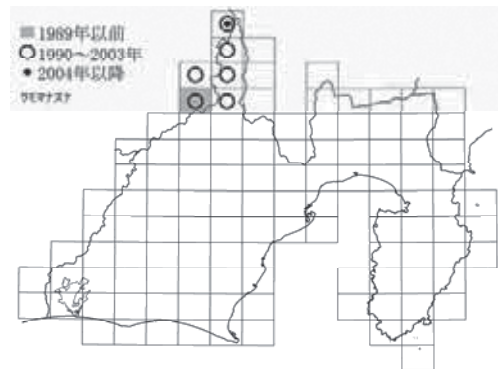
6. 保護対策

登山路以外には立ち入らないようにし、生育環境の保護と踏みつけを防ぐこと。

(湯浅保雄)



静岡市 2005年7月17日 加藤 徹



ミヤマツチトリモチ *Balanophora nipponica* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ツチトリモチ科 Balanophoraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。全寄生植物。高さ5~15 cm。地下部分は寄主の根に接合してこぶ状球形に肥大する。花期は7~8月。雌雄異株で雄株は発見されていない。成長して大きくなったこぶから地上に花茎を出す。花穂は長楕円体で表面は粒状の倒卵円体で覆われ、その下に雌花がある。橙赤~橙黄色で色の変化が多い。近縁種のツチトリモチは県内では確認されていないが、ハイノキ科の樹木を寄主として花穂は同形であるが赤色である。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では西部、中部、東部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

温帯の落葉樹林下でコミネカエデなどを寄主とする。

4. 生育状況

産地は毎年発生するとは限らず、年による消長がある。産地では数株が散生することが多いが、数十株が群生していることもある。

5. 減少の主要因と脅威

落葉樹林の伐採 (11) が主要因である。針葉樹林が被陰となり寄主の生育が悪いこともある。

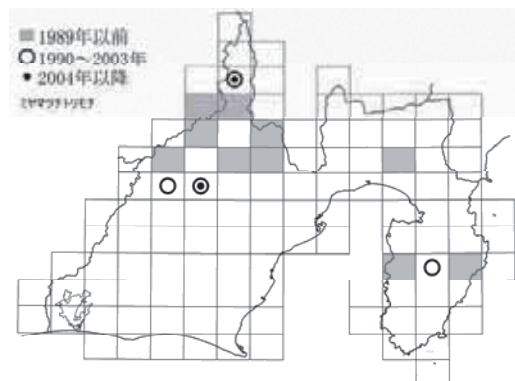
6. 保護対策

寄主である落葉樹林を伐採しない。

(宮崎一夫)



静岡市 2017年8月19日 加藤 徹



サイコクヌカボ *Persicaria foliosa* (H. Lindb.) Kitag.

var. *nikaii* (Makino) H. Hara

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード 9, 18

タデ科 Polygonaceae

[2004年版カテゴリー なし: 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ 30~80 cm。ヤナギヌカボに似る。托葉鞘の縁毛が長く托葉鞘とほぼ同長である。花期は 9~10 月。花序はやや長く先は垂れ、花がいつそうまばらにつく。瘦果は少し大きく、長さ 1.7~2.1 mm である。本変種は 2004 年度版ではヤナギヌカボに含めていたが、環境省版との整合性を図り、湖西市のものはサイコクヌカボとした。

2. 分布

国外では中国東部に、国内では本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地のため池の畔に生育する。

4. 生育状況

湖西市に生育する。最近では生育が確認できない。

5. 減少の主要因と脅威

ため池の改修 (12) や他の植物 (帰化種も含めて) との競合 (56) が指摘される。

6. 保護対策

生育地の競合する帰化植物などを除去することなど、生育環境の維持管理が必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 1996年9月21日 内藤宇佐彦



ヌカボタデ *Persicaria taquetii* (H. Lév.) Koidz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

タデ科 Polygonaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ 10~60 cm。茎の下部は地を這って多くの枝を分かち、上部は直立する。葉は無柄で質薄く、長披針形、両端は細まり、長さ 2~8 cm、幅 3~12 mm。両面に伏毛があり、裏面には腺点はない。花期は 7~11 月。枝先に痩せた偽総状花序を出し、まばらに紅色を帯びた小さな花をつける。花弁はなく、萼は 5 深裂する。

2. 分布

国外では中国東部、韓国（済州島）に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

水田などの多湿地や沼地に生育する。

4. 生育状況

現在、静岡市麻機遊水地など産地は限られるが、水田で除草剤散布をやめると、埋土種子から大発生することがある。

5. 減少の主要因と脅威

湿地や沼沢地の埋め立て (15, 12) と、水田での除草剤使用 (32) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育環境の湿地の保全と、水田での除草剤散布を止めること。

(湯浅保雄)



静岡市 2007年10月28日 栗山由佳子



イシモチソウ *Drosera peltata* Thunb. var. *nipponica* (Masam.) Ohwi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

モウセンゴケ科 Droseraceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。食虫植物。高さ10~30 cm。三日月形の葉をつけ、幅4~6 mm、葉の表面と縁に腺毛がある。葉柄は長さ10~15 mm。花期は5~6月。総状花序を出し、2~10花をつける。花弁は白色で長さ6~8 mm。蒴果はやや球形で長さ2.5 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、台湾に、国内では本州（関東以西）、四国、九州、琉球（西表島）に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。

4. 生育状況

かつては西部の西南部の丘陵地に豊富に生育していたが、丘陵地の開発により激減した。生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

住宅地・工場・農地などの土地造成 (23) による生育地の消失が激減の主要因である。

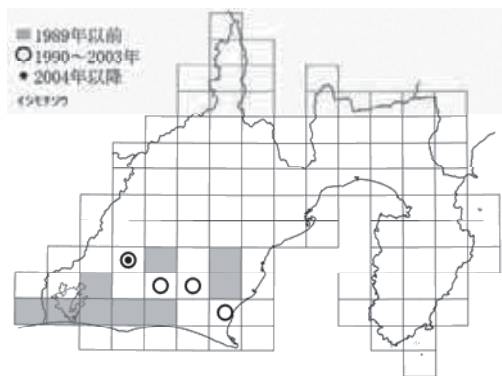
6. 保護対策

現存する生育地の保全が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1996年5月25日 内藤宇佐彦



オオピランジ *Silene keiskei* Miq. var. *keiskei*

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ナデシコ科 Caryophyllaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~50 cm。茎は立ち上がるか崖から垂れ下がる。葉は無柄で披針形、長さ2~5 cmで縁毛がある。花期は7~9月。花柄は長さ2~4.5 cm。花は2出集散花序状にまばらにつけ、萼は長卵形で長さ1~1.4 cm。花冠は径2~3.5 cm。花弁は紅紫色で2浅裂する。蒴果は狭楕円形で長さ約1 cm。近縁種のタカネピランジは花が単生する。

2. 分布

日本固有変種で、本州（中部地方）に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の岩場や崩壊地に生育する。

4. 生育状況

産地は中部の山地に限られている。産量は少ない。生育地は危険な場所であるが、採取により手近な範囲にはほとんど生えていない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取 (41) が主要因である。また生育地の自然崩壊 (55) も脅威である。

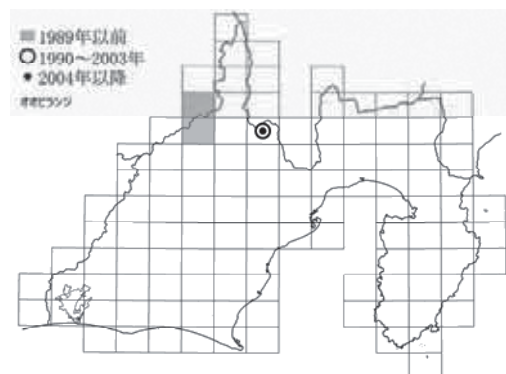
6. 保護対策

登山道を指定することによって、生育地に入らないようにする。

(宮崎一夫)



静岡市 2003年9月13日 加藤 徹



シコタンハコベ *Stellaria ruscifolia* Willd. ex Schldl.

(=ネムロハコベ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ナデシコ科 Caryophyllaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ3~15 cm。茎は叢生する。葉は無柄の長卵形で長さ1~3 cm、先は鋭尖しやや厚く緑白色で小油点がある。花期は7~8月。萼片は広披針形で長さ4~8 mm。花冠は3~6 cmの長柄あり白色で径約1.5 cm。花弁は萼の1.5~2倍長で2深裂する。花柱3~4個。近縁種のカンチャチハコベは花の径が約7 mm。

2. 分布

国外ではロシア(千島、サハリン、カムチャツカ半島)に、国内では北海道、本州中部に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布し、静岡県は南限自生地である。

3. 生育環境

高山の斜面下部付近で勾配の緩い岩礫地に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスに局限し、産量は斑状に群生している。

5. 減少の主要因と脅威

雪崩などによる岩礫の移動(55)と登山者の踏圧(51)が脅威である。

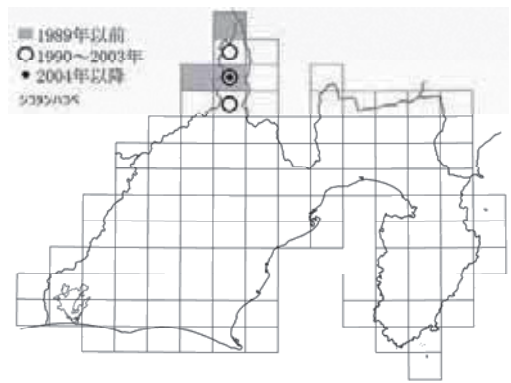
6. 保護対策

踏圧を軽減するために生育場所を避けて登山道を迂回整備する。

(宮崎一夫)



静岡市 2016年7月29日 宮崎一夫



エンシュウツリフネソウ *Impatiens hypophylla* Makino

var. *microhypophylla* (Nakai) H. Hara

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ツリフネソウ科 Balsaminaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

一年草。高さ30~80 cm。葉は披針形、互生。尖った歯牙がある。花序は葉のうら側に平行して先の方が垂れる。花はツリフネソウ形で淡紫色に暗紫点がある。長さ15~20 mm、前方に曲がる距がある。距は巻かない。花は7~9月。

2. 分布

日本固有変種で、本州(中部)、九州(大分県)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

温帯の溪流沿いや湿潤な林内の林道沿いに生育する。

4. 生育状況

水窪町の北部山地に点在し、群生地もある。

5. 減少の主要因と脅威

この仲間の減少の要因は、山林伐採(11)、河川開発(13)、林道や登山道の整備(24)などである。

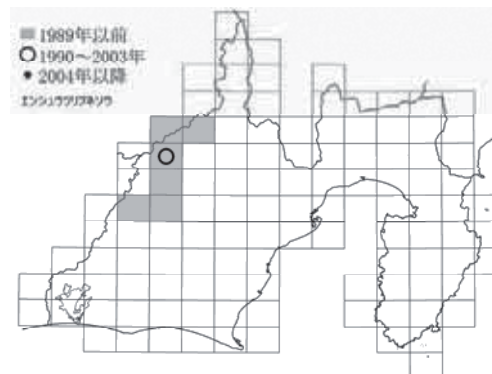
6. 保護対策

生育地での山林伐採や林道の整備は慎重に行いたい。

(西口紀雄)



浜松市 2003年9月28日 内藤宇佐彦



オオサクラソウ *Primula jesoana* Miq. var. *jesoana*

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~50 cm。根茎は短く横に這う。葉は円形で径 5~12 cm、縁は 7~9 中裂する。花期は 6~7 月。花柄は 1~1.2 cm で細毛がある。萼は筒形で長さ 6~10 mm。花は濃紅紫色で径 2 cm、4~8 個を 1~2 段の輪状につける。近縁種のイワザクラは葉径が 1.5~7 cm である。

2. 分布

日本固有変種で、北海道、本州に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布し、南限自生地である。

3. 生育環境

亜高山帯上位の谷筋の湿地に生育する。

4. 生育状況

産地は限定的であり、ごく一部でのみ確認されている。産量はそれほど多くはない。

5. 減少の主要因と脅威

登山者による踏圧 (51) が主要因である。林道整備、森林環境の遷移及び伐採 (11)、園芸採取 (41) による減少、シカの踏み荒らしなど (71) の影響も懸念される。

6. 保護対策

「静岡県指定希少野生動植物」。静岡市などにより防鹿柵が設置されているほか、環境省新宿御苑内に種子が保存され、保護増殖が図られている。登山道を木道にして踏圧の防止が望まれる。(山崎由晴・宮崎一夫)



静岡市 2017年7月22日 湯浅保雄



コイワザクラ *Primula reinii* Franch. et Sav. var. *reinii*

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 5~10 cm。葉は数個を束生し、葉身は円形で径 3~7 cm、基部は心形で縁は不規則に浅裂し、鋸歯は鈍く両面に軟毛がある。花期は 5 月。花は 1~5 個を散形につける。萼は長さ 6~8 mm、5 中裂して先端に硬点がある。花は紫紅色。花冠は高杯形で 5 中裂して、径 1.8~2.5 cm。蒴果は長楕円形で 0.7~1.2 cm。近縁種のクモイコザクラは、葉が浅裂して鋸歯が尖る。

2. 分布

日本固有変種で、本州(関東地方西南部、中部地方南部、紀伊半島)に分布する。県内では中部、東部に分布する。

3. 生育環境

温帯上部に生育する。山地の少し明るい川岸や滝の付近で、飛沫を浴びるような湿った岩場に生育する。

4. 生育状況

産地は東部と南アルプスに点在する。産量が多いが開花株は少ない。個体の多くは採取困難な場所に生育している。

5. 減少の主要因と脅威

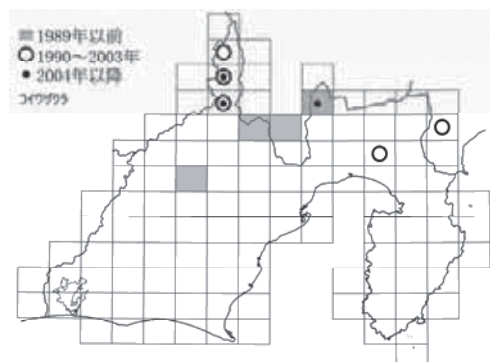
園芸採取 (41) が主要因である。岩地の崩壊 (55) による消失も脅威である。

6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報を公表する際には、慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



静岡市 2017年5月19日 湯浅保雄



クモイコザクラ *Primula reinii* Franch. et Sav. var. *kitadakensis* (H. Hara) Ohwi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ5~10 cm。葉は数個を束生する。葉身は腎円形で径1.5~4 cm、浅裂よりもやや深く1/3ほど裂けて鋸歯が尖る。花期は6~7月。萼は5中裂して裂片は披針形で長さ5~8 mm。花冠は紅紫色で花喉部は淡橙黄色、高杯形で長さ1.8~2.5 cm、筒部は長さ8~10 mm。蒴果は長楕円形で長さ7~12 mm。近縁種のコイワザクラは葉が深裂して鋸歯は鈍い。

2. 分布

日本固有変種で、本州(中部地方)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯の日当たりがよく、かつ谷から雲霧によく覆われる、岩塊や岩崖の岩隙に生育する。

4. 生育状況

産地は中部の山岳にあり少ない。産量はやや多い。樹木による被陰でやや生育不良な場所もある。

5. 減少の主要因と脅威

岩塊の崩壊や周囲の樹林による被陰(71)が脅威である。

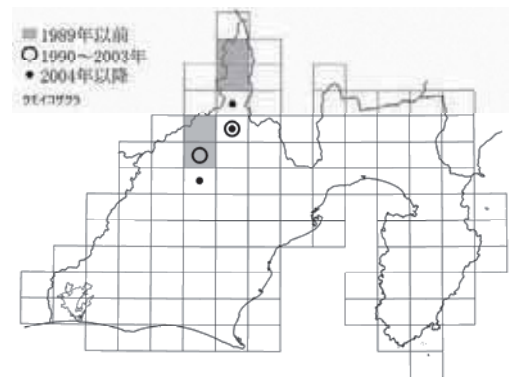
6. 保護対策

生育地を被陰している樹木を伐採して光条件を改善する。

(宮崎一夫)



静岡市 2011年6月4日 山崎由晴



シナノコザクラ *Primula tosaensis* Yatabe var. *brachycarpa* (H. Hara) Ohwi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。葉柄と花茎に開出軟毛がある。葉は表面が無毛で、裏面は脈上に軟毛がある。萼は5中裂。花期は4~5月。花は紫紅色。蒴果は長楕円形又は曲円柱形で長さ5~13 mm、萼の1~1.5倍の長さである。近縁種のイワザクラは、蒴果が直円柱形で長さ15~25 mmある。

2. 分布

日本固有変種で、本州(関東地方、中部地方)に分布する。県内では西部と中部に分布する。

3. 生育環境

山地に生育する。川岸や垂れ落ちる水しぶきが当たる、湿ったややうす暗い垂直な岩場に生育する。

4. 生育状況

産地は天竜区などにあり少ない。産量はやや多い。開花株は減少の一途であり、個体の多くは採取困難な場所に生育している。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)が主要因である。岩地の崩壊(71)による消失も脅威である。

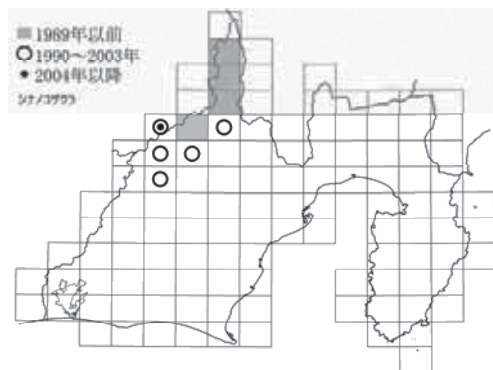
6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報を公表する際には、慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



浜松市天竜区 2013年5月4日 宮崎一夫



カインササラサドウダン *Enkianthus sikokianus* (Palib.) Ohwi

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さ 1.5~5 m。葉柄は 3~10 mm。葉は枝先に集まって互生する。葉身は楕円形で長さ 3~7 cm、縁に、先に毛がある細鋸歯がある。花期は 5 月。花序は長さ 5~10 cm、総状で枝先から下垂する。花柄は長さ 0.5~1.5 cm。花は 8~20 個つき、花柱は無毛。花冠裂片は全縁で反曲しない。果柄は湾曲して、果実は上向きにつく。近縁種のサラサドウダンは花序の長さが 2~5 cm である。

2. 分布

日本固有種で、本州（東海地方、紀伊半島）、四国に分布する。県内では西部に分布し、東限自生地である。

3. 生育環境

丘陵地から低山の岩地や岩礫地の林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は天竜区に偏在している。産量はやや多い。しかし植林による被陰の為に開花株が少ない。

5. 減少の主要因と脅威

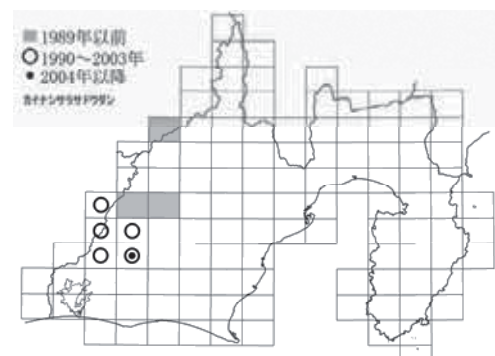
園芸目的の採取 (41) が主要因である。周囲の樹林による被陰 (71) も脅威である。

6. 保護対策

生育地を被陰している樹木を伐開して光条件を改善する。
(宮崎一夫)



浜松市 2019年5月22日 内藤宇佐彦



キョウマルシャクナゲ *Rhododendron japonoheptamerum* Kitam.

var. *kyomaruense* (T. Yamaz.) T. Yamaz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

常緑低木。高さ 2~6 m。葉柄は長さ 25~35 mm。若葉の表面ははじめ黄褐色の伏毛があつて夏まで残り、下面は圧伏した枝分かれしない綿毛がうすく覆う。花冠は蕾でピンク色、開花時は淡紅色からトキ色となる。花柄 25~35 mm、花冠は先が 5 裂し径 4~5 cm、雄蕊 10 個。花柱は雄蕊よりも短い。近似種のホンシャクナゲは葉表の毛が早落し、アズマシャクナゲの葉裏の綿毛は枝分かれする。

2. 分布

日本固有変種で、本州（長野県南部、静岡県北部）に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯下部の深山に生育する。

4. 生育状況

産地は天竜区に局限している。産量は少ない。林冠の日陰により生育が悪化している。

5. 減少の主要因と脅威

遷移の進行 (54) が主要因である。園芸採取 (41) も脅威である。

6. 保護対策

林冠を覆っている樹木を伐開することにより、被陰を回避して光条件を改善する。
(宮崎一夫)



浜松市 1981年5月24日 杉野孝雄



オオヤマツツジ *Rhododendron transiens* Nakai

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

半常緑低木。高さ2 m。葉は長さ1~5 cm、ヤマツツジによく似ている。花期は4~5月。花はヤマツツジより大きく、紅紫色で上側内部に濃色の斑点がある。雄蕊は6~9個のこともあるがふつうは10個。子房は白色の密毛がある。近縁種のヤマツツジは雄蕊が5個。

2. 分布

日本固有種で、本州（関東地方、静岡県、岡山県、山口県）に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地から山地の日当たりがよい斜面の林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は散在する。産量は少ない。静岡県植物誌（1984）に伊豆の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移（54）が主要因である。高木による被陰（71）も脅威である。

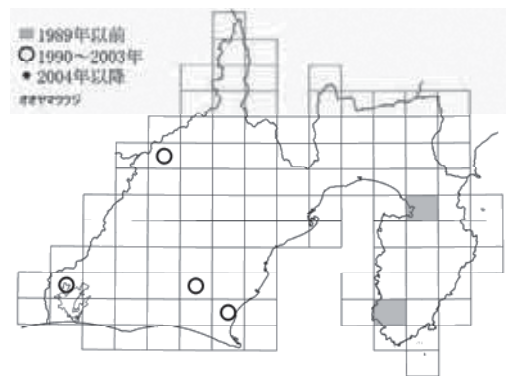
6. 保護対策

植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2001年4月21日 内藤宇佐彦



ナガバジュズネノキ *Damnacanthus giganteus* (Makino) Nakai

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

アカネ科 Rubiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑低木。高さ1~2.5 m。根は数珠状になる。葉は長楕円形で先端も基部も鋭形で長さ7~13 cm。葉の基部に短い刺があることが多いが、本県のものほとんどない。花期は4~5月。花はやや緑がかった白色で、花筒は長さ8~12 mm。液果は球形で直径3~5 mm。赤熟する。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（静岡県西部、愛知県以西）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

暖地の低山地の常緑広葉樹林内に生育する。

4. 生育状況

浜松市北区に生育する。個体数は少なく、発見当初より減少している。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採（11）と堰堤周辺工事（13）による生育地の消失が脅威である。植林内のもは伐採された。

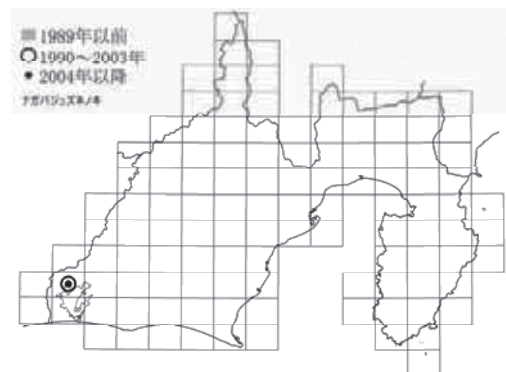
6. 保護対策

残る生育地の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2009年11月15日 内藤宇佐彦



ホソバナツルリンドウ *Pterygocalyx volubilis* Maxim.

(=ホソバナツルリンドウ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード 13

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B 類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II 類 (VU)]

1. 種の解説

ツル性の一年草。葉は披針形で長さ2~5 cm、先が長く尖り、裏面は紫色にならない。花期は10月。花冠は筒状で長さ30~35 mm、淡紫色、先は4裂する。蒴果は狭長楕円形で長さ10 mm内外。似ているツルリンドウは葉裏が紫色を帯びる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、台湾、ロシア(ウスリー、アムール、サハリン)に、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の林縁や草地に生育する。石灰岩地にもみられる。

4. 生育状況

浜松市天竜区や静岡市葵区などに生育する。個体数は少ない。近年、調査が進み、新たな生育地が確認された。

5. 減少の主要因と脅威

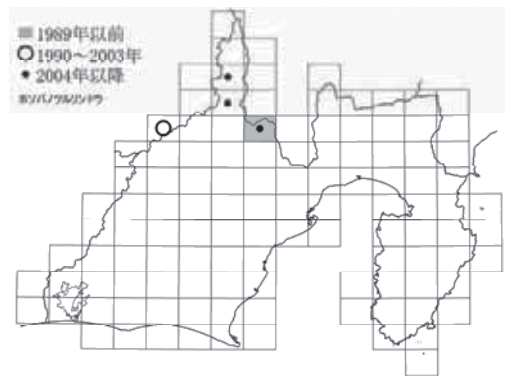
林道の造成(24)、土地崩落(71)などによるこの植物の生育適地の減少が主要因である。

6. 保護対策

目立ちにくい植物であり、森林伐採や林道の管理・造成にあたっては生育地を破壊しないように注意する必要がある。(内藤宇佐彦)



静岡市 2014年10月28日 湯浅保雄



ムラサキセンブリ *Swertia pseudochinensis* H. Hara

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 II 類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草または越年草。高さ50~70 cm。茎は太く暗紫色を帯び4稜がある。葉は線状披針形で長さ2~5 cm。花期は9~11月。花は淡紫色に濃紫の脈がある。花冠裂片は長さ8~12 mm、幅2.5~3 mm。センブリに似ているが、葉は少し広く、花卉も広い。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国(東北部、北部)、ロシア(ウスリー)に、国内では北海道西南部、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

低山地の草地に生育する。蛇紋岩地の草地にもみられる。

4. 生育状況

浜名湖付近の産地では、ある程度まとまった個体数がみられる。他では少なく、減少傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

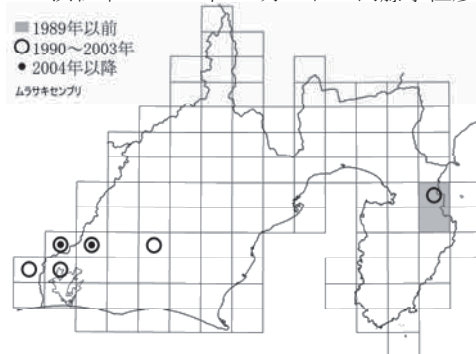
生育地が限られていること(61)や、草地が遷移の進行(54)により減少傾向にあることが要因である。

6. 保護対策

生育地の保護と草地維持のための管理(雑木伐採・草刈り)が必要である。(内藤宇佐彦)



浜松市 2015年11月1日 内藤宇佐彦



ヒメナエ *Mitrasacme indica* Wight

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

マチン科 Loganiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ5~10 cm。葉は茎全体にまばらにつき、披針形から線形で長さ3~8 mm、対生しほぼ無毛。花期は8~9月。花は小型で白色、葉腋に1個ずつつく。花冠は鐘形で先は4裂し、径2.5 mm。蒴果は球形で径2.5 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、インド、マレーシア、オーストラリアに、国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

低地や丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市などに生育する。産地は限られて個体数は少ない。海岸部の湿地ではかなり多かったが、最近ではほとんど見られなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

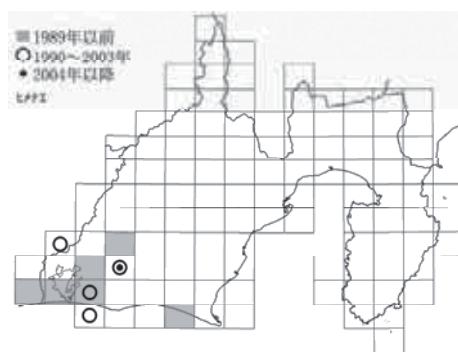
防風林の工事(71)、工場や宅地の造成(23)、埋め立て(15)などによって湿地が消失したことが要因である。

6. 保護対策

生育地の湿地の保護と水源の保全、植生遷移の抑制が必要である。
(内藤宇佐彦)



浜松市 2016年9月10日 宮崎一夫



チョウジソウ *Amsonia elliptica* (Thunb.) Roem. et Schult.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キョウチクトウ科 Apocynaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。茎葉直立し、高さ40~80 cmになる。葉は毛がなく、披針形で、先は鋭く尖り、長さ6~10 cm、幅1~2 cm。ふつうは互生するが、ときに一部対生する。花期は5~6月で、茎の先に多数の花をつける。花冠は青藍色、径13mm、5裂片に分かれる。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島に、国内では本州、九州に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

川岸や池の畔などの湿ったところに生育する。

4. 生育状況

前回(2004年)の調査時と大きな変化はないが、植生遷移が進んで個体数は減少傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

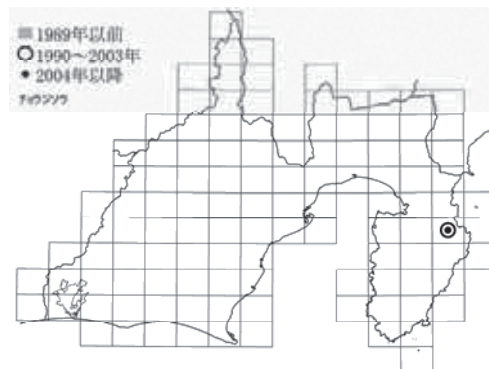
植生遷移(54)が減少の主要因である。

6. 保護対策

植生遷移を押さえ、本種の生育に適した環境を維持することが必要である。
(湯浅保雄)



伊東市 2012年5月18日 宮崎一夫



スナビキソウ *Heliotropium japonicum* A. Gray

(=ハマムラサキ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード 6

ムラサキ科 Boraginaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~30 cm。葉は互生して長さ 2.5~6 cm の長楕円状披針形で厚く全縁である。花期は 5~8 月。茎の先に短い散房花序を出す。花冠は白色で径 8 mm、中心は黄色で、先は 5 中裂して斜開する。花はよい香りがする。核果はコルク質で長さ 8 mm、海流散布される。近縁種のハマムラサキノキは鹿児島県以南に分布する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では伊豆、中部に分布する。

3. 生育環境

波の最大到着地点と海岸林の間の砂浜に生育する。

4. 生育状況

産地は中部と伊豆に局限する。産量はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

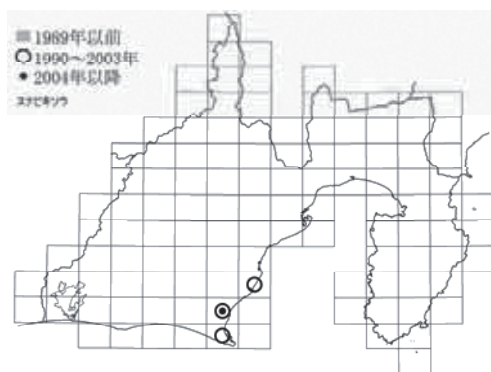
海浜開発 (14) が主要因である。砂浜海岸の浸食 (71) と踏圧 (51) も脅威である。

6. 保護対策

海岸開発を回避するとともに、生育地の立ち入りを制限して環境を保護保全することが重要である。(宮崎一夫)



牧之原市 2017年5月3日 宮崎一夫



ハマネナシカズラ *Cuscuta chinensis* Lam.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード 1

ヒルガオ科 Convolvulaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年生。つる性の寄生植物。茎は細く糸状でハマゴウなどからみつき、白~淡緑黄白色。花期は 7~9 月。花はマメダオシに似るが、顎筒に著しい 10 筋が隆起するために星形に見え、花冠は果実をほとんど包み込む。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、東南アジア、インド、オーストラリアに、国内では本州 (神奈川県以西の太平洋側と瀬戸内海沿岸)、四国に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3. 生育環境

海岸の砂浜に生育する。

4. 生育状況

富士市などに生育する。全国的にも減少の著しい種である。生育環境が天然砂浜であり、本県でもその環境が著しく悪化している。

5. 減少の主要因と脅威

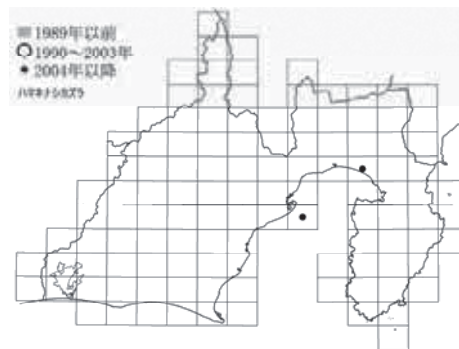
海岸開発や護岸工事など (14) で生育地が減少した。また、アメリカネナシカズラとの競合 (56) も無視できない。

6. 保護対策

今や少なくなった天然の海岸の砂浜の保護が必要である。(内藤宇佐彦)



富士市 2015年7月26日 内藤宇佐彦



ハシドイ *Syringa reticulata* (Blume) H. Hara

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

モクセイ科 Oleaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉小低木。高さ 6~7 m。樹皮は横に伸びる皮目がある。葉は広卵~卵形。先は鋭頭、基部は円形または浅心形。葉身の長さ 10 cm、幅 5~6 cm。表面は無毛、裏面には短毛がある。花期は 6~7 月。円錐花序に白色の両性花を多数つける。花冠は約 5 mm で 4 裂する。雄蕊は 2 個。蒴果は狭長楕円形、長さ 15~20 mm。種子は扁平な楕円形で周囲に翼がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯山地の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

浜松市北部 (旧水窪町) に生育する。産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

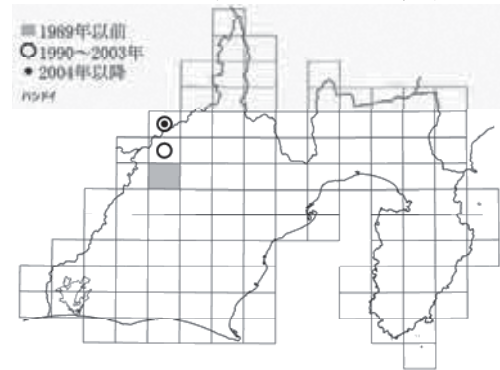
植生遷移 (54) と生育地の山林伐採 (11) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地を周辺の環境とともに保護することが必要である。
(湯浅保雄)



浜松市 2015年7月10日 宮崎一夫



オオアブノメ *Gratiola japonica* Miq.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オオバコ科 Plantaginaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。水生植物。高さ 10~25 cm。茎は肉質で直立する。葉は長楕円形で長さ 1~3 cm。やや肉質の無柄で対生する。萼の基部に 2 個の小苞がある。花期は 5~6 月。花は葉腋につき筒形で長さ 4~7 mm。花冠は白色で閉鎖花もある。蒴果は長さ 3~4 mm の球形でアブの眼を思わせる。近縁種のアブノメは萼の基部に小苞がない。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア (ウスリー) に、国内では北海道、本州 (宮城県以南)、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地の水田や池沼などの水湿地に生育する。

4. 生育状況

今回の調査では確認できていない。産地は多くはない。産量は年による消長がある。生育環境が改変されなければ、突然に発生することもある。

5. 減少の主要因と脅威

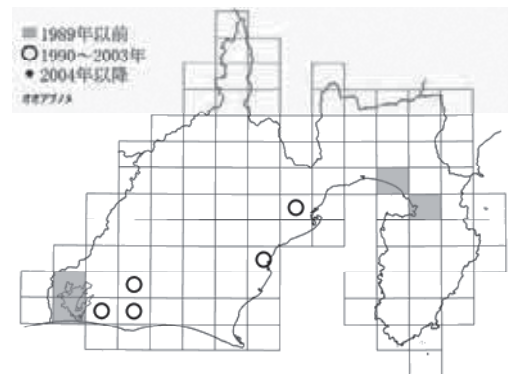
土地造成 (23) や農薬汚染 (32) と乾田化 (15) の影響を強く受けている。

6. 保護対策

農薬の使用量を減らして、土地造成などの開発を回避するとともに潜在的な生育地を復元保全する。
(宮崎一夫)



浜松市 1995年6月1日 宮崎一夫



スズメハコベ *Microcarpaea minima* (J. Koenig ex Retz.) Merr.

(=スズメノハコベ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オオバコ科 Plantaginaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

小型の一年草。茎は分岐して匍匐する。葉は無柄で小さく長さ2~5 mm、葉脈は不明。花期は7~10月。花は葉腋につき、萼は5裂し、花冠は淡紅色で長さ2.5 mm。蒴果は卵形で長さ1.2 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国南部、台湾、タイ、ベトナム、マレーシア、インドネシア、オセアニアに、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部と中部に分布する。

3. 生育環境

低地の水田などの湿地に生育する。

4. 生育状況

静岡市、島田市、掛川市、浜松市などに生育する。小さな植物のため個体数は多く見えるが、生えている場所はせまく、生育地も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

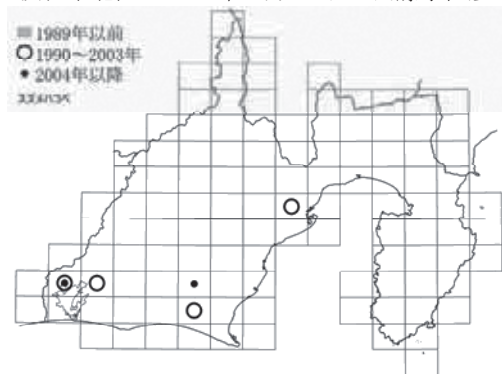
湿地や沼地の開発 (12、13)、水田での除草剤使用 (32) や乾田化・耕地整理 (15) によって減少した。

6. 保護対策

湿地の保護と水田の生育地では現在の耕作形態の維持が必要である。(内藤宇佐彦)



浜松市北区 2017年9月10日 内藤宇佐彦



トラノオズカケ *Veronicastrum axillare* (Siebold et Zucc.) T. Yamaz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オオバコ科 Plantaginaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。茎は湾曲して垂れ下がり、長さ70~150 cm。葉は卵~長楕円形で先は短く尖り、長さ6~11 cm。茎と葉柄は無毛。花期は8~9月。花は紅紫色で円錐形の花穂に多数つく。花冠は長さ5 mm、先は1/3ほどまで4裂し、雄蕊2本は花外に長く突き出す。蒴果は卵形で長さ3 mm。茎の先端が地面に接すると新苗を生ずる。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州 (静岡県)、四国 (南部)、九州に分布する。県内では西部に分布しており、静岡県は北東限自生地である。

3. 生育環境

暖帯下部の常緑樹林内に生育する。竹林にもみられる。

4. 生育状況

西部の御前崎から小笠山付近までの山地、丘陵地の林内に点在する。産量はあまり多くない。

5. 減少の主要因と脅威

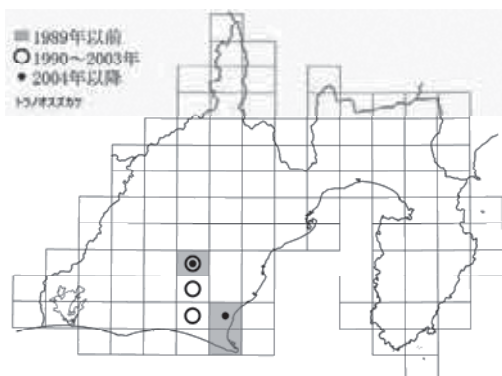
里山の植物で人為的な影響を受けやすい。山林伐採 (11)、宅地造成 (23) など生育地の消失で減少してきている。

6. 保護対策

不用意な山林伐採などで生育環境に変動を与えないことが必要である。(内藤宇佐彦)



掛川市 2011年9月6日 宮崎一夫



キタダケオドリコソウ *Lamium album* L. var. *kitadakense* N. Yonez.

(=ミヤマオドリコソウ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~80 cm。葉は対生し卵状三角形で長さ 5~8 cm。花期は 7~8 月。花は淡黄色で長さ 3~4 cm、葉腋につく。近縁種のオドリコソウは里地から丘陵地のすそに生育して、花期が 3~6 月、花は長さ 2.5~3.5 cm、白色または淡紫紅色である。

2. 分布

南アルプス固有変種で、本州 (山梨県、静岡県) に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から亜高山帯の標高 1,400~2,300 m の、沢筋の林縁や草地の湿ったところに生育する。

4. 生育状況

前回 (2004 年) 調査でも今回の調査でも確認できていない。産地は南アルプスに局限する。産量はきわめて少ない。生育状況は被陰による衰退が懸念される。

5. 減少の主要因と脅威

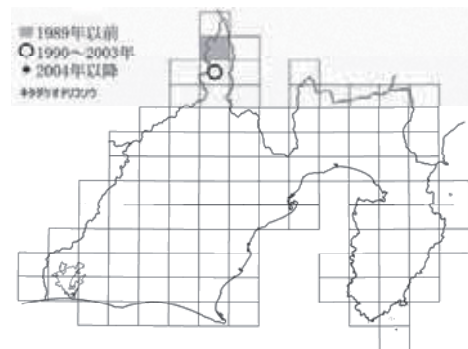
樹冠の被陰や土砂による流失 (71) が主要因である。林道開発 (24) も脅威である。

6. 保護対策

土石流を発生させないためにも、森林伐採は皆伐しないで計画的に択伐をすることも重要である。 (宮崎一夫)



静岡市 (栽培開花) 2000 年 5 月 11 日 杉野孝雄



ラショウモンカズラ *Meehania urticifolia* (Miq.) Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~30 cm。全体に香気があり、花が終わると長い走出枝が茎の下部から伸びる。葉は 2~3 cm の葉柄があり、三角状心形であらい鈍鋸歯がある。花期は 5 月。花冠は大きく長さ 4~5 cm、唇形で紫色である。分果は長さ約 3 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

山地の森林の林縁や草地に生育する。

4. 生育状況

富士山麓と西部の県境付近に生育する。長野県ではふつうに見られる。

5. 減少の主要因と脅威

生育地での林道の拡張や整備 (24)、高原地帯の開発 (23) により減少した。

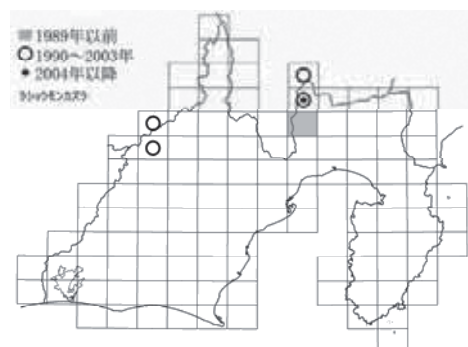
6. 保護対策

道路整備などが生育地に影響を与えないようにすることと、生育地の自然林と草地の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1996 年 5 月 18 日 内藤宇佐彦



ヒメハッカ *Mentha japonica* (Miq.) Makino

(=ヒメメグサ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~40 cm。全株ほとんど無毛。長く地下茎をひく。葉は卵状楕円形で長さ1~2 cm、全縁で先が鈍い。花期は8~10月。花は淡紅紫色で長さ3.5~4 mm、茎の先に多数集まってつく。分果は扁平でほぼ円形、径約0.8 mm。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州（和歌山県以北）に分布する。県内では伊豆と東部に分布する。

3. 生育環境

湿地に生育する。

4. 生育状況

東伊豆町と浮島沼などに生育する。産地は限られている。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の湿地開発 (15)、植生の遷移 (54)、水質汚濁 (31)、湿地の乾燥 (53) などが生育に脅威を与えている。

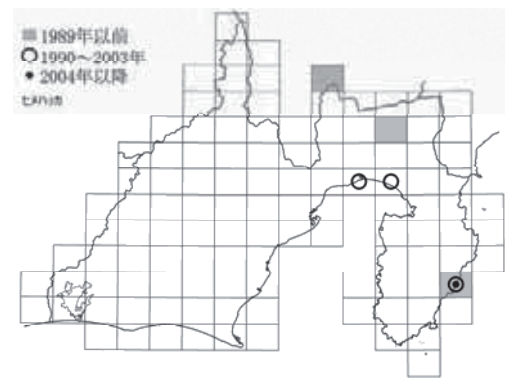
6. 保護対策

生育地の一部は、行政による保護地域内にある。他の産地も同様の保護を図りたい。

(西口紀雄)



東伊豆町 2012年8月19日 西口紀雄



ヤマジソ *Mosla japonica* (Benth. ex Oliv.) Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草。高さ5~30 cm。ヒメジソに似る。葉は長さ1.3~3 cm、卵~広卵形で短毛を散生する。花期は9~10月。花穂は1~4 cmで密に花をつける。花冠は淡紅色。苞は卵形で長さ3~6 mm、下部のものは萼より長い。分果は球形で長さ1.3 mm。

2. 分布

国外では韓国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地や丘陵地の日当たりのよい裸地状の場所に生育する。

4. 生育状況

県内に広く生育する。個体数の多い場所もある。生育環境の悪化の影響を受け減少している。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の開発 (23) や草地の管理放棄 (53) に伴う遷移進行によって減少した。

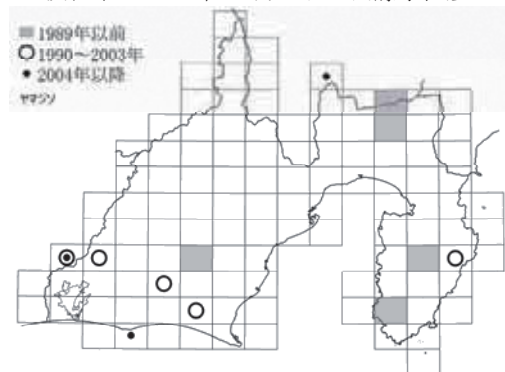
6. 保護対策

生育地の保護には草刈りをするなど草地の維持が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2016年10月7日 内藤宇佐彦



シマジタムラソウ *Salvia isensis* Nakai ex H. Hara

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~60 cm。葉は 1 回羽状複葉で、茎の下部に集まる傾向があり、やや厚い。花期は 7~8 月。花は茎の先に穂状にまばらにつき、花冠は長さ 6~8 mm で淡青紫色。雄蕊が花の外に突き出る。分果はほぼ円形で長さ約 1.8 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県、岐阜県、愛知県、三重県）に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい蛇紋岩地の草地や疎林に生育する。

4. 生育状況

浜松市天竜区、北区の蛇紋岩地の限られた地域に生育する。まとまった数の個体数がみられる所もある。減少傾向がみられる。

5. 減少の主要因と脅威

草地の管理不足に伴う遷移進行 (53) によって減少している。

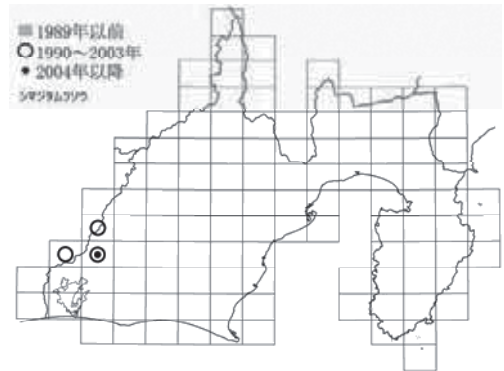
6. 保護対策

生育地の保護には樹林の伐採や草刈りなどによる草地の維持が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2016年7月24日 内藤宇佐彦



ヤマジノタツナミソウ *Scutellaria amabilis* H. Hara

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。茎は束生し、短い地下茎から生える。高さ 15~25 cm。上向きの毛がある。葉は広卵~卵心形で長さ 1~2 cm。幅 0.8~2 cm。縁にはあらい鋸歯がある。両面に細毛がある。花期は 5~6 月。花序は短く、花はまばらにつく。花冠は長さ 2~2.5 cm で青紫色。基部で折れ曲がり立ち上がる。

2. 分布

日本固有種で、本州（中部地方、近畿地方）に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の山地や丘陵地の林内や林縁。道路沿いの草地。

4. 生育状況

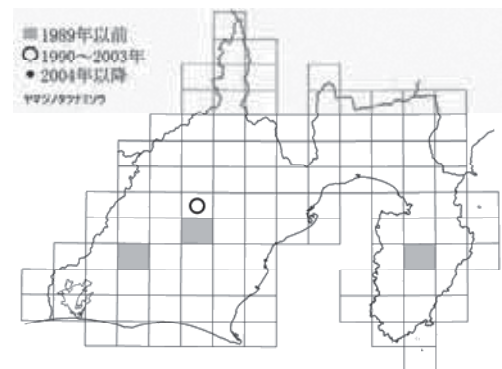
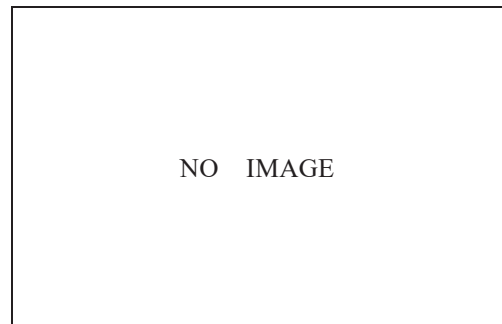
産地は限られていて個体数は少ない。前回 (2004 年) の調査では旧中川根町で確認されたが、今回の調査では確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採 (11) による急激な環境変化と道路工事 (24) による自生地の消失が減少の主要因である。

6. 保護対策

道路工事などを行う場合は、植物の事前調査を行い、タツナミソウ類が見つかったら、確実な同定を行い、ヤマジノタツナミソウであったら、保護策をたてること。(湯浅保雄)



ヒメナミキ *Scutellaria dependens* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件要件-①②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

繊細な多年草。高さ10~60 cm。葉身は短い柄につき、三角状披針形または三角状卵形で、長さ1~2 cmである。花期は6~8月。花は葉腋に1個ずつつき、長さ6~7 mm、白色でわずかに淡紅紫色を帯びる。分果は長さ約0.7 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国(東北部、北部)、ロシア(ウスリー、アムール、東シベリア)、モンゴルに、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

湿地や沼地の草地に生育する。

4. 生育状況

沼津市などに生育する。まとまった数の個体数がみられる場所もある。各地に点在していたが消失した所もある。西部の休耕地の生育地は消失した。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の湿地や沼地の開発(12、15)によって減少した。

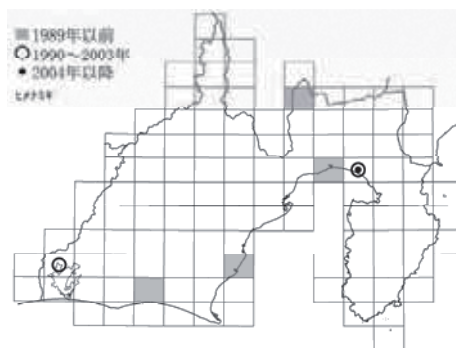
6. 保護対策

生育地の湿地環境の保全と、草地の遷移進行を抑制するために草刈りなどが必要である。

(内藤宇佐彦)



沼津市 2017年7月23日 内藤宇佐彦



イズコゴメグサ *Euphrasia insignis* Wettst. subsp. *innumae* (Takeda) T. Yamaz. var. *idzuensis* (Takeda) T. Yamaz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ハマウツボ科 Orobanchaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

一年草。高さ40~50 cm。葉の幅は狭く卵状長楕円形で鋸歯は3対である。花期は8~9月。白色で下唇内面に黄斑がある。

2. 分布

日本固有変種で、本州(神奈川県、静岡県、愛知県)に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の丘陵地、草原の日当たりのよい斜面などに生育する。乾燥しやすい尾根や歩道などにも見られる。

4. 生育状況

東伊豆町や浜松市などに生育する。個体数は少ない。生育地では背の高いほかの植物との競合が顕著である。

5. 減少の主要因と脅威

生育地での草原の消失(16)や植生の遷移進行(54)による被陰で減少している。

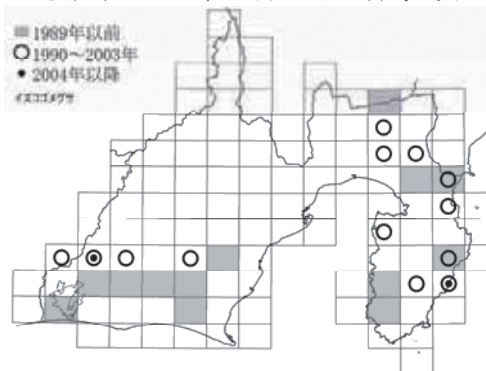
6. 保護対策

草原の保護と草刈りなどでその維持管理が重要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2018年10月29日 宮崎一夫



ハマウツボ *Orobanche coerulescens* Stephan ex Willd.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ハマウツボ科 Orobanchaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。全寄生植物。高さ10~30 cm。全体に白色の軟毛が多い。茎は黄褐色で太く中空で直立して分枝しない。葉は鱗片状で黄褐色。花期は5~7月。花序は穂状。苞は三角状披針形で長さ7~15 mm。萼は長さ1 cmで萼片は2裂する。花は無柄、淡紫褐色で長さ2 mm。近縁種のヤセウツボは帰化植物で、高さ10~100 cm、花冠は淡黄色である。

2. 分布

国外では台湾、朝鮮半島、中国、シベリア、東ヨーロッパに、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

海岸の砂地に生え、主にカワラヨモギの根に寄生する。

4. 生育状況

産地、産量はきわめて少ない。宿主の生育に依存する。年による株数の消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

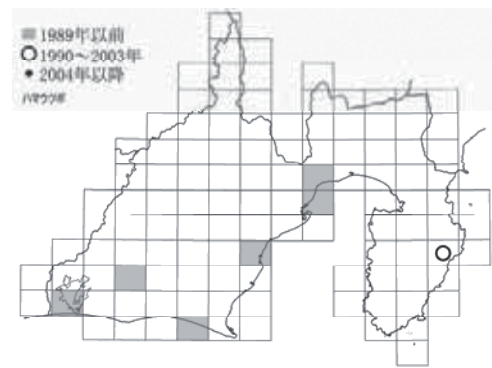
海浜近くの大きな改変(14)や河川敷の造成(13)が主要因である。観察者や撮影者の踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、カワラヨモギに適した生育環境を維持管理することが重要である。(宮崎一夫)



愛知県 2008年5月8日 宮崎一夫



ノタヌキモ *Utricularia aurea* Lour.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

浮遊性の一年草。食虫植物。越冬芽を作らない。葉は互生し、四方に糸状に分裂して立体的に広がる。裂片の基部近くに少数の捕虫袋をつける。花期は8~10月。葉腋から8~20 cmの花茎を水上に直立し、黄色の花を4~10個つける。花冠は径6~7 mm。花茎には鱗片葉はない。蒴果は球形で、ほぼ同じ長さに伸長した花柱がついている。タヌキモの水中葉は裂片を一平面上に配列し、また花茎に鱗片葉があり、さらに越冬芽を作るので区別できる。

2. 分布

国外では朝鮮半島南部からインド、マレーシアに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

池沼、ため池、水田の用水路などの水中。

4. 生育状況

かつては県西部に広く分布していたが、生育地の消失と水質悪化が原因で、ほとんど見られなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

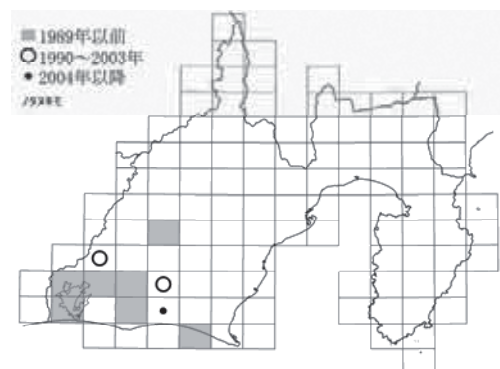
池沼の開発(12)による生育地の消失、農薬汚染(32)、水質汚濁(31)などが減少の主要因である。

6. 保護対策

池沼の水質浄化を行うこと。(湯浅保雄)



袋井市 1993年10月3日 宮崎一夫



イヌタヌキモ *Utricularia australis* R. Br.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

浮遊性の多年草。食虫植物。越冬芽を秋に生じ長楕円形。葉は互生し、羽状に分枝し、さらに数回分枝する。葉の裂片に多数の捕虫囊をつける。花期は7~9月。黄色の花を3~10個つけ、花冠は約1 cm。蒴果は球形で直径約3 mm。葉はタヌキモに似るが、花茎は中実、越冬芽は長楕円形で暗褐色、長さ4~10 mm、幅3~7 mmである。

2. 分布

国外ではアジア、アフリカ、オーストラリア、ヨーロッパに、国内では北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

低地や山地の池や水田などに生育する。

4. 生育状況

西部の池と水田に生育する。個体数の多い所もあるが生育地は少なく、減少傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

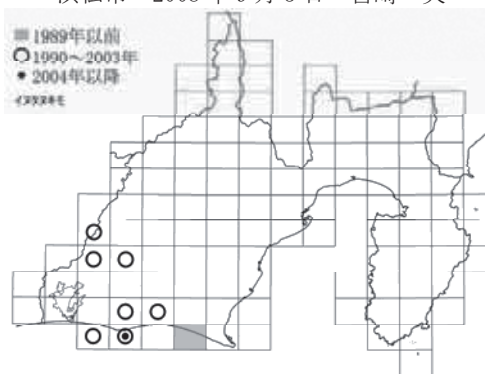
池沼の埋め立てや開発 (12)、水田での農薬使用 (32) や耕地整理による乾田化 (15) によって減少した。

6. 保護対策

池沼の保全と水田の生育地では現在の耕作形態の維持が必要である。
(内藤宇佐彦)



浜松市 2008年9月3日 宮崎一夫



タヌキモ *Utricularia × japonica* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

浮遊性の多年草。食虫植物。高さ10~25 cm。花茎の中心に気道がある。茎は分枝して長さ1 mとなる。葉は互生して基部で2個の小葉に分かれ、小葉内の分枝は平面的である。裂片には淡黄緑色の捕虫囊をつける。花期は7~9月。水面から上に花茎を伸ばして花を4~10個つける。花冠は鮮黄色の唇形で長さ1.5 cm、下唇に赤褐色の縞模様がある。越冬芽は球形である。近縁種のノタヌキモは花茎に空洞はない。

2. 分布

国外の分布は不明、国内では本州、九州に分布する。県内では伊豆、東部に分布する。

3. 生育環境

低地のため池や池沼に生育する。

4. 生育状況

産地は少ない。産量は小群生する。水量の減少や水質の悪化により生育状況は悪化している。

5. 減少の主要因と脅威

ため池の改良や壊滅 (12) が主要因である。池沼の水量が減少 (71) することも脅威である。

6. 保護対策

利用しなくなったため池にも、生存権をもった生物が生息しているので、ため池の破壊は慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



東伊豆町 2012年8月31日 加藤 徹



ムラサキミミカキグサ *Utricularia uliginosa* Vahl

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件要件-①②) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。食虫植物。高さ5~15 cm。葉はへら形で3~6 mm。捕虫嚢は球形で直径1~1.5 mm。花期は8~9月。花は藍紫~白色、長さ約3 mmで花柄がある。距は下側前方を向く。近縁種のミミカキグサは花が黄色。

2. 分布

国外ではアジアからオーストラリアに、国内では北海道、本州、四国、九州、屋久島に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地から山地にある湿地の、主として泥上に生育する。

4. 生育状況

西部の湿地に多く見られた植物であるが、湿地の消失で著しく減少している。他地域では東伊豆町に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

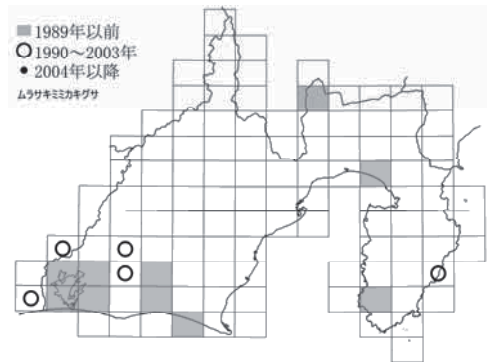
丘陵地の開発(工場、住宅、農業用地、道路)(23、24)に伴う湿地の消失により減少した。

6. 保護対策

生育湿地の保護が必要である。湿地植生の遷移進行を抑制する対策も必要である。本種の白花品シロバナミミカキグサも対象である。(内藤宇佐彦)



浜松市 1995年9月9日 内藤宇佐彦



ツルギキョウ *Codonopsis javanica* (Blume) Hook. f. et Thomson

subsp. *japonica* (Makino) Lammers

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キキョウ科 Campanulaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

つる性多年草。蔓は長さ2~4 m。茎は細くて葉柄で草木などからみつく。葉は長柄があり卵心形で長さ3~9 cm。花期は8~10月。花は腋生して垂れ下がる。花冠は広鐘形で長さ10~15 mm、先は5中裂して反り返り、外側が淡緑白色で内側の奥は暗赤紫色。液果は扁球形で径10~12 mm。近縁種のツルニンジン(11)は花冠裂片が5浅裂である。

2. 分布

国外では台湾、中国に、国内では本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の草原や低山の林縁や谷に生育する。

4. 生育状況

産地は点在する。産量はきわめて少ない。園芸採取もあり産量は減少している。

5. 減少の主要因と脅威

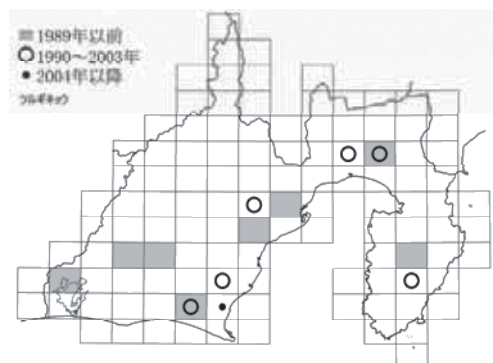
森林伐採(11)や植生遷移の進行(54)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

開発する際には見過ごさないように花期に植物調査を行うことが重要である。産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



牧之原市 2009年8月29日 宮崎一夫



バアソブ *Codonopsis ussuriensis* (Rupr. et Maxim.) Hemsl.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-②) 変更コード 9

キキョウ科 Campanulaceae

[2004年版カテゴリ なし: 環境省カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

つる性の多年生草本。ツルニンジンに似ているが、全体に小型で塊根は短く、球形である。葉は長さ2.5-5 cmで裏面に毛が多い。花期は7-8月。花冠は鐘状で2-2.5 cm、内面は紫色で、下半部に濃紫の斑点がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部、ロシア(ウスリー、アムール)に、国内では北海道から九州に、県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地や丘陵地の林縁や草地に生育する。

4. 生育状況

富士宮市などに生育する。生育地が少なく、個体数も少ない。植生遷移と被陰により開花株が少ない。

5. 減少の主要因と脅威

草地や疎林の開発による生育地の消失(23)や、生育地の遷移進行(54)による被陰で減少した。

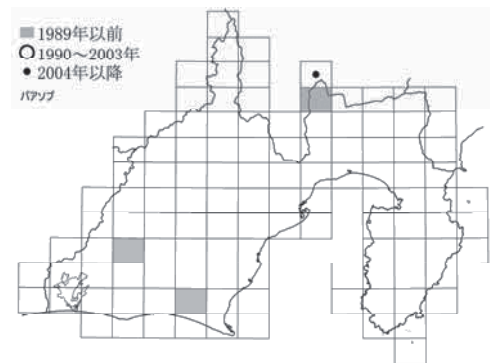
6. 保護対策

草地・草原の保護と遷移進行の抑制のため草刈りなどが必要である。

(内藤宇佐彦・宮崎一夫)



富士宮市 2011年8月28日 内藤宇佐彦



キキョウ *Platycodon grandiflorus* (Jacq.) A. DC.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

キキョウ科 Campanulaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~100 cm。根茎は太い。茎を切ると白色の乳液が出る。葉は長卵形で長さ4~7 cm、ほとんど無柄で、互生、輪生、対生と多様。下面は粉白色を帯びる。花期は7~9月。花冠は青紫色で5中裂して径3~5 cm。植栽もされ園芸品種は多数。近縁種のヒナギキョウは高さが50 cm以下で、花冠が径5~7 mmである。100年後に野生で見られる確率を示すための指標となる代表種である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア(ウスリー、アムール)に、国内では北海道、本州、四国、九州、奄美に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山野の日の当たる草原に生育する。

4. 生育状況

産地は多くあり広範囲に点在する。産量は多い。植生遷移の圧力や園芸採取により減少している。

5. 減少の主要因と脅威

草地の開発(16)や植生遷移(54)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

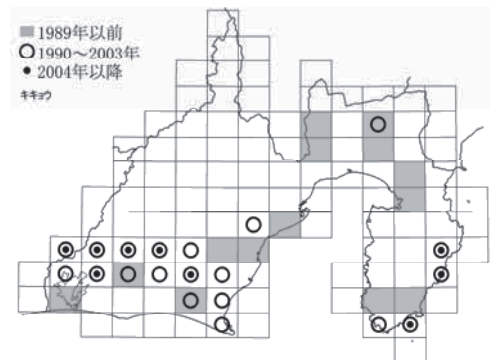
6. 保護対策

植生遷移を抑制するなど、環境に応じて善処することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2013年8月24日 宮崎一夫



ガガブタ *Nymphoides indica* (L.) Kuntze

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ミツガシワ科 Menyanthaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

水生の多年草。地下茎はない。茎は細長く、水底の泥の中にひげ状の根を下ろしている。葉は円状心臓形で形 7~20 cm。表面は緑色で裏面は紫色。花期は7~9月。葉柄基部に多数の花を束生し、3~10 cmの花柄の先に白色の花を開く。花冠は径約 15 mm。萼は深く 5 裂し緑色。花冠も深く 5 裂し、縁は糸状に細く裂ける。雄蕊 5 本、雌蕊 1 本。蒴果は楕円形で長さ 4~5 mm。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、東南アジア、アフリカ、オーストラリアに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

池沼や農業用ため池などの水中。

4. 生育状況

前回 (2004 年) の調査では 4ヶ所の池沼で見られたが、今回の調査では 3ヶ所でしか確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

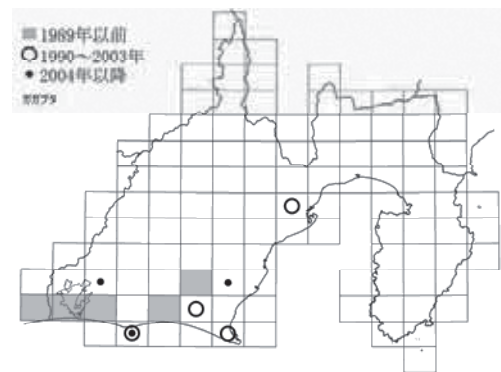
除草剤や化学肥料の流入 (32)、釣り餌による水質汚濁 (31) が主要因である。また園芸採取 (41) も脅威である。

6. 保護対策

水質汚濁を防ぎ、また池沼の改修時には生育環境を損なわないように十分注意すること。
(湯浅保雄)



浜松市 2016年8月21日 宮崎一夫



アサザ *Nymphoides peltata* (S. G. Gmel.) Kuntze

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ミツガシワ科 Menyanthaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧類 (NT)]

1. 種の解説

水生の多年草。根茎は水底の泥の中を這い、それから太い茎を出す。葉は水面に浮かび、卵形または円形で径 5~10 cm。縁に波状の鋸歯がある。表面緑色、裏面は淡紫色で粒状の腺点がある。花期は 6~8 月。葉腋から数本の花茎を出し黄色の花を水面に開く。花冠は 5 裂し、縁は糸状に裂ける。雄蕊 5 本、雌蕊 1 本。果実は扁平。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国からユーラシア大陸の冷温帯に広く、国内では本州 (宮城県以南)、四国、九州、琉球に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

池沼の水中。

4. 生育状況

前回 (2004 年) 調査では、県内の 1ヶ所で記録されているが、今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て (12) や園芸採取 (41) が減少の主要因である。

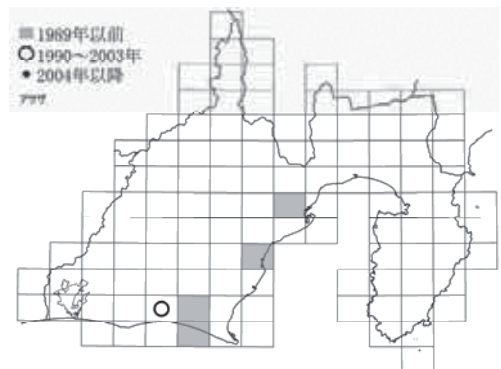
6. 保護対策

生育地では生育環境を破壊しないように努めること。

(湯浅保雄)



浜松市(植栽) 2008年5月30日 宮崎一夫



トダイハハコ *Anaphalis sinica* Hance var. *pernivea* T. Shimizu

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-②) 変更コード 3, 4

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー なし: 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。雄性両性異株。高さ20~30 cm。茎、頭花の柄、葉が白色の綿毛で厚く覆われる。葉は短く幅が広く無柄、基部は狭くなって茎に沿って翼状に流れる。基準亜種のヤハズハハコの葉の表面は緑色で、初め灰白色の綿毛があるが、後に薄くなる。それに比べ本亜種の綿毛はあとまで残り多い。

2. 分布

日本固有変種で、本州中部(南アルプス、秩父山地)に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

岩石地や岩の多い砂礫地。法面の岩壁などに生育する。

4. 生育状況

県内産はヤハズハハコとされていたが、詳細な検討の結果、本種であることが判明した。また、以前に採集された標本を調査した結果、上記の場所に分布していることが確認できた。

5. 減少の主要因と脅威

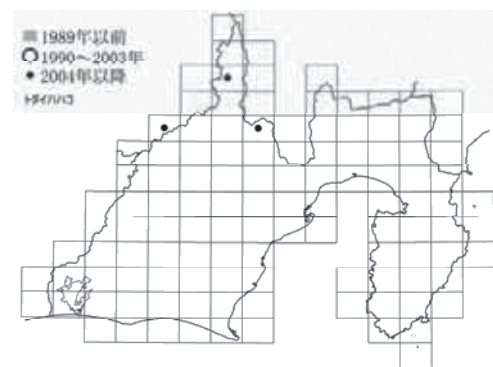
植生遷移(54)、道路の拡幅(24)や法面緑化(71)が減少の主要因である。

6. 保護対策

道路工事を行うときには、生育の有無を確認すること。
(湯浅保雄)



静岡市 2018年8月26日 湯浅保雄



キタダケヨモギ *Artemisia kitadakensis* H. Hara et Kitam.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU): 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)]

1. 種の解説

亜低木。茎は密に叢生し、花茎は高さ20~30 cm。無花茎は10~20 cmで先に葉を密生する。茎葉の葉身は長さ18~26 mm、幅20~25 mm、1~2回3全裂し、裂片は線形。両面に白色の長い毛を密生する。花期は8月。頭花は花茎に多数総状につく。頭花は幅8 mm。総苞は半球形で絹毛を密生する。

2. 分布

日本固有種で、本州(山梨県、長野県、静岡県)に、県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山の砂礫地。

4. 生育状況

産地は限られているが、まだ個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が減少の主要因である。

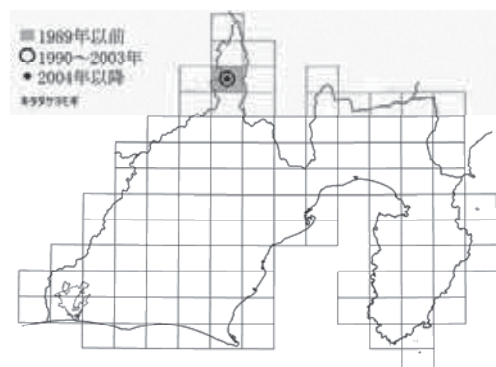
6. 保護対策

生育地に立ち入らないような対策が必要である。

(湯浅保雄)



静岡市 2009年8月23日 内藤宇佐彦



ユキヨモギ *Artemisia momiyamae* Kitam.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ1 m内外。茎は叢生する。下部の葉は長楕円形で長さ12 cm、羽状に3全裂し、羽片はさらに3中裂する。表面にはくも毛があり、裏面は灰白色の綿毛が密生している。花期は10~11月。円錐花序に多数の頭花をつける。頭花は筒鐘形で、長さ4 mm、幅1.5~2 mm。白綿毛が密生している。フォッサ・マグナ要素の植物とされている。

2. 分布

日本固有種で、本州（東京都三宅島、神奈川県、静岡県）に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

海岸の崖地や砂地。

4. 生育状況

産地は限られており、個体数も多くない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の開発(14)による生育適地の消失が減少の主要因である。

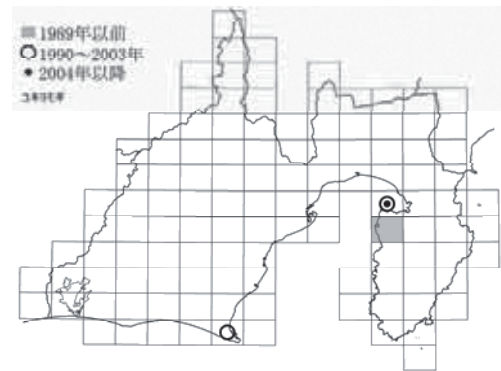
6. 保護対策

生育地の環境をあまり変化させないこと。

(湯浅保雄)



沼津市 2016年11月16日 湯浅保雄



シブカワシロギク *Aster rugulosus* Maxim. var. *shibukawaensis* Kitam. et Murata

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~60 cm。地下茎は匍匐しない。茎は細く直立し分枝は少ない。葉は互生して線状披針形で長さ7~17 cm、やや硬くざらつき縁にまばらに低い鋸歯がある。根出葉は花時にも残る。花期は8~10月。頭花は白色で径25 mm。総苞は長さ4~5 mm。総苞片は3列。舌状花は白色で7~12個つき雌性である。柱頭は2裂。筒状花は黄色で花冠の先が5裂する。近縁種のサワシロギクは匍匐茎があり、根出葉が花時にはない。浜松市北区渋川が基準産地である。

2. 分布

静岡県固有変種で、県内では西部、中部に分布する。

3. 生育環境

蛇紋岩地帯の砂礫地や草地に生育する。

4. 生育状況

産地は少なく渋川周辺に局限する。産量は小群生する。植生遷移の圧力を受けて、生育が衰退している。

5. 減少の主要因と脅威

開発(23)と植生遷移(54)が主要因である。動物の食害(52-2)も脅威である。

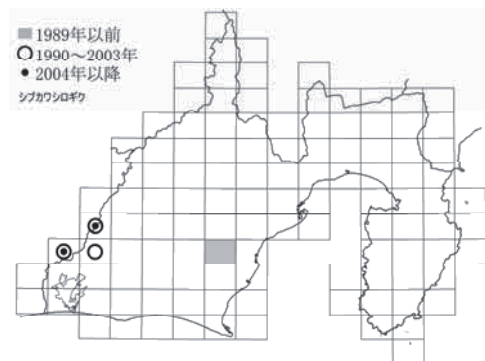
6. 保護対策

宅地造成など産地周辺の開発は、慎重な配慮が必要である。植生遷移を抑制することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2015年8月18日 宮崎一夫



ウラギク *Tripolium pannonicum* (Jacq.) Schur

(=ハマシオン)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

越年草。高さ 25~80 cm。茎は無毛で分枝する。葉は披針形で長さ 5~10 cm。花期は 9~11 月。頭花は径 2 cm で舌状花は紫色である。冠毛は 5~15 mm に達する。瘦果は狭長楕円形で扁平、長さ 2.5~3 mm。

2. 分布

国外ではアジア、ヨーロッパ、アフリカに、国内では、北海道から九州までの太平洋岸に分布する。県内では、中部と西部に分布する。

3. 生育環境

河口付近の塩湿地に生育する。

4. 生育状況

旧清水市と旧細江町に生育する。海岸のヨシの間に、ヨシに守られるように生育する。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の海辺、湖岸の干拓や護岸工事など (12、14) で、生育環境が奪われ減少した。

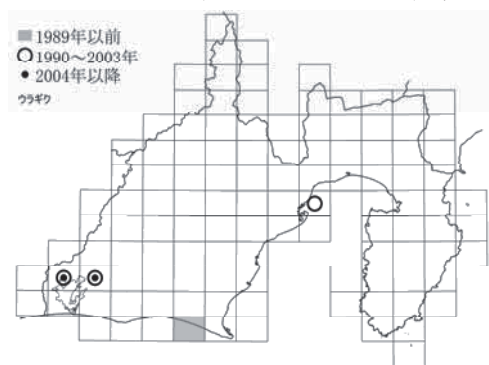
6. 保護対策

現存する生育地では、環境に配慮した保護対策が必要である。

(西口紀雄)



浜松市 2010年10月23日 西口紀雄



フジバカマ *Eupatorium japonicum* Thunb.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 1~1.5 m。茎の下部は無毛、上部にやや密に縮細毛がある。葉はふつう 3 深裂し、裂片は長楕円形あるいは披針状長楕円形。長さ 8~13 cm、幅 3~4.5 cm。花期は 8~9 月。頭花は枝の先に多数つく。総苞は長さ 7~8 mm、片は 10 個。小花は 5 個。瘦果は長さ 3 mm。類似のサワヒヨドリやヒヨドリバナには葉裏に腺点があるが、本種は腺点を欠く。奈良時代に中国または朝鮮半島から伝来したと考えられている。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島に、国内では本州 (関東地方以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

河原や堤防、道ばたの湿潤な所。

4. 生育状況

かつて中部と西部の河原などに広く点在していたが、前回 (2004年) の調査時も、今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

河川改修 (13) や土地の造成工事 (23)、植生の遷移 (54) が減少の主要因である。

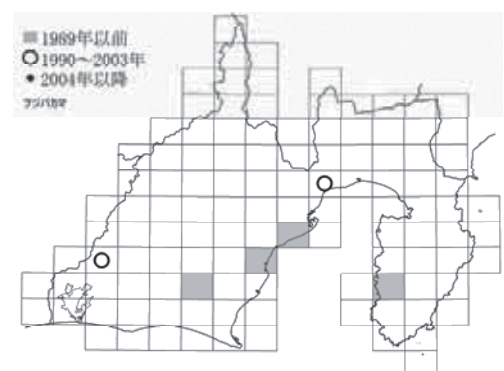
6. 保護対策

自生生育地が見つかったら、生育に適した環境を維持し保全すること。

(湯浅保雄)



掛川市 2001年9月21日 杉野孝雄



アキノハハコグサ *Pseudognaphalium hypoleucum* (DC.) Hilliard et B. L. Burtt

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

一年草。高さ 30~80 cm。茎は白色の綿毛がある。葉は広線形で長さ 4~5 cm、先は鋭く基部はやや茎を抱く。葉裏は白綿毛が密生する。花期は 9~11 月。頭花は鮮黄色で枝先に集まる。総苞は球状鐘形で長さ 4 mm、総苞片は淡黄色 5 列。冠毛は汚白色で長さ 3 mm。近縁種のハハコグサは高さが 40 cm 以下で総苞片は 3 列である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、台湾、フィリピン、インドなどに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の丘陵から山地の乾いた崖状地や日当たりのよい疎草地に生育する。

4. 生育状況

産地は点在する。産量はややまとまってある。株数は年による消長がある。植生遷移によりニッチを奪われている。

5. 減少の主要因と脅威

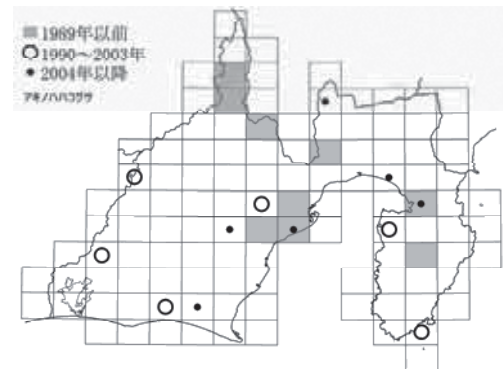
樹冠の被陰と草地の植生遷移 (54) が主要因である。崖状地に外来種の吹き付けをすることも脅威である (56)。

6. 保護対策

崖状地や草地を保全し、過去に生育していた潜在的な生育地を、生育に適する環境に回復することが重要である。(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 2001年11月16日 宮崎一夫



ヤナギノギク *Aster hispidus* Thunb. var. *leptocladus* (Makino) Okuyama

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード 1

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリ なし : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

越年草。高さ 30~80 cm。ヤマジノギクの変種である。茎は中、上部で多く枝を分け、斜上する。葉は線形で長さ 3~6 cm。花期は 10~11 月。頭花は淡青紫色でやや小さく径 3 cm、冠毛は 1~2.5 mm でヤマジノギクより短い。従来、本変種は高知県の蛇紋岩地帯固有とされてきたが、最近では本県と愛知県県境付近に生育するものも本変種とされた。

2. 分布

日本固有変種で、本州 (静岡県、愛知県)、四国 (高知県) に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

蛇紋岩地帯の半裸地上や草地に生育する。

4. 生育状況

個体数が減少している。

5. 減少の主要因と脅威

生育する草地や裸地の遷移進行 (54) が減少の主要因である。

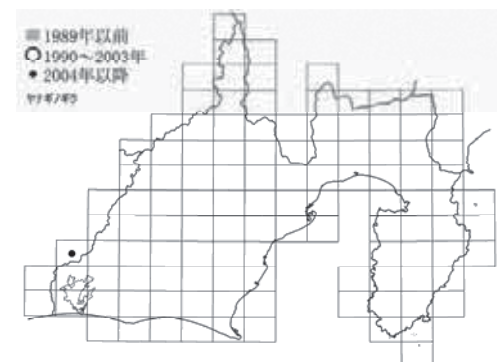
6. 保護対策

草地の保全のため、草刈りなど遷移抑制の対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 K.Miyazaki
浜松市北区 2012年11月5日 宮崎一夫



ヤナギタンポポ *Hieracium umbellatum* L.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。茎の高さ 30~120 cm。上部には短毛と星状毛が密生する。茎葉は多数互生し、披針形で長さ 4~12 cm、幅 5~12 mm で縁には少数の鋸歯がある。花期は 8~9 月。茎の先に散房状に径 3 cm 前後の頭花を 3~80 個つける。頭花は舌状花のみからなり花冠は黄色。瘦果は円柱形で、長さ 2.5~3 mm、黒褐色で 10 肋がある。

2. 分布

国外では北半球の冷温帯域に、国内では南千島、北海道、本州、四国に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

一般には冷温帯山地のやや湿ったところに生えるが、富士山では砂礫地に生える。

4. 生育状況

富士山とその周辺に生育するが産地及び個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の植生遷移 (54) が減少の主要因である。また、シカによる食害 (52-1) も脅威である。

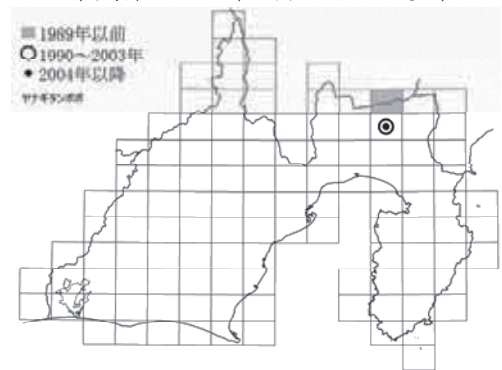
6. 保護対策

生育している草地の維持管理が必要である。

(湯浅保雄)



長野県 2019年9月27日 室伏幸一



タカサゴソウ *Ixeris chinensis* (Thunb.) Nakai

subsp. *strigosa* (H. Lév. et Vaniot) Kitam.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~50 cm。花茎は直立し、根出葉は線状披針形で長さ 8~24 cm。花期にもよく発達している。葉縁には疎歯状か羽状の欠刻がある。花期は 4~7 月。頭花は径 2~2.5 mm。小花は舌状花で 20~30 個。花冠は白色で、淡紫色の縁取りがある。瘦果は長さ約 6 mm で冠毛は純白色。

2. 分布

国外では、中国、朝鮮半島、台湾に、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

明るい乾いた草原。

4. 生育状況

かつては県内の草地に広く分布していたが、前回 (2004 年) 調査時には、掛川市内の 2ヶ所で確認されたにすぎず、今回の調査では全く確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

草原の開発 (16) や管理放棄 (54) による植生の変化が減少の主要因である。

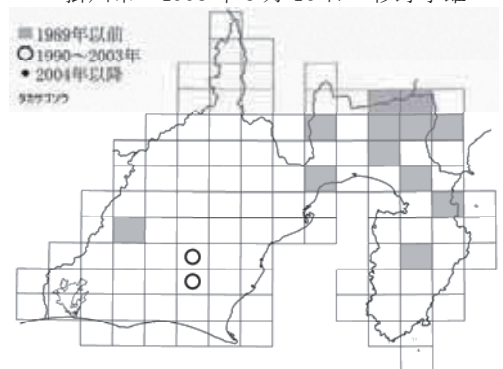
6. 保護対策

生育が確認できたら、その周辺を含めて草原化し、その維持管理を行うこと。

(湯浅保雄)



掛川市 1993年5月16日 杉野孝雄



クモニガナ *Ixeridium dentatum* (Thunb.) Tzvelev

subsp. *kimuranum* (Kitam.) J. H. Pak et Kawano

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~30 cm。根出葉は広楕円形。茎葉は茎を抱かない。有花茎の葉は線形である。花期は7月。頭花は黄色。シロバナクモニガナは白色で同じ扱いである。小花は8~12個ある。瘦果は長さ4~5.5 mm。近縁種のニガナは小花数が5~7個である。

2. 分布

日本固有亜種で、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯と高山帯下位の岩場や岩礫地の斜面で、乾燥した草地に生育する。

4. 生育状況

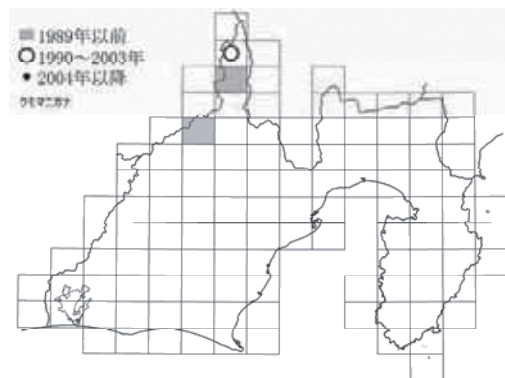
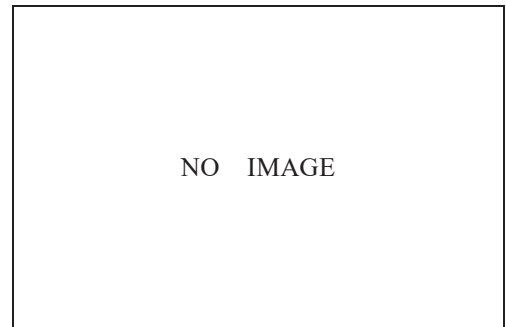
産地は南アルプスに局限する。産量はきわめて少ない。植生遷移の圧力を受けて、生育が衰退している。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。登山者の踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

登山道の迂回整備や登山者のマナーにより踏圧を回避する。
(宮崎一夫)



ホソバニガナ *Ixeridium beauverdianum* (H. Lév.) Springate

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。茎の高さ20~40 cm。根出葉は線状披針形で長さ5~15 cm、幅3~8 mm。茎葉はふつう3枚あるが茎を抱かない。花期は5~8月。頭花は黄色で直径約1cm。小花は5~6個。瘦果は長さ約3 mm、10肋がある。葉の幅は違うが、ニガナの茎葉は茎を抱き、似た環境に生えるノニガナの茎葉も矢尻状に茎を抱くので容易に区別できる。

2. 分布

国外では中国からヒマラヤに、国内では本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

湿地周辺の草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、旧浜北市の記録もあるが、現在は静岡市のみに見られる。

5. 減少の主要因と脅威

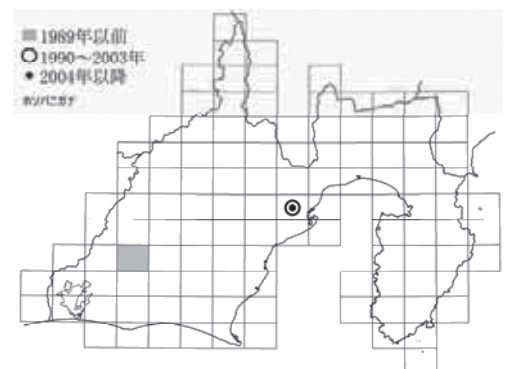
生育環境の湿地の減少(15)と植生遷移(54)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育している草地の維持管理が必要である。
(湯浅保雄)



静岡市 2019年7月11日 室伏幸一



ヤハズトウヒレン *Saussurea sagitta* Franch.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~45 cm。茎は細く、葉は茎の上方までつき、短い柄のある矢じり形の三角形で、長さ 6~8 cm、基部は茎に沿下する。根出葉は開花時にはない。花期は 8 月。頭花は径 1 cm、細長い柄の先につく。総苞は長さ 9~10 cm、総苞片は 6 列。花冠は淡紫色。

2. 分布

日本固有種で、本州（中北部）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯と高山帯の草原や岩石地。

4. 生育状況

調査不足により不明。

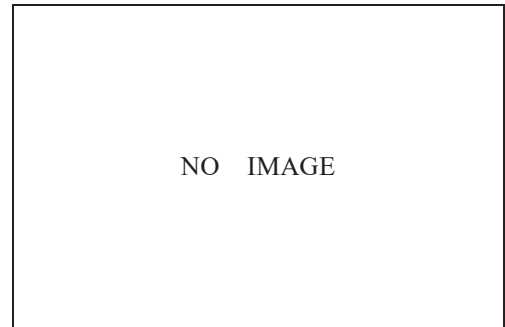
5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) と登山者による踏みつけ (51) が減少の主要因と考えられる。また、シカによる食害 (52-1) も脅威である。

6. 保護対策

登山者の生育地への立ち入りを制限し、シカによる食害を防ぐ対策を行うこと。

(湯浅保雄)



ハチジョウナ *Sonchus brachyotus* DC.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~100 cm。長い地下茎を出して繁殖する。葉は互生。広い披針形で縁には大小の鋸歯があり、基部は茎を抱く。茎とともに無毛で裏面は粉白色。花期は 8~10 月。頭花は径 3~3.5 cm。総苞は 1.6~2 cm で密に綿毛が生える。小花の花被片は黄色。瘦果は長さ 3.5 mm。両面に縦に走る数本の線がある。冠毛は長さ 1.3 mm で白色。

2. 分布

国外ではダフリア、アルタイ、サハリン、北クリール、中国、朝鮮半島に、国内では南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

荒れ地や海辺の砂地。

4. 生育状況

前回 (2004 年) 調査時では、生育範囲は増加したが個体数は減少していた。今回は調査不足で確認できなかった

5. 減少の主要因と脅威

生育環境の減少 (14) と他の海浜植物との競合 (56) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地の保全と競合する植物の除去が必要である

(湯浅保雄)



下田市 2004年9月11日 内藤宇佐彦



クサノオウバノギク *Crepidiastrum chelidoniifolium* (Makino) J. H. Pak et Kawano
(=クサノオウバノヤクシソウ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ15~45 cm。茎葉は長さ4~11 cm、幅1~5 cmで、質は薄く、羽状に全裂する。花期は8~11月。頭花には5個の小花がつく。花被は黄色。瘦果は紡錘形で長さ3.5~4 mm、先は0.5 mmほどの嘴となる。冠毛は白色。

2. 分布

国外では中国東北部、朝鮮半島に、国内では本州(栃木県、静岡県、三重県、奈良県)、四国に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

山地の岩上や岩の割れ目に生育する。

4. 生育状況

産地は限られていて、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)や管理放棄(53)による生育環境の変化。

6. 保護対策

生育地においては最適な生育環境を維持すること。

(湯浅保雄)



富士宮市 2010年10月17日 内藤宇佐彦



スルガヒョウタンボク *Lonicera alpigena* L. subsp. *glehnii* (F. Schmidt) H. Hara var. *viridissima* (Nakai) Nakai ex H. Hara

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

落葉低木。高さ2 mほど。枝には2または4個の稜がある。葉は長楕円形で長さ6~14 cm、幅1.5~4 cm。縁毛以外は毛が少ない。花期は6月。花冠は褐紅色で長さ約11 mm。液果は球形で2個が半ば以上合着して紅色に熟す。

2. 分布

日本固有変種で、本州(長野県、山梨県、静岡県)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から亜高山帯の林内や林縁。

4. 生育状況

産地は限られていて、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生の変化(54)が減少の主要因であるが、シカによる食害(52-1)も脅威である。

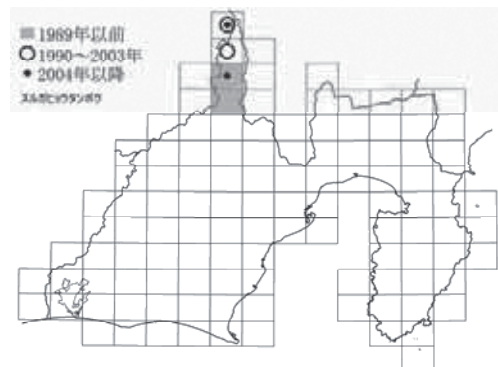
6. 保護対策

林内や林縁に多く生育するので、登山路の整備では注意すること。

(湯浅保雄)



静岡市 2000年7月21日 加藤 徹



チシマヒョウタンボク *Lonicera chamissoi* Bunge

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

落葉小低木。高さ1 m。枝は四角で中実。葉は楕円形で長さ2~5 cm、葉柄は短く、無毛で対生する。側脈は4~7対あり裏面に隆起する。花期は7月。花柄は長さ5~12 mm。花は濃紅紫色で、子房が癒着した2花をつける。花冠は2唇形で長さ8~12 mm。上唇は長さ6~7 mmで4裂する。液果は2個が合着して紅熟する。近縁種のスルガヒョウタンボク(エゾヒョウタンボク)は花が緑黄褐色から褐紅色である。

2. 分布

国外ではロシア(サハリン、カムチャツカ、アムール、オホーツク)に、国内では本州(中部以北)、北海道に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の日当たりがよく、岩礫が多いやや湿った凹地に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスで最も北の地域に局限している。産量はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)と登山者による踏圧(51)が主要因である。

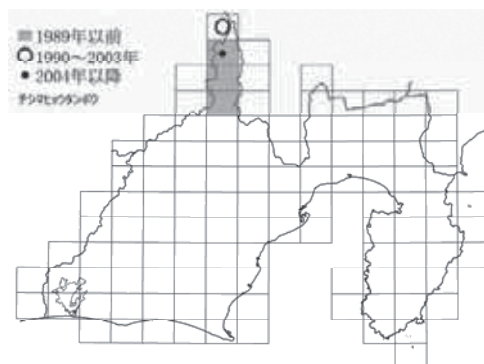
6. 保護対策

登山道を指定して、踏圧による影響を軽減する。

(宮崎一夫)



静岡市 2015年8月2日 加藤 徹



ニッコウヒョウタンボク *Lonicera mochidzukiana* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さ1.5 mに達する。若枝は四角で無毛。葉は卵形から披針形で先は短く尖る。長さ3~10 cm。幅1.5~6 cm。花期は5~6月。5~20 mmの花柄の先に2花をつける。花冠は唇形で長さ1 cm、白色で後に汚黄色を帯びる。液果は球形で長さ6~8 mm。7~8月に赤く熟す。変種のヤマヒョウタンボクは県西部の蛇紋岩地帯に分布し、葉はより小さく先があまり尖らない。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東地方、中部地方、近畿地方)に分布する。県内では中部(北部地域)に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から亜高山帯の樹林内及び林縁。

4. 生育状況

南アルプスの山麓に生育しているが、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)による生育環境の変化が主要因である。近年はシカによる食害(52-1)が脅威である。

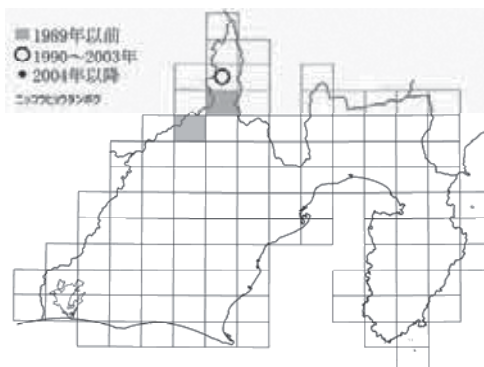
6. 保護対策

生育が確認されたら、その森林を伐採しないこと。林縁にも生育しているので登山路整備では注意が必要である。

(湯浅保雄)



静岡市 1992年6月21日 加藤 徹



ソナレマツムシソウ *Scabiosa japonica* Miq. var. *littoralis* (Nakai) T. Ohba

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更コード 8 スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー なし: 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。マツムシソウの変種で、丈が低く高さ10~25 cmである。葉は革質でマツムシソウより厚い。花期は8~12月。

従来、マツムシソウの品種として扱われていたが須山他(2008)によって変種とされた。アシタカマツムシソウも同一の分類群とされている。最近では白鳥ほか(2017)によって、ソナレマツムシソウとアシタカマツムシソウは同一のものともみなすことはできないとの見解がある。

2. 分布

日本固有変種で、本州(関東地方、静岡県)に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

海岸や山地の開けた草地や礫地に生育する。

4. 生育状況

下田市に生育する。個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の草地開発(16)や他の草本類の繁茂(54)で生育場所が減少している。園芸採取(54)も脅威である。

6. 保護対策

生育場所の保護と植生の遷移抑制のための維持管理が必要である。園芸採取を防止するため産地情報の管理も必要である。(内藤宇佐彦)



下田市 2014年8月30日 内藤宇佐彦



ミシマサイコ *Bupleurum stenophyllum* (Nakai) Kitag.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

セリ科 Apiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~70 cm。茎は上部で多数分岐する。葉は長さ4~15 cm、質硬く、平行脈があり、細長く白緑色。根出葉は下方がしだいに細くなり柄にうつり、茎葉は無柄、葉先は尖る。花期は8~10月。黄色の花をつける。

三島のある薬種問屋から、解熱剤として大量に採取、出荷されていた。和名は集散地の三島に由来する。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州、四国、九州、対馬に分布する。県内では、伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯、暖帯の日当たりのよい、やや乾いた草地に生育する。

4. 生育状況

各地に点在する。個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

薬草として大量に採取されていた(41)。草原の減少(16)、植生遷移(54)も影響している。

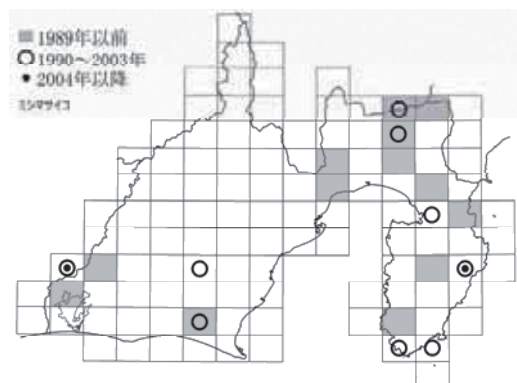
6. 保護対策

自生地の定期的な草刈りが必要である。薬草としての採取・出荷を禁止すべきである。

(西口紀雄)



浜松市 2013年10月6日 宮崎一夫



ホソバハナウド *Heracleum lanatum* Michx. subsp. *akasmontanum* (Koidz.) Kitam.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

セリ科 Apiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠA類 (CR)]

1. 種の解説

越年草～多年草。茎の高さ 60～100 cm。葉は羽状複葉で小葉は 5 個。小葉はさらに深く分裂する。裂片は披針形で先は鋭く尖る。花期は 7～8 月。散形花序に多数の白色の花をつける。花弁は 5 個、雄蕊 5 本、花序周辺の花は他より大きな花弁をつける。大きな花弁は深く 2 つに分かれる。果実は扁平で大きく、上部に 4 本の線状模様がある。

2. 分布

日本固有亜種で、本州（山梨県、長野県、静岡県）に分布する。県内では中部（南アルプス一帯）に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から亜寒帯の草地や林縁。

4. 生育状況

広く生育しているが、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

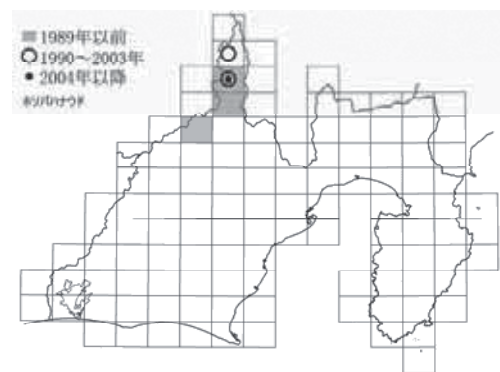
植生遷移 (54) が減少の主要因である。近年はシカによる食害 (52-1) が脅威である。

6. 保護対策

シカによる食害を防ぐこと。



静岡市 2015年8月23日 湯浅保雄



(湯浅保雄)

テンリュウヌリトラノオ *Asplenium shimurae* (H. Itô) Nakaike

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更コード 1, 18

チャセンシダ科 Aspleniaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

小～中型の常緑性シダ。ヌリトラノオに似るが葉が細長く、無性芽は中軸の途中に付き、先端にもつける。

以前はヌリトラノオの変種として扱われていたが、最近の研究で独立種として扱われている。旧佐久間町が基準産地である。

2. 分布

国外では中国、ネパール、ブータン、ハワイ、アフリカに、国内では本州 (福井県・静岡県・紀伊半島)、四国、九州 (熊本県・宮崎県) に分布する。県内では西部 (天竜川中流域) に分布する。

3. 生育環境

暖帯上部の陰湿な谷間の崖地。本種はヌリトラノオ類の中では最も陰湿な場所に生育する。

4. 生育状況

浜松市天竜区に生育する。産地は限られて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

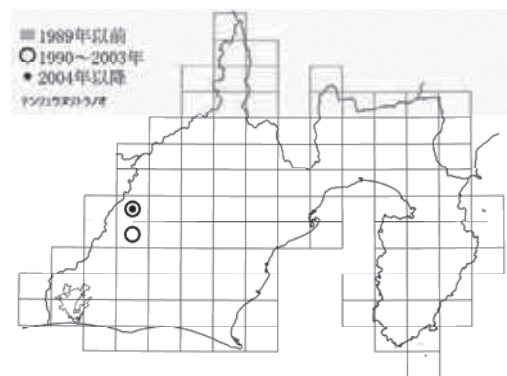
山林伐採 (11) や林道工事 (24) などによる生育地の消失、生育環境の悪化 (71) で個体数が減少する危険性が高い。

6. 保護対策

生育地の森林保護が必要である。 (内藤宇佐彦)



浜松市 2017年2月18日 内藤宇佐彦



ジュンサイ *Brasenia schreberi* J. F. Gmel.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ジュンサイ科 Cabombaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

浮葉性の多年草。茎、葉柄、葉裏は粘液物質に覆われる。葉は楕円形で長径5～10 cm、水面に浮かび、根茎から伸びた長い葉柄が盾状につく。花期は6～8月。花は水面上に開き紫褐色で径2 cm。雌性先熟で1日目は雌性期で2日目は雄性期である。近似種はないが、ヒメシロアサザの葉は湾入して、葉柄は盾状につかない。

2. 分布

国外では北アメリカ、東・南アジア、西アフリカに、国内では北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部と伊豆に分布する。

3. 生育環境

低地の日当たりがよく、水底に有機物が堆積していて、水質がやや酸性の池に生育する。

4. 生育状況

産地は伊豆と西部に点在する。産量はやや多い。趣向のある山菜であるが、生育の脅威となるほどには採取はされていない。

5. 減少の主要因と脅威

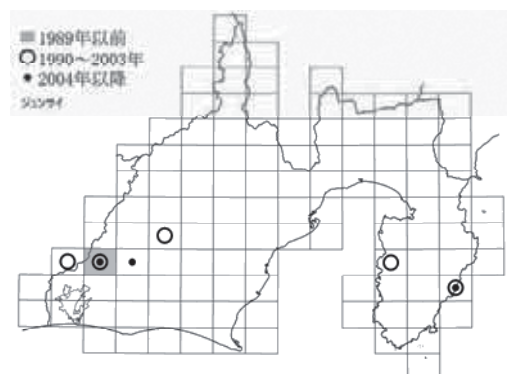
池の法面崩壊 (71) や農薬汚染 (32) が脅威である。

6. 保護対策

池の保存と減農薬に努める。 (宮崎一夫)



浜松市 2015年6月20日 内藤宇佐彦



オトメアオイ *Asarum savatieri* Franch.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ウマノズクサ科 Aristolochiaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

常緑多年草。葉身は卵形または楕円形。長さ6~12 cm。幅5~9 cm。基部は心形。表面は光沢なく毛を散生する。花期は6~8月。萼筒は丸みを帯びた筒形。上部で少しくびれる。喉部に口環がある。萼筒内部の縦皺は12~18本、網目状になる。花は年を越し翌年の5~6月に結実する。花と普通葉は一年おきに交代して形成される特徴がある。

2. 分布

日本固有種で、本州 (神奈川県、静岡県) に分布する。県内では伊豆と東部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯の樹林下に生育する。

4. 生育状況

スギやヒノキの植林地が放置され、林床が暗くなり生育環境が悪化している。また、シカによる食害で、個体数の減少とともに、葉も小さくなり開花個体も減少している。

5. 減少の主要因と脅威

植林地の管理放棄 (53) とシカによる食害 (52-1)、園芸用採取 (41) が減少の主要因である。

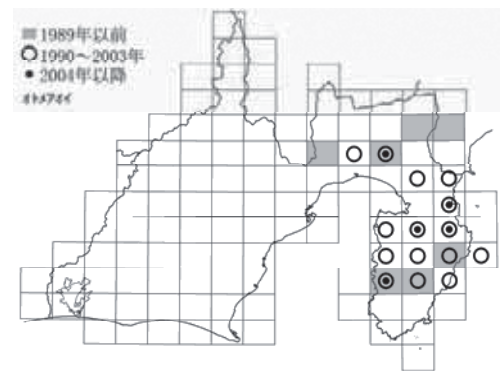
6. 保護対策

植林地の除間伐を行うことと、シカによる食害を防ぐための柵を設置すること。

(湯浅保雄)



長泉町 2013年8月24日 内藤宇佐彦



エビアマモ *Phyllospadix japonicus* Makino

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

アマモ科 Zosteraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

沈水性の多年草。根茎も節間も短く、節から多数の根を出し、密生する根毛により岩に固着する。葉は線形で長さ20~100 cm、幅1~3 mm、乾くと黒変する。春株から短い花柄を出し、3~4 cmほどの総苞内に肉穂花序を作る。雌雄異株。雄株の花序は雄蕊が互生に2列に並ぶ。雌株の花序は雌蕊と仮雄蕊が縦に交互に並ぶ列が2列できる。

2. 分布

日本固有種で、本州中部以西と九州北部に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

波のあらい深さ1~6 mの岩礁上に生育する。

4. 生育状況

産地は限られている。海岸の開発や整備で生育地が減少した可能性がある。

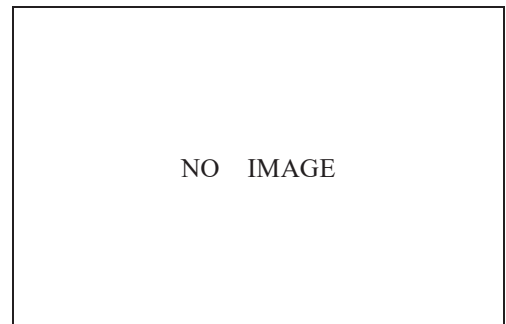
5. 減少の主要因と脅威

海岸の整備 (14) による生育地の減少が主要因であろうが、海中に生育するため調査不足による確認数の減少も十分にあり得る。

6. 保護対策

海岸の整備や開発を計画したら、事前に調査を行い、生育が確認されたら保護策を立てること。

(湯浅保雄)



コアマモ *Zostera japonica* Asch. et Graebn.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

アマモ科 Zosteraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

沈水性の多年草。根茎は細く直径0.5~1.5 mmで横に這い、節から根と、葉だけをつける枝と、花序をつける枝とを出す。葉は長さ10~40 cm、幅1~2 mm。花期は気候や水面の季節的变化によって異なる。花茎は直立し、花序は1.5~2.5 cmで葉鞘に包まれている。種子は心皮内に1個で、種皮は褐色で硬く平滑である。

2. 分布

国外では東アジア (ロシア極東部、サハリン、中国、朝鮮半島、ベトナム北部) に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

水深1 m以下の内海や河口。海水や汽水の砂・砂泥地。

4. 生育状況

沼津市・御前崎市・浜名湖に生育するが、前回 (2004年) の調査、今回の調査とも浜名湖でしか確認されなかった。ただし、調査不足もあると思われる。

5. 減少の主要因と脅威

海底、湖底の環境変化と水質汚染 (31) が減少の主要因であると考えられる。

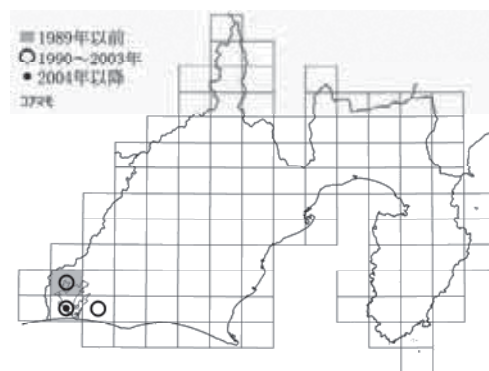
6. 保護対策

水質の汚染、汚濁を防ぐ対策を講じること。

(湯浅保雄)



浜松市 2017年11月14日 花井孝之



シラン *Bletilla striata* (Thunb.) Rchb. f. var. *striata*

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~70 cm。根茎は肥厚し横臥する。葉は数個が互生し披針形で、縦に皺があり長さ20~30 cm。花期は4~5月。花は紫紅色ときに白色で3~7個つける。萼片と側花弁は狭長楕円形で長さ2.5~3 cm。唇弁は先が3裂して、中裂片は円形で縦の皺が5個ある。距はない。近似種のエビネは葉が長楕円形である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州 (福島県以西)、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の丘陵地で日当りのよい湿った草地に生育する。園芸栽培もされる。

4. 生育状況

産地は特に西部に多い。産量が多い。園芸採取の影響も少なく生育は良好である。逸出か自生か判断が困難な生育地もある。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) が主要因である。

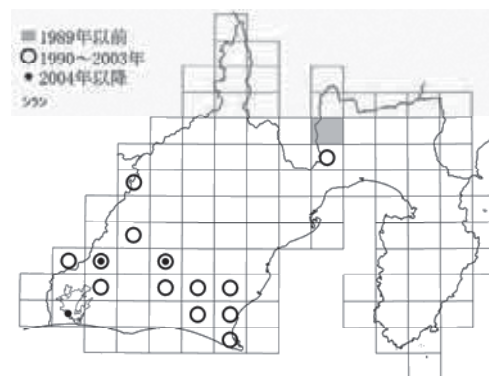
6. 保護対策

植生遷移を抑制するなど、環境に応じて善処することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2014年5月3日 宮崎一夫



マメツタラン *Bulbophyllum drymoglossum* Maxim. ex Okubo

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

常緑多年草。樹木などに着生する。茎は糸状で硬く、横に伸びてところどころから根を出す。葉は下部に肥厚した部分がなく、多肉な革質の卵円形。長さ0.7~1.3 cm。花期は5~6月。花は淡黄色で径1 cm、葉腋からごく細い花茎を出して1個をつける。唇弁は広披針形で反曲する。近縁種のムギランは卵形に肥厚した偽球茎の上端から1個の葉を出し、葉は倒披針形で長さ1~3 cmである。

2. 分布

国外では台湾、朝鮮半島、中国に、国内では本州（福島県以南）、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯山地の樹上や岩上に着生する。

4. 生育状況

産地は中部と西部に多い。産量は多い。樹上の高所や岩塊に着生するので、正確には不明であるが、落枝についている状況から生育は良好と推測される。

5. 減少の主要因と脅威

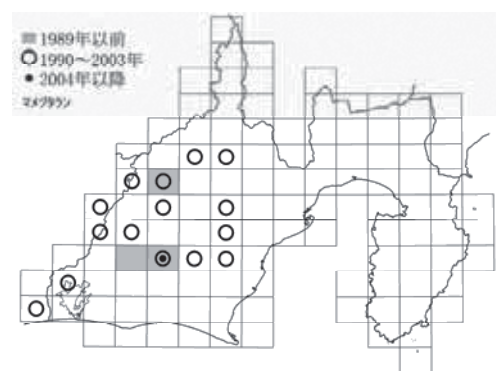
森林伐採(11)が主要因である。園芸採取(41)も多少の脅威である。

6. 保護対策

古木の伐採はしないで保存する。(宮崎一夫)



浜松市 1994年5月21日 宮崎一夫



ムギラン *Bulbophyllum inconspicuum* Maxim.

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

常緑多年草。樹木などに着生する。根茎は細くてやや硬く這う。偽球茎は卵形で長さ4~7 mm、先端に厚い1葉がつく。葉は長楕円形で長さ10~35 mm、先は鈍頭。花期は6~7月。花序は側生し、黄白色の花を1~3個つける。萼片と側花弁は卵状楕円形で3~4 mm、縁に毛がある。唇弁は狭卵形で反曲する。近縁種のミヤマムギランは葉の長さが40mm以上あり、先が鋭尖である。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州（宮城県以南）、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の樹幹や岩上に生育する。

4. 生育状況

産地は中部と西部に多い。産量は多い。生育状況は群生する割には開花数が少ない。

5. 減少の主要因と脅威

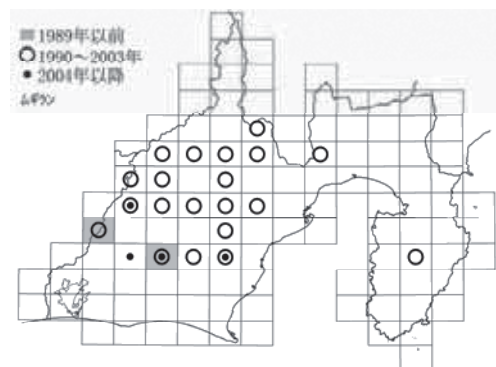
森林伐採(11)や風倒木が主要因である。岩塊の崩壊(55)や園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

着生している樹木の伐採を回避することが重要である。(宮崎一夫)



島田市 2015年6月28日 斉藤 猛



ミヤマムギラン *Bulbophyllum japonicum* (Makino) Makino

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

常緑多年草。樹木などに着生する。高さ1~5 cm。茎は匍匐分枝する。偽球茎は卵形で長さ6~8 mm、先端に1葉をつける。葉は常緑の革質で長さ4~8 cm。葉先は鋭尖。花期は6~7月。花茎は茎の基部から側生して3~5個の花をつける。花は暗紅紫色ときに黄色。唇弁は厚く長さ3 mm。近縁種のムギランは葉の長さが35mm以下で、先が鈍頭である。

2. 分布

国外では台湾、中国に、国内では本州（静岡県以西）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の山地で雲霧がかかる山中の、多くは岩上であるが樹幹にも着生する。

4. 生育状況

産地は西部のみでやや少ない。産量はやや少ない。生育状況は群生する割には開花数が少ない。

5. 減少の主要因と脅威

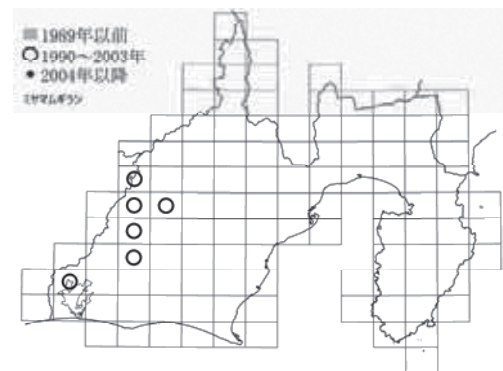
園芸採取 (41) が主要因である。岩石の崩壊 (71) や樹木の伐採 (11) と倒木や落枝 (54) も脅威である。

6. 保護対策

着生している樹木の伐採を回避することが重要である。
(宮崎一夫)



浜松市 2004年7月11日 杉野孝雄



エビネ *Calanthe discolor* Lindl.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

常緑多年草。高さ30~40 cm。偽球茎は球形で径2 cm。葉は2~3個あり、長楕円形で長さ15~25 cm、縦に5本の脈がある。花期は4~5月。花茎の半ばより上に多数の花をつける。萼片と側花弁は暗褐色。唇弁は淡紅色から白色で3深裂し、中裂片は2浅裂する。距は長さ5~10 mm、湾曲する。果実は卵状楕円形で長さ2.5~3 cm、下垂する。近縁種のサルメンエビネは距がない。

2. 分布

国外では中国に、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯下位の山地の林下に生育する。

4. 生育状況

産地は高山帯と亜高山帯を除いて広範囲にあり、多い。産量はきわめて多い。生育状況は単生から群生まであり、近年は目立った減少がなく、植林の林床に多く生育する。

5. 減少の主要因と脅威

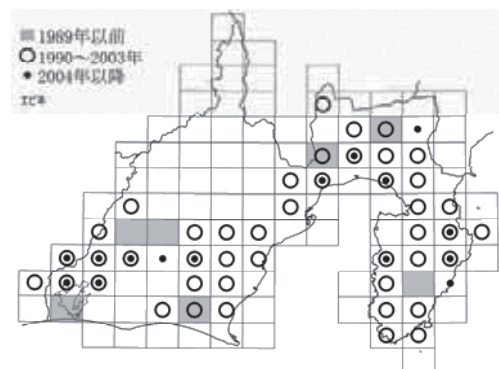
園芸採取 (41) が主要因である。森林伐採 (11) も脅威である。

6. 保護対策

森林伐採の際には、悪影響を低減するとともに、移植して代償措置を行う。
(宮崎一夫)



浜松市 2014年5月10日 宮崎一夫



キンラン *Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~80 cm。根はやや太く球はない。葉はやや厚く5~8個が互生し長さ8~15 cm、茎を抱き、葉脈が隆起して目立ち、透かすと5白線とその中に5~7個の緑線がある。花期は4~5月。茎の上部に総状花序に鮮黄色の花を3~12個つける。花は上向きに半開して長さ14~17 mm。唇弁に黄褐色の肥厚した隆起条がある。距は筒形。近縁種のギンランの葉は薄く、距は円錐形。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯の山野の林下に生育する。

4. 生育状況

産地は高山帯と亜高山帯を除いて広範囲にあり多い。産量はきわめて多い。生育状況はよいが園芸採取により株数が減少している。

5. 減少の主要因と脅威

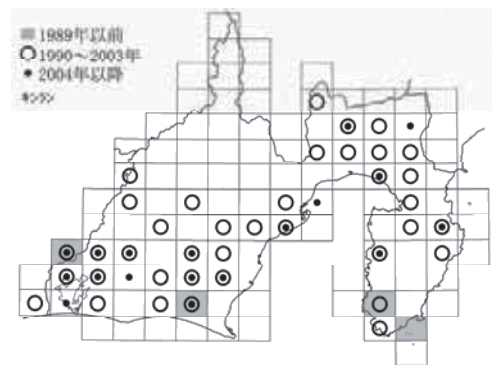
園芸採取(41)が主要因である。植生遷移(54)も脅威である。

6. 保護対策

自然産物は共有の財産であり、多くの県民が観賞できるように、保護を啓発することが重要である。(宮崎一夫)



浜松市 2008年4月30日 宮崎一夫



セッコク *Dendrobium moniliforme* (L.) Sw.

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

常緑多年草。樹木などに着生する。高さ5~25 cm。茎は肉質な円柱形で節があり、基部から新苗が出て叢生する。葉は2年生で厚く披針形で長さ4~7 cm。花期は5~6月。3年目の葉が落ちた茎の上部の節に、白色または淡紅色の花を1~数個つける。萼片は披針形で長さ22~25 mm。唇弁は狭卵状三角形で中央に多数の短毛がある。近縁種のキバナノセッコクは花期が6~11月で、花が淡黄緑色である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国、ヒマラヤに、国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の巨木の樹上又は岩壁上に生育する。

4. 生育状況

産地は広範囲にあり多い。産量が多い。神社の境内の保存樹に着生することが多い。園芸採取により減少している。

5. 減少の主要因と脅威

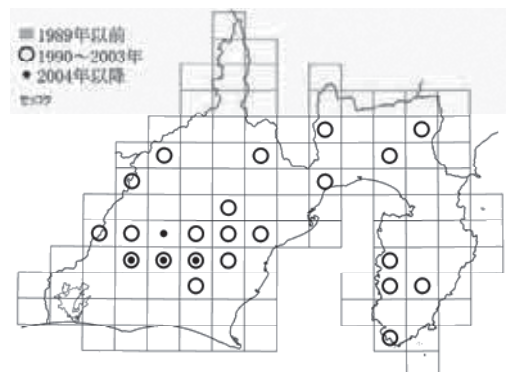
園芸採取(41)が主要因である。森林伐採(11)や風倒木・落枝(71)も脅威である。

6. 保護対策

巨樹古木は歴史的な価値が高く、動植物の住み家でもあり保存することが重要である。(宮崎一夫)



周智郡森町 2016年11月4日 宮崎一夫



タシロラン *Epipogium roseum* (D. Don) Lindl.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

菌従属性栄養の多年草。高さ 20~50 cm。地下茎は楕円形。茎は白黄色。葉は黄白色で、退化して鞘状である。花期は5~7月。花は白色で総状花序につく。萼片、側花弁、唇弁はともに長さ8~12 mm。唇弁は広卵形で紫紅色の細点を散りばめ背面が著しくふくれ、内面の中央に2条のとさか状の隆起がある。距は長楕円形で4 mm。

2. 分布

国外では熱帯アフリカ、アジア、オセアニアに、国内では本州（関東以西）、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

熱帯、暖帯、温帯の、常緑樹の腐葉土が多くて薄暗い林床に生育する。

4. 生育状況

産地は低地に多い。産量は多い。近年では新産地の確認情報が増えている。年による発生や株数の消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

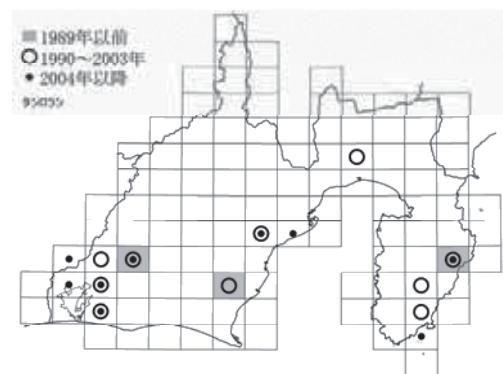
森林伐採 (11) が主要因である。

6. 保護対策

常緑広葉樹林を保全することが重要である。(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2012年7月11日 宮崎一夫



クロヤツシロラン *Gastrodia pubilabiata* Y. Sawa

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

菌従属性栄養の多年草。高さ1~3 cm。花期は9~10月。茎の先端に1~8個の花を散形状につける。花は帯紫褐色でわずかに臭い匂いがある。萼と側花弁は合着して、先が分かれて平開し、径15~20 mm。唇弁の先端付近に2個の三角状の突起があり、内面にクリーム色の毛を密生する。近縁種のアキザキヤツシロランは生育環境も花期もほぼ同じであるが、花が平開しないで唇弁に毛がない。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州（関東以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の竹林や常緑樹林下に生育する。

4. 生育状況

産地は西部を主として多い。産量はやや多い。古い竹藪の適湿で朽ちた竹の林床に生育することが多い。産地及び産量は年による消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

竹林の伐採 (11) や開発 (23) が主要因である。

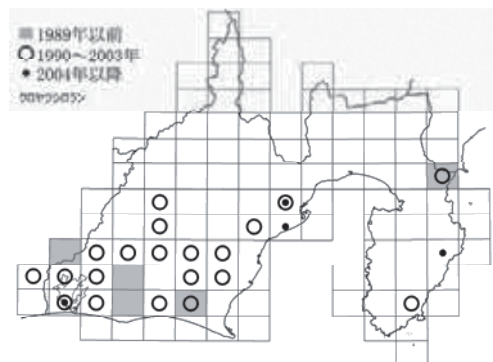
6. 保護対策

竹林は強い繁殖力で勢力を広げ里地や植林地に悪影響を与えているが、竹林を生活の場として先住権をもつ生物が住んでいるので、開発は慎重に配慮することが重要である。

(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2013年10月4日 宮崎一夫



ウスギムヨウラン *Lecanorchis kiusiana* Tuyama

(=ウスキムヨウラン)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ 10~25 cm。地上茎は直立し、黄褐色であるが乾くと黒色となる。花期は 5~6 月。花は茎頂にまばらに数個つけて、淡黄色、長さ 1 cm 未満で半開する。唇弁中片の内面に紅色の毛がある。

2. 分布

国外では台湾、韓国 (済州島) に、国内では本州 (関東地方以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地や低山地の常緑広葉樹林内に生育する。

4. 生育状況

中部と西部に広く生育し群生地もある。森林の伐採で減少している。

5. 減少の主要因と脅威

生育地である森林の伐採 (11) が減少の主要因である。

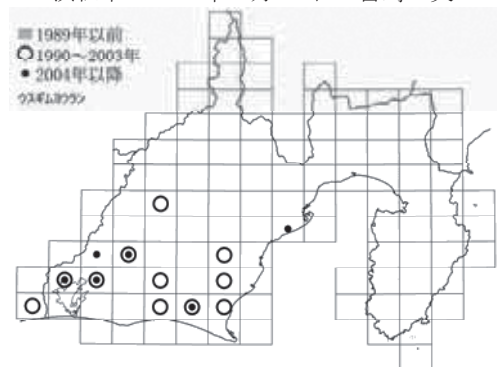
6. 保護対策

生育地の森林の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2017年5月31日 宮崎一夫



ミクリ *Sparganium erectum* L. var. *coranum* (H. Lév.) H. Hara

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ガマ科 Typhaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

抽水性の多年草。高さ 50~150 cm。地下茎は横に這い、先に新苗をつける。葉は水中から抽出して、2列生し線形で直立し、断面は三角形である。花期は 6~8 月。雌雄同株。花茎は分枝して、下部に雌性の頭花を 1~3 個つけ、上部に雄性の頭花を 2~数個つける。集合果は緑色の球形で径 15~20 mm。果実は倒卵形で長さ 6 mm。近縁種のヒメミクリは高さ 30~60 cm、果実が倒卵形で長さ 4 mm。

2. 分布

国外ではアジア、ヨーロッパ、北アフリカに、国内では北海道、本州、四国、九州に、県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

低地の湧水が流入し、泥土が堆積した川や池沼の水湿地に生育する。

4. 生育状況

産地は中部と西部にあり多い。産量は多い。株数の割に開花株は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

河川改修 (13) が主要因である。洪水 (55) も一時的に生育の脅威である。

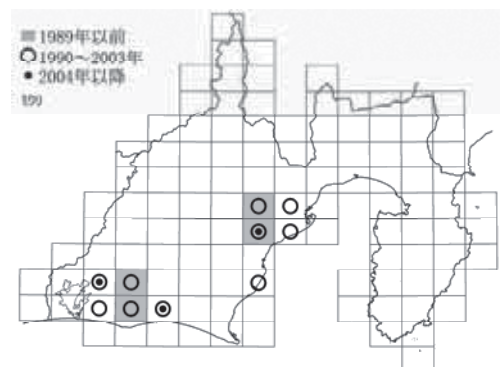
6. 保護対策

河川改修する時には、一旦、別の適地やバケツに移植しておく、改修後に植え戻して復元する。

(宮崎一夫)



浜松市 2013年6月9日 宮崎一夫



ナガエミクリ *Sparganium japonicum* Rothert

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ガマ科 Typhaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

抽水性の多年草。高さ70~130 cm。葉は2列生し、断面は三角形である。花期は6~9月。雌雄同株。花序は腋生で分枝しない。花序の雌頭花は3~7個つき、下方の雌頭花は柄がある。上方に柄のない雄頭花が数個つく。集合果は球形で径1.5~2 cm。果実は短柄があり紡錘形で長さ5 mm。近縁種のタマミクリは果実の中央部分がくびれる。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部、中部、東部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

湧水が流入する小川の泥土が堆積した所に生育する。

4. 生育状況

産地は多い。産量はきわめて多い。流速が速いと開花をする株は少ないが、栄養繁殖していて群生している。

5. 減少の主要因と脅威

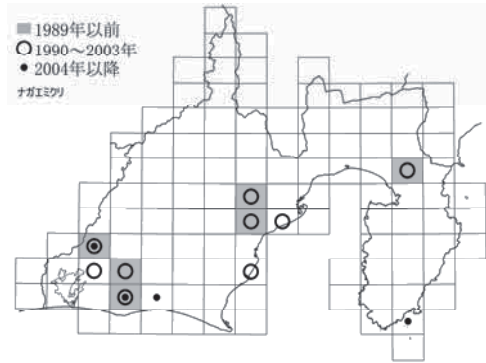
河川改修(13)が減少の主要因となる。水質の悪化(31)や水量の減少(71)も脅威である。

6. 保護対策

河川改修をする時には、一旦、別の適地やバケツに移植しておき、改修後に植え戻して復元する。(宮崎一夫)



袋井市 2014年7月19日 宮崎一夫



クロイヌノヒゲ *Eriocaulon atrum* Nakai

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) : 変更コード1

ホシクサ科 Eriocaulaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草。葉は線形で長さ2~10 cm、中部の幅1~3 mmで根部から叢生する。花茎は高さ5~12 cm、4~5肋ある。花期は8~9月。頭花は径3~4 mmある。総苞片は卵状披針形で上部は黒色を帯びる。花床は無毛である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ヒマラヤに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。伊豆に記録のあるものはツクシクロイヌノヒゲである。

3. 生育環境

低山地のため池の畔の湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市北区に生育する。産地は限られて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

本県では生育地や生育環境が限定され(61)、存続の危険性が高い植物である。生育地であるため池の埋め立て(12)や、周辺の湿地の遷移進行(54)で消失の危険性が高い。

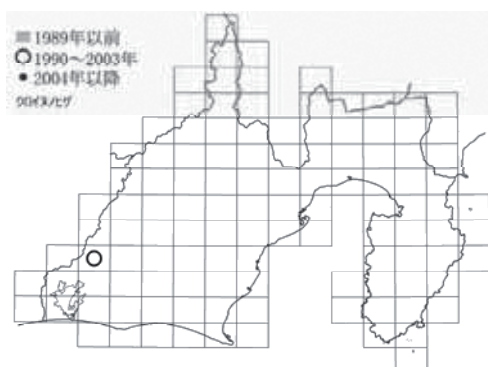
6. 保護対策

生育地の保護と周辺の湿地の維持管理が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1996年9月16日 内藤宇佐彦



クモマスズメノヒエ *Luzula arcuata* (Wahlenb.) Sw.
subsp. *unalaschkensis* (Buchenau) Hultén.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし イグサ科 Juncaceae
[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~25 cm。葉は先が硬質化しないで鋭形。花期は 7~8 月。花序は小枝が細く垂れ下がる。花は 1~3 個ずつつき長さ 2 mm、暗褐色で上方淡色、小苞は辺毛があり、花被片は鋭尖する。蒴果は花被と同長。近似種のタカネイは葉の先が硬質化して鈍形。

2. 分布

国外では千島、朝鮮半島、中国、北米、北欧に、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

高山帯の乾いた岩地や砂礫地に生育する。

4. 生育状況

南アルプスの広範囲で記録がある。近年の産地では東岳の確認情報がある。産量は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) の進行が要因と思われる。

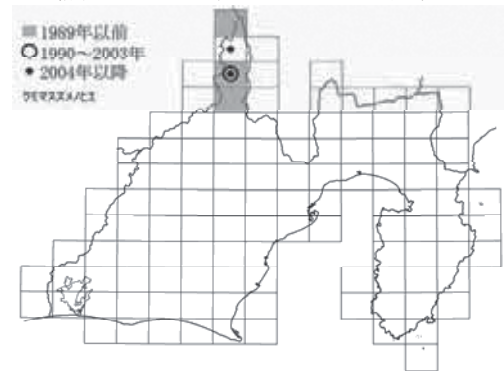
6. 保護対策

確認産地は登山道を迂回するなど状況にあった整備をする。

(宮崎一夫)



静岡市 2018年7月26日 室伏幸一



センダイスゲ *Carex lenta* D. Don var. *sendaica* (Franch.) T. Koyama

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更コード 4 カヤツリグサ科 Cyperaceae
[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~30 cm。ナキリスゲに似る。根茎は横に這う。果期は 9~10 月。小穂は苞の鞘内から 1~3 個出て、雌雄性であり、上方に短く雄花がつきその下に雌花をつける。果胞は広楕円形である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

海岸付近の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

下田市に生育する。生育地は限られていて個体数は少ない。近年、県内において新たに分布が確認された。

5. 減少の主要因と脅威

海岸付近の遊歩道沿いに生育するので歩道整備 (14) などによって生育地が消失する危険性がある。

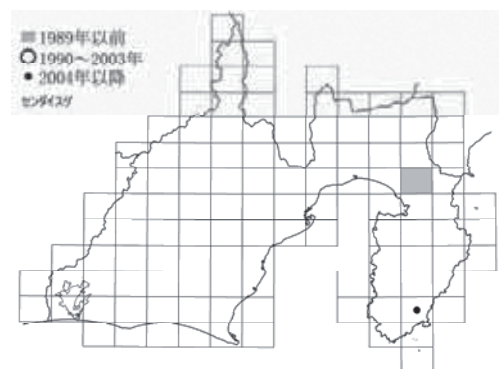
6. 保護対策

遊歩道整備の際には本種を認識し、生育地の保護に努める必要がある。

(内藤宇佐彦)



下田市 2013年11月2日 内藤宇佐彦



ヒメコヌカグサ *Agrostis valvata* Steud.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~70cm。稈はやや多数束生し、細くて柔らかい。葉身は扁平で毛はなく、幅 3~5 mm。花期は 5~6 月。円錐花序の枝は半輪生で、長さ 2.5~3 mm の小穂をまばらにつける。小花は苞穎と同長かより少し長く、小花が散ったのちも柄上に苞穎が残る。芒はない。

2. 分布

日本固有種で、本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の林内や林縁の湿地に生育する。

4. 生育状況

西部に点在する。

5. 減少の主要因と脅威

生育地は開発されやすい湿地なので、減少傾向にある (15)。

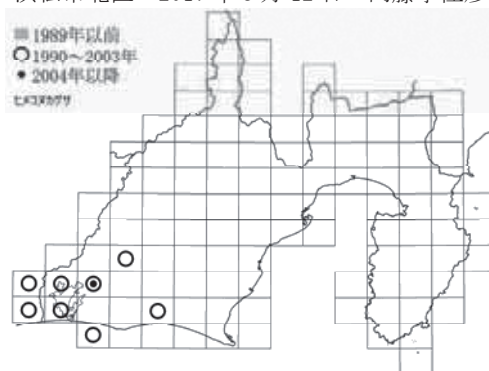
6. 保護対策

土地開発の際には事前調査とその保護対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市北区 2017年5月12日 内藤宇佐彦



ヤマシャクヤク *Paeonia japonica* (Makino) Miyabe et Takeda

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ボタン科 Paeoniaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~50 cm。茎は無毛で基部に鞘状の鱗片がある。葉は 2 回 3 出複葉。花期は 4~6 月。花は茎頂に 1 個で径 5~10 cm。萼片は緑色卵形、ふつう 3 個。花弁は白色、5~7 枚。雌蕊は 2~3 個。柱頭はやや外曲する。袋果は湾曲する。近縁種のベニバナヤマシャクヤクは頂小葉の先が鋭形または鈍形で、雌蕊は 3~5 個。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の低山から温帯山地で夏緑性広葉樹林の林床や林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は県内に広くある。産量が多い。園芸採取により減少の一途を辿っている。

5. 減少の主要因と脅威

園芸対象種としての採取 (41) が主要因である。森林伐採 (11) も脅威である。

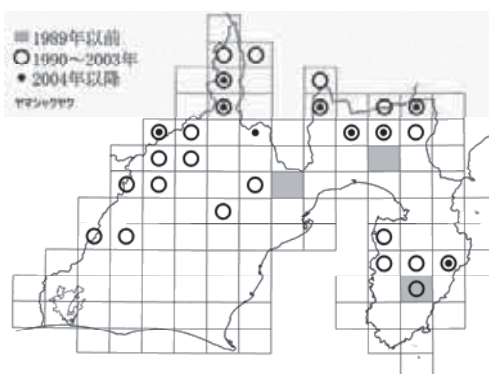
6. 保護対策

産量が減少しないうちに一部は一般人に公開して観賞できるように保護整備する。

(宮崎一夫)



富士宮市 2014年5月21日 宮崎一夫



キバナハナネコノメ *Chrysosplenium album* Maxim. var. *flavum* H. Hara

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ユキノシタ科 Saxifragaceae

[2004年版カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 2~7 cm。根際の茎は花後に伸長する。花茎は白色の軟毛があり、茎葉は 1~2 対を対生する。葉身は扇状円~円腎形で、長さ 1~8 mm、幅 2~9 mm。花期は 3~4 月。萼片は直立して長卵形、先端が尖り、黄色である。

2. 分布

日本固有変種で、本州 (静岡県、愛知県、岐阜県、長野県) に分布する。県内では西部、中部に分布する。

3. 生育環境

山地の沢沿いの岩上に生育する。

4. 生育状況

北部山地の各地に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採 (11) や林道の建設 (24) などで減少傾向にある。

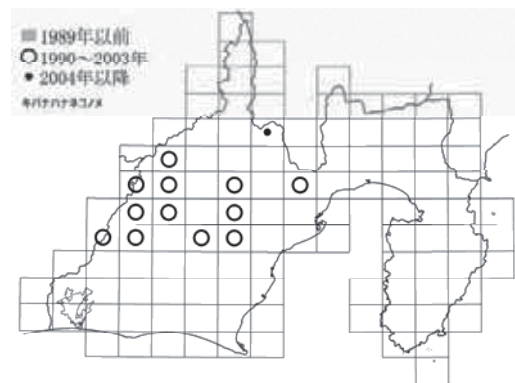
6. 保護対策

生育地である森林の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito
浜松市天竜区 2001年4月8日 内藤宇佐彦



ムカゴネコノメソウ *Chrysosplenium maximowiczii* Franch. et Sav.

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ユキノシタ科 Saxifragaceae

[2004年版カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 3~15 cm。地中性の走出枝の先端に長さ 1 cm ほどの珠芽が出来る。地上性の走出枝にはふつう葉がつく。花茎は前年に地中にできた珠芽から出て、白毛がまばらにつく。茎葉は 2~3 対が対生または一部互生する。葉身は卵円~広倒卵形で長さ幅とも 4~18 mm。花期は 3~4 月。花序はまばらに少数の花をつける。萼裂片は直立し、広卵形で緑色または淡緑色。

2. 分布

日本固有種で、本州 (関東・東海地方) に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

暖温~冷温帯のやや湿った樹林下。

4. 生育状況

産地は少なく、山地の開発などにより減少している。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採 (11) による急激な環境変化や人工林の管理放棄 (53) による下層植生の増加が減少の主要因である。またシカによる踏みつけ (52-1) も脅威である。

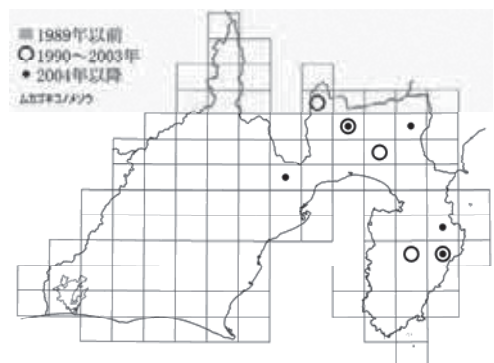
6. 保護対策

生育地とその周辺の植生管理が必要である。

(湯浅保雄)



©2020 K.Murofushi
静岡市 2013年3月27日 室伏幸一



ツメレンゲ *Orostachys japonica* (Maxim.) A. Berger

[静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし]

ベンケイソウ科 Crassulaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年性。多肉植物。高さ10~30 cm。葉は多肉の披針形で長さ2.5~6 cm、先端が鋭く尖る。花期は10~11月。花茎は直立し、塔状。萼片は披針形で長さ2 mm。花弁は白色の披針形で長さ5~6 mm。蜜腺は四角形で長さ0.7 mm。葯は暗紅紫色。ロゼットで越冬して、開花した株は枯れる。近縁種のイワレンゲは葯が黄色である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州（関東以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

海岸から山地の日当たりのよい岩上に生育する。古い茅葺きや瓦の屋根、山里の民家を囲う石垣にも生育する。

4. 生育状況

産地は伊豆と西部に多い。産量は多い。ロゼットも多く生育は安定しているが、園芸採取の影響がある。

5. 減少の主要因と脅威

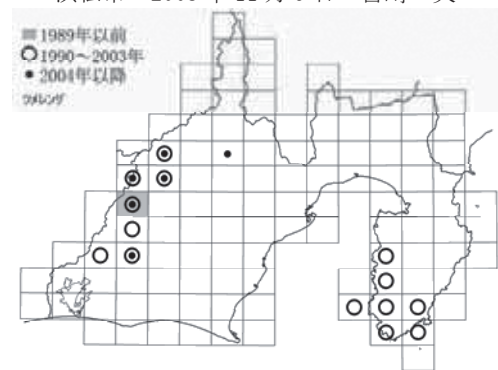
道路の拡幅(24)など工事による生育地の破壊が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

道路の拡幅工事や、金網や吹きつけによる落石防止の工事による悪影響を回避する。(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2008年11月9日 宮崎一夫



タコノアシ *Penthorum chinense* Pursh

(=サワシオン)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

タコノアシ科 Penthoraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年性。高さ40~110 cm。茎は硬く下部で太く直立する。葉は細鋸歯があり、ほとんど無柄の披針形で長さ5~10 cm。花期は8~9月。総状花序は茎の上部から斜上し、渦巻状から徐々に開く。花は径4~5 mmで多数が並び、花弁はない。蒴果は径6~7 mm。種子は狭卵形で長さ0.7 mm。茎や花序は枯れた状態で冬でも残り赤褐色から暗褐色。

2. 分布

国外では東アジアに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

河川や池沼の縁で泥土が堆積して根元に水が浸る程度の泥湿地に生育している。

4. 生育状況

産地は低地の広範囲にあり多い。産量は年による変動があるが全体では多い。河川の出水による攪乱が起ると、遷移を抑制して新たな生育の場となり、埋土種子から実生が生ずる。

5. 減少の主要因と脅威

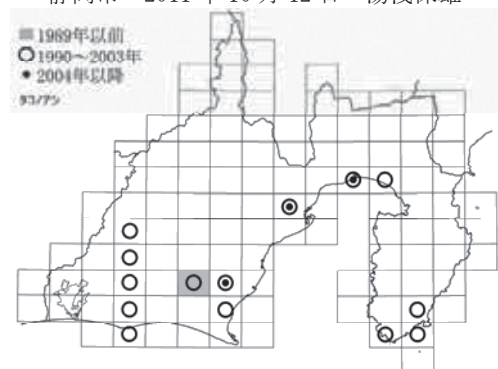
河川の改修や堤防の造築が(13)脅威である。ため池を開発(12)してなくすことも脅威である。

6. 保護対策

生育の場を確保するために、コンクリートを用いた施工を避けることも重要である。(宮崎一夫)



©2020 Y. Yusa
静岡市 2011年10月12日 湯浅保雄



サンショウバラ *Rosa hirtula* (Regel) Nakai

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

落葉小高木。幹は太く 10 cm 以上になることがある。枝には扁平な刺がある。葉は奇数羽状複葉で、小葉は 6~8 対、長楕円形で長さ 1~2.5 cm、縁に細い多数の鋸歯がある。花は 6 月に小枝の先につき、径 5~6 cm と大きい。花卉は倒卵形で淡紅色、萼筒には全面に刺がある。偽果は径 3 cm ほどの球形で刺が多い。

2. 分布

日本固有種で、本州 (山梨県、神奈川県、静岡県) に分布する。県内では伊豆と東部に分布する。フォッサマグナ要素の植物とされる。

3. 生育環境

中間温帯から冷温帯にかけての山林内や林縁。

4. 生育状況

個体数は多くないが、富士・箱根を中心に広く分布する。

5. 減少の主要因と脅威

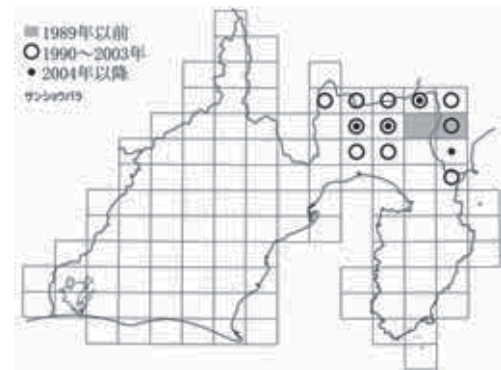
山林のスギ・ヒノキ林化 (71) と土地開発 (23) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地の開発やスギ・ヒノキへの樹種転換を行わないこと。
(湯浅保雄)



御殿場市 1997年5月17日 杉野孝雄



サクラバハノキ *Alnus trabeculosa* Hand. -Mazz.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

カバノキ科 Betulaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

落葉高木。高さ 20 m に達する。幼木は部分的にコクサギ型葉序となることもある。葉は長さ 1~2 cm の柄があり、長楕円形で長さ 6~10 cm、細鋸歯があり側脈は 9~12 対。花期は 2~3 月。雄花序は枝の先に 3~5 個をつけ下垂する。雌花序は雄花序の下方につき上向きで短柄がある。近縁種のハノキは葉の側脈が 7~9 である。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州 (岩手県以南)、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯低地のやや湿った場所から水湿地に生育する。

4. 生育状況

産地は西部に局限する。産量は多くない。幼木から成木まであり生育は良好である。

5. 減少の主要因と脅威

乾燥化 (71) が主要因である。湿地の開発 (15) も脅威である。

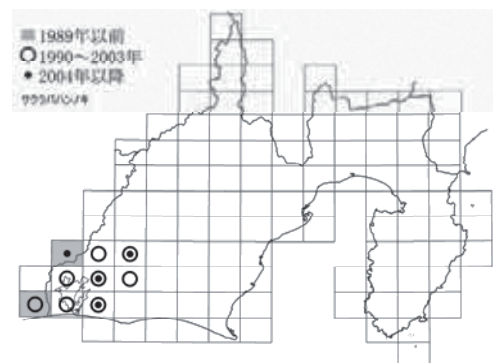
6. 保護対策

道路工事などの開発行為で地下水脈を分断しない。

(宮崎一夫)



浜松市 2015年5月1日 宮崎一夫



コオトギリ *Hypericum hakonense* Franch. et Sav.

(=コオトギリソウ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, c) 変更なし

オトギリソウ科 Hypericaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~50 cm。数本の茎が叢生し、茎は円柱形。葉はやや厚く、披針~楕円形で、長さ 8~30 mm、幅 2~6 mm。明点と赤点を交え縁に黒点がある。花期は 7~9 月。花は 1~10 個が枝先につく。花卉は黄色で内側に黒線と黒点があり、縁に黒点がある。雄蕊は 30~35 個で 3 束にまとまる。近縁種のクロテンコオトギリは葉に黒点のみがある。

2. 分布

日本固有種で、本州 (東京都、神奈川県、山梨県、静岡県) に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に広く分布する。フォッサマグナ要素の植物とされる。

3. 生育環境

山地の湿り気のある林縁や林道の切り取り法面下部。

4. 生育状況

産地の範囲は広い。産量は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

林道の管理や整備 (24)。登山者の踏みつけ (51)。

6. 保護対策

林道法面や登山道の草刈りを行うときには、ダメージを与えないように注意する。

(湯浅保雄)



小山町 2003年9月5日 杉野孝雄



ミズマツバ *Rotala mexicana* Cham. et Schldl.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ミソハギ科 Lythraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ 3~10 cm。基部は枝を伸ばして地面を這う。葉を 3~4 枚輪生し、線~長披針形、長さ 5~10 mm である。花期は 8~10 月。花は葉腋に単生し淡紅色、萼筒には三角形の五裂片があり、長さ 0.8 mm。花卉はない。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、フィリピン、インド、中央~西アジア、アフリカ、中央アメリカなどに、国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

平地から山間部の水田、池沼や中小河川の河口部などの湿地に生育する。

4. 生育状況

各地に生育するが産地の消失で減少してきている。

5. 減少の主要因と脅威

水田などでは耕作放棄 (53) の増加で生育適地の消失、農薬散布 (32) などにより水質が悪化したことで減少している。

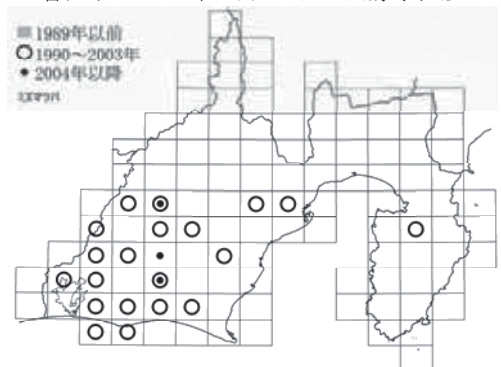
6. 保護対策

生育地の水田では現在の耕作形態の維持が重要である。

(内藤宇佐彦)



磐田市 2016年9月11日 内藤宇佐彦



ウスゲチヨウジタデ *Ludwigia epilobioides* Maxim.

subsp. *greatrexii* (H. Hara) P. H. Raven

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

アカバナ科 Onagraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草。高さ15~100 cm。茎は直立する。葉は互生し短柄があり全縁、長さ7~10 cm。花期は8~10月。花は黄色、花弁、萼片は5個ずつ。花床に白毛が密生する。別亜種のチヨウジタデは花弁、萼片が4個ずつで、花床はほぼ無毛である。

2. 分布

国外では中国南部、台湾に、国内では本州(関東地方以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

湿地と水田、水路などである。

4. 生育状況

前回(2004年)調査時に比べ確認箇所が大幅に減少している。調査不足が影響している可能性もある。

5. 減少の主要因と脅威

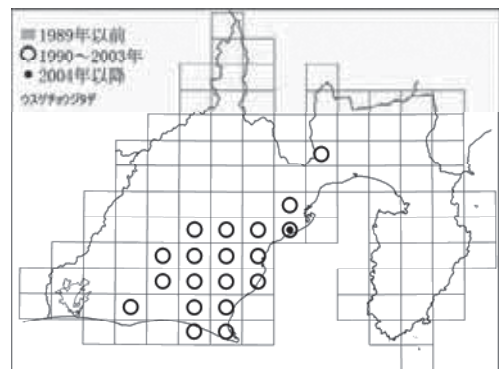
湿地の埋め立て(15)や湿地の植生遷移(54)、水田での除草剤の使用(32)、さらに水路のコンクリート化(13)が減少の主要因である。

6. 保護対策

本種を保全するには、湿地を定期的に攪乱するなど、ヨシの密生化を防ぐ対策を講じる必要がある。(湯浅保雄)



静岡市 2019年9月22日 宮崎一夫



サクラガンピ *Diplomorpha pauciflora* (Franch. et Sav.) Nakai

(=ヒメガンピ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ジンチョウゲ科 Thymeraeaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

落葉低木。高さ2 mほど。葉は卵形で2列に互生する。下面に伏毛があり、長さ20~35 mm。花期は7~8月。花序はゆるく分岐し、数花ずつ集まる。花は淡黄色で、萼筒は長さ約5 mm。

2. 分布

日本固有種で、国内では本州(神奈川県、静岡県)に分布する。県内では伊豆に分布する。フォッサマグナ要素の植物とされている。

3. 生育環境

暖帯の2次林、岩場、道路の側壁など日当たりのよい所を好む。

4. 生育状況

伊豆の低地に広く生育する。個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

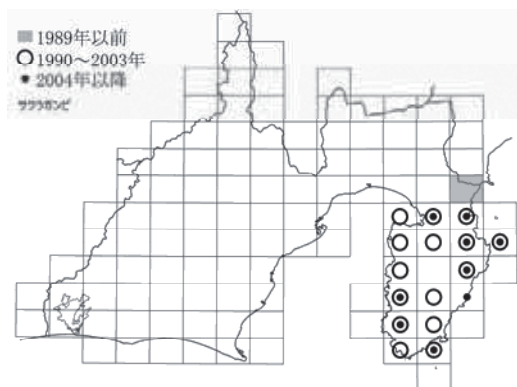
遷移の進行(54)により被陰されると衰退する。修善寺半紙の原料として過去に大量に採取された(42)。今は半紙の原料としての採取はなくなっている。

6. 保護対策

競合関係にある高茎雑草を定期的に刈り取ることが必要である。(西口紀雄)



伊豆市 2017年9月27日 香西博子



ヤナギヌカボ *Persicaria foliosa* (H. Lindb.) Kitag.

var. *paludicola* (Makino) H. Hara

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

タデ科 Polygonaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ30~80 cm。茎の下部は斜めに倒れ、節から根を出し、上部は立つ。葉はほとんど無柄で細長く、裏面に腺点があり、長さ3~9 cm。花期は9~10月。偽総状花序花は頂生及び腋生でほぼ直立し、花をまばらにつける。萼は5裂して淡紅色、長さ1.5~2 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東部に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地や丘陵地の沼地や池などの水辺に生える。

4. 生育状況

静岡市に生育する。産地は限られて個体数は少なく減少している。

5. 減少の主要因と脅威

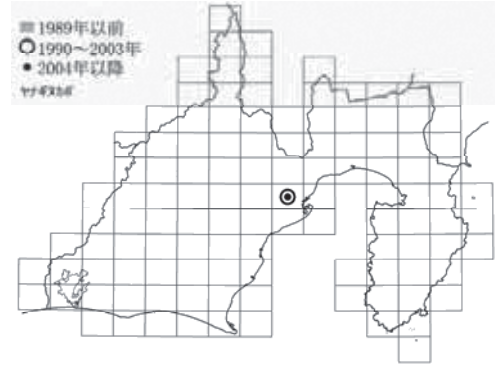
沼地や湿地の開発(15)で生育地が消失している。また水辺の植生の遷移進行(54)で生育環境が悪化していることが原因である。

6. 保護対策

生育地の保護と草刈りなど遷移進行の抑制が重要である。(内藤宇佐彦)



静岡市 2017年9月24日 内藤宇佐彦



クロミノニシゴリ *Symplocos paniculate* (Thunb.) Miq.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ハイノキ科 Symplocaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。樹皮は紙状に薄くはがれる。小枝と花序は毛がない。葉は倒卵~長楕円形で縁に低い細鋸歯があり、長さ4~10 cm、両面とも無毛である。花期は5~6月。花は白色で円錐花序に多数つく。果実は卵球形で黒く熟し、長さ6~8 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州(東海地方、近畿地方)に分布する。県内では西部(浜名湖周辺)に分布しており、静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

丘陵地のため池や湿地のほとりに生育する。

4. 生育状況

浜名湖周辺に生育する。生育地と個体数は少なく、減少傾向がみられる。

5. 減少の主要因と脅威

生育地が人里周辺であり、土地開発(15、23)の危険性が高く、消失した産地もある。

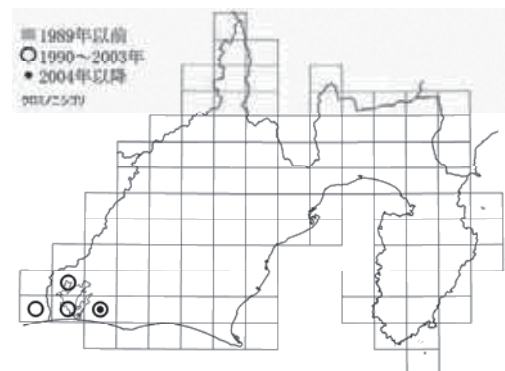
6. 保護対策

生育地であるため池や丘陵地周辺の湿地の保護と生育場所の被陰をさけるために間伐などの措置が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2017年5月26日 内藤宇佐彦



アマギツツジ *Rhododendron amagianum* (Makino) Makino

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

落葉低木。高さ3~6 m。若枝や葉柄には淡褐色の長毛が密生する。葉は枝先に3枚輪生する。葉身はやや厚く菱形円形、長さ5~9 cm。幅4~9 cm。両面とも長毛を散生し、裏面の脈上には密生する。6月下旬~7月中旬に枝先に、一個の花芽から2~3個の花をつける。花冠は朱色で、径4~5 cm。雄蕊は10本、子房には淡褐色の長毛が密生する。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県)に分布する。県内では伊豆に分布する。伊豆半島特産。

3. 生育環境

暖帯上部から温帯の尾根筋。

4. 生育状況

場所によっては群生しているが、全体的には減少している。

5. 減少の主要因と脅威

森林の開発(23)や人工林化(71)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地の森林は落葉広葉樹で維持すること。

(湯浅保雄)



伊豆市 2007年7月4日 加藤 徹



アマギシャクナゲ *Rhododendron degronianum* Carrière

var. *amagianum* (T. Yamaz.) T. Yamaz.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑低木。高さ2~4 m。若枝には白色の綿毛が生える。葉は革質長楕円形、若いときには表面に白い伏毛がある。成葉の裏には短い枝状毛が密生する。5月頃枝先に短い総状花序を伸ばし、5~12個の花をつける。花冠は紅紫色で径4~5 cm。ふつう5裂するが6~7裂のものもまじる。雄蕊は10本。

2. 分布

日本固有変種で、本州(静岡県)に分布する。県内では伊豆に分布する。伊豆半島特産。

3. 生育環境

暖帯上部から温帯の尾根筋の明るい落葉広葉樹林の林内や岩場。

4. 生育状況

群生地があり個体数も多いが、減少しつつある。

5. 減少の主要因と脅威

台風による被害(71)や登山者による根元の踏みつけ(51)が減少の主要因である。

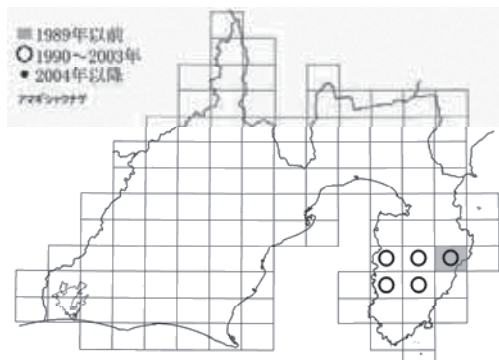
6. 保護対策

登山者の群落内への立ち入りを制限すること。

(湯浅保雄)



伊豆市 2002年5月13日 宮崎一夫



アシタカツツジ *Rhododendron komiyamae* Makino

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

半常緑低木または高木。高さ2~3 m。時に10 mに達する。若枝や葉柄には淡褐色剛毛が密生する。葉には春葉と夏葉があり、夏葉は小さく長さ1~1.5 cm、幅2~3 mmで冬を越す。5~6月頃、枝先の1個の花芽から2~4個の花を開く。花冠は紅紫色で径2~3 cm。雄蕊はふつう7本、ときに6~9本。

2. 分布

日本固有種で、静岡県特産である。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯の疎林内や林縁あるいは岩地。

4. 生育状況

以前は、かなりの個体数が広い範囲に生育していたが、森林伐採や林種転換、あるいは開発造成によって生育面積が減少し、個体数も減少した。

5. 減少の主要因と脅威

森林開発 (23) や園芸採取 (41) が減少の主要因である。

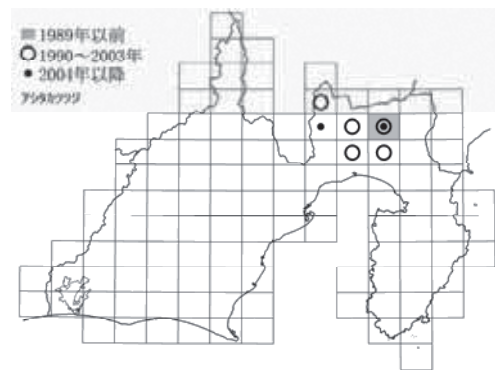
6. 保護対策

生育している森林の保全を図ること。

(湯浅保雄)



裾野市 2010年5月21日 宮崎一夫



エンシュウシャクナゲ *Rhododendron makinoi* Tagg ex Nakai

(=ホソバシャクナゲ)

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

常緑低木。高さ1~2 m。若枝や葉柄は褐色の綿毛が密生する。葉柄は長さ1~2.5 cm。葉は狭長楕円形で長さ7~18 cm、幅1~2.5 cm、革質で枝先に集まってつく。花期は5月。花は枝先に5~10個を総状花序につける。花冠は漏斗形で長さ4~5 cm、5中裂して紅紫色。雄蕊は10個。花序の苞片は開花時にも残る。近縁種のアズマシャクナゲは葉幅が1.5~3.5 cm、花序の苞片は開花時には落ちる。

2. 分布

日本固有種で、本州 (静岡県、愛知県) に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山地の尾根に沿った岩場に生育する。

4. 生育状況

産地は西部に局限している。小苗を含めると株数はやや多いが、植林に被われて開花株は少ない。園芸採取により減少している。一部では保護・保全が施されている。

5. 減少の主要因と脅威

樹冠の被陰による衰退 (54) と園芸採取 (41) が脅威である。

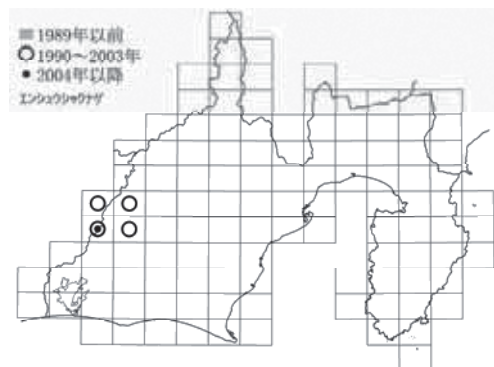
6. 保護対策

林冠の伐開による光条件の回復を図る。

(宮崎一夫)



浜松市 2008年5月5日 宮崎一夫



シブカワツツジ *Rhododendron sanctum* Nakai

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

落葉低木。基本種ジングウツツジの変種。高さ2~4 m。あまり下枝が横に張らず、枝は上に伸びる傾向が強いののでほうき状の樹形を作る。葉はやや大きく枝先に3輪生する。花芽に白軟毛がやや密に生える。花は紅紫色で5~6月上旬に開く。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県、愛知県)に分布する。県内では西部(浜松市北区)に分布する。

3. 生育環境

蛇紋岩地帯に群生する。

4. 生育状況

産地は限られている。個体数は多い。

5. 減少の主要因と脅威

生育地である蛇紋岩地での疎林の遷移進行(54)で減少傾向がみられる。また園芸採取(41)の危険性も指摘される。

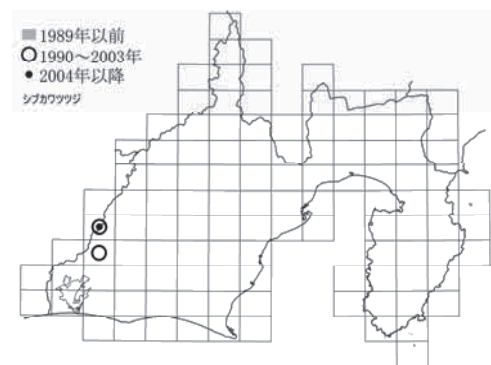
6. 保護対策

旧引佐町内では自生地の群落が県の天然記念物に指定されている。生育場所での間伐など、遷移抑制をはかる適切な維持管理が求められる。また園芸採取などを防止するための啓発活動も大切である。

(内藤宇佐彦・宮崎一夫)



浜松市 2015年5月24日 内藤宇佐彦



ハコネコメツツジ *Rhododendron tsusiophyllum* Sugim.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

常緑小低木。高さ20~60 cm。幹は屈曲し、枝は車輪状に出て密生する。若枝には褐色の毛が密に生える。葉は互生し、楕円形で長さ7~10 mm、幅4~6 mm。両面に硬い毛が生え、裏面脈上には褐色の伏毛が生える。花期は6~7月。葉の間に白色の小さな筒形の花を開く。花冠の筒部は長く約8 mm。先は浅く4~5裂し、花柄には褐色の毛が密に生える。雄蕊は5本。葯は縦に裂ける。

2. 分布

日本固有種で、本州(秩父・富士山周辺・丹沢・箱根付近)、御蔵島に分布する。県内では伊豆、東部に分布する。

3. 生育環境

山地の岩場に生育する。

4. 生育状況

山地は限られているが群生している所もある。しかし、園芸用採取によって減少している。

5. 減少の主要因と脅威

園芸用採取(41)が減少の主要因である。

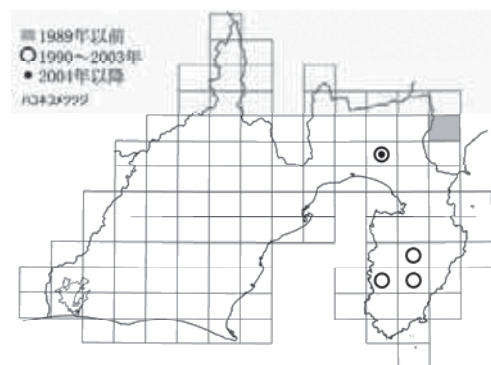
6. 保護対策

園芸採取を防ぐ方策を講ずる。

(湯浅保雄)



富士市 2019年8月13日 室伏幸一



イヌセンブリ *Swertia tosaensis* Makino

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草または越年草。高さ5~50 cm。センブリによく似る。葉は対生し、長さ0.7~2 cm、倒披針形で先は鈍い。花期は10~11月。花は狭い円錐状につき5数性、花冠は径15 mm、白色で淡紫色の条がある。全草に苦味がなく、薬には用いられない。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地や低山地のため池のほとりや水田の周辺などの湿った草地に生育する。

4. 生育状況

各地に点在し、群生している所もある。開発されやすい所が生育地のため減少傾向がある。

5. 減少の主要因と脅威

ため池の改修(12)や土地造成(23)によって生育地が減少している。また、水田の土手などでは管理不足(53)によって生育適地が消失している。

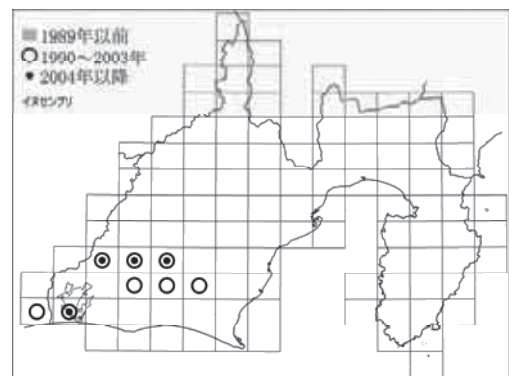
6. 保護対策

生育地の保護が必要であり、草刈りなどをして草地環境の維持管理が重要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 2013年11月2日 宮崎一夫



クサナギオゴケ *Vincetoxicum katoi* (Ohwi) Kitag.

(=ヤマワキオゴケ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

キョウチクトウ科 Apocynaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~80 cm。茎は直立して上部が斜上し、ツルに伸びることがある。葉柄は0.5~2 cm。葉は茎の中部に数対あり、長楕円形で長さ8~18 cm、先は尖り基部はくさび形。茎頂に近い葉腋から枝分化する花序を出し、疎に花をつける。花期は5~6月。花は淡紫褐色で径6~9 mm。近縁種のタチカモメヅルは葉を多数つけて基部が円形である。花が白色のもの品種シロバナクサナギオゴケという。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東地方以西)、四国に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯のやや湿った草地や常緑樹林の林床に生育する。

4. 生育状況

産地は多い。産量は多い。植生遷移の圧力を受けている。園芸採取もあり減少している。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。樹冠の被陰となっていて生育が悪く開花株数が少ない。

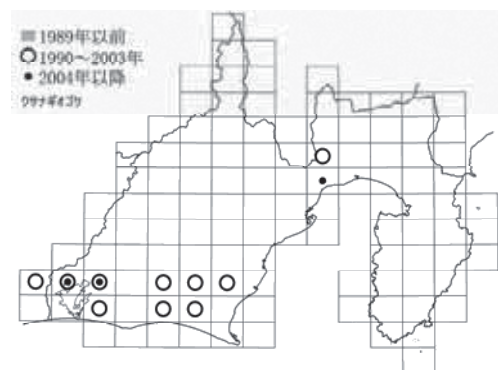
6. 保護対策

被陰となっている高木を択伐して、光条件の改善を図ることが重要である。

(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 2016年6月8日 宮崎一夫



スズサイコ *Vincetoxicum pycnostelma* Kitag.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

キョウチクトウ科 Apocynaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~80 cm。ひげ根は太くて多い。葉は長披針~線状長楕円形で長さ 6~13 cm、茎に互生する。花期は 6~8 月。花序は茎の先や上部の葉腋から出て、集散状にまばらに花をつけ黄褐色である。花は朝に開き日が当たると閉じる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ダフリアに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯の丘陵地の草原、山麓などの乾いた日当たりのよい場所に生育する。

4. 生育状況

各地に生育するが少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地である草地植生の遷移進行 (54) で減少している。

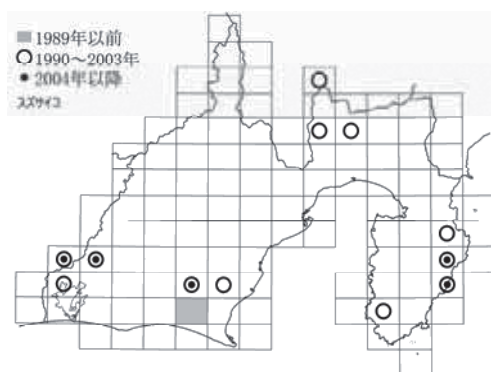
6. 保護対策

疎林周辺や草地、農地の土手などでは草刈りなどをして、草地環境の維持が必要である。

(内藤宇佐彦・宮崎一夫)



掛川市 1993年7月9日 宮崎一夫



アオホオズキ *Physalisastrum japonicum* (Franch. et Sav.) Honda

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ナス科 Solanaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II 類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~60 cm。葉は長楕円形で、葉身の長さは 5~12 cm、幅 2.5~4.5 cm。0.5~1.5 cm の柄があり、茎とともに短毛を散生している。花期は 6~7 月。葉腋にふつつ 1 個の下向きの花をつける。花冠は淡緑色で径 1.5 cm。広鐘形で先は浅く 5 裂し、外面に短毛がやや密に生える。液果は長楕円形で長さ 1 cm、緑色で短い刺のある萼に包まれる。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の谷沿いのやや湿り気のある林中に生育する。

4. 生育状況

点在し、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

シカによる踏みつけと食害 (52-1) が減少の主要因と考えられる。

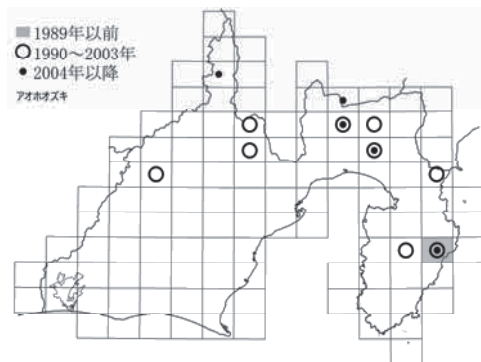
6. 保護対策

シカの個体数調節や防護柵の設置が必要である。

(湯浅保雄)



富士宮市 1999年6月8日 杉野孝雄



イヌノフグリ *Veronica polita* Fr. var. *lilacina* (T. Yamaz.) T. Yamazaki

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

オオバコ科 Plantaginaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

越年草。茎は下部で分枝して広がる。葉は短柄があり、下部では対生して上部では互生し、葉身は卵円形で長さ1 cm、ほとんど無毛で辺縁には粗い鈍鋸歯がある。花期は3~5月。花は茎の上部の葉腋につく。花柄は長さ5 mmである。花冠は径4 mmで4裂して、帯紅白色で紫紅色の条線がある。蒴果はやや扁平な球形で中央がくびれる。近縁種のフラサバソウは茎、葉、萼に長毛が生える。

2. 分布

国外では東アジアに、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部、中部、東部に分布する。

3. 生育環境

各地の日当たりがよい土手や道路脇の草地、または石垣に生育する。

4. 生育状況

産地は広く点在し多い。産量は一部で群生するが少ない。現在は都市型住宅環境が多く、生育に適した環境が少ない。

5. 減少の主要因と脅威

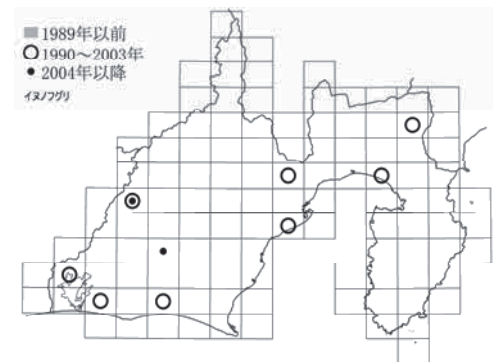
土地造成 (23) や草地の減少 (16) と植生遷移 (54) の圧力が主要因である。農薬汚染 (32) も脅威である。

6. 保護対策

昔ながらの里地の風景となる土手や土の道、そして民家の石積みを残すことも大切である。(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2004年4月3日 宮崎一夫



カリガネソウ *Tripura divaricate* (Maxim.) P. D. Cantino

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ1 mほど。茎は四角、上部で分枝する。葉は広卵形で長さ5~13 cm、幅2.5~8 cmで、0.5~4 cmの葉柄がある。花期は9~10月。花は唇形で青紫色、雄蕊は下向きに湾曲し、花柱とともに花外に突き出る。強い臭気がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低山地の谷間に生育する。

4. 生育状況

西伊豆町、静岡市、浜松市、湖西市などに生育する。産地と個体数は少なく、減少傾向がみられる。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の山林伐採 (11) や林道拡幅 (24) などによって減少している。

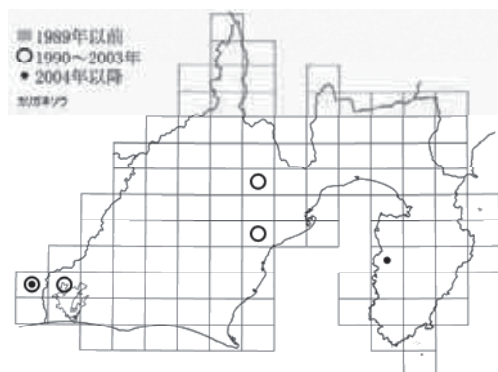
6. 保護対策

生育地である山林の保護を図りたい。

(内藤宇佐彦)



©2020 H. Kanishi
西伊豆町 2017年9月27日 香西博子



タチキランソウ *Ajuga makinoi* Nakai

(=エンシュウキランソウ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-b) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。茎は数本が斜上するか倒伏し、長さ5~20 cmになる。下部の1~2対の葉は鱗片状またはさじ状になる。花期は4~5月。茎の上部の葉腋に1~5個の濃い青紫色の唇形花を輪状につける。花冠は長さ15 mmで、上唇は直立し2~3 mmあって2裂する。

2. 分布

日本固有種で、国内では本州（関東地方西南部~東海地方）に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の林縁や道路脇の砂礫地。

4. 生育状況

前回（2004年）調査時に比べると、林道脇の植生の発達などにより生育箇所・個体数は大幅に減少している。

5. 減少の主要因と脅威

林縁や道路脇の植生の発達（54）による生育環境の変化。

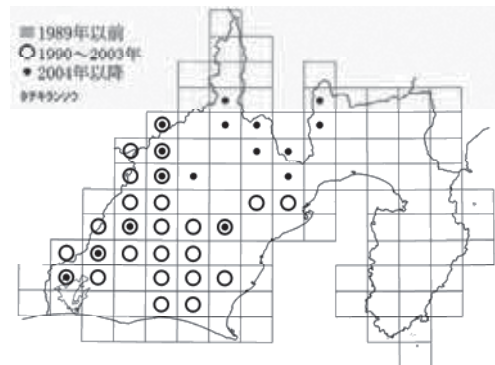
6. 保護対策

特になし。

(湯浅保雄)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2017年5月2日 宮崎一夫



マネキグサ *Loxocalyx ambiguus* (Makino) Makino

(=ヤマキセワタ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~100 cm。茎は四角形で直立し分枝する。稜には下向きに白毛が生える。葉はまばらに対生し、下部の葉は心形、上部の葉は卵形で長さ3~7 cm、粗鋸歯があり、表面や縁に白毛がある。花期は8~9月。萼は2唇形である。花は葉の脇に1~2個つけ、2唇形で長さ18~20 mm、花は暗紅紫色で白色の縁取りがある。近縁種のキセワタは萼が5浅裂する。またヤマジオウは高さが10 cm以下である。

2. 分布

日本固有種で、本州（栃木県以西の太平洋側）、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低山から温帯の山地の林内、林縁や谷沿いなどの湿った林床に生育する。

4. 生育状況

産地は各地に点在する。産量は少ない。小範囲に群生するが、環境悪化により弱々しく衰弱している個体もある。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移の圧力と樹冠の被陰（54）が主要因である。適湿な環境が失われることや園芸採取（41）も脅威である。

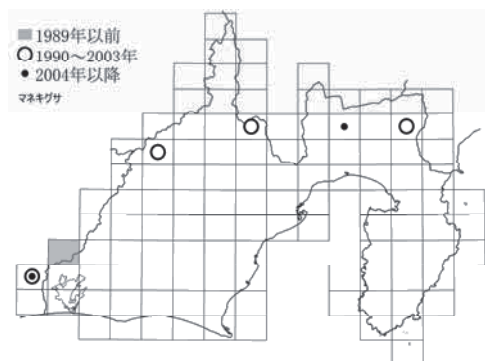
6. 保護対策

被陰となっている高木を択伐して、光条件の改善を図ることが重要である。

(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
富士宮市 2018年8月20日 宮崎一夫



ミゾコウジュ *Salvia plebeia* R. Br.

(=ユキミソウ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

越年草。高さ30~50 cm。根出葉は越冬し花時にはない。茎葉は対生し長楕円形で長さ3~6 cm、表面は脈がへこみ、細かいしわが目立つ。花期は5~6月。枝先に花穂を出し、淡紫色の小さな唇形花を多数つける。花冠は長さ4~5 mmで、下唇には紫色の斑点がある。雄蕊の葯隔の上下の長さが同じである。近縁種のアキノタムラソウは花期が7月以降で、葉は羽裂して、葯隔の上側は花糸状に長く花外に突き出る。

2. 分布

国外では東南アジア、マレーシア、インド、オーストラリアに、国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地の田の畔や休耕田に生育する。河川敷や湿った道端にも見られる。

4. 生育状況

産地は広範囲にあり多い。産量は少ない。産量は年による消長があり、群生することもあるが概して減少している。

5. 減少の主要因と脅威

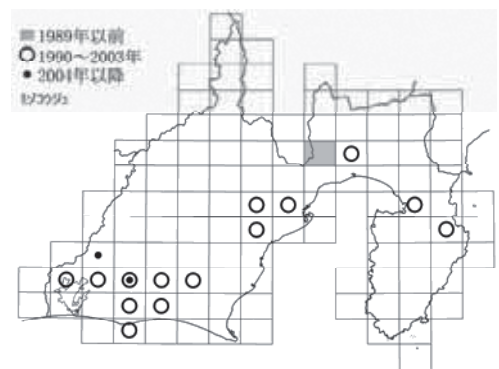
農薬汚染 (32) や植生遷移 (54) が主要因である。乾燥化 (71) の影響も見られ脅威である。

6. 保護対策

産地の圃場整備や河川開発では、可能な限り生育への悪影響に配慮することが重要である。(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2009年5月19日 宮崎一夫



オオヒキヨモギ *Siphonostegia laeta* S. Moore

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ハマウツボ科 Orobanchaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。半寄生植物。高さ30~70 cm。全体に開出した腺毛が密に生える。茎は斜上する。葉は対生し、三角状卵形で大きな裂片に裂ける。花期は8~9月。花は上部の葉腋に1個ずつつける。萼は細い筒形で長さ2~2.2 cm。花冠は灰黄色で長さ2.8 cm。上唇は先が切形で2裂しない。近縁種のヒキヨモギは全体に腺毛がなく短毛が生える。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州 (関東地方以西)、四国に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山地の林道脇や崖地のススキなどの草本類にまじって生育する。

4. 生育状況

産地は西部に多い。産量は数株ずつ散生している。

5. 減少の主要因と脅威

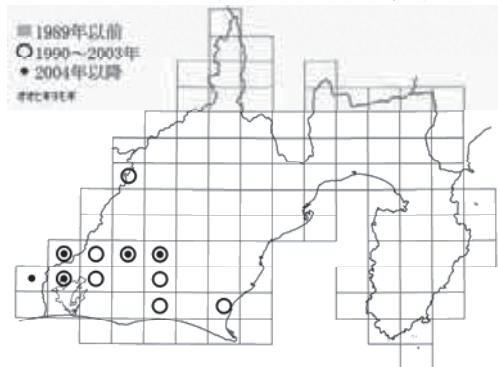
植生遷移 (54) や林道整備 (24) により株数が減少している。

6. 保護対策

草原や草地は種の多様性の宝庫であるので保全すべきである。(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2013年9月7日 宮崎一夫



サワギキョウ *Lobelia sessilifolia* Lamb.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更コード 9

キキョウ科 Campanulaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~100 cm。茎は太く中空で分枝はなく、切ると白汁が出る。葉は多数が互生し披針形で長さ 4~7 cm、上部のものほど小型になる。花期は 8~9 月。茎上部の総状花序に多数の花をつける。花冠は濃紫色で長さ 2.5~3 cm、2唇形で上唇は 2 深裂して、下唇は 3 浅裂する。蒴果は球形で長さ 8~10 mm。近似種のミゾカクシは高さが 10~15 cm で花の長さが 1cm。

2. 分布

国外では千島列島、サハリン、台湾、朝鮮半島、中国東北部、東シベリアなどに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯の原野や丘陵地の湿地に生育する。しばしば耕作放棄水田にも生育する。

4. 生育状況

産地は点在して少ない。産量は群生から散生する。植生遷移の圧力を受けている。園芸採取により減少している。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発 (15) と植生遷移 (54) が主要因である。園芸採取 (41) も脅威である。

6. 保護対策

湿地における種の多様性を確保するためにも、開発行為を回避して保全することが重要である。(宮崎一夫)



浜松市 2005年9月17日 宮崎一夫



タテヤマギク *Aster dimorphophyllus* Franch. et Sav.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~50 cm。地下茎で繁殖する。茎は屈曲し、上部でわずかに分枝する。葉は卵円形で基部は心臟形。長さ 3 cm ほどで、大きな歯状のものから、掌状または羽状中裂するものまで変異が大きい。花期は 8~10 月。頭花は緩い散房状につき、径は約 2~3 cm。舌状花は白色。

2. 分布

日本固有種で、本州 (神奈川県、静岡県)、四国に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3. 生育環境

温帯の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

これまで個体数は比較的多かったが、近年はシカによる食害で急激に減少している。

5. 減少の主要因と脅威

シカによる食害 (52-1) が減少の主要因である。

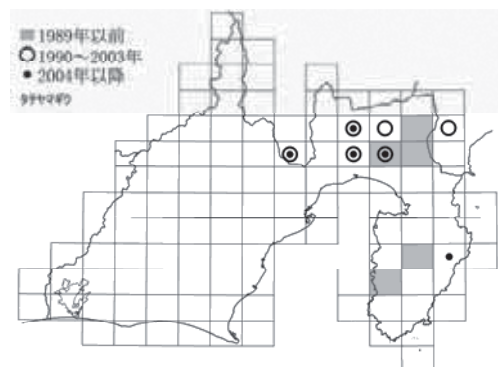
6. 保護対策

防護柵の設置が必要である。

(湯浅保雄)



長泉町 2013年8月24日 内藤宇佐彦



イズカニコウモリ *Parasenecio amagiensis* (Kitam.) H. Koyama

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~60 cm。細い地下茎を伸ばし繁殖する。葉はふつう 2 個。下面に毛がある。下部の葉は腎形、先は丸くあるいは鋸歯がある。長さ 13 cm、幅 22 cm、基部は深い心形、葉柄は長さ 12 cm ほど。基部は抱茎し、葉鞘となる。花期は 11~12 月。総状円錐花序に多数の頭花をつける。花柄に縮毛を密生する。

2. 分布

日本固有種で、本州 (神奈川県、静岡県) に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯下部の広葉樹林やスギ人工林の肥沃な林床。

4. 生育状況

シカの忌避植物で、他の植物がないスギ人工林などの林床に高密度で群生している。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採 (11) による生育環境の変化が減少の主要因である。シカの不嗜好性植物なので、現在は他の植物がなくなった林床に、イズカニコウモリだけが残って群生する状況を目にするが、シカの食餌植物が減少している現状では、何時、食害に合うか時間の問題であろう (52-1)。

6. 保護対策

森林の適切な管理が必要である。

(湯浅保雄)



伊豆市 2017年9月27日 香西博子



モリアザミ *Cirsium dipsacolepis* (Maxim.) Matsum.

(=ゴオボウアザミ、ヤブアザミ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更コード 1, 3

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~100 cm。下部の葉は長い柄があり、柄を含めて長さ 15~20 cm、葉身は長楕円形または卵形で洋紙質。しばしば羽状に切れ込む。花期は 9~10 月。頭花は枝先に単生し、花時には直立する。総苞は扁球形。長さ 2~3 cm、幅 3~4 cm、くも毛がある。総苞片は 6~7 列で外辺は開出する。花冠は帯紫色、または紅紫色。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

乾いた山地の草原。

4. 生育状況

富士山西麓の朝霧高原に生育しているが、個体数は非常に少ない。

5. 減少の主要因と脅威

草原の管理放棄 (53) とシカによる食害 (52-1) が減少の主要因である。

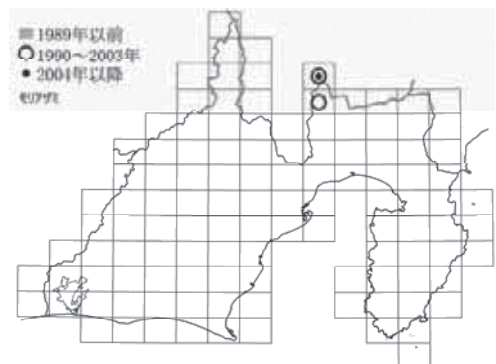
6. 保護対策

生育に適した草原の維持管理が必要である。

(佐野 弘・湯浅保雄)



長野県 2019年9月26日 室伏幸一



ワタムキアザミ *Cirsium tashiroyi* Kitam.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~50 cm。根出葉は花時にも生存して羽状深裂である。葉は長楕円形で長さ20~35 cm、羽状に深裂する。花期は9~10月。頭花は淡紅色で茎頂につき、斜め下向きに開く。苞葉は2~4個あり披針形で長さ1~2 cm。総苞は筒形で長さ16~18 mm、粘りはない。総苞片は8~9列、斜上して先端は反曲する。近縁種のスズカアザミは高さが70~80 cmで総苞は粘り、総苞片は11~12列である。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県から滋賀県）に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

温帯山地の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は西部の山地に局限する。産量は多い。生育状況は植生遷移の圧力を受けてやや衰退している。

5. 減少の主要因と脅威

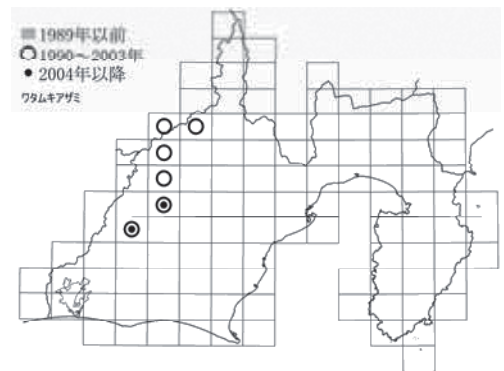
森林伐採 (11) や林道などの開発 (24) が主要因である。植生遷移 (54) も脅威である。

6. 保護対策

産地の開発行為は細心の注意が必要である。植生遷移を抑制することが重要である。(宮崎一夫)



浜松市 2011年10月3日 宮崎一夫



イズハハコ *Conyza japonica* (Thunb.) Less.

(=ワタナ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草~越年草。高さ50 cmほど。全体に灰白色の軟毛が多い。葉は下部にややロゼット状に集まり、長楕円形で円頭、長さ5~10 cmで、基部は茎を抱く。花期は3~6月。頭花は長球~円柱形、径約8 mm、茎頂に密集してつく。

2. 分布

国外では中国、マレーシア、インド、アフガニスタンに、国内では本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

道路の切土面や崖地など半裸地に生育する。

4. 生育状況

各地に広く生育する。よく開花結実し種子は風で広がる。生育に消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

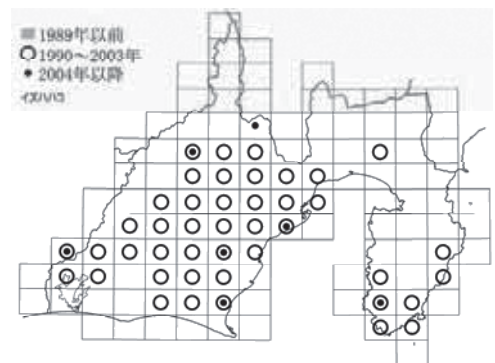
道路工事 (24) や土地造成 (23) などによる生育地の消失や草地の遷移進行 (54) による被陰で減少している。

6. 保護対策

生育地の保護が必要であるが、半裸地状の環境に生育する植物なので草刈りなど植生遷移の抑制が大事である。



浜松市 2016年6月12日 宮崎一夫



(内藤宇佐彦・宮崎一夫)

カワラニガナ *Ixeris tamagawaensis* (Makino) Kitam.

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ15~30 cm。根茎から幅7~10 mmほどの細長い葉と花茎を多数束生する。葉先は尖る。花期は5~8月。頭花は黄色、春先は一つの花茎に1個、夏にはやや小型の花を多数つける。

2. 分布

日本固有種で、本州(中部地方以北)に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

適度に荒れて、適度にコケ、小型草本などの生育する安定した河原の砂礫地に生育する。

4. 生育状況

安倍川、大井川、天竜川とその支流に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

河川改修、砂利採取(13)などは脅威である。

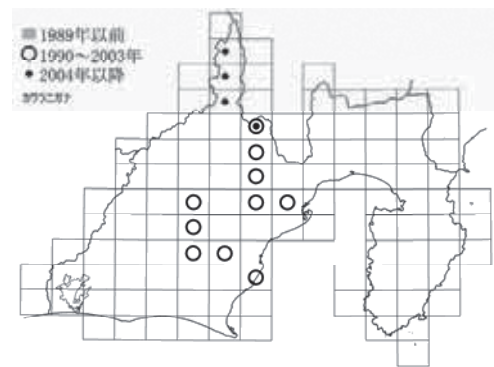
6. 保護対策

無秩序な砂利採取は、制限する必要がある。

(西口紀雄)



静岡市 2016年5月14日 湯浅保雄



タカネコウリンカ *Tephroseris takedana* (Kitam.) Holub

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~50 cm。茎は直立し葉とともに白綿毛がある。根出葉は花時にも生存し、葉身は長楕円形で長さ2.5~6 cm。花期は7~8月。頭花は茎頂に4~5個が散形状につき径2~2.5 cm。黄色で紫色を帯びる。総苞は筒形で長さ0.7~1 cm、黒紫色が目立つ。舌状花は長さ10 mm。瘦果は円柱形で長さ4 mm。冠毛は汚白色で長さ6~7 mm。近縁種のコウリンカは舌状花の長さが12~22 mmである。

2. 分布

日本固有種で、本州(長野県、山梨県、静岡県)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の尾根から斜面の砂礫地や草地に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスの広範囲である。産量は多い。群生して開花株も多い。しかし植生遷移によりやや生育が悪い産地もある。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。登山者や撮影者による踏圧(51)が脅威である。

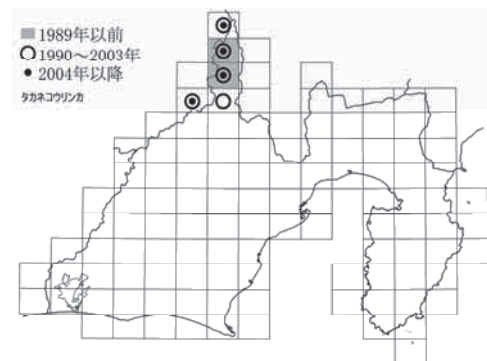
6. 保護対策

登山道の迂回整備や登山者のマナーにより踏圧を回避する。

(宮崎一夫)



静岡市 2004年8月7日 宮崎一夫



ヒメウラジロ *Aleuritopteris argentea* (S. G. Gmel.) Fée

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-b, e) 変更なし

イノモトソウ科 Pteridaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

常緑性シダだが、北方では夏緑性のシダ植物である。根茎は斜上、葉柄下部とともに披針形茶褐色の鱗片をもつ。葉は20 cm前後に達し、葉柄の方が長い。葉柄は茶褐色。葉身は五角形で、最下羽片は2回羽状、上部は単羽状。葉裏は粉白である。孢子嚢群は辺につき、連続する包膜で覆われる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、モンゴル、ロシア東部、台湾、中国、フィリピンに、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では中部に記録がある。

3. 生育環境

山地の向陽の岩上や、路傍の石垣の間などに着生する。県内の産地は城跡の石垣である。

4. 生育状況

県内では静岡市の駿府城跡石垣のみに知られているが、今日では確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)のおそれがあるが、栽培は困難とされる。

6. 保護対策

生育地の再確認が急務である。再確認がなされれば、生育地の早急な保護対策による生育地確保の必要がある。

(細倉哲穂・中池敏之)



静岡市 1964年10月4日 細倉哲穂



ヒメバラモミ *Picea maximowiczii* Regel ex Carrière

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-b, e) 変更なし

マツ科 Pinaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

常緑高木。高さ約40 m、径1.2 mになる。樹皮は灰～灰褐色。葉は線形で長さ10～13 mm、幅1.5 mm。葉の断面は四角～菱形。4面に白色の気孔帯がある。花期は5～6月。毬果は10月に熟し、無柄で下垂する。楕円状円筒形で長さ3～6 cm、径1.5 cm。県内に生育するハリモミ(長さ8～10 cm、径4.5 cm)、イラモミ(長さ6～12 cm、径3 cm)の毬果はこれより大きい。基準産地は富士山。

2. 分布

日本固有種で、本州中部(秩父・八ヶ岳西岳・南アルプスの仙丈岳及びその周辺)に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯の山地。

4. 生育状況

富士山に生育するとの情報もあるが不明。

5. 減少の主要因と脅威

不明(99)。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育地を含む広い範囲の森林を保全すること。

(湯浅保雄)



長野県 2016年5月14日 加藤 徹



ヒメコウホネ *Nuphar subintegerrima* (Casp.) Makino

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-a, d) 変更なし

スイレン科 Nymphaeaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

浮葉性の多年草。根茎はよく発達し、水底の泥の中を横に這う。葉は根茎の先端に束生する。水上葉と水中葉とがあり、水上葉は水面に浮かび、広卵形で長さ6~10 cm、幅5~8 cm。花期は6~9月。花は花柄の先に1個つけ径3~4 cm。萼片は5個で黄色の花弁状、花弁は萼片より短く、へら状で多数ある。類似のコウホネは、葉が長さ20~30 cmと大きく、また水上葉が水の上に抜き出るので区別できる。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

湧水のあるため池や河川の淀み、水路など。

4. 生育状況

牧野富太郎は植物学雑誌(1910)に浜松市で採集された標本を引用しているが、詳しい場所是不明である。また、その後の確認情報もない。

5. 減少の主要因と脅威

河川の整備(13)による生育環境の変化が主な減少の要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が見つかったら、最適な生育環境を維持すること。
(湯浅保雄)



岐阜県 2015年6月11日 室伏幸一



テンリュウカンアオイ *Heterotropa draconis* Sugim.

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-a, d) 変更なし

ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。カントウカンアオイによく似る。葉は卵形で先は鋭形、長さ4~7 cm、萼裂片は萼筒より長く長三角形で表面に毛がある。萼筒内も有毛。花期は12~1月。

カントウカンアオイとスズカカンアオイからは、萼筒内部に毛があることで区別される。しかし、現在はその存在は認められていないようである。基準標本と記載文の有無を確認する必要がある。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県)に分布する。県内では西部(旧天竜市)に分布する。

3. 生育環境

不明。

4. 生育状況

不明。

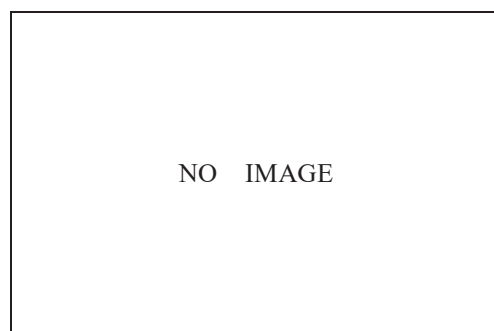
5. 減少の主要因と脅威

不明(99)。

6. 保護対策

生育が確認されたら環境に配慮して保護すること。

(湯浅保雄)



タマノカンアオイ *Asarum tamaense* Makino

静岡県カテゴリ 情報不足 (DD) (要件-a, b) 変更なし

ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae

[2004年版カテゴリ 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。葉は卵円～広楕円形、長さ5～15 cm。表面は暗緑色で光沢は弱く、脈は陥入するがアマギカンアオイほど著しくはない。花期は4～5月。花は暗紫色で形態はほとんどアマギカンアオイと同じ。径3～4 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州（関東地方南西部）に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖帯の樹林地。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）に伊豆半島西部の妻良での確認記録があるが、その後の情報はない。今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

不明 (99)。

6. 保護対策

県内の記録には標本の裏付けはなく、確認地域からみてアマギカンアオイ（シモダカンアオイを含む）の誤認の可能性が強い。生育が確認されたら、環境に配慮して保護すること。
(湯浅保雄)



©PIXTA



スエヒロアオイ *Asarum dilatatum* (F. Maek.) T. Sugaw.

静岡県カテゴリ 情報不足 (DD) (要件-ad) 変更なし

ウマノスズクサ科 Crassulaceae

[2004年版カテゴリ 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。葉は薄く卵形または卵状楕円形。長さ6～11 cm、幅4～7 cm。表面は光沢がなく、白斑がはいる。縁周辺に短毛が散生する。花期は10～11月。花は褐色、萼筒が上方に広がった短い筒型で、萼筒入り口も広く、内部の雌雄蕊はよく見える。長さ4～5 mm、径8～10 mm。萼裂片は広卵形で長さ6～8 mm。無毛。以前はヒメカンアオイの変種とされていたが、今は独立種となっている。

2. 分布

日本固有種で、本州（近畿地方）に分布する。県内では伊豆、西部に分布する。

ヒメカンアオイは西部に広く分布する。県内の過去の2地点での確認情報は、ヒメカンアオイの誤認の可能性もあるので、標本での検証が必要である。

3. 生育環境

山地帯の広葉樹林内。

4. 生育状況

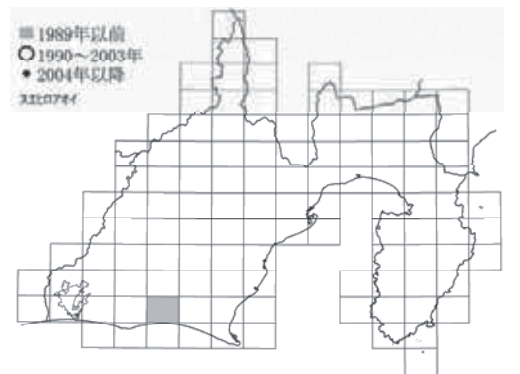
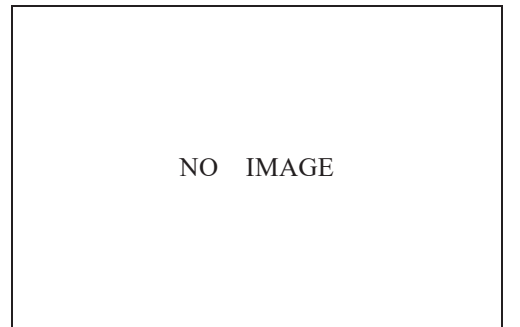
静岡県植物誌（1984）に伊豆西海岸と旧大須賀町の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

不明 (99)。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育環境に配慮して保護すること。
(湯浅保雄)



アオガシ *Machilus japonica* Siebold et Zucc. ex Blume

(=ホソバタブ)

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-b, c) 変更なし

クスノキ科 Lauraceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑高木。当年枝は緑色だが前年枝は赤褐色のあらい樹皮をつける。芽鱗の縁には灰白色の細毛を列生する。葉は薄い革質で、長さ8~15 cm、幅2~3.5 cm。花期は4~5月。花序は新枝に腋生し、円錐形で長い柄があり、分枝は横に広がる。花は黄緑色。果実は径約1 cmで黒紫色に熟す。類似のタブノキの葉は革質で長さはほぼ同じだが、幅が3~7 cmと広い。

2. 分布

国外では台湾、朝鮮半島南部、中国南部に、国内では本州(関東・中部地方以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の低山、丘陵地。

4. 生育状況

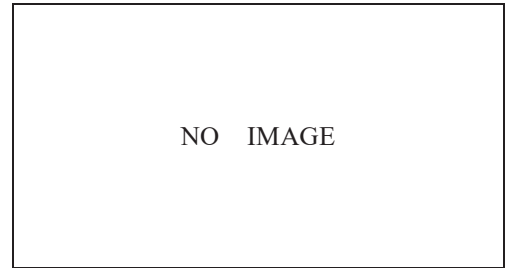
県西部に記録があるが、情報が少なく、タブノキとの誤認も考えられるので検討が必要である。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、周辺の森林とともに保存したい。(湯浅保雄)



ウミヒルモ *Halophila ovalis* (R. Br.) Hook. f.

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-a, b) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。根茎は横に這い、径約1 mm、各節から根を1本出す。節から出た鱗片葉の腋から2個の葉を水中に出す。葉には1~10 cmの葉柄があり、葉身は卵~長楕円形で、長さ1~4 cm、花期は不定期。雌雄異株、葉柄の基部に鞘状の托葉があり、その中に1個の花をつけ水中で開花する。花には花弁がなく、萼片は3個。雄花の萼片は透明で長さ4 mm、幅2 mm、雄蕊は3個。雌花は卵形の子房の上に3~5 mmの萼筒がある。果実は卵球形で長さ約1 mm。

2. 分布

国外ではインド洋から西太平洋の沿岸に、国内では本州北部から琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

砂や砂泥からなる海底に生える。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には伊豆半島西岸、下田市、西浦海岸の記録があるが、その後の確認の記録は少ない。生育地が海底のため調査が十分行われず、そのことが情報不足の一因である。

5. 減少の主要因と脅威

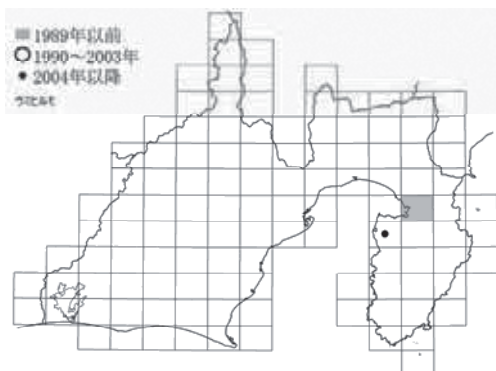
海岸の開発と整備(14)による生育環境の破壊が減少の主要因であろう。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、生育環境を破壊しないように方策をとること。(湯浅保雄)



沼津市 2017年5月28日 加藤 徹



タチアマモ *Zostera caulescens* Miki

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-a, c, d) 変更なし

アマモ科 Zosteraceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。根茎はやや扁平で直径2~6 mm、横に這う。葉は長さ60 cmほどになる。幅5~11 mm、5~11本の脈がある。花茎は直立し、1~7 m以上にもなり、下部に花序をつけ、上部は葉のみとなる。花序は長さ6~8 cm。花期は4~6月。種子は長楕円形、長さ約4 mmで平滑。類似のアマモは葉幅10~15 cmで5~7本の脈があり、種子には縦に稜がある。

2. 分布

国外では千島列島、朝鮮半島に、国内では北海道から本州に分布する。県内では伊豆に分布する。現在では太平洋側の分布範囲は神奈川県以北となっている。

3. 生育環境

水深6~17 mの内湾の海底の砂泥地に生える。

4. 生育状況

植物学雑誌 第47巻に三木氏が、県内の分布を報告しているが、その後、確認の記録がなく生育状況は不明である。

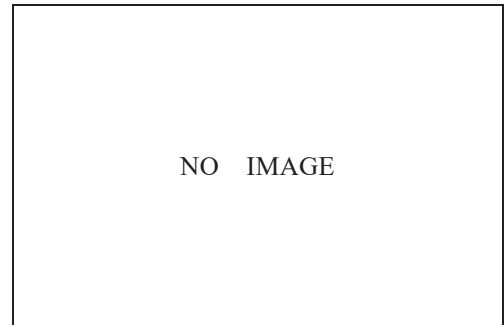
5. 減少の主要因と脅威

海岸開発(14)などで減少していることが考えられるが、水深6 m以上の海底に生育しているため確認が困難で、県内での増減は不明である。

6. 保護対策

生育の可能性のある海岸の開発は極力避けること。

(湯浅保雄)



コバノヒルムシロ *Potamogeton cristatus* Regel et Maack

(=トゲミズヒキモ)

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-b, c) 変更なし

ヒルムシロ科 Potamogetonaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水~浮葉性の多年草。水中葉は糸状で長さ4~6 cm、幅1 mm以下。浮水葉は長楕円形で葉身の長さは20~25 mm、幅は5~10 mm。花期は5~9月。浮水葉の葉腋から6~10 cmの穂状花序を出し、淡黄緑色の小さな両生花をつける。花被はなく、4個の葯隔付属突起が花被状に発達し葯を覆っている。雄蕊4本、心皮は4個。類似のヒルムシロの浮水葉は、葉身の長さ5~10 cm、幅2~4 cmと大きいので容易に区別できる。

2. 分布

国外ではウスリー、中国、朝鮮半島、台湾に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

池沼や水田などの溝に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に焼津市の記録が載っているが、その後の確認記録はない。

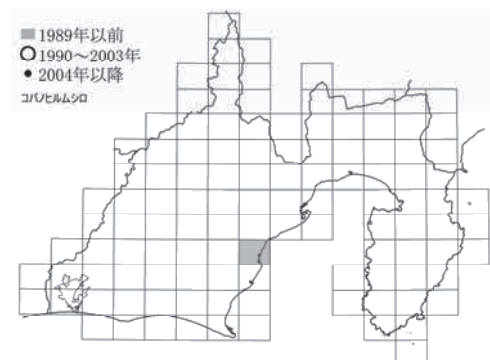
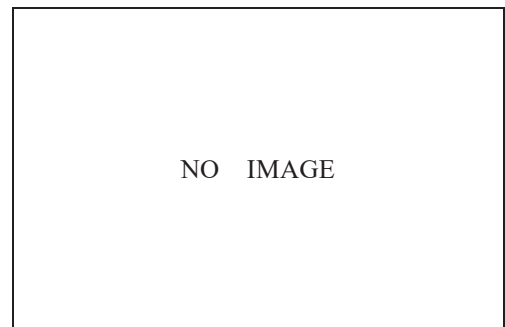
5. 減少の主要因と脅威

池沼の開発(12)や水田の耕地整備(15)による生育環境の消失が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が見つかったら、最適な生育環境を維持すること。

(湯浅保雄)



ササバラン *Liparis odorata* (Willd.) Lindl.

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 b) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B 類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~40 cm。偽球茎は卵形で長さ 2 cm。葉は 3~5 個が下部に集まり茎を抱き、狭長楕円形で長さ 8~16 cm、縦皺がある。花期は 7~8 月。花は黄緑色から汚紫色で、茎の上半部に多数つく。萼片は披針形。側花弁は線形。唇弁は倒卵形で長さ 6 mm、反曲する。近縁種のクモキリソウやコクランは本種と花が似るが、葉が卵状楕円形である。

2. 分布

国外では中国、台湾、ヒマラヤ、インドなどに、国内では本州（栃木県以南）、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の日当たりがよい痩せた草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には修善寺の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移（54）が主要因である。園芸採取（41）も脅威である。

6. 保護対策

記録がある生育地の保全を図り、生育が確認された場合は、環境に応じた善処を図り、産地情報の公開は慎重な配慮が必要である。（宮崎一夫）



静岡県(栽培) 2017年7月12日 西口紀雄



ウラジロギボウシ *Hosta hypoleuca* Murata

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 b) 変更なし

クサスギカズラ科 Asparagaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B 類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~40 cm。葉は落葉性で長柄があり葉身は卵形で大きく長さ 20~40 cm、質は厚く基部は心形、上面は淡緑色、裏面は粉白色で脈は隆起しない。花期は 7~8 月。苞は楕円状船底形で長さ 1.8~2.2 cm、白色で開花時に開出せず萎れない。花茎は長く総状花序をなす。花被は長さ 3.5~4.5 cm、白色で内面中央部は帯紫色。雄蕊は花筒から外に出る。近縁種のおオバギボウシは、葉裏が淡緑色で脈が隆起して、苞は開出する。

2. 分布

日本固有種で、本州（愛知県、静岡県）に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山地の谷沿いの湿った石灰岩の岩壁に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には水窪の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取（41）が主要因である。生育場所が局限（61）することも脅威である。

6. 保護対策

自生していた記録がある潜在的な生育地を保全する。今後も継続して探索する必要がある。（宮崎一夫）



愛知県 1976年8月2日 内藤宇佐彦



タカネイ *Juncus triglumis* L.

静岡県カテゴリ 情報不足 (DD) (要件 b) 変更なし

イグサ科 Juncaceae

[2004年版カテゴリ 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ6~15 cm。矮性で叢生する。茎は細い円柱形。葉は3~4個が下部につき先が硬質化して鈍形、円筒状針形で長さ1~5 cm、鞘部の耳片は大型。花期は7~8月。頭花は1個が頂生し2~3花からなる。花被片は卵状披針形で長さ4 mm、褐色。近縁種のイトイは花被片が狭披針形で白色である。

2. 分布

国外ではサハリン、中国、朝鮮半島、ヒマラヤ、ヨーロッパに、国内では北海道、本州の高山帯に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布しており、静岡県は南限自生地である。

3. 生育環境

高山帯の湿り気のある砂礫地や疎草地に生育する。

4. 生育状況

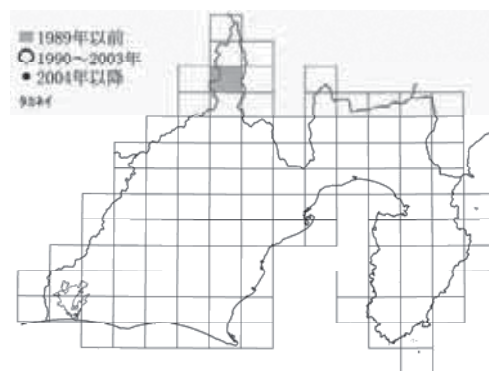
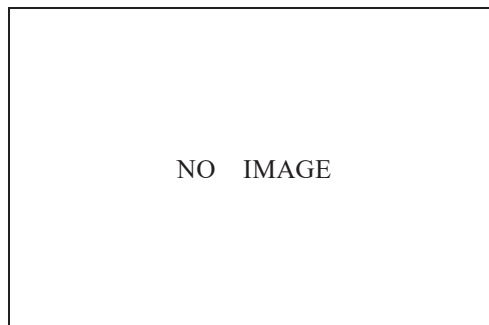
静岡県植物誌(1984)には南アルプス東岳の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地が局限(61)していて株数も少ないと思われる。

6. 保護対策

再確認された場合は登山道を迂回するなど産地に応じた保護対策を施す。
(宮崎一夫)



ミズタカモジ *Elymus humidus* (Ohwi et Sakam.) A. Löve

(=ミズタカモジグサ)

静岡県カテゴリ 情報不足 (DD) (要件 a, b, c) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~60 cm。茎は束生し、倒伏した節から根と枝を出し、翌年の新しい株となる。葉は長さ7~15 cm、幅3~7 mm。花期5~7月。穂状花序は細く直立。小穂は花期にも花軸に圧着、5~7小花からなり、はじめ淡緑色で成熟すると紫褐色に染まる。花穂が成熟すると、一番上の節から葉をつけたまま脱落する。

日本固有種と中国原産の帰化植物という二つの見解がある。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州、九州に分布する。県内では東部、西部に分布する。

3. 生育環境

田植え前の水田。

4. 生育状況

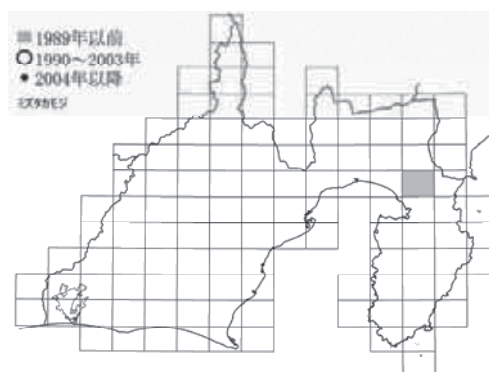
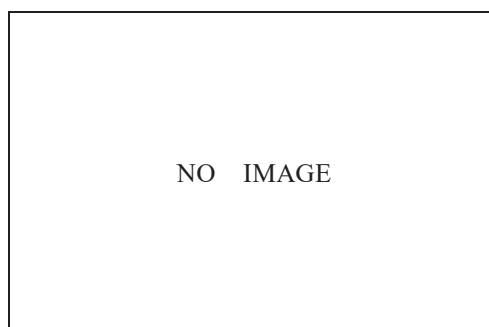
静岡県植物誌(1984)に三島市、小笠山・三島市に帰化との記載があるが、その後の情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

水田の管理方法の変化(71)と農薬の使用(32)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら生育環境に配慮して保護すること。
(湯浅保雄)



チツパベンケイ *Hylotelephium sordidum* (Maxim.) H. Ohba var. *sordidum*
(=ハマベンケイソウ)

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 b) 変更なし

ベンケイソウ科 Crassulaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~25 cm。葉はふつう互生し、卵~卵円形、長さ2.5~4.5 cm、汚赤紫色を帯びる。葉柄はないが、基部は急に細まり柄状となる。花期は9~10月。花序は散房状で球形、淡黄緑色。

2. 分布

日本固有変種で、本州(中部と北部)に分布する。県内では東部(富士山)に分布する。

3. 生育環境

山地の岩上、稀に樹上などに着生する。屋根の上に生えることもある。

4. 生育状況

情報が少なく検討を要する。

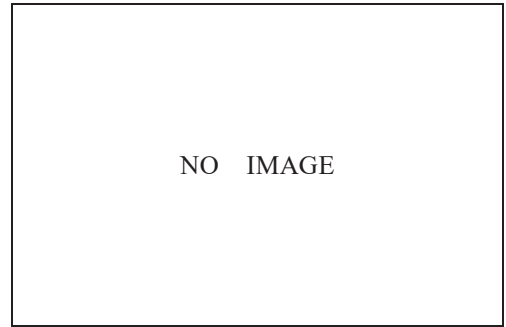
5. 減少の主要因と脅威

不明(99)。

6. 保護対策

特になし。

(西口紀雄)



イワレンゲ *Orostachys malacophylla* (Pall.) Fisch.

var. *iwarenge* (Makino) H. Ohba

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 b) 変更なし

ベンケイソウ科 Crassulaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。全体が白緑色を帯びる。径10 cm位のロゼット状に広がる。ロゼットの葉は長さ4~6 cm、倒披針形、先端は尖らない。花期は9~11月。花弁は白色、狭倒披針形、長さ6~8 mm。葯は黄色。

2. 分布

日本固有変種で、本州(関東地方以西)、九州に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

海岸や海辺の岩上や断崖に生育する。屋根の上に生えることもある。

4. 生育状況

栽培もされている。県内のものは、自生か逸出か判断が難しい。

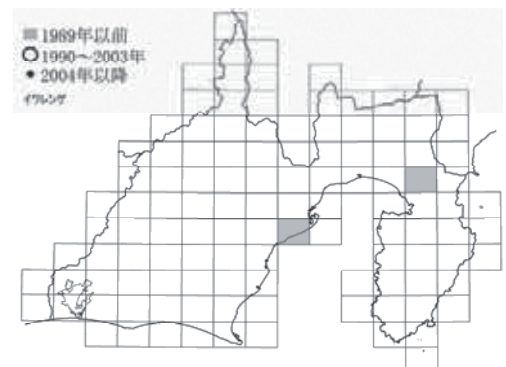
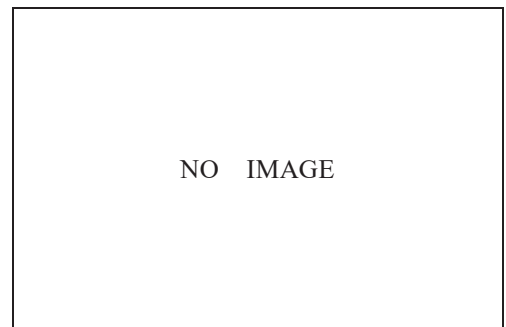
5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)が一番の脅威である。また、人家から非意図的に逸出がおりやすい。

6. 保護対策

園芸採取防止のキャンペーンも必要である。逸出防止の呼びかけも同様に必要である。

(西口紀雄)



モミジカラスウリ *Trichosanthes multiloba* Miq.

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 a, d) 変更なし

ウリ科 Cucurbitaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

ツル性の多年草。葉は広卵形あるいは五角状卵形で基部は深い心形。5~9の裂片に中・深裂し、両面に短毛を散生し、点状の突起がある。雌雄異株。花期は6~8月。雄花序は長さ10~25 cm。雌花は単生する。花は直径5~6 cmで5裂し、先は糸状に分裂する。果実は液果で長さ10 cmに達する。種子は10 mmほどで広楕円形、黒褐色。

2. 分布

日本固有種で、本州(伊豆半島以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の山地の林縁部。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に、伊豆の河津町、南伊豆町、東部の三島市、中部の藤枝市、西部の小笠郡での記録があるが、前回(2004年)調査でも、今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

山林の開発(11)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

カラスウリの誤認の可能性もあるので、標本の再検討が必要である。生育地が確認された場合は、生育環境の保全を行う。(湯浅保雄)



©フォトライブラリ



ミズスギナ *Rotala hippuris* Makino

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 b, e) 変更なし

ミソハギ科 Lythraceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A 類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。根茎は細く水底の泥の中を横に這う。茎は多くの節のある円柱形でまっすぐに伸びて、上部は水面の上に立ち上がる。葉は5~12個輪生し、沈水葉は糸状線形、水上葉は線形で長さ0.5~1 cm、幅0.6~1 mm。花期は9~10月。花は白色で細かく、水面上に伸びた部分の葉腋に単生する。萼4個、花弁4個。萼筒は長さ約0.6 mm、裂片は3角形。花弁は萼の縁につく。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東地方から近畿地方南部)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

湖沼やため池、湿地に生育する。

4. 生育状況

日本水草図鑑(1994)の分布図には、静岡県内の産地が示されているが、詳細な場所と生育状況は不明である。また、その後、確認された情報は得られていない。

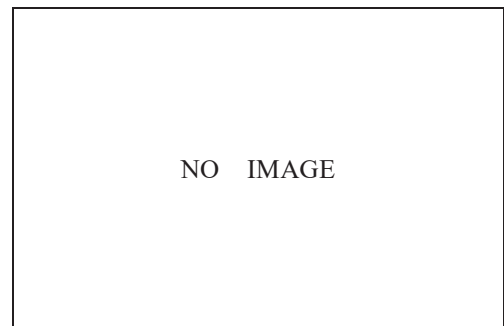
5. 減少の主要因と脅威

池沼や湿地の開発(12、15)と水田の耕地整備(15)などが減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が確認できたら、最適な生育環境を保全すること。

(湯浅保雄)



イナベアザミ *Cirsium magofukui* Kitam.

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件b) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 70~150 cm。根出葉は花時にはない。花期は 10~11 月。頭花は長柄の先に點頭してつき径 12~21 mm、総苞片は反曲し線状披針形で先は長鋭尖頭、縁に刺がある。

2. 分布

日本固有種で、本州（滋賀県、三重県、岐阜県、福井県）に分布する。県内では西部（水窪）に分布する。

3. 生育環境

深山の林下に生育する。

4. 生育状況

今のところ確実な情報が得られない。記録があるが再調査が必要である。

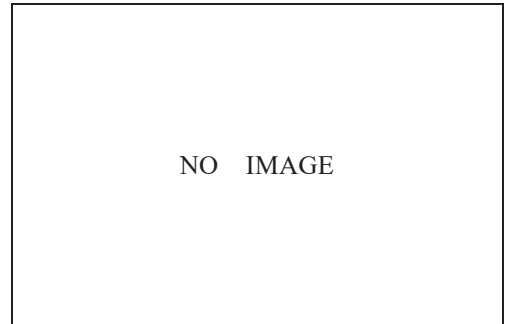
5. 減少の主要因と脅威

不明 (99)。

6. 保護対策

特になし。

(内藤宇佐彦)



ドロニガナ *Ixeridium dentatum* (Thunb.) Tzvelev

subsp. *kitayamense* (Murata) J. H. Pak et Kawano

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 b, e) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30 cm 程度。叢生し走出枝はない。茎はよく分枝し有毛。葉は披針形で互生する。茎葉はくさび形で茎を抱かない。花期は 4~6 月。集散花序を出し黄色の頭花をつける。舌状花は 7~10 個。県内では別種とする説があるが、十分な検討資料が得られていない。

2. 分布

日本固有亜種で、本州（中・西部）に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

増水時に水没する溪流の岩上。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、旧水窪町と旧佐久間町の記録があるが、その後の確認情報はない。

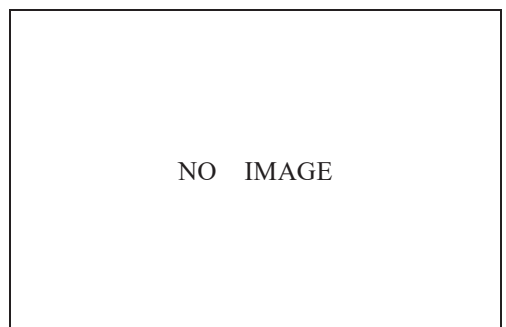
5. 減少の主要因と脅威

ダム建設 (25) や洪水 (55) などによって消滅した可能性も考えられる。

6. 保護対策

ダムや砂防堰堤などの建設時には、その影響を受ける範囲の事前調査を行い、生育が確認できたら保護対策を講じること。

(湯浅保雄)



ヤツガタケシノブ *Cryptogramma stelleri* (S. G. Gmel.) Prantl

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イノモトソウ科 Pteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

小型の夏緑性シダ。根茎は葡萄、径1 mm、褐色膜質の鱗片をつける。葉は長さ10 cm程度、葉身は1~2回羽状複葉で、下部羽片は3出状に分岐する。やや二形で、栄養葉は卵~長楕円形。孢子葉の羽片、裂片は披針~線形。孢子囊群は円く、反転した薄い葉縁で包まれる。

2. 分布

国外では台湾、中国、モンゴル、シベリア、ヒマラヤ、欧州、北米に、国内では本州（長野県、埼玉県、山梨県、静岡県）に分布する。県内では南アルプス（東岳、塩見岳、東俣、西俣）などに分布する。静岡県の南アルプスは、本種分布の南限であろう。

3. 生育環境

高山帯から亜高山帯にかけての湿った岩上に、コケ類などとともに生育する。

4. 生育状況

静岡県内では、南アルプスの高山帯に稀に分布の記録があるが、ここ近年は生育が確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

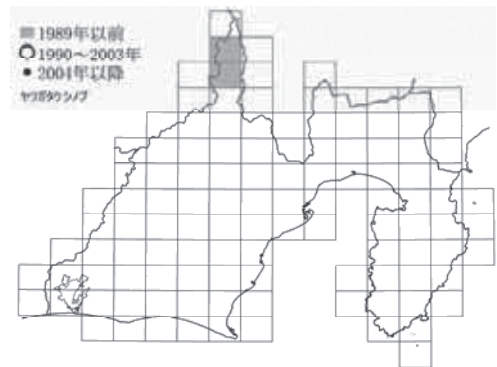
自然の遷移 (54)、踏みつけ (51) などによる消失や絶滅のおそれがある。

6. 保護対策

生育地の乾燥化、とりわけ登山道の整備や登山者による踏みつけなどによる環境の悪化を防ぎたい。（細倉哲穂）



長野県 2018年6月2日 室伏幸一



アオチャセンシダ *Asplenium viride* Huds.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

チャセンシダ科 Aspleniaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。根茎は短く斜上する。小型のトラノオシダの切れ込みの少ない形に似るが、下部羽片はほとんど小さくならない。チャセンシダにも似るが、葉柄、葉軸に翼がない。

2. 分布

国外では台湾、ヒマラヤ、ロシア、欧州、北米に、国内では北海道、本州（群馬県、新潟県、埼玉県、長野県、山梨県、静岡県）、四国（徳島県）に分布する。県内では中部（南アルプス東俣・塩見岳など）に分布する。

3. 生育環境

高山帯、亜高山帯の林中に生じ、多くは石灰岩の岩壁に着生する。

4. 生育状況

県内では近年生育が確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

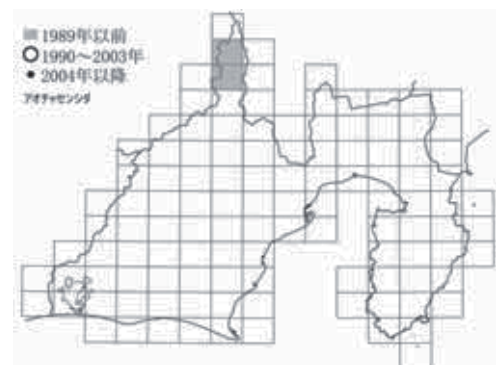
自然の遷移 (54)、登山道の整備 (71)、登山者による踏みつけ (51) が、減少の主要因であろう。

6. 保護対策

生育地の乾燥化、登山道整備や登山者による踏みつけなどによる自然環境の悪化を防ぎたい。（細倉哲穂）



静岡市 2000年8月28日 杉野孝雄



ニッコウシダ *Thelypteris nipponica* (Franch. et Sav.) Ching

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ヒメシダ科 Thelypteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の夏緑性シダ。葉は60 cm前後に達し、根茎は短く這う。葉柄には淡褐～茶褐色、卵状披針形の鱗片をまばらにもつ。葉身は披針形、下部はだんだん短くなる。孢子嚢群は中間性で、円腎形、腺毛と毛をもつ包膜で覆われる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア東部に、国内では北海道、本州（中部地方以北）に分布する。県内では東部（小山町、御殿場市、沼津市、富士市、富士宮市など）に分布する。愛鷹山々麓は、本種の南限自生地である。

3. 生育環境

温帯山地のやや湿った草原、明るい向陽の湿原に生ずる。しばしば群生する。

4. 生育状況

ニッコウシダは近年、各地でとみに少なくなっている。変種メニッコウシダは、富士山系山地にしばしば見られる。

5. 減少の主要因と脅威

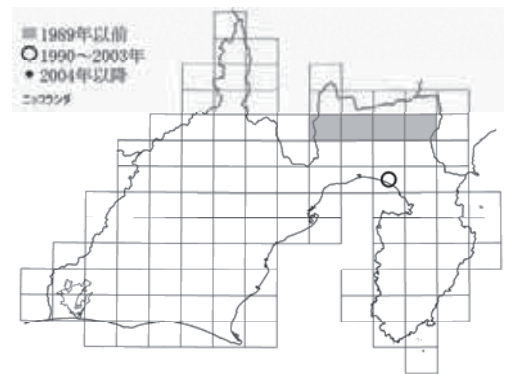
自然遷移 (54) による減少、絶滅、登山者の踏みつけ (51) などによる環境変化がその主要因と考えられる。

6. 保護対策

山林の樹木伐採や踏みつけなどによる自然環境の変化を防ぐ必要がある。（細倉哲穂）



沼津市 1993年8月8日 細倉哲穂



エゾメシダ *Athyrium sinense* Rupr.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の夏緑性シダ。ミヤマメシダに似るが、葉柄は葉身とほぼ同じくらいの長さで赤褐色を帯びることが多い。葉柄下部の鱗片は、茶～茶褐色で、ミヤマメシダの黒褐～黒色の鱗片と異なるが、この両者には紛らわしい個体も多い。ミヤマメシダとの区別が難しい個体が多く、正確な調査が必要である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部に、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。南アルプスは分布の南限というが、生育の再確認が必要である。

3. 生育環境

高山帯、亜高山帯の山地林下、陰湿な場所に生育する。

4. 生育状況

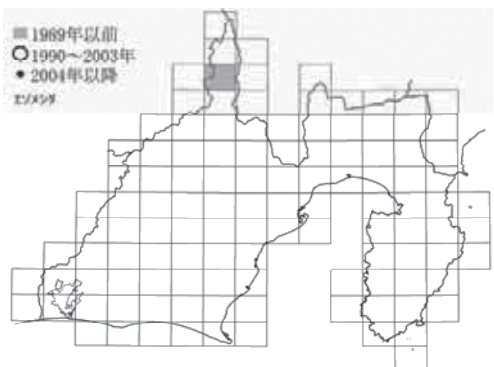
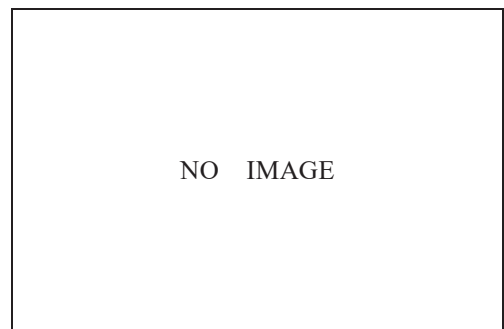
近年、生育地での生育は確認されていない。現地での再確認が必要である。

5. 減少の主要因と脅威

自然遷移 (54) や、登山道での踏みつけ (51) が、減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

踏みつけなどによる生育地の環境変化を防ぐ必要がある。当面、生育地での生育再確認も必要である。（細倉哲穂）



オクヤマワラビ *Athyrium alpestre* (Hoppe) Clairv.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イワデンド科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の夏緑性シダ。根茎は太く、斜上、葉柄下部に淡茶色、披針形の鱗片。葉は60 cm前後になり、3回羽状に中～深裂する。羽片は10対ほどで、最下羽片は上の羽片よりやや短い。包膜はごく短い。

2. 分布

国外では北半球の温帯に広く分布し、周極要素の種といわれる。国内では北海道、本州（中部地方、東北地方）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。南アルプスは分布の南限である。

3. 生育環境

亜高山～高山帯の草原や岩場近くに生育する。

4. 生育状況

近年、記録のある赤石岳及び近隣の南アルプスの山中では、生育が確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

自然の遷移 (54)、踏みつけ (51) などによる環境変化が減少の脅威である。

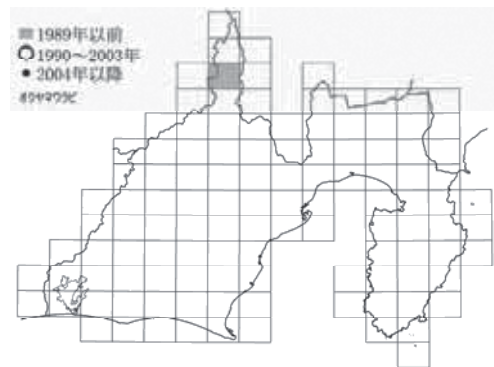
6. 保護対策

登山道の整備などに留意し、踏みつけなどによる環境変化を防ぐ必要がある。

(細倉哲穂)



長野県 2014年8月2日 室伏幸一



ツクシヌワラビ *Athyrium kuratae* Seriz.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イワデンド科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。タニイヌワラビに似るが、葉柄基部鱗片は茶～茶褐色（タニイヌワラビは黒～黒褐色）。葉質はやや厚く、小羽片は鈍頭、基部は葉軸に流れることが多い。

2. 分布

国外では台湾、中国に、国内では本州（中部地方以西）、四国、九州、八丈島に分布する。県内では伊豆（東伊豆町、西伊豆町、河津町など）に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地の林下、やや陰湿な場所に生育している。

4. 生育状況

伊豆で記録はあるが、近年は生育が確認されない。

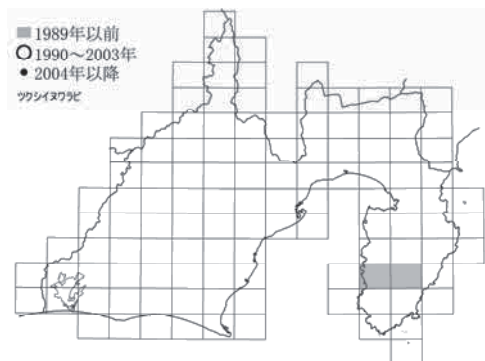
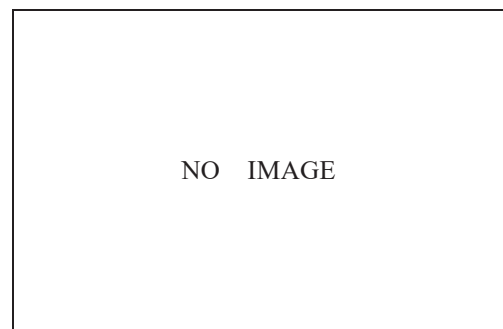
5. 減少の主要因と脅威

山林開発 (11)、林道整備 (24)、河川改修 (13) などによる環境の悪化で減少している。

6. 保護対策

山林伐採、河川改修、林道整備などによる生育地の消失や減少を防ぎたい。

(細倉哲穂)



ヤクカナワラビ *Arachniodes yakusimensis* (H. Itô) Nakaike

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中～大型の常緑性シダ。オオカナワラビに似るが、オオカナワラビに比して葉身細長く、小羽片の切れ込みは深い。外見はコバナカナワラビとの雑種テンリュウカナワラビに似るが、本種は雑種ではない。包膜は無毛で、辺縁は全縁である。

2. 分布

国外では台湾、中国に、国内では本州（静岡県）、九州（鹿児島県南部）、沖縄に分布する。県内では伊豆（西伊豆町宇久須）に分布する。伊豆は分布の東限、北限である。

3. 生育環境

暖地の山地林内、陰湿な場所に生育する。

4. 生育状況

伊豆の生育地は、近年生育が確認されていない。生育の再確認が望まれる。

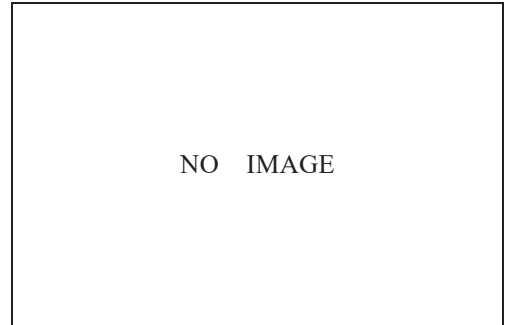
5. 減少の主要因と脅威

山林の伐採や開発（11）、林道の整備や改修（24）などによる生育地の環境変化が脅威である。

6. 保護対策

山林の伐採・開発、林道の整備・改修などによる環境変化を防ぎたい。

(細倉哲穂)



カラフトメンマ *Dryopteris sichotensis* Kom.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の夏緑性シダ。根茎は塊状で、葉は120 cmほどに達する。葉柄下部に広披針形、淡褐色で栗色のまじる鱗片を密生する。オシダに似るが、孢子嚢群は葉身の上半につき、小羽片は間隔やや広く、先端はやや鋭頭である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、ロシア東部に、国内では北海道、本州（福島県、中部地方）に分布する。県内では中部（南アルプス荒川岳、樺島、千枚岳、東俣など）に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯森林内で林床のやや湿った所に稀に生じる。

4. 生育状況

亜高山帯森林の林床に生じるが、稀で、オシダのように群生しない。近年は大井川上流の樺島以外には生育が知られていない。樺島では、オシダとの雑種と思われるものも見つかる。個体数も少なく稀なこともあって、近年の生育はほとんど確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

自然の遷移（54）、シカによる食害（52-1）が脅威である。

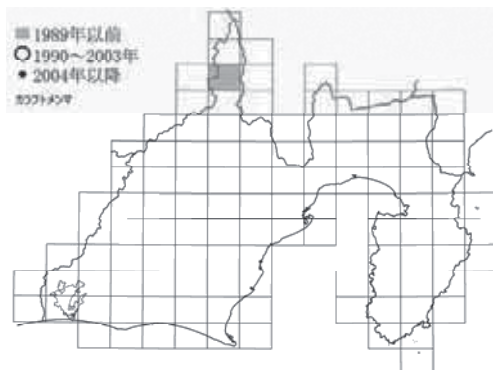
6. 保護対策

生育地、近隣地域、類似の環境の場所での再確認が必要である。確認された場合には、生育環境に配慮した保護が必要となる。

(細倉哲穂)



山梨県 2017年9月3日 室伏幸一



ニオイシダ *Dryopteris fragrans* (L.) Schott

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。根茎は太く短く斜上、葉身は 20 cm 程度に達し束生する。根茎には古い葉が縮んだ状態につき、枯れた葉も残る。葉身は 2 回羽状で、下部羽片はやや短くなる。孢子嚢群は中肋両側に 1 列につき、隣同士重なり合う大きな包膜をもつ。包膜辺は不規則に裂け、腺毛がある。腺毛から分泌する芳香で、和名はそれに由来する。

2. 分布

国外では朝鮮半島東部、中国北部、ロシア、北米の温帯から亜寒帯に広く、国内では北海道、本州（中部地方以北）に分布する。県内では中部（南アルプス小河内岳から小西俣）に分布する。静岡県は分布南限地である。

3. 生育環境

高山の岩壁、あるいは林内の岩上に生育する。

4. 生育状況

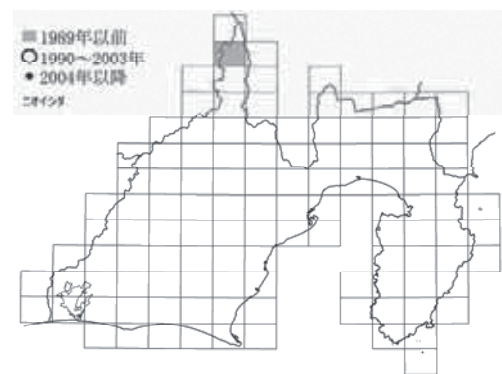
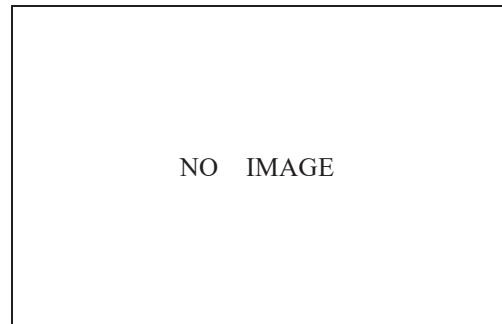
県内では近年の生育は確認されない。県外でもごく稀である。

5. 減少の主要因と脅威

生育の知られた場所の植生遷移 (54) による環境変化、登山者による踏みつけ (51) が脅威である。

6. 保護対策

生育地での再調査による再確認が是非とも必要。また、踏みつけによる影響を防ぐ必要がある。(細倉哲穂)



クロミノイタチシダ *Dryopteris melanocarpa* Hayata

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。ナガバノイタチシダに似て、葉身は 3 回羽状複生し、全形 5 角形状卵形で、上部羽片は急に短くなる。葉柄は黒褐色、下部に広披針形の鱗片をもつ。孢子嚢群はやや中肋寄り、全縁の包膜をもつ。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州（伊豆半島、紀伊半島）、九州南部、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆（西伊豆）に分布する。伊豆は分布の東北限である。

3. 生育環境

暖地山地、林内の溪流近くなど、やや陰湿な場所に生育している。

4. 生育状況

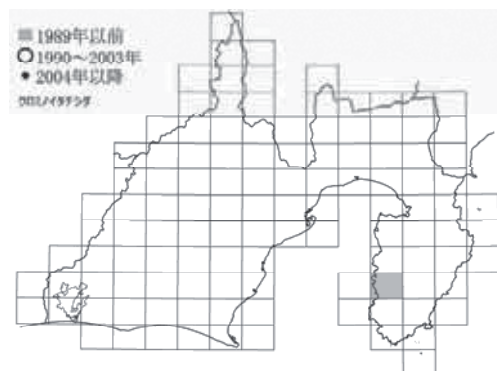
県内では西伊豆町で 50 年以上前の記録がある。近年、確実な記録は確認できておらず、ナガバノイタチシダに酷似し、まだ紛れているものもあることが考えられる。

5. 減少の主要因と脅威

林道の整備 (24)、河川の改修や開発 (13)、山林の伐採 (11) などによる環境の悪化が懸念される。

6. 保護対策

河川の改修、林道の整備、山林の伐採など、注意が必要である。(細倉哲穂)



チョウセンゴミシ *Schisandra chinensis* (Turcz.) Baill.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

マツブサ科 Schisandraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

ツル性の落葉木本。葉は厚膜質で長楕円形、長さ4~10 cm、幅3~5 cm。先は尖り鋭尖頭、基部は鋭形。縁にはまばらな腺状鋸歯がある。葉脈はへこみ裏面に突き出る。雌雄異株。花期は5~7月。径約1 cmの黄白色の花をつける。芳香がある。花被は6~9枚。集合果は長さ5~6 cmで垂れ下がる。果実は赤く熟し、大きさが不揃いである。種子は黒色で球形。

2. 分布

国外ではロシア(アムール、サハリン)、朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州(中・北部)に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の山林内と林縁。

4. 生育状況

前回(2004年)調査でも、今回の調査でも確認できていない。しかし、近年南アルプス地域で見られたという情報はあ

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)が減少の主要因であるが、近年はシカによる食害(52-1)が脅威である。

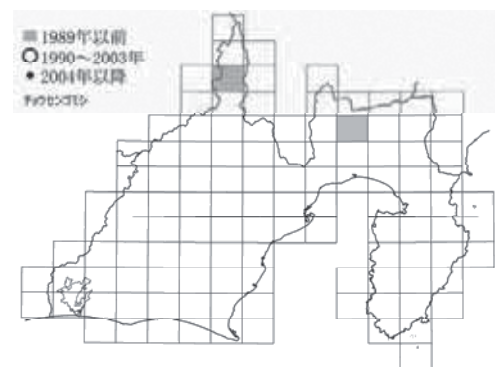
6. 保護対策

生育が確認されたら、シカの食害から保護すること。

(湯浅保雄)



長野県 2013年10月21日 宮崎一夫



ミズバショウ *Lysichiton camtschatcense* (L.) Schott

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

サトイモ科 Araceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。太い根茎がある。葉は広卵形または楕円形で、長柄を含めて長さ80 cmに達する。花期は5~7月。花序は葉に先立って開き、花茎は10~30 cm。仏炎苞の腋部は白色。花は小さく、棒状の花軸上に密につく。淡緑~黄色。花被は4個、雄蕊4本。

2. 分布

国外ではロシア(ウスリー、サハリン、カムチャツカ、北クリール)に、国内では南千島、北海道、本州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

湿原や疎林内の湿地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に富士市の浮島沼で見られたという記載があるが、その後確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

気候変動(55)と湿地の開発(15)が減少の主要因と考えられる。

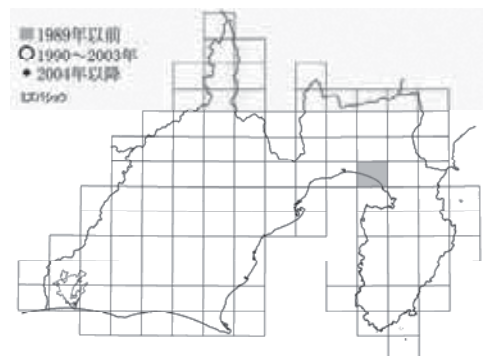
6. 保護対策

生育が確認されたら、生育環境に配慮して保全すること。

(湯浅保雄)



山形県 2016年3月31日 宮崎一夫



ハナゼキショウ *Tofieldia nuda* Maxim. var. *nuda*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

チシマゼキショウ科 Tofieldiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 8~30 cm。根茎は短小で走出枝を欠く。根出葉は線形で長さ 10~30 cm。わずかに湾曲し先端は長く尖る。花期は 6~8 月。花茎の上部に総状に白い小花をつける。副萼は 3 裂し、裂片は卵円形。花被片は 6 個で長さ 1~3 mm、線状のへら形。雄蕊は 6 個で花被片より少し長い。

2. 分布

日本固有変種で、国内では本州（関東地方以西）、九州（佐賀県、長崎県）に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の谷筋、または湿った岩壁などに生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には静岡市葵区梅ヶ島の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の環境変化（71）と園芸用採取（41）が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が見つかったら、最適な生育環境を維持するようにつとめること。

（湯浅保雄）



©フォトライブラリ



イバラモ *Najas marina* L.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

沈水性の一年草。茎には刺があるものとないものがある。葉は線形 2~6 cm、幅は 2 mm で歯牙がある。雌雄異株。花期は 7~9 月。

2. 分布

国外では世界に広く、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地の湖沼、ため池や、稀に河川、水路に生育する。

4. 生育状況

浮島沼、静岡市、小笠山、浜松市などの記録がある。近年生育が確認されていない。

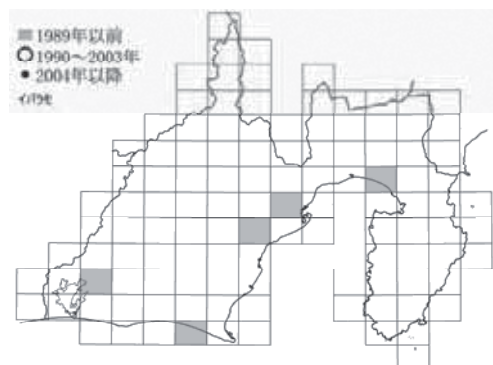
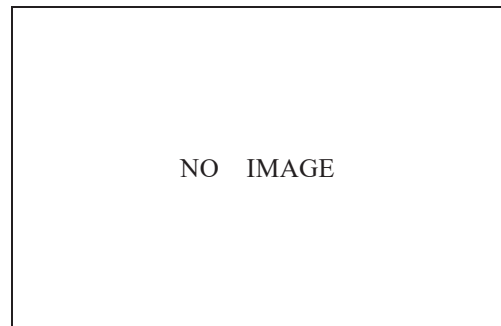
5. 減少の主要因と脅威

湖沼・ため池の埋め立て（12）や水質悪化（31）により減少した。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、その保護が必要である。

（内藤宇佐彦）



センニンモ *Potamogeton maackianus* A. Benn.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ヒルムシロ科 Potamogetonaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

沈水性の多年草。根茎は泥中を横に這う。茎は細くてまばらに分枝し、水中に直立している。葉はすべて沈水性で広線形、長さ2~6 cm、幅2~3 mm。縁に細かい鋸歯がある。葉の基部は托葉と合着して葉鞘となって茎を抱いている。花期は7~8月。枝先に花茎を伸ばし、その上部に1 cmほどの穂状花序をつける。花には花被はなく、葯隔付属突起が4個で花被片状となっている。雄蕊4個、雌蕊2個。

2. 分布

国外では東南アジア北部に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

低地の池沼や河川、水路などの水中。

4. 生育状況

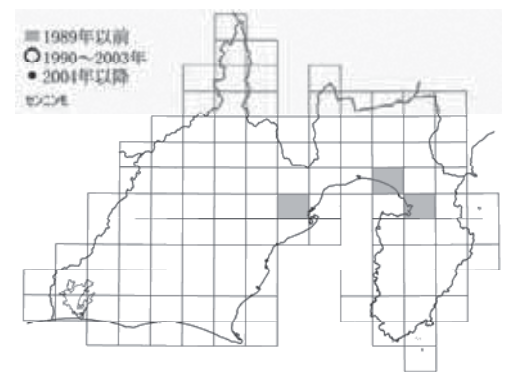
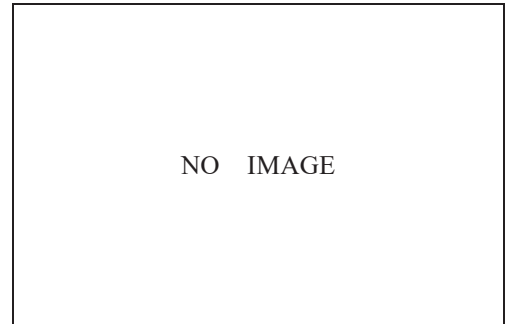
静岡県植物誌(1984)には旧大仁町と富士市の浮島沼、静岡市の鯨ヶ池の記録があるが、その後、生育は確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の開発(12)と河川・水路の整備(13)、水質汚濁(31)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認されたら、水質浄化や競合植物の除去など、生育環境を整備すること。(湯浅保雄)



ヒロハノエビモ *Potamogeton perfoliatus* L.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ヒルムシロ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

沈水性の多年草。地下茎は横に這い、1節おきに水中茎を出す。葉はすべて沈水葉で、葉身は広披針形で長さ2~6 cm、幅1~2.5 cm。花期は6~9月。葉腋から3~9 cmの柄のある穂状花序を出し、密に花をつける。花には葯隔付属突起が4個、心皮が4個ある。果実は広卵形。

2. 分布

国外では南アメリカを除く世界の冷温帯から亜熱帯に広く、国内では北海道から九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

池沼や水路の水中。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に浜松市の記録があるが、前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

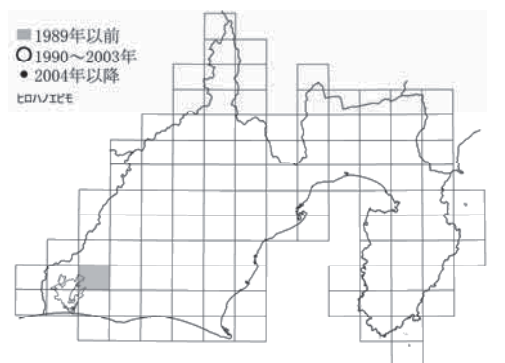
池沼の開発(12)や河川改修(13)、さらに水質汚濁(31)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育に必要な環境条件を維持すること。(湯浅保雄)



福井県 2007年6月24日 内藤宇佐彦



シロバナショウジョウバカマ *Helonias breviscapa* (Maxim.) N. Tanaka
var. *flavida* (Nakai) Yonek.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

シユロソウ科 Melanthiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~20 cm。根茎は短く直立し、そこから多数の葉が広がりロゼット状をしている。葉はやや薄く、縁には細かい波状鋸歯がある。花期は 4~5 月。根出葉の中心から花茎を出しその頂に 3~10 個の花をつける。花は白色から淡紅色。花被片の基部はふくらむ。類似のツクシショウジョウバカマの花被片基部はふくらまないで区別できる。

2. 分布

日本固有変種で、本州 (近畿地方・中国地方)、四国 (東部) に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

山地のやや湿った林内や草地。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に熱海市の日金山の記録があるが、その後確認されていない。日金山には白い花をつけるツクシショウジョウバカマが生育している。静岡県植物誌 (1984) に記録されている本種はその誤認の可能性がある。

5. 減少の主要因と脅威

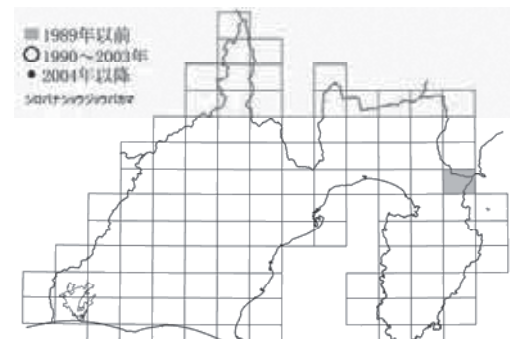
草地の管理放棄 (52) による植生遷移と園芸採取 (41) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育環境としての草地を維持すること。 (湯浅保雄)



三重県 2014年4月2日 宮崎一夫



ヒメイズイ *Polygonatum humile* Fisch. ex Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

キジカクシ科 Asparagaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~50 cm。根茎は細く長い。茎は稜角がある。葉は長楕円状披針形で長さ 4~7 cm、幅 6~30 mm。下面は淡緑色。葉縁と裏面脈上に小突起がある。花期は 6~7 月。葉腋に 1~2 個の淡黄緑色の花を下垂する。花は筒形で長さ 15~20 mm、先は 6 裂する。液果は球形で、径 8~9 mm、黒紫色に熟す。

2. 分布

国外ではロシア (シベリア、サハリン)、朝鮮半島、中国東北部に、国内では南千島、北海道、本州 (中・北部)、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の山地や海岸の草地や疎林内。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、御殿場市、富士宮市に生育すると記載があるが、その後、確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) や広葉樹林の人工林化 (71) が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

産地が確認されたら、生育環境を保全し保護すること。

(湯浅保雄)



岐阜県 1989年6月4日 内藤宇佐彦



ヤマアマドコロ *Polygonatum odoratum* (Mill.) Druce
var. *thunbergii* (C. Morren. et Decne.) H. Hara

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

キジカクシ科 Asparagaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~100 cm。葉の長さは 8~15 cm。下面脈上に細突起があることが特徴とされる。花期は 4~5 月。花筒の長さは 20~25 mm。類似のアマドコロは、茎の高さは 30~60 cm で葉裏の脈上には微細突起があり、花筒の長さは 15~20 mm で区別される。

2. 分布

日本固有変種で、本州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯の山地。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、産地として愛鷹山が載っているが、その後の確認情報はない。

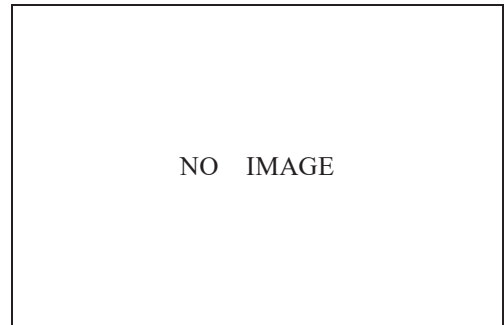
5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採 (11) による生育環境の変化が考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、最適な生育環境を維持し、シカによる食害対策も講じること。

(湯浅保雄)



タマミクリ *Sparganium glomeratum* (Beurl. ex Laest.) L. M. Newman

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) (要件) 変更コード9, 18

ガマ科 Typhaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

抽水性の多年生。高さ 20~120 cm。地下茎は横に這う。葉は水中から抽出して、2 列生し線形で、断面は三角状である。花期は 6~8 月。雌雄同株。花茎は分枝せず、下部に雌性の頭花を 3~7 個つけ、腋生と腋上生がまじり、上に雄性の頭花を 1~2 個つける。集合果は緑色の球形で径 10~15 mm。果実は広卵形で長さ 4 mm、中央部分でくびれる。近縁種のヒメミクリは果実が倒卵形で長さ 4 mm、くびれはない。

2. 分布

国外ではアジア、ヨーロッパ、北アメリカに、国内では北海道、本州 (中部以北) に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

標高の高い山地のため池や池沼、水路に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、袋井と服織 (静岡市葵区羽鳥) の記録があるが、その後の確認情報はない。

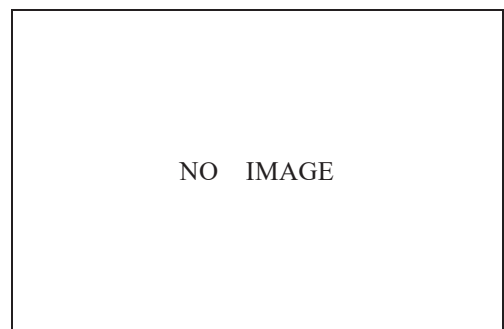
5. 減少の主要因と脅威

ため池や池沼の開発 (12) が主要因である。

6. 保護対策

生育が再確認された場合は、産地に応じて善処することが重要である。

(宮崎一夫)



イヌイ *Juncus fauriei* H. Lév. et Vaniot

(=ヒライ、ネジイ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イグサ科 Juncaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さは20~40 cm。根茎は太く2~4 mm、茎は扁平で数回ねじれる。葉は茎の下部に鱗片状についている。花期は5~7月。花は1個の花序に10~30個つく。雄蕊は6本で、葯は花糸より著しく長い。蒴果は長楕円形で黒褐色、光沢あり。長さは4~5 mm。種子は広楕円形で鉄さび色。

2. 分布

国外ではロシア(サハリン、北クリール)に、国内では南千島、北海道、本州、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

海岸の砂地や山地の湿地。

4. 生育状況

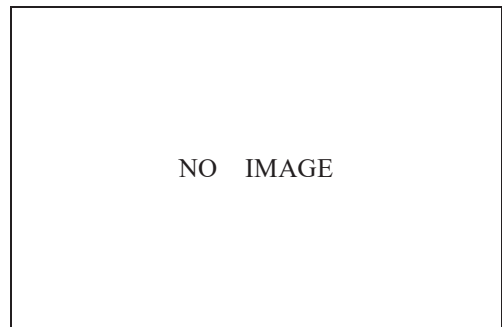
静岡県植物誌(1984)には県西部での記録があるが、前回(2004年)調査、今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

海浜の開発(14)や海岸砂地の消失が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認された場合は、生育地の環境を保全すること。
(湯浅保雄)



チャシバスケ *Carex caryophylla* Latour. var. *microtricha* (Franch.) Kük.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~40 cm。長い匍枝を伸ばして疎生する。果期は5~7月。小穂は上部に接近してつき、頂小穂は雄性で1個、棍棒状で淡褐色。その下に雌小穂が1~3個、長さ1~2 cmで、雌鱗片は明らかな褐色部分がある。果胞は長さ3 mmほど、細脈があって有毛。

2. 分布

国外ではロシア(サハリン、北クリール、カムチャツカ)、朝鮮半島に、国内では南千島、北海道、本州(中部以北)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

山地や海岸の芝地、静岡県では高山の砂礫地や草地。

4. 生育状況

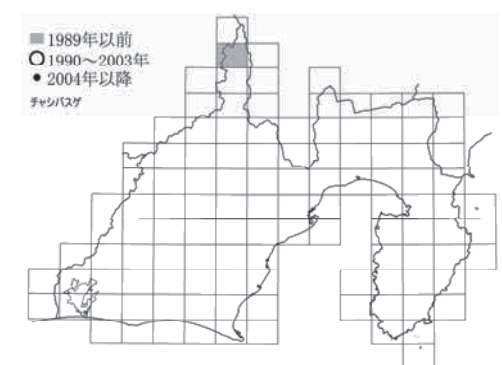
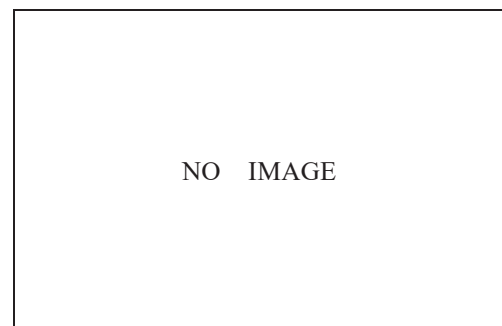
静岡県植物誌(1984)に南アルプスの塩見岳の記録が記載されているが、前回(2004年)調査でも、今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

生育環境の変化(71)が主要因と考えられる。またシカによる食害(52-1)も脅威である。

6. 保護対策

踏みつけを防ぐため、登山道以外に立ち入らないようにすること。
(湯浅保雄)



キンチャクスゲ *Carex mertensii* Presc. var. *urostachys* (Franch.) Kük.

(=イワキスゲ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~60 cm。根茎は短く叢生する。葉は柔らかく、幅 4~8 mm。果期は 7~8 月。小穂は 4~8 個、雌雄性で雌花の部分が多く、基部に雄花部がある。長さ 2~4 cm、長い柄があって點頭する。雌鱗片は黒褐色で、果胞より短い。果胞は扁平で、長さ 4~5 mm。瘦果は長倒卵形で 3 稜がある。柱頭は 3 岐。

2. 分布

国外ではロシア (北クリール) に、国内では南千島、北海道、本州に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。県内の産地は分布の南限である。

3. 生育環境

高山帯の中生草地。

4. 生育状況

近年生育が確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

登山者による踏みつけ (51) と植生遷移 (54) が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

登山道周辺では踏みつけに注意する。

(湯浅保雄)



長野県 2014年8月3日 室伏幸一



サギスゲ *Eriophorum gracile* K. Koch

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~60 cm。地下茎は長い匍枝があり、茎は株を作らず、まばらに叢生する。茎は鈍 3 稜形、根出葉は 3 稜形で細く正面に溝がある。茎葉は短い、下部は長い鞘となって、茎の下部を包む。花期は 7 月。茎の先に散形花序を作り、長短不同の 2~5 本の枝先に小穂をつけ開花する。果実は 3 稜のある狭長楕円形で、長さ 3~3.5 mm。6~8 月に熟す。

2. 分布

国外では朝鮮半島、ユーラシア、北アメリカに、国内では北海道、本州 (中・北部) に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から亜寒帯の湿地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に富士宮市の記録があるが、前回 (2004 年) 調査でも今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

生育環境の消失 (15) と園芸採取 (41) が減少の主要因である。

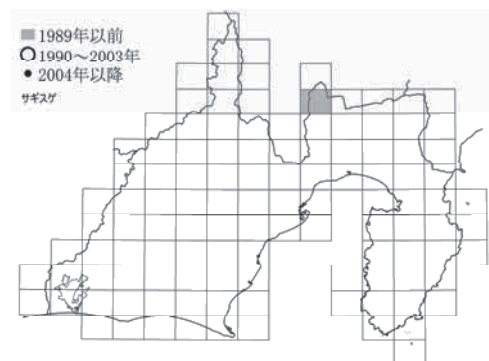
6. 保護対策

生育環境の湿地を保全すること。

(湯浅保雄)



©PIXTA



台湾ヤマイ *Schoenoplectus wallichii* (Nees) T. Koyama

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

1年草または多年草。高さ30~40 cm。茎は細い円柱形で叢生する。果期は8~9月。花序は4~7個の無柄の小穂からなる。小穂は披針形で熟しても淡い緑色を保つ。細刺針状花被片は果実の2倍の長さがある。類似のホタルイの小穂は卵形で、刺針状花被片は果実より短いか、わずかに長い。

2. 分布

国外では中国、台湾、朝鮮半島、インド、インドネシアに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

池沼畔、湿地、水田跡地。

4. 生育状況

藤枝市の記録があるが、前回(2004年)調査でも、今回の調査でも確認されていない。

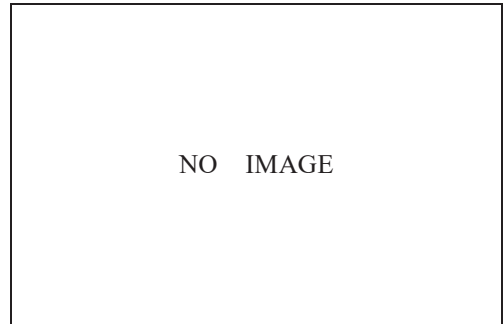
5. 減少の主要因と脅威

池沼や湿地の埋め立て(12)や整備(15)、農薬による汚染(32)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育環境に配慮して保全すること。

(湯浅保雄)



ヒゲノガリヤス *Calamagrostis longiseta* Hack.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ20~80 cm。根茎は短く、茎は束生する。葉身は長さ15~30 cm、幅2~4 mmでわずかに内側に巻く。上面白緑色。花期は7~9月。円錐花序は長さ7~14 cm。枝は半輪生状につき、小穂はやや密につく。小穂は長さ4~5 mmで1小花からなる。包穎、護穎ともほぼ同長。芒は長さ6~12 mmで、途中でよじれ屈曲する。

2. 分布

日本固有種で、国内では本州(中・北部、近畿地方)に分布する。県内では東部(毛無山)と中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から寒帯の草地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に東部の毛無山と中部の南アルプス赤石岳の記録が載っている。しかし、前回(2004年)調査でも、今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)などの生育環境の変化が減少の主要因と考えられる。シカによる食害(52-1)も脅威である。

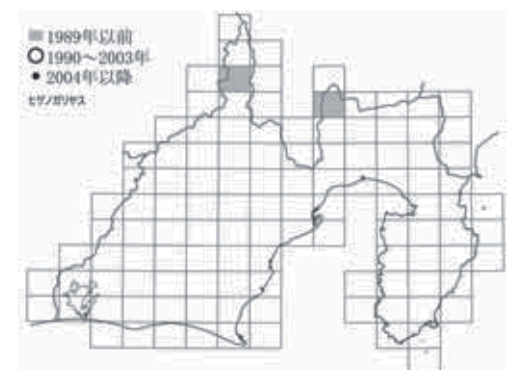
6. 保護対策

生育環境に配慮して保全すること。

(湯浅保雄)



長野県 2018年7月20日 室伏幸一



キダチノネズミガヤ *Muhlenbergia ramosa* (Hack.) Makino

(=ヤブネズミガヤ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イネ科 Poaceae

2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~100 cm。根茎は長く 10~30 mm になり、径は 1.5~2 mm で紙質の薄い鱗片に覆われる。葉は長さ 8~15 cm、幅 3~8 mm で柔らかい。茎は丈夫で多くの枝を分ち花序をつける。花期は 8~10 月。小穂は灰緑色でしばしば淡紫色を帯び、1 小花からなる。護穎の芒は直立し長さ 5~8 mm。

2. 分布

国外では中国中部に、国内では本州（中部以西）、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

温帯の林内。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、静岡市門屋と掛川市小笠山の記録があるが、前回 (2004 年) 調査でも今回の調査でも確認されていない。ネズミガヤ属の植物はよく似ているため、過去の記録は標本の確認が必要である。

5. 減少の主要因と脅威

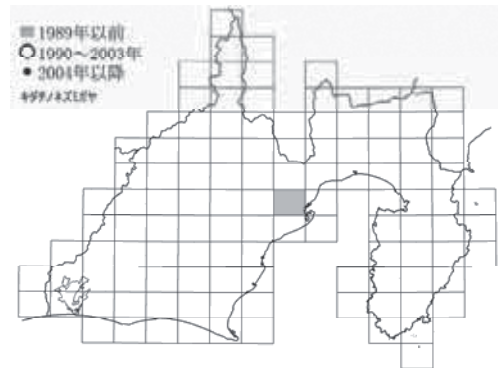
植生遷移 (54) が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、最適な生育環境を維持する。

(湯浅保雄)

NO IMAGE



イトイチゴツナギ *Poa matsumurae* Hack.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~80 cm。地下茎は細く 10 cm 以上になり、ところどころの節から桿を出す。葉は柔らかく鮮緑色。長さ 10~15 cm、幅 1.2~3 mm。花期は 5~7 月。花序は長さ 8~15 cm、幅 3~5 cm。枝はまばらで横に開く。小穂はまばらで扁平、長さ 4~6 mm で 4~5 花よりなる。基盤の綴毛は長くて目立つ。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州（北・中部）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯、亜高山帯の林内や林縁。

4. 生育状況

県東部の愛鷹山に記録があるが、前回 (2004 年) 調査や今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採 (11) による生育環境の変化や林道の開設 (24) などが減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認された時には、生育環境の保全と、シカによる踏みつけ及び食害に対処すること。

(湯浅保雄)

NO IMAGE



ヤマブキソウ *Hylomecon japonica* (Thunb.) Prantl et Kundig

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ケシ科 Papaveraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~50 cm。根出葉は長い柄がある羽状複葉。長さ 30 cm にもなる。小葉は 5~7 個。茎葉は短柄で小葉は 3~5 個。花期は 4~6 月。鮮黄色の 4 弁の花をつける。萼片は緑色で 2 個。花弁は長さ約 1.5 cm、萼片は開花前に落ちる。茎や葉には黄色の液を含む。蒴果は細い円柱形で長さ 3 cm ほど。

2. 分布

国外ではシベリア東部、中国、朝鮮半島に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から暖温帯の湿潤肥沃な落葉樹林内に生育する。

4. 生育状況

産地も個体数も少なく、今回の調査では確認されなかった。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採 (11) による生育環境の変化や、植生遷移 (54)、園芸採取 (41) が減少の主要因と考えられる。

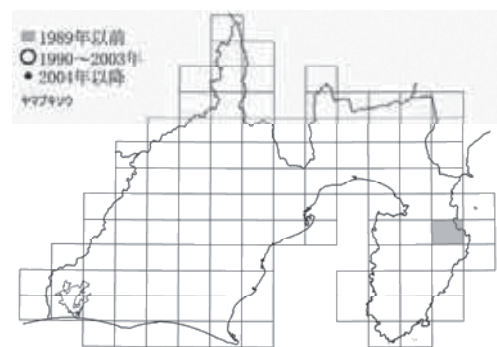
6. 保護対策

生育が確認されたら、生育環境を最適なものに整え保全すること。

(湯浅保雄)



東京都 2016年4月20日 宮崎一夫



ヤマケマン *Corydalis ophiocarpa* Hook. f. et Thomson

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ケシ科 Papaveraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

二年草。高さ 40~80 cm。葉は卵~狭卵形で数回羽状に分裂する。長さ 10~15 cm、幅 5~8 cm。花期は 5~7 月。茎頂に長さ 10~30 cm の総状花序を作り、淡黄色の小さな花を多数つける。花は長さ 8~13 mm で、先が唇状に開き、他方の先端は曲がって少しふくれた距となる。蒴果は線状で長さ約 2 cm、少しねじれている。

2. 分布

国外ではシベリア東部、中国、台湾に、国内では本州 (関東地方)、四国に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の溪谷沿いの岩上など。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、旧本川根町と旧水窪町の記録があるが、前回 (2004年) 調査、今回の調査とも生育が確認されなかった。

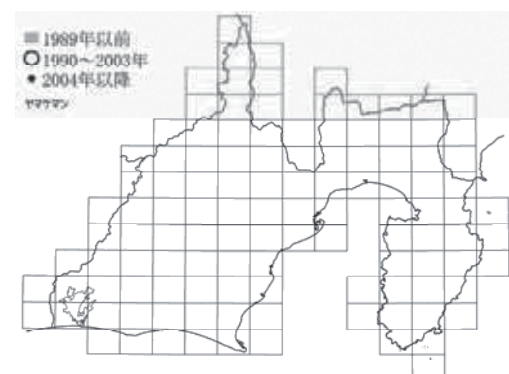
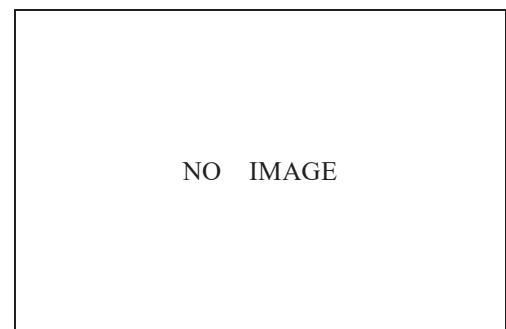
5. 減少の主要因と脅威

山林伐採 (11) による環境の変化が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育に適した環境を維持すること。

(湯浅保雄)



モメンツル *Astragalus reflexistipulus* Miq.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

マメ科 Fabaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ30~80 cm。茎は斜上する。葉は奇数羽状複葉で、小葉は長卵~長楕円形で、長さ2~5 cm、幅1~2.5 cm。数は13~19枚。花期は6~8月。花序は長さ2~3 cmで15個ほどの黄色の蝶形花をつける。花の長さは12~13 mm。豆果は熟すと直立する。細い円柱形で、長さ3.5~4.5 cm、太さ約4 mmで短毛がある。2室に分かれ多数の種子を入れる。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の山麓の草地。

4. 生育状況

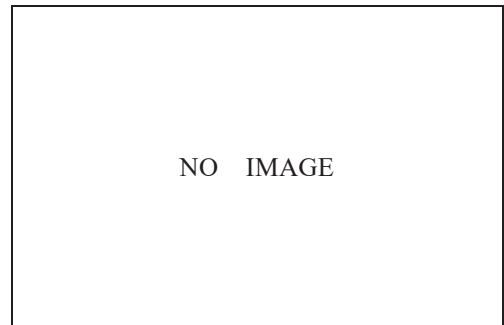
静岡県植物誌(1984)に県西部の記録が載っているが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

草地の管理放棄による植生変化(53)、あるいは草地の植林化(71)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

自生産地が見つかったら、最適な生育環境を作り維持すること。
(湯浅保雄)



ヒロハノカワラサイコ *Potentilla niponica* Th. Wolf

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~40 cm。茎は直立または斜上し、軟毛を密生する。葉は奇数羽状複葉で小葉は7~15枚、小葉間に付属小葉片はない。表面は緑色でほぼ無毛。裏面は白綿毛が密生する。花期は6~8月。茎頂にまばらの散房状集散花序を作り、まばらに黄色の花をつける。花の径は約1 cm。類似のカワラサイコは、小葉の数が15~29枚と多く、また小葉間に付属小葉片がある。

2. 分布

国外ではロシア(ウスリー)、中国東北部、朝鮮半島に、国内では北海道、本州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい草地や河川敷に生える。

4. 生育状況

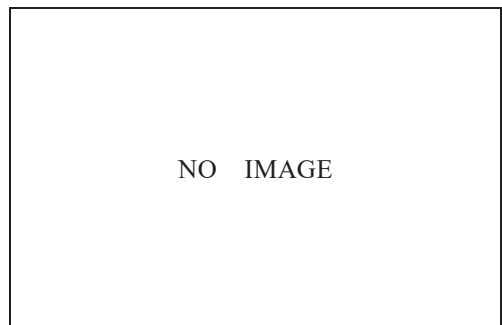
過去には、個体数は少ないが広く分布していた。しかし、前回(2004年)調査でも、今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

植林(71)や植生遷移(54)による草地の減少が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育に適した環境を維持すること。
(湯浅保雄)



クモイザクラ *Cerasus nipponica* (Matsum.) Ohle ex H. Ohba

var. *alpina* (Koidz.) H. Ohba

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。葉は倒卵形で長さ3 cmほど。葉柄には毛がほとんどない。蜜腺は葉柄の上部につき、鋸歯先端の腺体は明らかでない。花期は7~8月。散房状の花序に径2 cm前後の淡紅色の花を1~2個つける。苞は大きく果時にも残る。花序には基本種のタカネザクラと異なり1~2.5 cmの長い総花柄がある。

2. 分布

日本固有変種で、本州(中部)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。南アルプス特産である。

3. 生育環境

高山帯の多少湿った岩礫地。

4. 生育状況

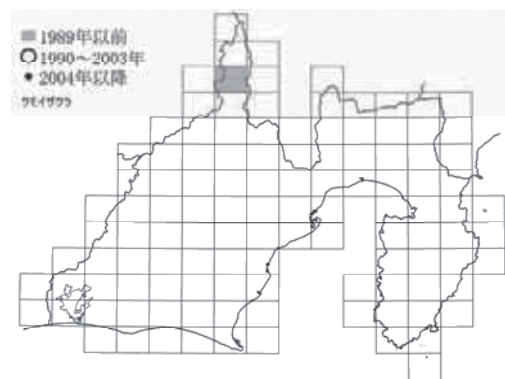
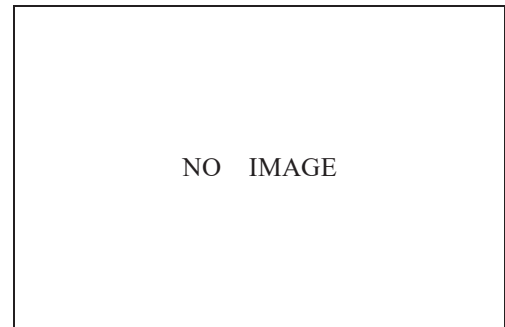
静岡県植物誌(1984)には南アルプスの荒川岳で1925年と1931年に確認されたことが記載されている。しかし、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

崩壊などによる生育地の消失(55)が減少の主要因と推測されるが正確には不明(99)である。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育地盤の保全を図ることと、シカによる食害を防ぐこと。
(湯浅保雄)



ハチジョウイチゴ *Rubus ribisoideus* Matsum.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。茎は直立し、よく分枝する。茎や枝は初め絨毛を密生するが、古くなると落ちる。葉は長柄があり、葉身は円形、幅6~11 cm、3~5中裂する。裏面と葉柄は絨毛に密に覆われる。花期は3~4月。花は枝先に1(~3)個點頭し、径3~4 cm。花弁は白色で5枚。花柄、萼とも絨毛に覆われる。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県、紀伊半島、山口県)、四国、九州、伊豆七島に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

海岸近くの草地や林縁。

4. 生育状況

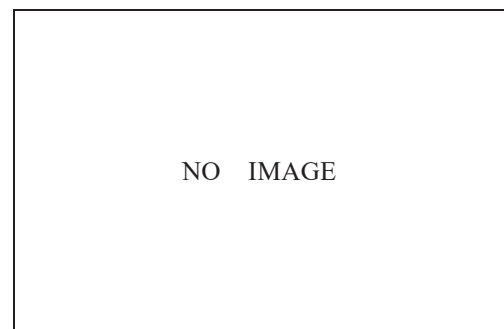
静岡県植物誌(1984)には、東伊豆町、南伊豆町、下田市の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

沿岸部の開発(14)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、環境に配慮して保全すること。
(湯浅保雄)



キビナワシロイチゴ *Robus yoshinoi* Koidz.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

匍匐性の落葉小低木。茎は20~30 cmになるが、その後横に長く伸びて地面を這う。葉は互生。有柄、3出複葉。頂小葉は長楕円形で鋭尖頭、基部は心形。花期は5~6月。本年枝の先端に総状花序を作り、紅紫色の小花をつける。花弁は倒卵形のへら形で長さ5~6 mm、萼とともに直立する。

2. 分布

日本固有種で、本州(東北~中国地方)、九州に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯下位の草原や林縁。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には藤枝市の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

不明(99)。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育環境に配慮し、保全を行うこと。

(湯浅保雄)



長野県 2016年8月19日 室伏幸一



ノグルミ *Platycarya strobilacea* Siebold et Zucc.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

クルミ科 Juglandaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉高木。高さ10 m、径60 cmに達する。幹は直立し、若枝には軟毛が密生するが後に無毛となる。枝には皮目が目立つ。葉は奇数羽状複葉で長さ20~30 cm。7~15枚の小葉がある。小葉は長さ5~10 cm、幅1~3 cm。花期は6月。枝先に直立する長さ4~10 cmの尾状の雄花序と、卵状長楕円形で1.5~2 cmの雌花序をつける。果穂には披針形の苞が密に重なる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国大陸、ベトナムに、国内では本州(神奈川県以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の日当たりのよい林縁に生える。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、天城山と初島の記録が載っているが、前回(2004年)調査と今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)が減少の主要因と考えられる。

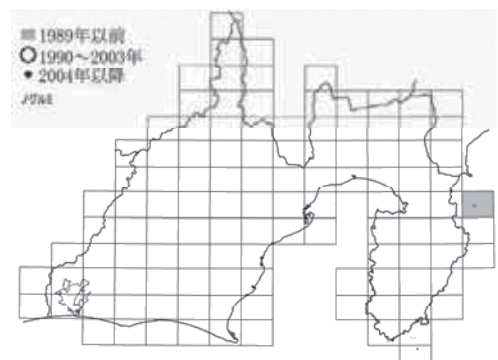
6. 保護対策

生育が確認できたら、最適な生育環境を維持して保護すること。

(湯浅保雄)



©フォトライブラリ



ハシバミ *Corylus heterophylla* Fisch. ex Besser var. *thunbergii* Blume

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

カバノキ科 Betulaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。多くの場合株立ちとなり、高さ5 mに達するものもある。若枝や葉柄には軟毛がある。葉は広楕円形で長さ幅とも5~12 cm。やや欠刻状の重鋸歯がある。花期は3~4月。雌雄同株。雄花序は尾状に下垂し、雌花序は小さく数花が頭状につく。堅果は球形で径約1.5 cm。葉状で先が数裂している総苞2枚によって包まれている。

2. 分布

国外ではロシア(アムール、ウスリー)、中国、朝鮮半島に、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯の向陽の山地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には県内2ヶ所の生育地が記載されているが、その後、確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

山林の伐採(11)や植生遷移(54)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、生育環境に配慮して保護すること。(湯浅保雄)



長野県 2018年6月29日 室伏幸一



フジスミレ *Viola tokubuchiana* Makino var. *tokubuchiana*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

スミレ科 Violaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ3~8 cm。無茎種。開花の後に地中匍枝を伸ばし新株を作る。葉は卵形で先端は鋭形、長さ1.5~4.5 cm。表面は暗緑色、脈に沿って白斑がある。裏面は紫色を帯び、短毛がある。花期は4~5月。花は紅紫色。径1.5~2 cm。側弁の基部にまばらに毛がある。亜種のヒナスミレと間違しやすいので、葉の形や鋸歯、花の距などの違いを確認する必要がある。

2. 分布

日本固有変種で、本州(栃木県、長野県、静岡県)に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の落葉広葉樹林の湿り気のある林床。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に、静岡市、春野町、水窪町の記録があるが、その後見つかっていない。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)による生育環境の変化や林道の開設(24)などが減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

自生地が見つかったら、生育環境をそのまま保全すること。(湯浅保雄)



©フォトライブラリ



ゲンジスミレ *Viola variegata* Fisch. ex DC. var. *nipponica* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

スミレ科 Violaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ5~10 cm。葉、葉柄、花柄、萼片、蒴果に細かい毛が密生する。葉は円心形ないし広卵心形。長さ2.5~5 cm。低い鋸歯がある。表面は暗紫色。裏面は帯紫色。花期は4~5月。花柄は葉より短く高さ1~10 cm。花は帯紅紫色。花弁の長さ8~11 mm。側弁に毛がある。距は細長く、長さ7~8 mm。

2. 分布

日本固有変種で、本州(中・北部、岡山県)、四国(愛媛県)に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯。明るい落葉樹林や歩道脇など。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に愛鷹山で採取されたとの情報が載っているが、その後、確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)や植生遷移(54)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育環境とともに保全すること。

(湯浅保雄)



©PIXTA



ヒメスミレサイシン *Viola yazawana* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更コード

スミレ科 Violaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ7~8 cm。無茎種、地下匍枝は出ない。古い葉柄が残る。葉は少なく花に遅れて開く。広卵形で先は尖る。長さ3~4 cm。花期は6月。花柄の先に白色の花を開く。花弁の長さは8~13 mm。唇弁に紫の筋がある。側弁は無毛。距は短く長さ2.5~3 mm。蒴果は長さ7~8 mmで、紫斑がある。

2. 分布

日本固有種で、本州(長野県、埼玉県、静岡県)に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から亜寒帯の林床。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には毛無山(1985)と富士山麓の記録があるが、その後全く確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)が減少の主要因と考えられる。

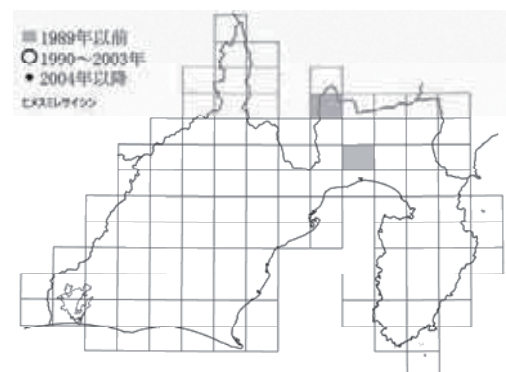
6. 保護対策

自生地が見つかったら、その生育環境を保全すること。

(湯浅保雄)



山梨県 2018年5月12日 室伏幸一



ナガバノヤノネグサ *Persicaria breviochreata* (Makino) Ohki

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

タデ科 Polygonaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。茎は根元から分枝し斜上する。ふつう1列の下向きの刺毛がある。葉は長楕円状披針形、基部は浅い矢じり形か浅い心形。耳部は三角形。長さ3~9 cm、幅1~2 cm。托葉小葉短く、長さ2~5 mm。花期は7~10月。茎の先端と上部の葉腋に花序を出してまばらに2~6個の花をつける。花弁はなく、萼は紅色を帯びた淡緑色で深く5裂する。

2. 分布

国外では朝鮮半島南部及び済州島、国内では本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

沢沿いの林床や林縁に生える。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）に天城山の記録が載っているが、その後確認された情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採（11）による生育環境の変化が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、その植物に適した生育環境を保全すること。

（湯浅保雄）



岐阜県 2018年10月3日 室伏幸一



ワダソウ *Pseudostellaria heterophylla* (Miq.) Pax

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ナデシコ科 Caryophyllaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。主根は紡錘状で1個。葉は対生し、しばしば2形をしめす。上部の葉は広披針形から広卵形で4枚の葉が接近して輪生状につき、下部の葉は倒披針形で2~4対はなれてつく。花期は4~5月。上部の葉腋から短毛のある花柄を出し、その先に白色の1花を上向きにひらく。類似のヒゲネワチガイソウとは花柄の毛の有無で区別できる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア（ウスリー）に、国内では本州（中部地方以北）、九州北部に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯山地の草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には富士山周辺の記録があるが、前回（2004年）調査でも、今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移（54）が減少の主要因と考えられる。

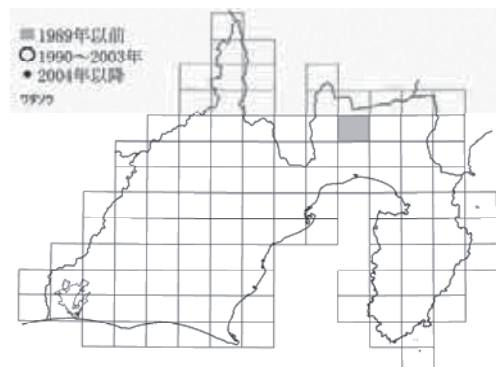
6. 保護対策

生育が確認されたら、生育に適した環境を保全すること。

（湯浅保雄）



長野県 2017年5月19日 室伏幸一



シラオイハコベ *Stellaria fenzlii* Regel

(=エゾフスマ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ナデシコ科 Caryophyllaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ15~35 cm。茎は直立し、上部で枝を分ける。葉は無柄で広披針形、長さ2~7 cm、幅6~10 mm。花期は6~8月。花はまばらの集散花序につく。萼片は広披針形で長さ3~4 mm、花弁は白色。萼片より短く2深裂する。または花弁はない。果実は長卵形、長さ5~6 mm。種子には突起はない。

2. 分布

国外ではロシア(ウスリー、アムール、北クリール、サハリン、オホーツク、カムチャツカ)に、国内では南千島、北海道、本州(中部以北)に分布する。県内では中部に分布する。南アルプスは南限自生地である。

3. 生育環境

南アルプスの亜高山帯の針葉樹林内の岩上などに生える。

4. 生育状況

前回(2004年)調査時にも、今回も確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

天然性針葉樹林の伐採(11)による生育環境の変化が減少の主要因である。

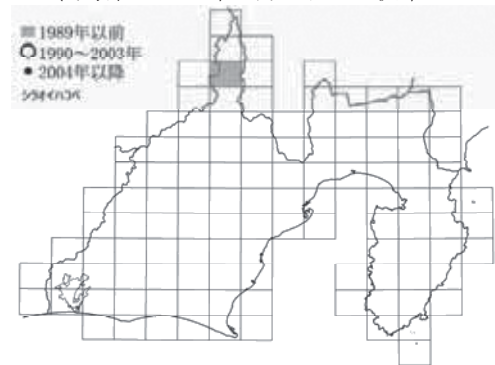
6. 保護対策

現存する亜高山帯の針葉樹林を保全すること。

(湯浅保雄)



長野県 2017年8月5日 室伏幸一



ハマアカザ *Atriplex subcordata* Kitag.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ヒユ科 Amaranthaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。高さ40~60 cm。茎は直立する。葉は互生して三角状披針形で縁には粗い鋸歯があり、また葉の基部には上向きの裂片がある。長さ2~8 cm、幅2~4.5 cm。花期は8~10月。枝先に穂を出して淡緑色の花弁のない花をつける。雌雄異株。雄花には苞がなく5裂した萼片がある。雌花には2個の苞があるが萼片はない。類似のホソバハマアカザの葉は、全縁か波状の低い歯牙はあるが基部の裂片はない。

2. 分布

国外ではロシア(北クリール、サハリン)、朝鮮半島に、国内では南千島、北海道、本州に分布する。県内では伊豆、西部に分布する。

3. 生育環境

海岸の砂地や内湾や河口の湿地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、初島、下田市、旧大須賀町の記録があるが、その後確認記録はない。

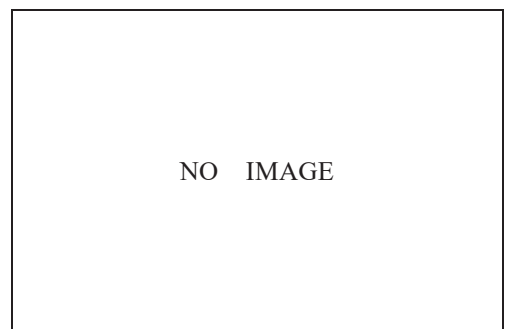
5. 減少の主要因と脅威

砂浜の減少や海岸の整備及び護岸工事(14)などによる生育適地の消失が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、生育に最適な環境を維持すること。

(湯浅保雄)



イソハウキギ *Bassia scoparia* (L.) A. J. Scott var. *scoparia*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ヒユ科 Amaranthaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。高さ 30~80 cm。茎は直立し、全体に多くの枝を出す。葉は互生し線状披針形で全縁、長さ 1~5 cm、幅 2~5 mm。花期は 8~10 月。葉腋に淡緑色の花を 1~3 個つける。両性花と雌花がある。両花とも花弁はなく、萼は 5 裂し長さ 1.5 mm。果期には雌花の萼片は、上部が広卵形で全縁の翼となって、平たい球形の胞果を包む。栽培されるハウキギは、葉が薄いことや雌花の萼上部の翼の縁に不規則な切れ込みがある。日本の野生植物 (2017) によると、「かつては別種として区別されていたが、原産地では変異が大きくて別種とするのは無理がある」とのことである。

2. 分布

国外では中国東北部、朝鮮半島に、国内では本州 (東海地方以西)、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

海辺の砂泥地。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には静岡市、旧清水市、旧御前崎町の記録があるが、その後、確認された記録はない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の開発や整備 (14) が減少の主要因であろう。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育に適した環境を維持すること。

(湯浅保雄)



愛知県 1996年9月29日 内藤宇佐彦



ハマツナ *Suaeda maritima* (L.) Dumort. var. *maritima*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ヒユ科 Amaranthaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。高さ 20~60 cm。茎は分枝し、葉は肉質の線形で長さ 1~3 cm、幅 1~2 mm。花期は 8~9 月。花柄は葉に合着しない。花は上部の葉腋に数個つく。茎や葉は秋に紅葉する。近縁種のマツナは花柄が葉に合着する。ヒロハママツナは花柄が葉に合着しないが葉の幅が 2.5~4 mm とより広い。

2. 分布

国外では北半球に、国内では本州 (宮城県以南)、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆と中部に分布する。

3. 生育環境

満潮時に海水が植物体を没する潮間帯の、波が穏やかな入り江や河口の塩湿地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、三保と伊豆海岸の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

入り江や河口の護岸や開発 (13, 14) による生育地の改変が脅威である。

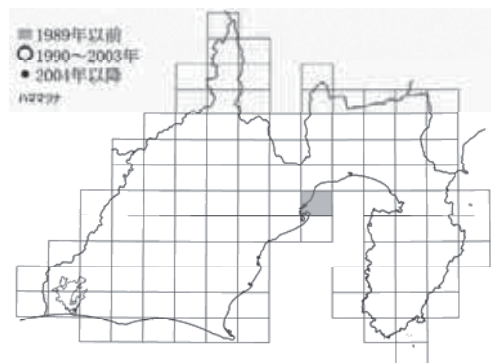
6. 保護対策

入り江や河口は開発の圧力が高く塩性湿地が減少しているので、潮間帯を多く残す施策が重要である。

(宮崎一夫)



愛知県 2017年9月24日 室伏幸一



イワウチワ *Shortia uniflora* (Maxim.) Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イワウメ科 Diapensiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。茎は細く地を這い、枝先に葉を束生する。葉は革質で長い柄があり、広円形または広楕円形で先がややへこむ。基部は心形。花期は4~5月。葉腋から細長い花茎を伸ばし、淡紅色の1個の花をつける。花冠は広鐘形で先は5裂し、各片はさらに縁が細かく裂ける。

2. 分布

日本固有種で、本州(東北地方~中国地方東部)に分布する。県内では東部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯中部から温帯下位の林内の岩場に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には東部の愛鷹山と西部の白倉山の記録があるが、前回(2004年)調査や今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)や森林の伐採(11)による環境の変化が主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、環境の急激な変化を避ける。また、園芸採取を防ぐために産地情報の公開は慎重に行うこと。
(湯浅保雄)



長野県 2012年4月30日 宮崎一夫



キバナカワラマツバ *Galium verum* L. subsp. *asiaticum* (Nakai) T. Yamaz.

var. *asiaticum* Nakai f. *luteolum* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

アカネ科 Rubiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ30~80cm。茎は直立し、細毛はあるが刺状突起はない。葉は8~10枚輪生し、腺状で長さ2~3cm、幅1.5~3mm。縁はやや裏側に反り返る。花期は7~8月。茎の先や、上部の葉腋からの枝先に円錐状の集散花序を作り、小さな淡黄色の花を密につける。花冠は径2mmで4裂。果実は小さく径1~1.5mmで無毛。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から暖温帯の乾燥した草原や荒地、土手などに生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に、御殿場市、裾野市、富士宮市の毛無山、南アルプスの三伏峠の記録があるが、前回(2004年)調査、今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

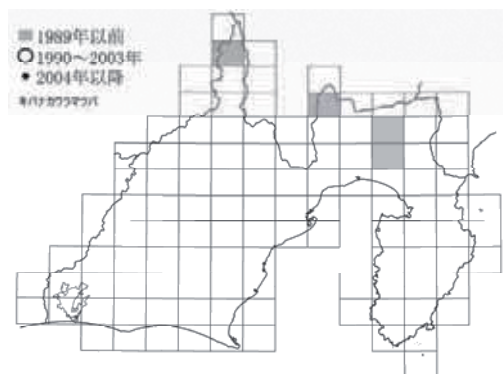
植生遷移(54)による生育環境の変化が主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が見つかったら、最適な生育環境を維持するように努めること。
(湯浅保雄)



滋賀県 2013年9月2日 宮崎一夫



トネリコ *Fraxinus japonica* Blume ex K. Koch

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

モクセイ科 Oleaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉高木。高さ 15 m、径 60 cm 以上になる。葉は奇数羽状複葉で柄とともに長さ 20~35 cm、小葉は 5~9 対、長卵形で先は尖り長さ 5~15 cm、幅 3~6 cm。縁に低い鋸歯がある。不完全な雄性両性異株。花期は 4~5 月。今年枝の先に円錐花序を出し、淡緑色の小さい花を多数つける。花弁はない。雄花には 2 本の雄蕊、雌花には 1 本の雌蕊がある。両生花もある。

2. 分布

日本固有種で、本州 (中部以北) に分布する。県内では伊豆と東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から暖温帯のやや湿ったところ。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に天城山と富士山の情報が載っているが、その後確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

山林の伐採 (11) が減少の主要因であると考えられる。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、周辺の森林とともに保全すること。

(湯浅保雄)



©2020 K. Murofushi

三島市 (植栽) 2019年7月17日 室伏幸一



ヒヨクソウ *Veronica laxa* Benth.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

オオバコ科 Plantaginaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 25~70 cm。葉は対生しほとんど柄がない。葉身は卵形で先は尖るが基部は円形。茎とともに両面に軟毛が密生している。長さ 2~5 cm。花期は 6~7 月。上部の葉腋から細い花序を出し、多くの花をつける。花冠は紫色で、径 6~8 mm。蒴果は倒心形で縁に毛が生える。放射相称に 4 裂する。

2. 分布

国外では中国、パキスタン、インド、ヒマラヤに、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい草原。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に富士山麓での、梅村甚太郎 (1923) と著者の杉本順一 (1932) の確認記録が載っているが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

草地の管理不足 (53) と植生遷移 (54) が減少の主要因である。

6. 保護対策

草原の適切な維持管理。

(湯浅保雄)



©2020 K. Murofushi

岐阜県 2015年6月12日 室伏幸一



ゴマノハグサ *Scrophularia buergeriana* Miq.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ゴマノハグサ科 Scrophulariaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ90~100 cm。茎は直立し、根の一部は紡錘状に肥大する。葉は対生し、長さ6~8 cm、幅3~4 cmで卵形をしている。縁にやや尖った多数の鋸歯がある。花期は7~8月。茎の先に細長い総状花序を作り、多くの黄緑色の花をつける。花冠はふくらんだ壺状で先は浅く5裂する。花柄には短い腺毛がやや密に生える。

2. 分布

国外では中国(北・東北部)、朝鮮半島に、国内では本州(関東地方南部、中部地方、中国地方)、九州に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖帯のやや湿った草原。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、伊豆半島での4ヶ所の産地が載っているが、その後の確認記録はない。

5. 減少の主要因と脅威

草原の人工林化(16)と管理放棄(53)による植生遷移(54)の進行が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育に適した環境の造成とその保全を行うこと。

(湯浅保雄)



栃木県 2019年7月13日 室伏幸一



サツキヒナノウスツボ *Scrophularia musashiensis* Bonati

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ゴマノハグサ科 Scrophulariaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年生。高さ40~80 cm。茎は4稜がある。葉は対生し、薄く卵状長楕円形または卵形で、長さ7~15 cm、幅3~8 cm。葉柄には狭い翼がある。花期は4月末~5月。葉腋から1~3個の花のついた花序を出す。花冠の長さは9~11 mm。類似のヒナノウスツボは花期が7~9月で、茎頂に円錐花序を出す。また花の長さは7~9 mmと小さい。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東地方西部、鈴鹿山地)に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

山地の林縁。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、産地として東部の天子山地、西部の旧水窪町、湖西連峰が載っているが、その後の確認情報は無い。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)と植生遷移(54)やシカによる食害(52-1)が減少の主要因と考えられる。

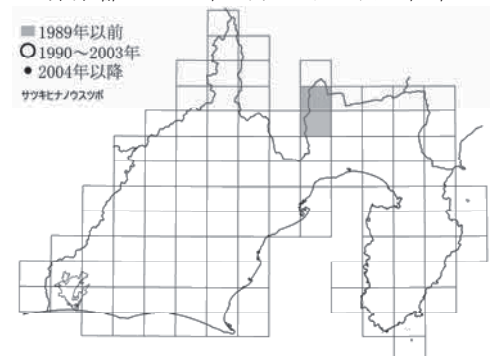
6. 保護対策

生育地が確認されたら、生育環境の保全とシカによる食害を防ぐこと。

(湯浅保雄)



東京都 2008年4月29日 西口紀雄



ハルノタムラソウ *Salvia ranzaniana* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。茎はやや花茎状で、葉は基部に集まってロゼット状を呈している。葉には長い柄があり、葉身は1~2回羽状複葉。葉柄には花序とともに開出毛がある。花期は4~6月。花冠は白色から淡紫色。花冠の長さは約8 mm。類縁種のシマジタムラソウは花期が7~8月である。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県、紀伊半島)、四国、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の谷間の湿った木陰やコケの生えた岩の上。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に1979年に東部の2ヶ所で確認されたという記述があるが、その後確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)による生育環境の急激な変化が減少の主要因と考えられる。

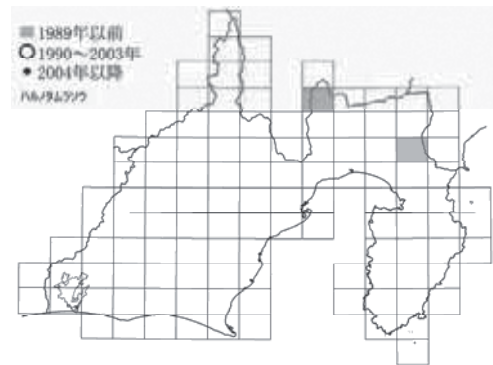
6. 保護対策

生育地が見つかったら、生育環境に配慮して保全すること。

(湯浅保雄)



三重県 2013年6月3日 宮崎一夫



ナミキソウ *Scutellaria strigillosa* Hemsl.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~40 cm。地下茎を伸ばして繁殖する。葉は長楕円状披針形で長さ1.5~3.5 mm、幅1~1.5 mm。縁には鈍鋸歯がある。花期は6~9月。花は上部の葉腋に1個ずつつき、長さ2~2.2 cmで青紫色。基部で折れ曲がってほぼ直立する。分果は長さ約1.8 mmで半円形。丸い小突起がある。

2. 分布

国外ではロシア(サハリン、北クリール)、中国東北部、朝鮮半島に、国内では南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

海岸の砂地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には富士市田子の浦と旧清水市三保での記録があるが、前回(2004年)調査でも、今回の調査でも見つかっていない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の開発(14)が減少の主要因である。

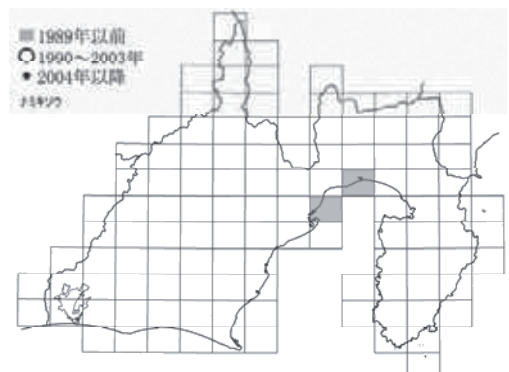
6. 保護対策

生育地が見つかったら、広範囲に最適な環境を保全すること。

(湯浅保雄)



富士市 1996年6月10日 杉野孝雄



ハマベノギク *Aster arenarius* (Kitam.) Nemoto

(=スナジノギク)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

越年草。茎は地を這う。葉はさじ形、先は丸く、辺毛あり。花期は7~10月。頭花は径15 cm、総苞片はさじ形。舌状花は淡紫色で、その冠毛は5 mm、筒花は黄色で、その冠毛は3~4 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州(北陸~山陰)、九州、対馬に分布する。県内では爪木崎と御前崎町の記録がある。自生記録を検証する必要がある。

3. 生育環境

海岸の崖地の日当たり地で、高茎草本に覆われていない場所に生育する。

4. 生育状況

記録地の下田市爪木崎、旧御前崎町ともに近年、生育は確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

不明(99)。

6. 保護対策

特になし。

(西口紀雄)



福井県 2005年8月6日 内藤宇佐彦



セイタカトウヒレン *Saussurea tanakae* Franch. et Sav. ex Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ30~100 cm。常に狭い翼がつく。根出葉は開花時には枯れてない。茎葉は有柄で、葉身は心形または広卵形、先は鋭尖頭で縁には不揃いの鋸歯がある。長さ8~15 cm。頭花は径15 mm。花期は9月。茎の上部で分枝し、散房状あるいは総状に暗紫色の頭花をつける。頭花は径15 mm。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島に、国内では本州(関東・中部・中国地方)に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の山地草原。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に富士山に分布すると記載されているが、その後確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が減少の主要因と考えられる。現在ではシカによる食害(52-1)も脅威である。

6. 保護対策

産地が確認されたら、生育環境に配慮した取り扱いが必要である。

(湯浅保雄)



山梨県 2019年9月16日 室伏幸一



詳細な生育地不明

クマノギク *Sphagneticola calendulacea* (L.) Pruski

(=ハマグルマ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。茎は地を這って節から根を出して伸びる。葉は対生し、披針～長楕円形、長さ2～7 cm、幅6～12 mm、洋紙質で面はざらつく。花期は5～9月。長い柄のある黄色の頭花を茎の先に1個つける。径2～2.5 cm。瘦果は倒卵形で長さ3.5 mm、上部にあら毛がある。冠毛は縁の欠けた杯状で長さ1 mm。

2. 分布

国外では中国南部、台湾、マレーシア、インドに、国内では本州（伊豆半島、紀伊半島）、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

海岸のやや湿った砂地などに生える。

4. 生育状況

東伊豆町と下田市などに記録があるが、前回（2004年）調査時も今回の調査でも生育は確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の開発整備（14）が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認された場合は、生育環境を保全すること。

(湯浅保雄)



©PIXTA



ドクゼリ *Cicuta virosa* L.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

セリ科 Apiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

抽水性の多年草。高さ1 m。地下茎は太く、節間部は中空。茎は中空で直立し上部で分枝する。葉は2～3回羽状複葉で、小葉は長楕円状披針形で鋸歯がある。長さ3～8 cm、幅5～20 mm。花期は6～7月。複散形花序を出して白色の花をつける。果実は扁球形で、長さ約2.5 mm。

地下茎や根にシクトクシンという有毒成分を多く含む。

2. 分布

国外ではユーラシア大陸に広く、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯の池沼や湿原に生育する。

4. 生育状況

かつては広く分布していたが、前回（2004年）調査でも、今回の調査でも確認することはできなかった。

5. 減少の主要因と脅威

池沼や湿地の埋め立てや開発（12、15）が減少の主要因である。

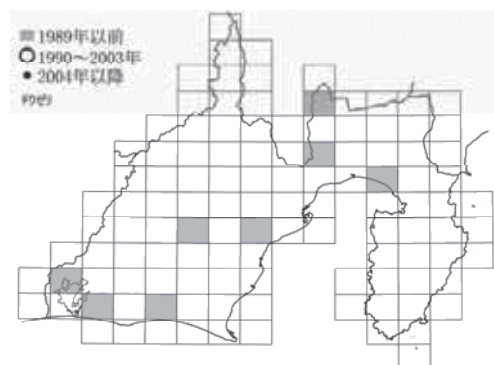
6. 保護対策

生育地が確認されたら、その生育環境を改善し保全すること。

(湯浅保雄)



福井県 2005年6月1日 内藤宇佐彦



カワラボウフウ *Kitagawia terebinthaceum* (Fisch. ex Trevir.) Pimenov
var. *deltoidea* (Makino) Yonek.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

セリ科 Apiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 90 cm に達する。茎は直立して、しばしば紅紫色を帯びる。葉は 2 回羽状複葉で硬く葉面には光沢がある。花期は 8~10 月。枝先に複散形花序を出し、多数の小花をつける。5 枚の花弁は内側に曲がる。果実は扁平で広楕円形、両辺は翼状。長さ 3~4 mm。

2. 分布

国外ではロシア (シベリア東部、アムール、ウスリー、北クリール)、朝鮮半島、中国に、国内では南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

寒帯から暖温帯の日当たりのよい草地や岩場、河原など。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に、旧天竜市での記録があるが、その後の生育状況は不明である。

5. 減少の主要因と脅威

草地の消失 (16) が減少の主要因であると推定される。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、生育環境を最適な状態にして保護すること。

(湯浅保雄)



長野県 2016年6月19日 加藤 徹



リュウビンタイ *Angiopteris lygodiiifolia* Rosenst.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

リュウビンタイ科 Marattiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。根茎は大きなものでは径 30 cm ほどにもなり、数枚叢生する葉は 3 m にも及ぶ。葉は楕円形で 2 回羽状複生。小羽片は披針形で、基部で左右同形。孢子嚢群は辺縁近くに位置、小脈の間に偽脈が伸び、縁と小羽軸との 1/3 まで達する。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州（静岡県以西）、四国、九州、伊豆諸島、小笠原、沖縄に分布する。県内では伊豆（伊東市、熱海市、西伊豆町）と西部（掛川市）に分布する。伊豆は、本種分布の東北限である。

3. 生育環境

暖地の山地林下のやや多湿の林床に生ずる。

4. 生育状況

伊東市の群生地は、国の天然記念物指定を受け、生育状況も良好である。熱海、西伊豆では、個体数がごく少ない。

5. 減少の主要因と脅威

山林の樹木伐採（11）、溪谷の整備工事（13）、林道改修（24）、園芸採取（41）などが脅威である。

6. 保護対策

山林の樹木伐採、山中小河川の整備工事、林道改修などによる環境への悪影響を防ぐ必要がある。（細倉哲穂）



伊東市 2017年7月29日 宮崎一夫



オドリコカグマ *Microlepia sinostrigosa* Ching

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

コバノイシカグマ科 Dennstaedtiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。フモトカグマとイシカグマの中間的な形質をもつが、孢子は正常である。小羽片の切れ込みは深く、羽軸上面が無毛であることで、フモトカグマと区別容易。孢子嚢群が辺縁より内側にはいることで、イシカグマとの区別も容易である。和名は、小説「伊豆の踊子」に因むものとされる。

2. 分布

日本固有種で、本州（伊豆）、四国（徳島県）、九州（中・南部）に分布する。県内では伊豆（西伊豆町、南伊豆町、河津町、下田市など）に分布する。伊豆は分布の東北限である。

3. 生育環境

暖地山地のやや向陽の林下や、谷間など溪流近くに生ずる。

4. 生育状況

小群落を作って生育する。伊豆では南半に点在分布することが知られているが、フモトカグマなどと紛れて、まだ分布は広がっているのかも知れない。

5. 減少の主要因と脅威

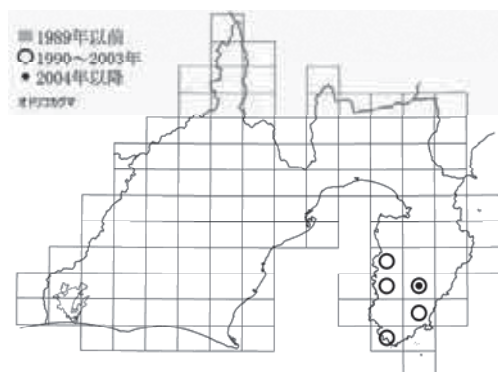
林道の改修（24）、樹木の伐採（11）などにより、すでに絶滅した所もある。

6. 保護対策

山林の樹木伐採、林道、山道の改修などによる生育地の破壊、環境の悪化を防ぐ必要がある。（細倉哲穂）



河津町 2005年4月30日 杉野孝雄



ヒメハシゴシダ *Thelypteris cystopteroides* (D. C. Eaton) Ching

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

ヒメシダ科 Thelypteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。根茎は長く横走り、葉はややまばらに出る。葉柄下部鱗片はまばらで披針形、茶褐色で全縁。コハシゴシダに似るが、羽片は数個の小羽片をもつだけで、羽片、小羽片の先端は鈍頭である。孢子嚢群は円形、包膜は円腎形で有毛である。

2. 分布

国外では台湾、朝鮮半島に、国内では本州（静岡県、紀伊半島、広島県）、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆（下田市）と東部（富士市）に分布する。

3. 生育環境

暖地林縁の草地、路傍、崖地、林床のやや向陽の場所に生育、根茎で小さな群落を作る。

4. 生育状況

下田市須崎では、小さな群落を作るが、個体数は少なく、富士市須津溪谷では、生育が確認されなくなっている。

5. 減少の主要因と脅威

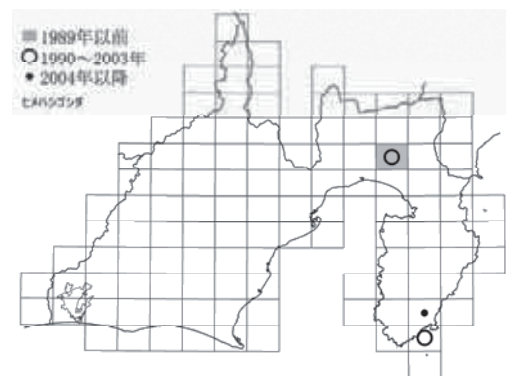
生育地及び周辺の山道の整備（24）、樹木の伐採（11）などが、絶滅、減少の脅威である。

6. 保護対策

生育地及びその周辺の山道、林道の整備、樹木伐採などによる環境の悪化を防ぎたい。（内藤宇佐彦）



下田市 2012年7月7日 内藤宇佐彦



ケホシダ *Thelypteris parasitica* (L.) Tardieu

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

ヒメシダ科 Thelypteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。根茎は長く横走り、小群落を作る。ホシダに似るが、葉身は矛状にならず、従って頂羽片ははつきりしない。葉身下部の2対ほどの羽片は下向する。葉は両面に毛が著しい。孢子嚢群はやや辺縁寄りである。円腎形の包膜は有毛である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国から東南アジア、太平洋諸島、アフリカに、国内では本州（伊豆半島）、四国（南部）、九州（南部）、沖縄、八丈島、小笠原諸島に分布する。県内では伊豆（下田市、南伊豆町）に分布する。八丈島が分布の東限、伊豆半島が分布の北限である。

3. 生育環境

暖地の海岸寄りの山麓、山野の林内や路傍などに生育する。

4. 生育状況

生育地も少なく、群生地もあるが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移（54）や山林の伐採（11）、山道の整備工事（24）などによる環境変化が脅威である。

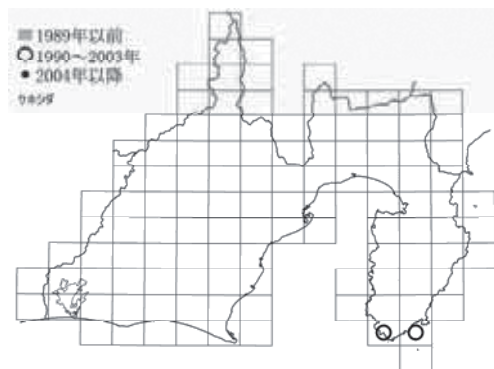
6. 保護対策

生育地の環境の改変がなされないような対策が必要である。

（細倉哲穂）



下田市 1999年3月29日 細倉哲穂



ハイコモチシダ *Woodwardia unigemmata* (Makino) Nakai

(=ジョウレンシダ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

シシガシラ科 Blechnaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。根茎は短いけど、群落を作る。葉は大型になれば2 mに達する。コモチシダに似るが、芽立ちの時には紅色をしている。葉の表面にはコモチシダと異なり無性芽をもたないが、上部羽片の基部には葉軸上に数個の大きな無性芽をつける。コモチシダとの雑種をイズコモチシダという。

2. 分布

国外では台湾、中国、フィリピン、インドシナ、ネパール、インドに、国内では本州（伊豆半島）、九州（熊本県、鹿児島県）に分布する。県内では伊豆（伊豆市、河津町、西伊豆町など）に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地、林内の陰湿な崖面や斜面に生ずる。

4. 生育状況

天城湯ヶ島浄蓮の滝の生育地は滝壺の周辺、壁面などに生育、良好な生育状況である。西伊豆町一色の群生地も、生育状況はきわめて良好である。

5. 減少の主要因と脅威

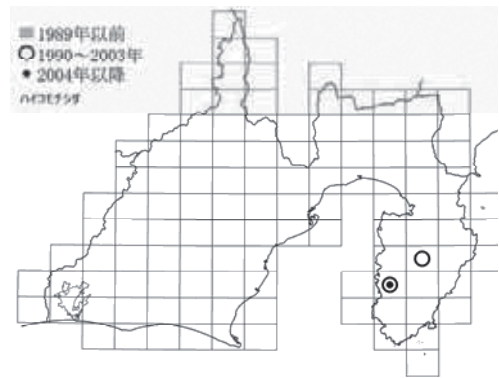
西伊豆町の群生地は、山林の樹木伐採（11）、林道の修復、改良工事（24）などによる脅威がある。

6. 保護対策

山林の樹木伐採、林道の修復、改良工事などによる生育地の環境変化を防ぐ必要がある。（内藤宇佐彦）



西伊豆町 2012年4月7日 内藤宇佐彦



タカサゴシダ *Dryopteris formosana* (H. Christ) C. Chr.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

中～大型の常緑性シダ。葉は長さ60 cmに達する。葉柄の鱗片は褐色で披針形、全縁である。葉身は3回羽状で卵状三角形または五角形で、上部は羽片が急に短くなり矛状になる。下向き第1小羽片は長く伸びる。

2. 分布

国外では韓国（済州島）、中国、台湾、フィリピンに、国内では本州（静岡県以西）、九州、屋久島、徳之島に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

暖帯の低山地や丘陵地の、林内の乾いた岩場や崖に生育する。

4. 生育状況

小笠山付近と浜名湖周辺に産地は限られて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

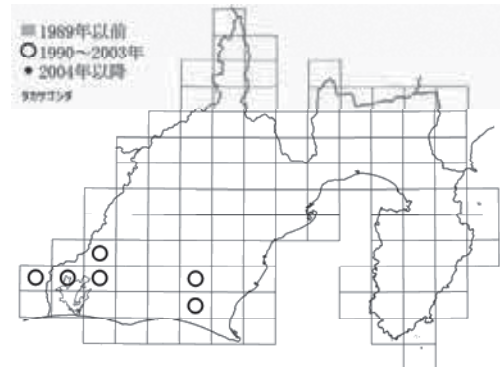
生育地の山林伐採（11）や土地造成（23）で減少する危険性がある。

6. 保護対策

生育地の保護と森林伐採の回避で環境の維持を図ることが重要である。（内藤宇佐彦）



浜松市 2002年2月10日 内藤宇佐彦



フジイノデ *Polystichum ohmurae* Sa. Kurata

var. *fujipedis* Namegata et Sa. Kurata

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の夏緑性シダ。葉長 20 cm ほどまで。トヨグチイノデの変種とされ、葉柄、葉軸の茶色がかって濃くなる鱗片の形状などはトヨグチイノデと酷似するが、小羽片は幅狭く、孢子嚢群は中肋と辺縁との中間につく(トヨグチイノデは小羽片の辺縁寄りにつく)。基準産地は富士山(山梨県富士吉田市)である。

2. 分布

日本固有変種で、本州(山梨県、長野県、静岡県)に分布する。県内では東部(富士山)と中部(南アルプス南部)に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯の山地林下の岩のある所、林内や道沿いの岩上や地面上に生育する。

4. 生育状況

産地はきわめて限られる。個体数も少ない。

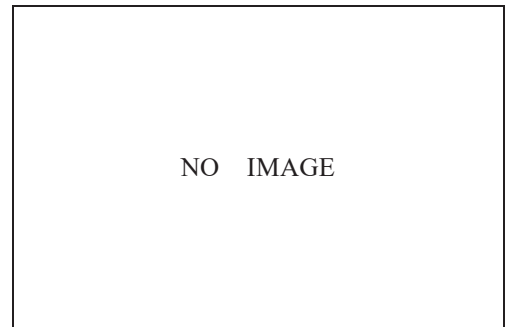
5. 減少の主要因と脅威

生育地及び周辺の山林の伐採(11)、山道の整備、改修(24)が脅威である。登山者の踏みつけ(51)も懸念される。

6. 保護対策

生育地の山林の樹木伐採などによる環境変化を防ぎたい。また、登山者の踏みつけによる消失も防ぐ必要がある。

(細倉哲穂)



オキナワハイネズ *Juniperus taxifolia* Hook. et Arn.

var. *lutchuensis* (Koidz.) Satake

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

ヒノキ科 Cupressaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑低木。幹は地に伏して砂浜を這う。葉は針形で長さ 8~14 mm、幅 1.2~1.5 mm。3 輪生 6 列で密につく。上面は粉白色、下面は淡黄緑色、先端に鈍頭。葉の上面は少しへこんでいるが溝状にはならない。雌雄異株。毬果は褐色で球形。径 10~12 mm。種子は三角状卵形で長さ 4.5~5.5 mm。類似のハイネズの葉は、先端が刺状に尖り、また表面はへこんで深い溝状となる。

2. 分布

日本固有変種で、本州(房総半島~東海地方)、伊豆七島、奄美大島以南の琉球に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい海岸の岩石地や砂浜。

4. 生育状況

多産地は限られているが、伊豆半島南部では各地に散生あるいは群生している。

5. 減少の主要因と脅威

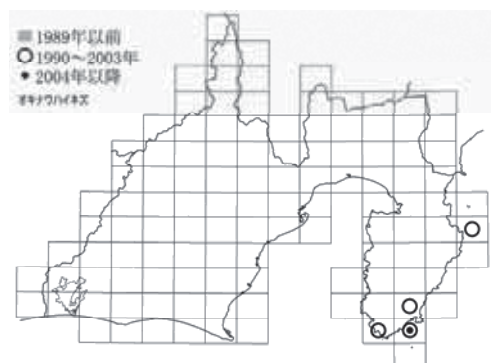
海岸の整備・開発(14)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地を含む地域を開発や整備するときには、生育地を破壊しないように十分配慮すること。(湯浅保雄)



下田市 2013年12月7日 内藤宇佐彦



タカネサギソウ *Platanthera maximowicziana* (Schltr.) K. Inoue

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。根の一部は紡錘形。葉は最下の1枚は大きく狭楕円形で長さ3~4 cm、上の葉は小さく披針形で尖る。鱗片葉は披針形で上方のものほど小さくなる。花期は7~8月。花は淡黄緑色で5~10個をつける。苞は披針形で花よりも長く目立つ。背萼片は卵形で長さ3.5~5.5 mm。唇弁は広披針形で長さ8 mm。距は下向で7~14 mm。近似種のヤマサギソウは鱗片葉が2~5個あり、高さ20~40 cmである。

2. 分布

国外では千島、シベリア、朝鮮半島、中国東北部に、国内では北海道、本州(北・中部)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布し、南限自生地である。

3. 生育環境

亜高山帯のやや湿った草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には南アルプスの記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

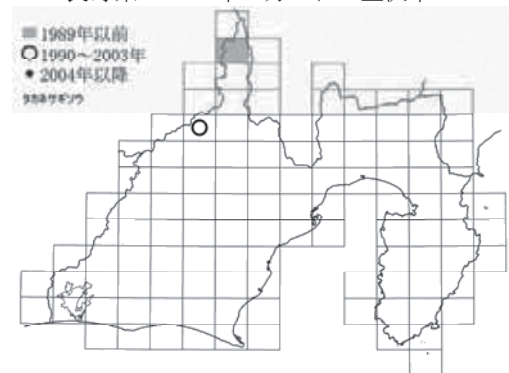
乾燥化による植生遷移(54)が主要因である。園芸採取(41)や踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。(宮崎一夫)



長野県 2017年8月5日 室伏幸一



ニシノホンモンジスゲ *Carex stenostachys* Franch. et Sav. var. *stenostachys*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。有花茎は30~50 cmになる。根茎は短く密に叢生する。葉の幅は2~3 mm。果期は4~6月。頂小穂は雄性。線柱形で長さ2~3.5 cm、褐色。側小穂は雌性で2~4個、やや離れてつく。細円柱形で長さ1~3 cm。苞は有鞘で葉身は小穂と同長。雌鱗片は栗褐色。果胞は長さ約3 mmで有毛。柱頭は3岐。

2. 分布

日本固有変種で、本州(主に新潟県~中国地方の日本海側)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

広葉樹林内、林縁、草地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に1983年に旧天竜市で確認された記録が載っているが、その後の情報は無い。

5. 減少の主要因と脅威

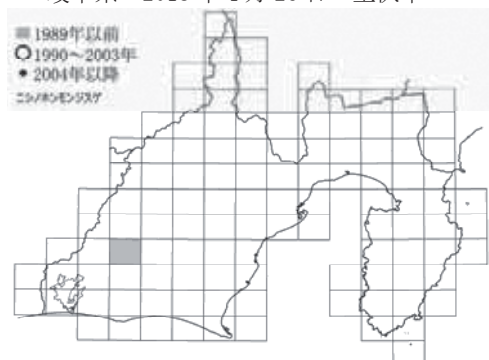
森林の伐採(11)による生育環境の変化や植生遷移(54)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、最適な生育環境を維持するように配慮すること。(湯浅保雄)



岐阜県 2018年4月26日 室伏幸一



マシカクイ *Eleocharis tetraquetra* Nees

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。白褐色の鱗片に覆われた匍枝を引く。枝茎にやや鋭い4稜があり、高さ30~90 cm。果期は6~9月。小穂は1個で傾いてつき、刺針は果実より1.5倍長で逆細針がある。

2. 分布

国外では中国、台湾、インド、スリランカ、東南アジア、オーストラリアに、国内では本州(中部地方以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布しており、静岡県が東限自生地である。

3. 生育環境

丘陵地や低山地のため池の岸边や休耕田などの湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市や湖西市などに生育する。産地は限られて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

ため池の改修(12)や湿地の乾燥化(54)で生育地の消失が懸念される。

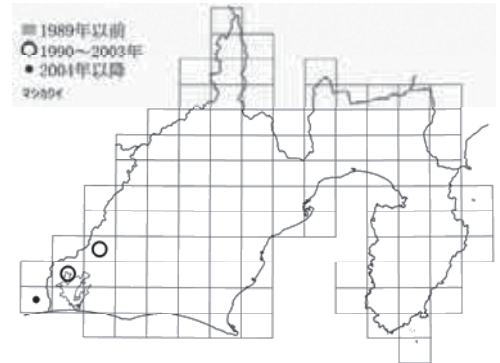
6. 保護対策

生育地の保護と、草刈りなど遷移進行を抑制する対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2009年9月22日 内藤宇佐彦



ヒナガリヤス *Calamagrostis nana* Takeda subsp. *nana*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ20~40 cm。長い根茎を引いて、その節ごとに発芽する。葉の大部分は根生し、長さ10~30 cm、幅1~3 mm。乾くと内側に巻いて径1~2 mmの細い管となる。円錐花序は長さ5~12 cm。枝は各節に2~6本。小穂は淡紫色で1花からなる。芒は短く小穂の外に出ない。花序の枝も小穂の柄も平滑。

2. 分布

国外では北アメリカ北部、ヨーロッパ北東部、ロシア(カムチャツカ、北クリール、サハリン)、国内では本州(北・中部)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。南アルプスの荒川岳は分布の南限自生地。

3. 生育環境

高山帯の砂礫地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には南アルプスの荒川岳の記録があるが、前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認されていない。目立たない植物なので調査での見落としとも考えられる。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ(51)も減少の一要因と考えられる。

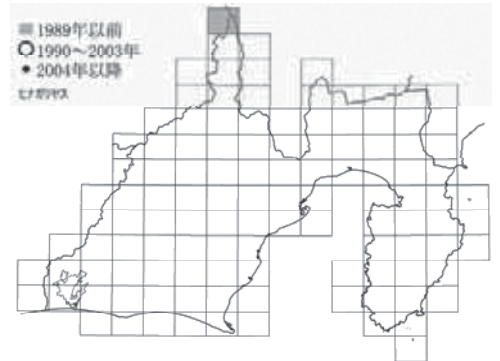
6. 保護対策

登山者が生育地に踏み入らないようにすること。

(湯浅保雄)



長野県 2019年8月25日 室伏幸一



ヒメカラマツ *Thalictrum alpinum* L. var. *stipitatum* Y. Yabe

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~20 cm。茎は分枝しない。根出葉は花期にも残存し 2~3 回 3 出複葉。葉はやや質が厚く葉脈は下面に隆起し、托葉は膜質、全縁で淡褐色。花期は 7~8 月。花序は総状で下垂する。花柄は長さ 0.5~1.5 cm。花は径 0.5~1 cm、花弁はなく、萼片は 4 枚で早落性。雄蕊多数が束生し長さ 8 mm、花糸は糸状で紫色。葯は鮮黄色。近縁種のアキカラマツは根出葉は花期にはなく、円錐花序をなす。

2. 分布

日本固有変種で、本州 (中部地方)、四国に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

高山帯の風衝地の岩上や岩礫地の疎草地に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスにあり少ない。産量が多い。矮小で軟弱な植物なので植生遷移の影響を受けている。

5. 減少の主要因と脅威

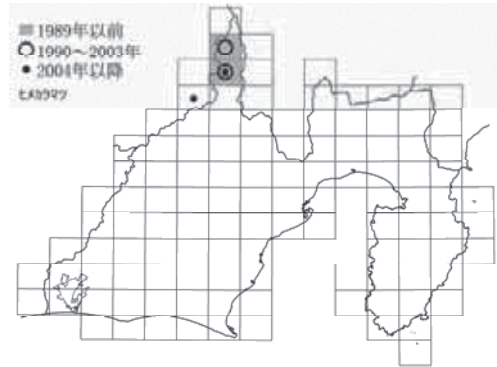
植生遷移 (54) による生育圧力が主要因である。登山者による踏圧 (51) も脅威である。

6. 保護対策

登山道の迂回整備や登山者の配慮により踏圧を回避する。
(宮崎一夫)



静岡市 2003年7月20日 宮崎一夫



ミカワチャルメルソウ *Mitella furusei* Ohwi var. *furusei*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

ユキノシタ科 Saxifragaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~40 cm。根茎は短く、根出葉を束生する。葉は心卵形で不揃いの鋸歯がある。花期は 4~5 月。花は紅紫色。花弁は羽状で 7~11 裂する。

2. 分布

日本固有変種で、本州 (静岡県、愛知県、岐阜県、長野県) に分布する。県内では西部に分布しており、静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

山地の溪側や湿った林下に生育する。

4. 生育状況

西部の北部山地の所々で見られる。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採 (11)、林道の建設など (24) で減少傾向にある。

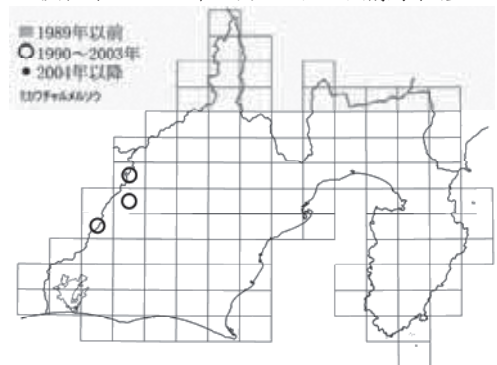
6. 保護対策

生育地の森林保護と、道路工事の際には事前調査と生育が確認された場合はその保護対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1996年4月21日 内藤宇佐彦



ムラサキモメンヅル *Astragalus laxmannii* Jacq. var. *adsurgens* (Pall.) Kitag.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

マメ科 Fabaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ5~15 cm。茎は叢生し散開して地表に這う。葉は奇数羽状複葉。小葉は17~21個、狭楕円形で長さ7~20 mm、下面に伏毛がある。花期は7~8月。花序は総状で腋生し花を10~20個つける。花は青紫色で長さ12~20 mm。萼は長さ5.5~9.5 mm、黒褐色と白色の伏毛が混生する。豆果は無柄の長楕円形で長さ1.5~2 cm、黒褐色と白色の伏毛が混生する。近縁種のモメンヅルは花が黄白色である。

2. 分布

日本固有変種で、北海道、本州(岩手県、中部地方)に分布する。県内では東部(富士山)に分布しており、分布の南限自生地である。

3. 生育環境

高山帯の火山砂礫や石灰岩地に生育する。

4. 生育状況

産地は富士山に局限している。産量は多い。登山者が増えて踏圧を受けている。

5. 減少の主要因と脅威

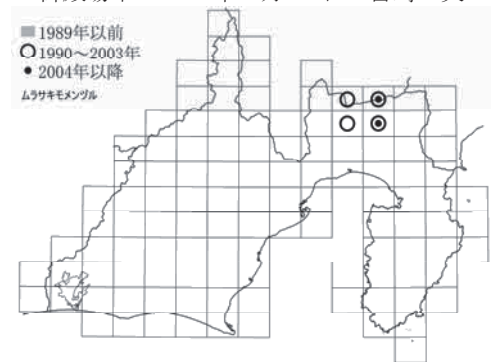
登山者の踏圧(51)が主要因である。砂礫の移動も脅威である。

6. 保護対策

生育地点を避けた登山道の整備が重要である。



御殿場市 2012年7月18日 宮崎一夫



(宮崎一夫)

ビロードイチゴ *Rubus corchorifolius* L. f.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。茎は傾斜し、絨毛を密生し刺がある。葉は長楕円形で、時に3浅裂し長さ3~10 cm。表面には絨毛が密生する。花期は4~5月。白色の花をつける。花弁は倒卵形のへら形で長さ約10 mm。果実は球形で径約10 mm、黄紅色に熟す。花托に短毛があり、小核果にも短毛が密生する。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島に、国内では本州(静岡県以西)、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。静岡県は分布の東限自生地である。

3. 生育環境

暖温帯の谷筋の林内や林縁。

4. 生育状況

産地は一部の地域に集中しており、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)や林道開設とその整備(24)が減少の主要因である。

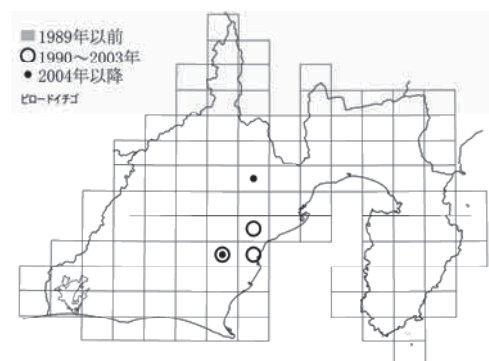
6. 保護対策

自生を確認したら、枯死させないように取り扱うこと。

(湯浅保雄)



島田市 2017年4月9日 内藤宇佐彦



モクレイシ *Microtropis japonica* (Franch. et Sav.) Hallier f. var. *japonica*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-) 変更なし

ニシキギ科 Celastraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑小高木。高さ 5 m。今年枝は暗紫色、前年枝以上は灰色になる。葉は革質で対生し、卵形ないし楕円形。長さ 4.5 ~ 7.5 cm、幅 2 ~ 3.5 cm。全縁で少し裏側に反り返る。雌雄異株。花期は 3 ~ 4 月。枝先の葉腋に淡黄緑色で径約 5 mm の花を数個つける。花は 5 数性で、花冠の裂片は円形で約 3 mm。蒴果は楕円形、長さ 1.5 ~ 2 cm、2 片に裂開し赤色の大型の 1 個の種子を出す。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州、九州、琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の山すその林内。

4. 生育状況

比較的産地や個体数は多い。

5. 減少の主要因と脅威

山林の伐採 (11) と土地開発 (23) が減少の主要因である。

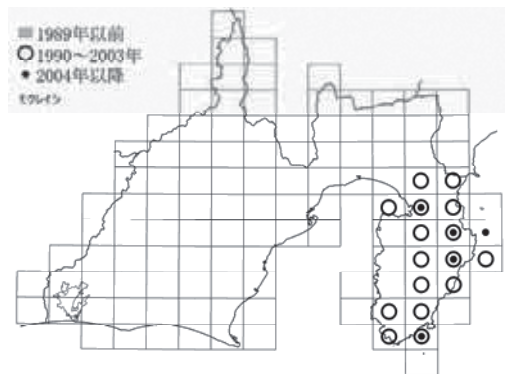
6. 保護対策

山林の開発を制限すること。

(湯浅保雄)



下田市 2016年3月27日 内藤宇佐彦



ハクセンナズナ *Macropodium pterospermum* F. Schmidt

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

アブラナ科 Brassicaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40 ~ 110 cm。茎は単一で斜上する。根出葉は広卵形で長柄あり、茎葉は広披針形で鋸歯がある。花期は 7 ~ 8 月。花序は長さ 20 ~ 40 cm で多くの花をつける。萼片と花弁は濃紫色で細い。雄蕊は突き出す。果実は長い果柄の先につき、太い円棒状で長さ 3 ~ 6 cm。

2. 分布

国外ではサハリン、中国に、国内では北海道、本州 (中部以北) に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布しており、静岡県は南限自生地である。

3. 生育環境

高山帯下位と森林限界付近の水場の周辺や湿った草地に生育する。

4. 生育状況

近年の生育状況は不明である。生育環境の変化により株数が減少していると思われる。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) による生育への圧力と乾燥化 (71) による環境の悪化である。

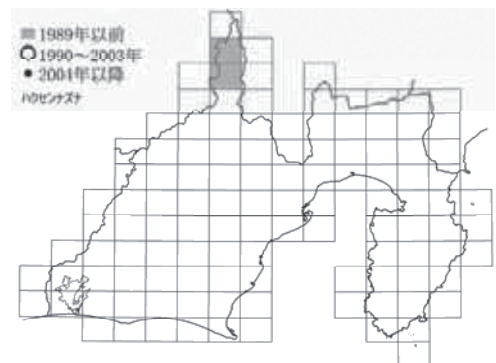
6. 保護対策

登山者は水場周辺の踏み荒らしに注意すべきである。

(宮崎一夫)



北海道 2016年8月5日 室伏幸一



ミヤマツメクサ *Minuartia macrocarpa* (Pursh) Ostenf.

var. *jooi* (Makino) H. Hara

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

ナデシコ科 Caryophyllaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ3~5 cm。叢生してマット状となる。茎には腺毛がある。葉は針形で長さ7~12 mm、幅1~1.5 mmで3脈がある。葉縁全周に少突起がある。花期は7~8月。茎頂に径1 cmの大きな白色の花を1個つける。花柄には腺毛を密生する。類似のタカネツメクサの葉は、幅が0.5~0.8 mmと細く、1脈であり、葉身の基部のみに小突起がある。

2. 分布

日本固有変種で、本州中部に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

高山の砂礫地や岩礫地。

4. 生育状況

南アルプスの高山帯に生育するが、産地と個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の環境変化(71)と登山者の踏みつけ(51)が減少の主要因である。

6. 保護対策

登山道以外に立ち入らないようにし、踏みつけを防ぐこと。

(湯浅保雄)



静岡市 2019年8月1日 室伏幸一



ウンゼンツツジ *Rhododendron serpyllifolium* (A. Gray) Miq. var. *serpyllifolium*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

半常緑の低木。高さ1.5 mほど。若枝や葉柄には剛毛が密生する。葉の倒披針形で長さは5~10 mm、幅2~4 mm、先は尖って腺状突起がある。花期は4~5月、枝先の1個の花芽から1個の広漏斗状の花を開く。花冠は淡紅紫色で、径1.3~1.5 cm。雄蕊は5本、花糸の下部に白い短毛があり、子房には長毛が密生する。蒴果は長さ約5 mmで、褐色長毛が密生する。

2. 分布

日本固有変種で、本州(伊豆半島、紀伊半島)、四国(南部)、九州(大隅半島)に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖帯の山地の尾根や岩場、岩石地など。

4. 生育状況

個体数は多くはないが、広い範囲に生育している。しかし今回の調査では、調査不足もあり、確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

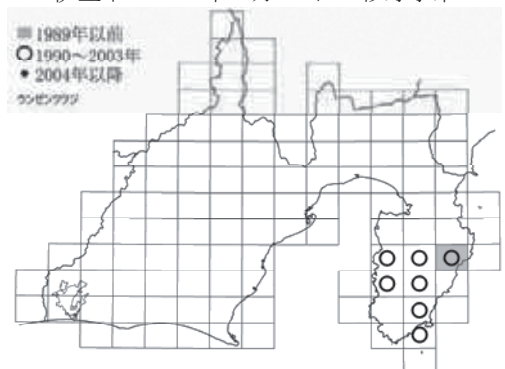
森林開発(11)や園芸採取(41)が減少の主要因である。

6. 保護対策

森林開発時には、事前に調査を行い、生育地を保全すること。また、園芸用の採取を禁止すること。(湯浅保雄)



伊豆市 2000年5月10日 杉野孝雄



ヒロハコンロンカ *Mussaenda shikokiana* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

アカネ科 Rubiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さ 1~4 m。幹は直立して側生し枝はやや垂れる。葉は対生して葉柄は長さ 1~3.5 cm、葉身は広卵形で長さ 9~18 cm、質は薄く軟らかく、側脈は 10 個前後あり裏に突出する。托葉は各節に 2 個ある。花期は 7~8 月。花は黄色で集散花序をなす。萼片の 1 個は大型で白色の花弁状になり目立つ。果実は楕円形で緑色から暗緑色に熟す。近縁種のコンロンカはややツル状で托葉は各節に 4 個ある。

2. 分布

国外では台湾、中国に、国内では本州（静岡県以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布しており、静岡県は東北限自生地である。

3. 生育環境

暖帯の暖かな林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は伊豆と西部にあり少ない。産量も少ない。植林の被陰を避けるように、林縁から乗り出して生育している。

5. 減少の主要因と脅威

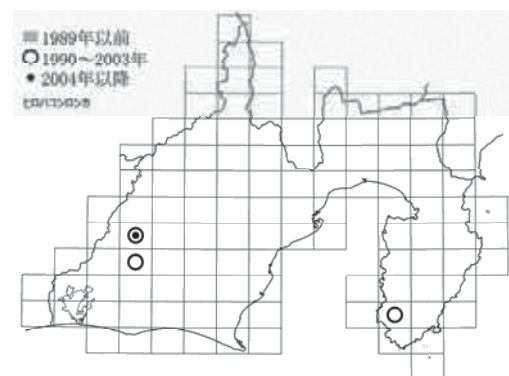
植林による被陰 (71) が主要因である。植林を皆伐 (11) する時に伐採されるおそれもある。

6. 保護対策

分布の北東限であり分布上の学術的にも貴重であるので、伐採されないように保護の施策をする。(宮崎一夫)



浜松市 2017年7月20日 宮崎一夫



トウヤクリンドウ *Gentiana algida* Pall.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 8~15 cm。無性期は根出葉で、花期の茎葉は無柄で広線形から披針形で中脈がへこみ長さ 2~5 cm。花期は 8~9 月。花冠は筒状で長さ 3.5~4 cm、淡黄色で緑色の斑点がある。花は茎頂に単生し、日を受けて上向きに開き、花冠裂片は平開することなく斜開し、副片は低い。近縁種のおヤマリンドウは茎頂の葉腋に青紫色の花を数個つける。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、シベリアなどに、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。静岡県は南限自生地である。

3. 生育環境

高山帯における尾根周辺の岩礫地から疎草地に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスのほぼ全域である。産量は有性株以外の根出葉も多く見られ生育は安定している。

5. 減少の主要因と脅威

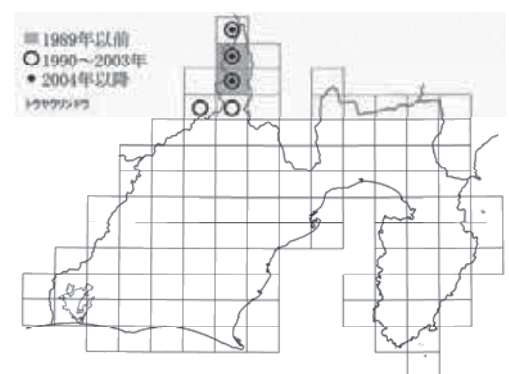
登山者による踏圧 (51) が主要因である。雪積減少や温暖化 (71) も脅威である。

6. 保護対策

花を見るためでも登山道を逸脱しないように啓発が必要である。温暖化により株数が減少するか生育状況を注視する必要がある。(宮崎一夫)



静岡市 2003年8月20日 宮崎一夫



シブカワニンジン *Codonopsis lanceolata* (Siebold et Zucc.) Trautv.
var. *omurae* T. Koyama

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

キキョウ科 Campanulaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

ツル性の多年草。ツルニンジンの変種である。葉は細く裏面に毛が密生する。花期は9~10月。花冠は筒状釣鐘形で先は5裂する。旧引佐町が基準産地である。

2. 分布

日本固有変種で、本州(東海地方、紀伊半島)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

主に蛇紋岩地帯に生育するが、それ以外にも見られる。

4. 生育状況

浜松市北区や浜松市天竜区などに生育する。蛇紋岩地帯を中心に生育し、産地は限られている。

5. 減少の主要因と脅威

生育地が林道整備(24)や土地造成(23)などで消失する危険性がある。また、植生遷移の進行(54)で生育適地の減少も指摘される。

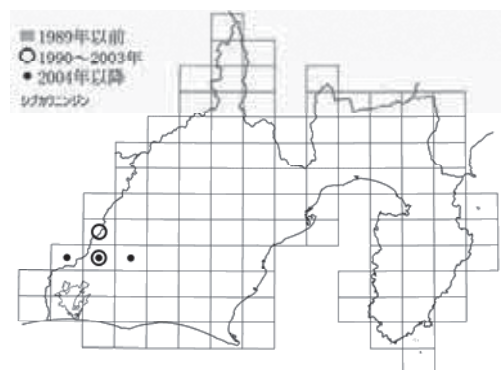
6. 保護対策

生育地の保護と間伐などの植生遷移の進行を抑制する対策も必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2016年9月17日 内藤宇佐彦



ミツガシワ *Menyanthes trifoliata* L.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

ミツガシワ科 Menyanthaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説 抽水性の多年草。高さ20~40cm。根茎は円筒形で太く径0.7~2.5cm、地中を這う。根出葉は互生して長柄があり3出葉で、やや肉厚で光沢がある。花期は4~8月。花茎は直立して20~30個の花を総状花序につける。苞は広卵形で長さ3~6mm。花冠は漏斗状で深裂して径1~2cm、白色で内面に毛がある。長柱花と短柱花がある。寒冷期の遺存種である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、シベリアなどに、国内では北海道、本州、九州北部に分布する。県内では東部、伊豆、西部に分布する。

3. 生育環境

多湿地や池沼の浅い水中から抜き出る。

4. 生育状況

産地は点在する。産量は少ない。生育状況は植生遷移の圧力を受けて、生育が衰退している。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の乾燥化と開発(15)が主要因である。温暖化による気候変動(71)も脅威である。

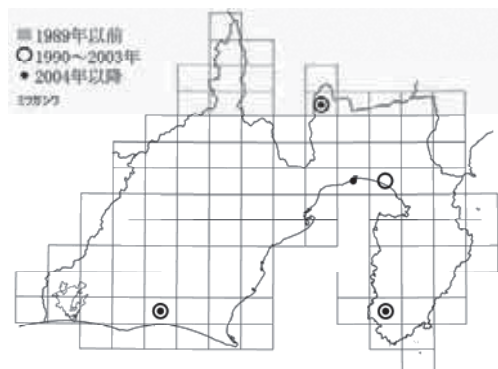
6. 保護対策

木道を敷設するなど踏圧の影響を軽減し、植生遷移を抑制するなど、生育環境を保全して維持管理することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市(植栽) 2010年3月29日 宮崎一夫



ホクチアザミ *Saussurea gracilis* Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~30 cm。茎は細く、葉は長三角形で、長さ 6~11 cm、下面は綿毛が密生して白色。花期は 8~10 月。頭花は紅紫色である。総苞は長さ 13~16 mm、幅 8~14 mm、多少くも毛がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州（静岡県以西）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

山地の日当たりのよい草原。

4. 生育状況

前回 (2004 年) の調査、今回の調査でも確認できなかった。

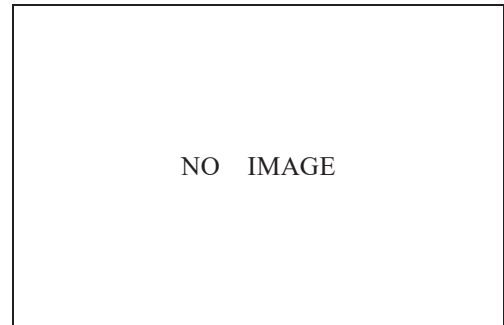
5. 減少の主要因と脅威

草原の管理放棄 (53) と植生遷移 (54) が減少の主要因である。

6. 保護対策

草原の維持と本種に適した管理を行うこと。

(湯浅保雄)



ハチジョウアキノキリンソウ *Solidago virgaurea* L. subsp. *leiocarpa* (Benth.)

Hultén var. *praeflorens* Nakai

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~30 cm。葉は卵形で光沢があり厚い。花期は 8~12 月。頭花は茎の先に固まってつき、径 1~1.5 cm。花序の上部はほぼ平らになる。瘦果は無毛 (基本亜種のアキノキリンソウの瘦果は有毛)。

2. 分布

日本固有変種で、本州（関東地方、静岡県）、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆と熱海市初島に分布する。

3. 生育環境

海岸の岩場や岩礫地。

4. 生育状況

前回 (2004 年) の調査では 2ヶ所で確認されているが、今回は調査不足のためか確認できていない。

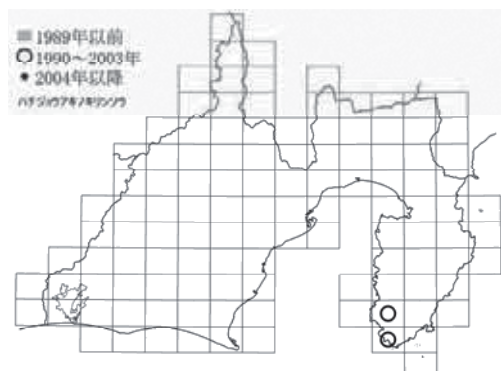
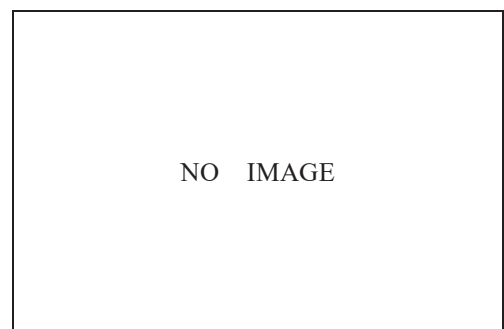
5. 減少の主要因と脅威

海岸の整備 (14) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地に立ち入って踏みつけないように対策を講じること。

(湯浅保雄)



リンネソウ *Linnaea borealis* L.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

矮性低木。高さ5~7 cm。茎は径1 mm、よく分枝し、長く地を這う。開出毛がある。葉は対生し、葉身は卵円形、基部は広くさび形。長さ4~12 mm。先に3~5個の鋸歯がある。両面に毛を散生。花期は7~8月。腺毛のある花茎を立て、上部で2分枝した先に1個ずつ花をつける。花冠は漏斗状鐘形で長さ8~10 mm。先は5裂して広がる。

2. 分布

国外ではロシア(サハリン、北クリール、カムチャツカ)、朝鮮半島北部、中国、モンゴル、シベリア、カフカズ、ヨーロッパ、アリューシャン、北アメリカ北西部に、国内では南千島、北海道、本州(中部以北)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山の半陰地や亜高山帯針葉樹林の林床。

4. 生育状況

産地は限られており、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

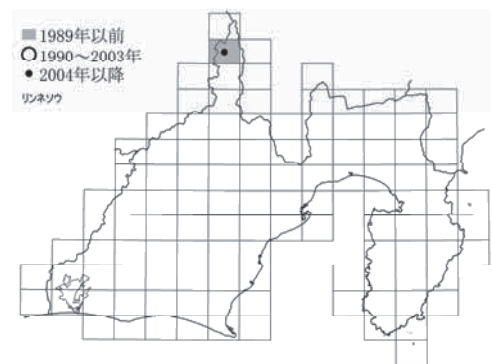
植生遷移(54)や乾燥化(71)などの生育環境の変化が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地に立ち入らないような対策をし、踏みつけに注意すること。
(湯浅保雄)



長野県 2012年7月24日 宮崎一夫



アスヒカズラ *Lycopodium complanatum* L.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ヒカゲノカズラ科 Lycopodiaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。匍匐茎は長く這い、まばらに分岐、鱗片様の葉をまばらにつける。側枝は扇形に分岐する。直立茎の小枝は扁平、表面は緑色、裏は淡緑色で筋ははっきりする。孢子嚢穂は3~10 cmの長さの柄に1~5個つき円柱形、孢子葉は密につき、広卵形で鋭尖頭である。

2. 分布

国外では北半球の温帯に、国内では北海道、本州（岡山県以北）、四国（徳島県）に分布する。県内では東部（富士山）、中部（南アルプス荒川岳、樺島など）に分布する。

3. 生育環境

山岳地帯の林内、やや陰湿潤地、向陽の山地林下や草原に広く分布する。

4. 生育状況

産地はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

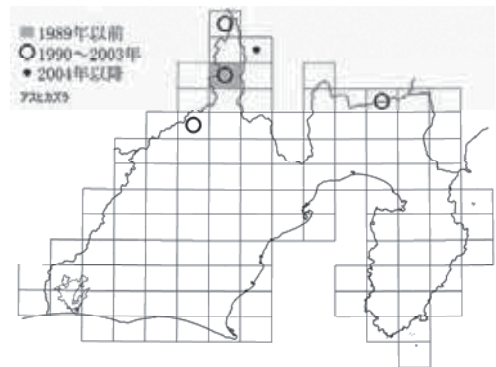
自然遷移 (54) による自然環境の悪化、踏みつけ (51) や乾燥化 (71) などによる生育地の破壊、減少や絶滅が懸念される。

6. 保護対策

登山道の整備、登山者による踏みつけなどによる生育地の乾燥化、環境変化を防ぐ必要がある。(細倉哲穂)



静岡市 2001年7月21日 宮崎一夫



ハマハナヤスリ *Ophioglossum thermale* Kom.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ハナヤスリ科 Ophioglossaceae

[2004年版カテゴリ 部会注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

小型の夏緑性シダ。大きなものでは20 cmほど。孢子葉と栄養葉に分かれ、下部で共通柄となる。孢子葉はやや狭く線形。生育期間は4~10月で、孢子は初夏から熟し始める。孢子の表面模様はコヒロハナヤスリに似ている。但し、内陸のものはコハナヤスリにも似てきて、中間型もあり、区別困難の型のものが多くなる。コハナヤスリとの関連については今後の課題である。

2. 分布

国外ではロシア（カムチャツカ、シベリア）、中国、台湾、南洋諸島に、国内では日本全土に分布する。県内では東部（三島市）、西部（御前崎市、磐田市、浜松市など）に分布する。

3. 生育環境

海岸近くの湿った砂地に多く、河原の砂地にも生える。内陸にも稀にあり、墓地に生ずることもあるが、少ない。

4. 生育状況

生育地も少なく、個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

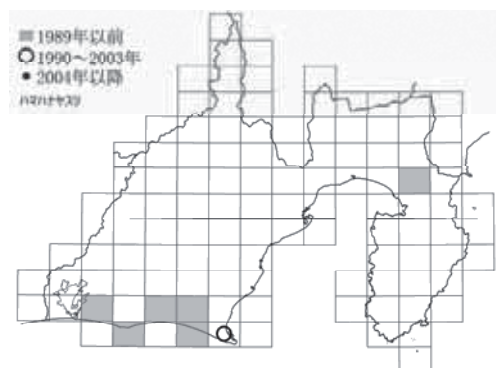
きわめて限られた環境の下に生育しており、開発行為 (23) による生育地の消失が脅威であり、現状でもある。

6. 保護対策

生育地の環境変化、生育地及びその周辺の開発行為を防ぐことが必要である。(細倉哲穂)



菊川市 2003年9月28日 杉野孝雄



オオハイホラゴケ *Vandenboschia birmanica* (Bedd.) Ching

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

コケシノブ科 Hymenophyllaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。コケシノブの仲間としては大型で、即ちハイホラゴケに似るがずっと大きく、葉長 30 cm にも達する。根茎は長く這い、径 1.5 mm ほどあり、暗褐～黒色の毛を密につける。葉身は広披針形、鋭頭で 3 回羽状複葉。葉柄はほとんど基部まで幅の広い翼をつける。

2. 分布

国外では台湾、中国、インドシナに、国内では本州（伊豆半島、紀伊半島）、九州、沖縄、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆（西伊豆町白川）に知られ、ここが分布の東限であろう。

3. 生育環境

暖地の山林内の溪流沿いや陰湿な場所の岩上、地上に生育する。しばしば水に濡れるほどの所に生じる。

4. 生育状況

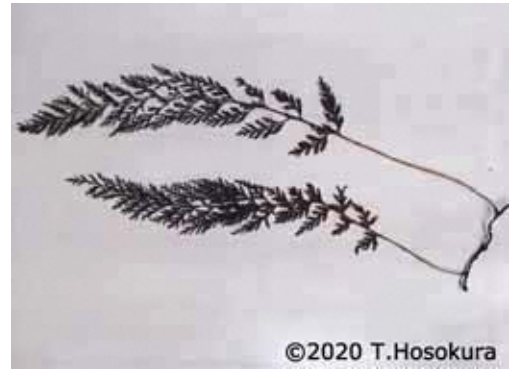
生育地は局限され、小群落を形成するが、狭い範囲にごくわずかに生育しているといった状況である。

5. 減少の主要因と脅威

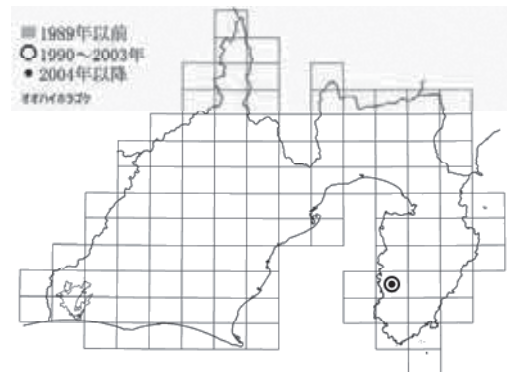
山林伐採（11）による減少、本種の生育場所の道路脇の岩壁が破壊（24）されることが、何よりも脅威である。

6. 保護対策

山林伐採や人の手による生育地岩壁の破壊など、環境破壊を防ぐ必要がある。（細倉哲穂）



西伊豆町 2009年3月11日 細倉哲穂



チチブホラゴケ *Crepidomanes schmidtianum* (Zenker, ex Taschner) K. Iwats.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

コケシノブ科 Hymenophyllaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。糸状の根茎が長く這い、葉がまばらに出る。葉は 2 回羽状深裂で、裂片は重なり合い、先端は鈍頭である。一見アオホラゴケに似るが、葉肉中に偽脈がない。またハイホラゴケの小型品にも似るが、チチブホラゴケには葉柄にほとんど翼がない。

2. 分布

国外では台湾、中国、ヒマラヤに、国内では本州（福島県、関東地方、中部地方、紀伊半島）、四国、九州に分布する。県内では西部（旧本川根町、浜松市北部）に分布する。

3. 生育環境

山地林内の溪流沿い、水気の多い陰湿な場所の岩上などに、コケ類とともに生育し、群生している。

4. 生育状況

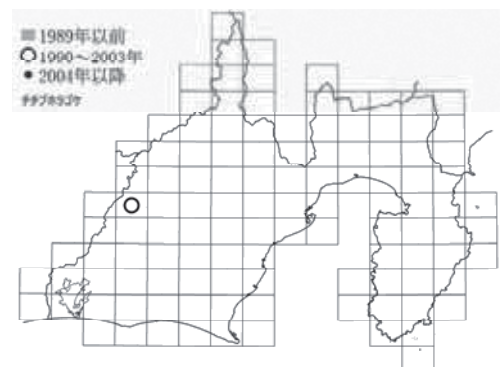
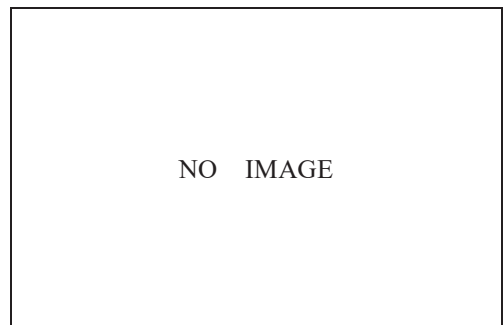
県内では生育地が限定され、大変少ないものである。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採（11）や林道の改良工事（24）など、生育環境の変化で減少している。生育地が消失した所も出てきている。

6. 保護対策

生育地は少なく、生育環境もきわめて限られている。山地の山林伐採、林道の改良工事などから、本種生育地の破壊や変化を防ぐことが必要である。（細倉哲穂）



エダウチホングウシダ *Lindsaea chienii* Ching

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

ホングウシダ科 Lindsaeaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。根茎はごく短く這い、葉柄を密に出す。葉は1~2回羽状複生し、大きなものは長さ35 cmほどに達する。孢子嚢群は小羽片の辺縁近くに裂片ごとにつく。

2. 分布

国外では台湾、中国、ベトナム、タイに、国内では本州(伊豆半島以西)、四国、九州、伊豆諸島、琉球列島に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低山地の常緑樹林の湿った林内に生育する。

4. 生育状況

伊豆、中部、西部の各地に生育する。産地は少なく個体数は少ない。多くの個体数が生育する場所もある。

5. 減少の主要因と脅威

山林開発(23)などで生育地が消失する危険性がある。また、山林伐採(11)などによる生育環境悪化の影響も懸念される。

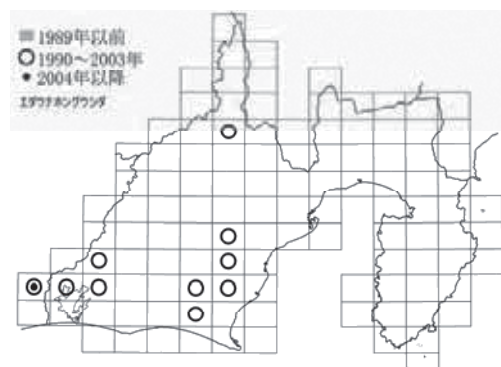
6. 保護対策

生育地の山林の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2012年12月23日 内藤宇佐彦



コタニワタリ *Asplenium scolopendrium* L.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

チャセンシダ科 Aspleniaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。根茎は短く、斜上、葉柄下部とともに淡褐色の披針形の鱗片をもつ。葉身は披針形で50 cmほどまで。葉身の基部はやや狭くなり、くびれ、両側に耳片を作る。葉はやや多肉質、辺縁は全縁。孢子嚢群は中肋に直角に近い角度でつき、線形で長い。

2. 分布

国外ではシベリア、朝鮮半島、中国、欧州、北米に、国内では日本全土、特に日本海側に多く分布する。県内では伊豆(内陸部)と西部(旧春野町)に記録がある。

3. 生育環境

温帯山地の林下、やや陰湿な林床に生じる。岩の近くのような所に好んで生育する。

4. 生育状況

県内生育地は局限され、産地が少ない上、個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の山地山林の伐採(11)、水路及びその側道の改修工事(13、24)などによる環境変化が消滅の脅威となっている。

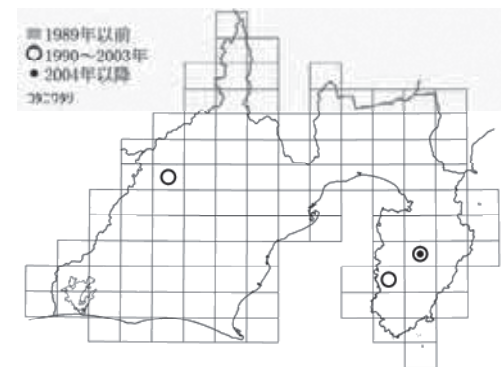
6. 保護対策

生育地の山地の山林伐採、水路及びその側道の改修工事による環境変化を防ぎたい。

(細倉哲穂)



伊豆市 2010年7月27日 細倉哲穂



テツホシダ *Thelypteris interrupta* (Willd.) K. Iwats.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

ヒメシダ科 Thelypteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。県内では夏緑性となる。葉は大きいものでは180 cmに達する。根茎が長く横走することと、葉の先端が矛状になり頂羽片が独立することはホシダに似るが、羽片基部は少し狭くなり、羽片は鋸歯状に切れ、孢子嚢群は辺縁寄りに位置する。

2. 分布

国外では亜熱帯から熱帯に、国内では本州(伊豆半島以西)、四国(徳島県・高知県)、九州、琉球列島に分布する。県内では東部(沼津市大瀬崎、旧戸田村井田、富士市浮島)と西部(旧細江町小野)に分布する。本県は東限自生地である。

3. 生育環境

海岸近くの池沼のほとりなどの向陽の湿地に生育する。

4. 生育状況

生育地が局限され、沼津市大瀬崎以外は個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

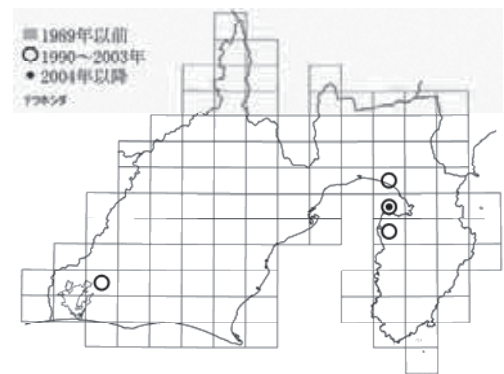
湿地開発、水田の改変工事(15)などによる生育地消失、樹木伐採(11)、植生遷移(54)による環境変化、観光客などによる踏みつけ(51)も危惧される。

6. 保護対策

生育地の開発、工事、伐採、観察路の管理の際は配慮を要する。また、植生遷移を抑制するための草刈りなど維持管理が必要である。
(細倉哲穂・内藤宇佐彦)



沼津市 2016年9月25日 内藤宇佐彦



メッコウシダ *Thelypteris nipponica* (Franch. et Sav.) Ching

var. *borealis* (H. Hara) H. Hara

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

ヒメシダ科 Thelypteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の夏緑性シダ。基本種メッコウシダの一変種で、外形はこれとよく似ていて、どちらかという山地型のメッコウシダという形のものが多い。孢子嚢群の包膜には、腺だけあって、無毛である。なお、メッコウシダには腺も毛もある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州(中部以北)に分布する。県内では東部(小山町須走、御殿場市印野、富士宮市の富士登山道)と中部(北部山地)に分布する。

3. 生育環境

温帯山地のやや明るい湿った草原、林内に生育し、しばしば群生する。メッコウシダと同様の所に生ずるが、それよりも高い所、山地に多い。

4. 生育状況

本変種も以前に比べて少なくなっている。

5. 減少の主要因と脅威

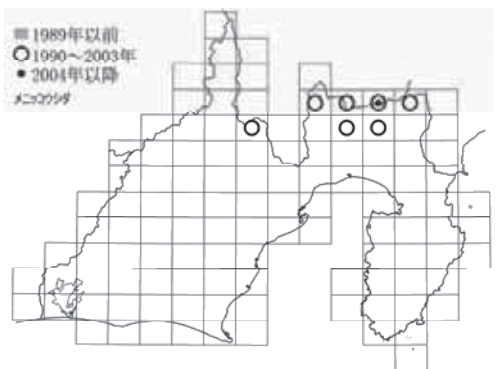
自然遷移(54)や登山者の踏みつけ(51)による減少も考えられる。

6. 保護対策

自然遷移による消失、減少の上に、踏みつけによる減少や環境変化を防ぐよう、登山道の管理には、特に配慮を要する。
(細倉哲穂)



小山町 2005年7月12日 杉野孝雄



ミゾシダモドキ *Thelypteris leveillei* (H. Christ) C. M. Kuo

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ヒメシダ科 Thelypteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。葉は長さ 70 cm 程度。葉身は 2 回羽状に中～深裂し、最下羽片は著しく短くなる。羽片のつけ根の部分に小突起をもつ。孢子嚢群は円形で包膜を欠く。

2. 分布

国外では中国（四川省、雲南省）、台湾、フィリピンに、国内では本州（千葉県以西）、四国（徳島県、愛媛県）、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の山地の谷間。水しぶきがかかるような陰湿な岩壁に生育する。

4. 生育状況

伊豆、中部、西部の各地に生育する。産地は限定され、生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採 (11) などで生育環境が悪化し、減少傾向がみられる。

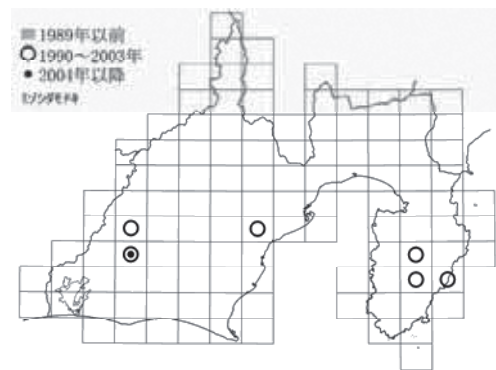
6. 保護対策

生育地の山林保護などが必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito
浜松市 2017年1月28日 内藤宇佐彦



イワイヌワラビ *Athyrium nikkoense* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の夏緑性シダ。ヘビノネゴザに似て、それを小さくしたような姿をしている。葉身は披針形で下部はだんだん狭くなる。葉柄は短い。羽片は浅～中裂し、内側に耳片をもつ。孢子嚢群は裂片の辺縁近くにつき、大きくて 1 列に並び、鉤形で円腎形の包膜で覆われる。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州（中部以北）、四国に分布する。県内では伊豆（猫越峠、皮子平）、東部、中部（安倍峠など）に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の山中、やや明るい崖地の岩壁にごく稀に着生し、葉は下垂する。

4. 生育状況

生育地は局限され、岩壁面に着生して小群落を形成するが、一般的に個体数は多くない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地周辺の山林伐採 (11) などによる環境破壊が脅威である。又、本種のように比較的目につきやすい山道沿いの壁面に生ずる希少な種類は採集圧 (41) にさらされ、これも脅威である。

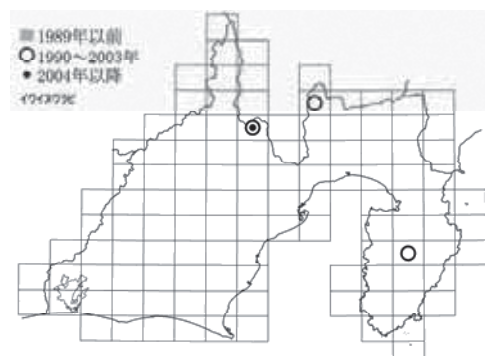
6. 保護対策

生育地の岩壁付近の山林伐採などに配慮することが必要である。

(細倉哲穂)



©2020 T.Sugino
富士宮市 2001年8月30日 杉野孝雄



ウスバミヤマノコギリシダ *Diplazium deciduum* N. Ohta et M. Takamiya

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イワデンド科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 部会注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の夏緑性シダ。ミヤマノコギリシダの一変種で、母種は常緑性。ミヤマノコギリシダと全形はよく似るが、葉質は草質で柔らかく、羽片は一般的に深く切れ込む。

2. 分布

日本固有種で、本州（伊豆半島以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆（河津町、松崎町）、中部（静岡市）、西部（旧春野町・水窪町・佐久間町・天竜市）に分布する。

3. 生育環境

暖地の林内、やや陰湿な場所の地上に見られる。

4. 生育状況

産地は点在分布、生育地は局限され、根茎は横走して小群落を作るが、個体数はそう多くない。

5. 減少の主要因と脅威

山林の樹木伐採（11）による生育環境の変化、破壊が脅威である。一部の産地では、登山道沿いに生育しているため、道の改修工事（24）や登山者の踏みつけ（51）が脅威となる。

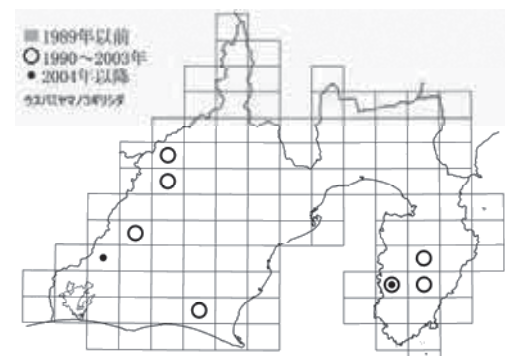
6. 保護対策

山林の伐採、道の改修には配慮を要する。踏みつけによる破壊を防ぐよう、登山道管理にも注意が必要。

（細倉哲穂）



松崎町 2005年9月15日 細倉哲穂



ツクシイワヘゴ *Dryopteris commixta* Tagawa

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。根茎は塊状で、斜上、直立する。葉は80 cmほどに達し、イワヘゴに似るが羽片の数は17~18対、多くても120対くらいまで。葉質は草質で生時はやや厚ぼったい。葉柄の鱗片は光沢がなく黒褐~淡黒色。包膜は著しく発達が悪いのが特徴である。

2. 分布

日本固有種で、本州（石川県、房総半島以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

温暖な山地の林下のやや湿った場所に生ずる。

4. 生育状況

生育地は局限され、生育が知られる場所でも個体数は多くない。

5. 減少の主要因と脅威

山林の樹木伐採（11）、林道の工事（24）などによる環境変化で減少している。

6. 保護対策

山林の樹木伐採、林道の改修工事、山中の水路の工事などによる環境変化から、本種の生育環境の改変を防ぐことが必要である。

（細倉哲穂）



三島市 2007年8月12日 細倉哲穂



ヌカイタチシダモドキ *Dryopteris labordei* (H. Christ) C. Chr.
var. *indusiata* (Makino) Seriz.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。根茎は短く、斜上し葉を叢生する。葉柄下部の鱗片は線上披針形で黒～黒褐色。葉は 70 cm 前後に達し、葉身は卵状三角形を呈する。羽片はほとんど無柄で、葉軸とほぼ直角に出る。羽軸裏面には袋状鱗片がまばらにつく。胞子嚢群は中肋と辺縁との中間に位置し、包膜と芽立ちは赤みを帯びる。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州（静岡県以西）、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆（東伊豆町、河津町、南伊豆町、西伊豆町）と西部（浜松市）に分布している。

3. 生育環境

低山地の林内、陰湿な場所、土崖壁面などに生育する。

4. 生育状況

各生育地とも、個体数は多くない。

5. 減少の主要因と脅威

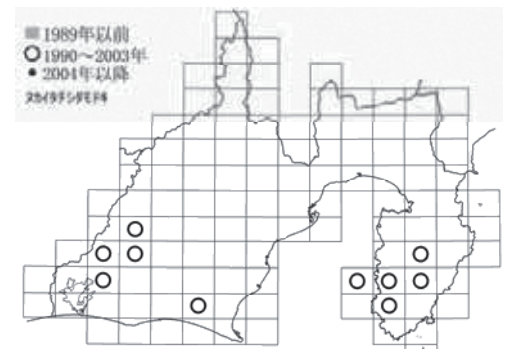
山地の土地の改変、山林の伐採、山中の土崖の削りとり工事など（11、23、24）で生育地自体の消失が懸念される。

6. 保護対策

生育地及びその周辺の山林の樹木伐採、山中の土崖の破壊や山道の環境整備のための改修管理に注意し、生育地の環境改変に気をつける必要がある。（細倉哲穂）



©2020 T.Hosokura
 浜松市 1999年12月3日 細倉哲穂



アオネカズラ *Goniophlebium niponicum* (Mett.) Bedd.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ウラボシ科 Polypodiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の冬緑性シダ。葉は大きいものでは 30 cm に達することもある。青緑色、粉白の根茎は長く這い、茶褐色で広披針形の 1 mm ほどの鱗片がまばらにつく。葉質は厚いが、柔らかい草質で表面にはまばらに、裏面には密に開出毛がある。

2. 分布

国外では中国南部に、国内では本州（富山県及び関東地方西部以西）、四国、九州に分布する。県内では山地部に広く点在分布する。

3. 生育環境

暖地の低山地の山林の樹幹や岩上に着生する。

4. 生育状況

各地に広く分布するが、東部では生育地が局限され、個体数も少ない。西部では主として内陸部だが、割合広く産する。

5. 減少の主要因と脅威

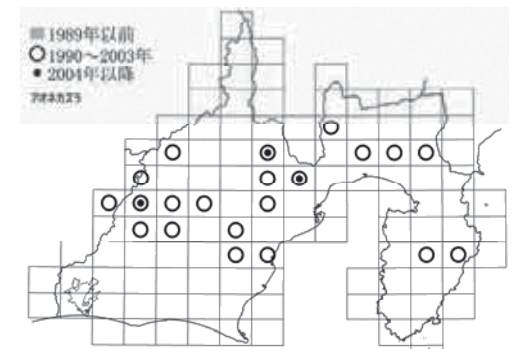
山林の伐採（11）、山中の水路工事（13）や林道の改修工事（24）による環境変化で、生育地も減り、個体数も更に減ってきた。園芸採取（41）も懸念される。

6. 保護対策

本種の生育地を守り、生育環境の変化を防ぐため、生育地及びその周辺の山林伐採、水路、林道の改修には配慮を要する。よく知られた園芸植物であることから、園芸採取も防止したい。（細倉哲穂）



©2020 T.Hosokura
 沼津市 1995年1月20日 細倉哲穂



ウスバサイシン *Asarum sieboldii* Miq.

(=サイシン)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ウマノズクサ科 Aristolochiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。春に茎の先から2枚の葉を左右に開く。葉身は薄く長さ5~13 cm、円卵形で先は鋭形、葉柄は暗紫色。花期は4~5月。開葉直前に2枚の葉の間から1花を開く。花径10~15 mm 淡汚紅紫色で萼筒は扁球形、やや軟質で内側には17~25本の縦皺がはしる。萼裂片は三角状広卵形で先は尖る。雄蕊は12個、花柱は6個。

2. 分布

国外では中国中南部、朝鮮半島に、国内では本州(関東南部~中国地方)に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯林内の少し湿った所。

4. 生育状況

かつては東部の毛無山山麓、中部の大井川源流部、西部の長野県との県境付近で確認されているが、今回の調査では大井川源流部でしか確認できなかった。調査不足もあるが、シカによる食害が大きいようである。

5. 減少の主要因と脅威

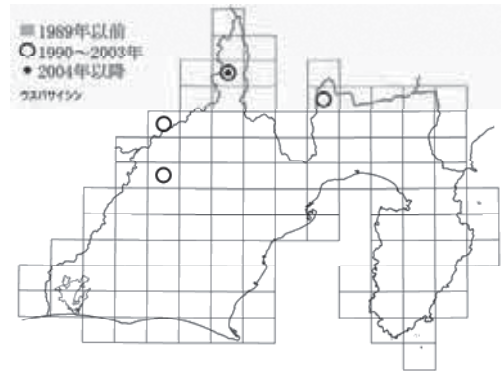
森林伐採(11)による生育環境の変化、園芸採取(41)、シカによる食害(52-1)が減少の主要因である。

6. 保護対策

シカによる食害を防ぐこと。(湯浅保雄)



静岡市 2015年5月8日 湯浅保雄



バリバリノキ *Actinodaphne acuminata* (Blume) Meisn.

(=アオカゴノキ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

クスノキ科 Lauraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑高木。高さ15 mになる。葉は互生、枝の上部にやや車輪状に集まり、長披針形または倒披針形で先は長鋭尖頭、長さ10~15 cm、幅15~20 mm。薄い革質、表面は深緑色で光沢がある。裏面は灰白色で少し伏毛がある。雌雄異株。花期は8月、葉腋から短枝を出し、枝の先に1~3個の花序をつける。果実は翌年の6月に黒紫色に熟し、長楕円形で約1.5 cm。種子は1個。

2. 分布

日本固有種で、本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯下位の谷間の肥沃地。

4. 生育状況

産地は少ないが、個体数には近年それほどの変化はないと思われる。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育している森林を保護林として残すこと。(湯浅保雄)



河津町 2017年5月8日 湯浅保雄



ミツバテンナンショウ *Arisaema ternatipartitum* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

サトイモ科 Araceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ15~30 cm。球茎は扁球形。葉は2個。小葉は柄がなく卵形で3個あり、縁に微鋸歯がある。花期は4~5月。花序は葉よりも早く展開する。仏炎苞は紫褐色で口辺部は耳状に反曲する。付属体は円柱状で、先はややふくれて円頭。近縁種のムサシアブミは葉の縁に鋸歯がなく、付属体の先は鐙状である。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の落葉樹林内の沢沿いなどの、やや湿った砂礫地に生育する。

4. 生育状況

産地は中部に局部的で少ない。産量は多い。植林された林床にも多く残存しているが開花株は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。被陰も脅威である。

6. 保護対策

植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。(宮崎一夫)



静岡市 2016年4月30日 室伏幸一



ミズオオバコ *Ottelia alismoides* (L.) Pers.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水性の一年草または多年草。高さ水中で5~10 cm。葉は束生して葉柄があり、葉身は柔らかく卵状披針形で長さ10~30 cm、時には50 cmに達し、生育環境により著しい変異がある。花期は8~9月。葉間から花茎を出して、先端の苞鞘の中から径3 cmの両性花を1個、または単性花を複数個つけ水上に開く。花弁は卵形で白色または淡桃色で3個。雄蕊3個。雌蕊3個。近縁種のスプタは花弁が線状披針形である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国、フィリピン、インド、エジプト、オーストラリアに、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

耕作水田、休耕田や溝の中などに沈水して生育する。

4. 生育状況

産地は点在する。産量はやや多い。年による消長がある。今回から調査対象としたので、この他の産地もあると思われる。

5. 減少の主要因と脅威

農薬汚染(32)が主要因である。乾田化(15)も生育の脅威である。

6. 保護対策

減農薬農業を推進することが重要である。(宮崎一夫)



浜松市 2004年10月17日 宮崎一夫



ヒナノシヤクジョウ *Burmattia championii* Thwaites

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

ヒナノシヤクジョウ科 Burmanniaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。菌従属栄養植物。高さ3~8 cm。葉緑素を欠き全体がほぼ白色。根茎はふくらみひげ根がある。茎は短く立つ。葉は互生して鱗片状で小さい。花期は7~9月。花は長さ1 cm、無柄で茎頂に数個が頭状に集まる。花被片は基部で合着し翼がなく、先が3裂して開くと黄色が目立つ。近縁種のシロシヤクジョウは数個の花が総状につき花被片に翼がある。

2. 分布

国外では台湾、中国、東南アジアに、国内では本州(関東地方以西)、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯丘陵地の谷間に多く、常緑樹林や植林の林床など、やや薄暗く多湿な腐植土や泥湿地に生育する。

4. 生育状況

産地は中部では少なく西部に多くある。局所的に群生している産地もある。発生株数は年により消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

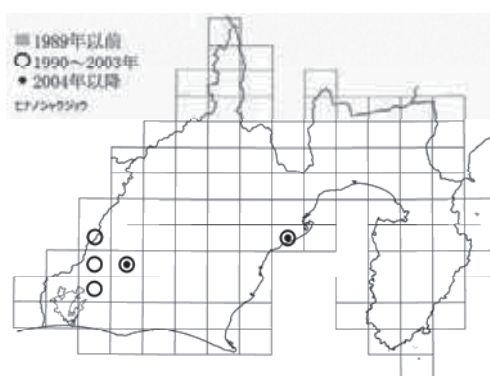
森林伐採(11)や土地開発(23)により産地が減少している。

6. 保護対策

生育できる環境への依存度が高いので、生育に適するように保全することが重要である。(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 2016年7月24日 宮崎一夫



アマナ *Amana edulis* (Miq.) Honda

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ15~20 cm。地中深くに広卵形の鱗茎がある。葉は2個あり線形で長さ15~25 cm、幅5~10 mm、白条はない。花期は3~5月。苞葉は線状披針形でふつうは2個つく。長い茎の先に1花をつける。花は晴天時に開く。花被片6個は長楕円形で長さ2~2.4 mm、白色で基部が緑黄色で淡赤褐色の筋がはいる。近縁種のヒロハノアマナは苞葉が3個で葉の幅が7~15 mmで白条がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部、東部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

丘陵地や低山の日当たりのよい林縁や草地に生育する。

4. 生育状況

産地は広範囲に多い。産量も多い。しかし園芸採取により開花株は少なく株数も減少している。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)と植生遷移(54)が脅威である。

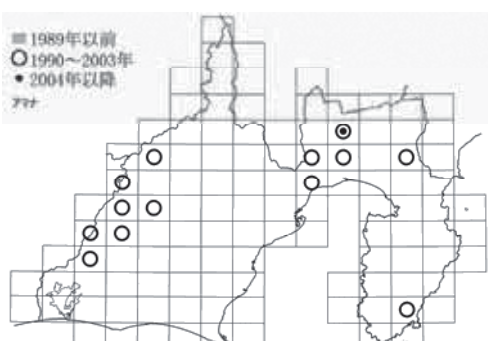
6. 保護対策

草刈りなどを行い植生遷移を止めることも保護対策の一つである。

(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 2000年4月14日 宮崎一夫



オオウバユリ *Cardiocrinum cordatum* (Thunb.) Makino

var. *glehnii* (Fr. Schmidt) H. Hara

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さは、8~1.3 m。地下に根出葉の柄がふくれた白色鱗片がある。葉は茎の中部以下に数個集まってつく。葉は卵状長楕円形で長さ20~30 cm、基部は心形。花期は7~8月。茎の上部に10~20個の白色の花を水平につける。花の長さは10~15 cm。ウバユリの花の長さは7~10 cm。

2. 分布

国外ではサハリンに、国内では南千島、北海道、本州(中・北部)に分布する。県内では中部に分布する。南アルプスが分布の南限である。

3. 生育環境

冷温帯の谷筋の草地や林縁。

4. 生育状況

大井川上流部の谷筋に生育しているが、近年、シカによる食害で急速に減少している。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)による植生の変化とシカによる食害(52-1)が減少の主要因である。

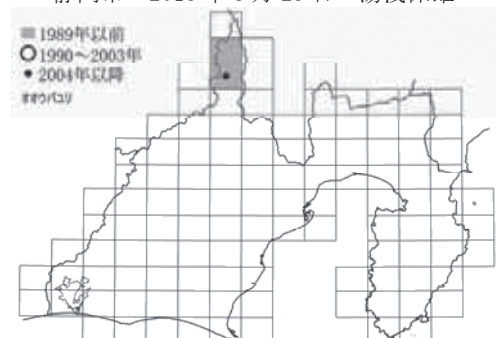
6. 保護対策

生育地をシカよけの柵で囲むこと。

(湯浅保雄)



静岡市 2018年8月25日 湯浅保雄



カタクリ *Erythronium japonicum* Decne.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 部会注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。鱗茎は筒状楕円形で長さ5 cm。葉は開花する株で、2個あり長楕円~狭卵形で長さ5~12 cm、表面に通常は暗紫色の斑がある。花期は3~5月。花は花柄の先に1個つける。花被片は披針形で、日を受けると反転し紅紫色で長さ4~5 cm、内側の奥にW字の蜜標があり、その奥に蜜がある。葯は濃紫色。蒴果は3稜形。品種のシロバナカタクリは花被片が純白で葯が黄色である。種子が発芽して開花するまで7~8年かかる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、サハリンに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯の丘陵地・山地の落葉樹林下に生育する。

4. 生育状況

産地及び産量はきわめて多い。保護されて群生する所と、植生遷移や園芸採取の影響で散生する所がある。

5. 減少の主要因と脅威

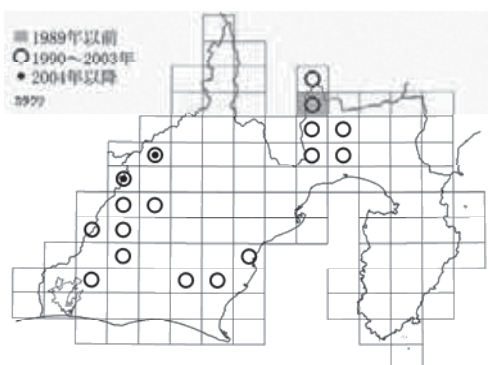
ササ群落などへの植生遷移(54)とスギ・ヒノキの植林が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

植林地は落葉樹林への転換を図る。生育地の保護と園芸採取を防ぐために立ち入りを禁止する。(宮崎一夫)



浜松市 2005年4月16日 宮崎一夫



ホソバノアマナ *Lloydia triflora* (Ledeb.) Baker

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ15~25 cm。鱗茎は楕円形で径1 cm。根出葉は1個が立ち上がり断面は3稜形で長さ30 cm。茎葉は中部に1個あり長さ7 cm。花期は5~6月。茎は分枝して1~5個の花をつけ、日を受けると上を向いて開く。花被片は狭長楕円形で径1~1.5 cm、基部に腺体はなく、白色で裏面に淡緑色の線状斑がある。近縁種のチシマアマナは1茎1花で花被片の基部に腺体がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシアなどに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の適湿な草原や、明るい落葉樹林内に生育する。

4. 生育状況

産地は天竜区に限定的で少ない。産量はきわめて少ない。植生遷移の圧力を受けているが、株の存続は維持している。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。乾燥化(71)と園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

植生遷移の抑制と生育環境を維持するために、立ち入りを禁止することが重要である。(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 2017年5月4日 宮崎一夫



ギンラン *Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume var. *erecta*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~40 cm。根茎は太さ2~3 mm、開出した淡褐色の根毛がつく。茎の下部に褐色の鱗片葉が1~3個つく。葉は3~6個が互生し淡緑色の狭楕円形で長さ3~10 cm、平行脈が裏に凸となり数個あり、茎を抱く。苞は線形で8 mm。花期は5~6月。花は純白で上向きに半開して、長さ7~9 mm。距は円錐形で長さ2 mm。唇弁は3裂して、中裂片は楕円形。近縁種のササバギンランは中裂片が心形である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国、ヒマラヤに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯下位の林床に生育する。

4. 生育状況

産地は各地に点在する。産量は少ない。生育状況は園芸採取や植生遷移の圧力を受け減少している。

5. 減少の主要因と脅威

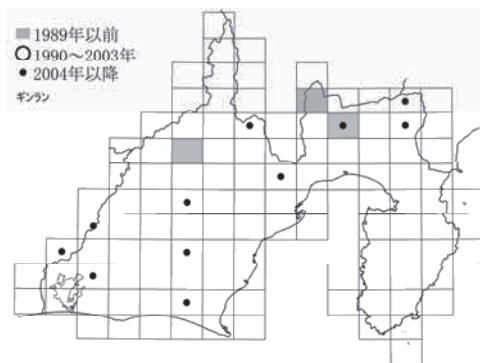
園芸採取(41)が主要因で、植生遷移(54)も脅威である。

6. 保護対策

自然産物は共有の財産であり、多くの県民が観賞できるように、保護を啓発することが重要である。(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
掛川市 2016年4月27日 宮崎一夫



アオキラン *Epipogium japonicum* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A 類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。菌従属栄養植物。高さ10~20 cm。茎は肉質で淡黄褐色、まばらに鞘状葉がある。花期は8~9月。花は茎の上部に4~7個が総状につく。花は淡褐色で紫色の細点がある。萼片と花被片は狭披針形で10~12 mm。唇弁は三角状で内側に巻く。距は6~8 mm。近縁種のタシロランは全体に白色で、花被片は披針形で長さ8~9 mm。距は長楕円形で長さ4 mmである。

2. 分布

国外では台湾、中国に、国内では本州（東北・中部地方）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。富士山にも生育する可能性がある。

3. 生育環境

冷温帯の落葉樹林下に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスに局限して少ない。産量は散生する。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。土壌の流出(71)やマニアによる採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

生育地は過去の場所も含めて、立ち入りを禁止することが重要である。産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



静岡市 2011年9月18日 加藤 徹



シロテンマ *Gastrodia elata* Blume f. *pallens* (Kitag.) Tuyama

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A 類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。菌従属性栄養植物。高さ15~35 cm。葉緑素がなく全体が淡黄白色。塊茎は肥厚した楕円形。花期は6~7月。花は総状に5~10個つく。花は3萼片が合着して壺状。唇弁は卵状長楕円形。近縁種のオニノヤガラは高さが40~100 cmあり花が20~50個、全体が黄褐色、アオテンマは高さが40~100 cmあり花が20~50個、全体が緑色。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州（群馬県~滋賀県）に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の雑木林の林内に生育する。

4. 生育状況

産地は散在する。産量は少ない。近年の正確な生育状況は不明である。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。観察者や撮影者の踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

生育地の環境を変化させないために、立ち入りを制限することが重要である。産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



富士宮市 2018年7月20日 宮崎一夫



アケボノシュスラン *Goodyera foliosa* (Lindl.) Benth. ex C. B. Clarke
var. *laevis* Finet

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑多年草。茎は基部が這い、斜上し 5~10 cm。葉は 4~5 個を互生し、卵形で緑色である。花期は 9~10 月。花は花茎に 3~7 個つけ、鐘形で淡紅紫色である。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地から山地の谷筋など湿った樹林下に生育する。生育する場所の標高差はかなりある。

4. 生育状況

各地に生育するが、生育地は限られている。群生する場所もある。

5. 減少の主要因と脅威

丘陵地の産地では土地造成 (23) などによって消失の危険性がある。また、山間部の生育地では森林伐採 (11) により生育環境の悪化が懸念される。

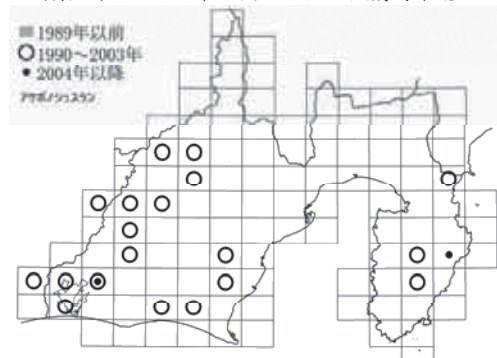
6. 保護対策

生育地及び生育する森林の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 1995年8月26日 内藤宇佐彦



ベニシュスラン *Goodyera biflora* (Lindl.) Hook. f.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑多年草。高さ約 3~8 cm。茎は地上を這い、上部は斜上する。葉は卵形で長さ 2~4 cm、表面はビロード状の濃緑色で白色の網目模様が入る個体もあり、地上を這うテイカカズラの葉に似ている。花期は 6~7 月。花は帯紅橙色で長さ 2.5~3 cm、筒状で横向きからやや上向きに先端部が開く。近縁種のシュスランやアケボノシュスランは花が小さく長さ 1 cm 以下である。

2. 分布

国外では台湾、朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の丘陵や山地で沢沿いなど湿り気があり、少し明るい苔むした礫地や岩上に生育する。

4. 生育状況

産地は西部に多いが各地に点在する。産量は少ない。多くは苔むした岩上に数株が集まり、その一部の株が開花する。園芸採取で株数が急減している。

5. 減少の主要因と脅威

植物体の割に花が大きく華やかであるので園芸価値が高く採取 (41) が主要因である。

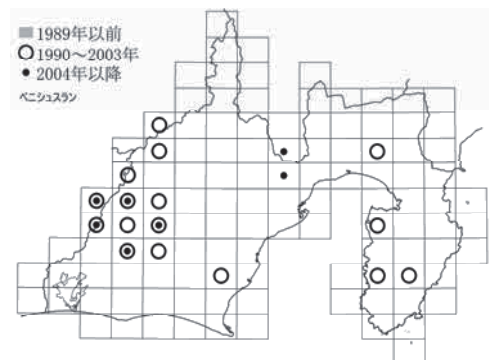
6. 保護対策

採取をすることなく、自生地で背景を含めた環境も同時に観賞するように啓発することが大切である。

(宮崎一夫)



浜松市 2017年7月20日 宮崎一夫



シュスラン *Goodyera velutina* Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~15 cm。茎は横に這い、先端が上向する。葉は数個つけ暗緑色で中央に白色の 1 条あり、長卵形で長さ 2~4 cm。花期は 8~9 月。花は帯紅白色で 4~15 個を総状花序につける。花は長さ 6~8 mm、横向きに半開する。近縁種のミヤマウズラは葉にふつう網目模様がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の常緑樹林下の多湿地に生育する。

4. 生育状況

産地は点在する。産量は少ない。無性株が小群落を形成し、一部が開花すると目立ち、園芸採取の危険性が高まる。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取 (41) が主要因である。土壌の乾燥化 (71) も脅威である。

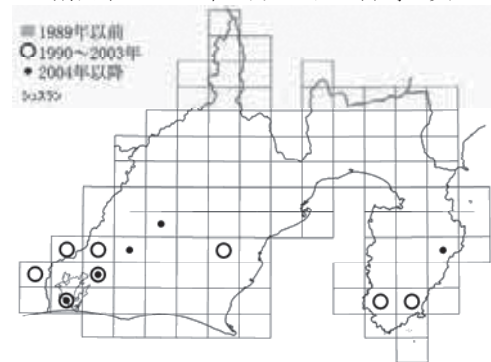
6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



湖西市 2006年9月11日 宮崎一夫



ノビネチドリ *Neolindleya camtschatica* (Cham.) Nevski

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~60 cm。茎は円柱状に肥厚する根から出る。葉は楕円形で長さ 7~15 cm、やや茎を抱き、縦皺があり、縁が波状である。花期は 5~7 月。花は淡紅紫色で長さ 5 mm、多数を総状につける。唇弁は楔状広卵形で先が 3 浅裂する。距は長さ 3~5 mm。近似種のツレサギソウは唇弁が基部で 3 裂する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、ロシア (サハリン、カムチャツカ) に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の樹林下の湿った肥沃土に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に富士山と天竜区に記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

土砂の流出 (71) など生育地の環境悪化が主要因である。園芸採取 (41) も脅威である。

6. 保護対策

生育が確認された場合は、環境に応じて善処することが重要である。産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



石川県 2008年7月26日 宮崎一夫



コハクラン *Oreorchis indica* (Lindl.) Hook. f.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

ラン科 Orchidaceae

[2004 年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A 類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~40 cm。偽球茎は白色でらっきょうのような形。葉は 1 個あり披針形で長さ 15 cm、縦皺があり中央脈が白色である。花期は 6~7 月。花は琥珀色で 5~10 個を総状花序につける。萼片と側花弁は狭楕円形で斜開し 1~1.2 cm。唇弁は白色で紅紫色の斑紋があり先は 3 裂し、隆起線はない。近似種のコケイランの唇弁は縦に 2 個の隆起線がある。

2. 分布

国外では台湾、中国、ヒマラヤに、国内では本州 (中部) に分布する。県内では中部 (南アルプス)、東部 (富士山) に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯の針葉樹林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスに局限する。産量は少ない。登山道脇に散見される程度である。

5. 減少の主要因と脅威

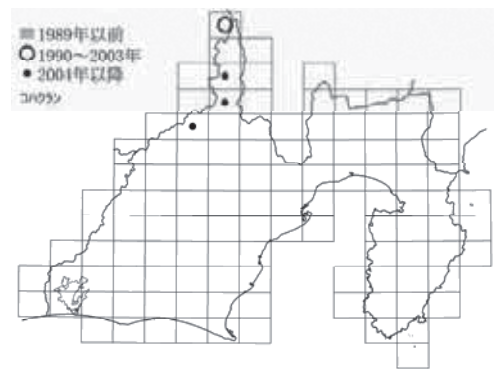
森林伐採 (11) と植生遷移 (54) が主要因である。

6. 保護対策

「国内希少野生動植物種」に指定。森林を伐採するときには皆伐しないで、択伐して急激な環境の変化を与えないように配慮をする。
(宮崎一夫)



静岡市 2019 年 7 月 26 日 山崎由晴



ギボウシラン *Liparis auriculata* Blume ex Miq.

(=キンボクラン)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004 年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I 類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~30 cm。葉は 2 枚つき、広卵形で基部は心形。長さ 5~15 cm、幅 2.5~8 cm、葉脈の間が窪み、縦皺が目立つ。花期は 7~8 月。淡黄緑色の小花を十数個つける。唇弁の中心は帯状に暗紫色に染まる。花被片の長さは約 5 mm。クモキリソウに似るが、唇弁の暗紫色の帯状模様、葉の葉脈間が窪むことなどで区別できる。

2. 分布

国外では韓国 (済州島)、台湾に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から暖温帯の林床や湿原に生える。

4. 生育状況

前回 (2004 年) の調査や今回の調査では確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸用採取 (41) が減少の主要因である。

6. 保護対策

自生地が確認できた場合は、園芸採取を避けるため、産地情報の公開には慎重に配慮すること。
(湯浅保雄)



富士宮市 2019 年 9 月 26 日 宮崎一夫



ヒメフタバラン *Neottia japonica* (Blume) Szlach.

(=ムラサキフタバラン)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。茎の断面は四角形。葉は三角状卵形で長さ1~2 cm、茎の上部に対生する。花期は4~5月。花は淡紫褐色。唇弁は長さ6~8 mm、基部の左右に耳状裂片があり、2深裂して逆Y字形に開く。品種のフイリヒメフタバランは葉の中肋に白条がはいり、ミドリヒメフタバランは花が淡緑色。近縁種のアオフタバランは花期が8月で唇弁が2中裂する。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵から低山のやや湿ったアカマツの疎林下や常緑広葉樹林下に生育する。

4. 生育状況

産地は近年多く確認されて増えている。産量は散生または小群生している。

5. 減少の主要因と脅威

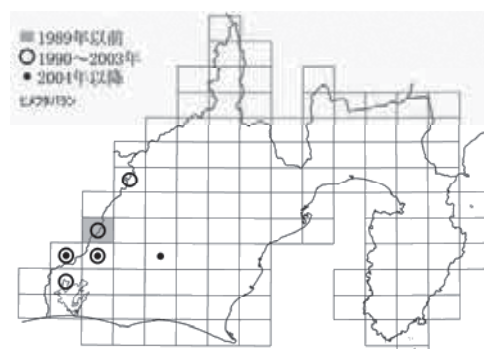
森林伐採(11)が主要因で、林道開発(24)も脅威である。

6. 保護対策

地上部が確認できるのは短期間なので、丘陵や低山の林道開発や造成をするときには、花期にアセスメント調査を行うことが重要である。(宮崎一夫)



周智郡森町 2016年4月3日 宮崎一夫



アオフタバラン *Neottia makinoana* (Ohwi) Szlach.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。葉は茎の下部に対生し、三角状卵形で長さ1~4 cm、青緑色で白斑がある。花期は7~8月。花茎は直立して鱗片葉が数個あり、白色短毛が密生し、上部に緑色の花をまばらに5~20個つける。萼片と側花弁は線状披針形で長さ2~3 mm。唇弁は基部に耳状の裂片がなく、前に張り出して長さ6~8 mm、先が2浅裂~中裂して裂片は楕円形。近縁種のタカネフタバランには、唇弁の基部に耳状の裂片がないが、葉は茎の中部につく。またヒメフタバランは唇弁の基部に耳状の裂片がある。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯山地の腐植土が多い樹林下に生育する。

4. 生育状況

産地は多い。産量は多い。群生する割には開花する株数はそれほど多くはない。

5. 減少の主要因と脅威

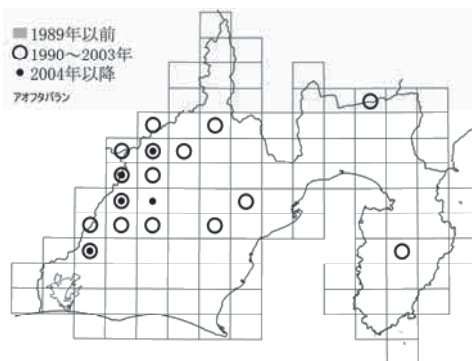
森林伐採(11)と植生遷移(54)が主要因である。

6. 保護対策

森林伐採は皆伐しないで、択伐して大きな環境の変化を与えないように配慮することが重要である。(宮崎一夫)



浜松市 2017年8月27日 宮崎一夫



ホザキイチヨウラン *Malaxis monophyllos* (L.) Sw.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~35 cm。葉は下部に1個つき、広卵形で長さ4~8 cm、やや肉質で光沢がある。花期は7~8月。花は淡緑黄色で花茎の上部に多数が穂状につく。苞は三角状披針形で長さ1~2 mm。萼は披針形で長さ2.5 mm。側花弁は線形で長さ1~2 mm。唇弁は基部近くの両縁に肉質の裂片がある。高さ5 cmほどの個体や50 cmにもなる個体もある。近似種のニラバランは本県では確認されていないが沿海の草地に生育する。

2. 分布

国外ではシベリア、朝鮮半島、中国、台湾、フィリピン、欧州、北米に、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では西部、中部 (南アルプス)、東部 (富士山) に分布する。

3. 生育環境

温帯から高山帯の適湿な林縁や草地に生育する。

4. 生育状況

産地は垂直にも水平にも広範囲である。産量はそれほど多くはなく、各地に散生から単生している。

5. 減少の主要因と脅威

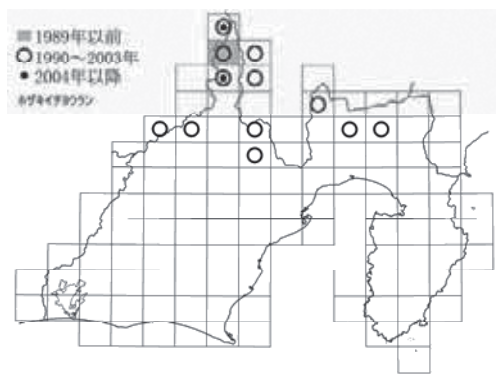
遷移や乾燥 (54) が主要因である。踏圧 (51) や園芸採取 (41) も脅威である。

6. 保護対策

生育に脅威を与えないように、登山道を迂回整備することも重要である。(宮崎一夫)



静岡市 2016年7月29日 宮崎一夫



アリドオシラン *Myrmechis japonica* (Rchb. f.) Rolfe

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ3~8 cm。葉は3~5個つきアカネ科のアリドオシに似て広卵形で長さ5~12 mm、表面に粒状微突起がある。花期は7~8月。花は1~3個つき白色。花茎に多細胞の白色縮毛がある。苞は膜質の披針形で長さ4~6 mm。萼片は披針形で長さ6~7 mm。側花弁は広披針形で長さ6~7 mm。唇弁は基部がふくれて長さ1 cm、舷部の先は2裂する。近縁種のヒメミヤマウズラは舷部の先は2裂しない。

2. 分布

国外ではロシア (北クリール)、朝鮮半島、中国に、国内では南千島、北海道、本州、四国に分布する。県内では西部、中部、東部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯で深山の針葉樹下に生育する。

4. 生育状況

産地は広範囲にあり多い。産量も多い。開花株も多く生育状況は良好である。多少なり植生遷移の圧力を受けている。

5. 減少の主要因と脅威

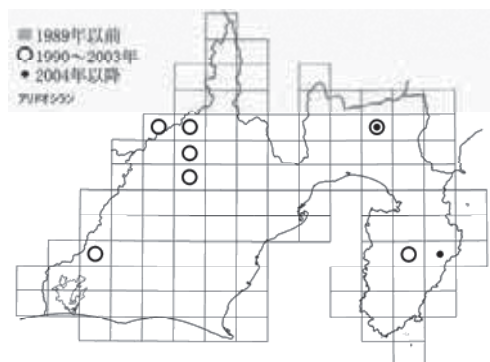
森林伐採 (11) と植生遷移 (54) が脅威である。栽培が困難でありかつ矮小で花も小さく、園芸的な価値が薄い為に園芸採取されることは少ない。

6. 保護対策

森林を伐採する時には皆伐ではなく択伐して、生育環境の急激な変化を避ける。(宮崎一夫)



裾野市 2018年7月25日 宮崎一夫



ホソバノキソチドリ *Platanthera tipuloides* (L. f.) Lindl. subsp. *tipuloides*
var. *sororia* (Schltr.) Soó

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。茎の高さ 20~40 cm。葉は下部に 1 枚つき、狭長楕円~卵形で長さ 3~7 cm、幅 1~2 cm。その上に披針形の鱗片葉が 1~3 個つく。花期は 7~8 月。花茎に淡黄緑色の花を多数やや密につける。背萼片は卵形で長さ 2~3 mm。唇弁は広線形で 5~6 mm。距は下垂または前方に湾曲し、長さ 12~17 mm。

2. 分布

国外ではロシア (北クリール) に分布する。国内では南千島、北海道、本州、四国に、県内では中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から亜高山帯の日当たりのよい草地に生育する。

4. 生育状況

南アルプス周辺の山地に広く分布するが、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) による草地の減少が減少の主要因である。近年はシカによる食害 (52-1) も脅威である。

6. 保護対策

シカによる食害を防ぐこと。

(湯浅保雄)



長野県 2014年7月17日 室伏幸一



ヒトツボクロ *Tipularia japonica* Matsum.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。葉は 1 個で長柄があり卵状楕円形で長さ 3~6 cm、3 脈の縦皺がある。葉の表面は深緑色でやや光沢があり中肋が白色である。葉の裏面は赤紫色で時に緑色である。花期は 5~6 月。花茎は直立して長さ 20~30 cm。花は小さく淡黄緑色で数個つく。唇弁は倒卵形で長さ 0.3 cm、3 裂して中裂片は広線形。距は淡紅紫色で長さ 0.5 cm、下垂する。近似種のイチヨウランは花を単生する。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地のアカマツ林や植林から山地の針葉樹林下まで広範囲に生育する。

4. 生育状況

産地は西部を主として多く点在する。産量は群生することはない。少数の開花株がありその付近に数株の無性株が生育している。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採 (11) が主要因である。ラン科であるが花が小さく観賞価値が劣るためか園芸採取による脅威は少ない。

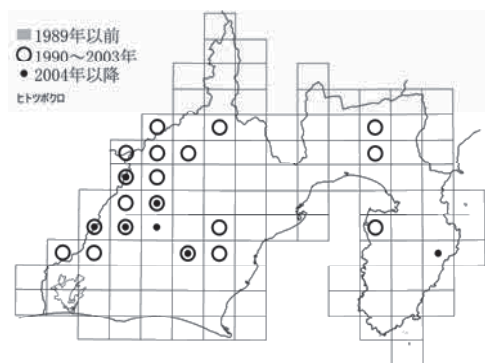
6. 保護対策

森林を皆伐することなく択伐して、急激な生育環境の変化をさせない。

(宮崎一夫)



浜松市 2011年6月26日 加藤 徹



コキンバイザサ *Hypoxis aurea* Lour.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

キンバイザサ科 Hypoxidaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。根茎は塊状で径6~10 mm。短い茎に葉を数枚束生する。葉は線形で長さ10~25 cm、幅2~4 mm。全体に長い毛がある。花期は4~6月。長さ5~10 cmの花茎を出して、その先に1~2個の花をつける。花被片は黄色で6個、披針状楕円形で長さ4~6 mm。蒴果は長楕円形で長さ8~10 mm、種子は球形で径1.2~1.5 mm。

2. 分布

国外では中国南部、台湾、マレーシア、インドに、国内では本州(宮城県以南)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の草地や歩道脇など。

4. 生育状況

産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

開発や植生遷移(54)による草地の消失(16)が減少の主要因である。また、人による踏みつけ(51)も脅威である。

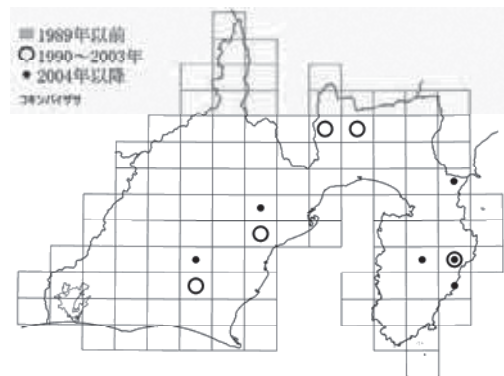
6. 保護対策

草地を維持管理すること。

(湯浅保雄)



賀茂郡東伊豆町 2018年6月25日 宮崎一夫



ヒメニラ *Allium monanthum* Maxim.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

ヒガンバナ科 Amaryllidaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ5~10 cm。鱗茎は球形で径10 mm。葉は線形で長さは10~25 cm、1~2個つき断面が三日月形でニラの匂いがする。花期は4月。花は鐘形で長さ4 mm、花茎の先に1~2個つける。両性株と雄性株と雌性株がある。花被片は6個で、白色または微紅色で平開はしない。近縁種のヤマラッキョウは花茎の先に多数の花をつけ、花被片が紫紅色である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ウズベキスタンに、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の湿り気のある草地や落葉広葉樹林内に生育する。

4. 生育状況

産地は点在する。産量は群生して多い。地上部が現れている期間が3~5月と短いことと相まって、矮小で繊細なので産地が見落とされている可能性もある。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。

6. 保護対策

植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2001年4月7日 宮崎一夫



**オオキツネノカミソリ *Lycoris sanguinea* Maxim.
var. *kiushiana* (Makino) Makino ex Akasawa**

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし ヒガンバナ科 Amaryllidaceae
[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ約40~50 cm。葉は線形で長さ約40 cm、幅1.3~1.8 cm。葉は開花期にはない。花期は7~8月。花茎の先に3~4個の花をつける。花は大型で花被片は黄赤色、長さは9 cm内外、雄蕊は花被片より長く花冠の外に突き出る。類似のキツネノカミソリでは、雄蕊は花被片とほぼ同じで花冠の外に突き出ることはない。

2. 分布

日本固有変種で、本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の落葉樹林内や林縁。

4. 生育状況

産地は静岡市、焼津市、旧天竜市、旧佐久間町、旧水窪町の一部と限られているが、大きな群落を形成している所もある。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)による環境の変化が減少の主要因である。

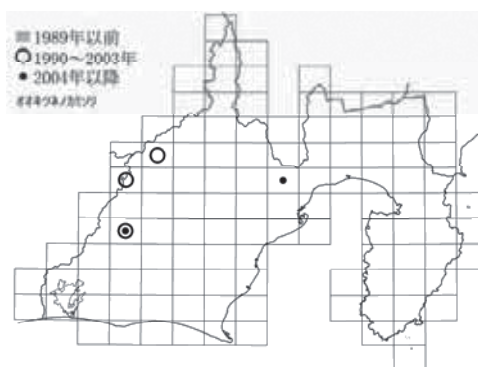
6. 保護対策

生育地では森林の皆伐や人工林化を避けること。

(湯浅保雄)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2017年8月6日 宮崎一夫



ヤマアゼスゲ *Carex heterolepis* Bunge

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし カヤツリグサ科 Cyperaceae
[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ20~60 cm。地下に太い匍枝がある。基部の鞘は淡褐色で少し糸網がある。葉は幅3~5 mm。果期は5~6月。小穂は3~7個ついて直立し、頂生のは雄性、側生のは雌性の円柱形、長さ2~6 cm、柄がない。果胞は上端が急に短い嘴になる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では北海道西南部、本州、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の河川の水辺や湿地に生育する。

4. 生育状況

東部と西部の各地に生育する。産地は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

河川の砂利採取や河川開発(13)で生育地が減少している。また、植生遷移の進行(54)で生育環境が悪化してきている。

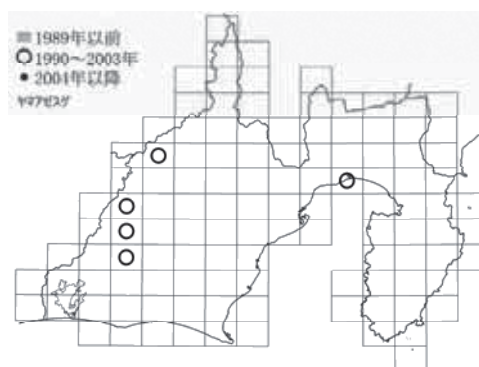
6. 保護対策

生育地の保護と除草など生育環境の維持が必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 U. Naito
浜松市 1999年4月29日 内藤宇佐彦



サツマスゲ *Carex ligulata* Nees ex Wight

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。草丈 40~70 cm。匍枝はなく、ゆるく叢生する。基部の鞘は葉身がなく、上部の鞘は葉身をつける。葉は幅 5~12 mm。小穂は 5~7 個、茎の上部に接近してつける。頂小穂は雄性で長さ 1~3 cm。側小穂は雌性で、長さ 2~5 cm。果胞は長さ 4~5 mm で灰白色の毛が密生し、先はやや長い嘴となる。果期は 6~7 月。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、台湾、インドに、国内では本州(関東地方南部以西)、四国、九州、対馬、トカラ列島に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の湿り気のある林内や林縁。

4. 生育状況

前回(2004年)調査時に比べると確認場所が大幅に減少している。

5. 減少の主要因と脅威

土地開発(23)と森林の伐採(11)が減少の主要因である。

6. 保護対策

開発予定地で生育が確認されたら、将来とも保全が担保される場所に移植すること。(湯浅保雄)



静岡市 2010年6月12日 内藤宇佐彦



マンシュウクロカワスゲ *Carex peiktusani* Kom.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード4

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~80 cm。茎は叢生し基部の鞘は暗赤褐色。葉の幅は 2~3 mm。葉の下面は乳頭状突起が密生していて粉白色。小穂は雌雄性で長さ 10~25 mm。雌鱗片は淡褐色。果胞は 7~8 月に熟す。柱頭は 3 岐。果胞は淡青色の 3 稜形で長さは 3~4 mm。近縁種のヒラギンスゲは、果苞が卵形で長さ 2~3 mm である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州中部(八ヶ岳・南アルプス)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯の岩場に生育する。

4. 生育状況

産地は天竜区に限定する。産量は小群生する。生育状況は植生遷移の圧力を受けている。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。

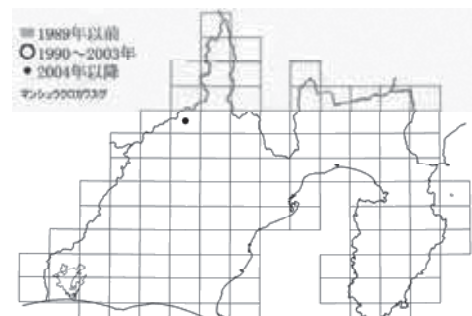
6. 保護対策

植生遷移を抑制するなどの、生育環境を維持管理することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2006年7月24日 加藤 徹



ヒカゲシラスゲ *Carex planiculmis* Kom.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~60 cm。匍枝を伸ばしまばらに生える。基部の鞘は淡色。葉は鮮緑色で白色を帯びず、幅 5~10 mm。果期は 5~7 月。小穂は 4~5 個やや離れてつく。果胞は長さ 3.5~4 mm、嘴は長く、脈が明らかで無毛。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部、ロシア（ウスリー、サハリン）に、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯の谷筋、林下、草地、針葉樹林の林床に生えることが多い。

4. 生育状況

大井川上流（西俣・千枚岳麓・悪沢など）の高所に記録がある。

5. 減少の主要因と脅威

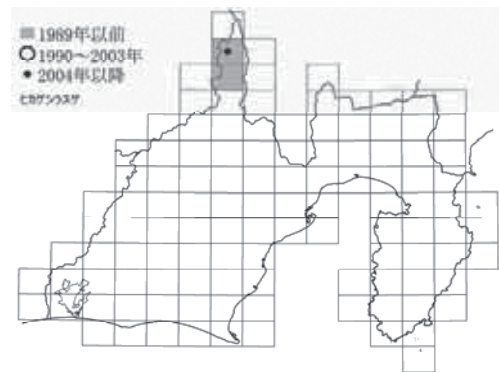
森林伐採（11）による土地改変、土地造成（23）、道路・林道建設（24）、シカ食害（52-1）、生育環境の変化による植生遷移（54）、土砂崩壊による生育地の消失（71）。

6. 保護対策

森林開発、道路整備などでは、事前の調査で見落としのないように注意する必要がある。（斎藤 猛）



岐阜県 2016年6月14日 室伏幸一



ヤブスゲ *Carex rochebrunei* Franch. et Sav.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~60 cm ほど。根茎は短く密に叢生する。葉の幅は 2~4 mm。果期は 5~7 月。花序は 8~9 個の小穂をつける。苞は葉状で花序より著しく長い。小穂は雌雄性で上部に多数の雌花を、基部に少数の雄花をつける。果胞は卵状披針形で扁平。縁に狭い翼がありざらつく。口部は 2 歯となる。柱頭は 2 岐。富士山が基準産地である。

2. 分布

国外では中国、台湾、インド、マレーシアに、国内では本州、四国に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

平地から低山の林内や草地。

4. 生育状況

富士山植物誌（梅村甚太郎 1923）の記録以来生育が確認されていなかったが、数年前、アセスメント調査で小山市に生育していることが確認された。

5. 減少の主要因と脅威

森林の開発（23）が減少の主要因である。

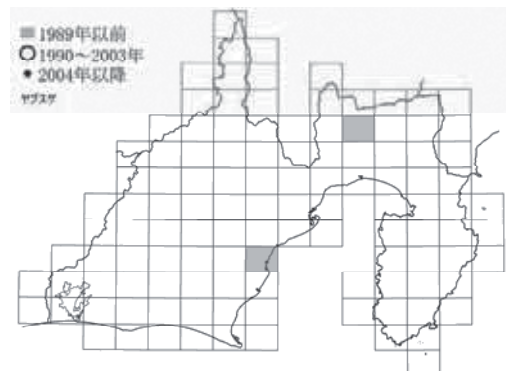
6. 保護対策

開発のための調査においては、必ず果期に調査を行うこと。

（湯浅保雄）



山梨県 2019年6月26日 室伏幸一



ヒメアオガヤツリ *Cyperus extremiorientalis* Ohwi

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。高さ3~30 cm。茎は叢生する。葉は細く、幅1~2 mm。果期は8~10月。茎の頂に長さ3~12 cmの苞葉をつけ、多数の無柄の小穂を頭状に密につける。花序の径は5~15 mm。小穂は長さ3~5 mm、幅1.5 mm、やや扁平で多くの花がほぼ2列に並ぶ。果実は楕円形でほぼレンズ形。類似のシロガヤツリの果実には縁に狭い翼があるので区別できる。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

池沼の岸辺や水田などの多湿地。

4. 生育状況

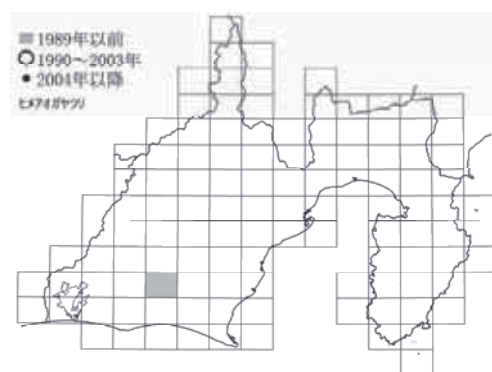
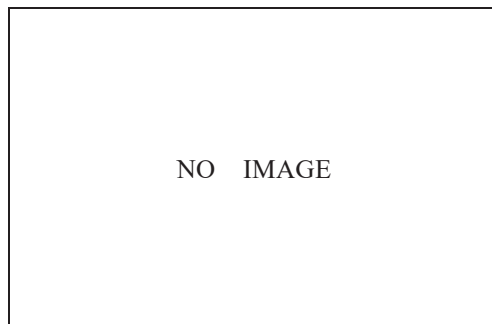
県内の産地は稀で、産量は少ない。静岡県植物誌(1984)に掛川市での記録があるが、前回(2004年)の調査、今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

池沼や湿地の開発(12、15)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が確認できたら、生育環境とともに保護すること。(湯浅保雄)



シロガヤツリ *Cyperus pacificus* (Ohwi) Ohwi

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。果期は8~10月。花序は頭状で球形、長さ幅とも5~10 mmで多数の小穂をつける。小穂は長さ3~5 mm、やや扁平、2列で一部らせん状に鱗片をつける。果実は狭楕円形で縁は狭い翼になる。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では北海道、本州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

低地や丘陵地の干上がったため池などに生育する。

4. 生育状況

湖西市と掛川市に生育する。生育地での個体数は年によって変動し、多くの個体が出現することもある。

5. 減少の主要因と脅威

ため池の埋め立てや改修(15)による生育地の消失が懸念される。

6. 保護対策

生育地であるため池の埋め立てや改修にあたっては、この植物の保護について配慮することが必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2013年8月23日 内藤宇佐彦



クジュウクリテンツキ *Fimbristylis cymosa* R. Br.

f. *depauperata* (T. Koyama) T. Koyama ex Yonek.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。高さ6~15 cm。根茎は短く分枝し、株立ちになる。葉は叢生し、繊細で無毛。果期は8~10月。花序は散形、小穂は狭卵形。果実はレンズ状で黒褐色。柱頭は2本。母種のシオカゼテンツキの茎の高さは15~40 cmとなる。

2. 分布

日本固有品種で、本州(千葉県、静岡県)に、県内では西部に分布する。母種はシオカゼテンツキというが静岡県には分布しない。

3. 生育環境

海岸の湿り気のある砂地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には旧浜岡町での記録があるが、前回(2004年)調査でも、今回の調査でも確認されていない。

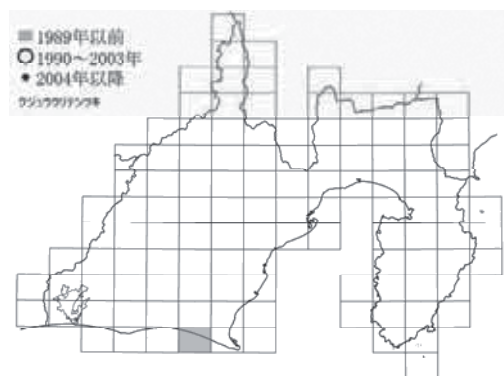
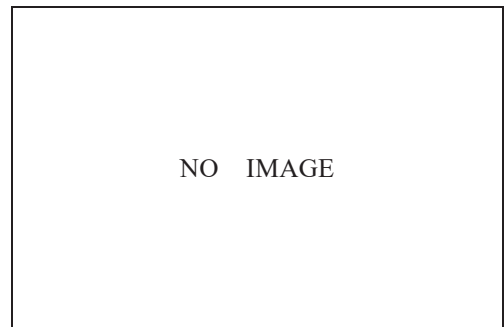
5. 減少の主要因と脅威

海岸の整備と開発(14)が減少の主要因であろう。

6. 保護対策

海岸を整備するときに、事前に調査を行い、生育が確認できたら、保護対策を講ずること。

(湯浅保雄)



コマツカサススキ *Scirpus fuirenooides* Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。マツカサススキに似るが、全体がやや細い。葉身は線形で幅3~4 mm。果期は8~10月。側生の分花序は1~2個の小穂集団をつけ、頂生の分花序は1回分岐し3~6個の小穂集団をつける。小穂集団は10~20個の小穂からなる。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

湿原や湿地に生育する。時に耕作放棄水田などに出現する。

4. 生育状況

各地に生育するが産地は少なく、個体数も少ない。耕作放棄水田のものは消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

湿地や湿原の開発(15)で生育地が減少している。また、湿地植生遷移の進行(54)で生育環境の悪化も懸念される。

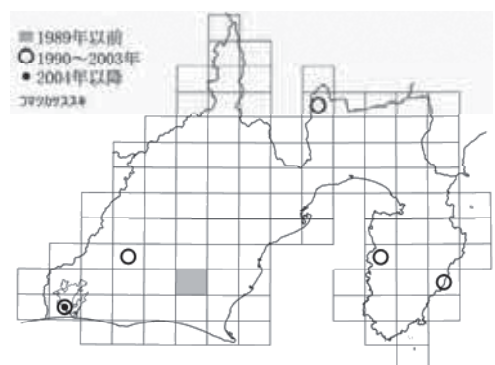
6. 保護対策

生育する湿地や湿原の保護と、植生遷移の進行の抑制のための草刈りなどが必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2013年10月4日 宮崎一夫



マツカサススキ *Scirpus mitsukurianus* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ1~1.5 m。茎は鈍3稜形。葉は線形、扁平で幅4~8 mm。果期は8~10月。花序は2~3個の分花序からなり、側生のは小さく、頂生のは大きい。褐黒灰色の小穂を10~20個つける。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

平地の河岸などの湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市、磐田市、吉田町などに生育する。産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸や河川の開発 (13、14) で生育地の消失や個体数の減少が懸念される。

6. 保護対策

海岸開発や河川の護岸工事などに際しては生育地の湿地植生の保護に配慮することが望ましい。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2013年7月28日 内藤宇佐彦



エゾウキヤガラ *Bolboschoenus koshevnikovii* (Litv. ex Zinger) A. E. Kozhev. (=コウキヤガラ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さは40~100 cm。根茎は長い匍枝を出す。葉身は線形で幅2~5 mm。稈の先に無柄の小穂を1~6個頭状につける。花柱は2岐する。果期は7~10月。果実はレンズ形で光沢のある褐色である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア (サハリン、アムール) に、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

海に近い湖沼や河口部の浅水域に生育する。

4. 生育状況

御前崎市と浜名湖周辺に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

湖岸開発 (12) や池の埋め立て (12) などで減少傾向にある。

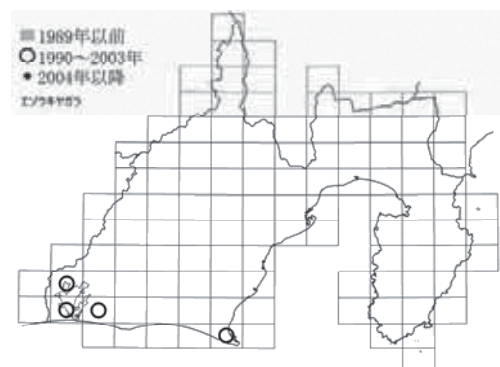
6. 保護対策

生育地である湖岸などの湿地植生を保護することや池の埋め立て回避が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1997年5月25日 内藤宇佐彦



ケシンジュガヤ *Scleria rugosa* R. Br. var. *rugosa*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。高さ10~30 cm。茎は叢生する。茎葉は軟らかい白毛が密生する。葉身は線形で長さ5~15 cm。葉鞘に翼はない。分花序の柄は湾曲する。果実は球形で径1.2~2 mm、灰白色で光沢がある。本種の変種のマネキシンジュガヤは茎葉が無毛である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、マレーシアなどに、国内では本州(栃木県以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の痩せた土壌でしみ出る程度の水湿地に生育する。

4. 生育状況

産地は少ない。産量は少ない。生育可能な範囲が狭く、産量は年による消長があり、植生遷移の圧力を受けて減少している。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発(15)が主要因である。湿地を踏み歩く踏圧(51)も生育の脅威である。植生遷移(54)も脅威である。

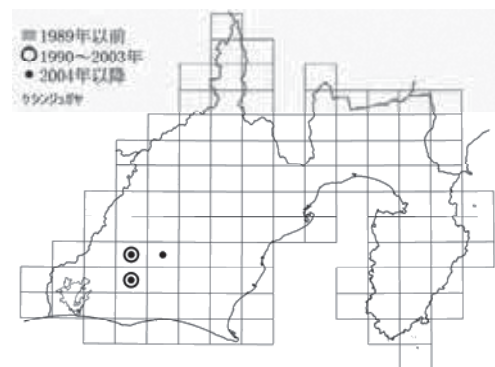
6. 保護対策

湿地の開発をする時には、確認調査を果期に行う必要がある。踏圧を防ぐために木道を敷設することも重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2014年9月23日 宮崎一夫



コミヤマヌカボ *Agrostis mertensii* Trin.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。叢生する。高さ10~30 cm。葉身は内巻きして糸状になる。花期は7~8月。ミヤマヌカボによく似るが、葯は楕円形でより短く、長さ0.4~0.7 mm、多くは護穎の長さの2/5より短い。芒は長さ2~3.5 mmとやや短く、護穎の中央部よりわずかに下から背面に突き出す。

2. 分布

国外では北半球の高山及び寒帯地方に、国内では南千島、北海道、本州(中部の高山)に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯から高山帯の岩場、砂礫地に生育する。

4. 生育状況

南アルプスに生育し、塩見岳で記録がある。類似種のミヤマヌカボは南アルプスの各地に生育する。

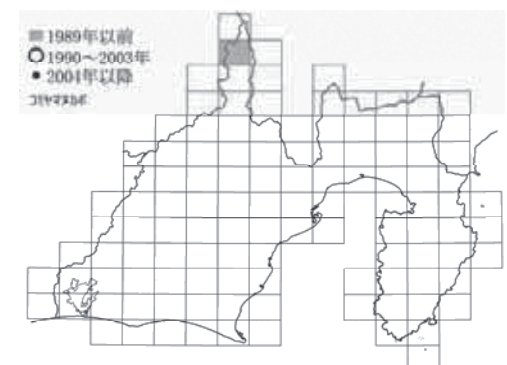
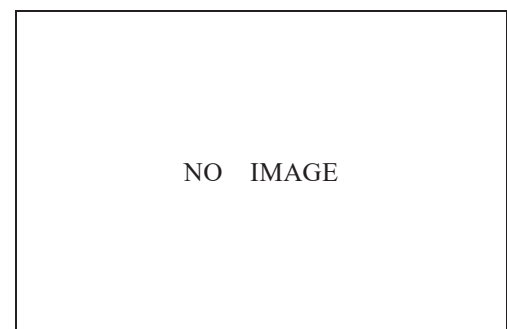
5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ(51)、シカ食害(52-1)、生育環境の変化による植生遷移(54)が脅威である。

6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。

(斎藤 猛)



コウヤザサ *Brachyelytrum japonicum* (Hack.) Hack. ex Honda

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ40~70 cm。稈は細い。葉は薄くて細長く、葉面や縁に軟毛がある。花期は7~8月。円錐花序は狭長で直立し、小穂はやや数が少ない。護穎は狭披針形で芒は長さ10~15 mmある。

2. 分布

国外では韓国(済州島)、中国東部に、国内では本州、九州に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

山地の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

富士宮市、裾野市、浜松市北区などによく生育する。西部ではまとまった個体数が確認された所もあるが生育適地の減少がみられる。

5. 減少の主要因と脅威

生育地が人里に比較的近いため山林開発(11)や土地造成(23)の危険性が指摘される。

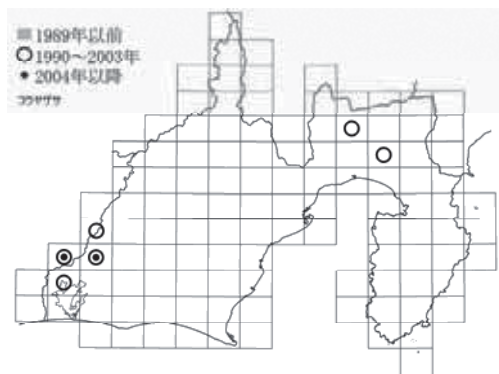
6. 保護対策

イネ科の地味な植物で見落とすことがあるので、生育地が開発される場合は注意が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2017年9月15日 湯浅保雄



ザラツキヒナガリヤス *Calamagrostis nana* Takeda

subsp. *hayachinensis* (Ohwi) Tateoka

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~40 cm。葉は基部の近くに集まる。葉舌は2 mm以下。円錐花序は直立して1小花からなる。花序枝や小穂柄はざらつく。芒は短く小穂の外まで伸び出すことはない。小穂は淡紫色または黄白色。基毛は護穎の半長以下。近縁種のヒナガリヤスは花序枝や小穂柄がざらつかず平滑である。

2. 分布

日本固有亜種で、本州(中部と早池峰山)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。静岡県は南限自生地である。

3. 生育環境

高山の乾燥した草原に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、1936年に間ノ岳の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

産地が局限(61)しているためと思慮される。

6. 保護対策

産地が確認された場合は、踏圧などの悪影響を与えないような施策を行う。

(宮崎一夫)

NO IMAGE



オオトボシガラ *Festuca extremiorientalis* Ohwi

(=オオトボシガラ、トウトボシガラ)

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

大型の多年草。高さ 80~120 cm。細く長い根茎から茎を単立、あるいは数本束生する。葉は長さ 20~30 cm、幅 5~12 mm。花期は 6~8 月。花序は大きく 20~30 cm。枝は節に 2~3 個ずつつき、横に広がって先は垂れる。小穂は長さ 5~7 mm で 4~5 小花からなる。護穎は長さ 5~6 mm、芒は 4~7 mm になる。

2. 分布

国外ではシベリア東部、中国北部に、国内では南千島、北海道、本州 (中部以北) に分布する。県内では中部 (大井川源流部) に分布する。

3. 生育環境

温帯、亜高山帯の谷筋。

4. 生育状況

過去には大井川源流部での記録があるが、前回 (2004 年) 調査でも今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

斜面崩壊や出水 (55) による生育地の消失が減少の主要因と考えられる。

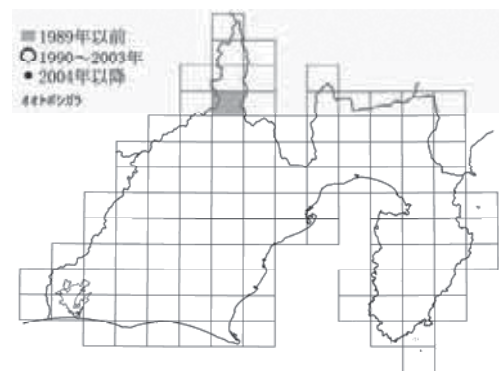
6. 保護対策

生育が確認されたら、生育地盤の安定を図ること。

(湯浅保雄)



長野県 2018年6月22日 室伏幸一



ヤマトボシガラ *Festuca japonica* Makino

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~60 cm。茎は細くて多数束生。葉は長さ 5~15 cm、幅 1.2~2.5 mm。花序は長さ 40~60 cm ほどで各節から 2 本ずつの枝を出す。枝の先に 1~4 個の小穂をまばらにつける。小穂は 3~4 個の小花からなる。花期 6~7 月。類似のトボシガラでは、枝は各節から 1 本で出る。また、護穎の先端から 6~9 mm の芒が出る。ヤマトボシガラには芒はない。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、台湾に、国内では本州 (中・北部)、四国、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯落葉樹林の林内や林縁。

4. 生育状況

1990 年前後には富士山麓の広葉樹林内で確認されている。今回の調査で確認できなかったのは調査不足のためと思われる。

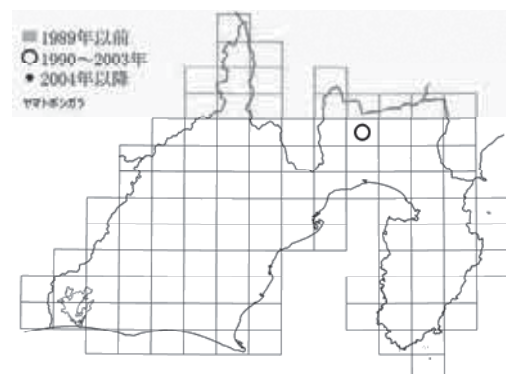
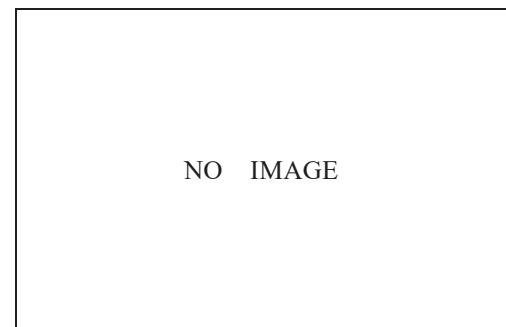
5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) とシカによる踏みつけや食害 (52-1) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地を柵で囲みシカによる害を防ぐこと。

(湯浅保雄)



ハクサンイチゴツナギ *Poa hakusanensis* Hack.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~70 cm。短い根茎がある。葉鞘は平滑。基部の葉の葉鞘は口近くまで合着する。花期は 7~8 月。花序は深く垂れ、枝はほぼ平滑。小穂はまばらにつき、長さ 5~7 mm、葯は長さ 0.8~1.5 mm、護穎の長さの 1/3 以下。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では中部（南アルプス）に生育する。

3. 生育環境

亜高山帯から高山帯の草原、樹林下に生育する。

4. 生育状況

南アルプスに生育し、間ノ岳、小河内岳、三伏峠、荒川岳、東岳などで記録がある。

5. 減少の主要因と脅威

シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生遷移 (54) が脅威である。

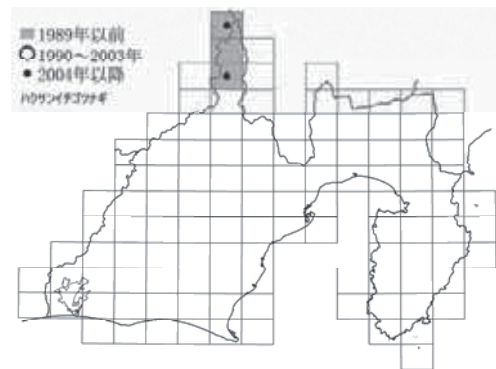
6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地にはフェンスなどの対策が必要である。

(斎藤 猛)



静岡市 2019年8月21日 室伏幸一



ムカゴツヅリ *Poa tuberifera* Faurie ex Hack.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~40 cm。根茎はなく、基部の 2~3 節がふくれて、水分の多い球茎状になる。葉は長さ 5~15 cm。幅 2~4 mm で上下面とも平滑。葉鞘はわずかに扁平で背に稜がある。花期は 4~6 月。花序は長さ 5~10 cm。枝は各節に 1~2 (3) 本出る。小穂は長い柄をもち、長さ 5~6 mm。2~3 (4) 個の小花からなる。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に、県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

温帯の落葉樹林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

生育箇所や生育面積は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採 (11) による生育環境の変化や植生遷移 (54)、道路管理による除草 (71) が減少の主要因である。

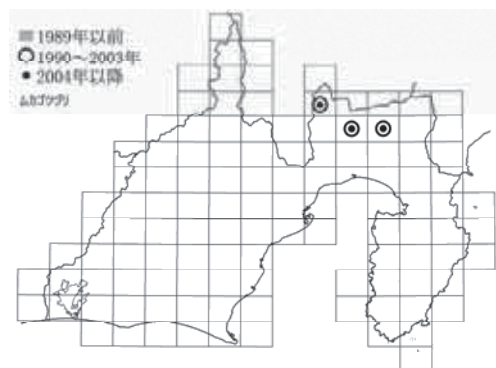
6. 保護対策

生育場所の森林の保全と林内の低木の除去。

(湯浅保雄)



富士宮市 2017年5月14日 湯浅保雄



ウキシバ *Pseudoraphis sordida* (Thwaites) S. M. Phillips et S. L. Chen

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

抽水性の多年草。高さ20~60 cm。主桿は水中を伸び、そこから抽出した枝は直立する。葉は長さ2~4 cm、幅2~5 mm。葉鞘は葉身と同長。高さ1 mm未満の膜状の葉舌がる。花期は7~9月。空中に花序を出す。花序の基部は葉鞘中にある。長さ1.5~2.5 cmの中軸から枝を出し、その中部近くに小穂を一個ずつつける。小穂は雄花と雌花各1個の2小花からなる。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、南アジアに、国内では本州、九州に分布する。県内では伊豆と中部に分布する。

3. 生育環境

湿地や沼のほとりに生育する。

4. 生育状況

前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認できていない。

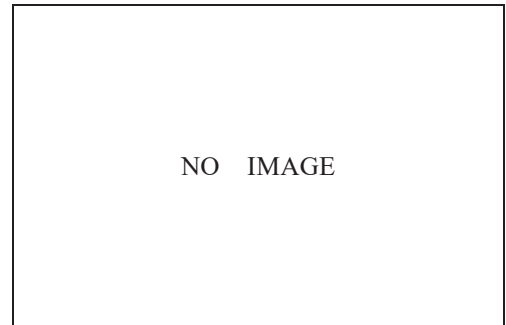
5. 減少の主要因と脅威

池沼の整備(12)や水質汚濁(31)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認された場合は、その生育環境の改善と保存を行うこと。

(湯浅保雄)



ハスノハカズラ *Stephania japonica* (Thunb.) Miers

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

ツツラフジ科 Menispermaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

ツル性の常緑木本。葉は三角状卵形で盾状につく。花期は7~9月。葉腋から柄のある複散形の花序を出し、淡緑色の小さな花を多数つける。果実は赤熟する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国(中南部)、台湾、インドシナ半島、インドネシアからインド、スリランカ、バングラデシュ、ネパール、オーストラリア、ポリネシアに、国内では本州(神奈川県以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

海岸に近い低山地の林縁に生育する。

4. 生育状況

浜名湖周辺に生育する。産地は少ないが群生する所もある。

5. 減少の主要因と脅威

開発されやすい所が生育地であり、森林開発(11)、道路工事(24)や土地造成(23)などで減少する危険性がある。

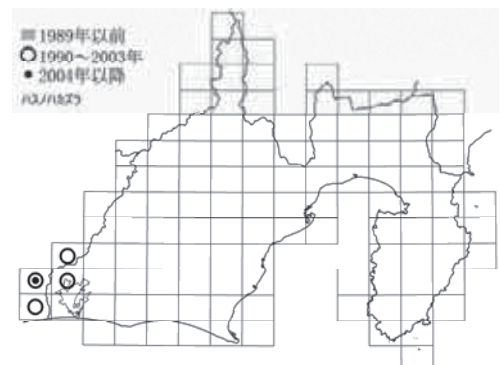
6. 保護対策

開発前の事前調査で生育地の保護を図りたい。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2013年6月30日 内藤宇佐彦



キタザワブシ *Aconitum nipponicum* Nakai subsp. *micranthum* (Nakai) Kadota

(=サクライウズ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~30 cm。中部の茎葉は腎円形、長さ 6~15 cm、幅 5~18 cm。3 深裂し裂片は細い。花期は 8~9 月。散房~総状の花序に長さ 2.5~4.5 cm の青紫~青色の花をつける。花柄には屈毛がある。過去には、雄蕊が無毛なものがサクライウズ、有毛なものはキタザワブシとして区別されていた。

2. 分布

日本固有亜種で、本州に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

高山~亜高山帯の草原や林縁。

4. 生育状況

産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

草地の遷移 (54) や登山者による踏みつけ (51) が減少の主要因である。

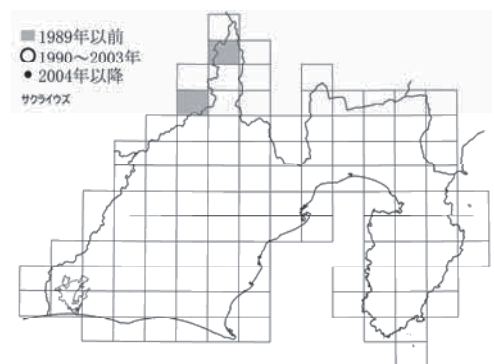
6. 保護対策

登山道以外に立ち入らないよう対策を講ずること。

(湯浅保雄)



山梨県 2017年9月4日 室伏幸一



イチリンソウ *Anemone nikoensis* Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~30 cm。根茎は紡錘形で地中を水平に伸びる。茎は単一で直立する。根出葉は 1 個、1~2 回 3 出複葉である。小葉は羽状深裂する。茎葉は 3 個、3 輪生、3 全裂して、上面に白斑と伏毛があり、横に広がる。花期は 4~5 月。花は白色で 1 個を頂生し、径 2.5~5 cm。萼片は 5~6 個あり楕円形で長さ 12~30 mm。葯は黄色。近縁種のキクザキイチゲやアズマイチゲは萼片が 8~13 個である。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では東部 (富士山周辺)、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

落葉樹林の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は東部と西部に多い。産量は一部に群生している。園芸採取の影響を受けて減少している。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取 (41) が主要因である。植生遷移 (54) も脅威である。

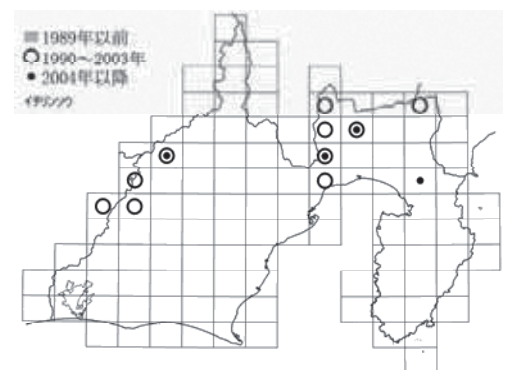
6. 保護対策

園芸対象種になる野生種を保護するために一般県民に啓発する。

(宮崎一夫)



浜松市 2007年4月1日 宮崎一夫



キクザキイチゲ *Anemone pseudoaltaica* H. Hara

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~25 cm。根茎は円柱状で径2~4 mm、地中を水平に伸びる。茎は単一で直立する。根出葉は1個で2回3出羽状複葉、裂片は3深裂する。茎葉は3個、3輪生、3全裂し、小葉は横に広がり3裂して、葉柄は長さ0.5~2 cm。花期は3~5月。花は淡青紫色又は白色で単生し径2.5~4 cm、日が当たると平開する。萼片は8~13個あり、楕円形で長さ10~25 mm。葯は白色。近縁種のアズマイチゲは小葉が垂れる。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では北海道、本州(兵庫県以北)に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯ときに暖帯上位の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は広範囲に多い。産量は多い。植生遷移による生育の圧力を受けている自生地が多い。

5. 減少の主要因と脅威

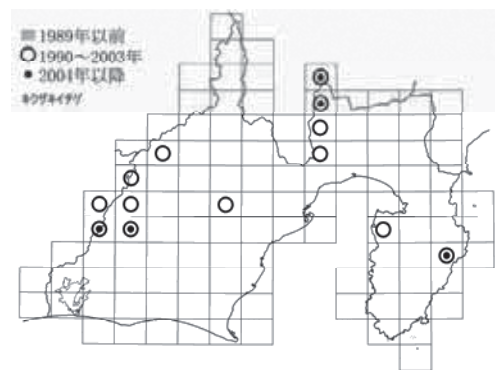
園芸採取(41)が主要因である。植生遷移(54)も脅威である。

6. 保護対策

園芸対象種になる野生種を保護するために一般県民に啓発する。(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2018年3月25日 宮崎一夫



アズマイチゲ *Anemone raddeana* Rege l

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。根茎は紡錘形で径3~10 mm、地中を水平に伸びる。茎は単一で直立する。根出葉は1個で2回3出羽状複葉、裂片は3浅裂する。茎葉は3個、3輪生、3全裂して垂れ、小葉は3歯があり、葉柄は長さ1~2.5 cm。花期は3~5月。花は白色で単生し径3~5 cm、日が当たると平開する。萼片は8~13個あり、楕円形で長さ10~25 mm。葯は白色。近縁種のキクザキイチゲは小葉が横に広がる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア(サハリン、ウスリーなど)に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部と東部に分布する。

3. 生育環境

温帯林の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は東部と西部に多い。産量は群生して多い。開花株数も多く生育は良好である。しかし園芸の採取圧を受けている。

5. 減少の主要因と脅威

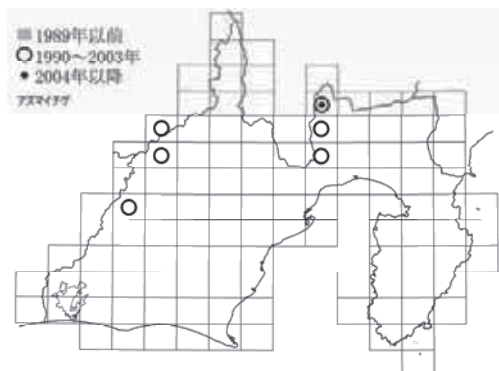
林縁草地の開発(16)や園芸採取(41)が脅威である。

6. 保護対策

保護柵を設置して鑑賞者や撮影者の踏圧や採取から保護する。(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2001年4月8日 宮崎一夫



レンゲショウマ *Anemonopsis macrophylla* Siebold et Zucc.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリ なし：環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~100 cm。茎は斜上して上部で 1~3 回分枝する。根出葉は花期にも存在し、大型で 1 個、2~4 回 3 出複葉で長さ 15~30 cm。茎葉 1~2 個あり、長さ 10~20 cm。花期は 7~8 月。総状花序の柄は著しく長く、数個の花をつける。花は径 3~4 cm、下向きに開く。小苞は長さ 4~12 mm。萼片はやや肉質の広楕円形で長さ 1.5~2 cm、淡紅紫色。花弁は倒卵形で長さ 1~1.2 cm、淡紫色。袋果は 2~4 個、長さは 1.5~2 cm。近縁種はない。

2. 分布

日本固有種で、本州（岩手県～静岡県、紀伊山地）、四国に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯から温帯上位の林内に生える。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には伊豆を除く各地の記録があるが、産地及び産量ともに減少していると思慮される。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取（41）が主要因である。

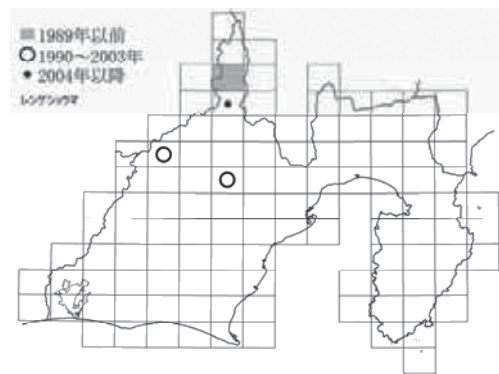
6. 保護対策

採取を防ぐために、分布の情報を公表する際には、慎重な配慮の必要がある。

（宮崎一夫）



©2020 T.Kato
静岡市 2005年8月7日 加藤 徹



オオカラマツ *Thalictrum minus* L. var *kemense* (Fr.) Trelease

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種)：環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~100 cm。葉は 3~4 回 3 出複生し、下面に腺毛がある。花期は 7~8 月。花序は円錐状で花をまばらにつける。果柄は 10~40 mm と長く、瘦果に腺毛がある。

2. 分布

国外ではアジアからヨーロッパの北部に広く、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

平地に広く分布するアキカラマツより高地で、温帯から亜高山帯の岩上に生育する。

4. 生育状況

浜松市天竜区水窪町などに生育する。

5. 減少の主要因と脅威

生育地である石灰岩の崩落（71）や林道工事（24）などで生育場所が消失する危険性がある。

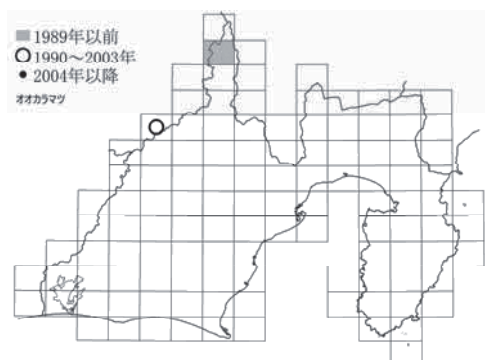
6. 保護対策

林道工事などでは事前調査で確認した生育地を保護することが必要である。

（内藤宇佐彦）



©2020 U.Naito
浜松市 2003年7月21日 内藤宇佐彦



ツゲ *Buxus microphylla* Siebold et Zucc.

var. *japonica* (Müell. Arg. ex Miq.) Rehder et E. H. Wilson

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

ツゲ科 Buxaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑低木。高さ1~3 m。幹は分岐が多い。枝は無毛で稜がある。葉は対生し2列生して、厚い革質の倒卵形で長さ1~1.5 cm。全縁で葉先は微凹形。雌雄同株。花は3~4月。花は腋生で叢生し淡黄色、雄花に囲まれて1個の雌花がある。蒴果は長さ1 cmで3岐した花柱が角状に残る。類似種のイヌツゲはモチノキ科で葉が互生し、微鋸歯があり葉先は微凸形である。

2. 分布

日本固有変種で、本州(山形県以西)、四国、九州、屋久島に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯山地の尾根や岩地で石灰岩や蛇紋岩を好む。

4. 生育状況

産地は少ない。産量も多くはない。生育地周辺の高木層が被陰となって生育状況が悪化している。

5. 減少の主要因と脅威

林冠の被陰(54)が主要因である

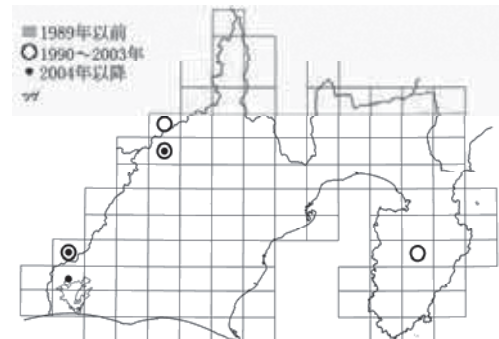
6. 保護対策

周辺の高木を伐開して光条件を改善する。

(宮崎一夫)



浜松市 2017年9月15日 湯浅保雄



チシマネコノメソウ *Chrysosplenium kamtschaticum* Fisch. ex Ser.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

ユキノシタ科 Saxifragaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。花後、根出葉の葉腋から走出枝を出し、その先にロゼットを作り越冬する。花期は4~6月。花茎は高さ3~20 mmで無葉か一對の葉を対生する。花茎の先の集散花序に両性の小花をつける。花序には葉状の苞がある。花弁はなく萼片が4個で果時まで残る。花の径は3~4 mm。萼裂片は花時に平開し黄緑色。花盤は淡黄緑色で目立つ。葯は8個で鮮黄色または汚紅色。

2. 分布

国外ではロシア(カムチャツカ、北クリール、サハリン)に、国内では南千島、北海道、本州(近畿地方以北)に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

南アルプスの亜寒帯から冷温帯の森林に覆われた沢沿いの陰湿地に生える。

4. 生育状況

産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

大量出水による生育地の破壊(71)や森林伐採(11)による環境の変化が減少の主要因と考えられる。

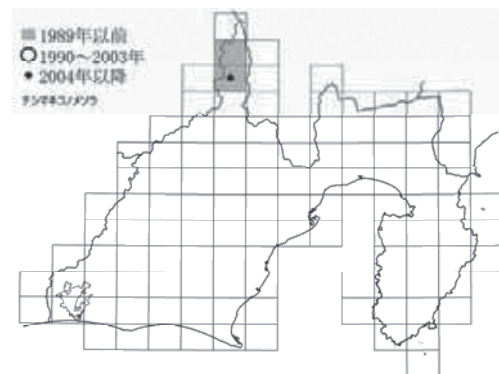
6. 保護対策

生育が確認されたら森林伐採などによる急激な環境変化を与えないこと。

(湯浅保雄)



静岡市 2019年7月2日 室伏幸一



ムカゴユキノシタ *Saxifraga cernua* L.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ユキノシタ科 Saxifragaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ5~20 cm。根出葉は長さ1~5 cmの柄があり、腋に赤色の長卵形で長さ1.5 mmの珠芽をつける。葉身は円形で長さ5~15 mm、基部は心形で5~7中裂する。茎と葉柄には腺毛がある。花期は8月。ふつう正常花は花茎の頂きに1~2個つけ、他は珠芽となる。花弁は白色で斜上して倒披針形で長さ6~8 mm。

2. 分布

国外では北半球の寒帯及び高山に、国内では本州(中部地方)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩礫の多い疎草地や岩上のやや湿った所に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスで少ない。産量は数株ずつが生育している。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)による生育の圧力を見受けることもある。登山者の踏圧(51)も受けている。

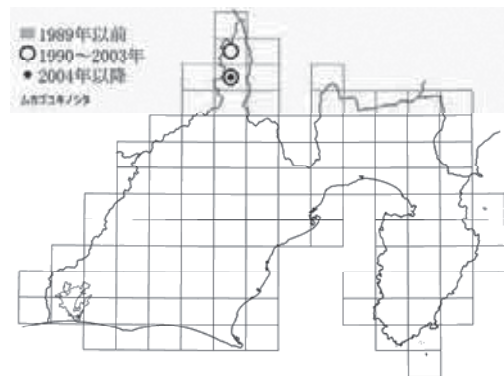
6. 保護対策

登山道を生育場所から回避して整備することである。

(宮崎一夫)



静岡市 2009年8月23日 宮崎一夫



アズマツメクサ *Tillaea aquatica* L.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ベンケイソウ科 Crassulaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草。高さ2~5 cm。茎は基部で分枝し束生する。葉は線状披針形、鋭頭、長さ5 mm。幅約1 mm。花期は4~8月。花は葉腋に単生し、4数性。花弁は白色。花には小棒状の蜜腺がある。袋果は淡紅色。一見姿が似ているツメクサ(ナデシコ科)の花は5数性である。

2. 分布

国外では北半球の温帯域に、国内では北海道、本州に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

湿地や田んぼ。

4. 生育状況

静岡市や焼津市の水田に見られるが、生育地は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発(15)や農薬の使用(32)が減少の主要因である。

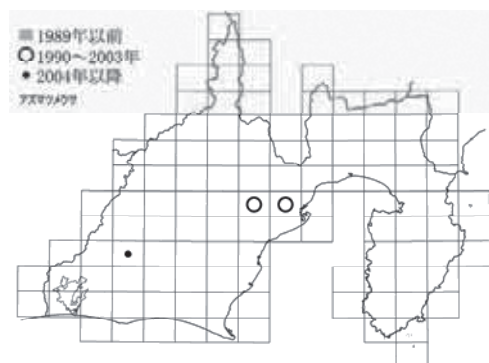
6. 保護対策

水田での農薬の使用を少なくすること。

(湯浅保雄)



磐田市 2010年5月16日 内藤宇佐彦



フサモ *Myriophyllum verticillatum* L.

(=キツネノオ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

アリノトウグサ科 Haloragaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

沈水性の多年草。茎は長く伸びて分枝する。葉は4~5輪生で羽状に細裂する。水中用の葉の長さは2~6 cm。気中葉は5~15 mm。雌雄同株。花期は6~9月。花序は4~12 cmで水面上に出る。上部に雄花、下部に雌花をつける。雄花は花弁4枚で雄蕊が8本。雌花は萼筒の先に4個の柱頭が外向きにつく。石果は卵状球形で4室。秋に茎や側枝の先に越冬芽(殖芽)を形成する。

2. 分布

国外ではヨーロッパ、アフリカ北部、アジア、北アメリカに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

池沼や小川の水中に生育する。

4. 生育状況

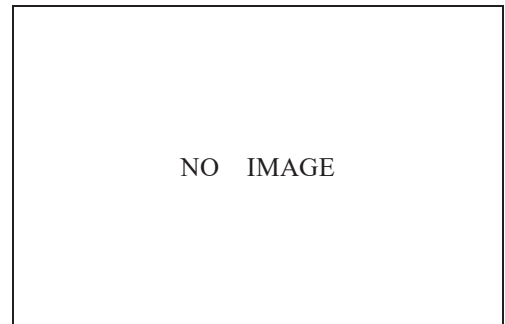
前回(2004年)の調査でも今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て(12)、水路のコンクリート化(13)、水質汚濁(31)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

水質を含めた生育環境の保全。(湯浅保雄)



カワラサイコ *Potentilla chinensis* Ser.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。茎の高さ30~70 cmで長毛が生える。葉は奇数羽状複葉。根出葉は束生し、茎葉は互生する。小葉は15~29枚、小葉の間に小さな付属小葉片をつける。表面は緑色で毛は少ないが、裏面には白綿毛が密生する。花期は6~8月。茎頂の散房状集散花序に多数の花をつける。花は径8~15 mm。花弁は黄色。類似のヒロハノカワラサイコの小葉は7~15枚で、付属小葉片はない。

2. 分布

国外では極東ロシア、中国、朝鮮半島、台湾に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯や暖温帯の日当たりのよい砂礫地に生育する。

4. 生育状況

富士山麓の砂礫質の裸地や大きな河川の河原などに生育しているが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

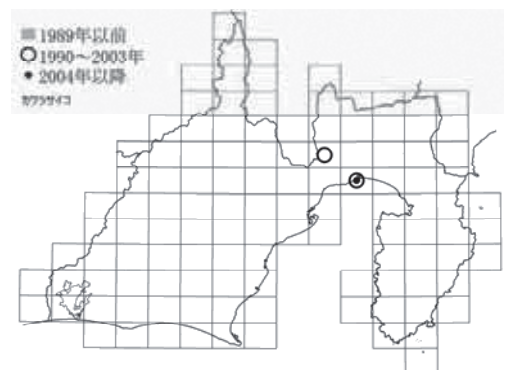
植生遷移(54)による裸地の減少が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、その周囲の被覆植物を除去し、日当たりをよくすること。(湯浅保雄)



富士市 2015年7月19日 内藤宇佐彦



ミヤマモミジイチゴ *Rubus pseudoacer* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

落葉小低木。高さ20~40 cm。茎は直立または斜上して、ときにまばらに小さな刺がある。葉は互生して円心形で径5~10 cm、基部は心形で、カエデ類に似て掌状に5~7深裂し、更に欠刻と鋸歯がある。葉柄は長さ4~7 cm、時に小さな刺がある。花は7月。花は白色で径12~13 mm、萼片は先が尾状に尖る。集合果は球形で径1 cm、9月に赤熟する。近縁種のミヤマニガイイチゴは葉が長卵形で3中裂である。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（秩父山地以西）、四国に分布する。県内では中部（南アルプス）、西部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯の林縁や岩地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には聖岳や北部の山岳に記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

周辺の樹木による被陰（54）が脅威と思われる。

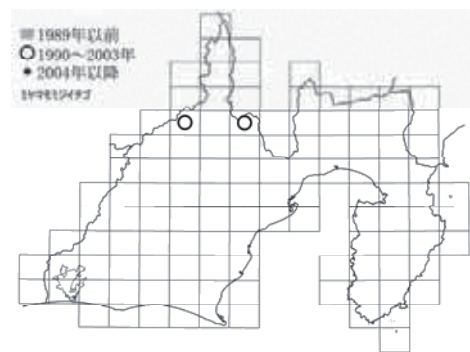
6. 保護対策

確認した時には生育地に適した対応措置を行う。

（宮崎一夫）



岐阜県 2017年6月1日 室伏幸一



ハウロクイチゴ *Rubus sieboldii* Blume

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

ツル性の常緑低木。茎は弓状に横に伸び、淡褐色の綿毛が密生し、針状の刺がまばらにある。葉は互生し卵円形で長さ8~17 cm、浅く裂け縁には鋭い鋸歯がある。葉質は厚く、葉脈は裏面に隆起する。裏面や葉柄に淡褐色の軟毛が密生し小さな刺がある。花期は4~6月。花は葉腋につき径3 cm。花弁は白色の広楕円形で縁は波打つ。集合果は球形で径2 cm。5~8月に赤熟する。近縁種のオオフユイチゴは花期が8~10月である。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

沿海の山地の林縁に生育する。

4. 生育状況

記録されている産地は2ヶ所であるが、生育の詳細は不明である。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採（11）に伴う生育の危険性があると思われる。

6. 保護対策

生育の記録があった地域の開発をする時は、確認調査を花期と果期に行う。

（宮崎一夫）



三重県 2013年6月3日 宮崎一夫



ナガボノアカワレモコウ *Sanguisorba tenuifolia* Fisch. ex Link

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。茎は高さ 60~100 cm。葉は奇数羽状複葉。小葉は 5~15 枚。狭楕円形から広披針形で長さ 7~8 cm、幅 1~2 cm、縁に鋸歯がある。花期は 8~10 月。花序は頂生し、長円柱形で長さ 6~10 cm、径 8~10 mm。紅紫色の小花を密生する。花は花序の先端から開花する。花には花弁はなく、萼片は深く 4 裂する。雄蕊は 4 個で花後も宿存する。これまで本種とされていた県内産の一部は、本種とワレモコウの中間的形態を有するミヤマワレモコウであることが判明した。花序があまり下垂せず、また雄蕊が花後に脱落することで本種と区別される。



© PIXTA

2. 分布

国外では東ヨーロッパ、ロシア、朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

池沼周辺の湿地に生育する。

4. 生育状況

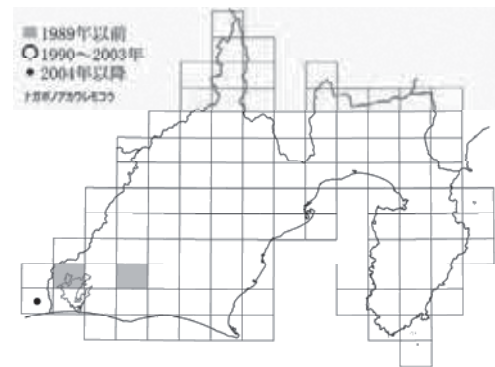
産地は少なく、個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) が減少の主要因である。

6. 保護対策

池沼周辺の草地を維持すること。 (湯浅保雄)



カラハナソウ *Humulus lupulus* L.

var. *cordifolius* (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

アサ科 Cannabaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

ツル性の多年草。茎には下向きの刺毛があり、樹木などにより登って繁茂する。葉は卵円形であるが、3~5 裂することもある。雌雄異株。花期は 8~9 月。雌花序は長さ 2~3 cm の卵円形で、雄花序は大きな円錐花序となる。瘦果の表面には苦みを含む黄色の小腺点が多くある。

2. 分布

国外では中国北部に、国内では南千島、北海道、本州 (中部以北) に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯域の雑木林の林縁や河原などの明るい場所。

4. 生育状況

富士山西麓の朝霧高原ではまだ見られるが、他の地域ではヒノキなどの植林が進みほとんど見られなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

草地 (16) や雑木林の減少 (71) が減少の主要因である。

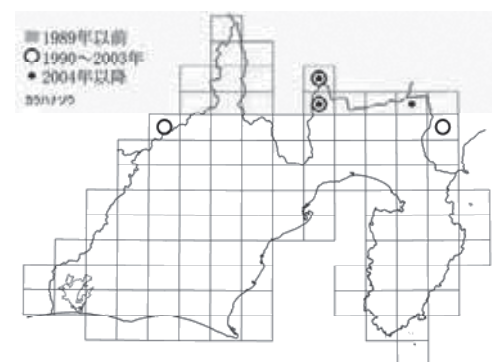
6. 保護対策

明るい林縁を伴った落葉性の雑木林を保存すること。

(湯浅保雄)



富士宮市 2013年9月14日 宮崎一夫



ミヤマニガウリ *Schizopepon bryoniifolius* Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ウリ科 Cucurbitaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

ツル性の一年草。巻きひげは葉と対生し、2岐して長い。葉は薄く心形で5~7角形。雄株と両性花株がある。花期は8~9月。雄花は総状につき、花冠は白色で5裂して径5mm。両生花は葉腋から出る長柄に単生して、黄色みを帯びた白色。液果は楕円形で長さ約1cm。種子は1~3個。

2. 分布

国外ではロシア(ウスリー、サハリン)、中国東北部、朝鮮半島に分布する。国内では南千島、北海道、本州、九州に、県内では中部に分布する。

3. 生育環境

亜寒帯から冷温帯の谷筋の林縁や林道脇。

4. 生育状況

産地は限られていて、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)による環境変化が減少の主要因と考えられる。また、シカによる食害(52-1)も脅威である。

6. 保護対策

林道の補修工事などで、生育地を破壊しないように十分注意すること。

(湯浅保雄)



©2020 Y.Yuasa
静岡市 2016年8月26日 湯浅保雄



イワウメヅル *Celastrus flagellaris* Rupr.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ニシキギ科 Celastraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

ツル性の落葉低木。枝の側芽の上から気根を出して木や岩に這い上がる。今年枝は黄緑色、前年枝は暗紫色。今年枝と前年枝には乳頭状突起を密生する。葉は円形ないし菱形状卵形。長さ2~5cm、幅1.5~4cm。雌雄異株。花期は5~6月。葉腋に雄花は1~3個、雌花は1個つける。花は黄緑色、径5~6mm。果実は10~11月ごろ黄熟し、褐色の種子が3~6個ある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部、アムールに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯山地の岩や樹幹に這い上がる。

4. 生育状況

産地は限られている。富士山周辺に生育するが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

伐採による天然林の減少(11)が減少の主要因と考えられる。今後はシカによる食害(52-1)も脅威である。

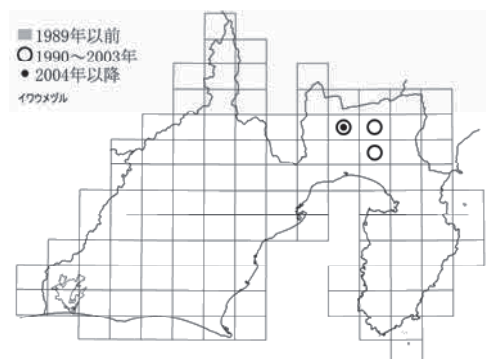
6. 保護対策

天然林の伐採を抑え、併せてシカの頭数を制限すること。

(湯浅保雄)



©2020 K.Murafushi
富士宮市 2019年6月26日 室伏幸一



ヒゴスミレ *Viola chaerophylloides* (Regel) W. Becker
var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

スミレ科 Violaceae

[2004 年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の多年草。高さ 5~10 cm。エイザンスミレに似て、葉はさらに細裂する。葉身は 3 全裂し、裂片がさらに 3 回深裂する。花期は 4~5 月。花は径 1.5~2 cm、白色で唇弁に紫条がある。

2. 分布

日本固有変種で、国内では本州 (秋田県以南)、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の明るい林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

富士宮市、静岡市清水区、浜松市などに生育する。生育地は少ない。群生することもある。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採 (11)、林道工事 (24) や草地開発 (16) などで生育地が消失する危険性がある。また植生遷移進行 (54) による被陰で生育環境が悪化し個体数の減少が懸念される。さらに園芸採取 (41) の危険性も指摘される。

6. 保護対策

生育地の保護や間伐などによる生育環境維持が必要である。また、園芸採取を回避するため産地情報の管理も必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2010年4月7日 宮崎一夫



イヨフウロ *Geranium shikokianum* Matsum. var. *shikokianum*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード 9

フウロソウ科 Geraniaceae

[2004 年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~80 cm。茎は開出かやや下向きの長毛がある。茎葉は腎円形で長さ 4~10 cm、掌状に 5 中~深裂し、両面に長毛がある。托葉は合生して広卵形で長さ 8~10 mm、膜質で褐色。花期は 7~9 月。花は茎頂や枝先に 2 個ずつつき、紅紫色で径 25~30 mm。花柱は 5 深裂する。花柄は果時に水平以下となり、分果は長さ 3 cm。近縁種のアサマフウロは茎の毛が下向きの伏毛で、花柄は花期に直立する。

2. 分布

日本固有変種で、本州 (東海地方以西)、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯上位から亜高山帯の日が当たる草地や裸出した岩地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には愛鷹山、富士山、荒川岳、黒法師岳など各地の記録があるが、遷移の影響を受けていると思われる。

5. 減少の主要因と脅威

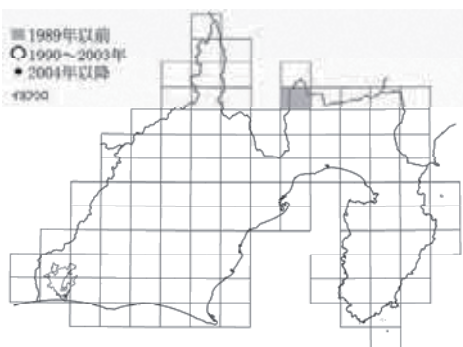
遷移の進行 (54) が脅威となっていると思慮される。

6. 保護対策

生育が確認されたときは生育状況を把握して対策を練るべきである。(宮崎一夫)



富士宮市 1985年8月24日 加藤 徹



コイヌガラシ *Rorippa cantoniensis* (Lour.) Ohwi

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

アブラナ科 Brassicaceae/Cruciferae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草。茎中・下部の葉は羽状深裂し、裂片は長楕円形で鋸歯があり、茎上部の葉は無柄。花期は4~5月。各花に苞葉がある。花は1個で腋生する。花は黄色、花弁の長さ2~2.5mm。果実は円柱状長楕円形、長さ7~10mm、果柄はごく短い。東アジアに広布する。近似種のイヌガラシは総状花序をなす。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、東南アジアに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

水田などの水湿地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には藤枝の記録があり、産地はその周辺で確認された。焼津市や掛川市などに生育し、群生する所もある。

5. 減少の主要因と脅威

水田の乾田化(15)と農薬汚染(32)が主要因である。

6. 保護対策

乾田化は農業生産の効率化であり致し方ないが減農薬に努める。

(宮崎一夫)



焼津市 2017年4月9日 内藤宇佐彦



ナガバノウナギツカミ *Persicaria hastatosagittata* (Makino) Nakai

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

タデ科 Polygonaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草。高さ30~80cm。茎の下部は地を這い、上部は直立して逆刺がある。葉は短柄があり互生して、披針形で長さ5~12cm、先は鋭尖形、基部は鈍形または矢尻形である。托葉鞘は切形で長さ1.5~3.2cm、縁毛がある。花期は7~10月。淡紅紫色の小花を総状花序に密集して頭状となる。花柄は黒い腺毛を密生する。近似種のアキノウナギツカミは花柄が無毛である。

2. 分布

国外では台湾、朝鮮半島、中国、ウスリーに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯低地の水湿地に生える。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には東部と西部の記録があるが、自生環境が失われていると思慮される。

5. 減少の主要因と脅威

湿地開発(15)が主たる要因である。

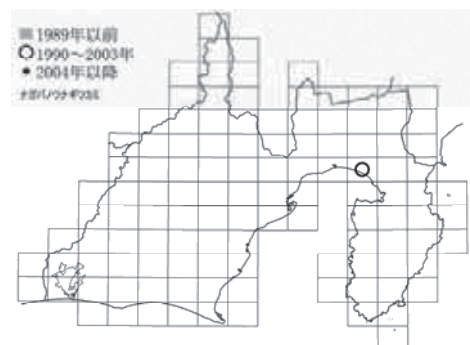
6. 保護対策

湿地が失われている現状に鑑み、湿地の開発を避けて保全する。

(宮崎一夫)



千葉県 2019年10月20日 室伏幸一



ヒゲネワチガイソウ *Pseudostellaria palibiniana* (Takeda) Ohwi

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ナデシコ科 Caryophyllaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~20 cm。ややふくらんだ根が 1~4 本ある。茎は枝分かれせず直立する。葉は対生し、しばしば 2 形をしめす。上部の葉は広披針形から広卵形で 4 枚の葉が接近して輪生状となる。下部の葉は倒披針形で 2~4 対はなれてつく。花期は 4~5 月。茎の先端から無毛の花柄を出し、白色の 1 花を上向きに開く。類縁種のワダソウとは花柄の毛の有無で区別できる。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州 (福島県以南から中部) に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の落葉樹林内。

4. 生育状況

前回 (2004 年) の調査では旧水窪町と旧佐久間町の記録があるが、今回の調査でその地域では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

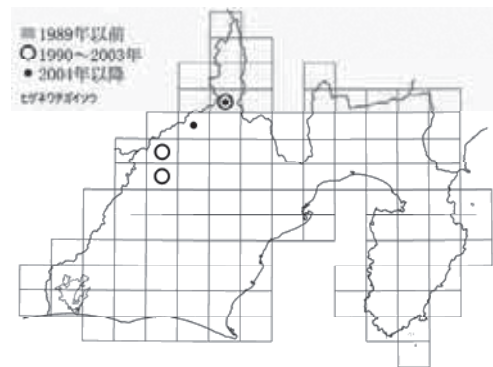
落葉広葉樹林のスギ・ヒノキの人工林化 (71)。最近ではシカによる食害 (52-1) が主な減少の要因である。

6. 保護対策

生育地にシカ防除の柵を作ること。 (湯浅保雄)



川根本町 2004年5月8日 宮崎一夫



ホソバハマアカザ *Atriplex patens* (Litv.) Iljin

(=ホソバノハマアカザ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ヒユ科 Amaranthaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。高さ 40~60 cm。ハマアカザに似る。葉は長さ 2~10 cm、細く縁は全縁か多少歯芽がある。花期は 8~10 月。雌花の小苞は菱状三角形で基部は鈍形かほぼ切形である。果期はハマアカザより遅い。

2. 分布

国外ではアジア北東部に、国内では南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

海岸の砂浜、主に塩湿地に生育する。

4. 生育状況

沼津市や浜松市西区などに生育する。

5. 減少の主要因と脅威

海岸開発 (14) や海岸植生の変異 (54) などで生育地が減少してきている。

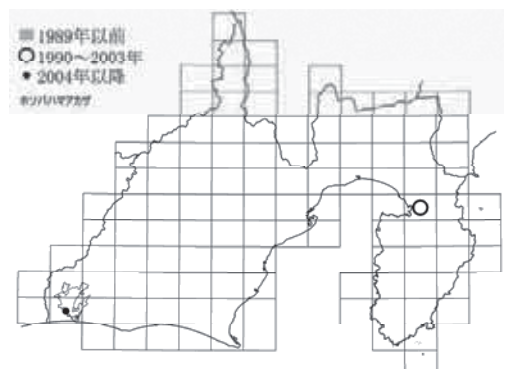
6. 保護対策

生育地の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市西区 2010年10月31日 内藤宇佐彦



ミドリアカザ *Chenopodium bryoniifolium* Bunge ex Trautv.

(=ヤマアカザ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード 9

ヒユ科 Amaranthaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A 類 (CR)]

1. 種の解説

一年草。高さ 40~60 cm。茎は細く直立して分枝する。葉は緑色で長柄あり菱状卵形で長さ 3~5 cm、先は尖り基部は切形または広楔形で、1~2 対の裂片があり全縁である。花期は 8~10 月。花序は長さ 1~10 cm、まばらに花をつける。萼は 5 深裂して裂片は長さ 1 mm。近似種のシロザは葉の基部に裂片がなく、若い葉に白色の粉状毛がある。

2. 分布

国外ではロシア (シベリア、アムール、ウスリー)、朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯上位の山すその日が当たる礫地に生育する。

4. 生育状況

生育記録がある産地は少なく、産量も少ないと思われる。

5. 減少の主要因と脅威

林道の整備や拡幅工事 (24) が脅威である。

6. 保護対策

林縁を工事する時には注意が必要である。

(宮崎一夫)

NO IMAGE

詳細な生育地不明

モロコシソウ *Lysimachia sikokiana* Miq.

(=ヤマクネンボ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種)：環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~80 cm。茎は直立または斜上する。葉、花序とともに微細な腺毛を散生する。葉は互生し、長さ 5~10 cm、幅 2~4.5 cm。無毛。花期は 7~8 月。上部の葉腋に 1 花ずつつける。花柄は細く、長さ 2~6 cm で径 1~1.2 cm の黄色の花をつける。蒴果は球形で径 6 mm、灰白色に熟す。植物全体、乾くと一種の香りがする。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州 (関東地方南部以西)、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖地の海岸近くの林内と湿った道端など。

4. 生育状況

伊豆地域に広く分布し、個体数は少ないが、前回 (2004 年) の調査時から大きな変化はないようである。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採 (11) と土地造成 (23) が減少の主要因である。

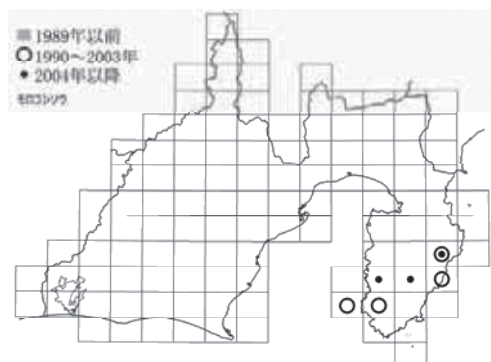
6. 保護対策

林道整備時には、事前に調査を行い、生育が確認されたら適切に対処すること。

(湯浅保雄)



西伊豆町 2018年6月26日 宮崎一夫



イナモリソウ *Pseudopyxis depressa* Miq.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

アカネ科 Rubiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ5~15 cm。葉は茎頂に2対、狭い幅で輪生状につく。花期は5~6月。花は淡紅紫色。花冠は筒状の漏斗形で先が5裂する。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東地方南部以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の丘陵地の林内や林縁、やや湿った場所に生育する。

4. 生育状況

東伊豆町と引佐町などに生育する。群生地もあるが産地は限られている。

5. 減少の主要因と脅威

林道整備(24)などの影響を受けている。ほかの植物の繁茂による被陰(54)で減少することもある。登山道沿いでは、踏みつけ(51)によって減少している。

6. 保護対策

林道工事などの際には生育地を避けるなど工夫が必要である。また、草刈り、間伐などによる生育地の維持管理も必要である。

(内藤宇佐彦・西口紀雄)



浜松市 2014年6月8日 内藤宇佐彦



フナバラソウ *Vincetoxicum atratum* (Bunge) C. Morren et Decne.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

キョウチクトウ科 Apocynaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~80 cm。全体に白色の毛がある。茎は直立して分枝しない。葉は対生して広楕円形で長さ6~10 cm。花期は5月。花は上部の葉腋に集ってつく。花冠は暗紫褐色で、5裂して径1.2~1.4 cm。袋果は有毛で長さ7 cm。近縁種のタチガシワは温帯落葉樹林下に生育して、花が茎頂に集まってつく。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部、伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地から山地の草地に生育する。林縁や山間部の田畑など耕作地の周辺にも生育する。

4. 生育状況

産地は各地に点在する。産量は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

草地の開発(16)が主要因である。植生遷移(54)の圧力を受けている。園芸採取(41)や太陽光発電の適地として草原が開発(16)されることも脅威である。

6. 保護対策

草地や草原の開発を回避して保全することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2014年5月16日 宮崎一夫



マメダオシ *Cuscuta australis* R. Br.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

ヒルガオ科 Convolvulaceae

[2004年版カテゴリー なし: 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A 類 (CR)]

1. 種の解説

ツル性の一年草。マメ科の植物に寄生する。茎は糸状で左巻き。葉は退化してまばらに鱗状で卵形。花期は7~10月。萼筒背面に隆起する稜はない。花は束生、花冠は白色で5裂して長さ2mm、裂片は果時に反曲しない。花柱は2個。蒴果は扁球形で3mm。近縁種のハマネナシカズラは萼筒背面に隆起する10稜がある。アメリカネナシカズラの花冠裂片は果時に反曲する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、東南アジア、オーストラリアに、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい草地や海岸に生育し時に大豆畑に発生する。

4. 生育状況

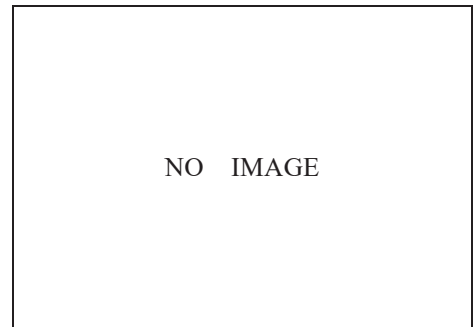
静岡県植物誌(1984)には、各地に点在した記録があるが、近年の生育状況は不明である。消長の変化が著しい種である。

5. 減少の主要因と脅威

帰化競合(56)や土地開発(23)が主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認された場合は、環境に応じて善処することが重要である。農作物に被害が及ぶのは避けたいが、産地を限定して保護保全することも必要である。(宮崎一夫)



ハマクワガタ *Veronica javanica* Blume

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

オオバコ科 Plantaginaceae

[2004年版カテゴリー なし: 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II 類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ10~30cm。茎は分枝し曲毛がある。葉は対生し下部の葉は有柄で三角状卵形、基部は切形、縁は鈍粗鋸歯がある。花期は4~6月。上部の葉腋から短い総状花序を伸ばし10個ほどの花をつける。花冠は淡紅紫色で径2~2.5cm。萼は4深裂し広線形。蒴果は倒心臓形である。近縁種のヒヨクソウは花の径が6~8mmである。

2. 分布

国外では台湾、中国、東南アジアからインド、アフリカに、国内では本州(静岡県以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では中部と西部に分布する。本県は東限自生地である。

3. 生育環境

沿岸地の荒れた草地や砂礫地に生育する。

4. 生育状況

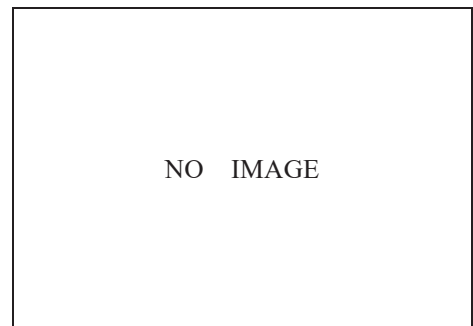
静岡県植物誌(1984)には沿海の各地に生育の記録があるが、近年の生育状況は不明である。

5. 減少の主要因と脅威

沿海の堤防や土地造成などの開行為(14)が主要因と思われる。

6. 保護対策

生育が再確認された場合は、生育地に応じた保護保全の施策が重要である。(宮崎一夫)



アシタカジャコウソウ *Chelonopsis yagiharana* Hisauti et Matsuno

(=タカネジャコウソウ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード3]

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ20~40 cm。根は木質化し茎を叢生する。茎に稜はなく、分枝せず、円柱形で葉柄とともに下向きの開出毛を散生する。葉は長さ4~7 cmで、一部2対の葉が集まり偽輪生状を呈する。花期はジャコウソウより少し早く6~8月。萼筒にも開出毛がある。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県、神奈川県西部、山梨県南部）に分布する。県内では、伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯、温帯の谷筋に生育する。

4. 生育状況

前回（2004年）の調査時以降、シカの食害によって、崖地に生育しているもの以外はほとんど消滅してしまった。

5. 減少の主要因と脅威

シカによる食害（52-1）と園芸用採取（41）が減少の主要因である。

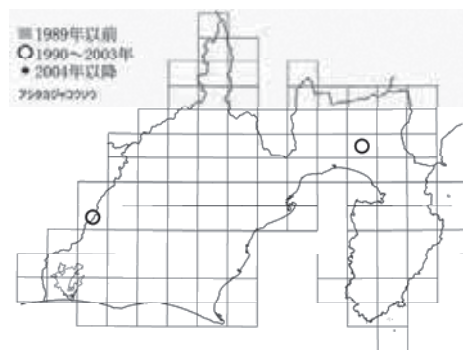
6. 保護対策

シカの食害対策を行うこと。

(湯浅保雄)



沼津市 2001年8月26日 石川均



ホナガタツナミソウ *Scutellaria laeteviolacea* Koidz.

var. *maekawae* (H. Hara) H. Hara

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種)：環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さは7~20 cm。茎は四角形、下向きの曲がった白毛が密に生える。葉は茎の下部に集まる傾向がある。葉柄は長さ1~3 cm。葉身は長卵~広卵形で、長さ1.5~7 cm、幅1.4~4 cm、縁には鈍鋸歯がある。両面とも毛がまばらに生える。花期は6月。茎の頂に2~8 cmの花穂をつけ、少数の唇形花をつける。花冠は紫色で長さ2 cm。

2. 分布

日本固有変種で、本州（福島県以南）に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯のやや湿った山林内。

4. 生育状況

群生地はあるが産地は限られている。

5. 減少の主要因と脅威

森林内の下草の繁茂による被圧（54）と園芸採取（41）が減少の主要因である。

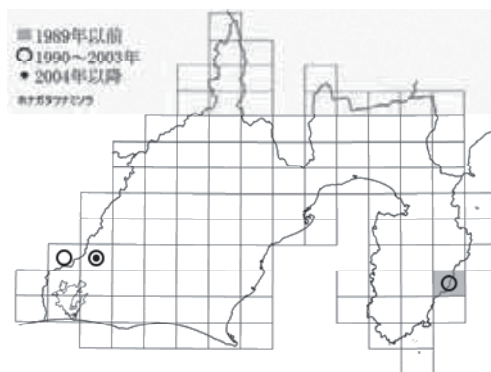
6. 保護対策

生育している森林の林床植生の繁茂を抑制すること。

(湯浅保雄)



浜松市 2008年6月6日 宮崎一夫



タカネママコナ *Melampyrum laxum* Miq. var. *arcuatum* (Nakai) Soó

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9]

ハマウツボ科 Orobanchaceae

[2004年版カテゴリー なし: 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。半寄生植物。高さ10~20 cm。茎は直立し少数の枝を出す。葉は短い柄があり、長さ1~3 cm、細毛がある。日当たりのよい所に生えるものは葉が紅色を帯びる。花期は8~9月。花冠は淡黄白色で長さ8~12 mm。苞は狭披針形で細い。近縁種のミヤマママコナは花冠が紅紫色で、苞が卵~披針形である。

2. 分布

日本固有変種で、本州中部（甲斐駒ヶ岳、鳳凰山、八ヶ岳、秩父、南アルプス）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

山地の針葉樹林中の日当たりのよい乾燥地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には、池口岳の記録があるが、近年の正確な生育状況は不明である。

5. 減少の主要因と脅威

樹冠の被陰や植生遷移（54）が主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。

（宮崎一夫）



山梨県 2019年8月25日 室伏幸一



ヒキヨモギ *Siphonostegia chinensis* Benth. ex Hook. et Arn.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

ハマウツボ科 Orobanchaceae

[2004年版カテゴリー なし: 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。半寄生植物。全草に曲がった短毛が密生する。葉は卵形で長さ1~5 cm、ヨモギ状に深裂して裂片は細い。花期は8~9月。花は唇形で葉腋ごとに鮮黄色の1花をつける。萼は細い筒形で、長さ11~17 mm。萼片は長さ4~5 mm。蒴果は狭長楕円形で長さ14~17 mm。近縁種のオオヒキヨモギの花は灰黄色で、全草に腺毛が密生する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、台湾に、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山野の日当たりのよい草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には、南アルプスを除く広範囲に記録があるが、減少していると思慮される。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移（54）が主要因である。草地開発（16）が脅威である。

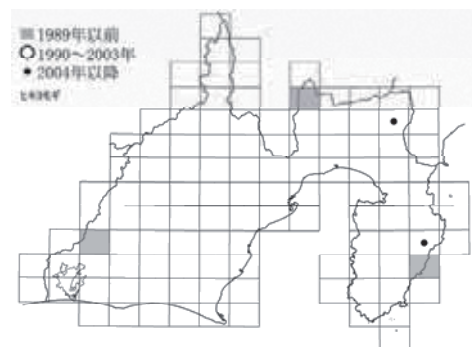
6. 保護対策

植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。

（宮崎一夫）



富士宮市 1999年9月26日 杉野孝雄



キヨスミウツボ *Phacellanthus tubiflorus* Siebold et Zucc.

(=キョズミウツボ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ハマウツボ科 Orobanchaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。全寄生植物。高さ5~10 cm。根茎は糸状に伸び、疎にやや太い茎を地上に出す。全体が白色でのち黄色に変わる。鱗片葉は直立してつき卵形で4~8 mm。花期は5~7月。花は頭状に数個が集まり、筒状唇形で長さ2.5~3 cm。近縁種のハマウツボは花が穂状につく。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア(ウスリー、サハリン)に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯に生育する、ムラサキシキブ・タマアジサイ・コアジサイなどの根に寄生する。植林された林床にも生育する。

4. 生育状況

産地は点在する。産量は局所的には多い。年による株数の消長があり、群生することもあるが概して減少している。

5. 減少の主要因と脅威

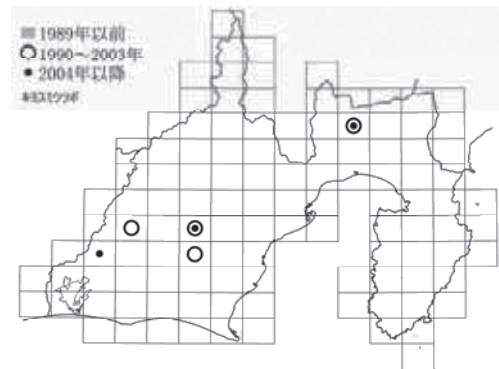
自然林の伐採(11)が主要因である。宿主の衰退(71)が脅威である。動物の食害(52-2)を見受ける。

6. 保護対策

植林下でも宿主である低木を伐採しないことが重要である。
(宮崎一夫)



島田市 2000年6月11日 宮崎一夫



イワシャジン *Adenophora takedae* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

キキョウ科 Campanulaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。茎の長さ20~55 cm。根茎はやや太く岩の割れ目に入る。茎は細くやや垂れる。根出葉は長柄があり卵形。茎葉は線状披針形で互生し短柄があり、縁は低鋸歯で先は尾状尖鋭形。花期は9~10月。茎頂に総状花序を作る。萼裂片は線形で少し歯牙がある。花は濃紫色で長さ15~25 mm、下向きに開く。花冠は鐘形で長さ径2 cm、先は5浅裂する。近縁種のソバナは萼裂片が披針形で全縁である。

2. 分布

日本固有種で、本州(神奈川県、静岡県、山梨県、長野県、愛知県)に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯に属する山地の溪流や、谷筋の岩場に垂れ下がって生育する。

4. 生育状況

産地は多い。産量は多い。生育状況はよいが一部では園芸採取により開花株数は減少している。

5. 減少の主要因と脅威

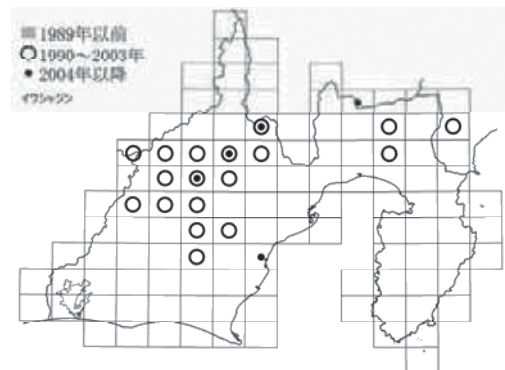
園芸採取(41)が主要因である。

6. 保護対策

日本の一部地域だけに生育する貴重種であるから、園芸採取を防ぐために、生育地の立ち入りを禁止する。(宮崎一夫)



静岡市 2018年10月22日 宮崎一夫



シデシャジン *Asyneuma japonicum* (Miq.) Briq.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

キキョウ科 Campanulaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~100 cm。茎は直立して縦の隆起線がある。葉は互生し長楕円形で長さ 5~12 cm、縁は不整鋸歯がある。花期は 7~8 月。茎頂と葉腋に総状花序を作る。花冠は青紫色で 5 全裂して、裂片は線形で長さ 10~15 mm、平開して先は反り返る。雄蕊は 5 個。柱頭は 3 裂する。蒴果は扁球形で径 5 mm。近似種のツリガネニンジンとは花冠が鐘形である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア (アムール、ウスリー) に、国内では本州、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地のやや湿った林縁や草地に生育する。

4. 生育状況

産地は多い。産量は多くない。植生遷移や園芸採取の影響を受けて、開花株数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

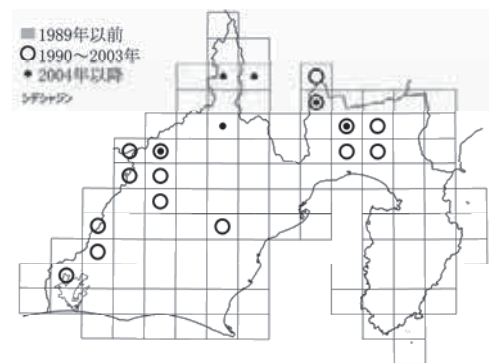
植生遷移 (54) が主要因である。園芸採取 (41) も脅威である。

6. 保護対策

植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理するとともに、園芸採取からの保護が重要である。 (宮崎一夫)



浜松市 2014年8月3日 内藤宇佐彦



ミヤマコウモリソウ *Parasenecio farfarifolius* (Siebold et Zucc.) H. Koyama var. *acerinus* (Makino) H. Koyama

(=モミジタマブキ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更コード9

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~140 cm。葉鞘は茎を少し抱くが円筒状に閉じるほどではない。葉身は 3 角状心形で縁が掌状に中裂して裂片の先が尖り、長さ 13~21 cm。葉腋に珠芽がつく。総苞は長さ 9~10 mm。総苞片は 5 列。小花は白色で 5~6 個。花冠は 5 裂して反り返り、黄色からしだいに褐色を帯びる。瘦果は長さ 6 mm。冠毛は長さ 8 mm。近縁種のイズカニコウモリは葉鞘が円筒状に茎を抱き、葉身は腎形である。

2. 分布

日本固有変種で、本州 (静岡県、紀伊半島)、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の林床に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、広範囲の山地帯に記録がある。近年は確認の情報が無い。

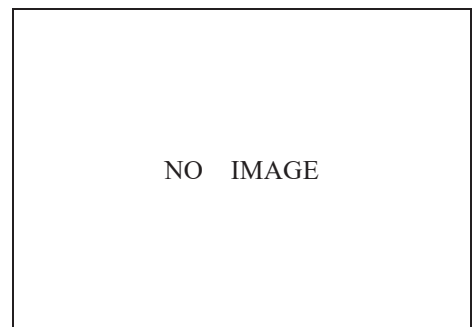
5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) が主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。

(宮崎一夫)



ノッポロガンクビソウ *Carpesium divaricatum* Siebold et Zucc.

var. *matsuei* (Tatew. et Kitam.) Kitam.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~100 cm。上部で多く枝を分ける。根出葉は花時にはなく、下部及び中部の茎葉は大きく、卵形または広卵形で長さ 7.5~14 cm、幅 5~11 cm、基部は浅心形または円形。花期は 8~10 月。頭花は枝の頂きにつき、有柄で花時には點頭する。総苞は半球形で長さ約 5 mm、幅 11 mm。総苞片は全て同長。瘦果は長さ 3.5 mm、やや粘着する。近縁種のガンクビソウやホソバガンクビソウの総苞片は外側のものが小さい。

2. 分布

日本固有変種で、北海道、本州（滋賀県以北）に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯の林内や林縁の少し湿った場所。

4. 生育状況

富士山麓、天子山地、安倍川流域に生育するが、産地は少なく、また近年はシカによる食害で著しく減少している。

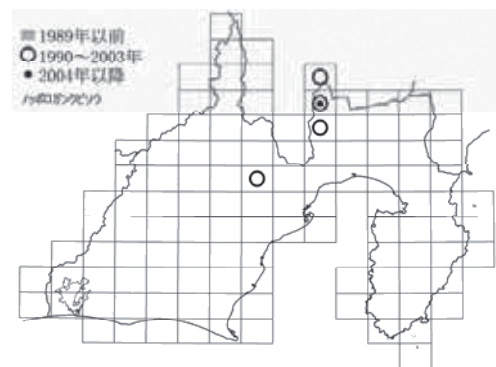
5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)による環境の変化とシカによる食害(52-1)が減少の主要因である。

6. 保護対策

森林伐採等の急激な環境変化を避ける。(湯浅保雄)

NO IMAGE



ミズギク *Inula ciliaris* (Miq.) Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード 9

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~50 cm。根出葉はさじ形で長さ 4~10 cm、花時にも存在する。葉裏の主脈上に長さ 2 mm の長毛がある。茎葉は数個ありやや抱茎する。花期は 7~10 月。頭花は舌状花のみからなり黄色で径 3~4 cm、1~数個を枝先につけ上向きに開く。総苞は半球形。総苞片はすべて同長である。近縁種のオグルマは根出葉が花時に枯れ、葉裏の主脈上に長さ 1 mm の短毛がある。

2. 分布

日本固有種で、北海道（静狩）、本州（三重県以東）、九州（宮崎県）に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山中の湿地、沼辺に生育する。

4. 生育状況

産地は少ない。産量は小群生するが少なく、植生遷移の圧力を受けて、生育が衰退している。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の消失(15)や植生遷移(54)が主要因である。湿地の乾燥化(54)、園芸採取(41)や踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

園芸採取や踏圧を防ぐために生育地の立ち入りを禁止することや木道を敷設する。

(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 2016年9月10日 宮崎一夫



ノニガナ *Ixeris polycephala* Cass.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草または越年草。高さ15~50 cm。茎の中部の葉は矢じり状に茎を抱き、長さ7~15 cm、幅0.5~1.5 cm。無毛で緑白色。花期は4~5月。頭花は径8 mmで散房状に5~10個つく。小花は10~25個、花冠は黄色。瘦果は長さ約3 mm、翼状の10肋がある。冠毛は白色。類似のニガナの茎葉も茎を抱くが、矢じり状にならないので区別できる。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、台湾、インド、コーカサスに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

水田の畦や河原の土手。

4. 生育状況

静岡市、掛川市、旧福田町、浜松市などに見られる。産地は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

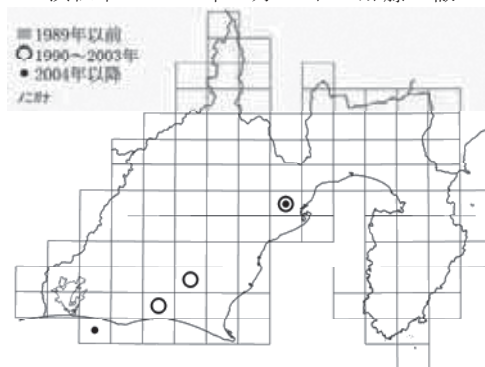
河原の土手での草刈り回数の不足(71)や畦道での除草剤(32)の使用が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地においては適度に草刈りによって除草を行い、除草剤は使用しないこと。(湯浅保雄)



浜松市 2015年8月12日 加藤 徹



オナモミ *Xanthium strumarium* L. subsp. *sibiricum* (Patrin ex Widder) Greuter

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ20~100 cm。葉は互生して長柄があり、卵状三角形で長さ6~15 cm、3~5浅裂して不整鋸歯があり、両面ともに剛毛がある。花期は8~10月。雌雄異花同株。茎の先に柄のある雄花がつき、葉腋に雌花がつく。筒状花は白色。偽果は卵状楕円形で長さ9~14 mm、表面に小鱗片毛があり光沢はなく、灰褐色に成熟する。刺は先端が鈎状に曲がり長さ1~2 mm、小鱗片毛はない。近縁種のオオオナモミは偽果の長さ15~25 mmあり、表面には小鱗片毛がほとんどなく光沢がある。

2. 分布

日本固有亜種で、南千島、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部から東部、伊豆に分布する。近年は東部で確認がある。

3. 生育環境

低地の荒地から海岸や河原に生育する。

4. 生育状況

産地は少ない。産量はきわめて少ない。静岡県植物誌(1984)には南アルプスを除く低地に広範囲の記録がある。しかしオオオナモミにニッチを奪われたと思慮される。

5. 減少の主要因と脅威

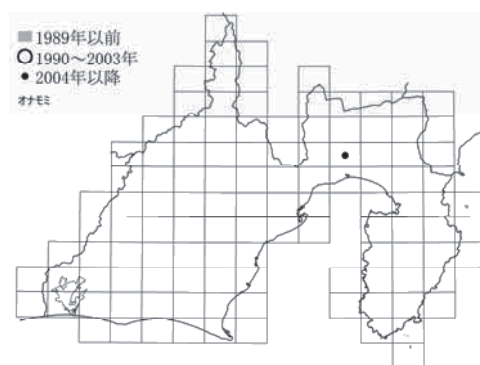
帰化種との競合(56)と異種交雑による不稔が主要因である。

6. 保護対策

帰化種の駆除対策を行う。生育地では環境に応じて善処することが重要である。(宮崎一夫)



富士市 2016年5月25日 杉野孝雄



レンプクソウ *Adoxa moschatellina* L.

(=ゴリンバナ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

レンプクソウ科 Adoxaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ8~15 cm。地下茎は白色で細長く、先端に球茎を作り増える。根出葉は2回3出複葉。茎葉は対生する。花期は4~5月。花は淡黄緑色で、茎頂に通常5個の小花を頭状につけて、先端の1花の花冠は4裂し、側方の4花は5裂する。日本産の花は香りが無い。近縁種のシマレンプクソウは国後島に産する。

2. 分布

国外では北半球の温帯に、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯上位から温帯の山地で、湿り気のある落葉樹林下や林縁の疎草地に生育する。

4. 生育状況

産地は点在する。産量が多い。栄養繁殖により小群生している。

5. 減少の主要因と脅威

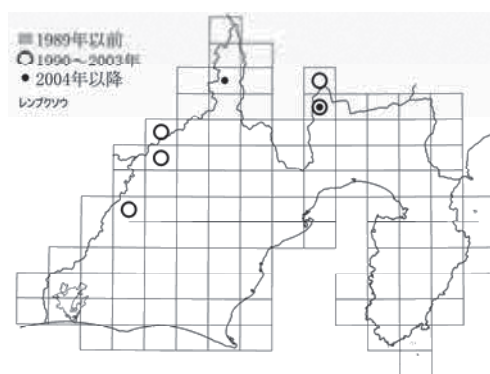
植生遷移(54)による生育圧力が主要因である。踏圧(51)や土壌の小規模な移動(71)も脅威である。

6. 保護対策

植生遷移や踏圧を防ぐために、生育地の立ち入りを禁止することが重要である。(宮崎一夫)



静岡市 2017年5月19日 宮崎一夫



ヤマヒョウタンボク *Lonicera mochidzukiana* Makino var. *nomurana* (Makino) Nakai

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さは1.5 mに達する。枝は4稜形で無毛。葉は円卵~長楕円形、長さ2.5~5 cm、幅1.5~3 cm。多くは鈍頭または円頭。両面に毛を散生、ときに葉裏脈上に白色開出毛がある。花期は5月、葉腋から1~2 cmの花柄を出し、その先に唇形の2花をつける。花冠は白色で長さ8~10 mm。液果は球形で中部まで合生し紅色に熟す。県内北部の温帯から亜高山帯にかけては、基本種のニッコウヒョウタンボクが分布するが、それらの葉は鋭尖頭または鋭頭である。

2. 分布

日本固有変種で、は本州(東海・近畿・中国地方)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯山地の尾根筋のような痩せた土地の明るい林内に生える。ときに石灰岩地や蛇紋岩地に見られる。

4. 生育状況

個体数はあまり多くない。

5. 減少の主要因と脅威

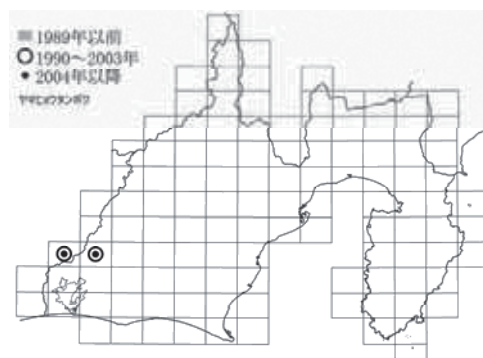
植生遷移による常緑広葉樹林化(54)が減少の主要因である。

6. 保護対策

明るい落葉広葉樹林を維持すること。(湯浅保雄)



浜松市 2017年4月29日 内藤宇佐彦



カノコソウ *Valeriana fauriei* Briq.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし]

スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。茎は直立し、高さ40~80 cm。節に白い長毛がある。葉は対生し、羽状に全裂する。羽片には深い鋸歯がある。花期は5~7月。集散花序に淡紅色の小さな花を密につける。花冠は5裂し、下部は細長い花筒となって、長さ5~7 mm。果実は披針形で長さ約4 mm、上部に冠毛状に伸びた萼がある。

2. 分布

国外では台湾、朝鮮半島、中国、ロシア(ウスリー、サハリン)に、国内では南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地のやや湿った草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、愛鷹山や十枚山の記録があるが、今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

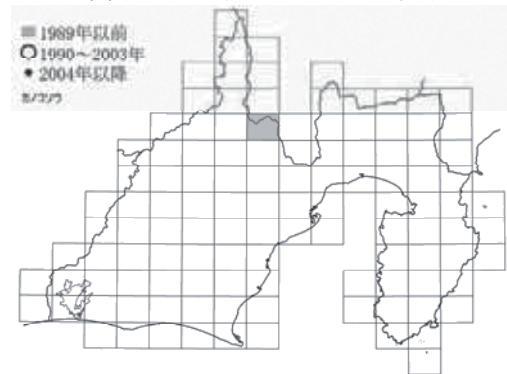
植生遷移(54)や山林伐採(11)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地の現植生を維持することと、山林伐採などで生育環境に急激な変化を与えないことと。(湯浅保雄)



滋賀県 2009年7月4日 宮崎一夫



ナベナ *Dipsacus japonicus* Miq.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし]

スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

越年草。高さ1~3 m。茎は直立して分枝する。全体に硬い刺がある。葉は対生して羽状に全裂する。花期は8~9月。頭花は径2 cm。総苞片は線形で反り返る。小花の花冠は長さ7 mm、淡紅紫色で上部は4裂して、葯が飛び出す。瘦果の総苞片は長さ5 mm、8肋がある。冬でも枯れて立ち、小花を包む鱗片の先が剛毛を伴って刺針となる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の山麓、河原、林縁、林道沿いなど、疎草地に生育する。

4. 生育状況

産地も株数も少ない。植生遷移を嫌い、攪乱地を好む性質があり、年による株数の消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

自然遷移(54)が主要因であるが、荒地を攪乱することは生育を増長するが、開発(16)されることは脅威である。

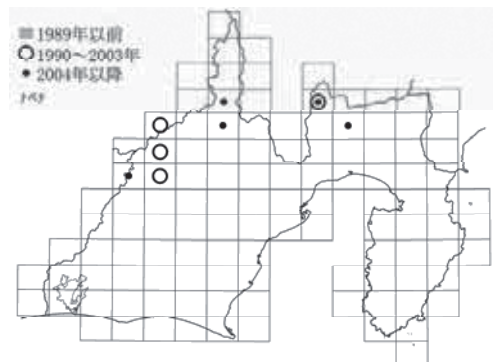
6. 保護対策

開発を控えても遷移が進行すれば生育できないので自然の攪乱に任せる。野焼きや草刈りも有効と思われる。

(宮崎一夫)



浜松市 2000年9月1日 宮崎一夫



(8) 文献

【植物文献一覧】

- 1 愛知県 (2001) 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータあいち—植物編—. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋市, 714 pp.
- 2 赤堀千里 他 (2009) 熱海市岩戸山の植物相. 神奈川県立博物館研究報告 自然科学, (38): 45-94
- 3 海老原 淳 (2016) 日本産シダ植物標準図鑑 I. 学研プラス, 東京, 475 pp.
- 4 海老原 淳 (2017) 日本産シダ植物標準図鑑 II. 学研プラス, 東京, 507 pp.
- 5 橋本 保・神田 淳・村川博実 (1991) カラー版 野生ラン. 家の光協会, 東京, 295 pp.
- 6 細倉哲穂 (2000a) 東駿・北豆のタキミシダ. 静岡県自然誌, (8): 217-220
- 7 細倉哲穂 (2000b) 東駿・北豆のナカミシシラン. 静岡県自然誌, (8): 221-224
- 8 細倉哲穂 (2000c) 東駿・北豆のスギラン. 静岡県自然誌, (9): 274
- 9 細倉哲穂 (2001) 東駿・北豆のタニヘゴ. 静岡県自然誌, (11): 331-334
- 10 細倉哲穂 (2002) 静岡県のコウライイヌワラビ. 静岡県のシダ II, p. 105. 自刊.
- 11 藤井伸二 (2016) シロガヤツリの新変種. *APG*, 67(2): 123-126
- 12 布施静香 (2001) ショウジョウバカマ属の多様性. *プランタ*, (75): 32-39
- 13 今井久子・関根洋子・栗原 淳・北原佳郎・永田浩司・堀井晃男 (2018) 静岡県島田市におけるスズメノハコベ *M. minima* (J. König ex Retz) Merr. の確認と保全. 東海自然誌, (10): 15-20
- 14 伊藤 洋 (1972) ヌリトラノオの新変種. 植物研究雑誌, 47(6): 186-187
- 15 岩槻邦男 編 (1992) 日本の野生植物 シダ. 平凡社, 東京, 516 pp.
- 16 イズミエイコ (1983) 野生ラン辞典. 月刊さつき研究社, 鹿沼市, 300 pp.
- 17 角野康郎 (1994) 日本水草図鑑. 文一総合出版, 東京, 179 pp.
- 18 角野康郎 (2014) ネイチャーガイド 日本の水草. 文一総合出版, 東京, 328 pp.
- 19 Kadota, Y. (1987) A revision of *Aconitum* subgenus *Aconitum* (Ranunculaceae) of east Asia. *Sanwa Shoyaku Company, Ltd., Utsunomiya*, 249 pp.
- 20 神奈川県植物誌調査会 編 (2001) 神奈川県植物誌 2001. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原, 1584 pp.
- 21 環境庁自然保護局野生生物課 編 (2000) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 —レッドデータブック— 8 植物 I (維管束植物). 財団法人 自然環境研究センター, 東京, 660 pp.
- 22 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 編 (2015) レッドデータブック 2014 —日本の絶滅のおそれのある野生生物— 8 植物 I (維管束植物). 株式会社ぎょうせい, 東京, 646 pp.
- 23 勝山輝男 (2015) ネイチャーガイド 日本のスゲ 増補改訂. 文一総合出版, 東京, 392 pp.
- 24 川合正晃 (2007) 天竜川河口部における刈り払い作業によるタコノアシの個体数の増減. 遠州の自然, 30: 53.
- 25 北川学・宮崎一夫 (2010) キヨスミウツボの新産地及びその環境と生態. 遠州の自然, 33: 13-17
- 26 北川学・山口海夢・宮崎一夫 (2006) 静岡県内にシロモジの大群落. 遠州の自然, 29: 42
- 27 北村孔志 (2005) 静岡新産のハタバカンガレイの生育地と水質について. すげの会会報, (11): 22-24
- 28 北村四郎・村田 源・小山鐵夫 (1964) 原色日本植物図鑑 草本編 III. 保育社, 大阪, 464 pp.
- 29 近田文弘 (2007) 伊豆須崎 海岸草木列伝. トンボ出版, 大阪, 271 pp.
- 30 小山鐵夫 (1955) 東亜産スゲ属の分類学的研究 (2). 植物研究雑誌, 30(10): 315-318

- 31 倉田悟 (1961) シダ類ノート (24) (イヨクジャク). 北陸の植物, 10(3): 67, 69
- 32 倉田悟 (1963) 日本のヤブソテツ属. 横須賀市博物館研究報告 自然科学, (8): 23-47
- 33 倉田悟・中池敏之 (1979) 日本のシダ植物図鑑 第1巻. 東京大学出版会, 東京, 628 pp.
- 34 倉田悟・中池敏之 (1981) 日本のシダ植物図鑑 第2巻. 東京大学出版会, 東京, 648 pp.
- 35 倉田悟・中池敏之 (1983) 日本のシダ植物図鑑 第3巻. 東京大学出版会, 東京, 728 pp.
- 36 倉田悟・中池敏之 (1985) 日本のシダ植物図鑑 第4巻. 東京大学出版会, 東京, 850 pp.
- 37 倉田悟・中池敏之 (1987) 日本のシダ植物図鑑 第5巻. 東京大学出版会, 東京, 816 pp.
- 38 倉田悟・中池敏之 (1990) 日本のシダ植物図鑑 第6巻. 東京大学出版会, 東京, 881 pp.
- 39 李 永魯 (2006) 韓国植物図鑑 II. 教学社, ソウル, 888 pp.
- 40 前川文夫 (1971) 原色日本のラン. 誠文堂新光社, 東京, 495 pp.
- 41 牧野富太郎 (1910) Observation on the flora of Japan. 植物学雑誌, 24: 141-142
- 42 宮崎一夫 (1992) 植物自生雑録 1991. 遠州の自然, (15): 43-45
- 43 宮崎一夫 (1993) 植物自生雑録 1992. 遠州の自然, (16): 39-42
- 44 宮崎一夫 (1994) 植物自生雑録 1993. 遠州の自然, (17): 39-46
- 45 宮崎一夫 (1995) 植物自生雑録 1994. 遠州の自然, (18): 25-27
- 46 宮崎一夫 (1996) 植物自生雑録 1995. 遠州の自然, (19): 17-19
- 47 宮崎一夫 (1997) 静岡県西部地方に自生するカタクリの生育環境. 遠州の自然, (20): 39-57
- 48 宮崎一夫 (2002) シバナの生育環境. 遠州の自然, (25): 31-41
- 49 宮崎一夫 (2006) ホソバノアマナの新産地. 遠州の自然, (29): 41
- 50 宮崎一夫 (2018) ヒメノヤガラを静岡県内で確認. 遠州の自然, (41): 34
- 51 宮崎一夫・岡本 研 (2007) シバナの生育環境土壌の粒度分析とC N分析. 遠州の自然, (30): 31-34
- 52 宮崎一夫・北川 学 (2014) ムカゴサイシンの新産地. 遠州の自然, (37): 64
- 53 茂木 透・勝山輝男・太田和夫・城川四郎 (2000) 樹に咲く花-離弁花 1. 山と溪谷社, 東京, 719 pp.
- 54 茂木 透・勝山輝男・太田和夫・城川四郎 (2000) 樹に咲く花-離弁花 2. 山と溪谷社, 東京, 719 pp.
- 55 邑田 仁 (1983) テンナンショウ属の1新種オドリコテンナンショウ. 植物研究雑誌, 58(1): 29-32
- 56 邑田 仁 (2011) 日本のテンナンショウ. 北隆館, 東京, 265 pp.
- 57 名倉智道 (1985) 遠州地方の植物覚書 (2). 遠州の自然, (8): 59-60
- 58 内藤宇佐彦 (2014) 静岡県産スゲ属植物調査ノート (1). 遠州の自然, (37): 32-34
- 59 内藤宇佐彦 (2016) 浜名湖西岸地域植物調査情報 [XII]. 遠州の自然, (39): 32-34
- 60 中池敏之 (1964) 甲斐産ウサギシダの一新変種. 北陸の植物, 17(4): 96-97
- 61 中池敏之 (1978) 改訂増補新版 日本植物誌 シダ篇. 至文堂, 東京, 289 pp.
- 62 中池敏之 (1992) 新日本植物誌 シダ篇. 至文堂, 東京, 868 pp.
- 63 中島睦子 (2012) 日本ラン科植物図譜. 文一総合出版, 東京, 408 pp.
- 64 西田 誠・栗田子郎 (1980) ハナヤスリ属の1新種. 植物研究雑誌, 54(4): 105-113
- 65 野寄玲児・小林禧樹・藤本義昭 (1998) 兵庫県新産のウンヌケ (イネ科) の分布とその生育環境. 植物分類・地理, 48(2): 197-204

- 66 奥山春季 (1966) 日本高山植物図譜. 誠文堂新光社, 東京, 348 pp.
- 67 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩 編 (2015) 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科～カヤツリグサ科. 平凡社, 東京, 666 pp.
- 68 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩 編 (2016) 改訂新版 日本の野生植物 2 イネ科～イラクサ科. 平凡社, 東京, 384 pp.
- 69 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩 編 (2016) 改訂新版 日本の野生植物 3 バラ科～センダン科. 平凡社, 東京, 604 pp.
- 70 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩 編 (2017) 改訂新版 日本の野生植物 4 アオイ科～キョウチクトウ科. 平凡社, 東京, 608 pp.
- 71 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩 編 (2017) 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科～スイカズラ科. 平凡社, 東京, 760 pp.
- 72 大村敏朗 (1995) 静岡市西部植物誌 14. 静岡植物研究会, 静岡市, 175 pp.
- 73 大滝末男・石戸 忠 (1980) 日本水生植物図鑑. 北隆館, 東京, 318 pp.
- 74 長田武正 (2002) 増補日本イネ科植物図譜. 平凡社, 東京, 777 pp.
- 75 長田武正 (1989) 日本イネ科植物図譜. 平凡社, 東京, 759 pp.
- 76 佐橋紀男 (1983) 日本産ヒメハナワラビ属の分布について. 植物研究雑誌, 58(4): 13
- 77 佐藤千芳・前田哲弥・内野明德 (2004) 日本産フトイ属 (カヤツリグサ科) の 1 新種. 植物研究雑誌, 79(1): 23-28
- 78 斉藤全生 (1952) スジヒトツバ遠州に産す. 植物研究雑誌, 27(3): 72
- 79 芹沢俊介 (1971) シダ類の新変種 (スルガイノデ). 北陸の植物, 19(4): 104
- 80 芹沢俊介 (1981) 日本産テンナンショウ属の再検討(3). 植物研究雑誌, 56(3): 90-96
- 81 芹沢俊介 (2013) 愛知県のミヤマワレモコウ. シデコブシ, 2(2): 112-113
- 82 Shigeru Miki (1933) On the Sea-Grasses in Japan(1). *The Botanical Magazine, Tokyo*, 47(564): 842-862
- 83 清水建美 監修 (1998) 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社, 長野市, 1700 pp.
- 84 清水建美 編 (2014) 高山に咲く花 増補改訂新版. 山と溪谷社, 東京, 512 pp.
- 85 静岡県自然環境調査委員会 編 (2004) まもりたい静岡県の野生生物一県版レッドデータブックー〈植物編〉. 羽衣出版, 静岡, 338 pp.
- 86 志村義雄 (1966) 富士山西麓におけるホソバシヨリマの分布と生態. 日本生態学会誌, 16(4): 145-149
- 87 志村義雄 (1975) 静岡県のシダ植物相 (その 1). 静岡大学教育学部研究報告, (26): 41-105
- 88 志村義雄 (1987) 富士山のシダ. 自刊, 130 pp.
- 89 志村義雄 (1992) 日本のイノデ属 (シダ植物). 自刊, 160pp.
- 90 白鳥秀一・常木静河・花井隆晃・清田佳奈・芹沢俊介 (2017) 本州中部地方におけるマツムシソウ頭花形態の地理的変異. 分類, 17(2): 147-158
- 91 杉本順一 (1954) シロヤマゼンマイの不連続分布. 植物学研究雑誌, 25(5): 159
- 92 杉本順一 (1966) イッスンテンツキ遠州に産す. 植物採集ニュース, 25: 14
- 93 杉本順一 (1968) 日本植物雑記. 北陸の植物, 16(2): 46-51
- 94 杉本順一 (1976) トキワマンサク静岡県の西端に発見. 植物採集ニュース, (86): 29
- 95 杉本順一 (1978) 改訂増補 日本草本植物総検索誌 I 双子葉編. 井上書店, 東京, 871 pp.

- 96 杉本順一 (1984) 静岡県植物誌. 第一法規出版, 東京, 814 pp.
- 97 杉野孝雄 (1974) 静岡県のフロラに加える新植物(ムカゴトシボ). 植物採集ニュース, (71): 2
- 98 杉野孝雄 (1978) 駿遠植物調査資料 No.13. 遠州の自然, (1): 74
- 99 杉野孝雄 (1979) 駿遠植物調査資料 No.14. 遠州の自然, (2): 71
- 100 杉野孝雄 (1985) エンシュウムヨウランの観察. 遠州の自然, (8): 17-27
- 101 杉野孝雄 (1986) 駿遠植物調査資料 No.21. 遠州の自然, (9): 58
- 102 杉野孝雄 (1996) シモダカンアオイの再検討. 遠州の自然, (19): 7-11
- 103 杉野孝雄 (2000) 駿遠植物調査資料 No.35. 遠州の自然, (23): 72
- 104 杉野孝雄 (2001) 駿遠植物調査資料. 遠州の自然, (24): 51.
- 105 杉野孝雄 (2003) 静岡県のチャボハナヤスリとシムライノデの再発見. 日本シダの会会報, 3(37): 6
- 106 杉野孝雄 (2003) 富士山の高山シダ3題. 日本シダの会会報, 3(34): 10-11
- 107 杉野孝雄 (2009) 静岡県産希少植物図鑑. 静岡新聞社, 静岡, 131 pp.
- 108 須山知香・杉野孝雄・植田邦彦 (2008) アシタカマツムシソウ (マツムシソウ科) のレクタタイプ選定とソナレマツムシソウ. 植物研究雑誌, 83(4): 147-158
- 109 鈴木久雄 (1985) 龍山村瀬尻国有林のシロモジ. 遠州の自然, 8: 43
- 110 高橋秀男 (1990) 野草大図鑑. 北隆館, 東京, 727 pp.
- 111 高宮正之 (1999) ミズニラ属の自然誌と分類. 植物分類地理, 50: 101-138
- 112 滝田謙讓 (2001) 北海道植物図譜. 自刊, 1452 pp.
- 113 豊国秀夫 編 (1988) 日本の高山植物. 山と溪谷社, 東京, 718 pp.
- 114 植松春雄 (1995) 山梨の植物誌. 井上書店, 東京, 595 pp.
- 115 梅村甚太郎 (1923) 富士山植物誌. 任他楼, 名古屋, 388 pp.+28 pls.
- 116 矢原徹一 監修 (2003) 絶滅危惧植物図鑑レッドデータブック. 山と溪谷社, 東京, 719 pp.
- 117 矢原徹一・藤井伸二・伊藤元己・海老原淳 監修 (2015) 絶滅危惧植物図鑑レッドデータプランツ 増補改訂版. 山と溪谷社, 東京, 784 pp.
- 118 山崎 敬 編 (1985) 日本の高山植物. 平凡社, 東京, 139 pp.
- 119 遊川知久・中山博史・鷹野正次 (2015) 日本のラン ハンドブック (1) 低地・低山編. 文一総合出版, 東京, 136 pp.

【植物種別文献(図鑑類を除く)】

アイコハチジョウシダ 文献 No. 87
 アオキガハラウサギシダ 文献 No. 60, 87
 アオチャセンシダ 文献 No. 87
 アオネカズラ 文献 No. 87
 アスヒカズラ 文献 No. 87
 アマギカンアオイ 文献 No. 102
 アマギテンナンショウ 文献 No. 80
 アマナ 文献 No. 45

イズヤブソテツ 文献 No. 32, 87
 イチヨウラン 文献 No. 45
 イッスンテンツキ 文献 No. 92
 イナデンダ 文献 No. 87
 イヨクジャク 文献 No. 31, 87
 イワイヌワラビ 文献 No. 87
 イワタカンアオイ 文献 No. 93
 イワヤシダ 文献 No. 87
 ウスバミヤマノコギリシダ 文献 No. 87

ウライイヌワラビ 文献 No. 10, 87
ウンヌケ 文献 No. 65
エンシュウムヨウラン 文献 No. 100
オオアカウキクサ 文献 No. 87
オオサワトリカブト 文献 No. 19
オオハイホラゴケ 文献 No. 87
オクヤマワラビ 文献 No. 87
オトコシダ 文献 No. 87
オドリコカグマ 文献 No. 87
オドリコテンナンショウ 文献 No. 55
オニイノデ 文献 No. 87
オニゼンマイ 文献 No. 87, 88
オノエラン 文献 No. 43
カゲロウラン 文献 No. 45
カタクリ 文献 No. 47
カツモウイノデ 文献 No. 87
カラフトメンマ 文献 No. 87
ガンゼキラン 文献 No. 46
キタダケオドリコソウ 文献 No. 104
キタダケデンダ 文献 No. 87
キバナノアマナ 文献 No. 59
キヨスミウツボ 文献 No. 25
キレハオオクボシダ 文献 No. 87
キンセイラン 文献 No. 44
クサタチバナ 文献 No. 59
クマガイソウ 文献 No. 59
クロミノイタチシダ 文献 No. 87
クロヤツシロラン 文献 No. 43
ケホシダ 文献 No. 87
コアツモリソウ 文献 No. 43
コタニワタリ 文献 No. 87
サンショウモ 文献 No. 87
シバナ 文献 No. 48, 51, 98
シムライノデ 文献 No. 87, 105
ジュンサイ 文献 No. 46
シロガヤツリ 文献 No. 11
シロバナショウジョウバカマ 文献 No. 2, 12
シロモジ 文献 No. 26, 109
シロヤマゼンマイ 文献 No. 87, 89
スギラン 文献 No. 8, 87
スジヒトツバ 文献 No. 78, 87
スズメハコベ 文献 No. 13
スルガイノデ 文献 No. 79, 87, 89
セイタカイワヒメワラビ 文献 No. 87
セツブンソウ 文献 No. 99
センジョウデンダ 文献 No. 87
センダイスゲ 文献 No. 58
ソナレマツムシソウ 文献 No. 90, 108
タカノハウラボシ 文献 No. 87
タキミシダ 文献 No. 6, 87
タコノアシ 文献 No. 24, 45
タシロラン 文献 No. 43
タチアマモ 文献 No. 97
タニヘゴ 文献 No. 9, 87
チシマヒカゲノカズラ 文献 No. 87
チチブホラゴケ 文献 No. 87
チャボハナヤスリ 文献 No. 64
チョウセンナニワズ 文献 No. 101
ツクシイヌワラビ 文献 No. 87
ツクシイワヘゴ 文献 No. 87
ツクシヤブソテツ 文献 No. 87
ツレサギソウ 文献 No. 46
テツホシダ 文献 No. 87
テバコワラビ 文献 No. 87
デンジソウ 文献 No. 87
テンリュウヌリトラノオ 文献 No. 14
トキワマンサク 文献 No. 94
ナガエミクリ 文献 No. 46
ナガサキシダ 文献 No. 87
ナカミシシラン 文献 No. 7, 87
ナンカクラン 文献 No. 87
ニオイシダ 文献 No. 87
ニシノコハチジョウシダ 文献 No. 87
ニセコクモウクジャク 文献 No. 87
ニッコウシダ 文献 No. 87
ヌカイタチシダモドキ 文献 No. 87
ハイコモチシダ 文献 No. 87
ハシナガカンスゲ 文献 No. 30
ハタベカンガレイ 文献 No. 27, 77
ハチジョウシダ 文献 No. 87

ハチジョウシダモドキ 文献 No. 87
ハマハナヤスリ 文献 No. 87
ハルザキヤツシロラン 文献 No. 43
ヒノキシダ 文献 No. 87
ヒメウラジロ 文献 No. 87
ヒメコウホネ 文献 No. 41
ヒメノヤガラ 文献 No. 50
ヒメハシゴシダ 文献 No. 87
ヒメハナワラビ 文献 No. 87,
ヒメフタバラン 文献 No. 43
ヒモラン 文献 No. 87
ヒロハヤブソテツ 文献 No. 32, 87
フキヤミツバ 文献 No. 74
フジイノデ 文献 No. 87
ベニバナヤマシャクヤ 文献 No. 42
ホオノカワシダ 文献 No. 87
ホソバショリマ 文献 No. 86, 87
ホソバノアマナ 文献 No. 49
マツバラン 文献 No. 87
ミクリ 文献 No. 46
ミズニラ 文献 No. 111

ミドリワラビ 文献 No. 87
ミヤマツチトリモチ 文献 No. 42
ミヤマハナワラビ 文献 No. 20, 87, 106
ミヤマムギラン 文献 No. 43
ミヤマワレモコウ 文献 No. 81
ムカゴサイシン 文献 No. 52
ムカゴトンボ 文献 No. 97
メニッコウシダ 文献 No. 87
ヤクカナワラビ 文献 No. 87
ヤクシマアカシユスラン 文献 No. 46
ヤクシマホウビシダ 文献 No. 87
ヤツガタケシノブ 文献 No. 87
ヤマソテツ 文献 No. 7
ヤマトキソウ 文献 No. 53
ユノミネシダ 文献 No. 87
リュウビンタイ 文献 No. 87
ルリデライヌワラビ 文献 No. 87
レンゲショウマ 文献 No. 42

(9) 標本(静岡県レッドリスト)

◆ 国立科学博物館 377種

(標本・資料データベース http://db.kahaku.go.jp/webmuseum/search?cls=col_b1_01 より)

【絶滅危惧ⅠA類】

チシマヒカゲノカズラ、ヒモラン、チャボハナヤスリ、スジヒトツバ、デンジソウ、サイゴクホン
グウシダ、スルガイノデ、シムライノデ、ヒロハヒメウラボシ、オドリコテンナンショウ、ア
マギテンナンショウ、シバナ、ヒロハノアマナ、スルガジョウロウホトトギス、イワチドリ、キ
ソエビネ、キンセイラン、サルメンエビネ、ホテイラン、カンラン、キバナノアツモリソウ、ア
ツモリソウ、クモイジガバチ、ムカゴサイシン、エゾイトイ、イッスンテンツキ、ヤマオオウシ
ノケグサ、キタダケイチゴツナギ、ベニバナヤマシャクヤク、タカネマンテマ、カンチャチハコ
ベ、ソナレセンブリ、カワラノギク、ヤマタバコ

【絶滅危惧ⅠB類】

セイタカイワヒメワラビ、ハチジョウシダ、ニシノコハチジョウシダ、ヤクシマホウビシダ、カ
ミガモシダ、イチョウシダ、コウライイヌワラビ、ミドリワラビ、コガネシダ、ヒロハアツイタ、
ナガサキシダ、タカネシダ、オニイノデ、クラガリシダ、ミョウギシダ、ヒツジグサ、シコクヒ
ロハテンナンショウ、オオミネテンナンショウ、ホンゴウソウ、ミカワバイケイソウ、コシノコ
バイモ、マヤラン、ハコネラン、トラキチラン、ナヨテンマ、フジチドリ、フガクスズムシソウ、
ヒナチドリ、カモメラン、シロウマチドリ、トキソウ、ヒメシャガ、イズアサツキ、ゴマシオホ
シクサ、ハシナガカンスゲ、タカネナルコ、ミカワシンジュガヤ、タカネタチイチゴツナギ、タ
チイチゴツナギ、ミヤマカニツリ、キタダケカニツリ、オオサワトリカブト、オキナグサ、ヒキ
ノカサ、トキワマンサク、ハゴロモグサ、ヨコグラノキ、フジタイゲキ、アゼオトギリ、ヒメビ
シ、タチバナ、クモイナズナ、シロウマナズナ、コギシギシ、ナガバノイシモチソウ、ウメウツ
ギ、オオツルコウジ、サワトラノオ、クリンソウ、サクラソウ、ナガボナツハゼ、サンブクリン
ドウ、コヒナリンドウ、オノエリンドウ、アカイシリンドウ、ヒメセンブリ、シノノメソウ、ム
ラサキ、ヤマホオズキ、シシンラン、カイジンドウ、キセワタ、コナミキ、ヒメシロアサザ、ア
ズマギク、アベトウヒレン、ヒメヒゴタイ、コウリンカ、コゴメヒョウタンボク、イワツクバネ
ウツギ、フキヤミツバ

【絶滅危惧Ⅱ類】

スギラン、ミズニラ、ヒメハナワラビ、マツバラン、シロヤマゼンマイ、サンショウモ、アカウ
キクサ、オオアカウキクサ、ユノミネシダ、タキミシダ、ナカミシシラン、アイコハチジョウシ
ダ、ハチジョウシダモドキ、ヒノキシダ、ホソバショリマ、テバコワラビ、イワヤシダ、イヨク
ジャク、ニセコクモウクジャク、イワウサギシダ、カツモウイノデ、イズヤブソテツ、ヒロハヤ
ブソテツ、ツクシヤブソテツ、ヌカイタチシダマガイ、アツギノヌカイタチシダマガイ、タニヘ
ゴ、オニバス、カギガタアオイ、イワタカンアオイ、アマギカンアオイ、ズソウカンアオイ、シ
ロモジ、ヒトツバテンナンショウ、ミミガタテンナンショウ、ヒンジモ、アギナシ、カワツルモ、
イズドコロ、チャボホトトギス、ナツエビネ、ナギラン、コアツモリソウ、クマガイソウ、イチ
ヨウラン、ハルザキヤツシロラン、ミズトンボ、ムカゴソウ、カゲロウラン、エンシュウムヨウ
ラン、ヒメムヨウラン、ウチヨウラン、ニョホウチドリ、オオバナオオヤマサギソウ、ヤマトキ
ソウ、ムカデラン、キバナノショウキラン、カキツバタ、ミズアオイ、ヒメミクリ、シラタマホ

シクサ、イトテンツキ、ミヤマジュズスゲ、ホソバヒカゲスゲ、カタスゲ、スルガスゲ、オノエスゲ、ヌイオスゲ、ヒゲハリスゲ、ハタベカンガレイ、カガシラ、ミヤマハルガヤ、ミギワトダシバ、アズマガヤ、ヒナザサ、ウンヌケモドキ、ウンヌケ、ハネガヤ、リシリカニツリ、カザグルマ、ハコネシロカネソウ、ミスミソウ、タマカラマツ、ヤシヤビシヤク、ヒトツバシヨウマ、マツノハマネングサ、ミヤマトベラ、ウラジロキンバイ、ハコネグミ、ジゾウカンバ、シラヒゲソウ、ノウルシ、キスミレ、チョウセンナニワズ、クモマナズナ、ミヤマツチトリモチ、ヌカボタデ、イシモチソウ、オオビランジ、シコタンハコベ、エンシュウツリフネソウ、オオサクラソウ、コイワザクラ、クモイコザクラ、シナノコザクラ、カインアンサラサドウダン、キョウマルシヤクナゲ、オオヤマツツジ、ホソバノツルリンドウ、ムラサキセンブリ、ヒメナエ、チョウジソウ、ハマネナシカズラ、ヤマジソ、シマジタムラソウ、イズコゴメグサ、タヌキモ、ムラサキミミカキグサ、ツルギキョウ、バアソブ、キキョウ、ガガブタ、トダイハハコ、キタダケヨモギ、ユキヨモギ、シブカワシロギク、ウラギク、アキノハハコグサ、ヤナギノギク、タカサゴソウ、クモマニガナ、ハチジョウナ、クサノオウバノギク、スルガヒョウタンボク、チシマヒョウタンボク、ソナレマツムシソウ、ミシマサイコ、ホソバハナウド

【準絶滅危惧】

テンリュウヌリトラノオ、オトメアオイ、エビアマモ、シラン、マメヅタラン、ムギラン、ミヤマムギラン、エビネ、キンラン、タシロラン、クロヤツシロラン、ミクリ、ナガエミクリ、クロイヌノヒゲ、クモマスズメノヒエ、ヒメコヌカグサ、ヤマシヤクヤク、キバナハナネコノメ、ムカゴネコノメソウ、ツメレンゲ、タコノアシ、サンシヨウバラ、サクラバハンノキ、ミズマツバ、サクラガンピ、ヤナギヌカボ、クロミノニシゴリ、アマギツツジ、アマギシヤクナゲ、アシタカツツジ、シブカワツツジ、ハコネコメツツジ、イヌセンブリ、クサナギオゴケ、スズサイコ、アオホオズキ、イヌノフグリ、タチキランソウ、マネキグサ、ミゾコウジュ、オオヒキヨモギ、タテヤマギク、イズカニコウモリ、モリアザミ、ワタムキアザミ、イズハハコ、カワラニガナ、タカネコウリンカ

【情報不足】

ヒメウラジロ、ミズタカモジ

【要注目種：現状不明】

ヤツガタケシノブ、アオチャセンシダ、ニッコウシダ、ツクシイヌワラビ、ヒゲノガリヤス、ヒロハノカワラサイコ、クモイザクラ、トネリコ、ゴマノハグサ、セイタカトウヒレン

【要注目種：分布上注目種等】

リュウビнтаイ、オドリコカグマ、ヒメハシゴシダ、ハイコモチシダ、タカサゴシダ、オキナワハイネズ、ヒメカラマツ、ミカワチャルメルソウ、モクレイシ、ハクセンナズナ、ミヤマツメクサ、ウンゼンツツジ、トウヤクリンドウ、シブカワニンジン

【要注目種：部会注目種】

アスヒカズラ、ハマハナヤスリ、オオハイホラゴケ、チチブホラゴケ、エダウチホンゴウシダ、コタニワタリ、テツホシダ、メニッコウシダ、ミゾシダモドキ、イワイヌワラビ、ウスバミヤマノコギリシダ、ツクシイワヘゴ、ヌカイタチシダモドキ、アオネカズラ、ミツバテンナンシヨウ、ミズオオバコ、シュスラン、コハクラン、アオフタバラン、ホザキイチョウラン、アリドオシラン、ヤマアゼスゲ、ヒカゲシラスゲ、コマツカサススキ、マツカサススキ、コミヤマヌカボ、ハ

クサンイチゴツナギ、ムカゴツツリ、イチリンソウ、キクザキイチゲ、アズマイチゲ、レンゲシ
ョウマ、オオカラマツ、ツゲ、ミヤマモミジイチゴ、ホウロクイチゴ、ヒゴスミレ、ナガバノウ
ナギツカミ、モロコシソウ、イナモリソウ、フナバラソウ、マメダオシ、ハマクワガタ、アシタ
カジャコウソウ、イワシャジン、シデシャジン、ノッポログンクビソウ、ミズギク、オナモミ、
ヤマヒョウタンボク

◆ ふじのくに地球環境史ミュージアム

(湯浅保雄コレクション 269種)

【絶滅危惧ⅠA類】

オドリコテンナンショウ、アマギテンナンショウ、ヒロハノアマナ、スルガジョウロウホトトギ
ス、ホテイラン、クゲヌマラン、ムカゴサイシン、ソナレセンブリ、ヤマタバコ

【絶滅危惧ⅠB類】

イチョウシダ、シコクヒロハテンナンショウ、オオミネテンナンショウ、コシノコバイモ、カイ
コバイモ、ユウシュンラン、マヤラン、ハコネラン、ナヨテンマ、クロクモキリソウ、サカネラ
ン、カモメラン、トキソウ、イズアサツキ、ハシナガカンスゲ、キタダケカニツリ、ナガミノツ
ルケマン、ヒロハヘビノボラズ、オオサワトリカブト、ヒキノカサ、タチモ、イヌハギ、フジタ
イゲキ、カンコノキ、ミヤマスミレ、コギシギシ、ウメウツギ、サワトラノオ、サクラソウ、ナ
ガボナツハゼ、サンブクリンドウ、アカイシリンドウ、シノノメソウ、ムラサキ、キセワタ、ア
ベトウヒレン、ヒメヒゴタイ、コウリンカ、イワツクバネウツギ

【絶滅危惧Ⅱ類】

ミズニラ、マツバラ、アカウキクサ、オオアカウキクサ、ユノミネシダ、ヒノキシダ、タニヘ
ゴ、カギガタアオイ、イワタカンアオイ、アマギカンアオイ、ズソウカンアオイ、シロモジ、ヒ
トツバテンナンショウ、ミミガタテンナンショウ、ヒンジモ、イズドコロ、キバナノアマナ、チ
ャボホトトギス、ナツエビネ、ナギラン、クマガイソウ、イチヨウラン、ハルザキヤツシロラン、
カゲロウラン、ヒメムヨウラン、ウチョウラン、ニョホウチドリ、ミズチドリ、ツレサギソウ、
オオヤマサギソウ、ヤマトキソウ、ムカデラン、キバナノショウキラン、カキツバタ、ヤマトミ
クリ、イトテンツキ、ミヤマジュズスゲ、オオタマツリスゲ、ホソバヒカゲスゲ、スルガスゲ、
ジングウスゲ、オニナルコスゲ、コツブヌマハリイ、アズマガヤ、ウンヌケ、ハネガヤ、リシリ
カニツリ、カザグルマ、ハコネシロカネソウ、ミスミソウ、フッキソウ、コウヤミズキ、ヤシャ
ビシヤク、ヒトツバショウマ、マツノハマネングサ、ミヤマトベラ、キンロバイ、ハコネグミ、
クロツバラ、ジゾウカンバ、ノウルシ、サクラスミレ、キスミレ、アサマフウロ、トダイアカバ
ナ、チョウセンナニワズ、クモマナズナ、ミヤマツチトリモチ、ヌカボタデ、オオビランジ、シ
コタンハコベ、オオサクラソウ、コイワザクラ、ホソバノツルリンドウ、ムラサキセンブリ、チ
ョウジソウ、ハマネナシカズラ、オオアブノメ、トラノオスズカケ、ラショウモンカズラ、ヒメ
ハッカ、ヤマジソ、シマジタムラソウ、ヒメナミキ、イズコゴメグサ、イヌタヌキモ、タヌキモ、
ツルギキョウ、キキョウ、ガガブタ、トダイハハコ、キタダケヨモギ、ユキヨモギ、シブカワシ
ロギク、ウラギク、アキノハハコグサ、ヤナギタンポポ、ホソバニガナ、スルガヒョウタンボク、
チシマヒョウタンボク、ニッコウヒョウタンボク、ミシマサイコ、ホソバハナウド

【準絶滅危惧】

ジュンサイ、オトメアオイ、シラン、マメツタラン、ムギラン、ミヤマムギラン、エビネ、キンラン、セッコク、タシロラン、クロヤツシロラン、ウスギムヨウラン、ミクリ、ナガエミクリ、センダイスゲ、ヤマシヤクヤク、キバナハナネコノメ、ムカゴネコノメソウ、ツメレンゲ、タコノアシ、サンショウバラ、サクラバハンノキ、コオトギリ、ミズマツバ、ウスゲチョウジタデ、サクラガンピ、ヤナギヌカボ、アマギツツジ、アマギシヤクナゲ、アシタカツツジ、シブカワツツジ、イヌセンブリ、スズサイコ、アオホオズキ、イヌノフグリ、カリガネソウ、タチキランソウ、マネキグサ、ミゾコウジュ、オオヒキヨモギ、サワギキョウ、タテヤマギク、イズカニコウモリ、モリアザミ、ワタムキアザミ、イズハハコ、カワラニガナ、タカネコウリンカ

【要注目種：現状不明】

ヤマブキソウ

【要注目種：分布上注目種等】

ヒナガリヤス、ムラサキモメンヅル、ビロードイチゴ、モクレイシ、ウンゼンツツジ、ヒロハコンロンカ、トウヤクリンドウ、シブカワニンジン、ミツガシワ

【要注目種：部会注目種】

アスヒカズラ、ミゾシダモドキ、ヌカイタチシダモドキ、アオネカズラ、ウスバサイシン、バリバリノキ、ミツバテンナンショウ、ヒナノシヤクジョウ、アマナ、オオウバユリ、カタクリ、ギンラン、アオキラン、アケボノシュスラン、ヒメフタバラン、アオフタバラン、ホザキイチヨウラン、アリドオシラン、ヒトツボクロ、コキンバイザサ、ヒメニラ、オオキツネノカミソリ、サツマスゲ、コマツカサススキ、コウヤザサ、ヤマトボシガラ、ハクサンイチゴツナギ、ムカゴツヅリ、イチリンソウ、キクザキイチゲ、アズマイチゲ、レンゲショウマ、ツゲ、ムカゴユキノシタ、アズマツメクサ、カワラサイコ、ミヤマモミジイチゴ、カラハナソウ、ミヤマニガウリ、イワウメヅル、ヒゴスミレ、コイヌガラシ、ナガバノウナギツカミ、ヒゲネワチガイソウ、モロコシソウ、イナモリソウ、フナバラソウ、アシタカジャコウソウ、ホナガタツナミソウ、ヒキヨモギ、キヨスミウツボ、イワシヤジン、シデシヤジン、ノッポロガンクビソウ、ミズギク、ノニガナ、ヤマヒョウタンボク、レンプクソウ、ナベナ

2. 菌類（キノコ類）

（１）静岡県における生育種及び分布の特性

菌類の中で、キノコとよばれる、肉眼で確認できる子実体を形成する子囊菌及び担子菌を対象とした。現在国内のキノコ類は、子囊菌類、担子菌類合わせて 6,000 種ほどともいわれる。過去の記録、及び今回の調査結果から正式記載種でないものも含めて、子囊菌門で 5 綱 8 目 29 科 156 種、担子菌門は 3 綱 16 目 70 科 1,142 種合計 1,298 種を確認した。

県内は温暖で降水量に恵まれ、さらに海岸から富士山及び南アルプスまで標高差が大きく、暖温帯、冷温帯、亜高山帯、高山帯まで多様な植生があり、生育環境がある。このため、標高の低いところでは南方系の、標高の高いところでは北方系の種が確認される。

（２）調査の概要

キノコ類を対象として、現地調査及び文献調査を実施した。新規の分類群で県内全域での長期にわたるキノコ類全般の発生調査のデータはない。1985 年発足の「静岡木の子の会」は当初今関六也先生、本郷次雄先生にご指導いただいた。菌類部会は「静岡木の子の会」の会員及び「日本冬虫夏草の会」会員からなり、2009 年から 2019 年まで現地調査を行った。その結果及び、主に「静岡木の子の会会報」「日本冬虫夏草の会」の活動記録により検討した。菌類の本体は基質中（土壌、菌根、落葉落枝、木材、昆虫など）に広がる菌糸であるが、種の同定は繁殖器官である子実体の形質によった。子実体の発生期間は長い種もあるが、短い種が多い。同じ調査地においても、短期間で発生する種は変化する。雨量、気温などの気象条件によっても発生状況が変化しやすい。また数年サイクルで子実体を形成する種もある。県内の自然環境は多様で、調査地は多く、少数の部会員での調査で、全般に調査不足の状態である。半地下に子実体を発生させる地下生菌、非食用で微小な子実体を形成する種などについては、特に調査不足である。

（３）レッドリスト種の選定経緯

従属栄養生物であるキノコ類は、栄養獲得方法により、主に植物遺体を栄養源とする腐生性のキノコ（以下腐生菌）、国内では主にマツ科、ブナ科、カバノキ科などの樹種を宿主として菌根共生する外生菌根性のキノコ（以下外生菌根菌）、昆虫、クモ、地下生菌などの寄生菌である冬虫夏草類、樹木病原菌などの寄生性のキノコに大きく分けられる。

腐生菌では、生育環境が海浜砂地、湿地、冷温帯、亜高山帯などに限定され、かつ栄養源が減少している種を主に選定した。外生菌根菌では、菌根共生する宿主樹種が減少するに伴って減少している種、競合する微生物の少ない痩せ地を好むなど生育環境が限定され、その生育環境が悪化している種を主に選定した。冬虫夏草類では多湿環境などに生育環境が限定される種を選定した。

（４）レッドリストの改訂で明らかになった点

掲載種数は 98 種で、絶滅危惧ⅠB類(EN)11 種、絶滅危惧Ⅱ類(VU)15 種である。海浜砂地、貧栄養土壌のマツ林及び林内の湿地を生育環境とする種が多い。自然な海岸砂浜、林内の湿地、老齢樹を含む様々な樹齢、多様な樹種が生育する天然林のなどの生育環境が、開発、伐採、人工林化などにより減少していると考えられる。

（５）減少の主要因と脅威

遠州灘の砂地には、環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類のコナガエノアカカゴタケに加えてスナヤマチャワンタケ、アバタケシボウズタケなどの腐生菌が生育する。これらの種の生育環境は国内で

は海岸砂地に限られるようであるが、近年砂浜の減少、工事による砂の掘り返し、猛暑が続いて砂地表面の気温が高い状態が続くなど、急速に生育環境が悪化し、子実体の発生は減少している。環境省の絶滅危惧Ⅱ類のアカダマノオオタイマツは、県内も分布地となっているが、今回の調査では確認できなかった。

海岸林のショウロ(DD)、里山のホンシメジ(VU)、マツタケ(VU)など、古くから食用キノコとしてなじみ深いこれらの外生菌根菌は、条件が整えば発生は多く、人の生活との関係でその生育環境を確保してきたといえるが、県内では近年著しく減少している。要因として戦後の人工林の増加、生活の中で行われていた松林、雑木林での落葉掻きなどが行われなくなり、林床に落葉が堆積して富栄養化、遷移が進行、さらに1980年代までは里山に多くみられたアカマツが、外来種のマツノザイセンチュウによる松枯れで、非常に減少したことなどが挙げられる。現在はカシノナガキクイムシが媒介する病原菌によるナラ枯れで、ブナ科樹種の減少が県内でも起きている。発生数が減少した食用キノコでは胞子が成熟する前に採取されることが多く、胞子の散布も阻害されている。

また暖温帯から冷温帯上位までの林内の湿地などの多湿環境に生育する種においても、開発などによるその減少で生育環境が悪化している。

(6) 注目される種のカテゴリーと変更理由

特に注目される該当種はない。

(7) 考えられる保全対策、今後の留意点

現在の生育環境をできるだけ保持し、さらに里山の雑木林を増やしていきたい。外生菌根菌では、宿主樹種の生育する森林の保全が必要である。海岸林、里山で人間の活動により生育環境が維持されてきた種では、林床の手入れをすることによる生育環境の保全が必要となる。老齢樹の生立木、倒木は腐生菌の生育場所として貴重である。腐朽の進行に伴い生育する腐生菌の種類も変化する。多様な樹種、様々な樹齢の樹木が生育する自然林では、腐生菌、外生菌根菌の種も豊富で、森林内の物質循環も円滑に行われる。冬虫夏草類の天敵微生物としての働きも大きい。林床では、落葉分解菌、外生菌根菌の菌糸が生育している。登山道以外の人間の踏みつけが多いとこれらの生育環境を悪化させる可能性がある。またニホンジカ食害による下層植生の減少が、林床の乾燥化、稚樹の減少に影響を及ぼす可能性がある。夏の気温が高い状態も菌糸の生育に影響する可能性があり、調査していく必要がある。

(8) 文献(多くの種で参考とした文献)

金子繁・佐橋憲生(1998)ブナ林をはぐくむ菌類. 文一総合出版, 東京, 229 pp.

勝本謙(2010)日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄(2011)日本のきのこ 増補改訂新版. 山と溪谷社, 東京, 639 pp.

(池ヶ谷のり子)

スナヤマチャワнтаケ *Peziza ammophila* Durieu & Mont. 1847

チャワнтаケ科 Pezizaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体は秋から初冬に、海岸の砂地に発生。子嚢盤は茶褐色、初め球形、のち頂部が開口し、深い茶碗形となる。径2~4 cmで、茶碗の内側に子嚢胞子を作る。有柄で、子実体の下部は菌糸によって砂と固められ、5 mm程度の柱状の塊となる。子嚢胞子は楕円形、平滑である。

2.分布

国外では北ヨーロッパ、北アフリカに、国内では本州、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3.生育環境

海岸の防風林と波打ち際の間の砂浜で、わずかに海浜植物が生えている砂地中で植物遺体を分解して生育する。

4.生育状況

県内に生育環境を満たす砂浜が少なく、発生場所はごく限られている。2010年くらいまでは、比較的子実体の発生が確認された場所においても、最近では非常に発生が減少している。

5.減少の主要因と脅威

海浜植物の枯死根を栄養源として生育し、気温が低下した秋から冬に子実体を発生させていると考えられる。しかし生育環境を満たす砂浜が減少傾向にある。近年は生育が確認されている砂浜において掘り返しなどが行われ、砂中の枯死根の変化など生育環境が悪化したためか、子実体の発生が著しく減少している(14)。

また残暑で砂地表面の高温状態が長く続いたためか、子実体の発生時期が遅くなり、発生適温期間が短くなっている可能性がある(71)。

6.保護対策

砂浜の植生状態を維持する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

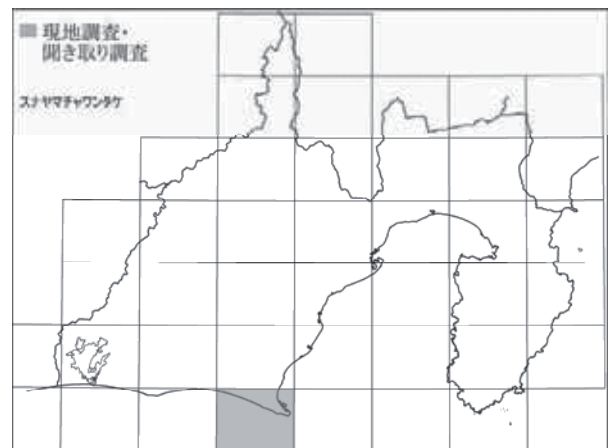
- 池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.
- 伊藤勝啓 (2010) 遠州の砂浜のキノコ. 静岡木の子の会会報, (8): 42-43
- 勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.
- 工藤伸一 (2017) 青森県産きのこ図鑑. アクセス二十一出版, 青森, 535 pp.
- 大谷吉雄 (1982) 興味深い日本産チャワнтаケ2種について. 日菌報, 23: 379-384

9.標本

静岡県産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 H. Kishizawa
静岡県 2013年11月13日 岸澤広晶



(岸澤広晶)

ハヤカワセミタケ *Metarhizium owariense*

(Kobayasi) Kepler, Rehner & Humber 2014

バツカクキン科 Clavicipitaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -)] [環境省カテゴリー 絶滅危惧 I類 (CR+EN)]

1.種の解説

セミの幼虫に寄生する冬虫夏草（昆虫・クモ・地下生菌などの寄生菌）。子実体は未熟時に淡い黄色、成熟すると深いオリーブ色を呈する。宿主は静岡県においてはニイニゼミのような小型なセミの幼虫が多い。子嚢胞子は糸状で、二次胞子に分裂しない。

2.分布

国内では本州（静岡県、愛知県、京都府）、四国（香川県）に、県内では西部に分布する。

3.生育環境

非常に湿度の高い低地の広葉樹林内（沢筋など）の林床に発生する。発生は局地的で、発生箇所でも群生することはない。

4.生育状況

県内では西部のみで確認され、うち1ヶ所が近年開発により消失した。

5.減少の主要因と脅威

本種の成熟には多湿、高温が維持できる環境が必要だと考えられる。また、寄生菌であることからセミの幼虫が毎年大量に発生しなければならない。このような環境が広葉樹林であるが、一般的には雑木であるため、開発や樹種転換など（11）で消失するリスクが高い。

6.保護対策

生息地の多湿な広葉樹林が静岡県内では希少なため、過度な伐採を避け、現在の植生と多湿環境を維持することで生息環境の保護を図る。

7.特記事項

静岡県内の発生地の一つは日本有数の本種発生地である。宿主が生息していても、菌自体の生息環境としての湿度、温度が損なわれると発生しなくなると考えられる。

8.主な文献

勝本 謙（2010）日本産菌類集覧．日本菌学会関東支部，船橋，1177 pp.

日本冬虫夏草の会 編（2014）冬虫夏草生態図鑑．誠文堂新光社，東京，303 pp.

9.標本

静岡県産：静岡県立森林公園バードピア浜北

（大塚健佑）



静岡県 2016年7月3日 大塚健佑



クサギムシタケ *Cordyceps hepialidicola* Kobayasi & Shimizu 1983

サナギタケ科 Cordycipitaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -)] [環境省カテゴリー 絶滅危惧 I類 (CR+EN)]

1.種の解説

コウモリガ類の幼虫に寄生する冬虫夏草（昆虫・クモ・地下生菌などの寄生菌）。地中にある根から発生するため、外見は地面から発生しているように見え、子実体は棍棒形で黄色を呈する。子嚢胞子は細い糸状、二次胞子は円筒形。

2.分布

国内では全国で点々と、県内では西部に分布する。

3.生育環境

非常に湿度の高い低地の沢沿いなどに生えるクサギの根に潜行するコウモリガ類の幼虫から発生する。単生の傾向がある。

4.生育状況

県内では西部のみで確認され、うち1ヶ所が近年開発により消失した。

県内の発生地からは今のところごく少数しか確認されていない。

5.減少の主要因と脅威

本種の成熟には多湿、高温が維持できる環境が必要だと考えられ、基本的にクサギの根に潜行する幼虫から発生が確認されている。クサギは一般的には雑木であるため、雑木の処理など(11)で生育地が消失するリスクが高い。

6.保護対策

生育地におけるクサギの伐採を避ける。また、過度な伐採による多湿環境の乾燥化も防ぐ必要がある。

7.特記事項

宿主が生息していても、菌自体の生育環境としての湿度、温度が損なわれると発生しなくなると考えられる。

8.主な文献

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

日本冬虫夏草の会 編 (2014) 冬虫夏草生態図鑑. 誠文堂新光社, 東京, 303 pp.

9.標本

なし。



静岡県 2015年8月8日 大塚健佑



(大塚健佑)

ツクツクボウシセミタケ *Cordyceps kobayasi*

Koval, Klavitsipital'nye Griby 1984.

サナギタケ科 Cordycipitaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

セミの幼虫に寄生する冬虫夏草(昆虫・クモ・地下生菌などの寄生菌)。子実体は棍棒形、未熟時に淡い黄色、黄褐色を呈する。宿主は主にツクツクボウシだが、他のセミの幼虫にも寄生する。子嚢胞子はヌンチャク形、両端は棍棒形。二次胞子に分裂しない。

2.分布

国外では中国、国内では本州(神奈川県以西)、四国(香川県)に、県内では東部に分布する。

3.生育環境

湿度の高い広葉樹林内や公園の林縁の林床に発生する。アナモルフのツクツクボウシタケが多量に発生した際に混在することが多く、公園内で大量発生した際に本種が混在していた。

4.生育状況

静岡県東部の1ヶ所のみで確認され、以降1回も確認されていない。

5.減少の主要因と脅威

寄生菌であることからセミの幼虫が毎年大量に発生しなければならない。このような環境が広葉樹林や公園であるが、公園整備や樹種転換など(11)で消失するリスクが高い。また、ツクツクボウシタケが大量に発生可能な環境が必要であると考えられ、少しの環境変化でも消失すると思われる。

6.保護対策

生育地において、セミの幼虫の餌となる樹木の伐採を避けセミ自体の減少を避ける。また、樹木の伐採を避けることは本種の生育環境である多湿環境の保護にも繋がる。

7.特記事項

宿主が生息していても、菌自体の生育環境としての湿度、温度が損なわれると発生しなくなると考えられる。

8.主な文献

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

日本冬虫夏草の会 編(2014)冬虫夏草生態図鑑. 誠文堂新光社, 東京, 303 pp.

9.標本

なし。



静岡県 2003年8月20日 小倉辰彦



(大塚健佑)

スズキセミタケ *Purpureocillium takamizusanense*

(Kobayasi) S. ban, Azumma & Hirok Sato 2015

オフィオコルジケプス科 Ophiocordycipitaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -)] [環境省カテゴリー 絶滅危惧 I類 (CR+EN)]

1.種の解説

セミの成虫に寄生する冬虫夏草（昆虫・クモ・地下生菌などの寄生菌）。本種はテレオモルフ（有性世代）。アナモルフ（無性世代）はセミノハリセンボンで、こちらは県内でふつうに見られる。宿主のセミは半分程度地面に埋まっていることが多く、棍棒状の子実体を形成する。未熟な時は淡橙褐色で、成熟するにつれ黒色を呈する。同一宿主にセミノハリセンボンが共存することが多い。子嚢胞子は糸状で、二次胞子に分裂する。

2.分布

国内では岩手県から愛媛県にかけて点々と、県内では中部、西部に分布する。

3.生育環境

非常に湿度と温度が高く、セミが多く生息する低地の森林に発生する。群生する傾向がある。

4.生育状況

静岡県内の発生地からは今の所ごく少数しか確認されていない。

5.減少の主要因と脅威

本種の成熟には多湿、高温が維持できる環境が必要だと考えられる。セミノハリセンボンの寄生を受け、分生子柄束が発生したセミが良好な環境で越冬し、その後スズキセミタケの子実体が発生するものと思われ、冬場でもある程度の気温、湿度が維持できる環境が必要である。樹種転換や開発など（11）で環境条件が変わり、消失するリスクが高い。

6.保護対策

生育地である低地の森林における過度な伐採を避け、多湿環境の維持を図る。

7.特記事項

宿主が生息していても、菌自体の生息環境としての温度、湿度が損なわれると発生しなくなると考えられる。

8.主な文献

勝本 謙（2010）日本産菌類集覧．日本菌学会関東支部，船橋，1177 pp.

日本冬虫夏草の会 編（2014）冬虫夏草生態図鑑．誠文堂新光社，東京，303 pp.

高山壽彦（2011）スズキセミタケについて．自然史しずおか，（35）： 7

9.標本

なし。



©2020 K.Otsuka
静岡県 2016年7月30日 大塚健佑



（大塚健佑）

1.種の解説

腐生菌。子実体は晩秋と春に、海浜砂地に発生。子実体は丸い頭部と棒状の柄からなり、幼時地中において、成長につれて、柄が伸びて灰色の頭部を地表に押し出す。頭部の殻皮は外皮と内皮からなり、実質的な頭部は内皮で形成され、表面に外皮の名残などが内皮と渾然一体となって残り、あばた面となるものが多い。頂部には筒状の頂孔が開く。担子胞子は球形から類球形で、いぼ状突起に覆われる。

2.分布

国外では南アフリカ、マダガスカル、オーストラリア、マレーシアに、国内では本州（鹿島灘、九十九里浜、東京湾、遠州灘、伊勢湾）から九州に至る広い範囲に分布する。県内では西部に分布する。



静岡県 2013年5月6日 小倉辰彦

3.生育環境

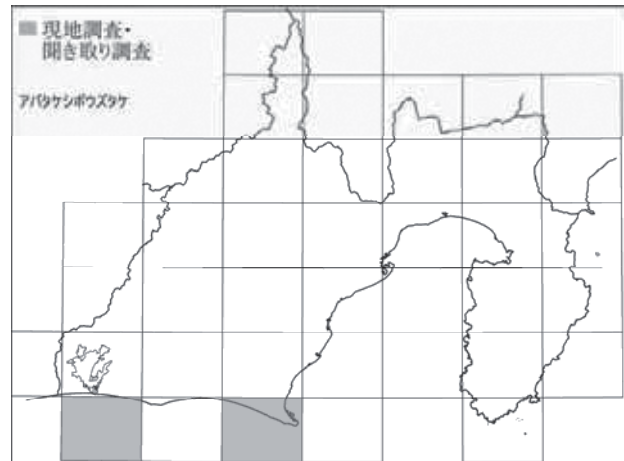
海浜砂地のコウボウムギなどが生育しているところで、これら海浜植物の砂中の枯死根などを栄養源として生育している。子実体は気温が低下した晩秋または春に形成される。

4.生育状況

遠州灘の海浜砂地に生育する。近年子実体発生は減少傾向にあり、確認できない年もある。

5.減少の主要因と脅威

生育環境である自然な海浜砂地は急激に減少している。また砂の掘り起こしなどにより、砂中の環境が変化して栄養が取れなくなるためか、生育できなくなっている(14)。遠州灘は海浜に発生するキノコ類の宝庫とされるが、現在よりさらに砂浜が減少し、生育環境が変化すると、絶滅する可能性がある。



6.保護対策

生育地の海浜砂地の状況と植生などの自然環境を、現状のまま維持・保全する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

Asai I. & Y. Asai (2008) New records of two *Tulostoma* species from Japan. *Mycoscience*, 49(6): 399-402

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

9.標本

静岡県産：ふじのくに地球環境史ミュージアム

(小倉辰彦)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は秋から初冬に2針葉マツ林内地上に発生。傘は径5~10 cm、まんじゅう形から中丘扁平で、ほぼ硫黄色から黄色を帯びる。表面に淡黄色の小鱗片を生じ、中央部で小鱗片は密になっている。湿時弱い粘性がある。ひだは萌黄色で密。柄は幼時基部がふくらむが、のちにほぼ上下同径となる。表面は繊維状。肉はほぼ白色、味は温和で苦味はない。担子胞子は広楕円形である。

2.分布

北半球の2針葉マツ分布域に分布する。県内では西部に分布する。

3.生育環境

主に砂浜海岸後背地のクロマツ林で、菌根共生して生育するが、山地のアカマツ林でも生育することがある。

4.生育状況

マツ林の利用が減少し、手入れが行き届かないため、林床に落ち葉が堆積し、微生物が増加するなどして生育に適さなくなった。

かつては海岸の防風林の一部に群生していたが、津波防潮堤の建設に伴いクロマツ林が消失した。また、山地のアカマツ林にも稀に発生したが、マツ枯れにより環境が悪化し近年は見られない。

5.減少の主要因と脅威

腐植の少ない海岸の砂地クロマツ林に生育するため、マツ林管理不足により生育適地が減少(53)している。マツ枯れによる宿主樹木の減少(71)により著しく減少している。

6.保護対策

生育するマツ林の環境整備と、マツ枯れ対策が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編 (2008) 日本きのこ図版 第1巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 815 pp.

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編 (1987) 原色日本新菌類図鑑 (I). 保育社, 大阪, 325 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

伊藤誠哉 (1959) 日本菌類誌 第二巻・第五号. 養賢堂, 東京, 658 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

9.標本

静岡県産：ふじのくに地球環境史ミュージアム

(小倉辰彦)



静岡県 2014年12月2日 小倉辰彦



ヒヨリヒメツチグリ *Geastrum kotlabae* V. J. Stanek 1958

ヒメツチグリ科 Geastraceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。幼子実体は8~10月に砂浜地中に発生、外皮の裂開が始まると地表に現れる。類球形で、径13~16 mm、基部に根状菌糸束をもつ。外皮は湿時6~9片の星形に裂け、乾燥時収縮して内皮を覆う。外皮内層は乾燥時褐色、湿時黄褐色。内皮は黄褐色、紙質、径8~16 mm、柄を欠く。グレバ(基本体)は粉状、暗色。内皮の頂部に、ひだ状、暗褐色、上部で吻合する孔縁盤をもつ。担子胞子は球形で径5.5~7 μm、あらいいぼ状突起に覆われ、褐色である。

2.分布

国外ではユーラシア大陸及びメキシコに分布し、ヨーロッパを中心とした北半球温帯以北に広く分布していると考えられている。国内では本州(茨城県、千葉県、新潟県、富山県、静岡県)に分布し、県内では西部で確認されている。

3.生育環境

国内ではコウボウムギなどの海浜植物が優占する海岸の砂浜でそれらの枯死根などを栄養源として生育し、砂質土壤に特異的に生育する菌であるとされる。世界的には内陸の砂地、荒れ地、草原などの乾燥地から半乾燥地を中心に生育する。

4.生育状況

生育環境は近年悪化している。子実体は一年程度残存するというが、確認回数は少ない。

5.減少の主要因と脅威

県内では砂浜海岸の減少に加えて、砂の掘り起しなどが行われ、生育環境が悪化している(14)。

6.保護対策

現在の生育環境に、砂の掘り起しなどの手を加えないよう、現状の保持が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

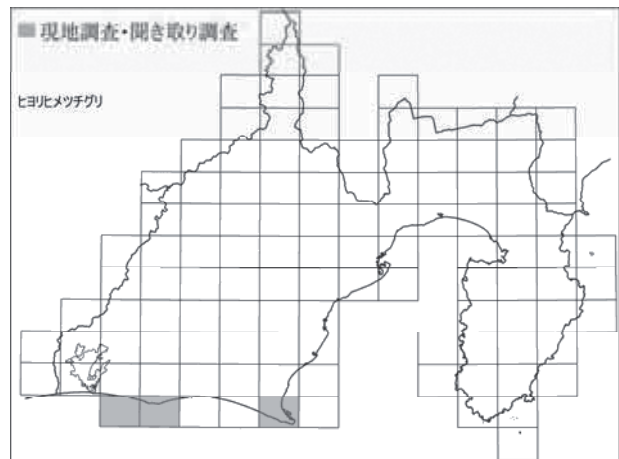
坂本晴雄・糟谷大河(2008) 砂浜海岸から採集された日本新産種 *Geastrum kotlabae*. 日菌報, 49: 59-63

9.標本

静岡県産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 N. Ikegaya
静岡県 2013年11月16日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

アンドンタケ *Clathrus ruber* P. Micheli ex Pers. f. *kusanoi* Kobayasi 1938

スッポンタケ科 Phallaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、広葉樹林内地上に発生。幼時、径2 cmほどの白色の球形で、表面に亀甲状の溝線がある。成熟すると外皮が開裂し5~6本の腕(柱状托)とこれらを横に結び合う枝腕(格子托)とで9個前後のカゴ目をなした釣鐘状のカゴとなる。カゴは鮮紅色で内側に暗褐色のグレバをつけ、悪臭を放つ。カゴ状の形態は長持ちせず先端部から二つに割れて広がる。担子胞子は長楕円形で平滑である。



静岡県 2015年8月9日 大塚健佑

2.分布

国内では本州(東京都、千葉県、静岡県、愛知県)に、県内では西部に分布する。

3.生育環境

丘陵帯で、広葉樹林内の腐植を分解して生育する。

4.生育状況

子実体の発生自体が稀な種で、県内においても西部の限られた場所で確認されているのみである。

5.減少の主要因と脅威

生育環境である里山の広葉樹林が、スギ、ヒノキの植林化(11)、宅地化(23)に伴い減少している。さらに生育環境が限られ、生息地周辺の植林の伐採、山肌の崩壊などにより環境が変わると絶滅する危険がある。

6.保護対策

生育地の林の状態と環境を、現状のまま維持・保全する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑(Ⅱ). 保育社, 大阪, 402 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

伊藤勝啓(2007)珍菌・アンドンタケを見つけました. 静岡木の子の会会報, (7): 36

伊藤誠哉(1959)日本菌類誌 第二巻・第五号. 養賢堂, 東京, 658 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

工藤伸一(2009)東北きのこ図鑑. 家の光協会, 東京, 271 pp.

幼菌の会 編(2001)カラー版きのこ図鑑. 家の光協会, 東京, 335 pp.

9.標本

静岡県産: ふじのくに地球環境史ミュージアム

(小倉辰彦)



コナガエノアカカゴタケ *Lysurus periphragmoides* (Klotzch) Dring 1988

スッポンタケ科 Phallaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B 類 (EN) (要件 -)] [環境省カテゴリー 絶滅危惧 II 類 (VU)]

1.種の解説

腐生菌。子実体は初夏または初冬に、海浜砂地に単生から散生。砂上に姿を現している部分は少なく、頭部と柄の上部を見せている場合が多い。菌蕾は白色で、類球形から卵形。成熟すると托を伸ばし高さ 5~10 cm、ピンク色から橙色。托の上部にはピンク色から橙色で網目をもったカゴ状で類球形の頭部をもつ。グレバは粘液状で頭部に形成され、オリーブ色から褐色、強い刺激臭を発する。担子胞子は長楕円形である。



静岡県 2013年5月11日 池ヶ谷のり子

2.分布

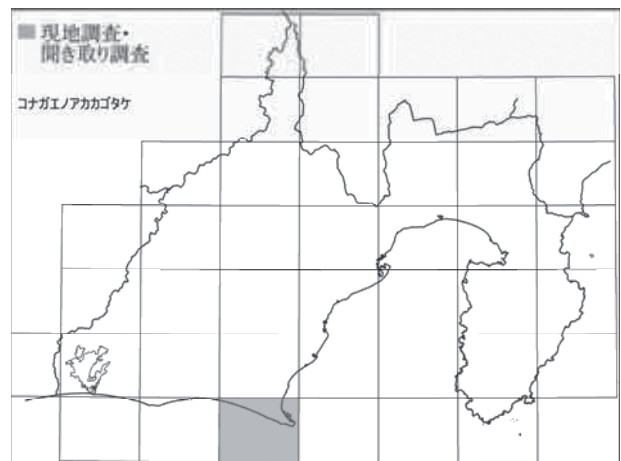
国外ではアフリカ、アジア、北アメリカ、南アメリカなど世界の熱帯に広く分布する。国内では本州（茨城県、千葉県、静岡県、愛知県）に、県内では西部に分布する。

3.生育環境

砂地を好み、海岸の汀線の近くで、コウボウムギなどの海浜植物がまばらに生える砂浜に生育する。根状菌糸束を長く伸ばし、コウボウムギなどの海浜植物の枯死した根部などから栄養を摂取している。

4.生育状況

生育に適する海浜砂地が減少しており、生育環境は非常に限定されている。子実体の発生数も少ない。子実体が砂上に出現している期間が短いため確認は難しいが、砂浜の掘り返しによる砂中の生育環境の変化の影響を受けてか、子実体発生数は減少している。



5.減少の主要因と脅威

生育環境がきわめて限られていることと、防波堤工事、防風林工事、堆砂垣工事などで砂浜が攪乱されると、急速に生育場所が失われるおそれがある (14)。

6.保護対策

本種の生育する砂浜の現状変更を禁止するなど、生育場所を積極的に保護する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

伊藤勝啓 (2010) 遠州の砂浜のキノコ. 静岡木の子の会会報, (8): 42-43

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

9.標本

静岡県産: ふじのくに地球環境史ミュージアム

(真橋祐次郎)

オオムラサキアンズタケ *Cantharellus purpuraceus* Iwade 1944

アンズタケ科 Cantharellaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は秋に針葉樹・広葉樹混生林内地上に発生。子実体の高さは8~20 cm前後で、じょうご形、へら形、浅い臼形などが寄り集まって形成される。縁部は波打つ。子実層托はしわ状で、隆起は深くない。色は全体が鮮やかな紫色から紫青色をしているが、老時退色してくすんだ紫色になる。柄は合生し、傘と同色。肉は白色。匂いはない。胞子紋は暗褐色。担子胞子は楕円形、平滑である。

2.分布

日本固有種で、温帯に分布し（本州に分布するが、それ以外は不明）、県内では西部に分布する。

3.生育環境

県内では、丘陵地の針葉樹・広葉樹混生林内で菌根共生して生育するが、生育場所はごく限定される。

4.生育状況

生育場所が限定され、子実体の発生量も減少している。

5.減少の主要因と脅威

生育場所が限定される原因として地質的な環境の可能性も考えられる。生育に適した土壌が県内では限られた場合、その地域でのスギ、ヒノキの植林化(11)、マツ枯れ、ナラ枯れ(71)による宿主樹木の減少は、本菌の生育環境の悪化の主要因になると考えられる。

6.保護対策

生育地の林の状況と環境を現状のまま維持・保全する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編 (2008) 日本きのこ図版 第5巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 795 pp.

細矢 剛・埋橋志穂美・保坂健太郎・工藤伸一 (2016) 日本産固有菌類目録の作成に向けて 生物多様性データベースを利用した日本固有のきのこリスト作成の試み. 日菌報, 57: 77-84

今関六也・本郷次雄 編 (1989) 原色日本新菌類図鑑 (II). 保育社, 大阪, 402 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 177 pp.

武藤治彦 (2007) 静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ—静岡県内—(1990~2006). 静岡木の子の会会報, (7): 14-25

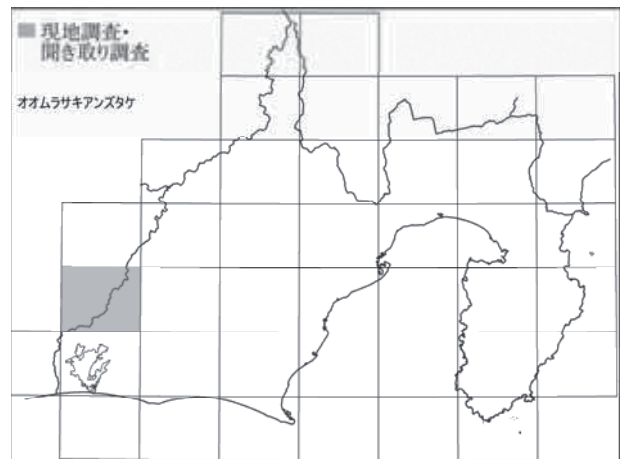
幼菌の会 編 (2001) カラー版 きのこ図鑑. 家の光協会, 東京, 335 pp.

9.標本

なし。



静岡県 2008年10月29日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、ブナなどの倒木上に発生。弾力ある肉質の塊状で、幅は5~12 cm、高さ3~7 cm程度。成熟した典型的なものでは共通の基部からくさび形や不規則な花びら形などの突起を生じ、全体として鶏冠状となる。表面は平滑もしくは微細な縦皺を生じ、灰黄緑色からオリーブ褐色。子実層は突起の表面全体に形成される。子嚢胞子は楕円形、平滑である。

2.分布

日本特産種で、国内のブナ林に分布する。県内においても各地域のブナ林に分布する。

3.生育環境

ブナ帯で、主にブナの倒木に生育する。

4.生育状況

県内各地域のブナ倒木上に子実体が発生していたが、近年発生数は非常に減少している。2004年以降確認されているのは東部だけである。

5.減少の主要因と脅威

伐採によるブナ林の減少 (11) 及び林内の生育に適したブナ倒木の減少 (71) が考えられる。

6.保護対策

生育場所であるブナ林の状況と環境を現状のまま維持・保全する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編

(2008) 日本きのこ図版 第6巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 388 pp.

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編 (1989) 原色日本新菌類図鑑 (II). 保育社, 大阪, 402 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

環境庁 編 (2000) 改訂・日本の絶滅のおそれのある 野生生物—レッドデータブック—9 植物II (維管束植物以外). 自然環境研究センター, 東京, 429 pp.

武藤治彦 (2007) 静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ—静岡県内—(1990~2006). 静岡木の子の会会報, (7): 14-25

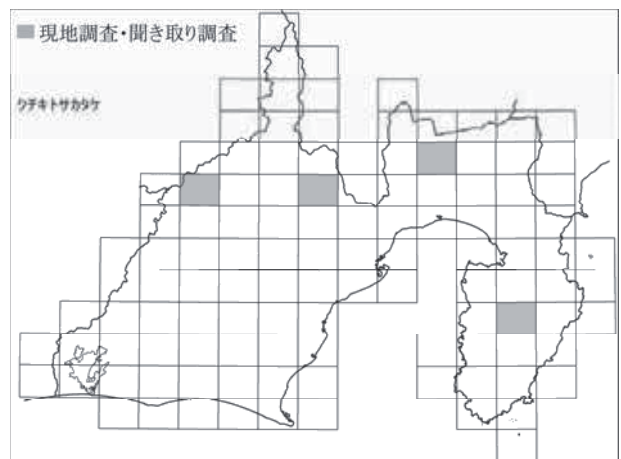
Otani Y. (1974) *Ascoclavulina*, a new genus of Discomycetes. *Trans. Mycol. Soc. Japan*, 15: 1-6

9.標本

なし。



富士宮市 2004年7月23日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

1.種の解説

腐生菌。子実体は春から初夏に、混生林内の湿り気のある落葉層に発生する。子嚢果(子実体)は柄と頭部(子嚢盤)からなり、高さ2~5 cm。子嚢盤は黄~橙黄色、直径5~10 mmの類球形から卵形から棍棒形で鈍頭。柄と明瞭に区別される。柄は長さ2~4 cm、幅2~3 mmの円柱形で、平滑、白色。子嚢胞子は円筒形から狭紡錘形、隔膜はふつうなく一室である。

2.分布

国外ではアジア、ヨーロッパ、北アメリカの温帯に分布する。国内においても温帯に分布する。県内では西部に分布する。

3.生育環境

湿地、ゆるやかな流水中、林内の水たまりに堆積した落葉に生育する。

4.生育状況

子実体発生確認地に限られる。現在十分な調査はなされていないが、堆積物が多く常時微かな流れがある場所で子実体発生が確認されているのに対し、落葉落枝が流されるような強さの水流の場所、逆に完全に淀んでいる場所では確認されていない。

5.減少の主要因と脅威

分布域に限られ、発生量も少ないので確認例が少なく不明であるが、適度に遮光された林内の湿地の減少が要因として挙げられる(15)。

6.保護対策

現在の生育環境に手を加えないよう、現状の保全が必要とされる。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

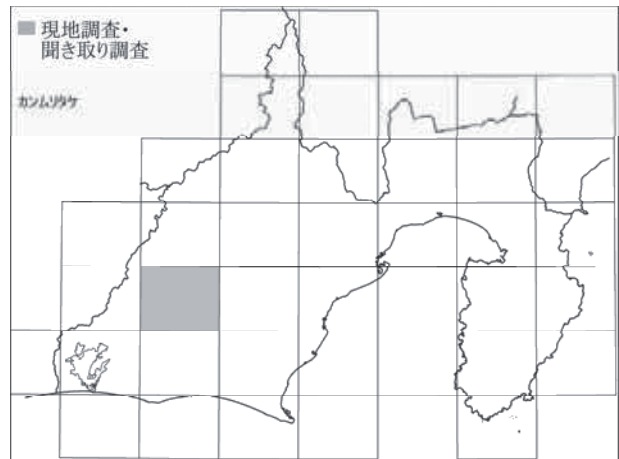
- 青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編(2008) 日本きのこ図版 第6巻, 日本きのこ同好会 2, 神戸, 388 pp.
- 本郷次雄 監修(1994) 山溪フィールドブックス 10 きのこと。山と溪谷社, 東京, 383 pp.
- 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社, 東京, 648 pp.
- 勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.
- 川村清一(1954) 原色日本菌類図鑑(7)。風間書房, 東京, 709 pp.
- 横田勇治(2010) カンムリタケの観察と検鏡。静岡木の子の会会報, (8): 33

9.標本

静岡県産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡県 2015年3月30日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

フトクビクチキムシタケ *Tolypocladium inflatum* W. Gams 1971

オフィオコルジケプス科 Ophiocordycipitaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件 -)] [環境省カテゴリー 準絶滅危惧 NT]

1.種の解説

甲虫の幼虫に寄生する冬虫夏草(昆虫・クモ・地下生菌などの寄生菌)。ハスノミ形の子実体を形成する。白色を呈する。子嚢胞子は糸状。二次胞子に分裂する。

2.分布

国外では北アメリカなどに、国内では東北地方以南に点々と分布する。県内では中部に分布する。

3.生育環境

比較的冷涼で、湿度の高い広葉樹林内(ブナ林など)の倒木中の甲虫の幼虫から発生する。発生箇所には群生する。柄の部分は材の中にあるため、外見上は材の表面からハスノミ形の子実体のみが出ている。

4.生育状況

県内では1ヶ所のみで確認されている。

5.減少の主要因と脅威

発生環境である冷涼かつ湿度の高い広葉樹林が県内には少なく、樹種転換による伐採(11)など環境が変わるリスクにさらされやすい。南アルプスの発生地がリニアの開設により消失すると思われる(23)。

6.保護対策

発生地における森林の過度な伐採を避けることで、多湿環境の保護を図るとともに、宿主である甲虫の幼虫の生息環境を保護する。

7.特記事項

宿主が生息していても、菌自体の生育環境としての湿度、温度が損なわれると発生しなくなると考えられる。

8.主な文献

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

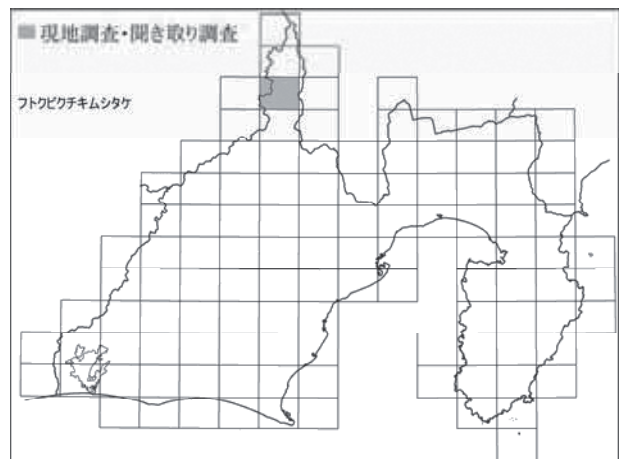
日本冬虫夏草の会 編(2014)冬虫夏草生態図鑑. 誠文堂新光社, 東京, 303 pp.

9.標本

静岡市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2015年7月20日 大塚健佑



(大塚健佑)

タンポタケモドキ *Tolyptocladium japonicum*

(Lloyd) C. A. Quandt, Kepler & Spatafora 2014

オフィオコルジケプス科 Ophiocordycipitaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

地下生菌のツチダンゴに寄生する冬虫夏草（昆虫・クモ・地下生菌などの寄生菌）。棍棒形の子実体を形成する。未熟時は淡黄色、成熟すると暗緑褐色を呈する。子嚢胞子は糸状で、二次胞子に分裂する。

2.分布

国外では中国、オーストラリアに分布する。国内では各地で点々と、県内では西部に分布する。

3.生育環境

宿主のツチダンゴは菌根菌で、マツやブナに菌根をつくる。タンポタケモドキの生育環境は、冬虫夏草としては比較的湿度が低く、低地のマツが多く生育しているところに限られる。ツチダンゴが多い環境では群生する。

4.生育状況

西部の1ヶ所のみで確認され、継続観察の結果、林況の変化により発生頻度が減っている。

5.減少の主要因と脅威

発生環境が公園などの公な場所であることが多く、公園整備による伐採(11)など環境が変わるリスクにさらされやすい。近年はマツ枯れによるマツの減少(71)も要因であると考えられる。

6.保護対策

菌寄生の冬虫夏草はツチダンゴの生育が必須なため、生育地における共生しているマツを松枯れから保護する必要がある。

7.特記事項

宿主が生育していても、菌自体の生育環境としての湿度、温度が損なわれると発生しなくなると考えられる。

8.主な文献

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

日本冬虫夏草の会 編 (2014) 冬虫夏草生態図鑑. 誠文堂新光社, 東京, 303 pp.

9.標本

静岡県産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡県 2015年6月20日 大塚健祐



(大塚健祐)

ホンシメジ *Lyophyllum shimeji* (Kawam.) Hongo 1971

(=ダイコクシメジ)

シメジ科 Lyophyllaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は秋にコナラ林またはアカマツ・コナラ混生林内地上に株状に発生。傘は2~12 cm、半球~まんじゅう形からほとんど平らに開く。表面は暗灰褐色で平滑。ひだは白~淡クリーム色、密、湾生または直生。肉は白色。柄は長さ3~8 cmで白色、下部が徳利状にふくらむため、大黒様の腹に見立ててダイコクシメジと呼ばれることがある。担子胞子は球形である。

2.分布

国内の温帯に分布する。県内では中部、西部、伊豆で確認している。

3.生育環境

里山のコナラ林、アカマツ・コナラ混生林内で菌根共生して生育する。

4.生育状況

1990年代までは丘陵地においても、子実体の発生は多かったが、現在は稀または見られない。森林の荒廃に加えてナラ枯れでブナ科の木々が枯れ、2010年頃よりは山間地でも発生数が激減している。子実体は里山の食用菌として名高く採取圧が高いが、今では幻のキノコとなりつつある。

5.減少の主要因と脅威

ナラ枯れによる宿主樹木の病虫害被害(71)が発生している。里山の2次林の管理不足(53)、美味しい食用菌であるための高い採取圧(42)が減少の主要因に挙げられる。

6.保護対策

除伐、間伐による適正な森林管理と、採取規制が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸(2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987) 原色日本新菌類図鑑(I). 保育社, 大阪, 325 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

9.標本

静岡県産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡県 2013年11月24日 小倉辰彦



(秋山富雄)

ツノシメジ *Leucopholiota decorosa*

(Peck) O. K. Mill., T. J. Volk & Bessette 1996

キシメジ科 Tricholomataceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

腐生菌。子実体は夏から初秋に、広葉樹枯死木上に発生。傘は径3~12 cmで、半球形のち多少中高の平たい丸山形となる。表面は、黄褐~橙褐色の地肌の上を、中央角状、周辺に向かって剛毛状の大型の鱗片が密に覆う。ひだは白色で密。柄は下方に太くなり、上部に褐色で膜質鱗片状のつばをつける。つばの上部は淡色、下方は傘の周辺と同様の鱗片に密に覆われる。担子胞子は楕円形で、無色である。

2. 分布

国外ではヨーロッパ、北アメリカに、国内では本州（青森県、栃木県、長野県、山梨県、静岡県、岐阜県など）に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯上部から亜寒帯域で、カバノキ属などの広葉樹の倒木（まれに立ち枯れ木）に生育する。県内では冷温帯上部河岸林の倒木に生育しており、冷涼で湿度が保たれる倒木に生育すると考えられる。

4. 生育状況

県内では大井川上流部のダケカンバと思われる倒木に発生しているところを1ヶ所確認しているのみで、富士山では未確認である。

5. 減少の主要因と脅威

県内では現生育地のような、冷温帯上部にある冷涼で湿度の保たれる河岸林は限られる。道路建設など(24)により現生育地が消失する可能性が考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

発生地河岸林の環境は今のところ安定しているが、今後生育環境が保持されるかは不明である。

8. 主な文献

吹春俊光 (2004) 森の休日 4 見つけて楽しむきのこワンダーランド. 山と溪谷社, 東京, 111 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

工藤伸一 (2009) 東北きのこ図鑑. 家の光協会, 東京, 271 pp.

城川四郎 (2017) 検証キノコ新図鑑. 筑波書房, 東京, 250 pp.

9. 標本

静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2014年8月18日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は晩秋から初冬にマツ林地上に群生。傘はまんじゅう形から平らに開く。表面は湿時弱い粘性を帯び、最初白色、のち中央部から肌色ぎみの褐色を帯びる。ひだは上生から湾生、白色で密、老成すると汚褐色のシミが現れる。柄は白色から淡褐色で基部はややふくらむ。肉は緻密で無臭、苦味がある。担子胞子は楕円形から広楕円形、平滑である。

2.分布

国内では本州、四国、九州に分布する。県内では中部、西部で確認している。

3 生育環境

主にアカマツ林やアカマツとナラ類の混生林で菌根共生して生育する。

4.生育状況

ヌノビキという古名がある。里山の食用菌で、白い布を敷いたように子実体が群生するからというが、スギ、ヒノキの植林化によりアカマツや広葉樹の林が激減したことに加え、近年はマツ枯れにより、宿主樹木が激減したために、子実体の発生量は非常に減少している。

5.減少の主要因と脅威

アカマツ、ナラ類混生林の伐採 (11)、マツ枯れによる宿主樹木の減少 (71) により生育が危ぶまれる。

6.保護対策

生育地の林の状態と環境を、現状のまま維持・保全する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編 (2008) 日本きのこ図版 第1巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸 815 pp.

池田良幸 (2013) 新版 北陸きのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編 (1987) 原色日本新菌類図鑑 (I). 保育社, 大阪, 325 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

9.標本

静岡県産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡県 2013年10月8日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

マツタケ *Tricholoma matsutake* (S. Ito & Imai) Singer 1943

キシメジ科 Tricholomataceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件 -)] [環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は秋に、マツ林などの地上に発生。傘は8~20(30) cm、まんじゅう形から中高の平のち縁部がそり返る。表面は褐色の繊維状鱗片に覆われるが、しだいに裂け目やひび割れができる。ひだは密、湾生、白色のち褐色のシミを生じる。柄は長さ10~20(30) cm、上下同幅または下方で多少太い。褐色繊維状の鱗片に覆われ、頂部は白色。つばは綿毛状、永存性。肉は白色、特有の香りがある。担子孢子は広楕円形である。

2.分布

国外では東アジア、北ヨーロッパに分布する。国内各地に分布し、県内では東部、中部、西部で確認されている。

3.生育環境

里山のアカマツ林と広葉樹の混生林及び奥山のツガ、コメツガ林に生育する。

4.生育状況

里山のアカマツ林での生育は、1970年以降マツ枯れによる宿主樹木の減少、アカマツ林の松葉の堆積による生育環境の悪化及び採取圧で激減した。奥山のツガ、コメツガ林においても採取圧が高く、激減している。

5.減少の主要因と脅威

マツ枯れによる宿主樹木の減少(71)、アカマツ林の手入れ不足などによる松葉の堆積などの森林の荒廃(53)、採取圧(42)が減少の主要因と考えられる。

6.保護対策

抵抗性マツの植栽と適正な森林管理が必要である。孢子が成熟、散布される前の未熟な子実体が採取されることが多く、採取制限が必要と考えられる。現在子実体の発生が見られる林内の手入れをして、林床の富栄養化などを防ぎ、孢子の散布も行われるよう保護対策をしていくことも必要である。

7.特記事

ツガ属の林に生育するものは地方名でツガタケともよばれる。

8.主な文献

池田良幸(2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

伊藤誠哉(1959) 日本菌類誌 第二巻・第五号. 養賢堂, 東京, 658 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987) 原色日本新菌類図鑑(I). 保育社, 大阪, 325 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

9.標本

静岡県産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡県 2010年9月20日 小倉辰彦



(秋山富雄)

アシグロニオイグチ *Suillus punctipes* (Peck) Singer 1945

ヌメリイグチ科 Suillaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類(VU) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏に、ハイマツ樹下に発生。傘は径2~10 cm、丸山形から平たいまんじゅう形に開く。表面は帯褐橙~鮮黄土色で、粘性がある。子実層托は管孔で、淡黄土褐色から暗色。柄は8~9 cmで上下同大、つばはない。傘と同色で、黒変する粒点を密生する。肉は淡黄色。子実体には特有の芳香がある。担子孢子は長楕円形から類紡錘形で平滑である。

2.分布

国内では北海道、本州（静岡県、富山県）に、県内では中部に分布する。宿主樹種はハイマツであり、分布の南限と考えられる。

3.生育環境

ハイマツと菌根共生して生育する。寒帯に生育する種で、現在子実体の発生が確認されているのは県最北部のハイマツ樹下である。

4.生育状況

県内では生育適地がごく限られ、子実体の発生地及び発生量は少ない。

5.減少の主要因と脅威

夏から秋にかけて、気温が高い状態が続くようになってきており、温暖化によりさらに減少する可能性がある(71)。

6.保護対策

現在の生育環境に手を加えないよう現状の維持、保全が必要である。

7.特記事項

種の同定は(財)日本きのこセンター菌茸研究所の長澤栄史特別研究員にいただいた。厚く御礼申し上げます。

8.主な文献

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色新日本菌類図鑑(Ⅱ)。保育社、大阪、402 pp.

印東弘玄・成田傳蔵(1986)コンパクト版6 原色きのこ図鑑。北隆館、東京、358 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、船橋、1177 pp.

Murata Y. (1976) The boletus of Hokkaido 1 *Suillus* Micheli ex S. F. Gray em. Snell. *Trans Mycol. Soc. Japan*, 17: 149-158

9.標本

なし。



静岡県 2011年9月5日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

コカンバタケ *Buglossoporus quercinus* (Schard.) Kotl. & Pouzar 1966

ツガサルノコシカケ科 Fomitopsidaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件 -)] [環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、ミズナラなどコナラ属の生木から枯死木上に発生。傘は半円形から扇形で基部は細くなり、ほとんど無柄から偏心生の有柄。表面は黄褐色から茶褐色で、薄い毛被状表皮がありピロード状のちほぼ平滑または細かい粒を帯びる。傘肉は基部付近で2 cm、縁は薄く、類白色で肉質。子実層托は管孔、類白色で傷つけると褐変する。担子胞子は楕円形である。

2.分布

国外ではヨーロッパに分布する。国内に分布し、県内では中部に分布する。

3.生育環境

県内では、冷温帯上部の湿度のえられやすい河岸付近の林内で、ミズナラの倒木を褐色腐朽して生育する。

4.生育状況

県内の確認場所は1ヶ所で、ごく限られる。

5.減少の主要因と脅威

湿度のえられやすい冷温帯河岸林内のミズナラなどの生立木から倒木を生育環境としていと考えられる。森林伐採(11)、道路建設(24)などにより、生育適地が減少している。

6.保護対策

現在の生育地の自然環境の保持と、河岸林など湿度のえられやすい場所のミズナラ大木などを残すことが必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

本郷次雄・上田俊穂(2006)新装版山溪フィールドブックス7きのこ。山と溪谷社,東京,384 pp.

伊藤誠哉(1955)日本菌類誌 第二巻・第四号。養賢堂,東京,450 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部,船橋,1177 pp.

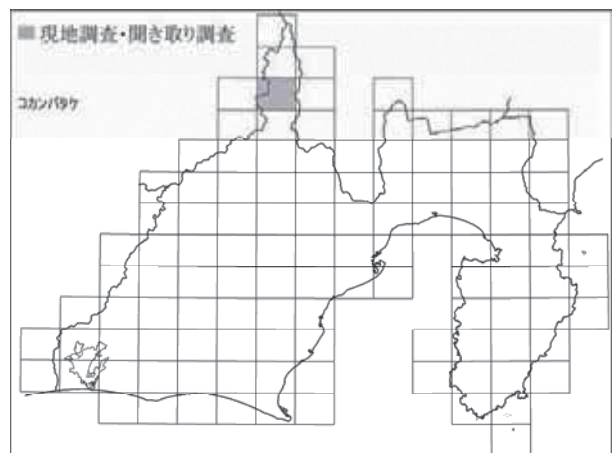
城川四郎(2017)検証キノコ新図鑑。筑波書房,東京,250 pp.

9.標本

静岡市産:ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2009年8月2日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

チョレイマイタケ *Polyporus umbellatus* (Pers.) Fr. 1821

タマチョレイタケ科 Polyporaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件 -)] [環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、菌核または広葉樹材上に発生する。子実体は複雑に枝分かれした柄と傘からなる。柄は根もとから幾回も分枝し先端に傘をつけ、全体は複雑な塊となる。傘はほぼ円形で、浅い漏斗形。一つの傘は径1~4 cm、表面は黄白~淡いきつね色で、平滑か細かい鱗片に覆われる。子実層托は類白色の浅い管孔で柄に垂生する。孔口は2~4個/mm。担子胞子は長楕円形、平滑である。北方系の菌である。

2.分布

国外では中国、ヨーロッパ、北アメリカの冷涼地に、国内では北海道、本州中部以北に分布する。県内では東部、中部で確認している。

3.生育環境

冷温帯の湿度が保たれる林内で、ミズナラなどの広葉樹枯死木を白色腐朽して生育する。宿主の根付近の地中に菌核を形成する。

4.生育状況

県内において上記の生育環境は現在かなり限られ、子実体の発生確認は稀である。

5.減少の主要因と脅威

湿度が保たれる河岸林などのブナ、ミズナラ林の伐採による減少(11)が要因と考えられる。菌核は菌糸が密集して塊状になり、休眠状態になった耐久器官であるが、本菌の菌核は猪苓といわれ漢方薬として採集圧も高い(42)。耐久器官である菌核の採取は減少の脅威となる。

6.保護対策

ブナ、ミズナラ林の保全及び乱獲からの保護が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸(2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

伊藤誠哉(1955) 日本菌類誌 第二巻・第四号. 養賢堂, 東京, 450 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989) 原色日本新菌類図鑑(II). 保育社, 大阪, 402 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

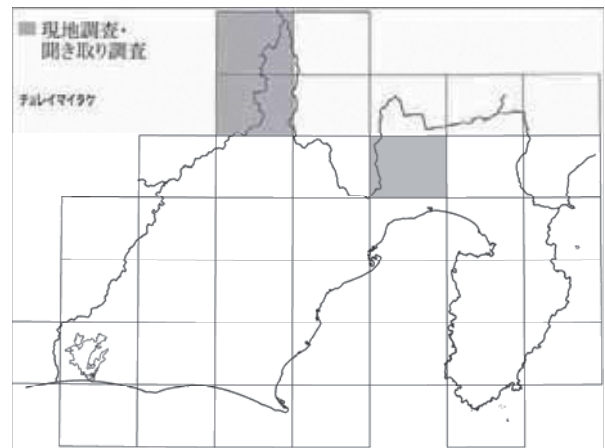
武藤治彦(2010) 静岡木の子の会の探索会における採集リスト(2007~2009). 静岡木の子の会会報, (8): 9-28

9.標本

静岡県産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡県 2007年8月25日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

アオロウジ *Albatrellus caeruleoporus* (Peck) Pourzar 1966

ニンギョウタケモドキ科 Albatrellaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は秋に、マツ林の地上に単生か数個体が互いに癒着して発生。径3~20 cm。表面は青緑色から空色のちに色あせて灰褐色となる。肉は厚く、淡いアンズ色から橙黄色だがのちに色あせる。子実層托は管孔で長さ1~2 mm。孔口は小さく(2~3個/mm)、淡青色からアンズ色になる。柄はやや中心をはずれて偏在から側生。担子孢子は類球形、平滑である。

2.分布

国外では北アメリカに分布する。国内では本州に、県内では西部に分布する。

3.生育環境

県内では里山の痩せた土に生育するアカマツと菌根共生して生育する。

4.生育状況

アカマツのマツ枯れとともに、1987年頃から子実体の発生が減少した。

5.減少の主要因と脅威

マツ枯れによる宿主の減少(71)に加えて、生活の変化による松葉掻きの減少のため、林床の松葉の厚い堆積による富栄養化により、生育環境が悪化している(53)。

6.保護対策

抵抗性マツの補植、毎年林床の草や灌木などの一斉下草刈りで生育環境を整備することが対策となる。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂、金沢、396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社、東京、648 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑(Ⅱ)。保育社、大阪、402 pp.

伊藤誠哉(1955)日本菌類誌 第二巻・第四号。養賢堂、東京、450 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、船橋、1177 pp.

武藤治彦(2010)静岡木の子の会の探索会における採集リスト(2007~2009)。静岡木の子の会会報、(8): 9-28

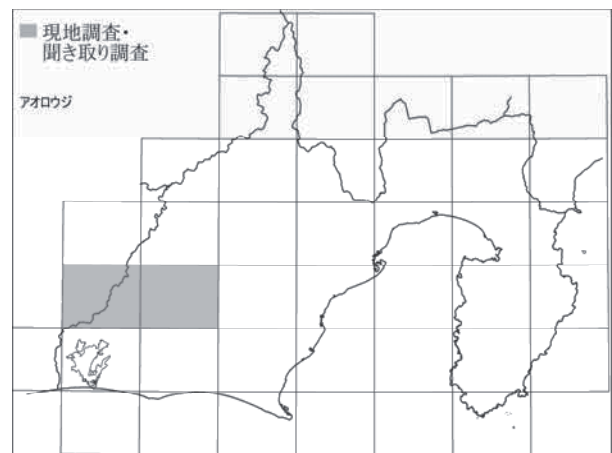
9.標本

静岡県産:ふじのくに地球環境史ミュージアム

(秋山富雄)



静岡県 2016年10月9日 岸澤広晶



ニンギョウタケ *Albatrellus confluens* (Alb. & Schw.) Kotl. & Pouz. 1957

ニンギョウタケモドキ科 Albatrellaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件 -)] [環境省カテゴリー 情報不足 (DD)]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は秋に、マツ林などの地上に発生。集合形全体の径が 20 cm 以上にもなる。傘は肉厚で扇形からへら形、類白色から淡橙色で老子実体は茶褐色になる。表面は無毛で平滑。子実層托は管孔で、長さ 1~5 mm、太い柄に垂生する。孔口は小さく (2~4 個/mm)、白~クリーム色。柄は偏心生。担子孢子は広楕円形、平滑である。

2.分布

国外では北半球に広く分布する。国内では各地に分布し、県内では西部に分布する。

3.生育環境

マツタケがかつて採れたという里山のアカマツ林で菌根共生して生育する。

4.生育状況

以前は県内各地のアカマツ林で子実体が発生していたが、1987 年頃よりマツ枯れで減少した。2005 年くらいからは、発生が続いていたアカマツ林内においても激減し、現在では稀である。

5.減少の主要因と脅威

マツ枯れにより宿主樹木のアカマツが減少した (71) ことが要因と考えられる。

6.保護対策

抵抗性マツの植林育成と、生育林内の松葉掻き、除伐、間伐などの保育整備が対策となる。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp

今関六也・本郷次雄 編 (1989) 原色日本新菌類図鑑 (II). 保育社, 大阪, 402 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

伊藤誠哉 (1955) 日本菌類誌 第二巻・第四号. 養賢堂, 東京, 450 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

武藤治彦 (2007) 静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ—静岡県内—(1990~2006). 静岡木の子の会会報, (7): 14-25

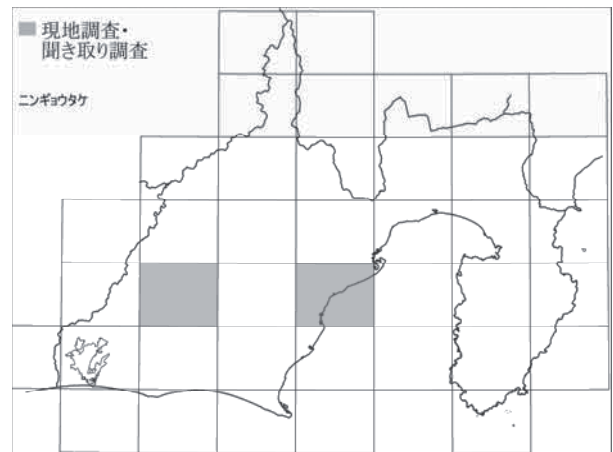
武藤治彦 (2010) 静岡木の子の会の探索会における採集リスト(2007~2009). 静岡木の子の会会報, (8): 9-28

9.標本

静岡県産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡県 2016年10月9日 池ヶ谷のり子



(秋山富雄)

ヌメリアイタケ *Albatrellus yasudae* (Lloyd) Pouzar 1972

ニンギョウタケモドキ科 Albatrellaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件 -)] [環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は秋に、マツと広葉樹の混生林地表に発生。傘は円形、丸山形から平らに開き、径2~7 cm、表面は濃い青藍色で、初めなめし皮状だが、しだいに強い粘りを帯び、乾くと青みを失い、ニス状の光沢を表す。肉は白色でやや苦い、子実層托は管孔で、長さ2~3 mm。孔口は小さく、白色。柄は中心生、白くて円柱状、長さ5 cmほど。担子胞子は楕円形、平滑である。

2.分布

日本固有種で、国内に広く分布するが、安定した生育地は少ない。県内では西部で確認されている。

3.生育環境

マツと広葉樹の混生林で菌根共生して生育する。

4.生育状況

良好な生育環境下では毎年群生すると言われているが、県内の生育地では、数年周期で単発的に子実体が発生する程度である。

5.減少の主要因と脅威

マツ枯れによる宿主の減少(71)、里山の開発(23)、手入れ不足による森林の荒廃(53)、自然遷移(54)の影響により激減した。

6.保護対策

宿主樹種林の適正な管理により、生育環境を保全することが必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

細矢 剛・埋橋志穂美・保坂健太郎・工藤伸一(2016)日本産固有菌類目録の作成に向けて生物多様性データベースを利用した日本固有のきのこリスト作成の試み. 日菌報, (57): 77-84

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑(Ⅱ). 保育社, 大阪, 402 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

伊藤誠哉(1955)日本菌類誌 第二巻・第四号. 養賢堂, 東京, 450 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

9.標本

なし。



山梨県 2014年9月17日 小倉辰彦



(秋山富雄)

フサハリタケ *Hericium cirrhatum* (Pers.) Nikol. 1950

サンゴハリタケ科 Hericiaceae

[静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件 -)] [環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1.種の解説

腐生菌。子実体は秋に、広葉樹の朽ち木上に発生。傘は半円形から貝殻形で、大きさ4~10 cm。通常数個の子実体が基部で癒着して重なり合う。傘の表面は長さ1~3 mm、ときに5 mmほどの短い針状の粗毛で覆われ、白色からクリーム色、のちに淡黄褐色を帯びる。子実層托は針状、針は長さ5~15 mmで傘表面と同色。肉は白色で厚く軟らかく、弾力性に富む。担子孢子は広楕円形である。

2.分布

国外では北ヨーロッパ、北アメリカ西部に分布する。国内では北海道、本州（青森県、新潟県、栃木県、埼玉県、静岡県）、九州（大分県）に分布する。県内では東部で確認している。

3.生育環境

冷温帯の河岸林で、ブナ、サワグルミなどの広葉樹の腐朽材を分解して生育する。

4.生育状況

東部のブナの倒木で確認しているが、発生は稀で、2009年以降は未確認である。

5.減少の主要因と脅威

ブナの大木が減少傾向にある。栄養源であるとともに生育場所となる、河岸林のブナなどの立ち枯れ木や倒木の減少は、子実体の発生減少の要因と考えられる(71)。発生環境が限定されて発生が比較的稀なうえに、乱獲による絶滅が危惧される(42)。

6.保護対策

ブナ林の保全、ブナ林再生活動、林内の広葉樹の大径木倒木の撤去をしないこと、及び乱獲からの保護が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

本郷次雄 監修 (2006) 新装版山溪フィールドブックス7きのこ。山と溪谷社, 東京, 383 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

工藤伸一 (2017) 青森県産きのこ図鑑。アクセス二十一出版, 青森, 535 pp.

工藤伸一・手塚豊・米内山宏 (1998) 青森のきのこ。グラフ青森, 青森, 288 pp.

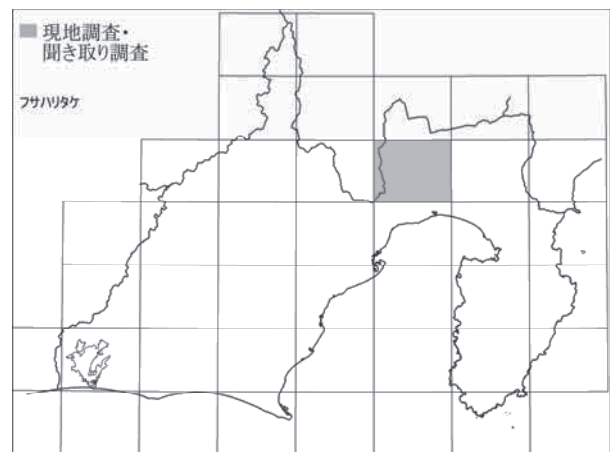
日本菌学会東北支部 編 (2001) 東北のキノコ。無明舎出版, 280 pp.

9.標本

なし。



静岡県 2009年9月23日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

ハスノミクモタケ *Cordyceps nelumboides* Kobayasi & Shimizu 1977

サナギタケ科 Cordycipitaceae

[静岡県カテゴリー 準絶滅危惧種 (NT) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

小型なクモの成虫に寄生する冬虫夏草（昆虫・クモ・地下生菌などの寄生菌）。クモの体表ほぼすべてを菌糸で覆い、その表面からハスノミ形と呼ばれる蓮の実に似る子実体を発生させる。子嚢胞子は糸状。二次胞子に分裂する。

2.分布

国内では本州（山形県以南）、四国（香川県）に、県内では西部に分布する。

3.生育環境

非常に湿度の高い低地の森林内（沢沿いなど）の低木の葉裏に発生する。群生する傾向がある。

4.生育状況

西部の1ヶ所のみで確認され、5年間の継続観察の結果、林況の変化により発生頻度が減っている。

5.減少の主要因と脅威

生育地となる広葉樹林が一般的に雑木であるため、開発(23)や樹種転換(11)など環境が変わるリスクにさらされやすい。

6.保護対策

生育地における森林の過度な伐採を避け、多湿環境の維持を図る。

7.特記事項

宿主が生息していても、菌自体の生育環境としての湿度、温度が損なわれると発生しなくなると考えられる。

8.主な文献

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

日本冬虫夏草の会 編 (2014) 冬虫夏草生態図鑑. 誠文堂新光社, 東京, 303 pp.

9.標本

静岡県産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 K.Otsuka
静岡県 2015年8月8日 大塚健佑



(大塚健佑)

ウスキタンポセミタケ *Cordyceps pleuricapitata* Kobayasi & Shimizu 1982

サナギタケ科 Cordycipitaceae

[静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件 -)] [環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1.種の解説

セミの幼虫に寄生する冬虫夏草（昆虫・クモ・地下生菌などの寄生菌）。子実体は歪なタンポ形であり、色は淡黄色から褐色を呈する。ストローマが糸のように細い場合と比較的太い場合の2パターンが存在する。子嚢胞子は円筒状。二次胞子に分裂する。

2.分布

国内では本州（東京都、静岡県）、沖縄県に、県内では西部に分布する。

3.生育環境

非常に湿度の高い低地の広葉樹林内（沢筋など）の林床に発生する。本種の他にオオセミタケやツブノセミタケなど他のセミ寄生冬虫夏草が多産する環境で発生する。群生する傾向がある。

4.生育状況

西部のみで確認されている。

5.減少の主要因と脅威

本種の成熟には高温で多湿な環境が必要だと考えられる。また、寄生菌であることからセミの幼虫が毎年大量に発生しなければならない。このような環境が広葉樹林であるが、一般的には雑木であるため、開発(23)や樹種転換など(11)で消失するリスクが高い。

6.保護対策

生育地である多湿な広葉樹林が静岡県内では希少なため、過度な伐採を避け、多湿環境の維持を図る。また、植生の維持は宿主であるセミの保護にも繋がる。

7.特記事項

宿主が生息していても、菌自体の生育環境としての湿度、温度が損なわれると発生しなくなると考えられる。

8.主な文献

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

日本冬虫夏草の会 編 (2014) 冬虫夏草生態図鑑. 誠文堂新光社, 東京, 303 pp.

9.標本

静岡県産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡県 2016年10月8日 大塚健佑



(大塚健佑)

ベニイロクチキムシタケ *Cordyceps roseostromata* Kobayasi & Shimizu 1983

サナギタケ科 Cordycipitaceae

[静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

甲虫の幼虫に寄生する冬虫夏草（昆虫・クモ・地下生菌などの寄生菌）。子実体は棍棒形であり、紅色を呈する。静岡県においては、朽ち木内は細根状になっていることが多い。子嚢胞子は糸状。二次胞子に分裂する。

2.分布

国内では全国に点々と、県内では東部に分布する。

3.生育環境

比較的冷涼で、湿度の高い冷温帯広葉樹林内（ブナ林など）の倒木中の甲虫の幼虫から発生する。発生箇所には群生する。

4.生育状況

富士山のみで確認されている。

5.減少の主要因と脅威

本種の成熟には多湿冷涼な環境が必要だと考えられる。また、寄生菌であることから甲虫の幼虫が毎年大量に発生しなければならない。このような環境が広葉樹林であるが、一般的には雑木であるため、開発（23）や樹種転換など（11）で消失するリスクが高い。

6.保護対策

多湿冷涼な広葉樹林が静岡県内では希少なため、生育地における過度な森林伐採を避け多湿環境の維持を図る。

7.特記事項

宿主が生息していても、菌自体の生育環境としての湿度、温度が損なわれると発生しなくなると考えられる。

8.主な文献

勝本 謙（2010）日本産菌類集覧．日本菌学会関東支部，船橋，1177 pp.

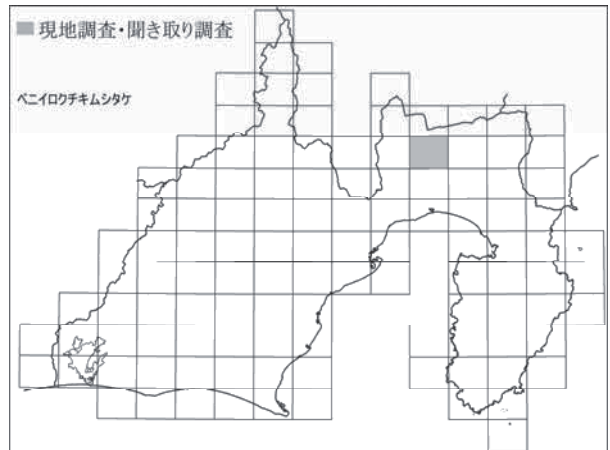
日本冬虫夏草の会 編（2014）冬虫夏草生態図鑑．誠文堂新光社，東京，303 pp.

9.標本

富士宮市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



富士宮市 2016年8月11日 大塚健佑



(大塚健佑)

1.種の解説

ムネアカオオアリなどのアリの成虫に寄生する冬虫夏草(昆虫・クモ・地下生菌などの寄生菌)。宿主のアリの首元に褐色でコブ状の子実体を形成する。子実体は、寄生されたアリが自身の顎で木の枝に噛みついていて発生する。子嚢胞子は太い糸状。二次菌糸には分裂しない。

2.分布

国内では本州(青森県、広島県、長野県、福島県、静岡県など)に、県内では中部に分布する。

3.生育環境

冬虫夏草としては比較的湿度が低い亜高山帯の林内の枝に、宿主のアリが枝に噛みついて固定された状態で発生している。発生箇所では群生する。

4.生育状況

中部で確認されているが、発生場所は限られる。

5.減少の主要因と脅威

生育地が、道路建設(24)や樹種転換(11)など環境が変わるリスクにさらされやすい。

6.保護対策

亜高山帯での植生とそれに伴う宿主のアリの生息が本種に必須だと考えられるので、過度な伐採による環境の変化を避ける。

7.特記事項

宿主が生息していても、菌自体の生育環境としての湿度、温度が損なわれると発生しなくなると考えられる。

8.主な文献

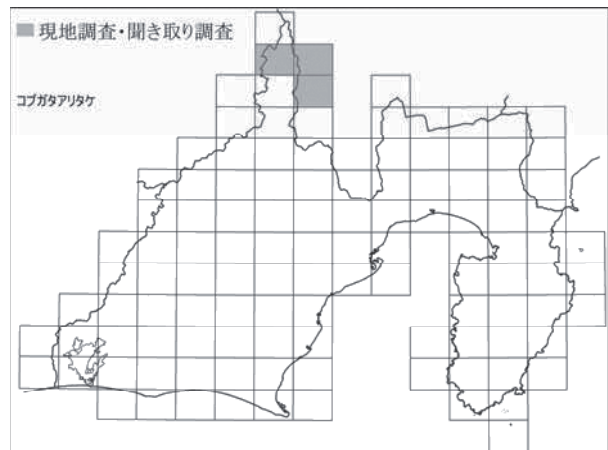
日本冬虫夏草の会 編(2014) 冬虫夏草生態図鑑. 誠文堂新光社, 東京, 303 pp.
高山壽彦(2013) アリから発生した冬虫夏草の確認. 自然史しずおか, (43): 8

9.標本

静岡市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2015年7月20日 大塚健佑



(大塚健佑)

キウロコテングタケ *Amanita alboflavescens* Hongo 1970

テングタケ科 Amanitaceae

[静岡県カテゴリー 準絶滅危惧種 (NT) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、ブナ科樹林地上に発生。傘はまんじゅう形から平らに開く。表面は粉状、ほとんど白色のち淡黄色となり、綿質から膜質の大小のつぼの破片を付着し、縁部にはつぼの一部が残る。ひだは類白色のちクリーム色。柄の表面は傘と同色、基部は紡錘状にふくらむ。つばは破れ去りやすい。肉は白色、傷つけると強く黄橙色に変色し、一種の著しい臭気がある。担子胞子は長楕円形である。

2.分布

国外では中国、韓国に、国内では本州以南に分布する。県内では西部、中部、伊豆で確認している。

3.生育環境

里山で、クヌギ、コナラ、アラカシなどのブナ科の広葉樹と菌根共生して生育する。

4.生育状況

1980年代には中部の丘陵地においても生育していたが、良好な生育環境がえられにくくなったためか、現在生育を確認しているのは、西部と伊豆である。これらの地域においても生育地は限られ、発生量も非常に少ない。

5.減少の主要因と脅威

里山における植林化 (11) 及び宅地開発 (23) に伴う雑木林の減少により、宿主樹種が減少し、生育環境も悪化していることが挙げられる。

6.保護対策

里山における雑木林 (ブナ科樹種林) の保護が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

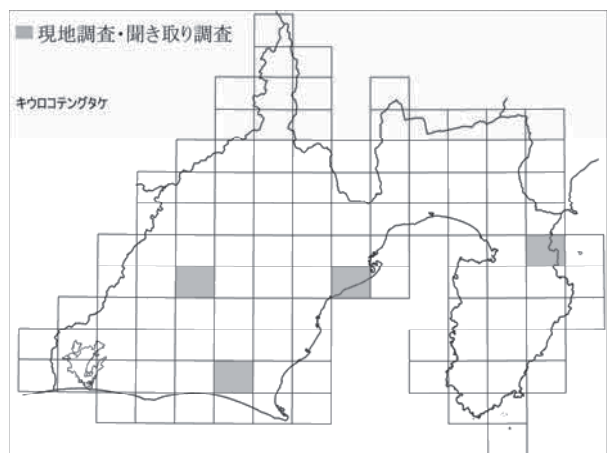
- 今関六也・本郷次雄 編 (1987) 原色日本新菌類図鑑 (I). 保育社, 大阪, 325 pp. 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp. 勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp. 武藤治彦 (2007) 静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ—静岡県内—(1990~2006). 静岡木の子の会会報, (7): 14-25

9.標本

森町産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



周智郡森町 2013年7月16日 河村正幸



(河村正幸)

ハイイロオニタケ *Amanita japonica* Hongo ex Bas 1969

テングタケ科 Amanitaceae

[静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に雑木林地表に発生。傘は径6 cm前後、表面は暗灰色から灰褐色。フェルト状から綿質で永続性の角錐形のいぼをつけ、成熟するといぼの周囲が亀甲状にひび割れて白っぽい地肌を表す。ひだは白色で密、縁は粉状。柄は上部に綿質で白色のつばの痕跡が残り、下半分は繊維質、基部は紡錘形からやや棍棒状にふくらみ、地下に深く入り込む。肉は白色。担子胞子は楕円形である。

2.分布

国内では主に関東以西に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3.生育環境

里山のコジイ林、アカマツ・コナラ林などでこれらの樹木と菌根共生して生育する。

4.生育状況

生育地は狭く限られている。2003年以前には伊豆でも確認されていたが、それ以降の確認地は東部と西部の限られた場所だけになっている。

5.減少の主要因と脅威

スギ、ヒノキの植林化に伴い里山の雑木林が伐採され、宿主樹種の有無を含めて生育可能な自然環境が減少している(11)。さらに植林が進むと絶滅の可能性はある。

6.保護対策

生育地の林の状況と環境を現状のまま維持・保全する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

今関六也・本郷次雄 編(1987)原色日本新菌類図鑑(I)。保育社、大阪、325 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、船橋、1177 pp.

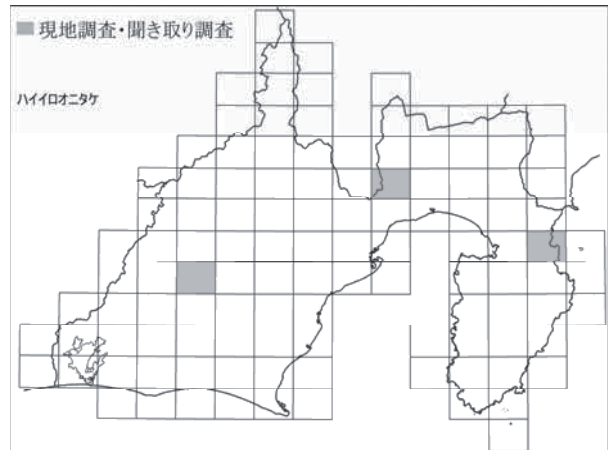
幼菌の会 編(2001)カラー版きのこ図鑑。家の光協会、東京、335 pp.

9.標本

なし。



富士宮市 2005年7月14日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、ブナ科樹林地上に発生。傘は大型。表面は暗褐色で、被膜が裂けて、角錐状から平たいいぼ状となる。条線はない。ひだは淡灰色のち暗褐色となる。柄は 20~24 cm、基部は塊茎状にふくらむ。表面は淡灰色のち暗褐色となり、つばより下には著しいささくれがある。つばは粉状で、早落性。胞子紋は白色。担子胞子は球形から類球形。オニテングタケは、ひだの色がクリーム白色である。

2.分布

国外では中国東南部、シンガポールに、国内では関東以西に分布する。県内では中部と西部で確認している。

3.生育環境

里山でスダジイ、アラカシ、コナラなどの樹木と菌根共生して生育する。ブナ林での生育もあるというが、現在県内で確認できている生育地は老齢木も多い比較的湿度をえられやすい常緑広葉樹林内である。

4.生育状況

1990年代に西部の里山で確認記録があるが、現在は確認できていない。中部の里山で確認しているが、発生地、子実体の発生量ともに少ない。

5.減少の主要因と脅威

広葉樹林内における生育条件の幅が狭く、生育適地におけるブナ科樹種の伐採 (11) が主要因と考えられる。

6.保護対策

現在の生育地に手を加えないよう、自然環境の保持が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

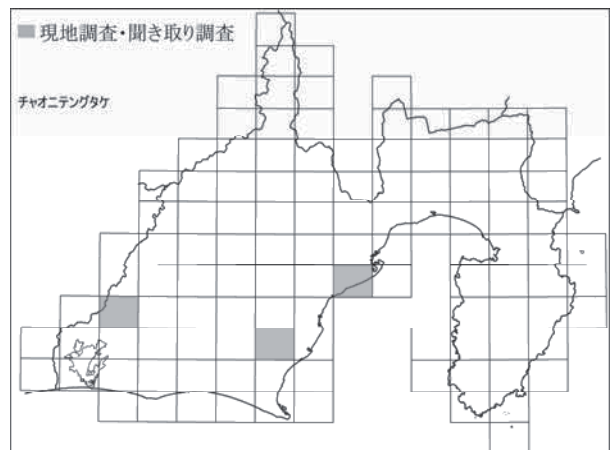
- 本郷次雄 監修 (2006) 新装版 山溪フィールドブックス 7 きのこと。山と溪谷社, 東京, 383 pp.
- 池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂, 金沢, 396pp.
- 武藤治彦 (2007) 静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ—静岡県内—(1990~2006)。静岡木の子の会会報, (7): 14-25
- 幼菌の会 編 (2001) カラー版きのこ図鑑。家の光協会, 東京, 335 pp.

9.標本

静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2014年9月16日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

オオツガタケ *Cortinarius turmalis* (Fr.) Fr. 1838

フウセンタケ科 Cortinariaceae

[静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に針葉樹林地表に発生。傘は大型。まんじゅう形から平らに開く。表面は平滑で粘性があり、きつね色から橙褐色。周辺に白色綿毛状の被膜の破片を付着することが多い。ひだは類白色のち黄土褐色でやや密。柄は中央で多少ふくらむ円柱形、白色、粘性はない。白色綿毛様菌糸に密に覆われるが、傘が開くとつばとなって柄の上部に付着する。担子胞子は紡錘形で微粒に覆われる。

2.分布

北半球中北部に分布する。国内では北海道、本州中部以北に、県内では東部、中部に分布する。

3.生育環境

県内では亜高山帯の天然林内で、コメツガなどと菌根共生して生育する。

4.生育状況

良好な生育地では、子実体は群生する。富士山のツガ属の林では古来同属のツガタケとともに多く産し、食用にされていたというが、現在、本種の発生は稀である。なお、県内ではツガ属の林に発生するマツタケもツガタケとよばれているが、それとは区別される。

5.減少の主要因と脅威

森林伐採による天然林の減少 (11) に伴う宿主樹木の減少がある。また以前から食用採取が行われてきた富士山では、近年交通の便がよくなって亜高山帯まで入り易くなり、採取圧が高いこともあるが (42)、採取のために林床の人の踏みつけが多く (51)、生育環境に影響している可能性もある。

6.保護対策

環境変化を与える開発、伐採、林内の人の踏みつけなどを規制することが対策となる。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸 (2013) 新版北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 394 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

伊藤誠哉 (1959) 日本菌類誌 第二巻・第五号. 養賢堂, 東京, 658 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

川村清一 (1954) 原色日本菌類図鑑 第五巻. 風間書房, 東京, pp. 501-599

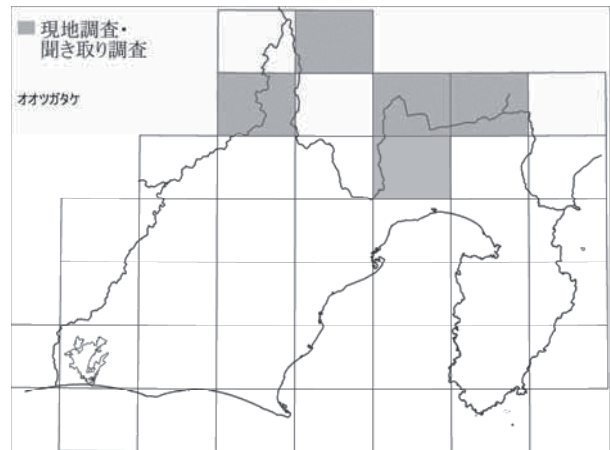
幼菌の会 編 (2001) カラー版きのこ図鑑. 家の光協会, 東京, 335 pp.

9.標本

静岡県産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 T.Ogura
静岡県 2002年9月11日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

1.種の解説

子実体は夏から秋に、アカマツ・コナラ林などの地上に発生。傘はまんじゅう形から中高の平らに開く。表面の周辺部は灰黄～淡オリーブ黄色、中央部は暗オリーブ類褐色で、微鱗片に覆われる。ひだは黄色のち肉色を帯びる。柄は6～11 cm、下部はやや便腹形にふくらむ。表面は縦の繊維状条紋があり、淡紫灰色。肉は白色。孢子紋は淡紅色。担子孢子は五～七角形で7-8×6-7 μmある。同属のキイロウラベニタケもひだの色が淡黄色のち肉色を帯びるが、傘表面は黄色平滑で、担子孢子も6-7×5-6 μmとやや小さい。

2.分布

日本固有種で、本州（静岡県、石川県、滋賀県、京都府、広島県）に分布し、県内では中部で確認している。

3.生育環境

里山の比較的湿度が保たれる、アカマツとコナラの混生林の地上に生育している。

4.生育状況

ひだの色が、黄色から孢子の成熟に伴い淡紅色を帯びるという特徴があるが、子実体の発生は同一場所で毎年あるわけではないようで、確認は稀である。

5.減少の主要因と脅威

上記の生育環境が、森林伐採 (11)、宅地開発 (23)、遷移進行 (54) などにより減少している可能性が高い。

6.保護対策

生育地の自然環境の保持が対策となる。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

細矢 剛・埋橋志穂美・保坂健太郎・工藤伸一 (2016) 日本産固有菌類目録の作成に向けて生物多様性データベースを利用した日本固有のきのこリスト作成の試み. 日菌報, 57: 77-84

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編 (1987) 日本原色新菌類図鑑 (I). 保育社, 大阪, 325 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

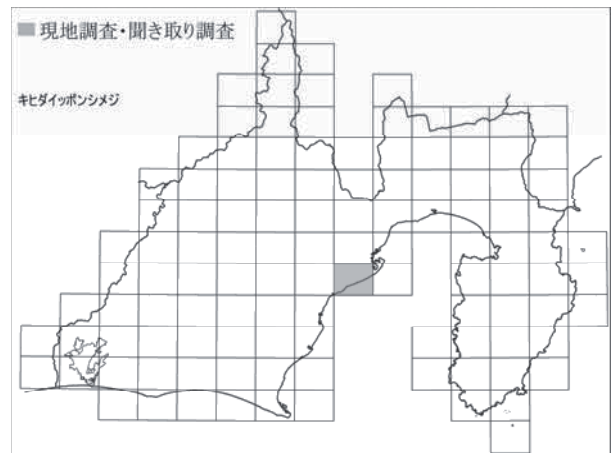
城川四郎 (2017) 検証キノコ新図鑑. 筑波書房, 東京, 250 pp.

9.標本

静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2016年10月1日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

オオモミタケ *Catathelasma imperiale* (Fr.) Singer 1940

キシメジ科 Tricholomataceae

[静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、トドマツ、ウラジロモミなどの林内地上に発生。傘は大型で、まんじゅう形に開く。表面は汚黄褐色のち濃褐色で、中央付近に不明瞭な鱗片がある。ひだは柄に垂生し、白色。柄は上部がきわめて太く、基部は細まって地中に深く入る。柄の上部に二重のつばをつける。肉は白色、粉臭がある。担子胞子は長楕円形から円柱形である。

2.分布

北半球冷温帯以北に分布する。国内では北海道、本州に、県内では東部に分布する。

3.生育環境

県内では亜高山帯の原生的自然林でウラジロモミなどの針葉樹と菌根共生して生育する。土と根と菌糸が一体の塊となったシロは、腐植層下の痩せた地中深くに形成される。

4.生育状況

亜高山帯針葉樹林内での生育環境が限定されるためか、子実体の発生は稀である。中部では現在未確認である。

5.減少の主要因と脅威

減少要因として、伐採による宿主樹木の減少 (11)。生育環境が限られ、局地分布する (61)。未成熟子実体の採取が過度に行われると胞子の散布が十分に行われなくなるため、食用菌で採取圧が高い (42) ことが主要因として挙げられる。

6.保護対策

現在の自然環境に変化を与える自然林の伐採、開発、子実体採取を規制する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編 (2008) 日本きのこ図版 第1巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 815 pp.

本郷次雄 監修 (2006) 新装版 山溪フィールドブックス7 きのこ. 山と溪谷社, 東京, 383 pp.

伊藤誠哉 (1959) 日本菌類誌 第二巻・第五号. 養賢堂, 東京, 658 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

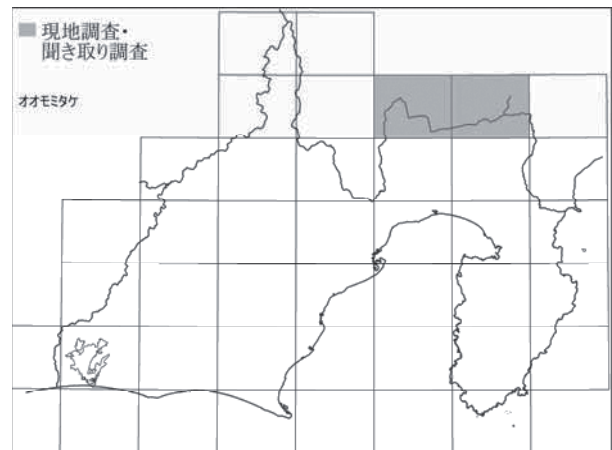
9.標本

静岡県産：ふじのくに地球環境史ミュージアム

(小倉辰彦)



静岡県 2013年9月11日 小倉辰彦



1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、広葉樹林内地上に発生。中型で、傘の表面は栗褐色から褐色、幼時繊維状で、のち裂けて鱗片状となる。ひだは密で白色。柄は上下同大で、繊維状膜質のつばがあり、その下方は傘と同様の繊維状鱗片で覆われる。肉は白色、香りはマツタケに似てさらに強い。担子胞子は類球形から広楕円形である。同じく広葉樹林に生育するニセマツタケは香りが微弱で、柄の下部が細くなる。

2.分布

国外では中国東北部、北アメリカ、ニューギニアに分布する。国内各地に分布し、県内では中部、西部で確認している。

3.生育環境

シイ、コナラ、ミズナラなどと菌根共生して生育する。県内では里山のコナラなどの雑木林に生育する。菌糸と菌根が塊となったシロは落葉層の下の肥えた土壤中に形成される。

4.生育状況

全国的に減少傾向が強い。県内においても、生育に適した環境はごく限られてきており、子実体の発生量も少ない。

5.減少の主要因と脅威

里山のスギ、ヒノキの植林化に伴う宿主樹種の生育する雑木林の減少(11)が要因と考えられる。

6.保護対策

現在の生育環境に手を加えないよう、現状の保持が必要である。生育に適した良好な里山二次林の保全が望まれる。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編(2008) 日本きのこ図版 第1巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 815 pp.

池田良幸(2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987) 原色日本新菌類図鑑 (I). 保育社, 大阪, 325 pp.

今関六也 本郷次雄 監修, 小川 眞 編(1987) マイフルール・シリーズ 見る・採る・食べる きのこカラー図鑑. 講談社, 東京, 254 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

本郷次雄 監修(2006) 新装版 山溪フィールドブックス7 きのこ. 山と溪谷社, 東京, 383 pp.

9.標本

なし。



静岡県 2013年11月8日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に雑木林地上に発生。小型。傘表面は焦茶色ときに中央赤味を帯び、刺状小鱗片から粒状小鱗片に覆われる。子実層托は管孔で黄色からオリーブ色、孔口は傷つけると暗紅色変する。柄は細長い。頂部が淡黄色で以下淡黄褐色から帯褐色繊維状、基部に淡黄白色菌糸をわずかにつける。肉は淡黄～淡褐色。胞子紋はオリーブ色。担子胞子は広楕円形で、鈍い刺状突起をもち、和名の由来となっている。

2.分布

国外では中国（雲南省、浙江省）に分布する。国内では本州（埼玉県、静岡県、石川県、京都府、鳥取県、岡山県）で確認されている。県内では東部で確認している。

3.生育環境

里山のコナラ林、アカマツ・コナラ混生林で菌根共生して生育する。

4.生育状況

現確認地ではスギ、ヒノキの植林の中に残されたわずかな雑木林内で生育している。県内の生育地が限られるためか確認例が少ない。生育地での子実体の発生量も少ない。

5.減少の主要因と脅威

里山のスギ、ヒノキの植林化 (11) により宿主樹木が減少するとともに、生育環境が悪化していると考えられるが詳細は不明である

6.保護対策

現生育地に手を加えないように現状を保持する必要がある。また里山のまとまった広葉樹林を残し、維持管理していく必要がある

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編 (2008) 日本きのこ図版 第5巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 795 pp.

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編 (1987) 原色日本新菌類 図鑑 (I). 保育社, 大阪, 325 pp.

大作晃一・吹春俊光 (2004) 森の休日 4 見つけて楽しむ きのこワンダーランド. 山と溪谷社, 東京, 111 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

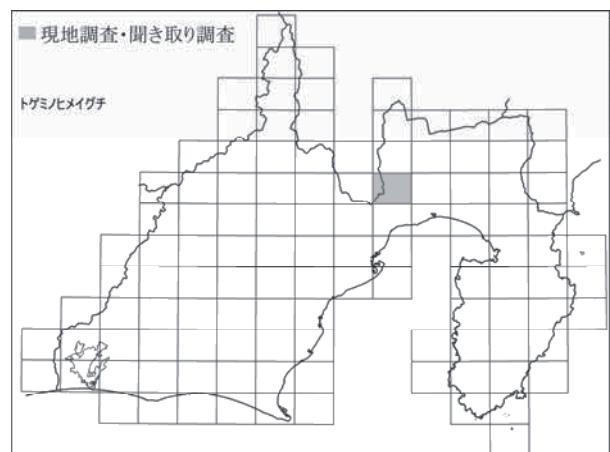
本郷次雄 監修 (2006) 新装版 山溪フィールドブックス 7 きのこ. 山と溪谷社, 東京, 383 pp.

9.標本

なし。



富士宮市 2008年6月1日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

ヌメリツバイグチ *Suillus salmonicolor* (Frost) Halling 1983

ヌメリイグチ科 Suillaceae

[静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は秋に、5針葉マツ樹下に発生。傘は平たいまんじゅう形に開く。表面は著しく粘性があり、帯ピンク黄色のち暗黄褐色になる。子実層托は管孔で、淡黄色のち帯黄土色になり、褐色のしみを生じる。柄は橙黄土色で、褐色から黒色の細かい粒点がある。膜質粘性で消失性のつばを形成する。肉は白色から淡黄色。孢子紋は黄土褐色。担子孢子は紡錘形である。

2.分布

国外では北アメリカ東部に、国内では北海道、本州に分布する。県内では中部に分布する。

3.生育環境

ハイマツ、ゴヨウマツ、キタゴヨウなどの5針葉マツ、ときにはアカマツと菌根共生して生育する。県内で現在確認されているのは亜高山帯下部の原生的自然林のチョウセンゴヨウ、キタゴヨウ樹下である。ハイマツ樹下では確認できていない。

4.生育状況

中部地域の亜高山帯針葉樹林での子実体確認場所は多くない。富士山では現在未確認である。

5.減少の主要因と脅威

比較的湿度のえられやすい原生的自然林内に生育している。森林伐採による生育環境の悪化が要因として挙げられる(11)。富士山では林床の人の踏みつけの影響(51)の可能性もある。

6.保護対策

生育地の自然環境を保持する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 (1989) 原色日本新菌類図鑑 (II). 保育社, 大阪, 402 pp. 今関六也・大谷吉雄

・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

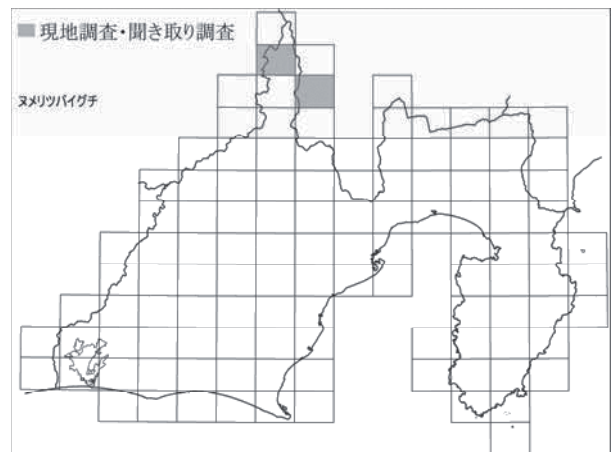
Murata Y. (1976) The boletus of Hokkaido 1 *Suillus* Micheli ex S. F. Gray em Snell. *Trans Mycol Soc. Japan*, 17: 149-158

9.標本

静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2015年9月12日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

アキロウスタケ *Cantharellus cinereus* (Pers.) Fr. 1821

アンズタケ科 Cantharellaceae

[静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に広葉樹林内地上に発生。傘はじょうご状で、縁はやや波打ち、中央の凹みは柄の根もとにまで達することがある。表面は細鱗片があり、灰褐色から暗褐色。子実層托は脈状のしわひだで、垂生する。色は淡黄褐色から淡灰褐色で、白色の微粉を帯びる。柄は基部が細くなり、黒色から暗褐色。担子胞子は広楕円形である。クロラップタケは子実層托がほとんど平滑である。

2.分布

国外ではヨーロッパ、北アメリカに、国内では北海道、本州に分布する。県内では、中部、西部、伊豆に分布する。

3.生育環境

県内では冷温帯の尾根付近のブナ、ミズナラ林で菌根共生して生育している。

4.生育状況

県内のブナ、ミズナラ林における子実体の発生地はごく限られ、発生量も少ない。

5.減少の主要因と脅威

スギ、ヒノキの植林化により宿主樹木が減少し、生育環境が悪化 (11) している。宿主樹木の有無だけでなく、生育環境が限られると考えられるが、詳細は不明である。

6.保護対策

生育地の自然環境を現状のまま維持・保全する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編 (2008) 日本きのこ図版 第5巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 795 pp.

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編 (1989) 原色日本新菌類図鑑 (II). 保育社, 大阪, 402 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

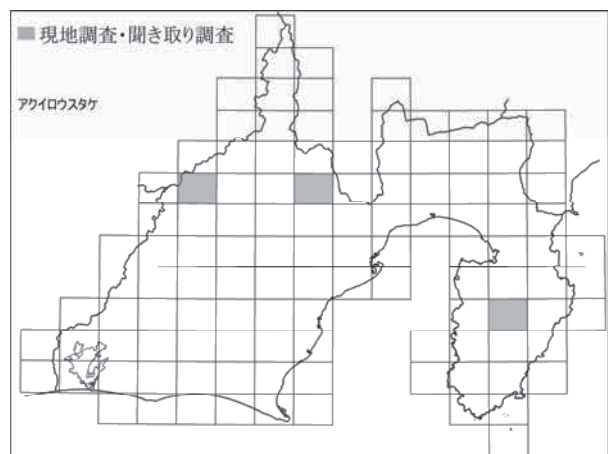
城川四郎 (2017) 検証キノコ新図鑑. 筑波書房, 東京, 250 pp.

9.標本

浜松市産、河津町産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



© 2020 T.Ogura
浜松市 2014年7月20日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

ツヤナシマンネンタケ *Pyrrhoderma sendaiense* (Yasuda) Imazeki 1955

タバコウロコタケ科 Hymenochaetaceae

[静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体はブナなどの切り株、埋木上に発生。傘は不規則な円形で、扁平あるいは貝殻状に湾曲する。表面にはぶい光沢を帯び、放射状に走るしわ状の凹凸と浅い環溝をそなえる。新鮮時黒褐色、乾燥時黄褐色。子実層托は管孔で灰褐色。孔口は微細 (7~8 個/mm)。柄は偏心生から側生、表面は厚く堅い殻皮で覆われる。肉は黄褐色で厚さ 2~5 mm。担子胞子は類球形である。

2.分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、伊豆に分布する。

3.生育環境

冷温帯で、ブナなどの広葉樹切株、埋木といった湿度が保たれやすい広葉樹枯死木を白色腐朽して生育する。

4.生育状況

ブナ林内に生育するが、県内の分布地は限られる。子実体の発生は比較的少ない。

5.減少の主要因と脅威

伐採によりブナ林が減少しているために (11)、ブナの大径木が減少傾向にある。栄養源であり生育場所である湿度をえられやすい所にあるブナなどの切株、埋木が減少している (71)。

6.保護対策

ブナ林が保全されることが対策となる。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

細矢 剛・埋橋志穂美・保坂健太郎・工藤伸一 (2016) 日本産固有菌類目録の作成に向けて生物多様性データベースを利用した日本固有のきのこリスト作成の試み. 日菌報, 57: 77-84

今関六也・本郷次雄 編 (1989) 原色日本新菌類図鑑(II). 保育社, 大阪, 402 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

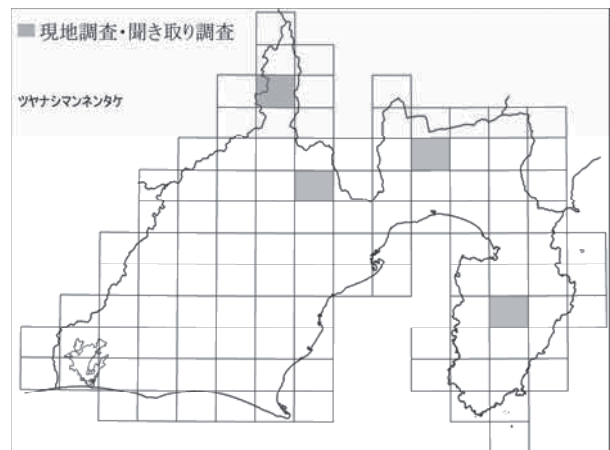
9.標本

静岡市産、富士宮市産、河津町産：ふじのくに地球環境史ミュージアム

(小倉辰彦)



富士宮市 2015年9月6日 小倉辰彦



クロカワ *Boletopsis leucomelaena* (Pers.) Fayod 1889

マツバハリタケ科 Bankeraceae

[静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件 -)] [環境省カテゴリー 情報不足 (DD)]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は秋、マツ林、モミ林などの地上に発生。傘は丸山形、径5~20 cm。表面は灰白色のちしだいに黒くなる。子実層托は管孔、長さ1~2 mmほど。孔口は円形のち形が崩れる。白色から灰色。柄は太く円柱状で充実、傘と同色。傘肉は苦味があり厚さ1 cm以上。白色だが、傷をつけると赤紫色になる。柄では灰褐色を帯びる。担子胞子は類球形、こぶ状のいぼを帯び無色である。

2.分布

北半球に広く分布する。国内各地に分布し、県内では東部、中部、西部に分布する。

3.生育環境

県内の里山から亜高山帯のマツ、モミなどと痩せた土壤中で菌根共生して生育する。

4.生育状況

里山での子実体の発生は、以前は毎年子実体の発生があった所でも、近年は、数年に一度の発生となり、激減している。

5.減少の主要因と脅威

マツ枯れによる宿主樹木の減少(71)に加えて、生活の変化によりアカマツ林が手入れ不足となり、松葉の厚い堆積によって林床が富栄養化したことが要因となって生育環境が悪化(53)している。子実体が食用になることから採取圧も高い(42)。

6.保護対策

適切な森林管理が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸(2013) 新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂、金沢、396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社、東京、648 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989) 原色日本新菌類図鑑(Ⅱ)。保育社、大阪、402 pp.

伊藤誠哉(1955) 日本菌類誌 第二巻・第四号。養賢堂、東京、450 pp.

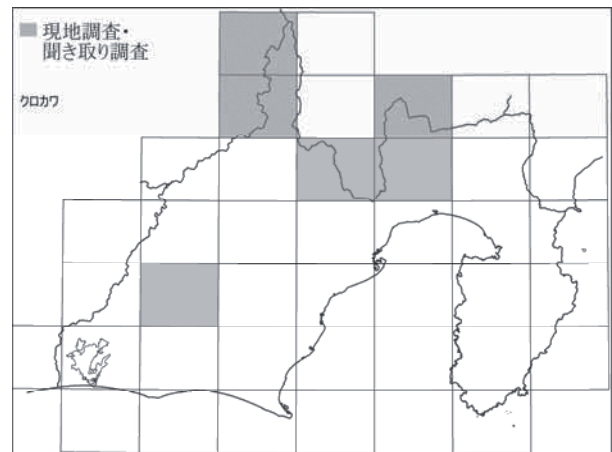
勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、船橋、1177 pp.

9.標本

静岡県産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡県 2016年9月17日 岸澤広晶



(秋山富雄)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は秋に、マツをまじえた広葉樹林地上に発生。アサガオ形に開いたじょうご形で、高さ10~20 cm。傘は径10~20 cm、中心は深く柄の根もとまで窪む。表面はそり返った厚いささくれで覆われ、淡茶色から濃茶色、乾時黒褐色となる。子実層托は針状で灰白色のち暗褐色、長さ1 cmほど。肉は厚さ3~5 mm、肉質で乾くと強い香りを放つ。担子胞子は淡褐色、類球形でいぼを帯びている。

2.分布

日本特産種。本州（東北地方、兵庫県、広島県）で知られるが、分布の詳細は不明。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。極めて類似のシシタケ *S. imburicatus* (Fr.) P. Karst は、日本を含めたアジア、ヨーロッパ、北アメリカにも分布する。



静岡県内 2007年10月6日 小倉辰彦

3.生育環境

コナラ林、アカマツ・コナラ林、ブナ・ミズナラ林などで、少し粘土の混じった硬い土を好んで、菌根共生する。

4.生育状況

宿主樹木が生育する雑木林の減少に加えて、良好な生育環境が減少し、子実体の発生は稀になっている。

5.減少の主要因と脅威

伐採による広葉樹林の減少により生育地が減少している(11)こと、食用になるため子実体の採取圧が高い(42)ことなどが要因と考えられる。最近のナラ枯れによる宿主減少(71)も減少要因となる可能性がある。

6.保護対策

生育適地で、コナラなどの宿主となる落葉広葉樹林を増やすことが必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

今関六也・本郷次雄 監修, 小川 眞 編 (1987) マイフルール・シリーズ 見る・採る・食べるきのこ カラー図鑑. 講談社, 東京, 254pp.

今関六也・本郷次雄 編 (1989) 原色日本新菌類図鑑 (II). 保育社, 大阪, 402 pp.

伊藤誠哉 (1955) 日本菌類誌 第二巻・第四号. 養賢堂, 東京, 450 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

工藤伸一 (2009) 東北きのこ図鑑. 家の光協会, 東京, 271 pp.

9.標本

静岡県産：ふじのくに地球環境史ミュージアム

(秋山富雄)



1.種の解説

腐生菌。エウロチウム目の多くはカビで、本種を含む少数の種が比較的大きな子嚢果を形成し、キノコとみなされる形態的特徴をもつ。子嚢果はタブノキなどの幹に樹皮を破って発生。初めは内外2層の被膜に覆われ、ドングリの殻斗様、のち外被膜は破れ、薄い内被膜に包まれた上部の刷毛状の基本体が柱状に伸びる。高さ1~2 cm。子嚢は基本体中に不規則に散らばって形成され、子嚢胞子を生じたのち子嚢膜は消失する。子嚢胞子は楕円形で、らせん状に並ぶ隆起がある。

2.分布

国外では北アメリカ、南アメリカ、ボルネオ、スリランカに分布する。国内では本州暖帯域以南に分布し、県内では東部、中部、西部、伊豆で確認している。

3.生育環境

タブ、ツブラジイ、イヌビワなどの樹皮、腐朽部上に生育する。県内ではウワミズザクラの立枯木にも生育していた。1970年代には、暖温帯の丘陵地で確認されていたが、現在確認されているのは、冷温帯付近から冷温帯のやや湿度の高い広葉樹林内に生育する老木の樹幹下部や倒木である。

4.生育状況

枯死木の樹皮に小さい子嚢果を形成しているが、各生育地の発生木はごく少ない。今後新しい生育場所を確保できなければ、絶滅が危惧される。

5.減少の主要因と脅威

本県における生育地は限られ、子実体の発生が認められる枯死木はきわめて少ないが、その要因は不明である(99)。

6.保護対策

生育地の林の状況と環境を現状のまま維持・保全する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸(2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989) 原色日本新菌類図鑑(Ⅱ). 保育社, 大阪, 402 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

武藤治彦(2007) 静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ—静岡県内—(1990~2006). 静岡木の子の会会報, (7): 14-25

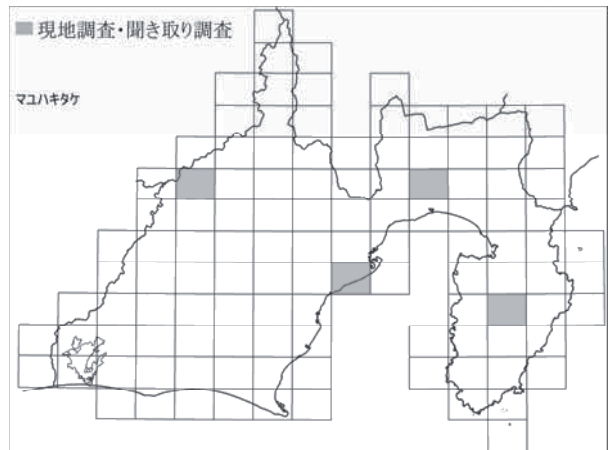
9.標本

富士市産、伊豆市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム

(小倉辰彦)



富士市 2016年4月4日 小倉辰彦



タルゼッタ カティヌス *Tarzetta catinus* (Hokmsk.) Korf & J. K. Rogers 1971

ピロネマキン科 Pyronemataceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体は林内（ことにブナ林）の地上に発生する。子囊盤は碗形で、径2～5 cm、淡クリーム色から淡黄土色。縁には鋸歯状の切れ込みがある。外側は白色の短毛に覆われ、ピロード状。無柄もしくは短くて太い柄がある。子嚢胞子は楕円形、平滑である。

2.分布

国外ではヨーロッパ、アメリカに、国内における詳細な分布地は不明であるが、少なくとも本州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部で確認している。

3.生育環境

県内では冷温帯上部でブナ、ミズナラなどが生育する河岸林、溪畔林の砂礫地に生育する。

4.生育状況

現在生育を確認している場所は原生的自然林の林床であるが、限られる。

5.減少の主要因と脅威

冷温帯上部のブナ・ミズナラ林内の砂礫地で多湿な場所は、河岸林などに多い。樹木の伐採（11）などによる、生育適地の減少が要因と考えられる。

6.保護対策

生育地の自然環境の保持が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

本郷次雄・上田俊穂（2006）新装版山溪フィールドブックス7きのこ．山と溪谷社，東京，384 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編（2011）山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ．山と溪谷社，東京，648 pp.

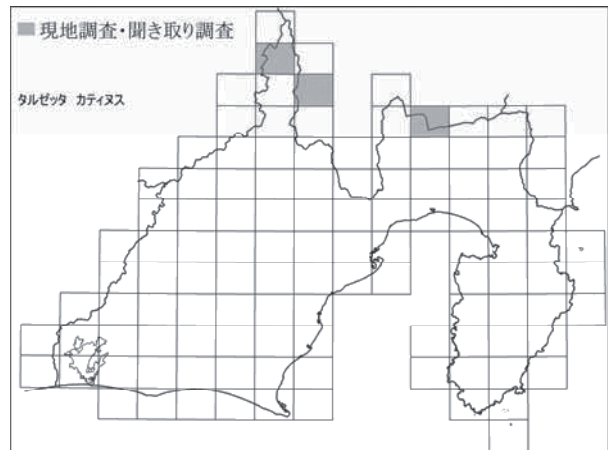
勝本 謙（2010）日本産菌類集覧．日本菌学会関東支部，船橋，1177 pp.

9.標本

富士宮市産、静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2015年7月20日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

カブラテングタケ *Amanita gymnopus* Corner & Bas 1962

テングタケ科 Amanitaceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、広葉樹林内地上に発生。大型。傘表面はクリーム色。淡黄～淡褐色で薄い膜質の外被膜の破片が付着し、縁部につばの残片が垂れ下がる。ひだは黄土色。柄の上部には消失しやすすい膜質のつばがあり、基部がカブラ状に著しくふくらむのが特徴。つばは欠く。肉は黄白色で傷をつけると緩やかに赤褐色に変わる。全体に強い臭気がある。担子胞子は類球形から広卵形である。

2.分布

国外では中国、マレーシアに分布し、国内では関東以西に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3.生育環境

宿主樹種は、主にブナ科 (ブナ、ミズナラ、コナラ、アベマキ、コジイ、マテバシイなど)、ときにカバノキ科シデ属だが、県内では主に里山でシイなどと菌根共生している。

4.生育状況

宿主樹種の有無だけでなく、それ以外の生育要因が限られるためか、子実体の発生地は狭く限られていて、発生量も少ない。1990年代には伊豆地域においても発生が確認されていたが、現在は確認されていない。

5.減少の主要因と脅威

スギ、ヒノキの植林化による生育環境であるブナ科広葉樹林の減少 (11) が挙げられる。ナラ枯れの影響もあり、生育に適した広葉樹林が減少すると絶滅する危険性がある。

6.保護対策

現在の生育環境に樹木伐採などの手を加えないよう、現状の保持が必要である。里山のまとまった広葉樹林を残し、維持、管理していく必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編 (1987) 原色日本新菌類図鑑 (I). 保育社, 大阪, 325 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

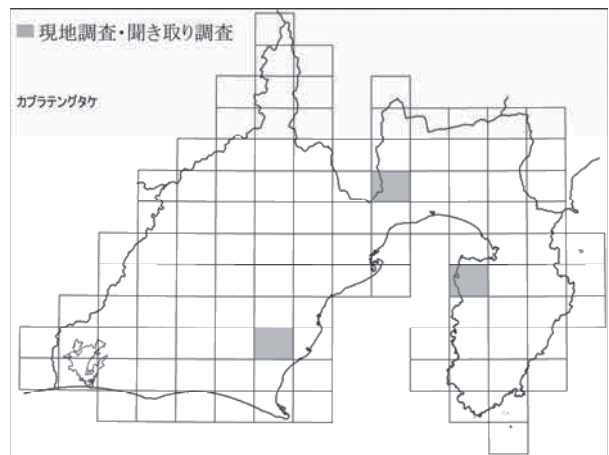
勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

9.標本

なし。



富士宮市 2014年8月25日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

アケボノタケ *Porpolomopsis calyptriformis* (Berk.) Bresinsky 2008

ヌメリガサ科 Hygrophoraceae

[静岡県カテゴリー 情報不足(DD)(要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子實體は夏から秋に、草地、森林、竹林などの地上に発生。傘は円錐形から平らに開いたのちも中央に円錐状の中丘がある。表面は淡いバラ～ライラック色、繊維状でほとんど粘性はない。成熟すると縁部に放射状に深く裂ける。ひだは幅広くやや疎。柄は6～15 cm、中空、多少縦線がありしばしばねじれる。傘とほぼ同色から白色。担子胞子は楕円形である。

2.分布

国外ではヨーロッパ、北アジア、北アメリカに分布する。国内の分布地の詳細は不明であるが、県内では中部で確認している。

3.生育環境

県内で確認している生育地は、人間の活動のほとんどない林内草地である。

4.生育状況

現在の確認地は、中部の一ヶ所である。

5.減少の主要因と脅威

1970年代初期には、丘陵地での確認があった。今回の確認例では、施肥の行われていない天然の草地に発生しており、人間の活動が少ない環境を好む可能性がある(71)。

6.保護対策

現在の生育地の自然環境を保全する必要がある。

7.特記事項

施肥の行われていない天然の草地での発生が多いといわれる。

8.主な文献

本郷次雄 監修(2006)新装版 山溪フィールドブック ス7きのこ. 山と溪谷社, 東京, 383 pp.

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987)原色日本新菌類図鑑 (I). 保育社, 大阪, 325 pp.

伊藤誠哉(1959)日本菌類誌 第二巻・第五号. 養賢堂, 東京, 658 pp.

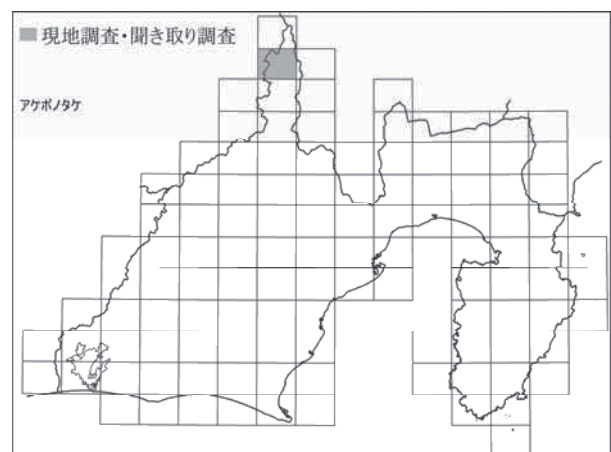
勝本 謙(2010)日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

9.標本

静岡市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2014年8月24日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

カバイロオオホウライタケ *Marasmius aurantioferrugineus* Hongo 1965

ホウライタケ科 Marasmiaceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、広葉樹林、カラマツ林などの落葉上に発生。傘は径3~8 cmで、ほぼ平らに開く。表面は粘性がなく、橙褐色で放射状の小じわがある。ひだは白色からクリーム色で疎。柄は表面が白色の繊維状で強靱である。肉は白色、薄くて強靱。担子胞子は紡錘状長楕円形である。

2.分布

日本固有種で、国内では本州に、県内では中部に分布する。

3.生育環境

県内では冷温帯で、湿度が保たれやすい河岸の広葉樹の落葉を分解して生育する。

4.生育状況

現在確認しているのは、中部の河岸林及びその周辺の、湿度の保たれる落葉上であるが、生育場所は限られ、子実体の発生量も多くない。

5.減少の主要因と脅威

現在生育地の環境は安定しているが、道路建設(24)、開発など(23)が行われると、生育地が減少する可能性が非常に高い。

6.保護対策

現在の生育環境に手を加えないよう保護が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

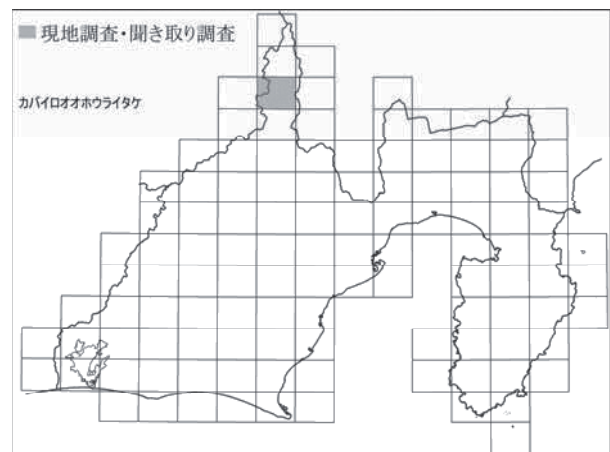
- 青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編 (2008) 日本きのこ図版 第1巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 815 pp.
- 細矢 剛・埋橋志穂美・保坂健太郎・工藤伸一 (2016) 日本産固有菌類目録の作成に向けて生物多様性データベースを利用した日本固有のきのこリスト作成の試み. 日菌報, 57: 77-84
- 池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.
- 今関六也・本郷次雄 編 (1987) 原色日本新菌類図鑑 (I). 保育社, 大阪, 325 pp.
- 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.
- 勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 177 pp.
- 工藤伸一 (2017) 青森県産きのこ図鑑. アクセス二十一出版, 青森, 535 pp.

9.標本

静岡市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2015年9月13日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

1.種の解説

腐生菌。子実体は初夏から秋に、広葉樹の腐朽木上に発生。傘は釣鐘～まんじゅう形のちほとんど平ら、さらに中央はややへこむ。表面は繊維状で黄土色から暗褐色の地に大小の白～汚黄土色の斑紋が不規則に点在する。乾燥すると周辺部に不規則な条線をあらわす。ひだは離生して密、白色のち肉紅色になる。柄は上下同大または上部に向かって細くなり中実、淡黄色で平滑。担子胞子は類球形から広楕円形である。

2.分布

国外では、タイに変種が分布する。国内では本州、九州で確認されており、県内では東部、西部で確認している。

3.生育環境

暖温帯の林内で、腐朽した広葉樹に生育する。

4.生育状況

広葉樹の倒木に生育するが、かなり腐朽が進んだ白色腐朽部に子実体が発生することが多い。発生が稀であることに加えて、生育している腐朽木が短期間で朽ちてしまうため確認例が少ない。古くなったシイタケのホダ木に発生することが多い。

5.減少の主要因と脅威

スギ、ヒノキの植林化に伴う雑木林中の広葉樹腐朽木の減少 (11) に加えて、シイタケ原木栽培の減少に伴う廃ホダ木の減少 (71) により、生育環境が悪化している。

6.保護対策

生育地の林の状況と環境を現状のまま維持・保全する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

Courtecuisse R., M. Uchida, C. Andary & T. Hongo (1991) A new Asiatic species of *Pluteus* (Basidiomycotina, Pluteales) with dotted pileus, and its variations. *Trans. Mycol. Soc. Japan*, 32: 113–124

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

武藤治彦 (2007) 静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ—静岡県内—(1990～2006). 静岡木の子の会会報, (7): 14–25

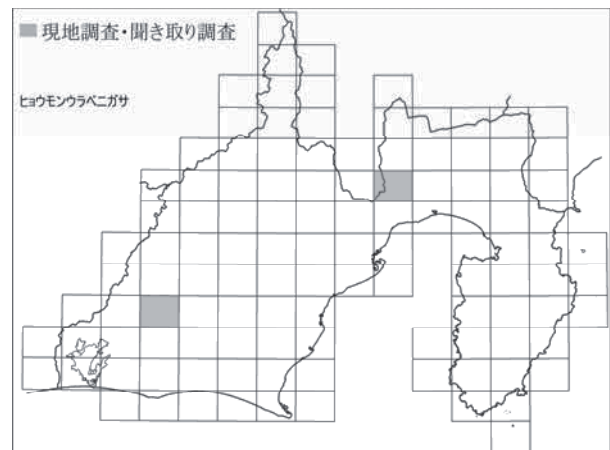
城川四郎 (2017) 検証キノコ新図鑑. 筑波書房, 東京, 250 pp.

9.標本

なし。



富士宮市 2005年6月20日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

ヒダホテイタケ *Leucocortinarius bulbiger* (Alb. & Schwein.) Singer 1945

キシメジ科 Tricholomataceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌(?)。子実体は秋に、針葉樹林内の地上に発生。傘は中型からやや大型、半球形からほとんど平らに開く。表面は淡帯褐色から粘土色で、白色の被膜の残片をつける。ひだは白色のちクリーム色で密。柄は類白色、基部は扁平な塊茎状にふくらむ。幼時傘と柄の間に、フウセンタケ属のようなクモの巣膜がある。胞子紋はクリーム色。担子胞子は卵形から広楕円形で平滑である。

2.分布

国外ではヨーロッパ、国内では北海道、本州の亜高山帯に分布する。県内では東部で確認している。

3.生育環境

県内では亜高山帯の原生的自然林内で、シラビソなどモミ属樹木と菌根共生して生育していると考えられる。

4.生育状況

県内で現在生育が確認されているのは富士山で、他地域では未確認である。富士山においても子実体の発生確認は少ない。

5.減少の主要因と脅威

天然林の伐採(11)などによる生育環境の悪化が考えられるが不明である。

6.保護対策

登山道以外の林床の踏みつけを規制して、生育地の自然環境を保持する必要があると考える。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

本郷次雄 監修(2006)新装版 山溪フィールドブックス7きのこ. 山と溪谷社, 東京, 384 pp.

伊藤誠哉(1959)日本菌類誌 第二巻・第五号. 養賢堂, 東京, 658 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

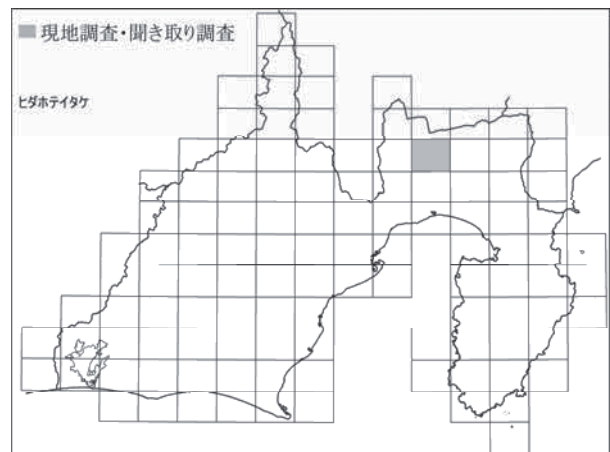
柴田 尚(2006)森のきのこたち. 八坂書房, 東京, 206 pp.

9.標本

富士宮市産、小山町産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



小山町 2015年9月29日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

ウラムラサキシメジ *Tricholosporum porphyrophyllum* (S. Imai)

Guzman ex T. J. Baroni 1982

キシメジ科 Tricholomataceae

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、広葉樹林内落葉上に発生。傘はまんじゅう形から平らに開く。湿時弱い粘性がある。表面は紫色を帯びた濃褐色から明褐色。ひだは密で、鮮やかな紫色から老時黄褐色となる。ひだは傷がつくとゆっくり褐変する。柄は帯黄土白色から黄褐色で、上下同径から基部やや球根状となる。肉は類白色から類黄白色。孢子紋は白色。担子孢子は十字形、角形である。

2.分布

国外については不明。国内では北海道、本州で確認されている。県内では東部、伊豆に分布する。

3.生育環境

県内では、比較的湿度のえられる広葉樹林内落葉上に生育していた。林道脇、公園樹下の落葉層に子実体の発生がみられることがある。

4.生育状況

ひだが鮮やかな紫色で特徴がある子実体だが、県内での発生確認は少ない。発生が稀で、生育状況には不明な点が多い。

5.減少の主要因と脅威

植林化による生育に適した広葉樹林の減少が考えられる (11)。

6.保護対策

継続調査と現生育地の保全が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編 (2008) 日本きのこ図版 第1巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 815 pp.

本郷次雄 (1988) 日本産キシメジ属. 日菌報, (29): 441-447

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

伊藤誠哉 (1959) 日本菌類誌 第二巻・第五号. 養賢堂, 東京, 658 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

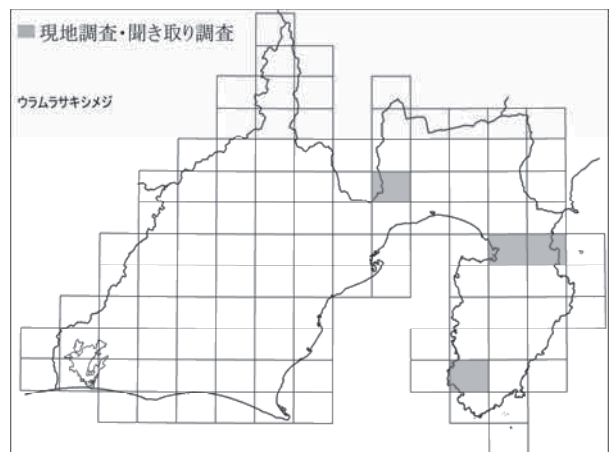
幼菌の会 編 (2001) カラー版 きのこ図鑑. 家の光協会, 東京, 35 pp.

9.標本

南伊豆町産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



南伊豆町 2015年10月3日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

1. 種の解説

外生菌根菌。子実体は夏に、林内地上に発生。傘はまんじゅう形で、縁部に白色膜質の内被膜破片を付着する。表面は粘性があり、黄褐色からニッケイ色で多少鱗片状。子実層托は管孔で、孔口は白色のち紅紫褐色となる。柄は細長く、表面は白～淡黄褐色で縦長の隆起した網目があり、湿時粘性がある。肉は白色、強い香りと苦味がある。担子孢子は広紡錘形で表面はいぼ状である。オオヤシャイグチは全体に緑色を帯びる。

2. 分布

国内では関東以西に、県内では東部、西部に分布する。

3. 生育環境

里山のシイ・カシ林、アカマツ・コナラ林に生育する。

4. 生育状況

発生場所が局地的で、子実体の発生量は少ない。2000年以前には中部においても発生があったが、現在は未確認である。

5. 減少の主要因と脅威

スギ・ヒノキの植林化に伴い、生育地である広葉樹林が減少している (11)。生育環境が限定されるためか各分布地は狭く環境の変化や自然災害 (55) などで著しく減少する危険がある。

6. 保護対策

生育地の林の状態と環境を、現状のまま維持・保全する必要がある。里山でまとまった広葉樹林を残し、維持、管理していく必要がある。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編 (2008)

日本きのこ図版 第5巻. 日本きのこ同好会 2,

神戸, 795 pp.

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

今関六也・本郷次雄 編 (1987) 原色日本新菌類図鑑 (I). 保育社, 大阪, 325 pp.

伊藤誠哉 (1959) 日本菌類誌 2 (5). 養賢堂, 東京, 658 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

武藤治彦 (2007) 静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ—静岡県内—(1990~2006). 静岡木の子の会会報, (7): 14-25

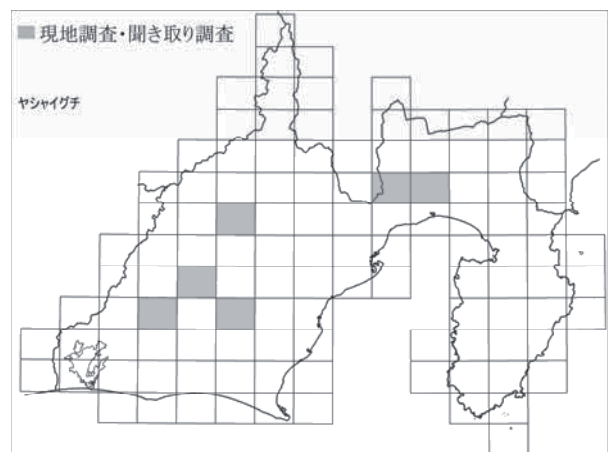
武藤治彦 (2010) 静岡木の子の会の探索会における採集リスト(2007~2009). 静岡木の子の会会報, (8): 9-28

9. 標本

森町産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 T.Ogura
富士宮市 2004年7月13日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、コナラ・クヌギ林内地上に発生。傘は中型から大型。半球形から平らな丸山形に開く。表面は明褐色で、ビロード状。湿時やや粘性がある。管孔は淡黄色のちオリーブ色を帯びる。柄は淡黄色から帯褐淡黄色。網目はなく、基部に黄色の菌糸がある。中実。肉は淡黄色で、切断面は青変せず、しだいに濃い黄色になる。担子胞子は円柱状類紡錘形である。

2.分布

国内では本州に分布する。県内では中部、西部で確認している。

3.生育環境

県内では暖温帯の比較的湿度のえられる林床で、コナラなどと外生菌根を形成して生育している。

4.生育状況

生育確認場所は県内の数ヶ所で、発生場所は限られるようで、発生量も少ない。

5.減少の主要因と脅威

里山の雑木林の伐採による宿主樹木の減少及び生育環境の悪化が考えられる(11)。ナラ枯れによる生育地の宿主樹木の減少(71)の可能性もある。

6.保護対策

現在の生育地の自然環境を保持する必要がある。

7.特記事項

滋賀県内のコナラ・クヌギ林以外からはほとんど発生報告がないとのことだが、原因は不明である。

8.主な文献

今関六也・本郷次雄 編(1989) 原色日本新菌類図鑑(Ⅱ)。保育社、大阪、402 pp.

勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、船橋、1177 pp.

武藤治彦(2007) 静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ—静岡県内—(1990~2006)。静岡木の子の会会報, (7): 14-25

武藤治彦(2013) 静岡木の子の会探索会における採集リスト(2010~2012)。静岡木の子の会会報, (9): 10-30

幼菌の会 編(2001) カラー版きのこ図鑑。家の光協会、東京、335 pp.

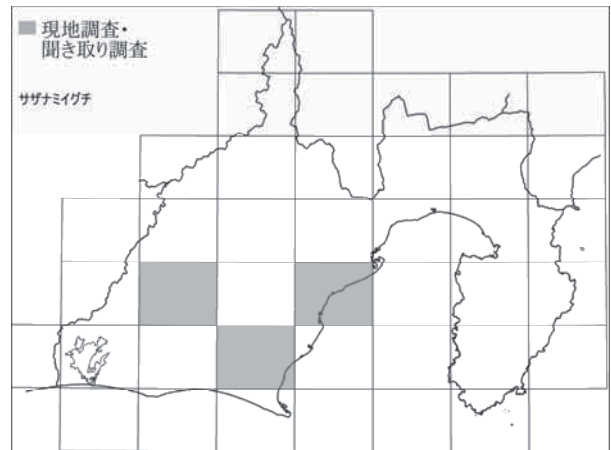
9.標本

静岡市産、浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム

(池ヶ谷のり子)



静岡市 2016年10月1日 池ヶ谷のり子



1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、シイ林、コナラ林などの地上に発生。傘は小型、まんじゅう形からほぼ平らに開く。表面はゼラチン様の粘性物質に覆われ、灰オリーブ色からオリーブ褐色。子実層托は管孔で、類白色のち淡黄褐色。柄は2.5~6 cm、白色で、ゼラチン様粘性物質で覆われる。表面には傘と同色の細点が散在する。肉は白色。胞子紋は金茶色。担子胞子は類円柱形から円柱状紡錘形である。

2.分布

国外では中央アフリカ（コンゴ）、東南アジアに、国内では東海以西（？）に分布する。県内では中部で確認している。

3.生育環境

暖温帯の比較的明るいアカマツ・コナラ林の林床で、菌根共生して生育している。

4.生育状況

生育確認場所は現在一ヶ所で、発生回数も量も少ない。

5.減少の主要因と脅威

里山のブナ科樹種の伐採（11）による宿主樹木の減少は本種減少の要因となる。本種の場合、それ以外の生育環境の変化も重要になると考えられるが、痩せ地の比較的明るい林内に生育しており、管理放棄による林床の富栄養化（53）の可能性がある。

6.保護対策

現在の生育地の雑木伐採などを極力避けて、自然環境を保持することが必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

- 本郷次雄 監修（2006）新装版 山溪フィールドブックス7きのこ．山と溪谷社，東京，384 pp.
 今関六也・本郷次雄 編（1989）原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．保育社，大阪，402 pp.
 勝本 謙（2010）日本産菌類集覧．日本菌学会関東支部，東京，1177 pp.

9.標本

静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム

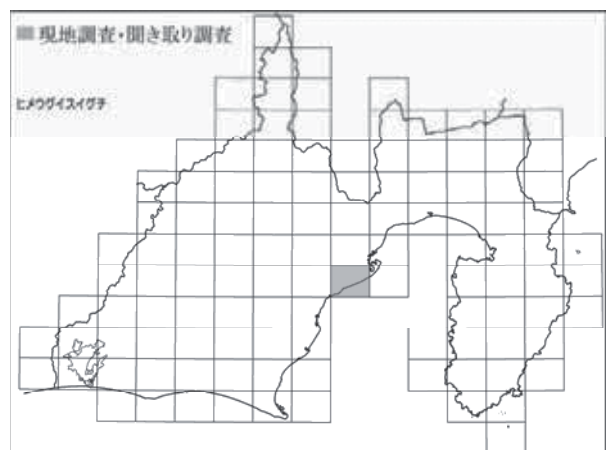


©2020 N.Ikegaya



©2020 N.Ikegaya

静岡市 2016年10月 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、亜高山帯針葉樹林内地上に発生。傘はまんじゅう形から逆円錐形になる。表面は茶褐色から赤褐色で、NH₃で濃青色に変色する。ひだは鮮黄色のちオリーブ褐色、柄に長く垂生する。柄は淡黄色の地に褐色の微鱗片を密生し、上部にひだに接続する縦条がある。肉は白色、NH₃で青変するが、傷時の変色はない。担子胞子は紡錘形である。キヒダタケは主に冷温帯以下でブナ科樹木下に生育し、肉はNH₃で汚紫色に変色する。

2.分布

国外ではヨーロッパ、北アジアに分布する。国内では本州に、県内では中部に分布する。

3.生育環境

亜高山帯の尾根部分などの原生的自然林で、コメツガなどと菌根共生して生育している。

4.生育状況

中部の亜高山帯針葉樹林において生育を確認しているが、生育地は限られている。富士山では現在未確認である。

5.減少の主要因と脅威

尾根などの森林伐採による天然林の減少による宿主樹木の減少及び生育環境の悪化が考えられる(11)。場所によってはシカ食害を受けたコメツガ稚樹の枯れ木があり、将来的に影響を受ける可能性がある(52-1)。

6.保護対策

現在の生育地の自然環境を維持する必要がある。

7.特記事項

日本での新産確認は1995年で、富士山で過去に生育していたかどうかは不明である。

8.主な文献

池田良幸(2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

9.標本

静岡市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2014年8月16日 小倉辰彦



(池ヶ谷のり子)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は春と秋にクロマツ林地に発生。半地下生、卵形から扁球形で径 1.5~3 cm、白色から黄褐色のち赤褐色となる。手でこすると淡赤褐色に変色する。表面は菌糸束に覆われる。グレバは不規則な迷路状小腔室をなし、初め白色しだいに黄土色から淡褐色になる。特有の芳香がある。担子胞子は長楕円形、淡褐色を帯びる。

2.分布

北半球に分布する。国内では、本州、九州に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3.生育環境

クロマツと菌根共生し、主に海岸のクロマツ林の砂地に生育する。

4.生育状況

県内の各地海岸クロマツ林の砂地では、ショウロはふつうに産し、食用とされていた。しかし林床の松葉掻きが減り、松葉が厚く堆積した 1960 年頃より、マツ枯れ被害とともに子実体の発生量は激減した。炭の埋設効果で一時的に復活したが、埋設を止めると発生量が減った。今では森林整備箇所以外では稀にしか見られない。

5.減少の主要因と脅威

マツ枯れによる宿主樹木のクロマツの減少 (71) がある。加えて生活の変化などにより松葉掻きが減って松葉が堆積することにより林床が富栄養化し、貧栄養地を好むショウロが生育できなくなった (53) ことが要因として挙げられる。

6.保護対策

現生育地において、林床の松葉掻きなどの保育整備をすることが必要である。宿主樹木の減少をくい止めるために抵抗性マツの植栽も有効であると考えられる。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

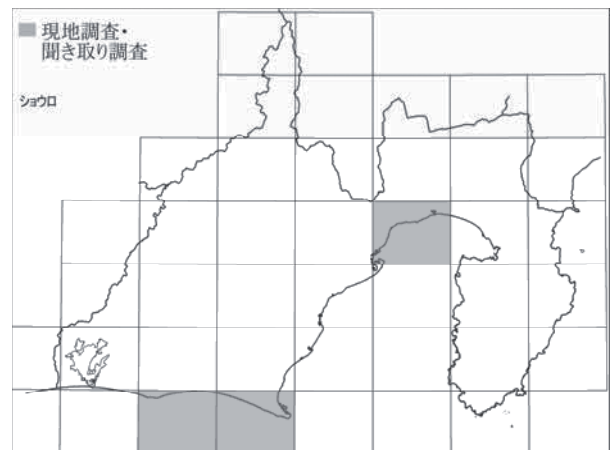
- 池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.
- 今関六也・本郷次雄監修 小川眞 編 (1987) マイフルール・シリーズ 見る・採る・食べるきのこカラー図鑑. 講談社, 東京, 254 pp.
- 今関六也・本郷次雄 編 (1989) 原色日本新菌類図鑑 (II). 保育社, 大阪, 402 pp.
- 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.
- 伊藤誠哉 (1955) 日本菌類誌 2 (5). 養賢堂, 東京, 658 pp.
- 勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.
- 佐々木廣海・木下晃彦・奈良一秀 (2016) 地下生菌識別図鑑. 誠文堂新光社, 東京, 143 pp.
- 佐藤亮二 (2007) ショウロを見つけました. 静岡木の子の会会報, (7): 36

9.標本

静岡県産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡県 2015 年 11 月 26 日 小倉辰彦



(秋山富雄)

ウズタケ *Coltricia montagnei* (Fr.) Murrill 1920

タバコウロコタケ科 Hymenochaetacea

[静岡県カテゴリー 情報不足(DD)(要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏に広葉樹林内地上に発生。厚みのあるコマ形で、傘の表面は黄褐色から茶褐色、繊維状からビロード状で放射状の細かな筋と環紋がある。子実層托は同心円状のひだで、一部または全面が管孔となることがある。色は灰褐色から焦茶色。柄は中心生で下部に向かって細くなる。焦茶色から黒褐色でフェルト状。肉は黄褐色からさび褐色。担子胞子は卵形から楕円形、平滑である。

2.分布

国外では北半球(中国、ヨーロッパ、北アメリカ)に広く分布する。国内にも分布するが、やや稀である。県内では中部で確認している。

3.生育環境

県内では暖温帯広葉樹林内の岩の多い斜面や裸地に生育する。

4.生育状況

現在県内で確認されている子実体の発生場所は限定されており、発生数も少なく詳しいことは不明である。

5.減少の主要因と脅威

里山の雑木林の伐採により、生育地が減少している(11、23)。また腐植の少ない、痩せ地に生育することから他の微生物との競争に弱い可能性があり、林床の富栄養化などによる生育環境の悪化(53)により、容易に絶滅する危険がある。

6.保護対策

生育地の林の状況と環境を現状のまま維持・保全する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編(2008) 日本きのこ図版 第5巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 795 pp.

池田良幸(2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011) 山溪カラー一名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011) 山溪カラー一名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

城川四郎(1996) 猿の腰掛け類きのこ図鑑. 地球社, 東京, 207 pp.

9.標本

なし。



牧之原市 2015年7月24日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

ヒメオツネンタケ *Coltriciella pusilla* (Imazeki & Kobayashi) Corner 1991

タバコウロコタケ科 Hymenochaetaceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

子実体は夏に、林内のコケの生えた地上、シイ腐朽木上に発生。高さ1 cmほど。傘の径は0.5~1 cm、半円形からへら形。表面は暗褐色、不鮮明な環状があり、ビロード状。縁は薄く微細な鋸歯状。子実層托は管孔で、長さ1 mm以下。孔口は黄褐色、2~3個/mm。柄は褐色で細く、側生する。傘肉はきわめて薄く、海綿状で褐色。担子胞子は卵形から楕円形で、微細ないぼに覆われ、淡黄褐色である。

2.分布

国内では本州（東京都、静岡県、京都府、兵庫県など）の記録がある。県内では中部、西部、伊豆に分布する。

3.生育環境

県内では、里山の常緑広葉樹林内の腐植の少ない地上や広葉樹腐朽木上に生育している。

4.生育状況

現在の確認場所は、中部、西部、伊豆の各一ヶ所で、子実体の発生面積、発生量ともに少ない。

5.減少の主要因と脅威

常緑広葉樹林内で、生育に適した環境が、森林伐採(11)などにより減少している。

6.保護対策

現在の生育環境に手を加えないよう、現状の保持が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

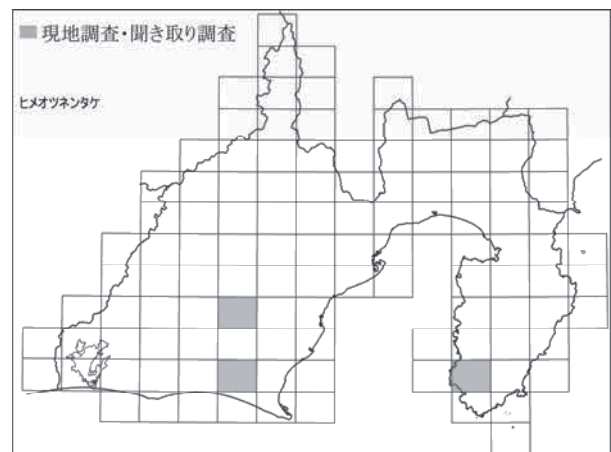
本郷次雄・上田俊穂（2006）新装版 山溪フィールドブックス7 きのこと。山と溪谷社，東京，384 pp.
今関六也・本郷次雄（1989）原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．保育社，大阪，402 pp.
勝本 謙（2010）日本産菌類集覧．日本菌学会関東支部，東京，1177 pp.

9.標本

島田市産、掛川市産、南伊豆町産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



島田市 2015年7月12日 小倉辰彦



(池ヶ谷のり子)

オオカボチャタケ *Hapalopilus croceus* (Pers.) Donk 1933

タマチョレイタケ科 Polyporaceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、ミズナラなどナラ類の生立木、枯死木上に発生。傘の径は10~20 cm、丸山形からくさび形。表面は橙黄色で、ビロード状。アルカリにより濃赤色に変色する。子実層托は管孔で濃橙色、孔口は橙黄色、2~3個/mm。無柄。傘肉は鮮橙色で多汁な肉質だが、乾燥すると黒褐色のヤニ状になる。担子胞子は広卵形、平滑である。

2.分布

国外ではヨーロッパ、中国、北アメリカ東部に、国内では北海道、本州に分布する。県内では中部に分布する。

3.生育環境

県内では冷温帯上部の自然林内で、ミズナラ生立木の幹辺材部の傷口から侵入して、材を白色腐朽して生育していたが、枯死木（ナラ類）にも生育する。

4.生育状況

現在確認できているのは一ヶ所である。

5.減少の主要因と脅威

伐採による自然林内のミズナラの減少が(11)考えられる。

6.保護対策

現在の生育環境に手を加えないよう、現状の保持が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄編 (2011) 山溪カラー一名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

伊藤誠哉 (1955) 日本菌類誌 第二巻・第四号. 養賢堂, 東京, 450 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

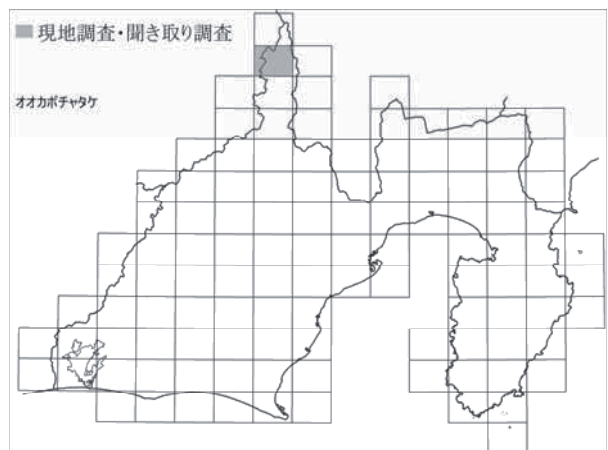
城川四郎 (1996) 猿の腰掛類きのこ図鑑. 地球社, 東京, 207 pp.

9.標本

静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 上:2015年9月12日、下:2014年7月27日
池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

エゾシロアマタケ *Haploporus odorus* (Sommerf.) Bondartsev & Singer 1944

タマシロイタケ科 Polyporaceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体は、寒冷地のヤナギなどの広葉樹上に発生。無柄で、傘表面、子実層托ともに類白色から淡褐色。子実層托は管孔で、孔口は3個/mm。全体に強いアニス状の芳香をもつ。担子胞子は類球形である。

2.分布

寒冷地に分布する。国内では北海道、本州に、県内では中部に分布する。

3.生育環境

県内では冷温帯上部で、河岸林のヤナギ類などの広葉樹に生育し、白色腐朽する。

4.生育状況

子実体の発生確認はごく限られ、確認場所も限られる。富士山では現在未確認である。

5.減少の主要因と脅威

道路建設 (24) などに伴う生育地である河岸林内のヤナギ類の消失が脅威となる。

6.保護対策

現在の生育環境の保全が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

本郷次雄 監修 (2006) 新装版山溪フィールドブックス7きのこ. 山と溪谷社, 東京, 384 pp.

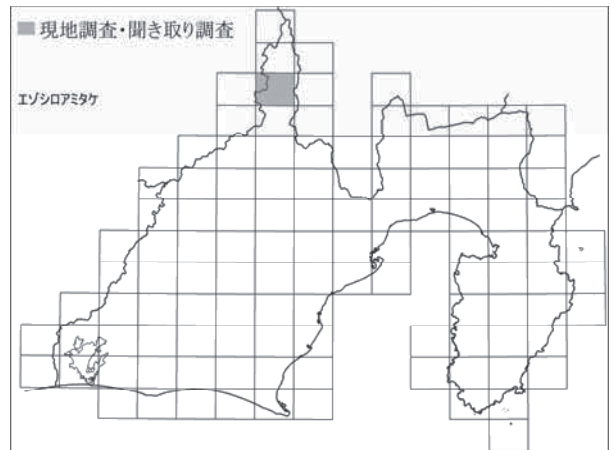
勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

9.標本

静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2009年8月1日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

センニタケ *Albatrellus pes-caprae* (Pers.) Pouzar 1966

ニンギョウタケモドキ科 Albatrellaceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は秋、針葉樹林内に、東北地方ではブナ林内の裸地に発生。傘は径5~15 cm、半円形もしくは腎臓形で、表面は暗黄緑色から緑褐色、やや毛羽立った鱗片で覆われる。子実層托は管孔で、柄に垂生し、白色から黄土色。孔口はやや角ばり、1~2個/mm。柄は長さ2~5 cm、太さ1~2 cm、側生から偏心生である。肉は厚く、白~淡黄色。担子孢子は広卵形から短楕円形である。

2.分布

国外ではアジア、ヨーロッパ、北アメリカに、国内では近畿地方以北に分布する。県内では中部に分布する。

3.生育環境

県内では亜高山帯のウラジロモミ林、コメツガ・シラビソ林で菌根共生して、尾根付近の原生的自然林内の腐植の少ない林床に生育している。

4.生育状況

県内で子実体の発生が現在確認されているのは中部で、発生場所は限られ、発生量も少ない。

5.減少の主要因と脅威

生育に適した自然環境が限られており、林道の拡張工事など(24)で原生的自然林が伐採される(11)など、環境が変化すると、生育地が消失する所がある。

6.保護対策

生育地の現状の環境を維持する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

今関六也・本郷次雄編(1989)原色日本新菌類図鑑(II). 保育社, 大阪, 402 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

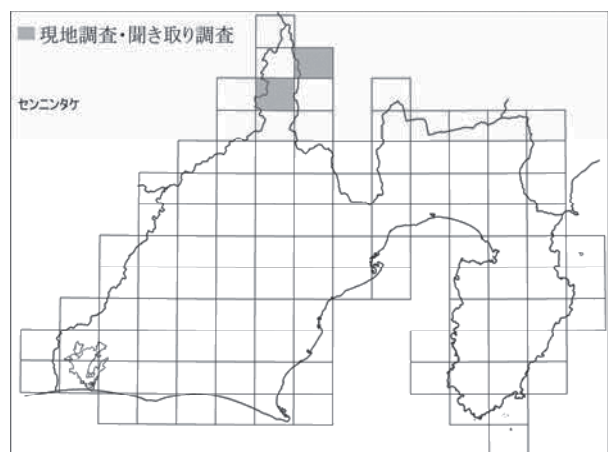
工藤伸一(2017)青森県産きのこ図鑑. アクセス二十一出版, 青森, 535 pp.

9.標本

静岡市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2014年9月14日 岸澤広晶



(岸澤広晶)

ケショウシロハツ *Lactarius controversus* Pers. 1800

ベニタケ科 Russulaceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、ヤマナラシ属樹下に発生。傘は中央が少し窪むまんじゅう形からじょうご形になる。表面は粘性があり、白色で大きな淡赤褐色の斑紋ができる。周辺部には淡赤褐色の環紋をつける。ひだは垂生し、密。類白色のち赤みを帯びた肌色になる。乳液は白色で少量、辛味がある。柄は太短く、傘と同色。担子胞子は楕円形から広卵形で細かい網目と少数の細粒に覆われる。

2.分布

国内を含めて北半球温帯以北に分布する。県内では中部に分布する。

3.生育環境

ヤマナラシ属樹種と菌根共生して生育する。県内で生育が確認されているのは、冷温帯で河岸林を形成するドロノキ樹下である。

4.生育状況

県内のドロノキ生育地は限られるため、確認地は少ない。引き続き調査が必要である。

5.減少の主要因と脅威

伐採 (11) などによるドロノキ群落の消滅は、生育地の消失につながる。

6.保護対策

宿主樹種群落の維持と、現在の生育環境の保持が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

本郷次雄 監修 (2006) 新装版 山溪フィールドブックス7きのこ. 山と溪谷社, 東京, 384 pp.

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

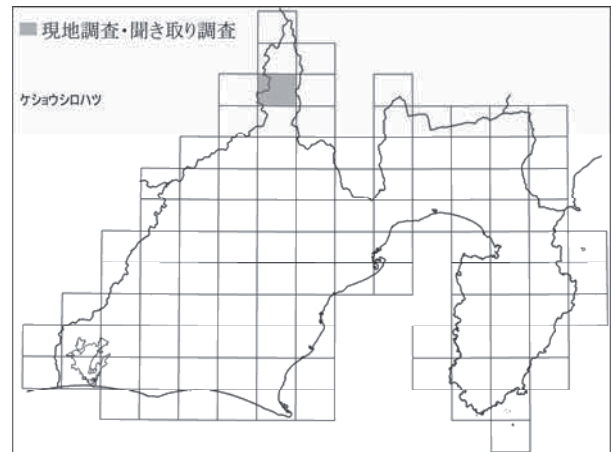
勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

9.標本

静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2016年8月9日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

フチドリクロチチタケ *Lactarius nigroviolascens* G. F. Atk. 1918

ベニタケ科 Russulaceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 -)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に雑木林地上に発生。傘は径3~6 cm、まんじゅう形から平らに開くが、中央は窪み、円錐形の中丘をしばしば残す。表面はビロード状で暗褐色から黒褐色、放射状の小じわがある。ひだは疎。白色から乳白色で暗褐色に縁取られる。乳液は白色から暗紫色に変色。柄は傘と同色でビロード状。肉は白色で傷時紫変。担子胞子は類球形で、粗い刺状突起とそれを結ぶ網目に覆われる。

2.分布

国外では北米東部に分布する。国内では本州（静岡県、石川県、富山県、京都府、滋賀県）で確認されている。県内では中部、西部で確認している。

3.生育環境

里山の湿度をえられやすいシイ・カシ林、コナラ林、コナラ・アカマツ混生林内で、これらの樹木と菌根共生して生育する。

4.生育状況

生育場所が局地的で、子実体の発生量も少ない。

5.減少の主要因と脅威

生育適地の雑木林の伐採 (11) が主要因と考えられる。

6.保護対策

生育地の雑木林の自然環境を保全することが必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編(2008) 日本きのこ図版 第5巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 795 pp.

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑, 橋本 確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編 (1989) 原色日本新菌類図鑑 (II). 保育社, 大阪, 402 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

9.標本

島田市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 T.Ogura
浜松市 2013年6月17日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

シロオニタケモドキ *Amanita hongoi* Bas 1969

テンゲタケ科 Amanitaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、広葉樹林内地上に発生する。傘は15～17 cm、半球形から平らに開く。表面は淡黄褐色から淡褐色で、先の尖った錐状のいぼで覆われる。ひだは離生し密、白色から淡クリーム色。柄の基部は塊茎状で、輪状に小さいいぼが付着する。つばは柄の頂部から垂れ下がり、膜質でクリーム色。肉は白色。担子胞子は卵状類球形である。シロオニタケに似るが、全体が帯褐色で、つばが永存性である。

2.分布

日本固有種で、国内では本州、九州に分布する。県内では東部、中部、西部、伊豆で確認している。

3.生育環境

県内では暖温帯のスダジイ、コナラ樹下で菌根共生して生育している。

4.生育状況

県内の各地域に生育しているが、生育箇所は限られる。場所によっては、近年発生が確認できないところもある。

5.減少の主要因と脅威

丘陵地のブナ科樹木の伐採(11)、宅地開発(23)による生育適地の減少がある。また県内生育地では、現在ナラ枯れが進行しつつあり、影響を受ける可能性がある(71)。

6.保護対策

現在の生育地の自然環境の保持が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

細矢 剛・埋橋志穂美・保坂健太郎・工藤伸一(2016)日本産固有菌類目録の作成に向けて生物多様性データベースを利用した日本固有のきのこリスト作成の試み。日菌報, 57: 77-84

本郷次雄 監修(2006)新装版山溪フィールドブックス きのこ。山と溪谷社, 東京, 384 pp.

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987)原色日本新菌類図鑑()。保育社, 大阪, 325 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

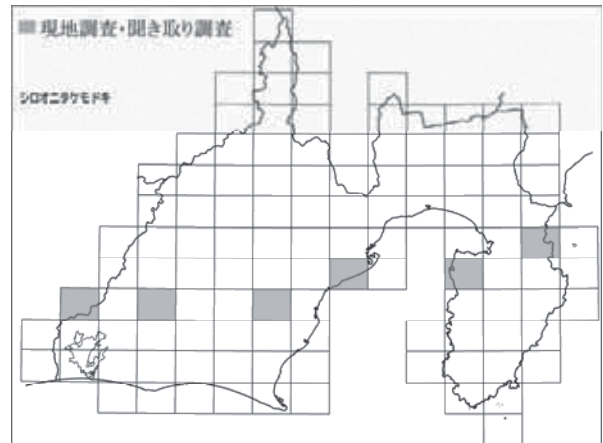
幼菌の会 編(2001)カラー版きのこ図鑑。家の光協会, 東京, 335 pp.

9.標本

沼津市産、静岡市産、浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 N. Ikegaya
浜松市 2016年10月10日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

カバイロコナテングタケ *Amanita rufoferruginea* Hongo 1966

テングタケ科 Amanitaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から初秋に、主としてアカマツ・コナラ林内地上に発生。傘は球形から平らに開く。表面は明るい帯褐橙色で、同色の粉質物に覆われ、周辺には短い溝線がある。ひだは離生し、白色、密。柄の上部は細くなり、基部は球根状にふくらむ。表面は傘と同様の粉物質に覆われ、上部に白色膜質のつばがあるが脱落しやすい。肉は白色。担子胞子は球形から類球形である。

2.分布

国外では中国、韓国に、国内では関東以西に分布する。県内では東部、中部、西部、伊豆で確認している。

3.生育環境

里山のコナラ林、アカマツ・コナラ林内で、菌根共生して生育する。

4.生育状況

アカマツ・コナラ林に生育するが、確認地は減少し、子実体の発生量も減少傾向にある。

5.減少の主要因と脅威

植林化に伴う雑木林の減少(11)、マツ枯れによるアカマツの減少(71)が主要因と考えられる。最近のナラ枯れによるコナラの減少(71)の影響の可能性もある。

6.保護対策

アカマツ・コナラ林を残し、維持管理していく必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑・橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987)原色日本新菌類図鑑()。保育社, 大阪, 325 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

武藤治彦(2010)静岡木の子の会の探索会における採集リスト(2007~2009)。静岡木の子の会会報, (8): 9-28

9.標本

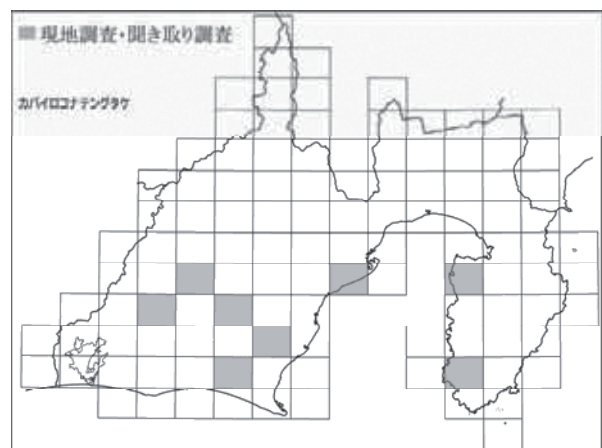
沼津市産、静岡市産、掛川市産、森町産、浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



森町 2016年9月23日 幼子実体 河村正幸



森町 2018年9月26日 河村正幸



(河村正幸)

ミヤマムラサキフウセンタケ *Cortinarius hercynicus* (Pers.) M. M. Moser 1967
 フウセンタケ科 Cortinariaceae
 [静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、亜高山帯針葉樹林内地上に発生。傘はまんじゅう形からやや中高の平らに開く。表面は粘性なく暗紫色で細かいささくれた鱗片に覆われる。ひだは幅広く疎で、青紫色からさび褐色になる。柄は傘と同色。クモの巣膜がある。肉は青紫色。担子胞子はアーモンド形でいばに覆われる。類似種のムラサキフウセンタケは、ブナ、ミズナラなどの広葉樹林に発生する。

2.分布

国外ではヨーロッパ、北米に、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では東部、中部で確認している。

3.生育環境

県内では亜高山帯のトウヒ属、マツ属、モミ属の天然林内で菌根共生して生育している。

4.生育状況

生育に適した亜高山帯針葉樹林は多くはなく、子実体の発生量も少ない。

5.減少の主要因と脅威

森林伐採による天然林の減少(11)が考えられる。コケに覆われた林床に子実体が発生しており、登山道以外の林床の人による踏みつけは生育環境を悪化させる可能性がある(51)。

6.保護対策

現在の自然環境を保持する必要がある。

7.特記事項

種の同定は(財)日本きのこセンター菌茸研究所の長澤栄史特別研究員にいただいた。

8.主な文献

今関六也・本郷次雄 編(1987)原色日本新菌類図鑑()。保育社、大阪、325 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、東京、1177 pp.

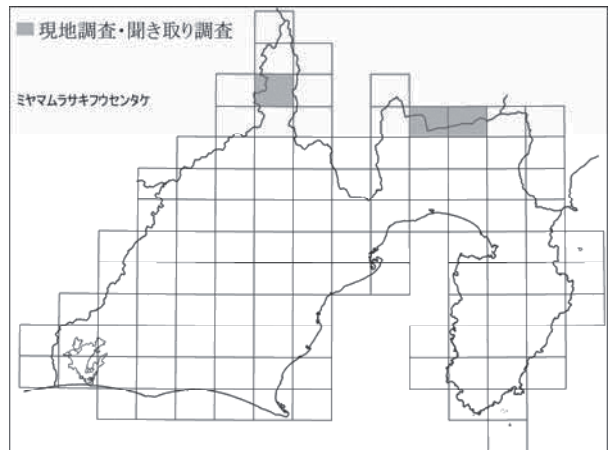
新潟きのこ同好会(2010)新潟県のきのこ。新潟日報事業社、新潟、159 pp.

9.標本

小山町産、静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



小山町 2015年9月20日 小倉辰彦



(池ヶ谷のり子)

オニフウセンタケ *Cortinarius nigrosquamosus* Hongo 1969

フウセンタケ科 Cortinariaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は初夏及び秋に、広葉樹林内地上に発生。傘はまんじゅう形から平らに開く。表面は黄上色の地に黒色の多数の鱗片（中央部付近ではささくれ状または錐状）をそなえる。ひだはニッケイ色でやや疎。柄は下部がこん棒状にふくらみ、色は傘と同色。上部につば（クモの巣膜）があり、つばより下は傘同様の黒色の鱗片をつける。肉は類白色から淡黄土色。担子胞子は類球形で、いばに覆われる。

2.分布

国外ではニューギニア、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、伊豆に分布する。

3.生育環境

宿主樹種はシイ、カシ、コナラ、ブナなどであるが、県内では里山のシイ・カシ林、コナラ林で確認している。

4.生育状況

県内での発生は稀で、発生地は限られる。宿主樹木の生育する雑木林があっても、必ずしも子実体の発生がみられるわけではなく、他の生育要因があると考えられるが、詳細は不明である。

5.減少の主要因と脅威

生育環境である里山のブナ科広葉樹林が、スギ、ヒノキの植林化（11）及び宅地化（23）して減少している。

6.保護対策

生育地の林の状況と環境を現状のまま維持・保全する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編（2008）日本きのこ図版 第4巻．日本きのこ同好会 2，神戸，850 pp.

池田良幸（2013）新版 北陸のきのこ図鑑．橋本確文堂，金沢，396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編（2011）山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ．山と溪谷社，東京，648 pp.

今関六也・本郷次雄 編（1987）原色日本新菌類図鑑（ ）．保育社，大阪，325 pp.

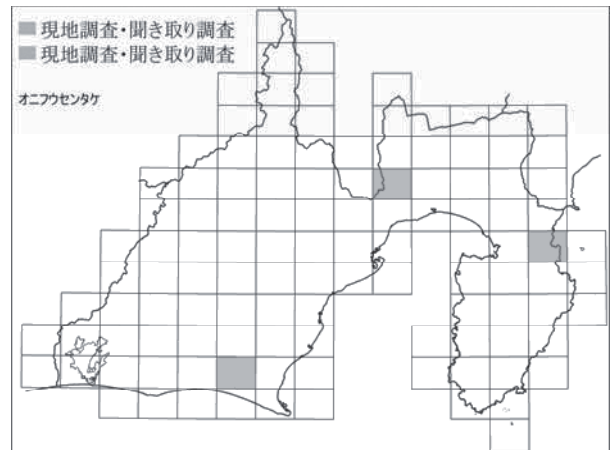
勝本 謙（2010）日本産菌類集覧．日本菌学会関東支部，船橋，1177 pp.

9.標本

富士宮市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 T. Ogura
富士宮市 2016年6月4日 小倉辰彦



（小倉辰彦）

ソライロタケ *Entoloma virescens* (Berk. & M. A. Curtis) E. Horak 1986

イッポンシメジ科 Entolomataceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、各種林内地上に発生。全体が鮮やかな空色。傘は径2~3.5 cmの円錐形で、表面は微細な繊維状の鱗片に覆われる。傷ついたり触ったりすると黄色に変色する。ひだは柄に上生から離生し、空色から胞子の成熟に伴い肌色を帯びる。柄は表面に少しねじれたような繊維状の模様が見られる。担子胞子は四角形である。

2.分布

国外では東南アジア(?)に分布する。国内では本州から沖縄にかけて分布し、県内では中部、西部で確認している。

3.生育環境

熱帯地方を中心に分布する。県内では暖温帯のアカマツ、コナラなどの混生林の腐葉土上に生育するが、他県では竹林やスギ林に子実体が発生した例も報告されている。

4.生育状況

若い子実体は鮮やかな空色で特徴があるが、県内では子実体の発生が稀である。一度に発生する量も少ないため確認事例が少ない。

5.減少の主要因と脅威

不明である(99)。

6.保護対策

現在の生育地の自然環境を維持する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社, 東京, 648 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987)原色日本新菌類図鑑()。保育社, 大阪, 325 pp.

伊藤誠哉(1959)日本菌類誌 第二巻・第五号。養賢堂, 東京, 658 pp

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

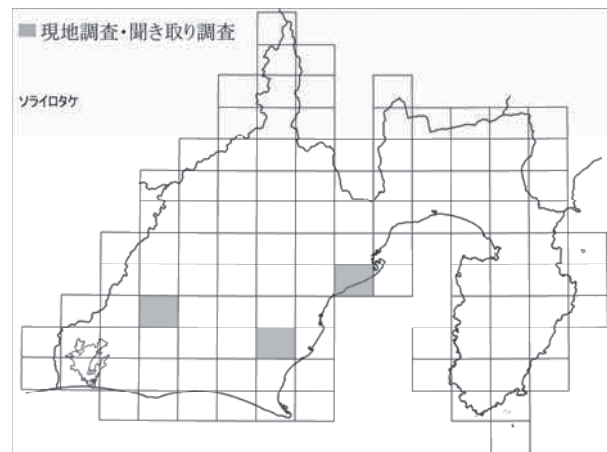
武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ—静岡県内—(1990~2006)。静岡木の子の会会報, (7): 14-25

9.標本

なし。



牧之原市 2016年9月19日 胸組伸行



(小倉辰彦)

カンゾウタケ *Fistulina hepatica* (Schaeff.) With. 1792

カンゾウタケ科 *Fistulinaceae*

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体は、5～6月または10月頃、シイ老木の生立木の根際に発生することが多い。傘は肝臓から牛の舌状。表面は赤紅色から暗赤褐色で、微粒を帯びる。子実層托は独立した円柱状の管の集合体で、長さ5～10 mm、径0.2 mmほど。孔口は黄白色から淡紅色。肉は赤と白の縞模様をあらわし、赤い汁を含んで獣肉様、酸味がある。担子胞子は卵形である。

2.分布

全世界に広く分布する。欧米ではナラ類に発生することが多く、冷涼な地域にも分布するが、日本では主にシイに発生し、暖温帯を中心に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3.生育環境

照葉樹林内で、主にシイ類の大径木の心材部を褐色腐朽して生育する。

4.生育状況

生育環境は限られており、子実体の発生が見られるのは、樹木の繁茂する神社、寺院、公園などの暗い環境下に生育するシイ類、コナラの古木（酒井敏明氏私信）である。それら生立木の樹洞、地際または腐朽木の倒木、切株に発生する。伊豆で生育確認が取れていないのは、調査不足の可能性が高い。

5.減少の主要因と脅威

大きな心材部をもつ大径木のシイ類などが、伐採（11）されて減少していることが要因となっている。さらに最近ではカシノナガキクイムシによるナラ類やシイ・カシ類が大量に枯れるナラ枯れ被害（71）もある。

6.保護対策

神社、寺院などのシイ類の古木を保護することが必要である。また生立木の心材腐朽菌のため、子実体の発生年数は長く、腐朽を受けた木は倒木、切株からも子実体が発生する。生育に適した生立木の中に侵入する機会は限られるため、子実体が発生している倒木の撤去はしないで、胞子の散布をできるだけ長期間行わせた方がよいと考える。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸（2013）新版 北陸のきのこ図鑑．橋本確文堂，金沢，396 pp．

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編（2011）山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ．山と溪谷社，東京，648 pp．

今関六也・本郷次雄 編（1989）原色日本新菌類図鑑（ ）．保育社，大阪，402 pp．

伊藤誠哉（1955）日本菌類誌 第二巻・第四号．養賢堂，東京，450 pp．

勝本 謙（2010）日本産菌類集覧．日本菌学会関東支部，東京，1177 pp．

城川四郎（1996）猿の腰掛類図鑑．地球社，東京，207 pp．

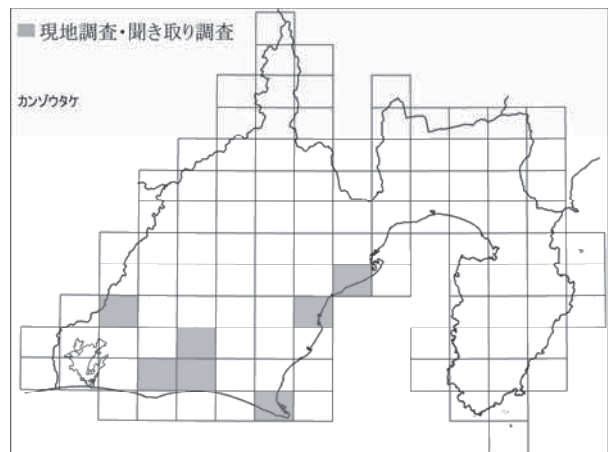
9.標本

静岡県産、磐田市産、浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム

（真橋祐次郎）



©2020 Y. Mahashi
浜松市 2016年5月25日 真橋祐次郎



シロコケシジミガサ(仮称) *Arrhenia* sp.

ヌメリガサ科 Hygrophoraceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

子実体は初夏から夏、斜面の湿ったコケの中に発生する。傘は径8 mm 前後、白色の茶椀形で柄はなく、周辺部は不規則に波打つ。子実層托はややしわひだ状である。担子胞子は楕円形である。

2.分布

日本。県内では中部に分布する。

3.生育環境

雪解け後の山地の斜面を流れるせせらぎに発生するコケの植物体に、子実体がまとわりついて発生しているが、コケとの関係は不明である。

4.生育状況

冷温帯上部の沢に生育するが、調査不足のため詳細は不明である。

5.減少の主要因と脅威

道路建設などにより、現生育地が消滅する可能性がある(24)。

6.保護対策

現在の自然環境を維持する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

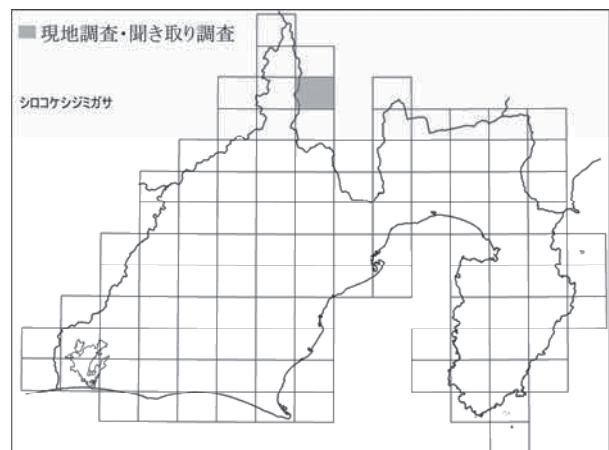
本郷次雄 監修(2006)新装版 山溪フィールドブック 7 きのこ・山と溪谷社, 東京, 383 pp.

9.標本

静岡市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2014年6月14日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

ヒメサクラシメジ *Hygrophorus capreolarius* Kalchbr. 1875

ヌメリガサ科 Hygrophoraceae

[静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は秋に、主にモミ属の林内に発生。傘は2~5 cm。中高のまんじゅう形から平らに開く。表面は平滑、しばしば中央部に圧着小鱗片をもち暗赤褐色。湿時粘性がある。ひだは淡褐色から赤褐色で、疎。柄はほぼ傘と同色で、中実。肉は白色から薄い肉色で苦味はない。担子孢子は楕円形である。

2.分布

日本を含めて北半球温帯以北に分布する。県内では中部、東部に分布する。

3.生育環境

モミ、ウラジロモミなどのモミ属の林で、菌根共生して生育している。

4.生育状況

山梨県内の富士川沿いに連続する山系のモミが残っている場所では、多くの場所で子実体の発生が認められ、同山系の稜線に残された県内のモミ林でも発生している。中部のウラジロモミ林では、近年は発生確認が減少している。

5.減少の主要因と脅威

スギ、ヒノキの植林化に伴い、モミ林やモミの大木が少なくなってきたためか発生量が減少気味である(11)。

6.保護対策

ウラジロモミの人工林内では、子実体発生は確認されておらず、菌根共生するモミが生育する現在の環境を、現状のまま維持・保全する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編(2008)日本きのこ図版 第1巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 815 pp.

本郷次雄 監修(2006)新装版 山溪フィールドブックス7 きのこ. 山と溪谷社, 東京, 383 pp.

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

伊藤誠哉(1959)日本菌類誌 第二巻・第五号. 養賢堂, 東京, 658 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987)原色日本新菌類図鑑(). 保育社, 大阪, 325 pp.

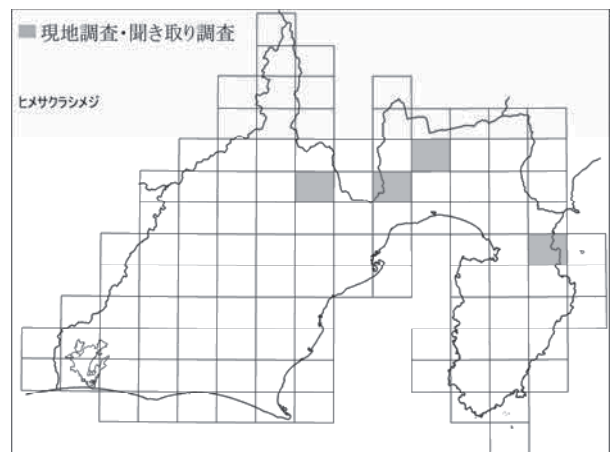
武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006). 静岡木の子の会 会報, (7): 14-25

9.標本

なし。



©2020 T.Ogura
富士宮市 2014年11月2日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

ナメニセムクエタケ *Phaeocollybia christinae* (Fr.) R. Heim 1931

ヒメノガステル科 Hymenogasteraceae

[静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏に、針葉樹林地上に単生から群生。傘は径3 cm 前後、赤茶色で多少粘性があり、中央部は円錐形に尖る。ひだは黄褐色で密。柄は傘と同色で細長く、軟骨質で中空、基部が根状に伸び地中に深く潜る。担子孢子はアーモンド形で微いぼに覆われる。

2.分布

国外ではヨーロッパ、北アメリカに、国内では北海道、本州(中部以北)に分布する。県内では中部で確認している。

3.生育環境

県内では亜高山帯針葉樹林内で菌根共生している。子実体の柄は地中にかなり深く潜っており、土と根と菌糸が一体になった菌糸塊(シロ)は、腐植層の下深くに広がっていると考えられる。

4.生育状況

原生的自然林のコメツガやシラビソの樹下に子実体が発生するが、発生場所は限られる。富士山では現在未確認である。

5.減少の主要因と脅威

亜高山帯針葉樹林における森林伐採による原生的自然林の減少が要因の一つとして考えられる(11)。

6.保護対策

現在の生育地の自然環境を保全する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

保坂健太郎(2017)小学館の図鑑・ネオきのこ。小学館,東京,159 pp.

本郷次雄 監修(2006)新装版 山溪フィールドブックス7 きのこ。山と溪谷社,東京,383 pp.

伊藤誠哉(1959)日本菌類誌 第二巻・第五号。養賢堂,東京,658 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部,船橋,1177 pp.

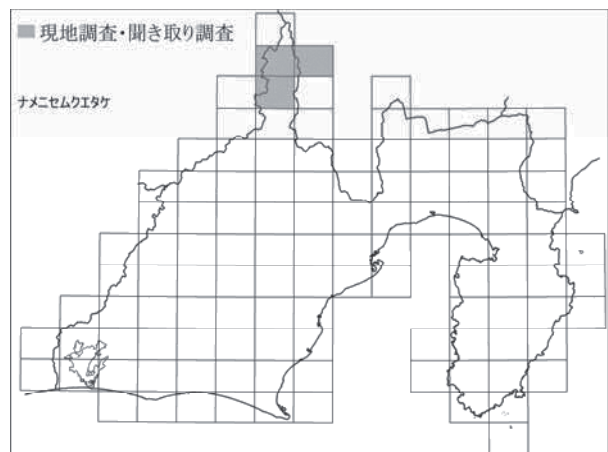
幼菌の会 編(2001)カラー版 きのこ図鑑。家の光協会,東京,335 pp.

9.標本

静岡市産:ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2014年9月13日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は秋に、アカマツ・コナラ林などに発生。傘は径1.5~5 cm、半球形からまんじゅう形のち平となり、さらにそり返って皿状となる。表面は暗褐色のち灰色から淡褐色となる。ひだは白色から淡灰色で、密。柄は長さ1~10 cm、白色から淡灰色、根もとで多数が合着し、塊茎状の根株となる。担子胞子は球形から類球形である。

2.分布

国内を含めて北半球温帯に分布する。県内では中部、西部、伊豆に分布する。

3.生育環境

里山のアカマツ・コナラ林など、コナラ、クヌギ、マツの混生林で菌根共生して生育する。

4.生育状況

宿主樹木の生育する里山の雑木林が、スギ、ヒノキの植林化などにより減少している。また除伐、間伐などの保育管理が不整備で雑木林が荒廃し、発生量が少なくなっている。

5.減少の主要因と脅威

生育環境である雑木林が植林化により減少(11)していることに加えて、生活の変化などにより雑木林の手入れが行われなくなって荒廃し(53)、生育環境が悪化している。里山の食用菌で採取圧も高い(42)。

6.保護対策

雑木林の維持と適正な管理が必要である。採取制限による保護も必要と考えられる。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987)原色日本新菌類図鑑()。保育社, 大阪, 325 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社, 東京, 648 pp.

伊藤誠哉(1959)日本菌類誌 第二巻・第五号。養賢堂, 東京, 658 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

工藤伸一(2017)青森県産きのこ図鑑。アクセス二十一世紀出版, 青森, 535 pp.

9.標本

静岡県産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 T.Ogura
静岡県 2005年9月18日 小倉辰彦



(秋山富雄)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、林内ブナ科樹下に発生。傘は半球形からまんじゅう形、表面は栗褐色から帯紫茶褐色。子実層托は管孔で、柄の周囲で陥没し、黄色のち緑色を帯びる。柄は長く9~23 cm、基部付近で一方に曲がる。柄の表面は軟毛に覆われ、傘よりやや暗色、中実。肉は淡黄色、切断面は無変色かやや赤変。担子胞子は楕円形から円柱形で、縦条に覆われるが、横筋はない。

2.分布

国外では北アメリカ(メキシコ)に、国内では本州、九州に分布する。県内では東部、中部、西部、伊豆に分布する。

3.生育環境

県内では、里山の常緑広葉樹林でシイ、カシなどと菌根共生して生育する。

4.生育状況

県内において、現在各地域での子実体の発生を確認しているが、発生場所は限定され、発生量も少ない。

5.減少の主要因と脅威

生育に適した良好な常緑広葉樹林が、森林伐採により減少している(11)。

6.保護対策

現生育地の自然環境を保全することが必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸(2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987) 原色日本新菌類図鑑(). 保育社, 大阪, 325 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

武藤治彦(2007) 静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006). 静岡木の子の会会報, (7): 14-25

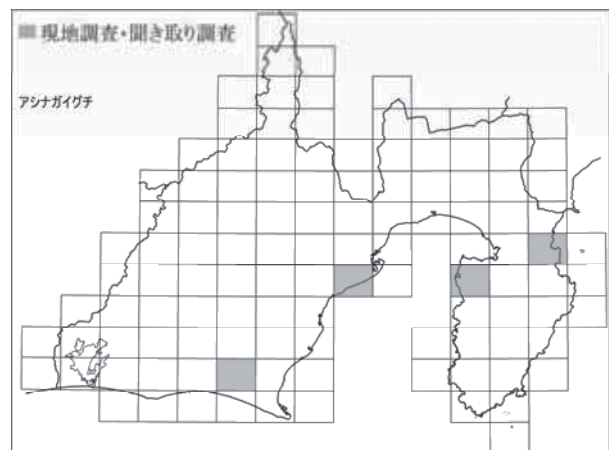
Nagasawa, E. (1984) *Boletellus elatus*, a new bolete from Japan. *Trans. Mycol. Soc. Japan*, 25: 361-366

9.標本

沼津市産、静岡市産、掛川市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



沼津市 2012年9月22日 岸澤広晶



(岸澤広晶)

オオキノボリイグチ *Boletellus mirabilis* (Murrill) Singer 1945

イグチ科 Boletaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、主にコメツガの腐朽木、切株及びその周辺に発生。傘はまんじゅう形。表面は乾燥して綿毛状の小さな鱗片で密に覆われ、暗赤色から暗赤褐色。帯黄色の円形の斑紋がある。管孔は淡黄色のちオリーブ黄色。孔口も同色で、傷時からし色に変色。柄は下方にふくらむ。傘よりやや淡色で、網目模様がある。担子胞子は長楕円形から紡錘形、平滑である。

2.分布

国外では台湾、北アメリカに、国内では北海道、本州中部に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3.生育環境

県内では亜高山帯針葉樹林で、コメツガなどと菌根共生して生育する。他の微生物との競争を避けるために、微生物の少ない褐色腐朽を受け、コケに覆われたコメツガなどの切株、倒木上に子実体を発生させることが多い。

4.生育状況

県内の亜高山帯針葉樹林内に比較的広く分布するが、子実体の発生は少ない。他の微生物との競争に弱く、生育場所が限られると考えられる。

5.減少の主要因と脅威

天然林伐採による宿主樹木の減少、生育環境の悪化が挙げられる(11)。

6.保護対策

現在の生育環境を保全する必要がある。生育地林内の針葉樹の腐朽倒木、切株などの撤去を控える必要がある。

7.特記事項

生育のためには、コメツガなどの宿主樹木が生育していることのほかに、褐色腐朽菌によって腐朽されコケに覆われた腐朽木があることも必要と考えられる。

8.主な文献

今関六也・本郷次雄 編(1987)原色日本新菌類図鑑()。保育社、大阪、325 pp.

今関六也・本郷次雄 監修,小川 眞 編(1987)マイフルール・シリーズ 見る・採る・食べるきのこカラー図鑑。講談社、東京、254 pp

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社、東京、648 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、船橋、1177 pp.

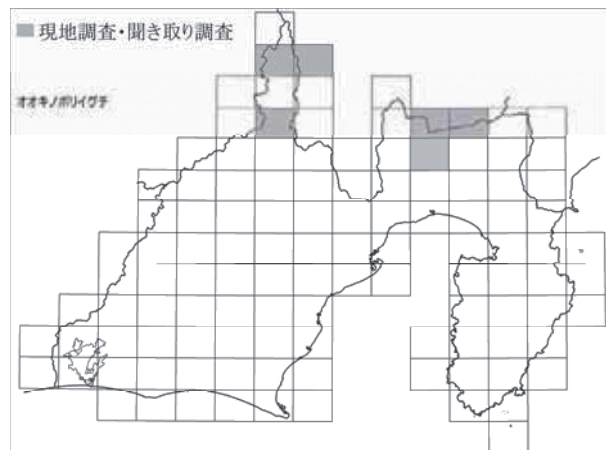
武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006)。静岡木の子の会会報,(7): 14-25

9.標本

富士宮市産、静岡市産:ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 H. Kishizawa
富士宮市 2011年9月19日 岸澤広晶



(池ヶ谷のり子)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、ブナ科樹林内地上に発生。全体が鮮やかな橙色を帯び、傷つくと速やかに青変する。傘は径4~8 cm、まんじゅう形のち平たい丸山形、表面はやや綿毛状またはほぼ平滑。子実層托は管孔で、上生し、長さ2.5~7 cm。孔口は小さく、管孔より濃色。柄は長さ5~7 cm、太さ13~17 mm、表面は無毛平滑、中実。担子孢子は類紡錘形である。

2.分布

国内では本州（中部以西）に分布する。県内では中部、西部、伊豆に分布する。

3.生育環境

暖温帯のコナラ、シイ、カシなどの広葉樹林で菌根共生して生育する。

4.生育状況

県内で現在発生が確認されているのは、西部の丘陵地帯が主である。しかし子実体の発生場所、発生量は、西部においても近年減少している。

5.減少の主要因と脅威

森林伐採及びスギ・ヒノキの植林化により、外生菌根を形成する宿主樹木のブナ科の広葉樹林が減少(11)して、生育環境が維持されなくなっている。

6.保護対策

里山のブナ科広葉樹林の保全が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑() . 保育社, 大阪, 402 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー一名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006). 静岡木の子の会会報, (7): 14-25

武藤治彦(2010)静岡木の子の会の探索会における採集リスト(2007~2009). 静岡木の子の会会報, (8): 9-28

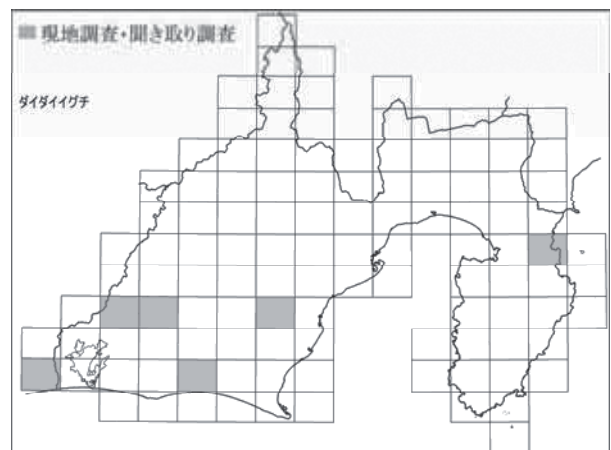
武藤治彦(2013)静岡木の子の会探索会における採集リスト(2010~2012). 静岡木の子の会会報, (9): 10-30

9.標本

磐田市産、浜松市産、湖西市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



浜松市 2013年9月21日 岸澤広晶



(岸澤広晶)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、ブナ科樹種下に発生。傘は開くと平たいまんじゅう形となる。表面はオリーブ色から淡帯褐灰色。子実層托は管孔で、淡黄色のちオリーブ色を帯びる。孔口は赤色。ともに傷時緑青色に変色する。柄は基部でふくらみ、こん棒状。淡いピンク色のち下部は灰オリーブ色となる。頂部に紅色の細かい網目模様がある。肉はほぼ白色で傷時わずかに青変。担子胞子は紡錘形である。

2.分布

日本固有種で、本州、九州に分布する。県内では東部、中部、西部、伊豆に分布する。

3.生育環境

県内では、里山のシイ・カシ林、コナラ林、アカマツ・コナラ林で、これらのブナ科樹種と菌根共生して生育する。

4.生育状況

県内各地域で子実体の発生が認められるが、各地域内の発生場所は限られ、発生量も少ない。

5.減少の主要因と脅威

里山でスギ、ヒノキ植林化などのために雑木林が伐採される(11)ことによる宿主樹木の減少及び生育環境の悪化が主要因と考えられる。

6.保護対策

里山のまとまった広葉樹林を残し、維持管理していく必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

細矢 剛・埋橋志穂美・保坂健太郎・工藤伸一(2016)日本産固有菌類目録の作成に向けて 生物多様性データベースを利用した日本固有のきのこリスト作成の試み. 日菌報, (57): 77-84

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑(). 保育社, 大阪, 402 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

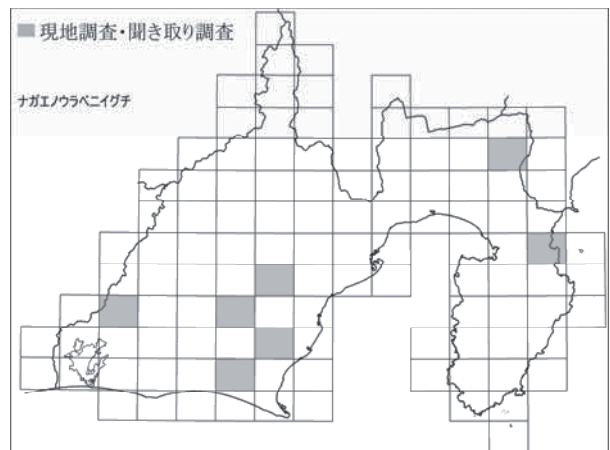
幼菌の会 編(2001)カラー版きのこ図鑑. 家の光協会, 335 pp.

9.標本

御殿場市産、藤枝市産、島田市産、浜松市産、伊豆の国市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



伊豆の国市 2015年9月4日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、カバノキ属林内の地上に散生。傘はまんじゅう形のち平たい丸山形、径4~20 cm、縁部は膜状となり管孔部から突出、表面は帯褐橙黄色。子実層托は管孔状で汚白色から帯灰色。柄は下方に向かって太くなり、長さ5~20 cm、表面にはほぼ黒色の細鱗片が多数ある。肉は白色、切断すると淡ワイン色のち黒色となる。胞子紋は褐色。担子胞子は長紡錘形である。

2.分布

北半球の中北部に分布する。国内では本州中部以北に、県内では東部、中部に分布する。

3.生育環境

県内では亜高山帯のダケカンバ樹下で菌根共生して生育している。

4.生育状況

中部の本菌の生育に適したダケカンバ林の林床では子実体の発生を確認できるが、そのような良好なダケカンバ林は多くはない。富士山では限られる。

5.減少の主要因と脅威

現在、同じくダケカンバ林に生育するヤマイグチは富士山でふつうに発生するが、本種の発生確認はごく少なく、宿主の有無だけでなく、生育に適した良好な林が減少傾向にあると考えられる。引き続き調査が必要である(99)。

6.保護対策

現生育地の自然環境を保持する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編 (1989) 原色日本新菌類図鑑 () . 保育社, 大阪, 402 pp .

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ . 山と溪谷社, 東京, 648 pp .

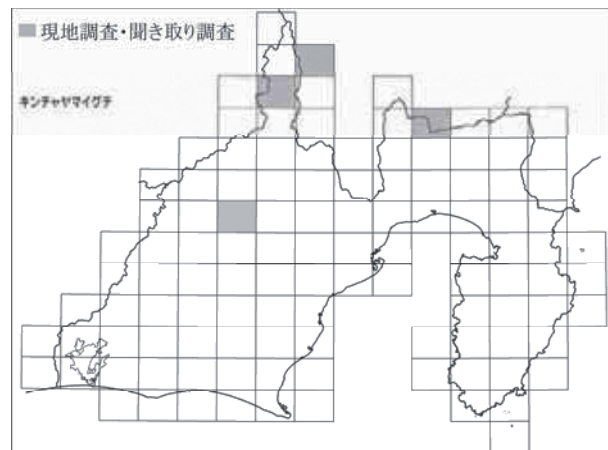
勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧 . 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp .

9.標本

静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2016年9月18日 岸澤広晶



(岸澤広晶)

アオゾメクロツブタケ *Rossbeevera eucyanea* Orihara 2012

(=イロガワリクロツブタケ)

イグチ科 Boletaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は春から秋に、スダジイ樹下半地中に発生する。子実体は類球形で径3 cm以下。外皮はフェルト状で白色。グレバは迷路状に孔のあいた小腔室がある。茶褐色で、切断時速やかに青変する。無性基部があり、柄の名残がある。担子胞子は楕円形で、表面縦方向に4本の肋があり、茶褐色である。*Chamonixia mucosa* (= *Rossbeevera mucosa*) とされていたが、現在では別種と考えられている。

2.分布

国内では本州(静岡県、三重県、広島県)、九州(大分県、宮崎県、鹿児島県)に分布する。県内では西部で確認した。

3.生育環境

県内では暖温帯広葉樹林内のスダジイ樹下の切通しで、子実体の発生を確認した。温暖な気候下、比較的湿度がえられる里山の痩せた土で、スダジイと菌根共生して生育していると考えられる。

4.生育状況

県内の生育確認場所は現在一ヶ所で、子実体の発生も少ない。

5.減少の主要因と脅威

遷移の進行・植生の変化(54)による生育適地の減少が考えられるが、調査不足である。

6.保護対策

現在の生育地の自然環境を保持する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

保坂健太郎(2017)小学館の図鑑・ネオきのこ。小学館, 東京, 159 pp.

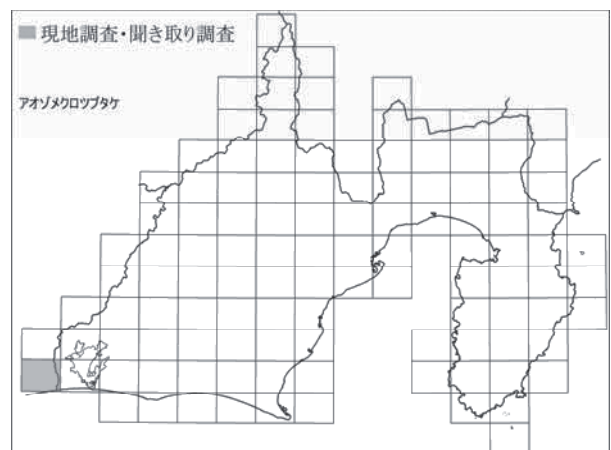
佐々木廣海・木下晃彦・奈良一秀(2016)地下生菌識別図鑑。誠文堂新光社, 東京, 143 pp.

9.標本

湖西市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



湖西市 2013年7月6日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

ミカワクロアマシイグチ *Tylopilus* sp.

イグチ科 Boletaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は初夏から夏に、常緑広葉樹林内の地上に発生。傘は中型から大型で、表面は暗紫褐色から帯紫黒色、フェルト状で、乾燥すると細かくひび割れる。子実層托は管孔で、柄に直生し、淡灰白色から淡小豆色となる。柄は上下同大または下方にふくらむ。管孔と同色で、明瞭な黒い二重の網目模様をもつ。肉は灰白色で、切断面は赤色から紫色を経て黒色に変色する。猛毒成分を含む。担子胞子は類紡錘形である。

2.分布

国外の分布は不明で、国内では本州（愛知県、静岡県）で確認されている。県内では西部に分布する。

3.生育環境

県内では蛇紋岩土壌付近のスダジイ・アラカシ・コナラ林内で菌根共生して生育する。

4.生育状況

愛知県での生育地は限られ、子実体の発生も減少している。県内での発生確認は一ヶ所だけで、発生量は少ない。

5.減少の主要因と脅威

生育適地における宿主樹木伐採が考えられる(11)。

6.保護対策

まとまった低山の広葉樹林を残し、維持・管理して、生育地の自然環境を保持していく必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

保坂健太郎(2017)小学館の図鑑・ネオきのこ。小学館, 東京, 159 pp.

長沢栄史 監修(2003)日本の毒きのこ。学習研究社, 東京, 280 pp.

中條長昭・菊山功嗣(2010)愛知県に於ける高等菌類の絶滅種と危惧種の調査。名古屋産業大学・名古屋経営短期大学環境経営研究所年報, 9: 70-82

9.標本

浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 N.Ikegaya
浜松市 2016年10月10日 池ヶ谷のり子



©2020 N.Ikegaya
断面写真



(池ヶ谷のり子)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は春から秋に、広葉樹林内地中に発生。塊状、多くは球形で径2~7 cm。表面は赤褐色で弾力があり、多くの凹みがある。内部は胞子がつまった類球形の多数の小腔黄室があり、黒色。外部に続く直径1 mm程度の穴がある。担子胞子は広卵形から紡錘形、褐色である。*M. intermedius*とされていたが、現在では別種だと考えられている。アカダマタケ(*M. utriculatus*)は、内部から外部への穴は開いていない。

2.分布

国外の分布は不明で、国内では本州(静岡県、兵庫県、岡山県)、九州(大分県)で確認されている。県内では西部に分布する。

3.生育環境

県内では、里山のブナ科樹種(コナラ、シイ、アラカシなど)と菌根共生して生育している。

4.生育状況

現在、確認場所は一ヶ所である。本県における地下生菌の調査は未着手状態にあり、詳細は不明な部分が多い。

5.減少の主要因と脅威

里山の雑木林のスギ、ヒノキ植林化(11)、宅地化(23)により生育適地は減少している。

6.保護対策

生育地の林の自然環境を現状のまま維持・保全する必要がある。里山のまとまった広葉樹林を残し、維持・管理していく必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

佐々木廣海・木下晃彦・奈良一秀(2016)地下生菌識別図鑑。誠文堂新光社、東京、280 pp.

9.標本

浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



浜松市 2013年7月13日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

ゴムショウロ *Rhizopogon* sp.

ショウロ科 Rhizopogonaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、マツ属樹下に発生。子実体は直径5 cm以下の類球形。白色で弾力がある。外皮は平滑で、表面の菌糸束が圧着するが、目立たない。グレバは迷路状に孔のあいた小腔室があり、淡褐色。担子胞子は楕円形で透明である。ショウロに似るが、本種の子実体は触ると徐々に褐変し、乾燥すると黒くなる。また軟骨質で和名のように弾力がある。

2.分布

国内では本州(静岡県、三重県、兵庫県)、九州(大分県、鹿児島県)、沖縄県で確認されている。県内では伊豆に分布する。

3.生育環境

県内では、暖温帯の落ち葉の堆積の少ないアカマツ樹下で菌根共生して生育している。

4.生育状況

子実体の発生確認場所が限られているが、現在のところ子実体の発生は続いている。

5.減少の主要因と脅威

マツ枯れによる宿主樹木の減少(71)、落ち葉の堆積による林床の富栄養化の可能性がある(53)。

6.保護対策

現在の生育地の自然環境を維持、管理していくことが必要である。

7.特記事項

引き続き調査の必要がある。

8.主な文献

佐々木廣海・木下晃彦・奈良一秀(2016)地下生菌識別図鑑。誠文堂新光社、東京、280 pp.

9.標本

伊豆の国市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



伊豆の国市 2015年6月6日 小倉辰彦



(池ヶ谷のり子)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、林内地上に群生。子実体は高さ 10 cm 内外。不規則なじょうご形で、全体が白～クリーム色。子実層托は低いしわひだで、白色から胞子の成熟に伴ってクリーム色になる。柄は偏心生から側生、内部は充実する。担子胞子は紡錘形から円柱形で、表面を細いぼが縦方向に覆う。

2.分布

日本固有種で、北海道、本州、四国に分布する。県内では東部、西部、伊豆で確認している。

3.生育環境

県内では、暖温帯のシイ・カシ林、アカマツ・コナラ林から冷温帯のブナ林にかけて生育している。落葉の堆積の少ない痩せ地のブナ科広葉樹林に生育していると考えられる。

4.生育状況

全体が白色のアンズタケ形で確認しやすいが、過去の確認記録がなく、確認場所は限られる。生育適地では、フェアリーリングを描いて子実体の発生が見られる。

5.減少の主要因と脅威

植林化による雑木林の伐採(11)、遷移の進行・植生変化の影響(54)により、生育環境が悪化したと考えられる。

6.保護対策

現在の生育地の雑木林を残し、自然環境の保全をする必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

細矢 剛・埋橋志穂美・保坂健太郎・工藤伸一(2016)日本産固有菌類目録の作成に向けて生物多様性データベースを利用した日本固有のきのこリスト作成の試み. 日菌報, (57): 77-84

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑(). 保育社, 東京, 402 pp.

伊藤誠哉(1954)日本菌類誌 第二巻・第四号. 養賢堂, 東京, 450 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

9.標本

伊豆の国市産、富士宮市産、浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 N. Ikegaya
浜松市 2016年10月10日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、モミ属などの針葉樹林及びその混生林内地上に発生。傘は径4～35 cm。中実の円柱形から、のち柄の根もとまで窪んで中空のラッパ形となる。表面は淡肌色の地に、黄褐色の大型のそり返った鱗片をもつ。子実層托は不規則な放射状から網目状のしわで、柄に長く垂生する。黄白色からきつね色で、傷時赤紫色に変色することがある。柄の根もととは白色。担子胞子はやや細長い楕円形である。

2.分布

国外では北アメリカ西部に、国内では北海道及び本州の山岳地帯に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3.生育環境

県内では冷温帯上部から亜高山帯で、モミ属などの樹木と菌根共生して生育している。

4.生育状況

暖温帯から亜高山帯のモミ属の林に生育するウスタケや、冷温帯から亜高山帯でモミ属、ツガ属の林に生育するフジウスタケに比較して、子実体の発生量、発生場所ともに少なく限られる。

5.減少の主要因と脅威

比較的湿度をえやすい河岸のモミ属の林の森林伐採による、宿主樹種の減少及び生育環境の悪化が考えられる(11)。

6.保護対策

現在の生育地の自然環境を保持する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

本郷次雄 監修(2006)新装版山溪フィールドブックス7きのこ。山と溪谷社,東京,384 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部,船橋,1177 pp.

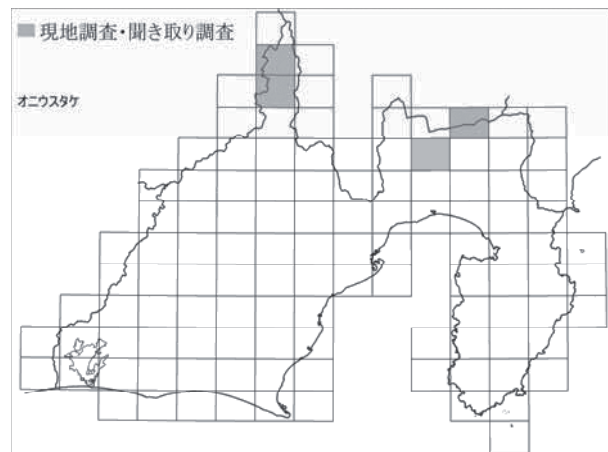
幼菌の会 編(2001)カラー版きのこ図鑑。家の光協会,東京,335 pp.

9.標本

富士宮市産、小山町産、静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2014年8月18日 小倉辰彦



(池ヶ谷のり子)

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏と秋に、林内や竹林内の肥沃な地上に発生。幼子実体は球形から卵形で、白色から淡褐色、径2 cmほど。成熟すると赤紅色の腕を14~23本直立させて柄を伸ばし、高さ5~10 cmとなる。腕は放射状水平に広がる。グレバは柄の上部の皿上部に生じて、黒褐色、粘液化して悪臭がある。担子孢子は長楕円形、無色である。

2.分布

亜熱帯から熱帯に主に分布する。国外ではアフリカ、東アジア、オーストラリア、ニュージーランド、北アメリカ南部、南アメリカに、国内では本州(東海地方以西)、四国、九州に分布する。県内では中部、西部、伊豆で確認している。

3.生育環境

県内では暖温帯広葉樹林や竹林内の多湿で、落葉などの堆積の多い林床で植物遺体を分解して生育している。

4.生育状況

伊豆、中部、西部の数ヶ所で、子実体の発生が確認されている。子実体は展開後早くに崩れ、確認回数は多くない。

5.減少の主要因と脅威

温暖な丘陵地の多湿な広葉樹林内という生育環境が、森林伐採(11)、宅地開発(23)などにより減少している。

6.保護対策

生育地の生育環境に手を加えないよう、現状の保持が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑()。保育社,大阪,402 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社,東京,648 pp.

伊藤誠哉(1959)日本菌類誌 第2巻・第5号。養賢堂,東京,658 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部,船橋,1177 pp.

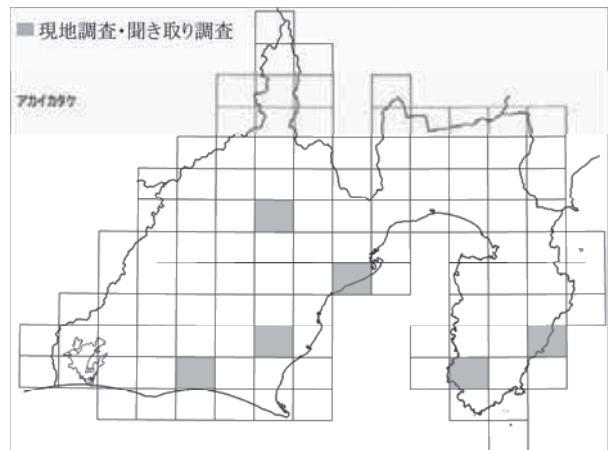
武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006)。静岡木の子の会会報,(7):14-25

9.標本

静岡市産:ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 T.Ogura
牧之原市 2016年6月27日 小倉辰彦



(池ヶ谷のり子)

ムカシオオミダレタケ *Elmerina holophaea* (Pat.) Parmasto 1984

キクラゲ目所属科未確定

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、ブナなどの腐朽木上に発生。サルノコシカケ型。側着生で無柄。傘の表面は羽毛状に分枝した毛に覆われる。子実層托は放射状から迷路状のひだになっている。ややゼラチン質の肉質をもつが、乾燥時は著しく収縮してかたくなる。担子胞子は卵形、平滑。子実体の形は多孔菌に類似するが、キクラゲ目に属する。

2.分布

日本各地のブナ林に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3.生育環境

冷温帯で、比較的湿度がえられる腐朽したブナなどの倒木、立枯木に生育する。

4.生育状況

県内のブナ林は伐採などで減少傾向にあり、林内にブナなどの大木の倒木、立枯木は少ない。生育に適した腐朽木の減少により、子実体の発生は減少している。

5.減少の主要因と脅威

森林伐採によるブナ林の減少(11)及び林内のブナ倒木の撤去(71)が挙げられる。

6.保護対策

現在の生育環境を保全するとともに、林内のブナ倒木を撤去しないことが必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂、金沢、396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社、東京、648 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑()。保育社、大阪、402 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、東京、1177 pp.

工藤伸一(2017)青森県産きのこ図鑑。アクセス二十一世紀出版、青森、535 pp.

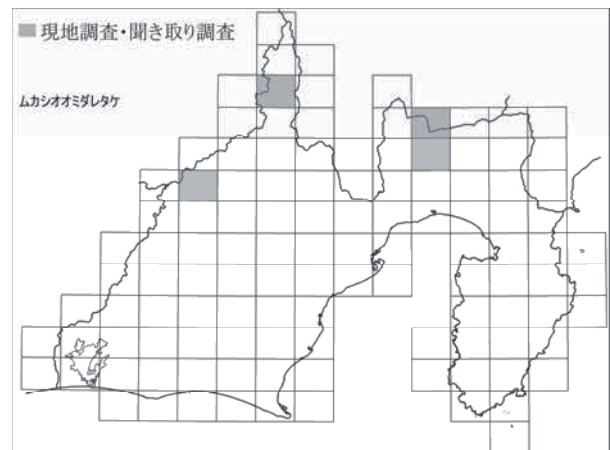
武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006)。静岡木の子の会会報,(7): 14-25

9.標本

富士宮市産、浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



浜松市 2014年7月21日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

ヤケコゲタケ *Inonotus hispidus* (Bull.) P. Karst. 1879

タバコウロコタケ科 Hymenochaetaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体は主にミズナラ類の生立木に発生。1年生。傘は半円形。無柄で幹に側着。断面は毛被層、肉層、管孔層からなる。初め毛被層は10 mm以上の厚みがあるが、しだいに脱落する。生育時肉層はさび褐色から赤褐色、柔軟で多量の水分を含むが、老化し乾くと焼け焦げたように黒く軽く脆くなる。管孔も肉と同色の変化。孔口は2~3個/mm。傷時褐変。担子胞子は楕円形から広楕円形、黒褐色である。

2.分布

国内を含めて北半球冷温帯以北に分布する。県内では中部に分布する。

3.生育環境

県内では冷温帯で、ミズナラ大木の生立木樹幹に子実体を発生させていた。幹の傷などから侵入して生立木の辺材部を白色腐朽する。

4.生育状況

県内での確認は稀である。ミズナラの樹幹に発生したものが確認されたが、生立木の上部の枝などに子実体を発生させることもあり、この場合確認しにくい。子実体は1年生で、乾燥して炭化したように黒くなった子実体が林床に落下していることがある。

5.減少の主要因と脅威

森林伐採(11)によるブナ・ミズナラ林の減少、特に生育に適するミズナラの大木の減少が主要因と考えられる。

6.保護対策

ブナ・ミズナラ林の保全が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑()。保育社、大阪、402 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラ一名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社、東京、648 pp.

伊藤誠哉(1955)日本菌類誌 第2巻・第4号。養賢堂、東京、450 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、東京、1177 pp.

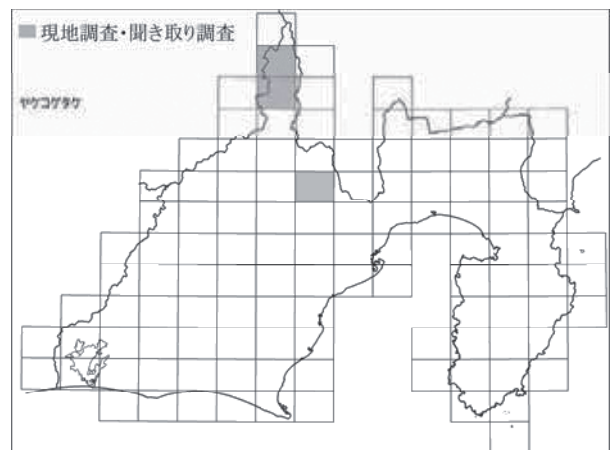
城川四郎(2017)検証キノコ新図鑑。筑波書房、東京、250 pp.

9.標本

静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2016年9月11日 小倉辰彦
(下:生育初期の傘表面)



(小倉辰彦)

カバノアナタケ *Inonotus obliquus* (Ach. ex Pers.) Pilat 1942

タバコウロコタケ科 Hymenochaetaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1.種の解説

腐生菌。カバノキ属の生立木の幹上に菌核を形成する。菌核は径 10~20 cm、表面は黒色で石炭状。内部は黄褐色で木質。子実体は背着性で、樹皮下に広がる。子実層托は管孔で、孔口は茶褐色、微細。担子胞子は短楕円形。子実体の発生は稀である。

2.分布

日本を含めて北半球に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3.生育環境

県内では、亜高山帯のダケカンバ生立木の幹を白色腐朽して、菌核を形成している。

4.生育状況

富士山のダケカンバ林では、比較的ふつうに菌核の発生があった(植松元春氏私信)が、近年は減少している。

5.減少の主要因と脅威

近年菌核が民間薬として採取されている(42)。亜高山帯まで入りやすい富士山では採取されやすい。菌核は、菌糸が密集して塊状となり、一時休眠状態になった耐久器官であるため、菌核の採取圧が高くなると減少の主要因となる可能性が高い。

6.保護対策

菌核の採取制限が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社, 東京, 648 pp.

伊藤誠哉(1955)日本菌類誌 第2巻・第4号。養賢堂, 東京, 450 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

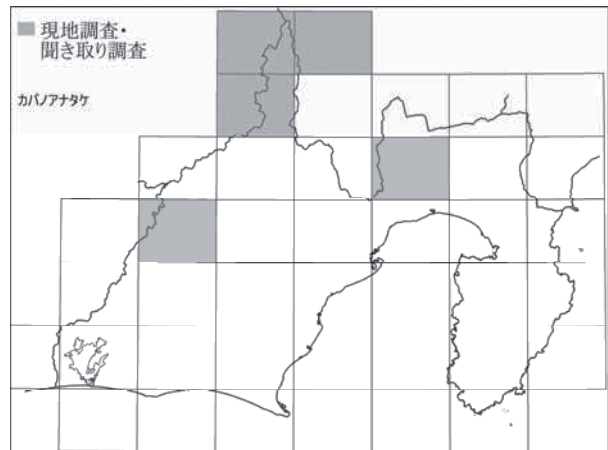
工藤伸一(2017)青森県産きのこ図鑑。アクセス二十一出版, 青森, 535 pp.

9.標本

静岡県産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2016年8月21日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

エブリコ *Fomitopsis officinalis* (Vill.) Bondartsev & Singer 1941

ツガサルノコシカケ科 Fomitopsidaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

腐生菌。子実体は、カラマツなどの老木の幹に発生。蹄形または鐘形。無柄。多年生の木質で堅く、傘の上面は汚灰褐色で成長とともに不規則なひび割れができ、やや不明瞭な環紋を表すことが多い。子実層托は細かい管孔で、多層。クリーム色のち褐色を帯びる。孔口は3~4個/mm。肉は白色から黄白色、もろくカッターチーズ様で苦味がある。担子孢子は楕円形である。

2. 分布

国外ではサハリン、千島列島、シベリア、中国東北部、北ヨーロッパ、北アメリカなど北半球冷温帯以北に広く分布し、国内では北海道、本州の亜高山帯に分布する。県内では東部で確認している。

3. 生育環境

寒冷な環境を好む北方系の種類で、県内では富士山の標高2,400m付近の亜高山帯で、天然林の特にカラマツ、またはトウヒ類などの老木の心材部を褐色腐朽して、生立木及び枯死木から子実体を発生させる。

4. 生育状況

全国的に稀な種である。亜高山帯上部の天然林のカラマツ老木などという生育環境は県内でも限られる。

5. 減少の主要因と脅威

現在の生育地の環境は安定しているが、天然林のカラマツなどの巨樹は森林伐採で減少しており(11)、生育場所は多くない。

6. 保護対策

現在の生育環境を保全することが必要である。

7. 特記事項

エブリコはアイヌ語で「薬用」の意味で、下剤や制汗薬として用いられたが、有毒という。

8. 主な文献

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑()。保育社,大阪,402 pp.

伊藤誠哉(1955)日本菌類誌 第2巻・第4号。養賢堂,東京,450 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部,船橋,1177 pp.

長澤栄史 監修(2003)日本の毒きのこ。学習研究社,東京,280 pp.

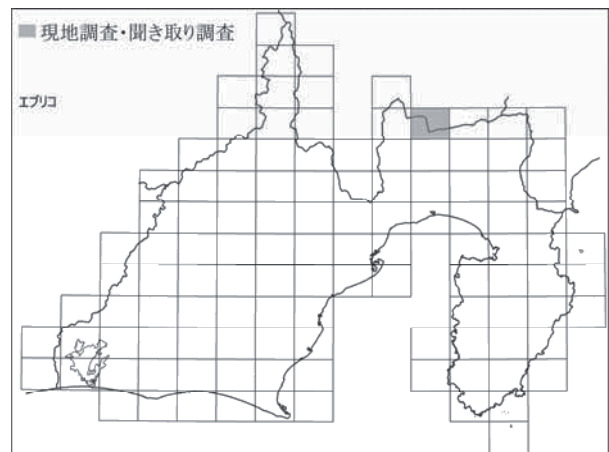
城川四郎(2017)検証キノコ新図鑑。筑波書房,東京,250 pp.

9. 標本

富士宮市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 T.Ogura
富士宮市 2013年9月27日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

ツガマイタケ *Osteina obducta* (Berk.) Donk 1966

ツガサルノコシカケ科 Fomitopsidaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー 情報不足 (DD)]

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏に、コメツガ、カラマツなどの針葉樹の生立木の地際、枯死木上に発生。共通の基部からへら形の傘を数枚張り出す。傘表面は黄白色で平滑。子実層托は管孔で、白色。孔口は3~4個/mm。柄は側生。傘肉は白色で多湿柔軟だが、乾燥すると硬くなる。担子胞子は楕円形である。

2.分布

国内では中部地方の山岳地帯に、県内では東部、中部に分布する。

3.生育環境

県内では亜高山帯で、コメツガ、カラマツの主に生立木の地際で子実体の発生を確認している。針葉樹を褐色腐朽して生育する。

4.生育状況

天然林で生育が確認されており、富士山では多くはないが、広く分布している。

5.減少の主要因と脅威

森林伐採による亜高山帯の天然林の減少が考えられる(11)。

6.保護対策

生育地の自然環境を保持する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

Aoshima K. & H. Furukawa (1963) A note on *Grifola obducta* (Berk.) Aoshima et Furukawa, comb. nov. *Trans. Mycol. Soc. Japan*, 4: 91-93

本郷次雄・上田俊穂(2006)新装版 山溪フィールドブックス7きのこ。山と溪谷社, 東京, 384 pp.
今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

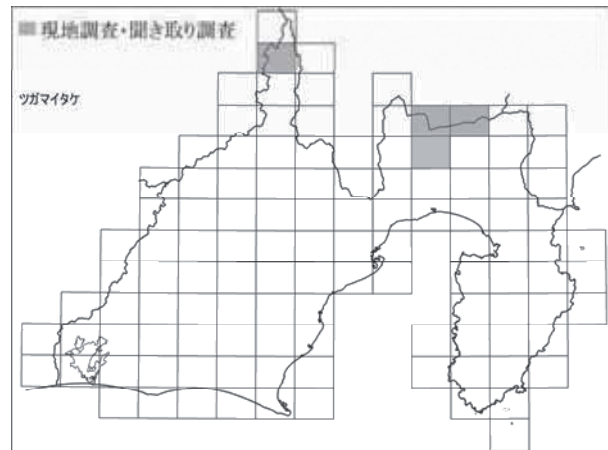
城川四郎(1996)猿の腰掛類きのこ図鑑。地球社, 東京, 207 pp.

9.標本

小山町産、富士市産、富士宮市産、静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 H.Kishizawa
小山町 2012年8月5日 岸澤広晶



(池ヶ谷のり子)

1.種の解説

腐生菌。子実体は主にブナの生立木、枯死木上に発生。傘は幅 15 cm 以下、半円形から舌形で、無柄。表面には不規則なしわと粒状突起があって粗荒。灰白色から茶褐色となる。子実層托は管孔で、孔口は 4 個/mm ほど、ほぼ白色のち汚褐色となる。肉は類白色、放射状に貫通する菌糸束がある。生時は肉質だが、乾燥するときわめて硬くなる。担子胞子は二重膜のマンネンタケ型、大型である。

2.分布

日本固有種で、国内のブナ林に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3.生育環境

ブナの生立木、倒木を白色腐朽して生育する。

4.生育状況

県内のブナ林内で、比較的大径のブナに生育するが、多くはない。

5.減少の主要因と脅威

伐採によるブナ林の減少(11)がある。

6.保護対策

ブナの立ち枯れ木、倒木を撤去しないで、そのままにしておくことで生育場所がえられやすい。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

細矢 剛・埋橋志穂美・保坂健太郎・工藤伸一(2016)

日本産固有菌類目録の作成に向けて生物多様性データベースを利用した日本固有きのこリスト作成の試み。日菌報, (57): 77-84

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社, 東京, 648 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑()。保育社, 大阪, 402 pp.

伊藤誠哉(1955)日本菌類誌 第2巻・第4号。養賢堂, 東京, 450 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

工藤伸一(2017)青森県産きのこ図鑑。アクセス二十一出版, 青森, 535 pp.

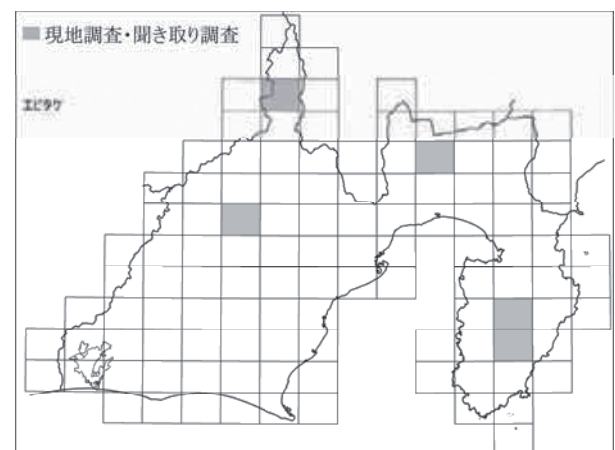
城川四郎(1996)猿の腰掛類きのこ図鑑。地球社, 東京, 207 pp.

9.標本

伊豆市産、川根本町産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



伊豆市 2016年7月10日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

1.種の解説

腐生菌。子実体はブナ林内地上に発生。革質の扇状で2~3個の子実体が癒合して不完全なじょうご状になることが多い。大きさは8 cm以下。表面は繊維状の線が放射状にはしり、縁辺部ではしわ状になる。濃紅~ピンク色で、濃淡により同心円状の帯をあらわす。乾くと淡黄褐色になる。子実層托は長さ1 mm以下の針状で、柄に垂生、表面と同色。柄は側生で表面は繊毛状。担子胞子は楕円形である。

2.分布

国外ではボルネオ、ジャワに、国内では本州に分布する。県内では東部に分布する。

3.生育環境

県内ではブナ・ミズナラ林の林床で子実体の発生を確認している。子実体は地上に発生するが、土壌中の枯死木を腐朽している。

4.生育状況

年ごとの気象状況などにより発生状況に変化があり、多い年と少ない年の差が大きい。全体として減少傾向にあり、発生は稀になっている。東部以外のブナ林では未確認である。

5.減少の主要因と脅威

植林化に伴うブナ・ミズナラ林の減少(11)が要因となる。入林が規制されている生育地では発生数が多いことから、人の踏みつけによる林床の生育環境の悪化(51)も減少要因の一つとして考えられる。シカ食害による下層植生の減少で林床が乾燥しやすくなっている(71)可能性もある。

6.保護対策

現在の生育環境を保持することが必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

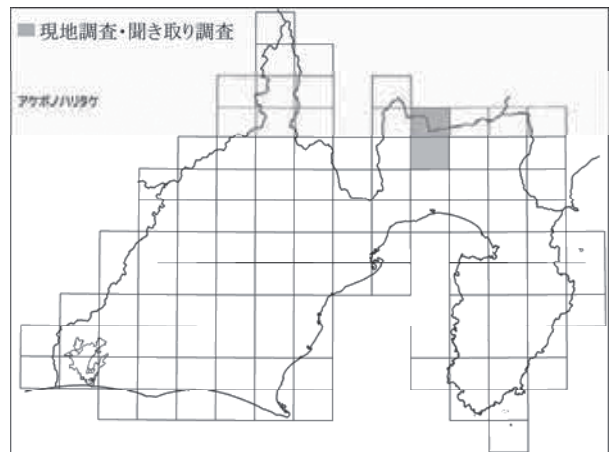
- 本郷次雄 監修(2006)新装版山溪フィールドブックス7きのこ・山と溪谷社, 384 pp.
今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑()。保育社, 大阪, 402 pp.
勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.
武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006)。静岡木の子の会会報, (7): 14 25
武藤治彦(2010)静岡木の子の会の探索会における採集リスト(2007~2009)。静岡木の子の会会報, (8): 9 28
城川二郎(1996)猿の腰掛け類きのこ図鑑。地球社, 東京, 207 pp.

9.標本

富士宮市産:ふじのくに地球環境史ミュージアム



富士宮市 2015年8月21日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

ツバマツオウジ (仮称) *Neolentinus lepideus* (Fr.) Redhead & Ginns 1985

タマチョレイタケ科 Polyporaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体は初夏と初秋に、針葉樹の倒木や切り株に単生から群生。傘の表面は淡灰白色から淡黄灰白色で繊維状、淡褐色の圧着した鱗片に覆われ、粘性はない。ひだは垂生し、白色で、やや疎。縁は鋸歯状。柄は傘と同色で同様の鱗片に覆われ、膜質白色のつばがある。肉は強靱で松やに臭がある。担子孢子は円筒状から長楕円形である。針葉樹の枯死木に生育するつばのないもの(マツオウジ)とは別種とした。

2.分布

世界的に温帯以北に分布する。国内では主に冷温帯以北(富士山、八ヶ岳周辺、東北地方)に分布する。県内では東部で確認している。

3.生育環境

県内では亜高山帯針葉樹林で倒木や切り株を褐色腐朽して生育している。世界的にはカラマツ属、トウヒ属、マツ属などの針葉樹の枯死木に生育する。東北地方ではスギ、アカマツなどの枯死木に子実体が発生するという。

4.生育状況

東部の亜高山帯針葉樹林内における生育場所は、比較的湿度のえられやすい天然林内に限られ、子実体の発生は少ない。中部では現在未確認である。なお、つばのないマツオウジはアカマツなどの針葉樹倒木にふつうに生育している。

5.減少の主要因と脅威

中部の亜高山帯で未確認となっているのは、調査不足で不明である(99)。

6.保護対策

現在の生育環境を保持する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂、金沢、396 pp.

工藤伸一(2017)青森県産きのこ図鑑。アクセス二十一出版、青森、535 pp.

長澤栄史(2000)マツオウジについて。菌蕈、(1): 36-38

城川四郎(2017)検証キノコ新図鑑。筑波書房、東京、250 pp.

9.標本

小山町産:ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 T.Ogura
小山町 2014年8月9日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

サワフタギタケ *Perenniporia minutissima* (Yasuda) T. Hatt. & Ryv. 1994

タマチヨレイタケ科 Polyporaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、サワフタギ類の枯れ木または生木地際に発生。無柄から半背着生。傘は径4~10 cm、厚さ基部で2~5 cm、半円形、扇形、またそれらが重合する。表面は茶褐色から暗褐色、周辺部は類白色で、平滑または凹凸顕著な粗面。子実層托は管孔で、孔口ともに乳白色。肉は乳白色で、生時口ウ質で脆く、霜降り状に半透明な部分が散在する。担子胞子は楕円形、厚壁、一端が切型である。

2.分布

国外では中国、朝鮮半島に、国内ではサワフタギ類の分布する冷温帯落葉広葉樹林に広く分布する。県内では東部、中部、西部、伊豆で確認している。

3.生育環境

冷温帯で落葉広葉樹林のサワフタギ類の枯木、生木を白色腐朽して生育する。

4.生育状況

県内ではサワフタギ類(サワフタギ、タンナサワフタギ)は暖温帯の丘陵から冷温帯に分布するが、サワフタギタケの発生が見られるのは、冷温帯のサワフタギ類で、多くない。

5.減少の主要因と脅威

静岡県の人工林率は56%と高く、落葉広葉樹林の面積は多くない(11)。加えてシカ食害を受け、サワフタギ類の稚樹は減少している(52-1)。このため、サワフタギ類に特異的に生育する本種は、生育場所が減少している。

6.保護対策

落葉広葉樹林の保護とシカによる食害を防除し、サワフタギ類が生育できる環境を保護する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

本郷次雄 監修(2006)新装版山溪フィールドブック ス7きのこ。山と溪谷社、東京、384 pp.

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂、金沢、396 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、船橋、1177 pp.

武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006)。静岡木の子の会会報,(7): 14-25

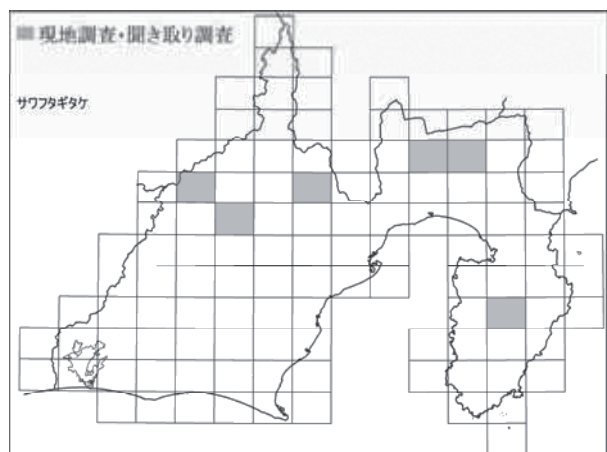
城川四郎(1996)猿の腰掛類きのこ図鑑。地球社、東京、207 pp.

9.標本

静岡市産、川根本町産、浜松市産、河津町産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



川根本町 2014年9月23日 池ヶ谷のり子



(真橋祐次郎)

ウサギタケ *Trametes trogii* Berk. 1850

タマチヨレイタケ科 Polyporaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、寒冷地の広葉樹（ヤナギ類、ドロノキなど）枯死木上に発生する。無柄から半背着生で、傘表面は灰黄色から灰褐色、剛毛に覆われる。傘肉は類白色、コルク質。管孔の長さは0.5～1 cmで、白色から灰黄色。孔口は2個/mmで円形から角形だが、みだれやすく迷路状になりやすい。担子胞子は円柱形である。

2.分布

北方系の菌で、日本を含めて北半球冷温帯以北に分布する。県内では中部で確認している。

3.生育環境

県内では冷温帯の河岸林でヤナギ類、ドロノキなどの広葉樹枯死木を白色腐朽して生育している。

4.生育状況

県内での確認は多くないが、生育適地のヤナギ類の倒木などには子実体の発生はよくみられる。

5.減少の主要因と脅威

冷温帯の河岸林のヤナギ類の伐採、倒木の撤去があげられる(71)。

6.保護対策

現在の生育環境に手を加えないよう、現状の保持が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

本郷次雄・上田俊穂(2006)新装版 山溪フィールドブックス7きのこ。山と溪谷社,東京,384 pp.

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂,金沢,396 pp.

今関六也・本郷次雄(1989)原色日本新菌類図鑑()。保育社,大阪,315 pp.

伊藤誠哉(1955)日本菌類誌 第二巻・第四号。養賢堂,東京,450 pp.

勝本 謙(2010)日本菌類集覧。日本菌学会関東支部,船橋,1177 pp.

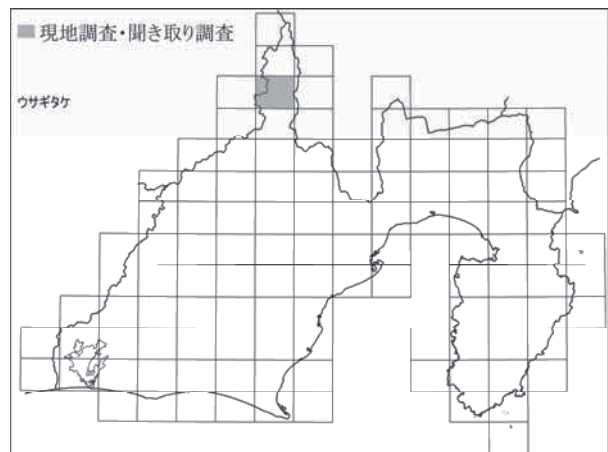
城川四郎(2017)検証キノコ新図鑑。筑波書房,東京,250 pp.

9.標本

静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2018年8月5日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

ルリハツタケ *Lactarius subindigo* Verbeken & E. Horak 2000

ベニタケ科 Russulaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋、林内地上に発生。傘は径5~10 cm、中央が窪むまんじゅう形から浅いじょうご形。表面は湿時弱い粘性があり、藍青色で濃淡の環紋を表し、老成すると淡黄緑色となる。乳液は藍色で空気に触れると緑変する。ひだも藍青色で、傷つくと緑変する。柄は傘と同色。担子胞子は広楕円形、表面に粗い網目がある。

2.分布

国外ではパプアニューギニア、中国、インドに、国内では東北地方以南に分布する。県内では西部で確認している。

3.生育環境

里山のマツ林、コナラ林、シイ林などに生育する。

4.生育状況

宿主樹種の有無だけでなく、地質的要因が影響しているためか生育環境が限定されるようである。子実体発生場所が局地的で、子実体の発生量は少ない。

5.減少の主要因と脅威

生育適地の森林伐採、スギ・ヒノキの植林化(11)に伴い、生育環境が悪化している。

6.保護対策

生育地の林の状況と環境を現状のまま維持・保全する必要がある。

7.特記事項

これまで *L. indigo* と同定され、北米東部との共通分布種と考えられてきたが、近年の研究により日本産はニューギニアのシイ属やマテバシイ属の林に生育する、2000年に新たに記載された種と同種であるとされるようになった。

8.主な文献

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社、東京、648 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、船橋、1177 pp.

武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006)。静岡木の子の会会報、(7): 14-25

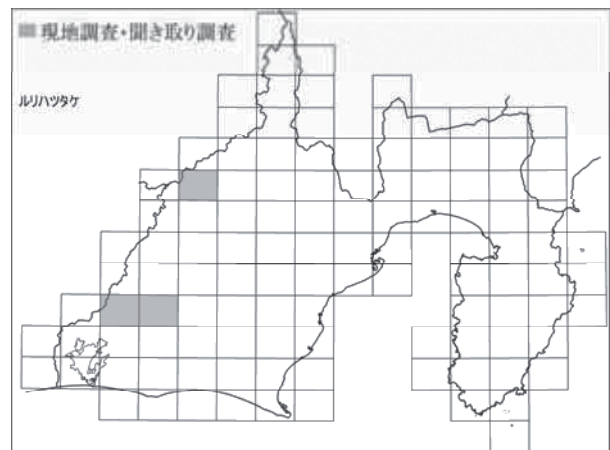
武藤治彦(2010)静岡木の子の会の探索会における採集リスト(2007~2009)。静岡木の子の会会報、(8): 9-28

9.標本

浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



浜松市 2014年11月4日 河村正幸



(小倉辰彦)

アカアシボソチチタケ (仮称) *Lactarius* sp.

ベニタケ科 Russulaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、ブナ・ミズナラ林内地上に発生。傘は径2~4 cm、中央突出のまんじゅう形からややじょうご形となる。表面は粘性なく橙黄色。ひだは垂生する。ひだ及び肉は淡橙黄色で、傷つくと白色不変色の乳液を滲出する。無味。柄は傘と同色で、濃色の条線がある。基部には橙黄色の細毛がみられる。担子胞子は類球形で刺状突起と細い不完全網目に覆われる。

2.分布

国内では本州に分布し、県内では東部、中部に分布する。

3.生育環境

冷温帯の河岸のブナ、ミズナラ林に生育しており、冷涼な多湿環境を好むと考えられる。これらの樹木と菌根共生して生育する。

4.生育状況

生育環境が適していれば子実体の発生は多い。入林が規制されている河岸のブナ・ミズナラ林内では子実体の発生は多い。

5.減少の主要因と脅威

森林伐採(11)によるブナ・ミズナラ林の減少がある。シカ食害(52-1)、人の踏みつけによる林床の乾燥化(51)の可能性もある。

6.保護対策

生育適地の自然環境を保持する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

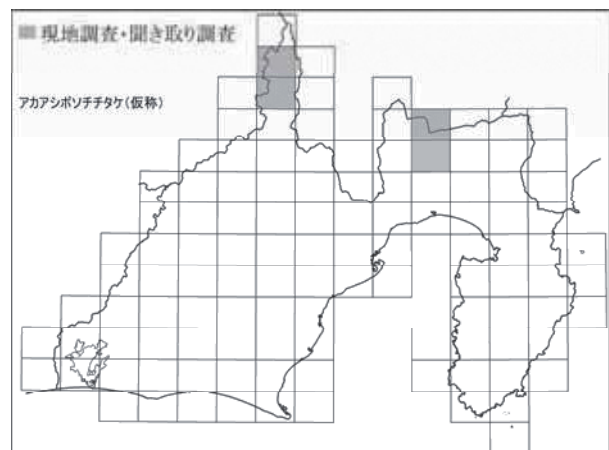
池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

9.標本

富士宮市産、静岡市産:ふじのくに地球環境史ミュージアム



富士宮市 2012年10月8日 小倉辰彦



(池ヶ谷のり子)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、広葉樹林内地上に発生する。傘は小～中型。まんじゅう形から平らに開く。表面は黄褐色で、粘性はなく、あらいささくれ状。ひだは厚く、きわめて疎。傘とほぼ同色。柄はひだとほぼ同色で、中空。担子胞子は類球形で、刺状突起に覆われる。

2.分布

近年、日本新産種として記録された種であり、国内外の分布の詳細は不明。県内では東部、中部、伊豆に分布する。

3.生育環境

県内では、暖温帯から冷温帯の比較的湿度のえやすいブナ科の広葉樹林内で、菌根共生して生育している。

4.生育状況

ひだがきわめて疎で厚いという特徴のある子実体であるが、県内での発生確認は少ない。

5.減少の主要因と脅威

森林伐採による湿度をえやすい生育適地のブナ科広葉樹林の減少(11)が考えられる。

6.保護対策

現在の生育環境に手を加えないよう、現状の保持が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

本郷次雄 監修(2006)新装版山溪フィールドブック
ス7きのこ。山と溪谷社,東京,384 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部,船橋,1177 pp.

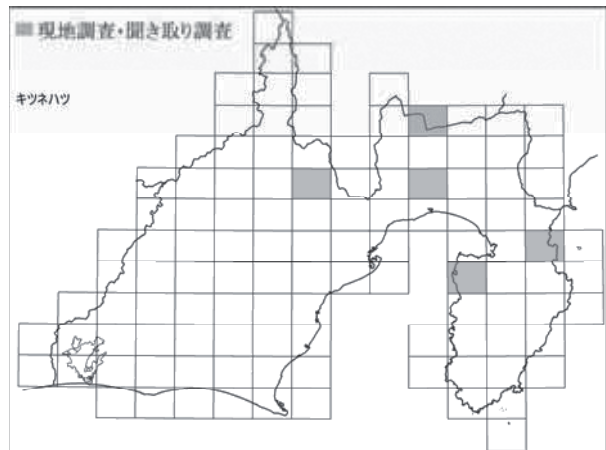
工藤伸一(2017)青森県産きのこ図鑑。アクセス二十一出版,青森,535 pp.

9.標本

沼津市産、富士宮市産、静岡市産、伊豆の国市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 T.Ogura
富士市 2014年8月20日 小倉辰彦



(池ヶ谷のり子)

調査協力、写真等提供者

分類群	氏名
植物	青島一樹、荒川史子、石川 均、石川美智子、内山義政、大友二郎、加藤 徹、香西博子、齊藤 猛、杉野孝雄、内藤宇佐彦、中池敏之、西口紀雄、花井孝之、細倉哲穂、宮崎一夫、村松美智子、室伏幸一、山口海夢、山崎由晴、湯浅保雄
菌類	池ヶ谷憲司、池ヶ谷のり子、植松元春、大塚健佑、小倉辰彦、河村正幸、岸澤広晶、酒井敏明、長澤栄史、武藤治彦、胸組伸行

レッドリスト 2017 公表からの訂正と変更

レッドリスト公表（2017 年 10 月）から、本書発刊までの生息情報の追加や検討により、一部変更や訂正が必要となった。以下に変更及び訂正事項を示す。

カテゴリーの変更

分類群名	レッドリスト（2017 年 10 月）	本書改訂〔変更理由〕	変更事項
植物	センリゴマ 絶滅危惧 類（VU）	リスト外 〔本県では野生種ではなく園芸種であると判断された。〕	削除
菌類	アシボソムラサキハツ 情報不足（DD）	リスト外 〔本年度現地調査等により本県で複数の記録が確認された。〕	削除
	ニオイカワキタケ 要注目種（N- 部会注目種）	リスト外 〔本年度現地調査等により本県での生育環境が複数箇所確認された。〕	削除

記載事項の訂正・変更

分類群名	レッドリスト（2017 年 10 月）	本書改訂	訂正・変更事項
菌類	カンムリタケ 所属科未確定	カンムリタケ ヘミファキジウム科	科名
	フトクビクチキムシタケ <i>Elaphocordyceps subsessilis</i> (Petch) G.H. Sung, J.M.Sung & Spatafora 2007	フトクビクチキムシタケ <i>Tolypocladium inflatum</i> W.Gams 1971	学名
	タンポタケモドキ <i>Elaphocordyceps japonica</i> (Lloyd) G.H. Sung, J.M. Sung & Spatafora 2007	タンポタケモドキ <i>Tolypocladium japonicum</i> (Lloyd) C.A.Quandt, Kepler & Spatafora 2014	学名
	ナメニセムクエタケ フウセンタケ科	ナメニセムクエタケ ヒメノガステル科	科名

注）植物では、目録の根拠（邑田 仁・米倉浩司 日本維管束植物目録 北隆館 2012）に沿った訂正がある。

和名索引・環境省カテゴリー対照表

カテゴリー EX : 絶滅
 CR : 絶滅危惧 A 類
 EN : 絶滅危惧 B 類
 CR+EN : 絶滅危惧 類

VU : 絶滅危惧 類
 NT : 準絶滅危惧
 DD : 情報不足
 LP : 絶滅のおそれのある地域個体群

N - : 要注目種 現状不明
 N - : 要注目種 分布上注目種等
 N - : 要注目種 部会注目種

植物	(静岡県)	[環境省]			イチョウラン	(VU)	[なし]	・・・	167
アイコハチジョウシダ	(VU)	[なし]	・・・	143	イチリンソウ	(N-)	[なし]	・・・	358
アオガシ	(DD)	[なし]	・・・	276	イッスンテンツキ	(CR)	[CR]	・・・	56
アオキガハラウサギシダ					イトイチゴツナギ	(N-)	[なし]	・・・	296
	(VU)	[なし]	・・・	147	イトクズモ	(VU)	[VU]	・・・	162
アオキラン	(N-)	[CR]	・・・	339	イトテンツキ	(VU)	[NT]	・・・	181
アオチャセンシダ	(N-)	[なし]	・・・	283	イトトリゲモ	(VU)	[NT]	・・・	160
アオネカズラ	(N-)	[なし]	・・・	333	イトモ	(VU)	[NT]	・・・	162
アオフタバラン	(N-)	[なし]	・・・	343	イナデンダ	(VU)	[NT]	・・・	152
アオホオズキ	(NT)	[VU]	・・・	265	イナベアザミ	(DD)	[VU]	・・・	282
アカイシ lindou	(EN)	[EN]	・・・	122	イナモリソウ	(N-)	[なし]	・・・	371
アカウキクサ	(VU)	[EN]	・・・	141	イヌイ	(N-)	[なし]	・・・	293
アギナシ	(VU)	[NT]	・・・	158	イヌセンブリ	(NT)	[VU]	・・・	264
アキノハハコグサ	(VU)	[EN]	・・・	236	イヌタヌキモ	(VU)	[NT]	・・・	229
アケボノシュスラン	(N-)	[なし]	・・・	340	イヌノフグリ	(NT)	[VU]	・・・	266
アサザ	(VU)	[NT]	・・・	232	イヌハギ	(EN)	[VU]	・・・	108
アサマフウロ	(VU)	[NT]	・・・	209	イバラモ	(N-)	[なし]	・・・	289
アシタカジャコウソウ	(N-)	[なし]	・・・	373	イヨクジャク	(VU)	[EN]	・・・	146
アシタカツツジ	(NT)	[VU]	・・・	262	イヨフウロ	(N-)	[NT]	・・・	367
アスヒカズラ	(N-)	[なし]	・・・	327	イワイヌワラビ	(N-)	[なし]	・・・	331
アズマイチゲ	(N-)	[なし]	・・・	359	イワウサギシダ	(VU)	[なし]	・・・	148
アズマガヤ	(VU)	[なし]	・・・	192	イワウチワ	(N-)	[なし]	・・・	306
アズマギク	(EN)	[なし]	・・・	132	イワウメツル	(N-)	[なし]	・・・	366
アズマツメクサ	(N-)	[NT]	・・・	362	イワシャジン	(N-)	[なし]	・・・	375
アゼオトギリ	(EN)	[EN]	・・・	113	イワタカンアオイ	(VU)	[VU]	・・・	154
アツギノヌカイタチシダマガイ					イワチドリ	(CR)	[EN]	・・・	46
	(VU)	[なし]	・・・	151	イワツクバネウツギ	(EN)	[VU]	・・・	135
アツモリソウ	(CR)	[VU]	・・・	52	イワヤシダ	(VU)	[なし]	・・・	146
アベトウヒレン	(EN)	[なし]	・・・	133	イワレンゲ	(DD)	[VU]	・・・	280
アマギカンアオイ	(VU)	[VU]	・・・	155	ウエマツソウ	(EN)	[VU]	・・・	79
アマギシャクナゲ	(NT)	[なし]	・・・	261	ウキシバ	(N-)	[なし]	・・・	357
アマギツツジ	(NT)	[EN]	・・・	261	ウスギムヨウラン	(NT)	[NT]	・・・	251
アマギテンナンショウ	(CR)	[CR]	・・・	43	ウスゲチョウジタデ	(NT)	[NT]	・・・	259
アマナ	(N-)	[なし]	・・・	336	ウスバサイシン	(N-)	[なし]	・・・	334
アリドオシラン	(N-)	[なし]	・・・	344	ウスバミヤマノコギリシダ				
アワボスゲ	(EN)	[なし]	・・・	98		(N-)	[なし]	・・・	332
イヌマムカゴ	(EN)	[EN]	・・・	93	ウチョウラン	(VU)	[VU]	・・・	172
イシモチソウ	(VU)	[NT]	・・・	213	ウミヒルモ	(DD)	[NT]	・・・	276
イズアサツキ	(EN)	[EN]	・・・	95	ウメウツギ	(EN)	[VU]	・・・	117
イズカニクウモリ	(NT)	[VU]	・・・	270	ウラギク	(VU)	[NT]	・・・	235
イズコゴメグサ	(VU)	[EN]	・・・	227	ウラジロギボウシ	(DD)	[EN]	・・・	278
イズドコロ	(VU)	[VU]	・・・	163	ウラジロキンバイ	(VU)	[VU]	・・・	204
イズハハコ	(NT)	[VU]	・・・	271	ウンゼンツツジ	(N-)	[なし]	・・・	322
イズヤブソテツ	(VU)	[なし]	・・・	149	ウンヌケ	(VU)	[VU]	・・・	193
イソホウキギ	(N-)	[なし]	・・・	305	ウンヌケモドキ	(VU)	[NT]	・・・	193
イチョウシダ	(EN)	[NT]	・・・	68	エゾイトイ	(CR)	[CR]	・・・	55

エゾウキヤガラ	(N-)	[なし]	352	カザグルマ	(VU)	[NT]	195
エゾツリスゲ	(VU)	[なし]	186	カシノキラン	(EN)	[VU]	92
エゾハタザオ	(VU)	[なし]	210	カタクリ	(N-)	[なし]	337
エゾメシダ	(N-)	[なし]	284	カタスゲ	(VU)	[なし]	184
エダウチホングウシダ	(N-)	[なし]	329	カツモウイノデ	(VU)	[なし]	148
エビアマモ	(NT)	[NT]	245	カノコソウ	(N-)	[なし]	380
エビネ	(NT)	[NT]	248	カミガモシダ	(EN)	[なし]	68
エンシュウシャクナゲ	(NT)	[VU]	262	カモメラン	(EN)	[NT]	91
エンシュウツリフネソウ	(VU)	[EN]	214	カラハナソウ	(N-)	[なし]	365
エンシュウムヨウラン	(VU)	[なし]	170	カラフトイワスゲ	(CR)	[EN]	56
オオアカウキクサ	(VU)	[EN]	141	カラフトメンマ	(N-)	[なし]	286
オオアブノメ	(VU)	[VU]	222	カリガネソウ	(NT)	[なし]	266
オオウバユリ	(N-)	[なし]	337	カワツルモ	(VU)	[NT]	163
オオカラマツ	(N-)	[なし]	360	カワラサイコ	(N-)	[なし]	363
オオキツネノカミソリ	(N-)	[なし]	347	カワラニガナ	(NT)	[NT]	272
オオクグ	(EN)	[NT]	99	カワラノギク	(CR)	[VU]	64
オオサクラソウ	(VU)	[なし]	215	カワラボウフウ	(N-)	[なし]	312
オオサワトリカブト	(EN)	[CR]	105	カンコノキ	(EN)	[なし]	111
オオタマツリスゲ	(VU)	[なし]	183	ガンゼキラン	(CR)	[VU]	54
オオツルコウジ	(EN)	[EN]	118	カンチャヤチハコベ	(CR)	[CR]	61
オオトボシガラ	(N-)	[なし]	355	カンラン	(CR)	[EN]	50
オオハイホラゴケ	(N-)	[なし]	328	キエビネ	(CR)	[EN]	48
オオハクウンラン	(EN)	[VU]	93	キキョウ	(VU)	[VU]	231
オオバナオオヤマサギソウ					キクザキイチゲ	(N-)	[なし]	359
	(VU)	[CR]	175	キシユナキリ	(VU)	[VU]	185
オオヒキヨモギ	(NT)	[VU]	268	キスミレ	(VU)	[なし]	208
オオピランジ	(VU)	[NT]	213	キセウタ	(EN)	[VU]	128
オオミクリ	(VU)	[VU]	179	キソエビネ	(CR)	[CR]	47
オオミズトンボ	(EN)	[EN]	87	キタザワブシ	(N-)	[なし]	358
オオミネテンナンショウ	(EN)	[EN]	77	キタダケイチゴツナギ	(CR)	[CR]	58
オオヤマサギソウ	(VU)	[なし]	174	キタダケオドリコソウ	(VU)	[NT]	224
オオヤマツツジ	(VU)	[なし]	218	キタダケカニツリ	(EN)	[EN]	103
オオヤマレンゲ	(EN)	[なし]	76	キタダケデンダ	(CR)	[CR]	40
オキナグサ	(EN)	[VU]	106	キタダケナズナ	(CR)	[EN]	60
オキナワハイネズ	(N-)	[なし]	316	キタダケヨモギ	(VU)	[EN]	233
オクヤマワラビ	(N-)	[なし]	285	キダチノズミガヤ	(N-)	[なし]	296
オトコシダ	(EN)	[なし]	72	キバナカワラマツバ	(N-)	[なし]	306
オトメアオイ	(NT)	[NT]	245	キバナノアツモリソウ	(CR)	[VU]	51
オドリコカグマ	(N-)	[なし]	313	キバナノアマナ	(VU)	[なし]	164
オドリコテンナンショウ	(CR)	[CR]	42	キバナノショウキラン	(VU)	[EN]	177
オナモミ	(N-)	[VU]	378	キバナハナネコノメ	(NT)	[NT]	255
オニイノデ	(EN)	[VU]	74	キビナワシロイチゴ	(N-)	[なし]	300
オニゼンマイ	(CR)	[なし]	37	ギボウシラン	(N-)	[EN]	342
オニナルコスゲ	(VU)	[なし]	188	キョウマルシャクナゲ	(VU)	[VU]	217
オニバス	(VU)	[VU]	153	キヨスミウツボ	(N-)	[なし]	375
オノエスゲ	(VU)	[VU]	187	キレハオオクボシダ	(CR)	[EN]	41
オノエラン	(VU)	[なし]	172	キンセイラン	(CR)	[VU]	48
オノエリンドウ	(EN)	[EN]	122	キンチャクスゲ	(N-)	[なし]	294
カイコバイモ	(EN)	[EN]	81	キンラン	(NT)	[VU]	249
カイジンドウ	(EN)	[VU]	126	ギンラン	(N-)	[なし]	338
カイナンサラサドウダン	(VU)	[なし]	217	キンロバイ	(VU)	[VU]	203
カガシラ	(VU)	[VU]	190	クゲヌマラン	(CR)	[VU]	50
ガガブタ	(VU)	[NT]	232	クサタチバナ	(EN)	[NT]	124
カギガタアオイ	(VU)	[EN]	154	クサナギオゴケ	(NT)	[VU]	264
カキツバタ	(VU)	[NT]	178	クサノオウバノギク	(VU)	[VU]	240
カゲロウラン	(VU)	[NT]	169	クサフジ	(VU)	[なし]	202

クジュウクリテンツキ	(N-)	[なし]	351	サクラガンピ	(NT)	[VU]	259
クマガイソウ	(VU)	[VU]	166	サクラスミレ	(VU)	[なし]	208
クマノギク	(N-)	[なし]	311	サクラソウ	(EN)	[NT]	119
クモイコザクラ	(VU)	[VU]	216	サクラバハノキ	(NT)	[NT]	257
クモイザクラ	(N-)	[なし]	299	ササバラ	(DD)	[EN]	278
クモイジガバチ	(CR)	[CR]	53	サツキヒナノウスツボ	(N-)	[なし]	308
クモイナズナ	(EN)	[VU]	115	サツマスゲ	(N-)	[なし]	348
クモマスズメノヒエ	(NT)	[NT]	253	サナギスゲ	(VU)	[なし]	183
クモマナズナ	(VU)	[VU]	211	ザラツキヒナガリヤス	(N-)	[EN]	354
クモマニガナ	(VU)	[なし]	238	サルメンエビネ	(CR)	[VU]	49
クラガリシダ	(EN)	[EN]	74	サワギキョウ	(NT)	[なし]	269
クリンソウ	(EN)	[なし]	119	サワトラノオ	(EN)	[EN]	118
クロイヌノヒゲ	(NT)	[NT]	252	サワヒメスゲ	(VU)	[なし]	185
クロクモキリソウ	(EN)	[EN]	88	サワラン	(CR)	[EN]	52
クロツバラ	(VU)	[なし]	205	サンショウバラ	(NT)	[VU]	257
クロホシクサ	(EN)	[VU]	96	サンショウモ	(VU)	[VU]	140
クロミノイタチシダ	(N-)	[なし]	287	サンブクリンドウ	(EN)	[EN]	121
クロミノニシゴリ	(NT)	[なし]	260	シコクヒロハテンナンショウ				
クロヤツシロラン	(NT)	[なし]	250		(EN)	[EN]	76
ケシンジュガヤ	(N-)	[なし]	353	シコタンハコベ	(VU)	[VU]	214
ケホシダ	(N-)	[なし]	314	シシンラン	(EN)	[VU]	125
ゲンジスミレ	(N-)	[なし]	302	ジゾウカンバ	(VU)	[なし]	206
コアツモリソウ	(VU)	[NT]	166	シデシャジン	(N-)	[なし]	376
コアマモ	(NT)	[なし]	246	シナノコザクラ	(VU)	[NT]	216
コイヌガラシ	(N-)	[NT]	368	シノノメソウ	(EN)	[VU]	123
コイワザクラ	(VU)	[VU]	215	シバナ	(CR)	[NT]	44
コウヤザサ	(N-)	[なし]	354	シブカワシロギク	(VU)	[EN]	234
コウヤミズキ	(VU)	[なし]	199	シブカワツツジ	(NT)	[VU]	263
コウライイヌワラビ	(EN)	[VU]	70	シブカワニンジン	(N-)	[なし]	324
コウリンカ	(EN)	[VU]	134	シマジタムラソウ	(VU)	[VU]	226
コオトギリ	(NT)	[なし]	258	シムライノデ	(CR)	[EN]	41
コガネシダ	(EN)	[なし]	71	シュスラン	(N-)	[なし]	341
コギシギシ	(EN)	[VU]	116	ジュンサイ	(NT)	[なし]	244
コキンバイザサ	(N-)	[なし]	346	ショウキラン	(EN)	[なし]	94
コゴメヒョウタンボク	(EN)	[EN]	135	シラオイハコベ	(N-)	[なし]	304
コシノコバイモ	(EN)	[なし]	80	シラタマホシクサ	(VU)	[VU]	180
コタニワタリ	(N-)	[なし]	329	シラヒゲソウ	(VU)	[なし]	206
コタヌキモ	(EN)	[なし]	130	シラン	(NT)	[NT]	246
コツブヌマハリイ	(VU)	[VU]	189	シロウマチドリ	(EN)	[VU]	91
コナミキ	(EN)	[VU]	129	シロウマナズナ	(EN)	[EN]	116
コハクラン	(N-)	[CR]	342	シロガヤツリ	(N-)	[なし]	350
コバノチョウセンエノキ	(EN)	[なし]	110	シロテンマ	(N-)	[CR]	339
コバノヒルムシロ	(DD)	[VU]	277	シロバナショウジョウバカマ				
コヒナリンドウ	(EN)	[EN]	121		(N-)	[なし]	291
コマイワヤナギ	(VU)	[VU]	207	シロモジ	(VU)	[なし]	156
ゴマクサ	(EN)	[VU]	129	シロヤマゼンマイ	(VU)	[なし]	140
ゴマシオホシクサ	(EN)	[EN]	97	ジングウスゲ	(VU)	[NT]	187
コマツカサススキ	(N-)	[なし]	351	ジンリョウユリ	(CR)	[EN]	45
ゴマノハグサ	(N-)	[VU]	308	スエヒロアオイ	(DD)	[CR]	275
コミヤマヌカボ	(N-)	[なし]	353	スギラン	(VU)	[VU]	138
サイコクヌカボ	(VU)	[VU]	212	スジヒトツバ	(CR)	[なし]	38
サイゴクホングウシダ	(CR)	[なし]	39	スズサイコ	(NT)	[NT]	265
サカネラン	(EN)	[VU]	90	スズムシソウ	(VU)	[なし]	170
サガミトリゲモ	(VU)	[VU]	160	スズメハコベ	(VU)	[VU]	223
サギスゲ	(N-)	[なし]	294	スズラン	(EN)	[なし]	96
サギソウ	(VU)	[NT]	168	ズソウカンアオイ	(VU)	[NT]	155

ステゴビル	(EN)	(VU)	95	チャボシライトソウ	(EN)	(VU)	80
スナビキソウ	(VU)	[なし]	221	チャボハナヤスリ	(CR)	(VU)	37
スプタ	(VU)	(VU)	159	チャボホトトギス	(VU)	[なし]	164
スルガイノデ	(CR)	(CR)	40	チョウジソウ	(VU)	(NT)	220
スルガジョウロウホトトギス	(CR)	(EN)	46	チョウセンゴミシ	(N-)	[なし]	288
スルガスゲ	(VU)	(EN)	186	チョウセンナニワズ	(VU)	(VU)	210
スルガヒョウタンボク	(VU)	(EN)	240	ツクシイヌワラビ	(N-)	[なし]	285
セイタカイワヒメワラビ	(EN)	[なし]	66	ツクシイワヘゴ	(N-)	[なし]	332
セイタカスズムシソウ	(EN)	[なし]	89	ツクシヤブソテツ	(VU)	[なし]	150
セイタカトウヒレン	(N-)	[なし]	310	ツゲ	(N-)	[なし]	361
セッコク	(NT)	[なし]	249	ツツイトモ	(VU)	(VU)	161
セツブンソウ	(VU)	(NT)	197	ツメレンゲ	(NT)	(NT)	256
センジョウデンド	(EN)	(EN)	73	ツルギキョウ	(VU)	(VU)	230
センダイスゲ	(NT)	[なし]	253	ツルケマン	(EN)	(EN)	104
センニンモ	(N-)	[なし]	290	ツレサギソウ	(VU)	[なし]	174
ソナレセンブリ	(CR)	(VU)	63	テツホシダ	(N-)	[なし]	330
ソナレマツムシソウ	(VU)	(VU)	242	テバコワラビ	(VU)	(VU)	145
ダイサギソウ	(EN)	(EN)	86	デンジソウ	(CR)	(VU)	38
タイワンヤマイ	(N-)	[なし]	295	テンリュウカンアオイ	(DD)	[なし]	274
タカサゴシダ	(N-)	(NT)	315	テンリュウヌリトラノオ	(NT)	(VU)	244
タカサゴソウ	(VU)	(VU)	237	トウヤクリンドウ	(N-)	[なし]	323
タカネアオチドリ	(EN)	[なし]	83	トキソウ	(EN)	(NT)	92
タカネイ	(DD)	(NT)	279	トキホコリ	(CR)	(VU)	59
タカネコウリンカ	(NT)	(NT)	272	トキワマンサク	(EN)	(EN)	107
タカネサギソウ	(N-)	[なし]	317	ドクゼリ	(N-)	[なし]	311
タカネシダ	(EN)	(CR)	73	トダイアカバナ	(VU)	(VU)	209
タカネタチイチゴツナギ	(EN)	(VU)	102	トダイハハコ	(VU)	(VU)	233
タカネナルコ	(EN)	(VU)	99	トダスゲ	(EN)	(CR)	97
タカネママコナ	(N-)	(VU)	374	トチカガミ	(VU)	(NT)	159
タカネマンテマ	(CR)	(CR)	61	トネテンツキ	(EN)	(VU)	100
タカネヤガミスゲ	(VU)	(NT)	181	トネリコ	(N-)	[なし]	307
タカノハウラボシ	(VU)	[なし]	153	トラキチラン	(EN)	(EN)	84
タキミシダ	(VU)	(EN)	142	トラノオスズカケ	(VU)	[なし]	223
タコノアシ	(NT)	(NT)	256	トリゲモ	(VU)	(VU)	161
タシロラン	(NT)	(NT)	250	ドロニガナ	(DD)	(VU)	282
タチアマモ	(DD)	(VU)	277	ナガエミクリ	(NT)	(NT)	252
タチイチゴツナギ	(EN)	(EN)	102	ナガサキシダ	(EN)	[なし]	72
タチキランソウ	(NT)	(NT)	267	ナガバジュズネノキ	(VU)	[なし]	218
タチスズシロソウ	(CR)	(EN)	59	ナガバノイシモチソウ	(EN)	(VU)	117
タチバナ	(EN)	(NT)	115	ナガバノウナギツカミ	(N-)	(NT)	368
タチヒメワラビ	(EN)	[なし]	69	ナガバノヤノネグサ	(N-)	[なし]	303
タチモ	(EN)	(NT)	107	ナガボナツハゼ	(EN)	(CR)	120
タテヤマギク	(NT)	(NT)	269	ナガボノアカワレモコウ	(N-)	[なし]	365
タニヘゴ	(VU)	[なし]	152	ナカミシシラン	(VU)	[なし]	143
タヌキノシヨクダイ	(CR)	(EN)	44	ナガミノツルケマン	(EN)	(EN)	104
タヌキモ	(VU)	(NT)	229	ナギラン	(VU)	(VU)	165
タマカラマツ	(VU)	(VU)	198	ナゴラン	(CR)	(EN)	55
タマノカンアオイ	(DD)	(VU)	275	ナツエビネ	(VU)	(VU)	165
タマミクリ	(N-)	(NT)	292	ナベナ	(N-)	[なし]	380
チシマネコノメソウ	(N-)	[なし]	361	ナミキソウ	(N-)	[なし]	309
チシマヒカゲノカズラ	(CR)	(EN)	35	ナヨテンマ	(EN)	(EN)	85
チシマヒョウタンボク	(VU)	(VU)	241	ナンカクラン	(CR)	[なし]	35
チチッパベンケイ	(DD)	[なし]	280	ニオイシダ	(N-)	[なし]	287
チチブホラゴケ	(N-)	[なし]	328	ニシノコハチジョウシダ	(EN)	[なし]	67
チャシバスゲ	(N-)	[なし]	293	ニシノホンモンジスゲ	(N-)	[なし]	317
					ニセコクモウクジャク	(VU)	[なし]	147

ニッコウシダ	(N-)	[なし]	284	ヒキヨモギ	(N-)	[なし]	374
ニッコウヒョウタンボク	(VU)	[なし]	241	ヒゲネワチガイソウ	(N-)	[なし]	369
ニョホウチドリ	(VU)	[NT]	173	ヒゲノガリヤス	(N-)	[なし]	295
ヌイオスゲ	(VU)	[VU]	188	ヒゲハリスゲ	(VU)	[NT]	189
ヌカイタチシダマガイ	(VU)	[なし]	151	ヒゴスミレ	(N-)	[なし]	367
ヌカイタチシダモドキ	(N-)	[なし]	333	ヒツジグサ	(EN)	[なし]	75
ヌカボタデ	(VU)	[VU]	212	ヒトツバシヨウマ	(VU)	[なし]	200
ヌマゼリ	(EN)	[VU]	137	ヒトツバテンナンショウ	(VU)	[なし]	156
ネコヤマヒゴタイ	(EN)	[VU]	133	ヒトツバハギ	(EN)	[なし]	112
ノウルシ	(VU)	[NT]	207	ヒトツボクロ	(N-)	[なし]	345
ノグルミ	(N-)	[なし]	300	ヒナガリヤス	(N-)	[なし]	318
ノタヌキモ	(VU)	[VU]	228	ヒナザサ	(VU)	[NT]	192
ノッポロガンクピソウ	(N-)	[なし]	377	ヒナチドリ	(EN)	[VU]	90
ノニガナ	(N-)	[なし]	378	ヒナノカンザシ	(VU)	[なし]	203
ノハラテンツキ	(EN)	[VU]	100	ヒナノキンチャク	(EN)	[EN]	109
ノビネチドリ	(N-)	[なし]	341	ヒナノシャクジョウ	(N-)	[なし]	336
バアソブ	(VU)	[VU]	231	ヒナラン	(EN)	[EN]	82
ハイコモチシダ	(N-)	[なし]	315	ヒノキシダ	(VU)	[なし]	144
ハクサンイチゴツナギ	(N-)	[なし]	356	ヒメアオガヤツリ	(N-)	[なし]	350
ハクセンナズナ	(N-)	[なし]	321	ヒメアマナ	(EN)	[EN]	81
ハコネグミ	(VU)	[VU]	205	ヒメイズイ	(N-)	[なし]	291
ハコネコメツツジ	(NT)	[VU]	263	ヒメウラジロ	(DD)	[VU]	273
ハコネシロカネソウ	(VU)	[NT]	196	ヒメカラマツ	(N-)	[なし]	319
ハコネラン	(EN)	[VU]	84	ヒメコウホネ	(DD)	[VU]	274
ハゴロモグサ	(EN)	[VU]	109	ヒメコヌカグサ	(NT)	[NT]	254
ハシドイ	(VU)	[なし]	222	ヒメシャガ	(EN)	[NT]	94
ハシナガカンスゲ	(EN)	[VU]	98	ヒメシロアサザ	(EN)	[VU]	132
ハシバミ	(N-)	[なし]	301	ヒメスミレサイシン	(N-)	[なし]	302
ハスノハカズラ	(N-)	[なし]	357	ヒメセンブリ	(EN)	[EN]	123
ハタベカンガレイ	(VU)	[VU]	190	ヒメタヌキモ	(EN)	[NT]	131
ハチジョウアキノキリンソウ					ヒメナエ	(VU)	[VU]	220
	(N-)	[なし]	325	ヒメナミキ	(VU)	[なし]	227
ハチジョウイチゴ	(N-)	[なし]	299	ヒメニラ	(N-)	[なし]	346
ハチジョウシダ	(EN)	[なし]	66	ヒメノヤガラ	(EN)	[VU]	88
ハチジョウシダモドキ	(VU)	[なし]	144	ヒメハシゴシダ	(N-)	[なし]	314
ハチジョウナ	(VU)	[なし]	239	ヒメハッカ	(VU)	[NT]	225
ハナゼキショウ	(N-)	[なし]	289	ヒメハナワラビ	(VU)	[VU]	139
ハナハタザオ	(CR)	[CR]	60	ヒメバラモミ	(DD)	[VU]	273
ハナムグラ	(EN)	[VU]	120	ヒメヒゴタイ	(EN)	[VU]	134
ハネガヤ	(VU)	[なし]	194	ヒメビシ	(EN)	[VU]	114
ハマアカザ	(N-)	[なし]	304	ヒメフタバラン	(N-)	[なし]	343
ハマウツボ	(VU)	[VU]	228	ヒメミクリ	(VU)	[VU]	180
ハマクワガタ	(N-)	[VU]	372	ヒメミカキグサ	(EN)	[EN]	131
ハマサジ	(EX)	[NT]	33	ヒメムヨウラン	(VU)	[VU]	171
ハマナツメ	(EX)	[VU]	33	ヒモラン	(CR)	[EN]	36
ハマネナシカズラ	(VU)	[VU]	221	ヒヨクソウ	(N-)	[なし]	307
ハマハナヤスリ	(N-)	[なし]	327	ビロードイチゴ	(N-)	[なし]	320
ハマビシ	(EN)	[EN]	108	ヒロハアツイタ	(EN)	[VU]	71
ハマベノギク	(N-)	[なし]	310	ヒロハコンロンカ	(N-)	[なし]	323
ハママツナ	(N-)	[なし]	305	ヒロハツリシュスラン	(EN)	[EN]	85
ハリガネスゲ	(VU)	[なし]	182	ヒロハノアマナ	(CR)	[VU]	45
バリバリノキ	(N-)	[なし]	334	ヒロハノエビモ	(N-)	[なし]	290
ハルザキヤツシロラン	(VU)	[VU]	167	ヒロハノカワラサイコ	(N-)	[VU]	298
ハルノタムラソウ	(N-)	[なし]	309	ヒロハヒメウラボシ	(CR)	[CR]	42
ヒカゲシラスゲ	(N-)	[なし]	349	ヒロハヘビノボラズ	(EN)	[なし]	105
ヒキノカサ	(EN)	[VU]	106	ヒロハヤブソテツ	(VU)	[なし]	149

ヒンジモ	(VU)	(VU)	157	ミシマバイカモ	(VU)	(なし)	197
フウラン	(VU)	(VU)	171	ミズアオイ	(VU)	(NT)	178
フガクスズムシソウ	(EN)	(VU)	89	ミズオオバコ	(N-)	(VU)	335
フキヤミツバ	(EN)	(VU)	136	ミズキカシグサ	(EN)	(VU)	114
フクジュソウ	(VU)	(なし)	195	ミズギク	(N-)	(なし)	377
フサタヌキモ	(CR)	(EN)	64	ミズスギナ	(DD)	(CR)	281
フサモ	(N-)	(なし)	363	ミスズラン	(CR)	(CR)	47
フジイノデ	(N-)	(なし)	316	ミズタカモジ	(DD)	(VU)	279
フジスミレ	(N-)	(なし)	301	ミズチドリ	(VU)	(なし)	173
フジタイゲキ	(EN)	(VU)	111	ミズトラノオ	(EN)	(VU)	128
フジチドリ	(EN)	(EN)	86	ミズトンボ	(VU)	(VU)	168
フジバカマ	(VU)	(NT)	235	ミズニラ	(VU)	(NT)	138
フッキソウ	(VU)	(なし)	198	ミズネコノオ	(EN)	(NT)	127
フナバラソウ	(N-)	(VU)	371	ミズバショウ	(N-)	(なし)	288
ベニシユスラン	(N-)	(なし)	340	ミズマツバ	(NT)	(VU)	258
ベニバナヤマシャクヤク	(CR)	(VU)	58	ミスミソウ	(VU)	(NT)	196
ホウロクイチゴ	(N-)	(なし)	364	ミゾコウジュ	(NT)	(NT)	268
ホオノカワシダ	(VU)	(なし)	150	ミゾシダモドキ	(N-)	(なし)	331
ホクチアザミ	(N-)	(なし)	325	ミツガシワ	(N-)	(なし)	324
ホザキイチヨウラン	(N-)	(なし)	344	ミツパテンナンショウ	(N-)	(なし)	335
ホソバシヨリマ	(VU)	(なし)	145	ミドリアカザ	(N-)	(CR)	370
ホソバニガナ	(VU)	(EN)	238	ミドリワラビ	(EN)	(なし)	70
ホソバノアマナ	(N-)	(なし)	338	ミミガタテンナンショウ	(VU)	(なし)	157
ホソバノキソチドリ	(N-)	(なし)	345	ミヤマカニツリ	(EN)	(VU)	103
ホソバノツルリンドウ	(VU)	(VU)	219	ミヤマコウモリソウ	(N-)	(EN)	376
ホソバハナウド	(VU)	(CR)	243	ミヤマジュズスゲ	(VU)	(なし)	182
ホソバハマアカザ	(N-)	(なし)	369	ミヤマスミレ	(EN)	(なし)	112
ホソバヒカゲスゲ	(VU)	(なし)	184	ミヤマツチトリモチ	(VU)	(VU)	211
ホテイアツモリソウ	(CR)	(CR)	51	ミヤマツメクサ	(N-)	(なし)	322
ホテイラン	(CR)	(EN)	49	ミヤマトベラ	(VU)	(なし)	201
ホナガタツナミソウ	(N-)	(なし)	373	ミヤマニガウリ	(N-)	(なし)	366
ホンゴウソウ	(EN)	(VU)	78	ミヤマハナシノブ	(CR)	(VU)	62
マシカクイ	(N-)	(なし)	318	ミヤマハナワラビ	(CR)	(CR)	36
マツカサススキ	(N-)	(なし)	352	ミヤマハルガヤ	(VU)	(VU)	191
マツノハマンネングサ	(VU)	(VU)	201	ミヤマムギラン	(NT)	(NT)	248
マツバニンジン	(EN)	(CR)	113	ミヤマモミジイチゴ	(N-)	(NT)	364
マツバラン	(VU)	(NT)	139	ミヤマワレモコウ	(VU)	(なし)	204
マツラン	(VU)	(VU)	176	ミョウギシダ	(EN)	(EN)	75
マネキグサ	(NT)	(NT)	267	ムカゴサイシン	(CR)	(EN)	54
マメダオシ	(N-)	(CR)	372	ムカゴソウ	(VU)	(EN)	169
マメヅタラン	(NT)	(NT)	247	ムカゴツヅリ	(N-)	(なし)	356
マヤラン	(EN)	(VU)	83	ムカゴトンボ	(CR)	(EN)	53
マルバオモダカ	(CR)	(VU)	43	ムカゴネコノメソウ	(NT)	(NT)	255
マルバノサウトウガラシ	(EN)	(VU)	126	ムカゴユキノシタ	(N-)	(なし)	362
マルミスブタ	(VU)	(VU)	158	ムカデラン	(VU)	(VU)	177
マンシュウクロカワスゲ	(N-)	(EN)	348	ムギラン	(NT)	(NT)	247
ミカワシオガマ	(EX)	(VU)	34	ムサシモ	(EN)	(EN)	77
ミカワシンジュガヤ	(EN)	(VU)	101	ムシトリスミレ	(CR)	(なし)	63
ミカワタヌキモ	(EN)	(VU)	130	ムシャルンドウ	(EN)	(VU)	127
ミカワチャルメルソウ	(N-)	(なし)	319	ムラサキ	(EN)	(EN)	124
ミカワバイケイソウ	(EN)	(VU)	79	ムラサキセンブリ	(VU)	(NT)	219
ミギワトダシバ	(VU)	(VU)	191	ムラサキツリガネツツジ	(CR)	(VU)	62
ミクリ	(NT)	(NT)	251	ムラサキミミカキグサ	(VU)	(NT)	230
ミクリガヤ	(EN)	(EN)	101	ムラサキモメンヅル	(N-)	(なし)	320
ミコシギク	(CR)	(VU)	65	メニッコウシダ	(N-)	(なし)	330
ミシマサイコ	(VU)	(VU)	242	モクレイシ	(N-)	(なし)	321

モミジカラスウリ	(DD)	[なし]	281	アケボノタケ	(DD)	[なし]	439
モミラン	(VU)	[VU]	176	アケボノハリタケ	(N-)	[なし]	484
モメンヅル	(N-)	[なし]	298	アシグロニオイイグチ	(VU)	[なし]	412
モリアザミ	(NT)	[なし]	270	アシナガイグチ	(N-)	[なし]	466
モロコシソウ	(N-)	[なし]	370	アナアキアカダマタケ	(N-)	[なし]	473
ヤクカナワラビ	(N-)	[なし]	286	アバタケシボウズタケ	(EN)	[なし]	398
ヤクシマアカシユスラン	(EN)	[VU]	87	アンドンタケ	(EN)	[なし]	401
ヤクシマホウビシダ	(EN)	[なし]	67	ウサギタケ	(N-)	[なし]	487
ヤシャビシヤク	(VU)	[NT]	199	ウスキタンボセミタケ	(NT)	[VU]	420
ヤツガタケシノブ	(N-)	[NT]	283	ウズタケ	(DD)	[なし]	449
ヤナギタンポポ	(VU)	[なし]	237	ウラムラサキシメジ	(DD)	[なし]	443
ヤナギヌカボ	(NT)	[VU]	260	エゾシロアマタケ	(DD)	[なし]	452
ヤナギノギク	(VU)	[VU]	236	エピタケ	(N-)	[なし]	483
ヤハズトウヒレン	(VU)	[なし]	239	エブリコ	(N-)	[なし]	481
ヤブサンザシ	(VU)	[なし]	200	オオカボチャタケ	(DD)	[なし]	451
ヤブスゲ	(N-)	[なし]	349	オオキノボリイグチ	(N-)	[なし]	467
ヤマアゼスゲ	(N-)	[なし]	347	オオツガタケ	(NT)	[なし]	426
ヤマアマドコロ	(N-)	[なし]	292	オオムラサキアンズタケ	(EN)	[なし]	403
ヤマオオウシノケグサ	(CR)	[EN]	57	オオモミタケ	(NT)	[なし]	428
ヤマケマン	(N-)	[なし]	297	オニウスタケ	(N-)	[なし]	476
ヤマジソ	(VU)	[NT]	225	オニフウセンタケ	(N-)	[なし]	459
ヤマジノタツナミソウ	(VU)	[なし]	226	カバイロオオホウライタケ	(DD)	[なし]	440
ヤマシャクヤク	(NT)	[NT]	254	カバイロコナテングタケ	(N-)	[なし]	457
ヤマソテツ	(CR)	[なし]	39	カバノアナタケ	(N-)	[NT]	480
ヤマタバコ	(CR)	[CR]	65	カブラテングタケ	(DD)	[なし]	438
ヤマトキソウ	(VU)	[なし]	175	カンゾウタケ	(N-)	[なし]	461
ヤマトボシガラ	(N-)	[なし]	355	カンムリタケ	(VU)	[なし]	405
ヤマトミクリ	(VU)	[NT]	179	キウロコテングタケ	(NT)	[なし]	423
ヤマナシウマノミツバ	(EN)	[EN]	136	キツネハツ	(N-)	[なし]	490
ヤマヒョウタンボク	(N-)	[なし]	379	キヒダイッポンシメジ	(NT)	[なし]	427
ヤマブキソウ	(N-)	[なし]	297	キンチャヤマイグチ	(N-)	[なし]	470
ヤマホオズキ	(EN)	[EN]	125	クサギムシタケ	(EN)	[CR+EN]	395
ヤリテツツキ	(CR)	[NT]	57	クチキトサカタケ	(VU)	[なし]	404
ユウシュンラン	(EN)	[VU]	82	クロカワ	(NT)	[DD]	434
ユキヨモギ	(VU)	[EN]	234	ケショウシロハツ	(DD)	[なし]	454
ユノミネシダ	(VU)	[なし]	142	コウタケ	(NT)	[なし]	435
ヨコグラノキ	(EN)	[なし]	110	コカンパタケ	(VU)	[NT]	413
ラショウモンカズラ	(VU)	[なし]	224	コナガエノアカカゴタケ	(EN)	[VU]	402
リシリカニツリ	(VU)	[VU]	194	コブガタアリタケ	(NT)	[なし]	422
リュウノヒゲモ	(EN)	[NT]	78	ゴムショウロ	(N-)	[なし]	474
リュウビンタイ	(N-)	[なし]	313	サザナミイグチ	(DD)	[なし]	445
リンネソウ	(N-)	[なし]	326	サワフタギタケ	(N-)	[なし]	486
ルリデライヌワラビ	(EN)	[なし]	69	シモコシ	(EN)	[NT]	399
レンゲショウマ	(N-)	[なし]	360	シャカシメジ	(N-)	[なし]	465
レンブクソウ	(N-)	[なし]	379	ショウロ	(DD)	[なし]	448
レンリソウ	(VU)	[なし]	202	シロアンズタケ	(N-)	[なし]	475
ワダソウ	(N-)	[なし]	303	シロオニタケモドキ	(N-)	[なし]	456
ワタムキアザミ	(NT)	[VU]	271	シロコケシジミガサ(仮称)	(N-)	[なし]	462
菌類									
アオゾメクロツブタケ	(N-)	[なし]	471	シロシメジ	(VU)	[なし]	410
アオロウジ	(VU)	[なし]	415	スズキセミタケ	(EN)	[CR+EN]	397
アカアシボソチチタケ(仮称)					スナヤマチャワソウタケ	(EN)	[なし]	393
	(N-)	[なし]	489	センニンタケ	(DD)	[なし]	453
アカイカタケ	(N-)	[なし]	477	ソライロタケ	(N-)	[なし]	460
アクイロウスタケ	(NT)	[なし]	432	ダイダイイグチ	(N-)	[なし]	468

タルゼッタ カティヌス	(DD)	[なし]	……	437
タンボタケモドキ	(VU)	[なし]	……	407
チャオニテングタケ	(NT)	[なし]	……	425
チョレイマイタケ	(VU)	[NT]	……	414
ツガマイタケ	(N-)	[DD]	……	482
ツクツクボウシセミタケ	(EN)	[なし]	……	396
ツノシメジ	(VU)	[なし]	……	409
ツバマツオウジ(仮称)	(N-)	[なし]	……	485
ツヤナシマンネンタケ	(NT)	[なし]	……	433
トゲミノヒメイグチ	(NT)	[なし]	……	430
ナガエノウラベニイグチ	(N-)	[なし]	……	469
ナメニセムクエタケ	(N-)	[なし]	……	464
ニンギョウタケ	(VU)	[DD]	……	416
ヌメリアイタケ	(VU)	[VU]	……	417
ヌメリツバイグチ	(NT)	[なし]	……	431
ハイイロオニタケ	(NT)	[なし]	……	424
バカマツタケ	(NT)	[NT]	……	429
ハスノミクモタケ	(NT)	[なし]	……	419
ハヤカワセミタケ	(EN)	[CR+EN]	……	394
ヒダホテイタケ	(DD)	[なし]	……	442
ヒメウグイスイグチ	(DD)	[なし]	……	446
ヒメオツネンタケ	(DD)	[なし]	……	450
ヒメサクラシメジ	(N-)	[なし]	……	463
ヒョウモンウラベニガサ	(DD)	[なし]	……	441
ヒヨリヒメツチグリ	(EN)	[なし]	……	400
フサハリタケ	(VU)	[NT]	……	418
フチドリクロチチタケ	(DD)	[なし]	……	455
フトクビクチキムシタケ	(VU)	[NT]	……	406
ベニイロクチキムシタケ	(NT)	[なし]	……	421
ホンシメジ(ダイコクシメジ)				
	(VU)	[なし]	……	408
マツタケ	(VU)	[NT]	……	411
マユハキタケ	(DD)	[なし]	……	436
ミカワクロアマシアシグチ				
	(N-)	[なし]	……	472
ミヤマキヒダタケ	(DD)	[なし]	……	447
ミヤマムラサキフウセンタケ				
	(N-)	[なし]	……	458
ムカシオオミダレタケ	(N-)	[なし]	……	478
ヤケコゲタケ	(N-)	[なし]	……	479
ヤシャイグチ	(DD)	[なし]	……	444
ルリハツタケ	(N-)	[なし]	……	488

まもりたい静岡県の野生生物 2020

静岡県レッドデータブック <植物・菌類編>

令和2年3月31日発行

企画・編集：静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課

〒420-8601 静岡市葵区追手町 9-6

TEL：054-221-3332 FAX：054-221-3278

E-mail：shizenhogo@pref.shizuoka.lg.jp

事務局 株式会社環境アセスメントセンター

〒420-0047 静岡市葵区清閑町 13-12

TEL：054-255-3650 FAX：054-253-7891

E-mail：kikaku@eac-net.co.jp